厚生労働科学研究費補助金

長寿科学総合研究事業

認知症における標準的なケアモデルの構築に関する研究

平成２０年度　総括・分担研究報告書

（Ｈ１８－長寿－一般－０３０）

研究代表者　　加 藤　伸 司

平成２１年（２００９）年４月

厚生労働科学研究費補助金　長寿科学総合研究事業
「認知症における標準的なケアモデルの構築に関する研究」
（H18-長寿-一般-030）
総括・分担研究報告書　　目次

Ⅰ．総括研究報告
「認知症における標準的なケアモデルの構築に関する研究」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
加藤　伸司（認知症介護研究・研修仙台センター）

Ⅱ．分担研究報告
１．「認知症高齢者に対する日常生活介護のニーズと状態像に関する研究」・・・・・・・・・・・・11
―ニーズ（課題）と状態像の関係―
内藤　佳津雄（日本大学文理学部）

２．「認知症介護の成功事例分析に関する研究」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
阿部　哲也（認知症介護研究・研修仙台センター）

３．「認知症ケアにおけるアウトカム指標に関する研究」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・453
佐々木　心彩（日本大学文理学部人文科学研究所）

Ⅲ．研究成果の刊行に関する一覧表・・488

＜研究組織＞

研究代表者

加藤　伸司　（認知症介護研究・研修仙台センター　センター長）

研究分担者

内藤　佳津雄（日本大学文理学部心理学科　教授）

阿部　哲也　（認知症介護研究・研修仙台センター　研究・研修部長）

佐々木　心彩（日本大学文理学部人文科学研究所　研究員）

研究協力者

大久保　幸積（社会福祉法人幸清会　理事長）

波潟　幸敏　（社会福祉法人さつき会　鷹栖さつき苑　施設長）

谷本　政美　（社会福祉法人さつき会　鷹栖さつき苑　介護部長）

益岡　賢示　（有限会社プレム・ダン　代表取締役）

喜井　茂雅　（有限会社スローライフ　代表取締役）

秋田谷　一　（特別養護老人ホーム祥光苑　統括部長）

保坂　昌知　（社会福祉法人小樽育成院　オタモイ・デイサービスセンター　センター長）＊[1]

所属・職名は平成２１年４月１０日現在

＊１　平成２０年度は、社会福祉法人小樽育成院小樽やすらぎ荘業務統括マネージャー

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
総括研究報告書
「認知症における標準的なケアモデルの構築に関する研究」

研究代表者　加藤　伸司　（認知症介護研究・研修仙台センター）
研究分担者　阿部　哲也　（認知症介護研究・研修仙台センター）
内藤　佳津雄（日本大学）
佐々木　心彩（日本大学）

本研究は認知症高齢者の生活行為（食事、入浴、排泄）課題に関する介護方法のモデルを整理し、認知症介護に関するケア評価指標開発の基礎資料とすることを目的とし、３つの研究を実施した。①高齢者の状態と摂食、排泄、入浴時の課題の関連を明らかにすることを目的に、全国調査によって得られた 18,236 名のデータについて再分析を実施した。②食事、入浴、排泄の課題に対するケアモデルの抽出を目的とし、906～907 箇所の認知症対応型共同生活介護事業所を対象に解決方法に関する郵送調査を実施した。③認知症ケアのアウトカム指標作成を目的とし、認知症介護指導者 894 名を対象に高齢者の感情状態の評価について郵送調査を実施した。結果は、①摂食、排泄、入浴に関する高齢者の属性と課題の有無の関連は、認識と動作（複雑動作や模倣）機能の低下や意欲低下による影響が示唆され、ＡＤＬが高い場合の状態像の特徴が明らかとなった。②食事、入浴、排泄課題を解決した事例（平均 270.8 件）について分析した結果、共通アセスメント視点は、心理・興味、環境、人間関係、声かけ、様子、習慣、体調、認知機能、病歴、排泄、水分状況であり、高齢者の心理を重視する傾向が顕著であった。解決方法は、高齢者の心理や認知機能、生活習慣、人間関係、体調に応じた声かけ、誘導方法の工夫、環境調整、活動の工夫や、食事、入浴に関する方法の工夫が実施される傾向が認められアセスメントとケアの組合せパターンが明らかとなった。③有効回答数 270 名について解析した結果、快感情、不快感情の評価視点は明確な特徴が示唆されたが、目をみひらく、じっとしている、髪を触る等の行動は評価困難であり、再検討の必要性が示唆された。これらの結果から本研究では身体機能の高い認知症高齢者について、食事、入浴、排泄障害へのアセスメント視点とケアのモデル及び評価視点が明らかとなり、認知症介護評価ツールの基礎資料を得ることができた。

Ａ．研究目的

2003 年に報告された高齢者介護研究会による「2015 年の高齢者介護」報告によると、認知症ケアは今後の高齢者介護のモデルであり、認知症高齢者ケアの普遍化の必要性が謳われている。認知症ケアの普遍化にはケアの標準化が必要となり、そのためにも認知症高齢者が有する能力を活用しながら、主体的に生活を遂行できるような方法の開発や系統的なエビデンスの収集、そして評価の確立が早急に求められている。認知症介護の質の確保及び向上、又、専門家養成の観点からも認知症介護のモデル作成や評価ツールの開発は重要な課題である。

本研究は介護保険の理念である「能力に応じ自立した生活の支援」をビジョンとし、認知症高齢者の能力を活用した自立生活を達成するための生活障害に対応するケアモデルを構築し、認知症ケアの質の確保と向上を図るための認知症ケア評価ツールの開発を目的とした 3 年計画の 3 年目にあたる研究である。

今年度は、認知症ケアの質を保障するための評価指標を作成するため、認知症介護の成功事例収集によるケアモデルの抽出をふまえ、生活障害別のケア視点、ケア方法、ケア評価のモデルを整理し、認知症介護の自己評価項目の作成を目的とし、【認知症高齢者に対する日常生活介護のニーズと状態像に関する研究】、【認知症介護成功事例の分析に関する研究】、【認知症ケアにおけるアウトカム指標に関する研究】の 3 つのプロジェクトを実施した。

１．【認知症高齢者に対する日常生活介護のニーズと状態像に関する研究】

認知症高齢者の状態像に応じた標準的な日常生活上の介護方法の開発を行うために、認知症高齢者の日常生活における摂食、排泄、入浴に関する課題（介護ニーズ）の出現と、高齢者の状態との関連について明らかにすることを目的とした

２．【認知症介護の成功事例の分析に関する研究】

認知症高齢者の基本的な生活行為（食事・入浴・排泄）に関する課題を解決するためのアセスメント及びケアの標準的なモデルを明らかにすることを目的とした。

３．【認知症ケアにおけるアウトカム指標に関する研究】

認知症高齢者に対するケアの評価として、個々のケア行為に対する高齢者の反応を短期的なアウトカムととらえることを試み、アウトカム評価指標作成のための基礎資料とすることを目的とした。

以上の 3 つの研究結果を踏まえ、本研究では、食事、入浴、排泄行為における典型的な課題を解決するためのアセスメント・ケアのモデル及びケア評価項目の抽出によって、認知症ケア評価ツールやガイドライン作成のための基礎資料を得ることを目的としている。

Ｂ．研究方法

１．認知症高齢者に対する日常生活介護のニーズと状態像に関する研究（内藤担当）

平成 19 年度に実施した、全国の特別養護老人ホーム 6,009 箇所と認知症対応型共同

生活介護事業所9,488箇所を対象とした利用者の状態像に関する郵送調査によって得られた有効回答票 18,236 名分を解析対象とし、高齢者の状態像に関する項目を縮約し、摂食、排泄、入浴についてよく見られる課題（ニーズ）の出現との関連について分析を実施した。高齢者の状態像については、視力、聴力、ＡＤＬ（バーセルインデックス）、出来事の記憶、見当識、判断、言語コミュニケーション、認識と動作、感情表現、変化への混乱、自発的活動、活動意欲、妄想、不安・恐怖、幻覚、不穏暴言、反復的動作の18 領域に分類し、複数項目を含む場合には特性に応じた得点化を行った。認知症高齢者によくみられる摂食、排泄、入浴に関する課題（介護ニーズ）を 3 つずつ取り上げ、18 種類の状態像に摂食、排泄、入浴に特有の状態を数項目加えて独立変数とし、介護上の課題（ニーズ）の有無を従属変数としたロジスティック回帰分析を、ＡＤＬによって低・中・高群の 3 群に分けて行い、調整後のオッズ比を求めた。

２．認知症介護の成功事例の分析に関する研究（阿部担当）

全国の認知症対応型共同生活介護事業所 9,065 箇所（平成 20 年 11 月現在、独立行政法人福祉医療機構における介護保険指定事業所登録一覧を参照）から、開設年数、地域分布に応じた 2 段抽出により、食事拒否事例調査 907 件、食事中断事例調査 907 件、食事過剰事例調査 907 件、清拭拒否事例調査 906 件、入浴拒否事例調査 906 件、洗髪拒否事例調査 906 件、排泄誘導拒否事例調査 906 件、排泄介護拒否事例調査 907 件、放尿事例調査 907 件の事業所を抽出し、各事業所において過去に指定の課題事例を解決した経験を持つ介護職員 1 名を対象に、食事に関する 3 課題（食事拒否、食事中断、食事過剰要求）、入浴に関する 3 課題（清拭拒否、洗髪拒否、入浴拒否）、排泄に関する 3 課題（排泄誘導拒否、排泄介護拒否、放尿）の計 9 課題に関する架空事例を作成し、課題事例に近似した事例について課題を解決した際のすべての方法および、その際の着目点や有効情報について、自記式の選択複数回答による質問紙を作成し、郵送にて回答を依頼した。

３．認知症ケアにおけるアウトカム指標に関する研究（佐々木担当）

平成 13 年度 1 回目～平成 19 年度 1 回目までの認知症介護指導者研修を修了した全国の認知症介護指導者 894 名を対象とし、平成 21 年 12 月～平成 21 年 1 月において、調査対象者が所属する事業所に高齢者の状態評価及びケアの意識に関する自記式の調査用紙を郵送にて配布し、記入後に返送により回収する郵送法を実施した。調査内容は、回答者基本属性、対象利用者属性（年齢、性別、認知症高齢者の日常生活自立度、障害高齢者の日常生活自立度）、高齢者の非言語的側面 45 項目に対する感情評価、感情状態把握のための手がかり、認知症ケアの意識 17 項目、認知症介護の経験である。

Ｃ．結果と考察

１．認知症高齢者に対する日常生活介護のニーズと状態像に関する研究（内藤担当）

１）摂食の課題

摂食の課題としては、「自力では全く食事ができない」、「途中で食べることをやめて

しまう」、「他の人の食事に手を出す」の３つを解析の対象とした。
「自力では全く食事ができない」ことは、ＡＤＬの状態が全般に良好あるいは中程度である場合には生じにくく、ＡＤＬが低い場合には、「活動意欲」や「認識と動作」の課題を伴いやすく、「反復的動作」や「不穏暴言」の課題は伴いにくいことが示唆された。「途中で食べることをやめてしまう」ことは、ＡＤＬの状態が全般に良好である場合に、食事に特化して意欲や認知が低下している場合に生じやすいこと、また全般的な行動としては認識と動作（複雑動作や模倣）について課題がある場合に生じやすいこと、全般的な意欲低下によっても生じやすいことが示唆された。「他の人の食事に手を出す」ことは、ＡＤＬの状態が全般に良好である場合にも、食べることが好きで食事に特化して意欲や認知が低下している場合に生じやすいこと、また全般的な行動としては認識と動作（複雑動作や模倣）について課題がある場合に生じやすいこと、記憶とコミュニケーションの課題によっても生じやすいことが示唆された。

２）入浴の課題

入浴の課題としては、「浴室に行くのを嫌がる」、「浴室内で入浴行為を嫌がる」、「入浴の介助を拒絶する」の３つを解析の対象とした。

「浴室に行くのを嫌がる」ことは、ＡＤＬの状態に関わらず、記憶の持続が短いこと、変化に対する適応が悪いこと、活動への意欲が低いこと、不穏状態や暴言があることや徘徊等の反復的動作があることによって、浴室に行くのを嫌がることが生じやすいことが示唆された。「浴室内で入浴行為を嫌がる」ことは、ＡＤＬの状態に関わらず、変化に対する適応が悪いこと、不穏状態や暴言があることによって、浴室に行くのを嫌がることが生じやすく、とくにＡＤＬの状態が全般に良好である場合には感情表現が極端になる場合に生じやすいことが示唆された。「入浴の介助を拒絶する」ことは、ＡＤＬの状態に関わらず、記憶の持続が短いこと、コミュニケーションがうまくいかないこと、変化への適応が悪いことによって生じやすいと考えられる。またＡＤＬの状態が全般に良好である場合には、活動意欲がないこと、一方で自発的に行動する傾向があることによって「入浴の介助を拒絶する」ことが生じやすいことが示唆された。

３）排泄の課題

排泄の課題としては、「排尿の介助を嫌がる」、「よく漏らしてしまう」、「ときどき漏らしてしまう」の３つを解析の対象とした。

「排尿の介助を嫌がる」ことは、ＡＤＬの状態が全般に良好である場合には、トイレ介助を必要とする場合に不穏・暴言があるときに生じやすいことが示唆された。「(尿を）よく漏らしてしまう」ことは、ＡＤＬの状態が全般に良好である場合には、認識と動作に課題がある場合に生じやすく、また変化に対する適応力が良好な場合にも生じやすくなることが示唆された。「(尿を）ときどき漏らしてしまう」ことは、ＡＤＬの状態が全般に良好である場合には、ＡＤＬに課題がある場合に生じやすく、ま

た徘徊などの反復的動作がある場合にも生じやすくなることが示唆された。

２．認知症介護の成功事例の分析に関する研究（阿部担当）

１）食事行為の課題解決に関する分析

食事行為に関する課題全体に関する有効情報の傾向は、長期的な対応視点として認知機能や身体状況を確認しつつ、高齢者本人の気分や興味、関心を評価し、それらの状況に応じて、職員の声かけや介護方法を見直し、食事の内容や食材の質、食器、食事方法や、席位置、食事メンバー、周囲の刺激などを評価し調整している傾向が示唆された。特に、過剰要求課題と中断、拒否課題における有効情報の特徴については、食事を摂取しない理由としてより健康状態や身体状況を原因として推測する傾向が高いことが明らかとなった。さらに、途中で食事をやめてしまう原因としては、環境刺激の問題が特に重要視されている事が示唆された。

解決方法の傾向は、声かけや誘導の工夫、環境の調整、食事方法の工夫、活動方法の工夫、その他に分類された。3 課題の共通傾向については、声かけも誘導も本人の状態を評価しながら本人のペースや状態に応じた方法が効果的であると推察される。特に食事の工夫は、嗜好に応じた献立、食材の質、量でなされており、認知機能を考慮した食器の工夫も特徴であった。環境の調整については周囲の明るさや、音、食事人数、食事メンバー、席の位置など他者との関係性も考慮した人的な環境調整も効果的な方法であることが示唆された。食事行為特有の方法として、生活リズム調整や体調の調整を考慮した活動の工夫も特徴であった。その他としては、水分補給や排泄調整、義歯調整など健康や身体状況に応じた解決方法もみられたが実施率があまり高くなく、これらの方法は長期的な取り組みとして実施される傾向が推測される。

食事行為に関する課題解決に有効な情報について、回答傾向から選択の組み合わせを分析し、重複する組み合わせを調整した結果、食事過剰要求課題 13 パターン、食事拒否課題 15 パターン、食事中断課題 15 のパターンに分類され、さらに身体状況、心理、認知機能、食事状況、人的・物理的環境、その他の 6 つに分類された。有効情報と解決方法の組み合わせの傾向は、6 つの情報分類すべてについて、声かけ・誘導の工夫、環境調整、食事の工夫、活動の工夫等が組み合わせて実施されており、複数の方法の総合的な効果によって課題が解決されたことが示唆された。有効な情報の種類によって、特定の解決方法が単一に実施され課題解決に至ったのではなく、複数の方法が組み合わされてそれらの相乗効果によって解決に結実したと推測される。

２）入浴行為の課題解決に関する分析

入浴行為の課題解決における有効情報の傾向は、清拭拒否、洗髪拒否、入浴拒否いずれにおいても心理や気分、職員との関係、職員の声かけや対応などの介護方法、性格が重要視される傾向が認められた。逆に、認知機能や健康面、身体機能等は重

要視される傾向が高くなかった。つまり、課題の原因として認知能力が主要な要因であったとしても、実際の対応時には、本人の気分や心理が重要視され、日頃の職員との関係や現在の対応方法や声かけを把握し、評価することが解決時に役立つ情報である傾向が示唆された。そして、いずれの課題においても性格を重要な情報として認識している傾向が認められており、入浴に関する課題が本人の性質によって生じているものと捉えられている傾向が明らかとなった。特に、洗髪拒否課題においては、洗髪時の反応や湯温、洗髪習慣が重要視されている点が他の 2 課題とは異なる特徴であった。

清拭拒否、洗髪拒否、入浴拒否に対する解決方法は、声かけや誘導の工夫、環境の調整、入浴や清拭、洗髪方法の工夫、介助者の工夫、その他に分類された。共通傾向については、声かけも誘導も好きな話題を使用したり、笑顔などの態度面や、お礼やねぎらいを多用したり安心あるいは、わかりやすい関わり方が特徴的であった。方法の工夫については、特に温度や時間帯など習慣を考慮した方法の工夫が実施されている。環境の調整は、入浴人数、浴室温度など人的環境を含めた入浴環境の工夫が実施されていた。介護者については、信頼関係の構築や同性介護を実施しており、入浴支援が介護者の性別や信頼関係などと強く影響していることが示唆された。入浴自体が欲求と直接的に関連した行為でない事から、誘導方法や介助者が解決のための主要な要因であることが明らかとなった。

入浴行為に関する課題解決に有効な情報について、回答傾向から選択の組み合わせを分析し、重複する組み合わせを調整した結果、清拭拒否課題 11 パターン、洗髪拒否課題 13 パターン、入浴拒否課題 13 パターンに分類され、さらに身体状況、心理、認知機能、性格、入浴状況、介護方法、人間関係の 7 つに分類した。有効情報と解決方法の組み合わせの傾向は、7 つの情報分類すべてについて、声かけ・誘導の工夫、環境調整、清拭・入浴・洗髪の工夫、介助者の工夫等が組み合わせて実施されており、複数の方法の総合的な効果によって課題が解決されたことが示唆された。有効情報をアセスメント視点と解釈した場合に、解決方法とアセスメント視点が直接的に関連していたのは、湯温や清拭布の温度、浴室温度と入浴や清拭等の時間帯であった。全体的に、声かけや誘導の工夫は全てのパターンにおいて実施されている傾向が認められた。

3）排泄行為の課題解決に関する分析

排泄行為の課題解決における有効情報の傾向は、排泄誘導拒否、排泄介護拒否、放尿に共通している視点として心理や気分、職員との関係、介護者の声かけや対応が重要視される傾向が認められた。排泄誘導拒否における特徴は、排泄パターンが特に重要視されており、誘導タイミングの確認と考えられる。排泄介護拒否（パッド交換への抵抗）の特徴は、認知機能や抵抗時の様子、交換場所、性格を重視しており、認知機能や性格を課題の要因として考慮しながら、抵抗時の表情や様子を評

価している傾向が明らかとなった。放尿における特徴は、尿意、排泄パターン、トイレの場所や表示を重視しており、環境面や健康面の情報が重要である傾向が明らかとなった。

誘導拒否、介護拒否に対する解決方法は、声かけや誘導の工夫、環境の調整、介助方法、介助者の工夫、その他に分類され、放尿に対しては声かけ、誘導の工夫、環境調整、その他に分類された。全ての方法の実施率が高く特定の方法が解決に有効であるのではなく、これらの方法が組み合わされて実施されており、課題を解決するための方法は、複数の方法による総合的な効果によることが推測される。誘導拒否と介護拒否への対応方法の共通傾向については、声かけや誘導は好きな話題を使用したり、排泄パターンを考慮したり、トイレと意識させないような工夫や、賞賛やねぎらいを多用したり、安心あるいは、わかりやすい関わり方が特徴的であった。介助方法の工夫については、手際よく素早く介助したり、介助者と信頼関係を深めたり、同性が介護するなどの工夫が実施されていた。放尿への対応については、排尿パターンに応じた誘導やトイレを視界に入れながらの誘導など誘導の工夫が実施され、あるいはトイレの表示を工夫したり、夜間の照明をつけたり、視界にはいるようにトイレの位置を改善したりなど環境面の工夫が特徴的であった。

排泄行為に関する課題解決に有効な情報について、回答傾向から選択の組み合わせを分析し、重複する組み合わせを調整した結果、誘導拒否課題 11 パターン、介護拒否課題 11 パターン、放尿課題 12 パターンに分類され、誘導拒否については、疾病、心理、排泄状況、人間関係の 4 つに、介護拒否については、認知機能、疾患、心理、排泄状況、対応方法、職員との関係の 6 つに、放尿は排泄状況、環境、職員関係の 3 つに分類した。有効情報と解決方法の組み合わせの傾向は、いずれの課題についても、分類された情報項目すべてについて、声かけ・誘導の工夫、環境調整が実施されており、複数の方法の総合的な効果によって課題が解決されたことが示唆された。有効な情報の種類によって、特定の解決方法が単一に実施され課題解決に至ったのではなく、複数の方法が組み合わされてそれらの相乗効果によって解決に結実したと推測される。課題に特徴的な傾向は、誘導拒否や介護拒否課題については、声かけや誘導を実施する介護者の性別や信頼感が重要であることや、放尿については、排泄パターンや尿意感覚、トイレ環境の状態と解決方法が直接的に連動している傾向が明らかとなった。

３．認知症ケアにおけるアウトカム指標に関する研究（佐々木担当）

271 名から調査票が回収され（回収率 30.3%）、有効回答数は 270 名であった。認知症ケアに対する意識に関する 17 項目について、各項目に対する回答を「全くしていない」を 1 点～「いつもしている」5 点に得点化し、因子分析を行った。複数の因子にまたがって因子負荷量が高かった 1 項目を削除し、16 項目で再度因子分析（主成分解、プロマ

ックス回転）を行った。スクリープロットを参考に固有値の変化から 2 因子を採用し、第 1 因子を「相互作用持続」因子、第 2 因子を「相互作用中断」因子と命名した。2 因子間の相関係数は-.44 と中程度の負の相関が認められた。認知症介護成功体験と認知症介護に対する意識との関係を検討した結果、認知症介護成功体験については、「1.今までに数回」、「2.年に数回くらい」、「3.月に数回くらい」とともに「7.一度も経験したことがない」を選択したものを「成功頻度低群」とし、「4.週に数回くらい」、「5.いつも経験した（毎日）」、「6.ほぼすべての介護で経験した」を選択したものを「成功頻度高群」として 2 群に分けた。相互作用持続因子の因子得点は、頻度低群-0.27（SD:0.89）、頻度高群 0.27（SD:1.02）であった。相互作用中断因子の因子得点は、頻度低群 0.17（SD:1.02）、頻度高群-0.16（SD:0.93）であった。成功頻度による 2 群を独立変数とし、相互作用持続因子、相互作用中断因子それぞれの因子得点を t 検定によって比較した。その結果、「相互作用持続」因子の因子得点は、成功頻度低群に比べて高群の方が有意に高かった（$t(244)=4.46$, $p<.0001$）。「相互作用中断」因子の因子得点は、成功体験高群に比べて低群の方が有意に高かった（$t(244)=2.62$, $p<.009$）。以上のことから、認知症介護指導者における認知症介護の成功体験の頻度に関する自己認識は、認知症ケアにおける相互作用を継続する関わりの意識と関連していることが見出された。

Ｄ．結論

１．今年度の研究成果

本研究は 3 箇年継続研究の 3 年目にあたる研究であり、認知症高齢者の生活（入浴、食事、排泄）課題へのアセスメント・ケアのモデル抽出と、ケア評価項目を検討し、ケア評価指標の基礎資料を得ることを目的に、【認知症高齢者に対する日常生活介護のニーズと状態像に関する研究】、【認知症介護成功事例の分析に関する研究】、【認知症ケアにおけるアウトカム指標に関する研究】の 3 つの研究を実施した。

１）認知症高齢者に対する日常生活介護のニーズと状態像に関する研究

特別養護老人ホームおよび認知症グループホームにおいて介護サービスを利用している認知症高齢者を対象とし、さまざまな状態像と摂食、排泄（排尿）、入浴に関する介護ニーズとの関係を検討した。本研究における調査及び分析の手法は横断的なものであり、状態像が原因で介護ニーズがその結果生じたものであるとはいえないことは言うまでもない。その逆に、介護ニーズの発生によって生じた状態像である可能性が強いものもあった。例えば、入浴における「個別浴槽の使用」は、それぞれの介護ニーズの発生とＡＤＬの状態を勘案して、大浴槽から個別浴槽に変更したケースがあると考えられる。しかし、認知症ケアの現場では、本研究で解析対象としたような介護ニーズが発生した場合に、それを最初に発生させた介護ニーズを追及して明らかにしても、ニーズが顕在化した時点では、その介護ニーズが新たな状態像を生じさせている原因となっている場合もあり、ニーズと状態像の関係は単純な因果関係ではなく、

より複雑な双方向的な関係となっていると考えられる。本研究の結果も、そのような双方向的な視点で見る必要があり、ここで取り上げた介護ニーズの原因というよりも、随伴する状態像として解釈することが望ましいといえよう。

2）認知症介護成功事例の分析に関する研究

食事、入浴、排泄行為に関する課題解決に関するアセスメント視点の共通傾向として、全ての課題について高齢者の心理や興味、認知機能、様子、習慣、体調を基礎視点として、物理的環境や人間関係、職員の声かけや関わりなどの周辺状況を同時に組み合わせてアセスメントしている傾向が明らかとなった。各課題に特有の視点として、食事行為に関する課題では食事の方法や運動量、口腔状況を重視し、排泄行為に関する課題では、排泄パターンを重視し、入浴行為に関する課題では、入浴方法や排泄、水分状況を重視しており、各課題に特徴的なアセスメント視点が示唆された。

解決方法の傾向としては、上記のアセスメント視点に応じて、声かけや誘導方法の工夫や、物理的な環境、人間関係の調整、食事・入浴の方法に関する工夫、体調管理などを組み合わせて実施しており解決方法の組み合わせパターンの傾向が明らかとなり、食事、入浴、排泄行為の課題を解決するためのアセスメント視点及びケアの組み合わせモデルが明らかとなった。本研究の課題は、数量的な解析によってアセスメントの組み合わせと、アセスメントパターンに応じたケアの組み合わせを明らかにし、先行する解決事例からいわば、多数の解決事例の共通点を抽出しモデルとして整理したが、これらの結果の妥当性を実際の介護と照合し、汎用性を検証する必要があるだろう。

3）認知症ケアにおけるアウトカム指標に関する研究

認知症ケアのエキスパートの視点から、ケアに対する高齢者の反応をどのようにとらえているかを検討した。その結果、笑顔、スキンシップ、視線を合わせるといった行動・様子から快感情を推測し、実際にこれらの行動・様子が利用者にみられる頻度も高いということが示された。また、不快な感情の表出が認められる頻度は全般的に低いものであったが、比較的頻度の高いものでは、乱暴な言葉づかい、大きな声を出すという行動・様子は不快感情を推測するものであるということが示された。しかしながら、評価項目に対して「どちらともいえない」という回答が多数であり、それぞれの行動・様子が、ひとつの項目で示される単一の側面のみでは評価が困難であることや場面・状況に応じて快にも不快にも判断されうるということが考えられる。また、高齢者本人の癖であったり、パーソナリティを反映した行動・様子であるため感情表出としてとらえられないということも考えられる。そのため、高齢者全般に適用可能な項目のほかに、判断の分かれる項目や不快と判断されるものの出現頻度の低い項目をもとにした対象者の観察から、個別項目として取捨選択し、アウトカム指標として検討する必要性がある。

２．今後の方向性

今回行った 3 つの研究を通し、研究全体の成果として認知症高齢者の状態と生活課題との関連が明らかとなり、認知症高齢者属性及び生活課題のタイプに対応したアセスメント・ケアの組み合わせモデルの提案及びケア評価指標の基礎データを得ることができたと考えられる。

近年の認知症高齢者急増に伴い、認知症対応型共同生活介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、介護老人福祉施設のユニット化などの例に見られるように、介護事業所の小規模化は進行し認知症介護の質は向上しつつある。一方で、全国調査の結果に見られるように虐待、身体拘束等は、在宅、施設を問わず決して少なくない事が明らかであり、介護事業所の認知症介護の質に格差が生じている事が予測される。更に、非正規職員の割合が多い小規模事業所における教育体制の脆弱さが認知症介護技能の質の低下に大きく影響していると考えられる。

従来より活用されているケアアセスメントツールやケアプラン作成支援ツールは、基本的なケア視点から非常に高度なケアの実施を対象としており、初心者が充分に理解し実践に活用するためには多大な労力と時間を要するのが現状である。

本研究により提案された認知症高齢者における入浴・食事・排泄等の生活の根幹を成す基本的な生活行為の課題を解消するケアモデル及び介護評価項目の使用を介護現場に普及させることによって、以下のような成果及び効果が期待される。

１）新人等の経験未熟な介護者が、簡易な自己評価が可能となる事で、今後増加が予測される認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護、認知症高齢者用デイサービス等を代表とする認知症ケアサービスの質の低下を防ぎ、一定水準に保つことが可能となる。

２）小規模事業所における新人教育において、教育コストを低減し、効率的な自己学習教材として活用可能である。

３）既存のアセスメントツールやケアプラン作成ツールを組み合わせて使用することで、初期計画立案や日常のアクションケアプラン作成に関する補助教材として幅広く活用可能である。

４）高齢者の状態に関する視点を評価項目に入れることで、認知症介護の方法だけでなく、評価視点を意識づけることが可能となり、画一的なケアの提示ではなく高齢者本人の状態を基準とした根拠ある認知症ケアの確立が促進される。

５）認知症ケアのモデルが確立されることにより、認知症に限定しない要介護高齢者における介護モデルとしての活用が可能となる。

６）認知症介護の成功ケアモデルを提示することで、虐待、拘束、放棄など劣悪な認知症ケアを改善するためのガイドラインとして機能することが期待される。

本研究によって提案される認知症ケアのモデルは、認知症ケアの実践例として、教育教材として活用することが可能となる。

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
分担研究報告書

認知症高齢者に対する日常生活介護のニーズと状態像に関する研究
－ニーズ（課題）と状態像の関係－

研究分担者　内藤佳津雄（日本大学文理学部）

研究要旨

認知症高齢者の日常生活における介護ニーズをもつ場合の状態像について数量的に明らかにするために、昨年度、全国の特別養護老人ホーム 6,009 か所と認知症対応型共同生活介護事業所 9,488 か所を対象として、利用者の状態像に関する郵送調査を実施し、合計 5,383 か所（回収率 34.7%）から合計 19,161 名分の調査票を回収した。本年度は、そのうち 18,236 名分を解析対象とした。本研究における分析は、状態像に関する項目を縮約し、摂食、排泄、入浴についてよく見られる課題（ニーズ）の出現との関連を明らかにすることを目的とした。まず、状態像に関する項目については、視力、聴力、ＡＤＬ（バーセルインデックス）、出来事の記憶、見当識、判断、言語コミュニケーション、認識と動作、感情表現、変化への混乱、自発的活動、活動意欲、妄想、不安・恐怖、幻覚、不穏暴言、反復的動作の 17 領域に分類し、複数項目を含む場合には特性に応じた得点化を行った。認知症高齢者によくみられる摂食、排泄、入浴に関する課題（介護ニーズ）をそれぞれ 3 つずつ取り上げて、17 種類の全般的な状態像に摂食、排泄、入浴のそれぞれに特有の状態を数項目加えて独立変数として、それぞれの介護上の課題（ニーズ）の有無を従属変数としたロジスティック回帰分析を、ＡＤＬによって低・中・高群の 3 群に分けて行い、調整後のオッズ比を求めた。その結果、例えば「途中で食べることをやめてしまう」については、ＡＤＬの状態が全般に良好である場合には、食事に特化して意欲や認知が低下している場合に生じやすいこと、また全般的な行動としては認識と動作（複雑動作や模倣）や全般的な意欲低下によって生じやすいことなどが示唆され、それぞれの課題について全般的なＡＤＬの低下がみられない場合の状態像の特徴について明らかにすることができた。

Ａ．研究目的

本研究課題の目的である状態像に応じた標準的な日常生活上の介護方法の開発を行うために、本研究では、認知症高齢者の日常生活における摂食、排泄、入浴に関する課題（介護ニーズ）の出現とそのときの状態像の特徴について明らかにすることを目的とした。そのために、昨年度実施した全国的な規模で郵送による調査結果を再分析した。

Ｂ．研究方法

１．調査方法

１）調査対象（昨年度報告書の再掲）

認知症高齢者の介護ニーズと状態像を収集するために、全国の介護施設や事業所に対して無記名で入居者・利用者の観察を依頼し、その結果を収集した。調査対象は、全国の介護老人福祉施設（以下、特別養護老人ホームと呼ぶ）および認知症対応型共同生活介護事業所（以下、認知症グループホームと呼ぶ）とした。平成 19 年 12 月現在の施設・事業所を悉皆調査とし、全国の特別養護老人ホーム 6,009 か所、認知症グループホーム 9,488 か所に調査依頼を郵送で行った。

各施設・事業所には、調査協力の依頼とともに、利用者の状態像に関する調査票 4 名分を同封し、入居者のうち、①要介護認定を受けていて、認知症であることが明らかな利用者の方、②食事（摂食）、排尿、入浴、着替えの 4 つの生活機能のいずれかについて支援を必要としている方（複合していても構わないこととした）の 2 つの条件に当てはまる方をランダムに選定してもらい、その状態像や介護の内容等について、各施設・事業者の保有する記録と担当職員の方の日常の観察を中心として記入を依頼した。

なお、調査対象とする人数は 1～4 人の範囲として、人数に応じて以下のような依頼を行った（ただし、条件に当てはまる入居者がいない場合にはこの限りではないこととした）。

（１）4 名の調査に協力できる場合

できる限り要介護 2、3、4、5 に認定されている方をそれぞれ 1 名ずつ選んでもらうこととした。また 4 名の方で、②の 4 つの生活機能について、できる限りすべて対象としてもらうことを依頼した。

（２）3 名の調査に協力できる場合

できる限り要介護 2、3、4 に認定されている方をそれぞれ 1 名ずつ選んでもらうこととした。また 3 名の方で、②の 4 つの生活機能について、できる限り 3 つ以上を対象とすることを依頼した。

（３）2 名の調査に協力できる場合

できる限り要介護 3、4 に認定されている方をそれぞれ 1 名ずつ選んでもらうこととした。また、②の 4 つの生活機能のうち、どれを対象としてもよいこととした。

（４）1 名の調査に協力できる場合

できる限り要介護 3 に認定されている方を 1 名選んでもらうこととした。また②の 4 つの生活機能のうち、どれを対象としてもよいこととした。

２）調査の内容

調査票はＡＤＬ、ＩＡＤＬ、認知症の中核症状、周辺症状に関する項目で構成さ

れている部分（前半）と、食事、排尿、入浴、着替えに関する介護ニーズや状態像に関する質問項目を含んでいた（資料参照）。

（倫理面への配慮）

「利用者調査」については、「疫学調査に関する倫理規定」（文部科学省・厚生労働省平成 16 年 12 月 28 日改正）を準用し、「匿名化されて」「個人情報を取得しない」「人体から採取した資料を用いない」「既存資料等のみを利用する観察調査」として実施した。規定上、個別のインフォームドコンセントを必ずしも必要としないが、その代わりに研究に関する情報を開示することとされており、開示情報の説明書を添付した。また、調査票の返送をもって調査協力についての承諾が行われたものと取り扱った。また、社会福祉・公衆衛生の向上を目的とした学術研究と位置づけ、得られたデータは研究およびその成果を元にした社会的還元以外の目的には使用しないことを明記した。

取得したデータの取り扱いについては、以下のことを明記した。

・回収した質問票は認知症介護研究・研修仙台センターにおいて、研究期間終了後 1 年間保管し、その後は他に利用されることがないような方法で破棄する。
・結果の公表は、統計的に解析したものを対象とし、施設・事業所単位や個人単位の事例報告には用いない。
・調査データは個人名について匿名化されているため個人情報の取得に該当しない。
・コンピュータに入力する際には、施設・事業所名はデータ化しない。入力されたデータは、インターネットに接続するコンピュータでは取り扱わないようにして、データ流出が生じないようにする。

C．結果と考察

1．回収及び分析データ

特別養護老人ホーム・認知症グループホーム合計で 5,383 件を回収することができた（回収率 34.7%）。なお、施設・事業所種別は返信用封筒からは識別できないため合計で取り扱った（調査票には施設・事業所種別を記入する欄があり、個別の調査票については区分が可能である）。利用者調査については合計 19,161 名分の調査票を回収した。

本年度の研究においても、性・年齢・要介護度が不明な調査票を除いた 18,236 名分を解析対象とした。

なお、本調査の結果は利用者のレベルでランダムサンプリングされたものとはいえず、本データ分析における状態像の出現率等には日本の現況を表す代表性はないものと考えられる。しかし、ニーズと状態像の関係性を検討する材料としては有用であり、本研究においてもそのような解析方法を中心とする。

２．状態像に関する項目の縮約化

項目を内容に応じて、視力（1 項目)、聴力（1 項目)、ＡＤＬ（バーセルインデックス：10 項目)、出来事の記憶（3 項目)、見当識（1 項目)、判断（1 項目)、言語コミュニケーション（4 項目)、認識と動作（3 項目)、感情表現（1 項目)、変化への混乱（1 項目)、自発的活動（1 項目)、活動意欲（1 項目)、妄想（6 項目)、不安・恐怖（５項目)、幻覚（5 項目)、不穏暴言（3 項目)、反復的動作（4 項目）に分類し、1 項目が所属する場合にはその項目の得点を用い、複数項目が所属する場合には以下の通り、サーストン尺度として合成得点を算出する場合とガットマン尺度として程度に応じた付点を行う場合に分けて得点の算出を行った。

（1）視力

視力については、「見える」＝1 点、「やや見えにくい」＝2 点、「かなり見えにくい」＝3 点を付与した。

（2）聴力

聴力については、「聞こえる」＝1 点、「やや聞こえにくい」＝2 点、「かなり聞こえにくい」＝3 点を付与した。

（3）ＡＤＬ

ＡＤＬの評価には 10 項目のバーセルインデックスを用い（資料参照：食事から排尿コントロールまで)、既定の配点に基づいて合計点を算出した（100 点満点)。

（4）出来事の記憶

出来事の記憶については、10 分、1 日、1 週間という期間ごとに記憶の状況を質問する項目を設けた。そのため、1 週間程度において「覚えていることがある」「覚えていることが多い」場合には 1 点、1 日程度において「覚えていることがある」「覚えていることが多い」場合には 2 点、10 分程度において「覚えていることがある」「覚えていることが多い」場合には 3 点、10 分程度で「すぐ忘れる」場合には 4 点を付与した。

（5）見当識

見当識については、時間・場所の認識について「理解している」＝1 点、「言えば理解できる」＝2 点、「言ってもわからない」＝3 点を付与した。

（6）判断

判断については、日常生活で次にすることを判断することが、「自分でできる」＝1 点、「言えばわかることが多い」＝2 点、「言ってもわからない」＝3 点を付与した。

（7）言語コミュニケーション

言語コミュニケーションについては、『ことば・話しの理解』、『話をする頻度』、『話をする際の意思の伝達』について、各項目の得点(各 1～3 点)の合成得点を算出した。

（8）認識と動作

認識と動作については、『物の認識（誤認の程度)』、『複雑な動作（着替えなど)』、

『動作の模倣』について、各項目の得点（各 1～3 点）の合成得点を算出した。

（9）感情表現

感情表現については、感情を「うまく表現できる」＝1 点、「ときどき激しく表現する」＝2 点、「激しく表現することが多い」＝3 点、「ほとんど表現しない」＝4 点を付与した。

(10) 変化への混乱

変化への混乱については、環境の変化に対して「適応できることが多い」＝1 点、「少し混乱しやすい」＝2 点、「激しく混乱する」＝3 点を付与した。

(11) 自発的活動

自発的活動については、自発的に「よく動く」＝1 点、「少し動く」＝2 点、「ほとんど動かない」＝3 点を付与した。

(12) 活動意欲

活動意欲については、全般的な意欲活力について「いつも意欲がある」＝1 点、「意欲が低いときがある」＝2 点、「ほとんどない」＝3 点を付与した。

(13) 妄想

妄想については、『物盗られ妄想』、『配偶者が偽物である妄想』、『見捨てられ妄想』、『不義不実妄想』、『猜疑心』、『その他の妄想』の 6 項目について、それぞれ 4 段階で評定し、6 項目中の最も重度な回答を得点として採用した（1～4 点）。

(14) 不安・恐怖

不安・恐怖については、『激しい抑うつ』、『間近な約束や予定への不安』、『その他の不安』、『独りぼっちになる恐怖』、『その他の恐怖』、の 5 項目について、それぞれ 4 段階で評定し、5 項目中の最も重度な回答を得点として採用した（1～4 点）。

(15) 幻覚

幻覚については、『幻視』、『幻聴』、『幻嗅（におい）』、『幻触』、『その他の幻覚』、の 5 項目について、それぞれ 4 段階で評定し、5 項目中の最も重度な回答を得点として採用した（1～4 点）。

(16) 不穏暴言

不穏暴言については、『威嚇や暴力』、『暴言』、『不穏（攻撃的な雰囲気や言動）』の 3 項目を設けた。『威嚇・暴力』において「激しい暴力あり」および「暴力的行動あり」であった場合には 6 点、「威嚇あり」であった場合には 5 点、『暴言』において「他人に向けられる」および「怒りが伴う」であった場合には 4 点、「言葉遣いの点であり」であった場合には 3 点、『不穏』において「行動に現れる」、「感情的な言動がある」、「雰囲気がある」場合には 2 点、いずれもない場合には 1 点を付与した。

(17) 反復的動作

反復的動作については、『徘徊』、『行動の反復』、『必要なものを捨てたり、不適切な場所に置く』、『帰宅願望』の 4 項目について、それぞれ 4 段階で評定し、4 項目中

の最も重度な回答を得点として採用した（1～4 点）。

３．摂食、排泄、入浴に関する課題（ニーズ）と状態像の関連

認知症高齢者によくみられる摂食、排泄、入浴に関する課題（介護ニーズ）をそれぞれ 3 つずつ取り上げて、その有無に対して影響を与える状態像について検討した。そのために、前項で整理した 17 種類の状態像に摂食、排泄、入浴のそれぞれに特有の状態を数項目加えて独立変数として、9 種類のそれぞれの介護上の課題（ニーズ）の有無を従属変数としたロジスティック回帰分析を行い、各独立変数についての調整後のオッズ比を求めた。また、これらの課題（ニーズ）はＡＤＬの状態に大きく影響を受けるため、バーセルインデックスの得点によって 3 群に分けて、群別に解析を行った。群分けの境界は 40 点と 70 点とし、バーセルインデックスの得点が 40 点以下であれば、「ＡＤＬ低群（Ｌ群）」、41～70 点であれば「ＡＤＬ中群（M群）」、71 点以上であれば「ＡＤＬ高群（H群）」とした。その結果、「ＡＤＬ低群（Ｌ群）」は 7,388 名、「ＡＤＬ中群（M群）」は 5,949 名、「ＡＤＬ高群（H群）」は 3,238 名となった。さらに独立変数にもバーセルインデックス（ＡＤＬ）も投入して、ＡＤＬの影響の調整を行ったうえで他の状態像の影響を検討した。

ＡＤＬ以外の指標はすべて状態が悪い場合に高得点を付与したので、オッズ比の点推定値が 1 を超えていることおよび 95%信頼限界の下限が 1 を超えている場合に、その状態が悪いことによって各課題（ニーズ）が有意に生起しやすいことを示す（表および資料中では＊マークで示した）。逆にオッズ比の点推定値が 1 未満であることおよび 95%信頼限界の上限が 1 未満である場合に、その状態がよいことによって各課題（ニーズ）が生起しやすいことを示す（表および資料中では-マークで示した）。ＡＤＬについては、逆に状態がよい場合に高得点を付与したので、点推定値が 1 を超えていることおよび 95%信頼限界の下限が 1 を超えている場合に、状態がよいことによって各課題（ニーズ）が有意に生起しやすいことを示す（表および資料中では-マークで示した）。逆に点推定値が 1 未満であることおよび 95%信頼限界の上限が 1 未満である場合に状態が悪いことによって各課題（ニーズ）が生起しやすいことを示す（表および資料中では＊マークで示した）。

とくに本研究においては、ＡＤＬが良好であるにもかかわらず、日常生活上の課題（ニーズ）を持つ場合の状態像の特徴について明らかにすることを中心として考察した。

（１）摂食の課題

摂食の課題としては、「自力では全く食事ができない」、「途中で食べることをやめてしまう」、「他の人の食事に手を出す」の 3 つを解析の対象とした。また、食事特有の状態像項目として、「座位姿勢の保持困難」、「腕が動かない」、「指がうまく動かない」、「食事意欲が低い」、「食卓上の認知困難」、「食事時間の認識困難」、「食べることが好き」の 7 項目を独立変数として追加した。

解析結果のうち、オッズ比の有意性について集約したものを表１－１に示した。なお、それぞれの解析結果は資料１－１・２・３、資料２－１・２・３、資料３－１・２・３に示した（付録参照）。

①「自力では全く食事ができない」（表１－１、資料１－１・２・３）

ＡＤＬ高群では該当者が 3 名（0.1%）しかおらず、解析不能であった。ＡＤＬ中群でも該当者は 39 名(0.7%)に留まり、この課題（ニーズ）についてはＡＤＬが強く影響を及ぼしているといえる。ＡＤＬ低群では該当者は 16.2%であった。ＡＤＬ中群におけるオッズ比では、「幻覚」、「食事意欲が低い」において状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であった点が、ＡＤＬ低群の結果と異なっていた。「言語コミュニケーション」、「認識と動作」、「（全般的な）活動意欲」についてはＡＤＬ低群では、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であったが、ＡＤＬ中群では有意ではなかった。「反復的動作」についてはＡＤＬ低群では、状態像が良い場合に該当率が高まる方向性で有意であったが、ＡＤＬ中群では有意ではなかった。

これらを総合して考察すると、「自力では全く食事ができない」ことは、ＡＤＬの状態が全般に良好あるいは中程度である場合には生じにくく、ＡＤＬが低い場合には、「活動意欲」や「認識と動作」の課題を伴いやすく、「反復的動作」や「不穏暴言」の課題は伴いにくいことが示唆された。

②「途中で食べることをやめてしまう」（表１－１、資料２－１・２・３）

ＡＤＬ低群では 3,175 名（43.0%）、ＡＤＬ中群では 1,282 名（21.5%）、ＡＤＬ高群では 139 名（4.3%）の該当者がおり、ＡＤＬが強く影響を及ぼしているものの、他の要因も影響を持っている課題と考えられる。ＡＤＬ高群におけるオッズ比では、食事に特有の状態である「食事への意欲」、「食卓上の認知」、「食事時間の認識」が状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で高かった。しかし、「認識と動作」、「活動意欲」において状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であった点が、ＡＤＬ中群や低群の結果と異なっていた。また、「反復的動作」についてはＡＤＬ低群や中群と共通していたが、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であった。

これらを総合して考察すると、「途中で食べることをやめてしまう」ことは、ＡＤＬの状態が全般に良好である場合に、食事に特化して意欲や認知が低下している場合に生じやすいこと、また全般的な行動としては認識と動作（複雑動作や模倣）について課題がある場合に生じやすいこと、全般的な意欲低下によっても生じやすいことが示唆された。

③「他の人の食事に手を出す」（表１－１、資料３－１・２・３）

ＡＤＬ低群では 1,815 名（24.6%）、ＡＤＬ中群では 1,034 名（17.4%）、ＡＤＬ高群では 167 名（5.2%）の該当者がおり、ＡＤＬが強く影響を及ぼしているもの

の、他の要因も影響を持っている課題と考えられる。ＡＤＬ高群におけるオッズ比では、食事に特有の状態である「食べることが好き」、「食卓上の認知」、「食事時間の認識困難」が、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で高かった。また、「反復的動作」、「認識と動作」、「記憶」「不穏暴言」、「言語コミュニケーション」において状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であったが、ＡＤＬ中群や低群の結果と類似していた。

これらを総合して考察すると、「他の人の食事に手を出す」ことは、ＡＤＬの状態が全般に良好である場合にも、食べることが好きで食事に特化して意欲や認知が低下している場合に生じやすいこと、また全般的な行動としては認識と動作（複雑動作や模倣）について課題がある場合に生じやすいこと、記憶とコミュニケーションの課題によっても生じやすいことが示唆された。

表1－1　オッズ比の有意性比較表（食事）

項目	ADL	
1=自力では全く食事ができない	L	ADL低群
2=途中で食べることをやめてしまう	M	ADL中群
3=他の人の食事に手を出す	H	ADL高群

	項目1			項目2			項目3		
	L	M	H	L	M	H	L	M	H
視力	*					−	−		
聴力	−				−		−	−	
ADL	*	*		−	*	*	−	*	*
記憶				*	*		*	*	*
見当識					*		*	*	
判断				*			*	*	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	*				*		*	*	*
認識と動作	*					*	*	*	*
感情表現				−			−		
変化への適応									
自発的行動				*			−	−	−
活動意欲	*					*	−		
妄想					−		−	−	
不安				*					
幻覚		*		*	*			*	
不穏暴言	−	−		*			*	*	*
反復的動作	−			*	*	*	*	*	*
座位姿勢の保持困難	*								
腕が動かない	*	*		−			−		
指がうまく動かない				*					
食事意欲が低い		*		*	*	*	−	−	
食卓上の認知困難	*	*			*	*	*	*	*
食事時間の認識困難				*	*	*	*	*	*
食べることが好き	−			−	−		*	*	*

＊：状態像が悪いと、ニーズ項目への該当率が高い

－：状態像が良いと、ニーズ項目への該当率が高い

※項目１のH群は、該当例数が少なく解析不能であった

（２）排泄（排尿）の課題

排泄の課題としては、「排尿の介助を嫌がる」、「よく漏らしてしまう」、「ときどき漏らしてしまう」の 3 つを解析の対象とした。また、排泄(排尿)特有の状態像項目として、「おむつ使用」、「ポータブルトイレ使用」、「トイレ使用」、「尿とりパッド使用」の 4 項目を独立変数として追加した。これら 4 項目は状態像としての良し悪しではなく、「使用」に該当する場合に高得点を付与した。

解析結果のうち、オッズ比の有意性について集約したものを表１－２に示した。なお、それぞれの解析結果は資料４－１・２・３、資料５－１・２・３、資料６－１・２・３に示した（付録参照)。

①「排尿の介助を嫌がる」(表１－２、資料４－１・２・３）

ＡＤＬ低群では 924 名（12.5%)、ＡＤＬ中群では 604 名（10.2%)、ＡＤＬ高群では 120 名（3.7%）の該当者がおり、ＡＤＬが影響を及ぼしているものの、他の要因も影響を持っている課題と考えられる。ＡＤＬ高群におけるオッズ比では、排泄に特有の状態である「トイレ使用」や「尿取りパッド利用」の場合に該当率が高まる方向性で高かった。さらに「不穏暴言」だけが状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であったが、ＡＤＬ中群や低群の結果と同様の結果であった。むしろ、ＡＤＬ中群や低群では「反復的動作」や「言語コミュニケーション」について状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であった点がＡＤＬ高群では見られなかった。

これらを総合して考察すると、「排尿の介助を嫌がる」ことは、ＡＤＬの状態が全般に良好である場合には、トイレ介助を必要とする場合に不穏・暴言があるときに生じやすいことが示唆された。

②「(尿を）よく漏らしてしまう」(表１－２、資料５－１・２・３）

ＡＤＬ低群では 3,314 名（44.9%)、ＡＤＬ中群では 1,770 名（29.8%)、ＡＤＬ高群では 225 名（6.9%）と全体として該当者が多かった。ＡＤＬが影響を及ぼしているものの他の要因も影響を持っている課題と考えられる。どの群でも排泄に特有の状態である「トイレ使用」、「おむつ使用」、「尿取りパッド利用」の場合に該当率が高まる方向性で高かった。さらにＡＤＬ高群におけるオッズ比では、「認識と動作」について状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であり、「変化への適応」では状態像がよい場合に該当率が高まる方向性で有意であった。これは他の 2 群では認められずＡＤＬ高群に特有の傾向であった。一方、他の 2 群では「不穏暴言」、「反復的動作」「記憶」について状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であったが、ＡＤＬ高群では有意ではなかった。

これらを総合して考察すると、「(尿を）よく漏らしてしまう」ことは、ＡＤＬの状態が全般に良好である場合には、認識と動作に課題がある場合に生じやすく、また変化に対する適応力が良好な場合にも生じやすくなることが示唆された。

③「(尿を) ときどき漏らしてしまう」(表１－２、資料６－１・２・３)

ＡＤＬ低群では 1,616 名 (21.9%)、ＡＤＬ中群では 2,593 名 (43.6%)、ＡＤＬ高群では 880 名 (27.2%) と全体として該当者が多く、またＡＤＬの障害が中・軽度の場合に生じやすくＡＤＬ以外の要因が影響を及ぼしている課題と考えられる。ただし、ＡＤＬ低・中群においては、ＡＤＬについて状態像がよい場合に該当率が高まる方向性で有意であったのに対して、ＡＤＬ高群においては、ＡＤＬについて状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であり、ＡＤＬ高群ではＡＤＬが影響を与えているといえる。

どの群でも排泄に特有の状態である「トイレ使用」、「尿取りパッド利用」の場合に該当率が高まる方向性で高かったが、「おむつ使用」については、ＡＤＬ低・中群では使用している場合に、ＡＤＬ高群では使用していない場合に該当率が高まる方向性で有意であった。

オッズ比が有意な項目は全体に少なかった。ＡＤＬ高群におけるオッズ比では、「反復的動作」について状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であった。これは他の 2 群では認められずＡＤＬ高群に特有の傾向であった。該当率の最も高いＡＤＬ中群ではオッズ比が有意な状態像が認められず、ここにあげた状態像項目ではとらえきれない要因がある、または影響を与える要因がさまざまであるものと推察される。ＡＤＬ低群におけるオッズ比では、「不安」について状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性で有意であり、「見当識」、「不穏暴言」では状態像がよい場合に該当率が高まる方向性で有意であった。

これらを総合して考察すると、「(尿を) ときどき漏らしてしまう」ことは、ＡＤＬの状態が全般に良好である場合には、ＡＤＬに課題がある場合に生じやすく、また徘徊などの反復的動作がある場合にも生じやすくなることが示唆された。

表1－2 オッズ比の有意性比較表（排泄）

項目	ADL	
14=排尿の介助を嫌がる	L	ADL低群
15=よく漏らしてしまう	M	ADL中群
16=ときどき漏らしてしまう	H	ADL高群

	項目14			項目15			項目16		
	L	M	H	L	M	H	L	M	H
視力				－		－	＊		
聴力									
ADL	－		＊		＊	＊	－	－	＊
記憶	＊			＊	＊				
見当識				＊			－		
判断					＊				
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	＊	＊							
認識と動作						＊			
感情表現									
変化への適応	＊					－			
自発的行動									
活動意欲									
妄想	＊				＊				
不安	－	－					＊		
幻覚	－								
不穏暴言	＊	＊	＊	＊	＊		－		
反復的動作	＊	＊		＊	＊				＊
おむつ使用		＊		＊	＊	＊	－	－	＊
ポータブルトイレ使用							＊		
トイレ使用	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊
尿とりパッド使用	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊

＊：状態像が悪いと、ニーズ項目への該当率が高い
－：状態像が良いと、ニーズ項目への該当率が高い

（３）入浴の課題

入浴の課題としては、「浴室に行くのを嫌がる」、「浴室内で入浴行為を嫌がる」、「入浴の介助を拒絶する」の 3 つを解析の対象とした。また、入浴特有の状態像項目として、「主に機械浴槽を使用」、「主に個別浴槽を使用」、「主に大浴槽を使用」の 3 項目を独立変数として追加した。これら 3 項目は状態像としての良し悪しではなく、「使用」に該当する場合に高得点を付与した。

解析結果のうち、オッズ比の有意性について集約したものを表１－３に示した。なお、それぞれの解析結果は資料７－１・２・３、資料８－１・２・３、資料９－１・２・３に示した（付録参照）。

①「浴室に行くのを嫌がる」（表１－３、資料７－１・２・３）

ＡＤＬ低群では 1,198 名（16.2%）、ＡＤＬ中群では 1,305 名（21.9%）、ＡＤＬ高群では 558 名（17.2%）の該当者がおり、ＡＤＬよりも他の要因が影響を持っている課題と考えられる。ＡＤＬ高群では入浴の形態として「主に個別浴槽を使用」、

「主に大浴槽を使用」の場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が高かった。しかし、状態像としては、3 群とも共通に「記憶」、「変化への適応」、「活動意欲」、「不穏暴言」、「反復的動作」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であり、ＡＤＬ高群特有の特徴は見られなかった。

これらを総合して考察すると、「浴室に行くのを嫌がる」ことは、ＡＤＬの状態に関わらず、記憶の持続が短いこと、変化に対する適応が悪いこと、活動への意欲が低いこと、不穏状態や暴言があることや徘徊等の反復的動作があることによって、浴室に行くのを嫌がることが生じやすいことが示唆された。

②「浴室内で入浴行為を嫌がる」（表１－３、資料８－１・２・３）

ＡＤＬ低群では 1,130 名（15.3%）、ＡＤＬ中群では 696 名（11.7%）、ＡＤＬ高群では 156 名（4.8%）の該当者がおり、ＡＤＬが影響を及ぼしているものの、他の要因も影響を持っている課題と考えられる。ＡＤＬ高群では入浴の形態として「主に個別浴槽を使用」の場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が高かった。状態像としては、3 群とも共通に「変化への適応」、「不穏暴言」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であった。ＡＤＬ高群だけの特徴としては、「感情表現」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であった。また、ＡＤＬ低群・中群では、「記憶」、「判断」、「反復的動作」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であったが、ＡＤＬ高群では有意ではなかった。

これらを総合して考察すると、「浴室内で入浴行為を嫌がる」ことは、ＡＤＬの状態に関わらず、変化に対する適応が悪いこと、不穏状態や暴言があることによって、浴室に行くのを嫌がることが生じやすく、とくにＡＤＬの状態が全般に良好である場合には感情表現が極端になる場合に生じやすいことが示唆された。

③「入浴の介助を拒絶する（表１－３、資料９－１・２・３）

ＡＤＬ低群では 968 名（13.1%）、ＡＤＬ中群では 627 名（10.5%）、ＡＤＬ高群では 183 名（5.7%）の該当者がおり、ＡＤＬがやや影響を及ぼしているものの、他の要因が影響を持っている課題と考えられる。ＡＤＬ高群では入浴の形態として「主に個別浴槽を使用」の場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が高かった。状態像としては、3 群とも共通に「不穏暴言」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であった。ＡＤＬ高群だけの特徴としては、「活動意欲」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であり、「自発的行動」において、状態像がよい場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であった。また、ＡＤＬ低群・中群では、「記憶」、「言語コミュニケーション」、「変化への適応」において、状態像が悪い場合に該当率が高まる方向性でオッズ比が有意であったが、ＡＤＬ高群では有意ではなかった。

これらを総合して考察すると、「入浴の介助を拒絶する」ことは、ＡＤＬの状態

に関わらず、記憶の持続が短いこと、コミュニケーションがうまくいかないこと、変化への適応が悪いことによって生じやすいと考えられる。またＡＤＬの状態が全般に良好である場合には、活動意欲がないこと、一方で自発的に行動する傾向があることによって「入浴の介助を拒絶する」ことが生じやすいことが示唆された。

表1－3 オッズ比の有意性比較表（入浴）

項目	ADL
1=浴室に行くのを嫌がる	L　ADL低群
3=浴室内で入浴行為を嫌がる	M　ADL中群
11=入浴の介助を拒絶する	H　ADL高群

	項目１			項目３			項目１１		
	L	M	H	L	M	H	L	M	H
視力			－		－				－
聴力	＊								
ADL	－			－					
記憶	＊	＊	＊	＊	＊		＊	＊	
見当識							＊		
判断				＊	＊				
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	－						＊	＊	
認識と動作		－			－				
感情表現	－			－		＊			
変化への適応	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	
自発的行動	＊								－
活動意欲	＊	＊	＊		＊				＊
妄想	＊	＊					＊		
不安									
幻覚		－							
不穏暴言	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊
反復的動作	＊	＊	＊	＊	＊		＊	＊	
主に機械浴槽を使用	－				＊				
主に個別浴槽を使用			＊	＊	＊	＊			＊
主に大浴槽を使用			＊		＊				

＊：状態像が悪いと、ニーズ項目への該当率が高い
－：状態像が良いと、ニーズ項目への該当率が高い

Ｄ．結論

本研究では、特別養護老人ホームおよび認知症グループホームにおいて介護サービスを利用している認知症高齢者を対象として、さまざまな状態像と摂食、排泄（排尿）、入浴に関する介護ニーズとの関係を検討した。本研究における調査及び分析の手法は横断的なものであり、状態像が原因で介護ニーズがその結果生じたものであるとはいえないことは言うまでもない。その逆に、介護ニーズの発生によって生じた状態像である可能性が強いものもあった。例えば、入浴における「個別浴槽の使用」は、それぞれの介護ニーズの発生とＡＤＬの状態を勘案して、大浴槽から個別浴槽に変更したケースがあると考えられる。

しかし、認知症ケアの現場では、本研究で解析対象としたような介護ニーズが発生した場合に、それを最初に発生させた介護ニーズを追及して明らかにしても、ニーズが顕在化した時点では、その介護ニーズが新たな状態像を生じさせている原因となっている場合もあり、ニーズと状態像の関係は単純な因果関係ではなく、より複雑な双方向的な関係となっていると考えられる。本研究の結果も、そのような双方向的な視点で見る必要があり、ここで取り上げた介護ニーズの原因というよりも、随伴する状態像として解釈することが望ましいといえよう。

付　録

（1）調査票

（2）ロジスティック回帰分析の結果（資料１－１～９－３）

認知症介護と状態像に関する調査（利用者調査）H19 版

各項目に数値等を記入するか、最もあてはまる選択肢に○をつけてください。

最後に施設・事業所の環境に関する質問がありますので、最終面までお目通しください。

入居している施設・事業所の種類	1.介護老人福祉施設　2.認知症対応型共同生活介護
性別（あてはまる方に○）・年齢	男　女　年齢（　　）歳
入居からの経過年月	（　　）年　（　　）月ぐらい
要介護度	要支援１　経過的要介護　要支援２　要介護１ 要介護２　要介護３　要介護４　要介護５
心身の状態	〔認知症高齢者自立度〕　なし　Ⅰ　Ⅱ　Ⅲ　Ⅳ　M 〔障害老人自立度〕　自立　J　A　B　C
認知症のタイプ	1．アルツハイマー型の認知症　2．脳血管性の認知症 3．その他（　　）4．不明・特定できず
日常に支障をきたす麻痺または筋力低下（該当する箇所すべてに○）	1.左上肢　2．右上肢　3．左下肢　4．右下肢　5.手指
視力の低下	1.見える　2．やや見えにくい　3．かなり見えにくい
聴力の低下（主に会話について）	1.聞こえる　2．やや聞こえにくい　3．かなり聞こえにくい
食事	1.自立（標準的時間内に食べ終わる） 2.一部介助（きざみなどの準備を含む）　3.全介助
車いすからベッドへの移乗	1.自立（歩行自立を含む）　2.軽度の一部介助（見守り含む） 3.座位は可能＋移乗は全介助　4.全介助（または不可能）
整容（洗面・整髪・歯磨き・ひげそり）	1.自立　2.介助が必要（または不可能なものがある）
トイレ動作	1.自立　2.一部介助（体を支える・衣服着脱・後始末など部分的介助） 3.全介助（すべて介助、おむつ使用を含む）
入浴	1.自立　2.介助が必要（または不可能）
歩行・移動	1.45ｍ歩行可能（補装具可、車いす・歩行器は使用しない） 2.歩行器で 45ｍ歩行可能　3.車いすで 45m 以上自力移動　4.その他
階段昇降	1.自立（手すり使用は可）　2.介助や見守りが必要　3.不可能
着替え（靴、ファスナーなどを含む）	1.自立　2.一部介助（半分以上自立、時間的にも著しく遅くない） 3.その他（かなり介護が必要、著しく遅い）
排便コントロール	1.失禁なし（浣腸・座薬等を自分で使っている場合を含む） 2.ときどき失禁（浣腸・座薬等の介助が必要）　3.その他（失禁多い）
排尿コントロール	1.失禁なし（収尿器を自力で使っている場合を含む） 2.ときどき失禁（収尿器の介助が必要）　3.その他（失禁多い）
歩行距離範囲外の場所に行く	1.介助なしで交通機関を利用可能　2.介助が必要または不可能
買い物に行く	1.介助なしで可能　2.介助が必要または不可能
食事の支度	1.介助なしで可能（献立・調理全般）　2.介助が必要または不可能
家事（掃除など）	1.介助なしで可能　2.介助が必要または不可能
家事（身の回りの片付け）	1.介助なしで可能　2.介助が必要または不可能
金銭管理（預金や支払いの管理）	1.介助なしで可能　2.介助が必要または不可能
社会的手続き	1.介助なしで可能　2.介助が必要または不可能
生活に満足している様子か？	1.たいてい　2.ときどき　3.ほとんど（または全く）そうでない
安心している様子か？	1.たいてい　2.ときどき　3.ほとんど（または全く）そうでない

出来事の記憶（10 分程度）	1.覚えていることが多い　2.覚えていることがある　3.すぐ忘れる
出来事の記憶（1 日程度）	1.覚えていることが多い　2.覚えていることがある　3.すぐ忘れる
出来事の記憶（1 週間程度）	1.覚えていることが多い　2.覚えていることがある　3.すぐ忘れる
見当識(時間、場所の認識)	1.理解している　2.言えば理解できる　3.言ってもわからない
日常生活で次にすることを判断	1.自分でできる　2.言えばわかることが多い　3.言ってもわからない
ことば・話しの理解	1.理解している　2.少し理解できる　3.わからないことが多い
話しをすること（頻度）	1.よく話す　2.ときどき話す　3.ほとんど話さない・不可能
話しをすること（意図の伝達）	1.自分の意思を伝えられる　2.少し伝えられる　3.できない
物の認識（誤認の程度）	1.誤認は少ない　2.ときどき誤認する　3.よく誤認する
複雑な動作（着替えなど）	1.可能　2.体は動くが動作の組み合わせができない　3.体が動かない
動作などを見てまねる(模倣)	1.模倣できる　2.ときどきできる　3.できない
性格の変化	1.病前（または利用開始時）と変わらない　2.変わった
感情表現(激しい表現)	1.上手く表現できる　2.ときどき激しく表現する 3.激しく表現することが多い　4.ほとんど表現しない
対人関係（会話や交流）	1.自分でできる　2.援助すればできる　3.できないことが多い
環境の変化への対応	1.適応できることが多い　2.少し混乱しやすい　3.激しく混乱する
自発的な活動性	1.よく動く　2.少し動く　3.ほとんど動かない
全般的な意欲・活力	1.いつも意欲がある　2.意欲が低いときがある　3.ほとんどない
集団活動への参加	1.自発的に参加　2. 促せば参加　3. 参加しない
物盗られ妄想(妄想の内容)	1.なし 2.物を盗られた　3.家や部屋に侵入された　4.侵入者と話し・声に聞き耳
帰宅願望（行動のレベル）	1.なし 2.訴えがある　3.実際に出て行こうとする　4.止められると暴力
配偶者がにせものという妄想	1.なし 2.該当の言動がある　3.配偶者自身に言って怒る　4. 配偶者に言って暴力
見捨てられ妄想	1.なし 2.該当の言動がある　3.言動とともに非難する　4.言動とともに攻撃
不義・不実の妄想(配偶者、子供、介護者)	1.なし 2.該当の言動がある　3.言動とともに怒りを示す　4.言動とともに暴力
猜疑心	1.なし 2.該当の言動がある　3.強い猜疑心や怒りを示す　4.言動とともに暴力
上記以外の妄想	1.なし 2.ありそう　3.言動がある　4.言動とともに行動や暴力
幻視（見ることの幻覚）	1.なし 2.対象は不明確だがありそう　3.対象が明らか　4.対象への言動・感情表出
幻聴（聞くことの幻覚）	1.なし 2.対象は不明確だがありそう　3.対象が明らか　4.対象への言動・感情表出
幻嗅(においの幻覚)	1.なし 2.対象は不明確だがありそう　3.対象が明らか　4.対象への言動・感情表出
幻触（何かが触っている幻覚）	1.なし 2.対象は不明確だがありそう　3.対象が明らか　4.対象への言動・感情表出
その他の幻覚	1.なし 2.対象は不明確だがありそう　3.対象が明らか　4.対象への言動・感情表出
徘徊	1.なし 2.あるがやめさせるほどではない　3.生活や安全のため減らす必要がある 4.減らす働きかけに対して言動や感情の表出がある（怒る、嫌がるなど）
行動の反復（開閉を繰り返す、質問を繰り返すなど）	1.なし 2.あるがやめさせるほどではない　3.生活や安全のため減らす必要がある 4.減らす働きかけに対して言動や感情の表出がある（怒る、嫌がるなど）
必要な物を捨てたり、不適切な場所に置く	1.なし 2.あるがやめさせるほどではない　3.生活や安全のため減らす必要がある 4.減らす働きかけに対して言動や感情の表出がある（怒る、嫌がるなど）
暴言	1.なし　2.あり(言葉遣い)　3.あり（怒りが伴う）　4.あり（他人に向けられる）
威嚇や暴力	1.なし　2.あり(威嚇)　3.あり（暴力的行動）　4.あり（激しい暴力）
不穏(攻撃的な雰囲気や言動)	1.なし　2.あり(雰囲気)　3.あり（感情的な言動）　4.あり（行動に現れる）
夜間の睡眠状態	1.なし　2.何度も覚醒　3.睡眠が本来の 70%以下　4. 睡眠が本来の 50%未満

悲しみの感情	1. なし 2. あり（雰囲気） 3. あり（明らかな感情的表出） 4. あり（身振りや行動あり）
激しい抑うつ（死にたいという言動）	1. なし 2. あり（ときどき） 3. あり（よく言う） 4. あり（身振りや行動もあり）
間近な約束や予定への不安	（質問や行動の繰り返しの程度） 1. なし 2. ある 3. 周囲が困る 4. 周囲が耐え難い
その他の不安	（質問や行動の繰り返しの程度） 1. なし 2. ある 3. 周囲が困る 4. 周囲が耐え難い
独りぼっちになる恐怖（の訴え）	1. なし 2. ある 3. 介護者が対応する必要 4. 常に付き添いが必要
その他の恐怖（訴えや行動）	1. なし 2. ある 3. 介護者が対応する必要 4. やめさせる必要がある行動
行動障害や精神症状による介護者の負担と本人の危険性の総合評価	0. まったくない 1. 軽度 2. 中等度 3. 高い

以下の項目は、食事、排尿、入浴、着替えの4つの生活機能と介護について詳細にお聞きするものです。この方の課題となっていること（援助が必要な日常生活機能）を選択して、記入をお願いします。

（1）食事(摂食)に関する課題と介護　・・・「摂食」が自立の場合には、この項目について回答の必要はありません

1 全面的に介助　2 一部を介助　3 環境の整備や見守りだけ　・・・（1つだけ選択）

＜食事(摂食)の状況について、以下の項目のなかであてはまるものすべてに○をつけてください(複数可)＞

1. 自力では全く食事ができない　2. 途中で食べることをやめてしまう　3. 他の人の食事に手を出す
4. 食べ物をもてあそんでしまう　5. いすに座っての姿勢保持が困難　6. 腕が動かない
7. 指が上手く動かない　8. 食事に対する意欲が低い　9. 食卓上の認知ができない
10 食事の時間という認識が低い　11 食事に集中できない　12 食欲が無いことが多い
13 不安が高くなる　14 食事の介護を嫌がる　15 食べることが好き

その他の特徴・状態像などがあれば、自由に記述してください。

（２）排尿に関する課題と介護　・・・「排尿」が自立の場合には、この項目について回答の必要はありません

1 全面的に介助　2 一部を介助　3 見守りだけ　・・・（1つだけ選択）

＜排尿の状況について、以下の項目のなかであてはまるものすべてに○をつけてください(複数可)＞

1. 排泄感がない　2. 排尿への意欲がない　3. トイレまでの行き来が困難
4. トイレまで行くのに時間がかかる　5. トイレの場所がわからない　6. トイレのドアを開けられない
7. 衣服の着脱が困難　8. 便器等への移乗が困難　9. 便器の使用法がわからない
10 便器に座っても自力での排尿が困難　11 おむつ・パッドの交換が自力ではできない
12 ポータブルトイレの後始末が自力ではできない　13 介助を恥ずかしがる
14 排尿の介助を嫌がる　15 よく漏らしてしまう　16 ときどき漏らしてしまう
17 カテーテル　18 おむつ使用　19 ポータブルトイレ使用
20 トイレを使用　21 尿取りパッドを併用

その他の特徴・状態像などがあれば、自由に記述してください。

（3）入浴に関する課題と介護　・・・「入浴」が自立の場合には、この項目について回答の必要はありません

1 入浴できない･しない　2 ほとんど介助が必要　3 一部を介助　4 見守りのみ　･･･(1つだけ選択)

＜入浴の状況について、以下の項目のなかであてはまるものすべてに○をつけてください(複数可)＞

1.浴室に行くのを嫌がる　2.浴室までの行き来が困難　3.浴室内で入浴行為を嫌がる
3.脱衣が困難　4.着衣が困難　5.脱衣を嫌がる
6.着衣を嫌がる　7.洗身ができない　8.洗髪ができない
9.浴槽に自力では入れない　10 入浴の介助を拒絶する　11 入浴への意欲がない
12 清拭のみ　13 主に機械浴槽で入浴　14 主に個別用浴槽で入浴
15 主に大浴槽で入浴　16 身体的要因（疾病を含む）で入浴できない

その他の特徴・状態像などがあれば、自由に記述してください。

(4)着替えに関する課題と介護　･･･「着替え」が自立の場合には、この項目について回答の必要はありません

1 全介助　2 着替えを一部介助　3 見守り･簡単な支援　･･･(1つだけ選択)

＜着替えの状況について、以下の項目のなかであてはまるものすべてに○をつけてください(複数可)＞

1.ボタンをはずせない　2.シャツを頭から脱ぐことが難しい　3.ズボンを脱ぐことが難しい
4.靴下を脱ぐことが難しい　5.ボタン留めができない　6.シャツを頭から着ることが難しい
7.ズボンをはくことが難しい　8.靴下をはくことが難しい　9.着衣を嫌がることが多い
10 着衣する意欲がない　11 脱衣を嫌がることが多い　12 脱衣する意欲がない
13 服を選択できない　14 服に関心が少ない　15 特定の服にこだわりがある
16 着替えをすべき時間を認識できない　17 着替えの介助を嫌がる

その他の特徴・状態像などがあれば、自由に記述してください。

◎ この入居者の方に関する施設･事業所の環境についてお聞きします。

施設種類(施設のみ)	1.ユニット型　2.準ユニット型　3.従来型
建物の種類 (ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑのみ)	1.既存の民家・一般住宅を改造　2.既存の施設・病院・寮等を改造 3.新たに建築（木造、民家型）　4.新たに建築（鉄筋、施設型）　5.その他
利用者の居室	1.個室　2.準個室（簡易な仕切り）　3.多床室（2人）　4.多床室（4人以上）
食事の場所(通常)	1.大食堂（15名以上）　2.居間や小さい食堂（15名未満）　3.居室　4.経管栄養
入浴の形態	1.大浴場（５名以上入浴可）　2.中浴場（3～5名入浴可） 3.小型の浴室（1･2名入浴可）　4.機械浴（座位）　5.機械浴（臥位）　6.その他

※施設・事業所の環境について、補足事項がありましたら、下記にお願いします。

資料1－1

ADL低群

1=自力では全く食事ができない

			(%)
	あり	1199	16.2
	なし	6189	

オッズ比		９５%信頼限界		
	点推定値	下限	上限	
視力	1.258	1.096	1.445	＊
聴力	0.727	0.633	0.836	－
ADL	0.899	0.889	0.909	＊
記憶	0.880	0.769	1.006	
見当識	1.237	0.936	1.635	
判断	0.902	0.671	1.213	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.347	1.263	1.437	＊
認識と動作	1.285	1.184	1.395	＊
感情表現	1.041	0.945	1.147	
変化への適応	0.941	0.823	1.076	
自発的行動	1.177	0.999	1.387	
活動意欲	1.344	1.093	1.652	＊
妄想	0.903	0.801	1.019	
不安	1.059	0.939	1.194	
幻覚	1.089	0.965	1.229	
不穏暴言	0.903	0.861	0.948	－
反復的動作	0.868	0.777	0.970	－
座位姿勢の保持困難	1.361	1.106	1.675	＊
腕が動かない	2.846	2.240	3.617	＊
指がうまく動かない	1.061	0.857	1.313	
食事意欲が低い	1.055	0.861	1.293	
食卓上の認知困難	1.498	1.213	1.849	＊
食事時間の認識困難	1.169	0.953	1.434	
食べることが好き	0.716	0.581	0.881	－

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	92.3	Somer's D	0.847
不一致の割合	7.5	ガンマ	0.849
タイの割合	0.2		

資料1－2

ADL中群

1=自力では全く食事ができない

		(%)
あり	39	0.7
なし	5910	

オッズ比		95%信頼限界		
	点推定値	下限	上限	
視力	0.761	0.388	1.493	
聴力	0.999	0.532	1.875	
ADL	0.923	0.875	0.975	*
記憶	1.084	0.660	1.781	
見当識	0.919	0.317	2.664	
判断	1.152	0.403	3.294	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.044	0.804	1.355	
認識と動作	1.260	0.870	1.826	
感情表現	0.960	0.648	1.422	
変化への適応	1.299	0.690	2.446	
自発的行動	1.181	0.686	2.035	
活動意欲	1.074	0.531	2.171	
妄想	0.820	0.514	1.309	
不安	0.891	0.576	1.379	
幻覚	1.546	1.036	2.306	*
不穏暴言	0.800	0.646	0.991	-
反復的動作	0.898	0.576	1.399	
座位姿勢の保持困難	2.753	0.821	9.228	
腕が動かない	5.423	1.156	25.447	*
指がうまく動かない	0.947	0.222	4.047	
食事意欲が低い	6.362	2.626	15.413	*
食卓上の認知困難	2.966	1.322	6.654	*
食事時間の認識困難	2.017	0.839	4.849	
食べることが好き	2.335	0.946	5.763	

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	88.3	Somer's D	0.825
不一致の割合	5.7	ガンマ	0.878
タイの割合	6		

資料1－3
ADL高群
1=自力では全く食事ができない

		(%)
あり	3	0.1
なし	3235	

モデル不適合

資料2－1
ADL低群
2=途中で食べることをやめてしまう

		(%)
あり	3175	43.0
なし	4213	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.926	0.849	1.011	
聴力	0.967	0.894	1.045	
ADL	1.007	1.003	1.012	－
記憶	1.163	1.089	1.242	＊
見当識	1.103	0.960	1.266	
判断	1.251	1.078	1.452	＊
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.019	0.983	1.057	
認識と動作	0.984	0.939	1.032	
感情表現	0.926	0.871	0.985	－
変化への適応	0.988	0.906	1.077	
自発的行動	1.125	1.030	1.230	＊
活動意欲	1.041	0.932	1.162	
妄想	0.964	0.902	1.029	
不安	1.093	1.023	1.168	＊
幻覚	1.152	1.076	1.233	＊
不穏暴言	1.033	1.003	1.063	＊
反復的動作	1.068	1.003	1.137	＊
座位姿勢の保持困難	1.143	0.978	1.336	
腕が動かない	0.677	0.559	0.818	－
指がうまく動かない	1.244	1.075	1.440	＊
食事意欲が低い	3.983	3.463	4.580	＊
食卓上の認知困難	1.019	0.881	1.180	
食事時間の認識困難	1.864	1.637	2.123	＊
食べることが好き	0.544	0.483	0.612	－

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	73.5	Somer's D	0.472
不一致の割合	26.3	ガンマ	0.473
タイの割合	0.3		

資料2－2
ADL中群
2=途中で食べることをやめてしまう

		(%)
あり	1282	21.5
なし	4667	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.920	0.801	1.057	
聴力	0.859	0.765	0.965	－
ADL	0.969	0.960	0.978	＊
記憶	1.133	1.042	1.233	＊
見当識	1.315	1.093	1.582	＊
判断	1.149	0.944	1.400	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.123	1.067	1.182	＊
認識と動作	1.042	0.973	1.116	
感情表現	1.001	0.911	1.099	
変化への適応	1.124	0.976	1.293	
自発的行動	0.962	0.848	1.091	
活動意欲	1.105	0.949	1.288	
妄想	0.845	0.770	0.928	－
不安	0.999	0.911	1.094	
幻覚	1.176	1.071	1.291	＊
不穏暴言	1.039	0.995	1.084	
反復的動作	1.103	1.004	1.211	＊
座位姿勢の保持困難	1.638	0.996	2.693	
腕が動かない	1.555	0.720	3.360	
指がうまく動かない	1.008	0.673	1.509	
食事意欲が低い	7.717	6.122	9.727	＊
食卓上の認知困難	2.037	1.593	2.603	＊
食事時間の認識困難	2.533	2.079	3.086	＊
食べることが好き	0.554	0.462	0.664	－

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	82.9	Somer's D	0.661
不一致の割合	16.8	ガンマ	0.663
タイの割合	0.3		

資料2－3
ADL高群
2=途中で食べることをやめてしまう

		(%)
あり	139	4.3
なし	3099	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.561	0.337	0.933	－
聴力	0.869	0.629	1.201	
ADL	0.961	0.932	0.989	＊
記憶	0.851	0.692	1.046	
見当識	1.549	0.981	2.445	
判断	1.536	0.920	2.566	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	0.997	0.860	1.155	
認識と動作	1.249	1.035	1.508	＊
感情表現	0.996	0.758	1.308	
変化への適応	0.977	0.670	1.425	
自発的行動	1.017	0.705	1.467	
活動意欲	1.629	1.071	2.478	＊
妄想	1.009	0.784	1.299	
不安	1.014	0.795	1.293	
幻覚	0.957	0.739	1.238	
不穏暴言	0.929	0.822	1.051	
反復的動作	1.571	1.202	2.053	＊
座位姿勢の保持困難	0.363	0.017	7.634	
腕が動かない	<0.001	<0.001	>999.999	
指がうまく動かない	<0.001	<0.001	>999.999	
食事意欲が低い	25.409	14.220	45.400	＊
食卓上の認知困難	3.386	1.482	7.737	＊
食事時間の認識困難	4.731	2.677	8.360	＊
食べることが好き	0.868	0.517	1.459	

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	88.7	Somer's D	0.783
不一致の割合	10.4	ガンマ	0.790
タイの割合	0.8		

資料3－1
ADL低群
3=他の人の食事に手を出す

		(%)
あり	1815	24.6
なし	5573	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.708	0.635	0.790	－
聴力	0.807	0.732	0.888	－
ADL	1.010	1.005	1.016	－
記憶	1.158	1.061	1.265	＊
見当識	1.509	1.264	1.801	＊
判断	1.578	1.313	1.896	＊
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.125	1.078	1.174	＊
認識と動作	1.094	1.033	1.159	＊
感情表現	0.891	0.826	0.960	－
変化への適応	1.043	0.942	1.156	
自発的行動	0.742	0.670	0.821	－
活動意欲	0.839	0.737	0.954	－
妄想	0.865	0.801	0.935	－
不安	0.990	0.918	1.068	
幻覚	1.066	0.985	1.155	
不穏暴言	1.097	1.061	1.135	＊
反復的動作	1.312	1.221	1.409	＊
座位姿勢の保持困難	1.178	0.975	1.422	
腕が動かない	0.411	0.316	0.535	－
指がうまく動かない	0.914	0.763	1.095	
食事意欲が低い	0.695	0.583	0.828	－
食卓上の認知困難	1.552	1.321	1.823	＊
食事時間の認識困難	1.532	1.319	1.779	＊
食べることが好き	3.362	2.948	3.835	＊

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	79.9	Somer's D	0.599
不一致の割合	19.9	ガンマ	0.601
タイの割合	0.2		

資料3－2
ADL中群
3=他の人の食事に手を出す

		(%)
あり	1034	17.4
なし	4915	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.863	0.740	1.006	
聴力	0.745	0.652	0.851	－
ADL	0.976	0.967	0.986	＊
記憶	1.173	1.063	1.293	＊
見当識	1.311	1.066	1.611	＊
判断	1.476	1.190	1.830	＊
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.093	1.034	1.156	＊
認識と動作	1.290	1.195	1.393	＊
感情表現	0.997	0.898	1.107	
変化への適応	1.069	0.920	1.242	
自発的行動	0.791	0.690	0.906	－
活動意欲	0.899	0.765	1.055	
妄想	0.816	0.739	0.900	－
不安	0.995	0.903	1.097	
幻覚	1.183	1.072	1.307	＊
不穏暴言	1.089	1.039	1.141	＊
反復的動作	1.266	1.146	1.399	＊
座位姿勢の保持困難	1.273	0.752	2.155	
腕が動かない	0.538	0.207	1.394	
指がうまく動かない	0.869	0.555	1.360	
食事意欲が低い	0.724	0.535	0.980	－
食卓上の認知困難	2.146	1.672	2.754	＊
食事時間の認識困難	1.795	1.449	2.224	＊
食べることが好き	5.268	4.439	6.251	＊

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	79.9	Somer's D	0.599
不一致の割合	19.9	ガンマ	0.711
タイの割合	0.2		

資料３－３

ADL高群

3=他の人の食事に手を出す

		(%)
あり	167	5.2
なし	3071	

オッズ比	点推定値	９５%信頼限界 下限	上限	
視力	0.863	0.500	1.097	
聴力	0.745	0.760	1.341	
ADL	0.976	0.945	0.994	＊
記憶	1.173	1.124	1.704	＊
見当識	1.311	0.814	1.830	
判断	1.476	0.722	1.769	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.093	1.147	1.489	＊
認識と動作	1.290	1.038	1.453	＊
感情表現	0.997	0.713	1.184	
変化への適応	0.879	0.634	1.219	
自発的行動	0.600	0.410	0.877	－
活動意欲	0.917	0.645	1.302	
妄想	0.837	0.663	1.056	
不安	0.974	0.779	1.217	
幻覚	0.924	0.722	1.183	
不穏暴言	1.123	1.004	1.256	＊
反復的動作	1.389	1.099	1.755	＊
座位姿勢の保持困難	0.277	0.016	4.720	
腕が動かない	<0.001	<0.001	>999.999	
指がうまく動かない	0.653	0.072	5.904	
食事意欲が低い	0.488	0.126	1.889	
食卓上の認知困難	4.892	2.182	10.969	＊
食事時間の認識困難	2.086	1.167	3.727	＊
食べることが好き	8.976	6.122	13.160	＊

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	88.8	Somer's D	0.783
不一致の割合	10.6	ガンマ	0.788
タイの割合	0.6		

資料4－1
ADL低群
14=排尿の介助を嫌がる

		(%)
あり	924	12.5
なし	6464	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.972	0.854	1.106	
聴力	0.942	0.839	1.057	
ADL	1.010	1.003	1.017	－
記憶	1.251	1.122	1.395	＊
見当識	1.071	0.865	1.326	
判断	1.238	0.991	1.548	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.117	1.061	1.175	＊
認識と動作	1.001	0.934	1.072	
感情表現	0.920	0.833	1.017	
変化への適応	1.228	1.082	1.394	＊
自発的行動	1.007	0.892	1.137	
活動意欲	1.000	0.857	1.167	
妄想	1.107	1.016	1.205	＊
不安	0.867	0.793	0.947	－
幻覚	0.882	0.803	0.969	－
不穏暴言	1.468	1.405	1.535	＊
反復的動作	1.088	1.002	1.181	＊
おむつ使用	1.118	0.950	1.317	
ポータブルトイレ使用	0.959	0.756	1.216	
トイレ使用	1.308	1.112	1.539	＊
尿とりパッド使用	1.508	1.242	1.830	＊

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	76.2	Somer's D	0.528
不一致の割合	23.4	ガンマ	0.530
タイの割合	0.5		

資料4－2
ADL中群
14=排尿の介助を嫌がる

		(%)
あり	604	10.2
なし	5345	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.849	0.714	1.009	
聴力	1.006	0.877	1.154	
ADL	0.992	0.980	1.003	
記憶	1.097	0.990	1.216	
見当識	1.129	0.902	1.412	
判断	1.224	0.961	1.558	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.109	1.043	1.180	＊
認識と動作	0.965	0.887	1.049	
感情表現	1.076	0.950	1.219	
変化への適応	1.141	0.964	1.350	
自発的行動	1.095	0.943	1.270	
活動意欲	0.945	0.790	1.130	
妄想	1.022	0.920	1.135	
不安	0.861	0.773	0.959	－
幻覚	1.035	0.929	1.154	
不穏暴言	1.360	1.288	1.435	＊
反復的動作	1.168	1.049	1.300	＊
おむつ使用	1.471	1.187	1.823	＊
ポータブルトイレ使用	0.803	0.603	1.069	
トイレ使用	1.397	1.147	1.702	＊
尿とりパッド使用	1.289	1.066	1.558	＊

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	74.4	Somer's D	0.493
不一致の割合	25	ガンマ	0.496
タイの割合	0.6		

資料4－3
ADL高群
14=排尿の介助を嫌がる

		(%)
あり	120	3.7
なし	3118	

オッズ比

	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.995	0.667	1.482	
聴力	0.945	0.707	1.263	
ADL	0.969	0.941	0.997	＊
記憶	1.183	0.974	1.438	
見当識	0.973	0.638	1.486	
判断	0.945	0.585	1.527	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.085	0.946	1.245	
認識と動作	0.967	0.807	1.159	
感情表現	1.113	0.865	1.432	
変化への適応	1.327	0.929	1.894	
自発的行動	0.939	0.664	1.329	
活動意欲	1.427	0.967	2.105	
妄想	1.009	0.790	1.288	
不安	0.965	0.760	1.226	
幻覚	1.070	0.836	1.369	
不穏暴言	1.121	1.001	1.256	＊
反復的動作	1.121	0.877	1.432	
おむつ使用	1.310	0.639	2.688	
ポータブルトイレ使用	1.040	0.483	2.238	
トイレ使用	2.227	1.483	3.342	＊
尿とりパッド使用	2.563	1.689	3.890	＊

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	77.1	Somer's D	0.556
不一致の割合	21.5	ガンマ	0.564
タイの割合	1.5		

資料5－1
ADL低群
15=よく漏らしてしまう

		(%)
あり	3314	44.9
なし	4074	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.904	0.832	0.983	－
聴力	1.038	0.963	1.119	
ADL	0.997	0.992	1.002	
記憶	1.111	1.044	1.183	＊
見当識	1.211	1.061	1.383	＊
判断	1.000	0.867	1.153	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.011	0.977	1.046	
認識と動作	1.014	0.970	1.060	
感情表現	1.044	0.985	1.107	
変化への適応	1.028	0.946	1.117	
自発的行動	1.020	0.937	1.110	
活動意欲	0.962	0.866	1.069	
妄想	0.960	0.901	1.023	
不安	0.997	0.936	1.062	
幻覚	0.972	0.910	1.038	
不穏暴言	1.078	1.049	1.108	＊
反復的動作	1.166	1.098	1.239	＊
おむつ使用	1.529	1.369	1.707	＊
ポータブルトイレ使用	1.063	0.916	1.233	
トイレ使用	1.902	1.706	2.119	＊
尿とりパッド使用	2.833	2.500	3.210	＊

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	68.2	Somer's D	0.368
不一致の割合	31.4	ガンマ	0.369
タイの割合	0.3		

資料5－2
ADL中群
15=よく漏らしてしまう

		(%)
あり	1770	29.8
なし	4179	

オッズ比

	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.939	0.840	1.049	
聴力	0.996	0.909	1.092	
ADL	0.979	0.972	0.987	*
記憶	1.096	1.028	1.168	*
見当識	0.969	0.838	1.120	
判断	1.241	1.057	1.456	*
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.002	0.960	1.045	
認識と動作	0.999	0.945	1.056	
感情表現	1.033	0.956	1.115	
変化への適応	1.102	0.984	1.235	
自発的行動	1.027	0.928	1.137	
活動意欲	1.073	0.947	1.215	
妄想	1.097	1.018	1.182	*
不安	0.941	0.872	1.015	
幻覚	0.980	0.906	1.059	
不穏暴言	1.064	1.028	1.102	*
反復的動作	1.136	1.053	1.225	*
おむつ使用	2.355	2.024	2.741	*
ポータブルトイレ使用	0.992	0.837	1.176	
トイレ使用	1.333	1.171	1.517	*
尿とりパッド使用	2.527	2.220	2.878	*

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	71	Somer's D	0.422
不一致の割合	28.7	ガンマ	0.424
タイの割合	0.3		

資料5－3
ADL高群
15=よく漏らしてしまう

		(%)
あり	225	6.9
なし	3013	

オッズ比

	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.693	0.493	0.973	－
聴力	0.843	0.666	1.066	
ADL	0.919	0.897	0.943	＊
記憶	1.052	0.907	1.220	
見当識	0.714	0.509	1.000	
判断	1.079	0.739	1.576	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.013	0.902	1.137	
認識と動作	1.238	1.068	1.436	＊
感情表現	0.972	0.793	1.190	
変化への適応	0.613	0.458	0.821	－
自発的行動	0.957	0.727	1.260	
活動意欲	1.322	0.966	1.809	
妄想	0.969	0.797	1.178	
不安	1.125	0.923	1.372	
幻覚	1.068	0.864	1.320	
不穏暴言	1.058	0.968	1.157	
反復的動作	1.054	0.868	1.281	
おむつ使用	2.871	1.757	4.692	＊
ポータブルトイレ使用	1.222	0.699	2.137	
トイレ使用	1.576	1.152	2.157	＊
尿とりパッド使用	5.114	3.733	7.006	＊

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	84.1	Somer's D	0.687
不一致の割合	15.3	ガンマ	0.691
タイの割合	0.6		

資料6－1
ADL低群
16=ときどき漏らしてしまう

		(%)
あり	1616	21.9
なし	5772	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	1.139	1.029	1.261	＊
聴力	0.937	0.856	1.026	
ADL	1.043	1.037	1.049	－
記憶	0.999	0.932	1.072	
見当識	0.762	0.655	0.887	－
判断	0.930	0.788	1.097	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	0.993	0.953	1.035	
認識と動作	1.032	0.977	1.089	
感情表現	0.972	0.904	1.045	
変化への適応	0.996	0.896	1.107	
自発的行動	1.087	0.981	1.204	
活動意欲	0.950	0.837	1.078	
妄想	0.987	0.913	1.066	
不安	1.134	1.053	1.222	＊
幻覚	1.062	0.982	1.148	
不穏暴言	0.958	0.925	0.991	－
反復的動作	0.955	0.887	1.029	
おむつ使用	0.617	0.542	0.703	－
ポータブルトイレ使用	1.458	1.241	1.713	＊
トイレ使用	1.912	1.674	2.184	＊
尿とりパッド使用	1.448	1.239	1.692	＊

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	74.7	Somer's D	0.498
不一致の割合	25	ガンマ	0.499
タイの割合	0.3		

資料6－2
ADL中群
16=ときどき漏らしてしまう

		(%)
あり	2593	43.6
なし	3356	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	1.010	0.918	1.112	
聴力	1.058	0.977	1.145	
ADL	1.017	1.011	1.024	－
記憶	0.966	0.914	1.020	
見当識	0.997	0.879	1.131	
判断	1.019	0.887	1.172	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.000	0.963	1.038	
認識と動作	1.046	0.996	1.098	
感情表現	0.957	0.895	1.024	
変化への適応	0.963	0.872	1.065	
自発的行動	1.016	0.929	1.113	
活動意欲	0.969	0.867	1.082	
妄想	1.039	0.971	1.110	
不安	1.026	0.959	1.098	
幻覚	0.960	0.896	1.030	
不穏暴言	1.002	0.972	1.033	
反復的動作	0.974	0.910	1.041	
おむつ使用	0.766	0.661	0.888	－
ポータブルトイレ使用	1.098	0.946	1.273	
トイレ使用	1.688	1.508	1.889	＊
尿とりパッド使用	1.247	1.116	1.393	＊

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	58.7	Somer's D	0.182
不一致の割合	40.6	ガンマ	0.183
タイの割合	0.7		

資料6－3
ADL高群
16=ときどき漏らしてしまう

		(%)
あり	880	27.2
なし	2358	

オッズ比

	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	1.027	0.866	1.216	
聴力	1.005	0.885	1.140	
ADL	0.948	0.937	0.959	*
記憶	1.027	0.946	1.115	
見当識	1.061	0.877	1.283	
判断	0.885	0.713	1.099	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	0.970	0.905	1.040	
認識と動作	0.946	0.867	1.033	
感情表現	1.116	0.996	1.251	
変化への適応	1.027	0.875	1.204	
自発的行動	1.050	0.892	1.237	
活動意欲	0.887	0.742	1.061	
妄想	0.949	0.850	1.060	
不安	1.054	0.942	1.179	
幻覚	0.986	0.872	1.115	
不穏暴言	1.000	0.949	1.053	
反復的動作	1.128	1.008	1.262	*
おむつ使用	1.537	1.034	2.284	*
ポータブルトイレ使用	1.187	0.830	1.698	
トイレ使用	2.573	2.156	3.070	*
尿とりパッド使用	2.557	2.076	3.150	*

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	74.8	Somer's D	0.500
不一致の割合	24.9	ガンマ	0.501
タイの割合	0.3		

資料7－1
ADL低群
1=浴室に行くのを嫌がる

		(%)
あり	1198	16.2
なし	6190	

オッズ比		９５%信頼限界		
	点推定値	下限	上限	
視力	0.899	0.801	1.010	
聴力	1.195	1.081	1.320	＊
ADL	1.028	1.021	1.034	－
記憶	1.209	1.110	1.317	＊
見当識	1.096	0.918	1.309	
判断	1.083	0.896	1.309	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	0.954	0.911	0.998	－
認識と動作	0.955	0.898	1.015	
感情表現	0.901	0.822	0.987	－
変化への適応	1.489	1.321	1.679	＊
自発的行動	1.160	1.039	1.296	＊
活動意欲	1.159	1.007	1.335	＊
妄想	1.101	1.018	1.191	＊
不安	1.057	0.978	1.142	
幻覚	0.963	0.887	1.046	
不穏暴言	1.319	1.268	1.372	＊
反復的動作	1.232	1.142	1.329	＊
主に機械浴槽を使用	0.717	0.588	0.874	－
主に個別浴槽を使用	1.029	0.880	1.204	
主に大浴槽を使用	0.875	0.692	1.105	

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	76.3	Somer's D	0.529
不一致の割合	23.4	ガンマ	0.531
タイの割合	0.4		

資料7－2
ADL中群
1=浴室に行くのを嫌がる

		(%)
あり	1305	21.9
なし	4644	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.999	0.887	1.125	
聴力	1.077	0.978	1.187	
ADL	1.003	0.995	1.011	
記憶	1.215	1.132	1.303	＊
見当識	1.131	0.967	1.323	
判断	1.088	0.916	1.292	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.025	0.980	1.073	
認識と動作	0.887	0.835	0.941	－
感情表現	1.011	0.925	1.104	
変化への適応	1.361	1.203	1.540	＊
自発的行動	1.093	0.979	1.221	
活動意欲	1.295	1.131	1.484	＊
妄想	1.103	1.019	1.194	＊
不安	1.044	0.964	1.130	
幻覚	0.916	0.843	0.995	－
不穏暴言	1.245	1.198	1.293	＊
反復的動作	1.123	1.036	1.216	＊
主に機械浴槽を使用	1.169	0.802	1.704	
主に個別浴槽を使用	1.096	0.951	1.263	
主に大浴槽を使用	0.977	0.803	1.188	

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	69.2	Somer's D	0.388
不一致の割合	30.4	ガンマ	0.390
タイの割合	0.4		

資料7－3
ADL高群
1=浴室に行くのを嫌がる

		(%)
あり	558	17.2
なし	2680	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.786	0.639	0.966	－
聴力	1.057	0.916	1.220	
ADL	0.990	0.977	1.003	
記憶	1.190	1.081	1.309	＊
見当識	1.131	0.911	1.404	
判断	1.141	0.889	1.463	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.002	0.930	1.080	
認識と動作	0.965	0.877	1.061	
感情表現	1.038	0.908	1.186	
変化への適応	1.393	1.165	1.665	＊
自発的行動	1.067	0.891	1.277	
活動意欲	1.645	1.343	2.016	＊
妄想	1.012	0.895	1.144	
不安	0.919	0.812	1.039	
幻覚	0.928	0.814	1.059	
不穏暴言	1.154	1.089	1.222	＊
反復的動作	1.304	1.152	1.476	＊
主に機械浴槽を使用	0.698	0.085	5.708	
主に個別浴槽を使用	1.456	1.183	1.792	＊
主に大浴槽を使用	1.415	1.036	1.932	＊

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	71.7	Somer's D	0.438
不一致の割合	27.9	ガンマ	0.440
タイの割合	0.5		

資料8－1
ADL低群
3=浴室内で入浴行為を嫌がる

		(%)
あり	1130	15.3
なし	6258	

オッズ比		95%信頼限界		
	点推定値	下限	上限	
視力	0.912	0.809	1.028	
聴力	1.004	0.903	1.116	
ADL	1.010	1.004	1.016	－
記憶	1.368	1.236	1.515	＊
見当識	1.085	0.892	1.319	
判断	1.384	1.126	1.701	＊
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.046	0.998	1.096	
認識と動作	1.037	0.972	1.106	
感情表現	0.881	0.802	0.968	－
変化への適応	1.483	1.316	1.672	＊
自発的行動	0.970	0.866	1.085	
活動意欲	1.057	0.915	1.221	
妄想	1.037	0.957	1.123	
不安	1.045	0.965	1.133	
幻覚	1.021	0.939	1.111	
不穏暴言	1.427	1.370	1.486	＊
反復的動作	1.096	1.015	1.184	＊
主に機械浴槽を使用	0.970	0.798	1.180	
主に個別浴槽を使用	1.220	1.033	1.441	＊
主に大浴槽を使用	1.014	0.795	1.294	

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	77.3	Somer's D	0.549
不一致の割合	22.4	ガンマ	0.551
タイの割合	0.4		

資料8－2
ADL中群
3=浴室内で入浴行為を嫌がる

		(%)
あり	696	11.7
なし	5253	

オッズ比		95%信頼限界		
	点推定値	下限	上限	
視力	0.826	0.701	0.973	－
聴力	1.036	0.911	1.178	
ADL	0.996	0.986	1.006	
記憶	1.276	1.152	1.414	＊
見当識	1.170	0.946	1.448	
判断	1.456	1.160	1.827	＊
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.028	0.970	1.090	
認識と動作	0.917	0.847	0.992	－
感情表現	1.037	0.920	1.169	
変化への適応	1.530	1.303	1.796	＊
自発的行動	0.930	0.807	1.073	
活動意欲	1.306	1.101	1.550	＊
妄想	0.943	0.853	1.043	
不安	1.021	0.924	1.129	
幻覚	1.028	0.927	1.139	
不穏暴言	1.343	1.276	1.414	＊
反復的動作	1.148	1.035	1.272	＊
主に機械浴槽を使用	1.689	1.046	2.728	＊
主に個別浴槽を使用	1.378	1.141	1.666	＊
主に大浴槽を使用	1.385	1.083	1.771	＊

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	76.2	Somer's D	0.528
不一致の割合	23.3	ガンマ	0.531
タイの割合	0.5		

資料8－3
ADL高群
3=浴室内で入浴行為を嫌がる

		(%)
あり	156	4.8
なし	3082	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.793	0.542	1.160	
聴力	0.934	0.720	1.211	
ADL	0.985	0.962	1.007	
記憶	1.096	0.921	1.305	
見当識	1.242	0.852	1.810	
判断	1.097	0.722	1.667	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.093	0.971	1.230	
認識と動作	1.028	0.880	1.202	
感情表現	1.311	1.048	1.638	＊
変化への適応	1.457	1.069	1.986	＊
自発的行動	0.874	0.638	1.197	
活動意欲	1.288	0.919	1.806	
妄想	1.001	0.813	1.232	
不安	0.851	0.693	1.045	
幻覚	1.011	0.819	1.248	
不穏暴言	1.188	1.073	1.314	＊
反復的動作	1.207	0.975	1.494	
主に機械浴槽を使用	3.117	0.369	26.357	
主に個別浴槽を使用	1.572	1.100	2.248	＊
主に大浴槽を使用	1.389	0.814	2.371	

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	73.9	Somer's D	0.492
不一致の割合	24.8	ガンマ	0.498
タイの割合	1.3		

資料9－1
ADL低群
11=入浴の介助を拒絶する

		(%)
あり	968	13.1
なし	6420	

オッズ比

	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.900	0.791	1.023	
聴力	1.048	0.936	1.174	
ADL	1.000	0.993	1.007	
記憶	1.421	1.268	1.593	＊
見当識	1.275	1.027	1.582	＊
判断	1.147	0.919	1.433	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.060	1.008	1.115	＊
認識と動作	1.007	0.939	1.079	
感情表現	0.901	0.813	1.000	
変化への適応	1.457	1.281	1.657	＊
自発的行動	0.970	0.860	1.094	
活動意欲	1.104	0.946	1.289	
妄想	1.122	1.031	1.220	＊
不安	0.985	0.904	1.072	
幻覚	0.964	0.881	1.055	
不穏暴言	1.544	1.475	1.617	＊
反復的動作	1.114	1.027	1.208	＊
主に機械浴槽を使用	0.946	0.769	1.164	
主に個別浴槽を使用	1.115	0.931	1.335	
主に大浴槽を使用	1.136	0.880	1.466	

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	79.6	Somer's D	0.595
不一致の割合	20	ガンマ	0.597
タイの割合	0.4		

資料9－2
ADL中群
11=入浴の介助を拒絶する

		(%)
あり	627	10.5
なし	5322	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.969	0.821	1.144	
聴力	1.066	0.933	1.218	
ADL	0.998	0.987	1.009	
記憶	1.231	1.107	1.370	*
見当識	1.204	0.963	1.506	
判断	1.262	0.995	1.601	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.112	1.046	1.182	*
認識と動作	0.958	0.881	1.042	
感情表現	1.051	0.925	1.195	
変化への適応	1.374	1.161	1.626	*
自発的行動	0.931	0.801	1.082	
活動意欲	1.060	0.888	1.266	
妄想	1.071	0.965	1.188	
不安	0.978	0.881	1.086	
幻覚	0.960	0.862	1.069	
不穏暴言	1.386	1.311	1.465	*
反復的動作	1.181	1.061	1.316	*
主に機械浴槽を使用	1.076	0.606	1.911	
主に個別浴槽を使用	1.339	1.100	1.631	*
主に大浴槽を使用	1.328	1.028	1.717	*

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	77.2	Somer's D	0.548
不一致の割合	22.3	ガンマ	0.551
タイの割合	0.5		

資料9－3
ADL高群
11=入浴の介助を拒絶する

		(%)
あり	183	5.7
なし	3055	

オッズ比	点推定値	95%信頼限界 下限	上限	
視力	0.664	0.458	0.961	－
聴力	1.040	0.826	1.310	
ADL	0.998	0.978	1.019	
記憶	1.136	0.971	1.329	
見当識	1.115	0.787	1.579	
判断	0.964	0.650	1.430	
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	1.071	0.956	1.201	
認識と動作	1.046	0.901	1.214	
感情表現	1.056	0.844	1.323	
変化への適応	1.188	0.893	1.580	
自発的行動	0.726	0.541	0.974	－
活動意欲	1.965	1.422	2.716	＊
妄想	1.158	0.956	1.402	
不安	0.848	0.699	1.030	
幻覚	0.868	0.707	1.067	
不穏暴言	1.323	1.203	1.456	＊
反復的動作	1.046	0.860	1.272	
主に機械浴槽を使用	<0.001	<0.001	>999.999	
主に個別浴槽を使用	1.900	1.372	2.632	＊
主に大浴槽を使用	1.054	0.604	1.842	

予測確率と観測データの応答との関連性

一致の割合	74.5	Somer's D	0.501
不一致の割合	24.4	ガンマ	0.506
タイの割合	1		

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
分担研究報告書

認知症介護の成功事例分析に関する研究

研究分担者　阿部　哲也（認知症介護研究・研修仙台センター）
研究協力者　大久保　幸積（社会福祉法人幸清会）
波潟　幸敏（社会福祉法人さつき会　鷹栖さつき苑）
谷本　政美（社会福祉法人さつき会　鷹栖さつき苑）
益岡　賢示（有限会社プレム・ダン）
喜井　茂雅（有限会社スローライフ）
秋田谷　一（特別養護老人ホーム　祥光苑）
保坂　昌知（小樽やすらぎ荘）

本研究は、認知症高齢者の生活行為（食事、入浴、排泄）の課題に関する介護方法のモデルを整理し、認知症介護に関するケア評価指標開発の基礎資料とすることを目的とし食事、入浴、排泄に関する9つの課題場面について1場面906～907箇所の認知症介護共同生活介護事業所を地域、開設年数を考慮した2段抽出を行い、課題場面に対する解決方法及び有効情報に関する自記式質問紙の郵送調査を実施した。9種類の調査の平均回収数は270.8件（30.4%）であった。9課題共通のアセスメント視点は、心理・興味、環境、人間関係、声かけ、様子、習慣、体調、認知機能、病歴、排泄、水分状況であり、高齢者の心理を重視する傾向が顕著であった。解決方法は、高齢者の心理や認知機能、生活習慣、人間関係、体調に応じた声かけ、誘導方法の工夫、環境調整、活動の工夫や、食事、入浴に関する方法の工夫が実施される傾向が認められ、課題場面を解決するケアの組合せのモデルパターンが明らかとなった。今後は、これらの結果を踏まえ認知症介護の簡易自己評価表や教育への活用を意図したガイドライン作成への展開が望まれる。

A．研究目的

2003年に報告された高齢者介護研究会による「2015年の高齢者介護」報告によると、認知症ケアは今後の高齢者介護のモデルであり、認知症高齢者ケアの普遍化の必要性が謳われている。認知症ケアの普遍化にはケアの標準化が必要となり、そのためにも認知症高齢者が有する能力を活用しながら、主体的に生活を遂行できるような方法の開発や系統的なエビデンスの収集、そして評価の確立が早急に求められている。認知症介護の質の確保及び向上、又、専門家養成の観点からも認知症介護のモデル作成や評価ツールの開発は重要な課題である。

認知症介護の熟練者（以下エキスパート）は多くの認知症高齢者に対して効果的なケアを実施し、高齢者の安定した生活を実現してきている。このことは、認知症介護のエキスパートは多くの認知症高齢者への対応の経験によって、個々に応じた最良の方法を経験や体験の中から学び、個人の経験としてケアの一般化或いは法則化を行っていると考えられる。

昨今、知識工学や情報工学の分野、特に人工知能（ＡＩ）の分野においてエキスパートシステムが開発され注目をあびている。エキスパートシステムとは、特定の分野の専門知識を持ち、その分野に関して適切なアドバイスができるような、専門家の代わりをするコンピューターシステムの事を指す。専門家の知識や思考・判断過程を明らかにし、代用可能なシステムを構築し、専門家の代わりに推論や判断を行うことを目的とし、熟達した技術や知識を汎用化したり、効率的な問題解決の安定と自動化を容易にする手法と考えられる。認知症介護の標準化においても、エキスパートの知識や技術、判断過程、思考過程を明らかにし、有効な方法の手順を整理し、広く伝達、教育することが認知症介護の質の確保と向上には求められている。認知症介護における判断過程を推測すると、目の前の状況を認知し、状況の発生原因を推測しながら、推測される原因と関連した情報を収集、確認し、原因を特定し、原因を解決するための有効かつ効率的な方法を過去の経験パターンから検索し、試行し、失敗すれば原因の特定作業をやり直し、別の経験パターンから異なる方法を試行し、これらの過程を繰り返しながら課題の解決に至る事が予測される。つまり、適正なケアの実施には、状況の正確な認知と、課題や問題の原因特定のプロセスが重要であり、認知症介護エキスパートの原因特定手法を把握することが、認知症介護標準化には必要である。原因特定作業をケアマネジメント過程におけるアセスメントと捉えれば、認知症介護における原因特定とは認知症介護におけるアセスメントプロセスと捉えることができ、本研究では特にエキスパートのアセスメントモデルを整理することが目的である。

標準化あるいは、モデル抽出すべき認知症高齢者の生活課題について、本研究では早急に取り組むべき課題として、生活の基本的な行為である食事・入浴・排泄に関する課題に焦点をあてる事が必要であると考えている。

本研究は認知症高齢者の基本的な生活行為の内、食事・入浴・排泄に関する課題を解決するようなケアモデルを明らかにすることを目的としている。

Ｂ．研究方法

１．調査対象者

全国の認知症対応型共同生活介護事業所9,065箇所（平成20年11月現在、独立行政法人福祉医療機構における介護保険指定事業所登録一覧を参照）を対象とし、開設期間や、地域による影響を考慮し、開設年数、地域分布が均等に抽出されるよう2段抽出を実施し、食事過剰事例調査907件、食事拒否事例調査907件、食事中断事例調査907件、清拭拒否事例調査906件、洗髪拒否事例調査906件、入浴拒否事例調査906件、排泄誘導拒否

事例調査906件、排泄介護拒否事例調査907件、放尿事例調査907件の事業所を対象とした。記入者は、過去に指定の課題事例を解決した経験を持つ介護職員1名を対象とし、経験、年齢、資格等は問わず、現在、介護職であり直近に解決事例を体験していることを条件とした。

２．調査方法

調査方法は、食事に関する3課題（食事過剰要求、食事拒否、食事中断）、入浴に関する3課題（清拭拒否、洗髪拒否、入浴拒否）、排泄に関する3課題（排泄誘導拒否、排泄介護拒否、放尿）の計9課題に関する架空事例を作成し、課題事例に近似した事例について課題を解決した際のすべての方法および、その際の着目点や有効情報について、自記式の選択複数回答による質問紙を作成し、郵送にて回答を依頼した。

１）調査内容

（1）回答者基本属性

回答者の基本属性は、「年齢」、「性別」、「職名」、「役職」、「資格」、「所属事業種」、「勤続年数」、「総介護経験年数」について、選択肢を設けた。

（2）対象事例属性

指定した生活課題を解決した事例における該当高齢者の属性について、「年齢」、「性別」、「認知症の原因疾患」、「身体機能とADL」、「認知症の重症度（厚生労働省　認知症老人の日常生活自立度判定基準）」、「身体障害の重症度（厚生労働省　障害老人の日常生活自立度判定基準）」について、選択肢を設けた。

（3）事例の作成

本研究における調査は、認知症高齢者の日常生活上に生起する課題について、課題を解決した先例から対応および視点を抽出し、認知症介護のケアおよびアセスメントのモデル作成が目的となる為、食事、入浴、排泄時に頻繁に生起しやすい課題となる認知症高齢者の行動を選択抽出し、調査用の提示事例を作成した。事例の場面設定について、食事、入浴、排泄場面を採用した理由は、1つに、我々が実施した平成１８年度研究の結果から生活支援における介護頻度や介護量が最も多く、認知症高齢者の生活安定を目指したケアの中心的場面である事、2つめに、認知症高齢者の生活課題に関する先行研究や認知症高齢者の介護困難場面に関する先行研究を勘案し、介護困難度、出現頻度が高く、認知症高齢者に特有な課題として、食事行為について3つ、入浴行為について3つ、排泄行為について3つの状況を選出し、研究者によって事例を作成した。よって、課題解決の判断が明確な課題を設定する必要があり、その点において、食事、入浴、排泄行為は、栄養摂取や生命維持、清潔保持、衛生管理といった正常状態の共通認識が図りやすく、課題解消後の状態判断が客観的である。事例の作成にあたっては、ケアおよび視点のモデル抽出を目的としており、回答の自由度を高めるため、事例の汎用性を考慮し、事例情報を極力最少にした。

①食事に関する課題事例

・食事過剰要求事例

「○○さんは、自分の食事が終わっても、他人の食事を取って食べたり、食べるものを要求してきます」

・食事拒否事例

「○○さんは、食事に誘っても、食べたくないと食事を食べたがりません」

・食事中断事例

「○○さんは、食事中に、急に食事をやめてしまい全く何にも手をつけなくなってしまいました」

②入浴に関する課題事例

・清拭拒否事例

「○○さんは、入浴が嫌いなため、清拭をしようとすると、嫌がり、何日も清拭できていません」

・洗髪拒否事例

「○○さんは、入浴時、洗髪を嫌がり、1週間以上洗髪していません」

・入浴拒否事例

「○○さんは、入浴に誘うといつも入浴を嫌がり、何日もお風呂に入っていません」

③排泄に関する課題事例

・排泄誘導拒否事例

「○○さんは、失禁が多くなってきたので、トイレに行くよう促すと、嫌がって、抵抗します」

・排泄介護拒否事例

「○○さんは、おむつにおしっこをしたまま何時間も経っているので、交換しようとすると、抵抗し、交換ができません」

・放尿事例

「○○さんは、廊下の端や、庭の隅っこなどトイレ以外のところであちこちにおしっこをしてしまいます」

（4）質問項目

①　解決前後における状況

本研究の調査において設定される生活課題は食事、入浴、排泄といった安定した生活を遂行する上で最も基本的な生活行為である。これらの行為の円滑な遂行は生命維持や健康維持だけでなく社会生活を充実したものにするための絶対必要条件である。つまり、認知症によって遂行不可能な状況が生じた場合、できるだけ自らが主体的にこれらの行為を遂行できることが望ましいと考えられる。よって、本研究においては、課題の解決による成功事例とは、何らかの関わりや取り

組みによって、課題の頻度が減少し、自ら当該行為を円滑に遂行可能となるような状況に至った、意図的な方法とし、なお、その際の自らとは、支援者による直接支援ではなく、間接的な支援を伴う場合も含んだこととした。よって、具体的には、何らかの見守りも伴った状態も含み、食事や入浴や排泄が、本人の能動行為によって遂行可能となったような状態か、あるいは、遂行困難な頻度が明らかに減少し、遂行頻度がその頻度を超えて増加したときとみなすことにした。それらの設定を踏まえて、解決前と解決後の当該行為に関する状況について、選択肢を作成した。なお、その他および自由記述欄を設け、複数回答とした。

② 解決方法

課題事例を解決した際の方法について、先行研究及び事前の予備調査を踏まえ研究者2名によって選択肢を作成した。選択肢における方法の表現はできるだけ具体的な方法を表記することに心がけた。本研究の目的としてケアのモデル作成と同時に、ケアの参考となるような具体的な行動のモデル提示が必要なため、詳細で具体的な方法を収集することが重要であり、選択肢の表現もより具体的な表記にした。しかし、選択肢が具体的であればあるほど該当件数が減少することが予測され、すべての選択肢を作成することは膨大な量となりむしろ選択法を採用する理由が曖昧になるため、その他として自由記述の欄を多く設定し、分析時に分類作業の過程において要約を検討することとした。

選択数は、過去直近の課題解決事例において採用された方法すべてであり、順序、頻度等は除外した。

③有効情報

課題の解決に至った方法ごとに、役立った情報及び重要な情報や視点について選択肢を作成し、5つ以内選択してもらった。情報に関する選択肢については、我々が実施した平成19年度研究「認知症ケアにおけるアセスメントモデルの構築に関する研究」による結果を参考に、認知症介護のエキスパートによるアセスメント視点を採用した。

2）調査期間

調査実施期間は、平成20年11月～12月を調査期間とした。

3．分析方法

1）基本属性

回答者の基本属性及び対象事例に関するデータ処理について、連続量については平均値、最小値、最大値、標準偏差を算出し、離散量については、選択項目ごとの度数及び割合を算出し、比較検討を行い集団の特性把握を実施した。

対象高齢者の性別、ADL状況、認知症の重症度、身体障害重症度によって対象集団内に複数の異質なグループが認められるかを検証するため、それらの回答データに応じたグループ分類を目的とした潜在クラス分析を実施した。潜在クラス分析は、

全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルであり、たとえば、高齢者全体集団でみたとき、性別、ADL、認知症の重症度、身体障害の重症度の4項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団（これをクラスと呼ぶ）を識別する。

２）課題事例に対する解決方法

解決方法については、選択項目ごとに度数及び割合を算出した。その他における自由記述データについては、研究者2名にて意味の類似している項目同志をまとめて分類を実施し、分類後の一致率を算出した。分類の基準は、ケアのモデル項目として活用することを前提としているため、可能な限り項目を要約せず詳細な記述のまま分類を行うために分類範囲を狭く設定し分類後の項目数が多くなることも考慮に入れて分類を行った。自由記述部分に関する回答の分類については、あらかじめ設定したケアコードに従い分類し、追加コードを追加した。分類の一致率は、食事過剰課題が87.6%、食事拒否課題85.4%、食事中断課題82.2%、清拭拒否課題が80.6%、洗髪拒否課題が74.3%、入浴拒否課題が95.8%、排泄誘導拒否課題が86.6%、排泄介護拒否課題が86.5%、放尿課題が97.6%であった（表２－１－３－１～表２－１－３－９参照）

集計については、分類コードごとの選択度数を算出し、全事例数に占める方法の採用件数及び割合を検討し、全体傾向を把握した。

３）解決方法に役立った情報

有効情報については、選択あるいは回答された方法ごとに、複数回答にて選択されているため、延べ方法件数あたりの選択度数と割合を、分類コード毎に算出した。

４）解決方法に役立った情報の選択パターン分析

本研究の目的である、課題解決時のアセスメントモデルの抽出において、有効情報の選択組み合わせを明らかにするため、有効情報に関する複数回答の傾向について、近似した選択パターンを抽出し、有効情報の選択傾向による分類について潜在クラス分析を実施した。なお、分類モデルの妥当性を評価する上では情報量基準を採用する事が慣例であるが、本研究では、モデルの要約を第一目的とせず、分類クラス数が多くモデルが複雑であっても各クラスごとの特徴を明確化するため情報量基準ではなく、分類制度情報を総合的に評価してクラスの独立性を尊重した。

５）有効情報の選択パターンと解決方法組み合わせパターンの関連

本研究の最終目的は、認知症高齢者の生活課題を解消しうるケアとアセスメント視点のモデル作成である。よって、課題解決に至る解決方法についても単独ではなく、幾つかの複数の方法が組み合わされて解決に至っているという仮定に基づいているため、回答された複数の解決方法の組み合わせに何らかの一定の傾向があるかどうかを検証し、さらに、それらの解決方法の組み合わせと、アセスメント視点の組み合わせに関連があるかを検討するため、クラス分類された有効情報の組み合わ

せクラス毎に、実施された解決方法の実施率を算出し、実施率の高い方法の組み合わせを明らかにした。

（倫理面への配慮）

本研究では、研究協力者である介護職員及び一部個人情報を必要とする認知症高齢者或いはその代理者に対して、個人情報の取り扱いや人権擁護に配慮し、十分なインフォームドコンセントを保証することを最優先し、研究等によって被ることが予測される不利益について説明文書および同意文書をそれぞれ作成し、十分な説明をし文書にて同意を得ることとしている。尚、研究者所属機関における定例の研究倫理審査委員会にて研究方法における倫理審査を行い倫理上の承認を得る事を義務づけている。

表2－1－3－1　食事過剰要求課題における解決方法コード表

大分類	分類コード	分類名
食事環境の調整	101	隣の席から離れる
	102	席の変更
	104	仲の良い人の隣に座った
	105	テーブル、椅子の調整
	106	好きな音楽を流す
	190	その他
食事の工夫	201	低カロリーにして大盛りにした
	202	カロリーを考慮し、好きなおかず数を増加
	203	摂取状態に応じた食材形態変更
	204	おやつや代替え品を提供
	206	水分の摂取を増やす
	207	低カロリーの間食や夜食の提供
	208	食器を小さくし、おかわりを増やす、食事数を増やす
	209	スプーンを小さくする
	210	配膳、下膳のタイミングを調整した
	211	盛りつけの工夫
	212	好きなものを提供
	215	食事時間の調整
	290	その他
声かけや会話の工夫	301	スタッフが一緒に食事をとる
	302	訴えを受容し、会話を多くする
	303	待ってねと声かけ
	304	別の場所へ移動し会話する
	305	味の感想を伺う
	306	食事以外の話をする
	308	着席のタイミングを調整した
	309	声かけをやめ、静かにする
	310	食事時間の確認や説明を丁寧にする
	390	その他
活動の工夫	401	食後のレクリエーション活動への誘導
	402	外出
	403	興味のあるものを提供
	404	計算ドリル
	405	役割
	407	配膳、下膳を手伝ってもらう
	408	買い物につきあってもらう
	409	食事の準備や調理、片づけに参加してもらう
	490	その他
その他	501	献立の掲示や説明
	503	体重の管理
	506	食べ物を視野から取り除く
	590	その他

＊　分類調整の結果、内容の重複によりコードの結合を実施したため、欠番コードが存在する

表2－1－3－2　食事拒否課題における解決方法コード表

大分類	分類コード	分類名
環境調整	101	少人数席に変更
	102	広い場所から小さい場所へ変更
	103	好きな場所で食事を取る
	104	花等をテーブルに置き、落ち着く環境
	105	食事メンバー
	107	席位置の変更
	108	静かな環境を調整
	190	その他
声かけの工夫	201	本人ペースで声かけ
	202	声かけの内容を工夫
	203	作業の流れで声かけ
	204	食事前からこまめに声かけ
	205	声かけをせず、職員が一緒に
	211	好きな話題で声かけ
	212	家族の話題
	216	仲の良い人が声かけ
	217	声かけ、会話量の増加
誘導の工夫	226	配膳をしてもらう
	227	調理を手伝う
	228	おしぼりを渡す
	229	食事前にお茶を提供
	230	食事内容、献立の説明
	238	誘導時間の調整
	290	その他
食事の工夫	301	食べやすいよう、盛りつけを工夫
	302	カロリーを考慮し、おやつを提供
	303	水分摂取量を増やした
	304	外出時、外食に誘導
	305	一緒に買い物に行き、好きなメニューにする
	306	好きな食べ物を見せる
	307	好きな献立にする
	308	食事時間の調整
	309	職員と一緒に食事
	310	最初だけ介助
	312	食器の工夫
	313	食材の形態、色等の工夫
	314	食事回数の調整
	333	量を減らす
	390	その他
生活のリズム	401	活動量を増やす
	402	生活のリズム調整
	403	静かな、落ち着いた環境をつくり、静養
	404	ぐっすり眠ってもらうようにした
	405	一端、休憩
	406	発声練習
	409	趣味活動を実施
	410	コミュニケーションをふやす
	490	その他
その他	502	受容し、安心してもらった
	503	義歯調整
	504	医療的対応
	506	排便調整
	507	服薬の調整
	508	疼痛管理
	590	その他

＊　分類調整の結果、内容の重複によりコードの結合を実施したため、欠番コードが存在する

表2－1－3－3　食事中断課題における解決方法コード表

大分類	分類コード	分類名
声かけの工夫	101	急かさず、声かけの繰り返し
	102	本人の気持ちの確認、質問
	103	ペースを尊重し、食事の促し
	104	好きな話題を提供
	106	仲の良い利用者からの誘い
	107	その他
誘導の工夫	201	促さず、見守る
	202	食事の認識を促す
	203	家族の名前を出して誘導する
	205	外食に誘う
	206	食事を一端止め、待つ
	207	食事準備に参加してもらう
	208	嗅覚を刺激する
メンバー調整	301	仲の良い人と食べる
	302	ペースが一緒の利用者と
	303	職員と一緒に
	305	他者と離れて、一人で
食事の工夫	401	食器の大きさを変えた
	402	好みのものにする
	403	食物の形態を変更
	405	おやつ、間食
	406	高カロリー食で量を増やす
	407	食器を毎日変える
	408	食器の柄や色を変える
	409	食器の形や材質変更
	410	過去の食事スタイル
	411	食事の盛り方の工夫
	412	食品数の調整
	413	食品の配置の工夫
	414	その他
食事環境調整	501	好きな場所で
	502	食べる場所を選択できるようにする
	504	スタッフの通る場所をさける
	506	花柄のカーテンなど飾る
	507	テーブルに花を置く
	509	静かな環境で
	510	周囲に物を置かず、集中できるようにする
	511	姿勢を整える
	512	イス、テーブルの高さ調整
	513	好きな音楽をかける
その他	601	義歯の調整
	602	食事に関する思い出を家族から聞く
	603	食事前の活動を促す
	604	食事前にトイレへ誘導
	605	ほほマッサージ
	606	食事介助
	607	生活のリズム調整
	608	排泄の調整

＊　分類調整の結果、内容の重複によりコードの結合を実施したため、欠番コードが存在する

表2－1－3－4　　清拭拒否課題における解決方法コード表

大分類	分類コード	分類名
清拭方法の工夫	101	暖かいタオルを渡し自分で
	102	部分から開始
	103	トイレ時に実施
	104	清拭時間を本人のペースで
	105	気持ちをくつろがせる
	190	その他
誘導の工夫	201	家族からの依頼
	202	内科受診のため
	203	薬を塗るため
	204	清潔、血行など効果を説明
	205	他者から誘導
	206	介助者と一緒に
	208	入浴前に散歩する
	209	医者の指示と伝える
	290	その他
声かけの工夫	301	声かけの態度の工夫
	302	声かけを簡単に
	303	お礼やねぎらいを
	304	本人のペースで声かけ
	305	好きな話題をしながら
	306	温泉に誘う
	390	その他
清拭環境の調整	401	温度調節
	402	清拭布の温度
	403	清拭場所の調整
	404	1人で
	490	その他
介助者の工夫	501	信頼関係が出来ている介助者
	502	複数のスタッフ
	503	家族の協力
	590	その他
その他	601	コンプレックスを確認
	690	その他

＊　分類調整の結果、内容の重複によりコードの結合を実施したため、欠番コードが存在する

表2－1－3－5　　洗髪拒否課題における解決方法コード表

大分類	分類コード	分類名
洗髪方法の工夫	101	顔に湯がかからない工夫
	102	一部分から
	104	湯船につかったり、洗身してから
	105	不安を除きながら
	106	洗髪後の手入れを行う
	107	髪を染めるため
	109	介助者が一緒に
	110	自分の方法で、任せる
	112	湯舟の中で
	113	洗身と続けて
	114	素早く行う
	115	洗髪時間の調整
	116	湯おけ、手ぬぐい等の工夫
	190	その他
声かけ・誘導の工夫	201	声かけの態度を工夫
	202	単純な声かけ
	203	お礼やねぎらい
	205	家族からの依頼
	206	歌をうたいながら
	207	好きな話題で会話しながら
	208	仲の良い人から誘導
	209	入浴という言葉を避けた誘導
	290	その他
洗髪環境の調整	301	好きなシャンプー、リンスを使用
	302	浴室温度調整
	303	湯温調整
	390	その他
介助者の工夫	401	仲の良い人と一緒に入浴
	402	1人で
	403	家族と
	404	介助者の工夫
	405	複数のスタッフ
	490	その他
その他	501	洗髪の効能を説明
	502	コンプレックスを確認
	504	信頼関係の構築
	505	医者の指示
	590	その他

＊　分類調整の結果、内容の重複によりコードの結合を実施したため、欠番コードが存在する

表２－１－３－６　　入浴拒否課題における解決方法コード表

大分類	分類コード	分類名
入浴時間の調整	101	過去の入浴時間
	102	本人の状態に応じた時間
入浴前の工夫	201	運動の実施
	202	入浴前コミュニケーション
	203	入浴前のくつろぎ
	204	空腹を満たす
	205	趣味活動を実施した
	206	家族から入浴情報を得る
誘導の工夫	301	暖まるからと声かけ
	302	トイレ誘導時に一緒に
	303	本人の状態に応じた
	304	一緒に入りましょうと誘導
	305	繰り返し誘導
	306	薬を塗るため、医師の指示
	307	浴室へ誘導し認識を促す
	308	呼んでいると誘導
	309	一緒に行って誘導
	310	家族の面会・依頼
	311	他者から誘導
	312	直前に誘導、一番風呂を提示
	313	受診のため
	314	体重測定のため
	315	身だしなみの重要性
	316	予約、約束
	317	わかりやすい声かけ
	319	しつこく誘わない
	320	下着が汚れているため
	390	その他
入浴方法の工夫	401	目や耳などを保護
	402	身体の一部から
	403	段階的な誘導
	404	入浴中のコミュニケーションを増やす
	405	笑顔でゆっくり
	406	お礼やねぎらい
	407	湯桶の使用
	408	徐々にお湯をかける
	409	見守りながら本人の自由に
	411	シャワーのみ
	490	その他
入浴メンバーの調整	501	家族と一緒に
	502	仲の良い人と一緒に
	503	一人で
	504	職員と一緒に
	590	その他
入浴環境の調整	601	入浴習慣を取り入れる
	602	浴室室温を調整
	603	湯温の調整
	604	入浴剤や風呂備品の工夫
	605	銭湯や温泉
	606	清潔の徹底
	607	安全な環境づくり
	609	明るさの調整
	610	わかりやすい環境
	611	音楽をかける
介助者の調整	701	同性介護
	702	信頼関係のあるスタッフ
	703	複数のスタッフ
	704	スタッフを分けた
	705	介助者の服装の工夫
その他	801	コンプレックスの確認
	802	下着の汚れが見られないように
	803	医師へ相談
	804	拒否の理由伺う
	890	その他

＊　分類調整の結果、内容の重複によりコードの結合を実施したため、欠番コードが存在する

表2－1－3－7　　排泄介護拒否課題における解決方法コード表

大分類	分類コード	分類名
声かけの工夫	101	トイレの言葉禁止
	102	薬の塗布
	103	トイレに誘う
	104	排泄パターンに応じ
	105	本人だけに声かけ
	106	時間を置き繰り返す
	107	衛生・疾病に関する説明
	109	家族からの誘導
	111	全員に声かけ
	112	職員と一緒にトイレへ
	113	好きな話題で声かけ
	114	検査のため
	116	衛生状態の確認
	118	笑顔でやさしく
	190	その他
介助方法の工夫	201	トイレ時の下着交換
	202	事前に確認
	203	着替えの流れ
	204	交換後の処理をすばやく
	205	説明し、自分で
	206	すばやく
	207	室温、毛布等の工夫
	209	好きな話題で会話しながら
	210	洗濯の勧め
	211	定時交換
	212	気分の良い時に
	290	その他
介助者の工夫	301	信頼関係のある職員が
	302	ケア方法の統一
	303	介助者の変更
	390	その他
環境調整	401	安心できる場所で
	405	パッド、下着の保管方法
	490	その他
その他	502	医師からの指示
	503	家族の面会を増やす
	590	その他

＊　分類調整の結果、内容の重複によりコードの結合を実施したため、欠番コードが存在する

表2－1－3－8　　排泄誘導拒否場面における解決方法コード表

大分類	分類コード	分類名
誘導時間	101	排泄パターンに応じ
	102	定時声かけ
誘導の工夫	201	本人の行動・状態に応じて
	202	トイレ以外の理由で誘導
	203	会話をしながら
	204	他者と一緒に
	205	職員と一緒に
	206	慣れた言葉
	207	本人だけに
	208	トイレという言葉を使用しない
	209	移動時
	210	説明と納得
	211	着替えの促し
	213	気分の良いときに
	214	外出してから
	215	家族による説明・誘導
	216	トイレを見せ認識を促す
介助の工夫	301	おしりの状態をみる
	302	すばやく
	303	パッドをすばやく片付ける
	305	見守り、外でまつ
	306	極力本人で、部分介助
	308	静かなところで介助
	310	介助者の性別考慮
	390	その他
コミュニケーション	401	賞賛、ほめる
	402	トイレ備品の使用について声かけ
	403	お金の心配払拭
	404	衛生・疾病の説明
	405	パッド交換は職員で
	407	好きな話題で
	408	やさしく、笑顔で
	409	本人の思いを傾聴する
	410	わかりやすく伝える
	411	慰め
	412	日頃のコミュニケーション量増やす
	413	信頼関係の構築
	490	その他
その他	501	トイレ表示の工夫
	502	排泄用具の代替
	590	その他

＊　分類調整の結果、内容の重複によりコードの結合を実施したため、欠番コードが存在する

表２－１－３－９　　放尿場面における解決方法コード表

大分類	分類コード	分類名
誘導の工夫	101	排尿パターンに応じ
	102	誘導回数を増やす
	103	状態に応じた
	104	トイレが見えるよう
	105	トレイに誘導する
	107	本人だけにそっと
	108	同性誘導
	190	その他
環境調整	201	ポータブルトイレ
	202	トイレの位置調整
	204	夜間照明
	205	トイレ表示の工夫
	208	目の届く居室や環境
	209	排尿器の変更
	290	その他
その他	301	薬調整、受診
	302	繰り返し説明
	303	放尿箇所の工夫
	304	放尿場所の遮断
	305	オムツパッドへの変更
	307	活動量の増加
	308	受容、会話増加
	390	その他

＊　分類調整の結果、内容の重複によりコードの結合を実施したため、欠番コードが存在する

Ｃ．研究結果

１．食事過剰要求への成功事例調査

１）回答者属性

本調査の回答 206 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

（１）年齢

有効回答 199 件における回答者の平均年齢は、41.2 歳（SD11.3 歳）で最少年齢が 22 歳、最高年齢が 66 歳であった。その分布をみると、30 歳～39 歳（36.2%）が最も多い。（表２－２－１－１参照）

（２）性別割合

有効回答 202 件中、回答者の性別割合は男性が 46 件（22.8%）、女性が 156 件（77.2%）と女性の割合が多かった。（表２－２－１－２参照）

（３）職名の割合

有効回答 190 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 66 件（34.7%）、ケアマネージャーが 51 件（26.8%）、相談員が 10 件（5.3%）、看護師が 9 件（4.7%）となっている。（表２－２－１－３参照）

（４）役職の割合

有効回答 195 件中、回答者の役職の割合は管理者が 80 件（41.0%）、主任・リーダーが 44 件（22.6%）、施設長が 9 件（4.6%）、事務長が 1 件（0.5%）で、66 件（33.8%）が役職なしであった。（表２－２－１－４参照）

（５）資格の所有割合

有効回答 201 件中、回答者の資格の所有割合は介護福祉士が 121 件（60.2%）、ヘルパーが 83 件（41.3%）、ケアマネージャーが 69 件（34.3%）、看護師（准看護師）が 15 件（7.5%）、社会福祉士が 7 件（3.5%）であった。（表２－２－１－５参照）

（６）所属事業種の割合

有効回答 203 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 188 件（92.6%）、介護老人福祉施設（ユニット型）が 3 件（1.5%）、介護老人福祉施設が 2 件（1.0%）、小規模多機能型通所介護事業が 1 件（0.5%）であった。（表２－２－１－６参照）

（７）所属事業所での勤続年数

有効回答 205 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.3 年（SD3.4 年）で最少が 0.2 年、最高が 21.5 年であった。（表２－２－１－７参照）

（８）総介護経験年数

有効回答 196 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、8.7 年（SD5.3 年）で最少が 0.6 年、最高が 33.7 年であった。（表２－２－１－８参照）

２）食事過剰要求場面の解決経験

本調査に回答を得た 206 件における食事過剰要求場面の解決経験、解決した高齢者に関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とＡＤＬ、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

（１）解決経験の有無

有効回答 194 件中、食事過剰要求場面で解決経験があるのは 160 件（82.5%）であった。（表２－２－２－１参照）

（２）高齢者の状態

①　年齢

解決経験がある 160 件のうち有効回答 149 件における高齢者の平均年齢は、83.2 歳（SD6.9 歳）で最少年齢が 60 歳、最高年齢が 100 歳であった。その分布をみると、85 歳～89 歳が 58 件（38.9%）で最も多い。（表２－２－２－２参照）

②　性別

性別割合は、有効回答 157 件中、男性が 35 件（22.3%）、女性が 122 件（77.7%）と女性が多い。（表２－２－２－３参照）

③　認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 147 件中、アルツハイマー型が 85 件（57.8%）、脳血管疾患型が 39 件（26.5%）、前頭側頭型が 4 件（2.7%）、混合が 8 件（5.4%）であった。（表２－２－２－４参照）

④　身体機能の障害とＡＤＬ

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 160 件中、下肢が 45 件（28.1%）、上肢が 2 件（1.3%）であり、残りの 113 件（70.6%）が機能障害なし（＝無回答）であった。（表２－２－２－５参照）

【食事介助】

食事介助は、有効回答 158 件中、自立が 112 件（70.9%）、一部介助が 43 件（27.2%）、全介助が 3 件（1.9%）であった。（表２－２－２－６参照）

【移動】

移動は、有効回答 124 件中、短距離歩行自立が 66 件（53.2%）、長距離歩行自立が 44 件（35.5%）、杖自立が 13 件（10.5%）であった。（表２－２－２－７参照）

【排泄】

排泄は、有効回答 143 件中、身体介助必要が 82 件（57.3%）、身体介助必要なしが 61 件（42.7%）であった。（表２－２－２－８参照）

【入浴】

入浴は、有効回答 151 件中、洗身洗髪介助が 53 件（35.1%）、移動介助が 19

件（12.6%）、全介助が 31 件（20.5%）、その他一部介助が 38 件（25.2%）で、自立が 10 件（6.6%）であった。（表２－２－２－９参照）

⑤　認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 159 件中、ランクⅠが 11 件（6.9%）、ランクⅡが 38 件（23.9%）、ランクⅢが 53 件（33.3%）、ランクⅣが 51 件（32.1%）、ランクⅤが 6 件（3.8%）であった。（表２－２－２－１０参照）

⑥　身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 154 件中、Ｊランクが 17 件（11.0%）、Ａランクが 105 件（68.2%）、Ｂランクが 28 件（18.2%）、Ｃランクが 4 件（2.6%）であった。（表２－２－２－１１参照）

⑦　高齢者パターン

性別、食事介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析（注 1）を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、食事介助がほぼ自立（95.0%）、身体障害の重症度でＡランク（84.6%）がほとんどで、認知症の重症度でランクⅡ（35.0%）、ランクⅢ（30.1%）の中程度が多いことから、これを「自立、中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 131 件のうち 86 件（65.6%）が該当する。

第 2 パターンは、食事介助で一部介助（59.0%）が多く、身体障害の重症度でＢランク（53.9%）とＡランク（34.3%）が多く、認知症の重症度でランクⅣ（54.4%）とランクⅢ（29.1%）が多いことから、これを「一部介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 45 件（34.4%）が該当する。（表２－２－２－１２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－２－２－１３参照）

（注 1）潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、食事介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団（これをクラスと呼ぶ）を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル（クラス数）を評価する指標としてＡＩＣやＢＩＣなどの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である（注 2 参照）。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

3）解決前と解決後の変化

食事過剰要求場面で解決経験がある 160 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出するとともに、解決前後の関連を分析し、高齢者パターンによる差異を確認した。

（1）解決前の状況

食事過剰要求場面が解決される前の状況としては、有効回答 157 件中、「自分の食事が終わっても、何か食べるものは無いか要求したり、落ち着かなかった」が 69 件(43.9%)、「食事を終えても、何も食べていないと怒っていた」が 57 件(36.3%)、「自分の食事が終わっても他の人の食事を取って食べてしまう」が 48 件(30.6%)、「近くにあるものを口に入れようとしたり、かじったりすることが度々みられた」が 30 件（19.1%)、「自分の食事を早く食べてしまい、残っているお膳をさがし、次々と食べてしまっていた」が 17 件（10.8%）であった。(表２－２－３－１参照)

（2）解決後の状況

食事過剰要求場面が解決された後の状況としては、有効回答 155 件中、「自分の食事で満足するようになった」が 45 件（29.0%)、「食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった」が 32 件（20.6%)、「要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった」が 30 件（19.4%)、「食べ物の要求は無くなってきた」が 25 件（16.1%)、「食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった」が 24 件（15.5%)、「食事の時間まで待てるようになった」が 17 件（11.0%）であった。(表２－２－３－２参照)

（3）解決前後の関連

解決前後それぞれの項目重複による影響排除のために、パターン化を経て分析することにした。

① 解決前と解決後のパターン

パターン化に用いた方法は潜在クラス分析である。

解決前は 5 パターンであり、第 1 は、「自分の食事が終わっても、何か食べるものは無いか要求したり、落ち着かなかった」(99.5%）に加えて「食事を終えても、何も食べていないと怒っていた」(42.5%）や「自分の食事が終わっても他の人の食事を取って食べてしまう」(24.1%）を伴ったパターンである。

第 2 は、「食事を終えても、何も食べていないと怒っていた」(99.5%）にほぼ特化したパターンである。

第 3 は、「自分の食事が終わっても他の人の食事を取って食べてしまう」(99.0%）に加えて「近くにあるものを口に入れようとしたり、かじったりすることが度々みられた」(19.0%）を多少伴ったパターンである。

第 4 は、「自分の食事を早く食べてしまい、残っているお膳をさがし、次々と食べてしまっていた」(96.7%）に加えて「自分の食事が終わっても、何か食べ

るものは無いか要求したり、落ち着かなかった」(33.7%)、「自分の食事が終わっても他の人の食事を取って食べてしまう」(33.4%)、「近くにあるものを口に入れようとしたり、かじったりすることが度々みられた」(33.2%)、「食事を終えても、何も食べていないと怒っていた」(13.7%) など多様な状況を伴ったパターンである。

第5は、「近くにあるものを口に入れようとしたり、かじったりすることが度々みられた」(98.1%) に加えて「自分の食事が終わっても、何か食べるものは無いか要求したり、落ち着かなかった」(9.8%) や「自分の食事が終わっても他の人の食事を取って食べてしまう」(7.0%) を多少伴ったパターンである。(表２－２－３－３参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－２－３－４参照)

解決後は6パターンであり、第1は、「自分の食事で満足するようになった」(99.4%) に加えて「要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった」(11.7%) をやや伴うパターンである。

第2は、「食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった」(99.4%) にほぼ特化したパターンである。

第3は、「要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった」(99.3%) にほぼ特化したパターンである。

第4は、「食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった」(98.8%) に加えて「食事の時間まで待てるようになった」、「食べ物の要求は無くなってきた」、「食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった」、「自分の食事で満足するようになった」(各15.0%) などを多少伴ったパターンである。

第5は、「食べ物の要求は無くなってきた」(98.9%) に加えて「自分の食事で満足するようになった」(12.1%) をやや伴うパターンである。

第6は、「食事の時間まで待てるようになった」(97.9%) に加えて「自分の食事で満足するようになった」(9.1%) や「食べ物の要求は無くなってきた」(7.1%) をやや伴うパターンである。(表２－２－３－５参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－２－３－６参照)

② 解決前後のパターンの関連

潜在クラス分析では各クラスへの帰属関係を確率的に表す。これを帰属確率と呼び、各帰属確率の相関によって解決前後の関連を知ることができる。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では2つのパターンで関連がみられる。1つ目は、解決前パターン3 (食後に他人の食事を取って食べていた) が、解決後パターン2 (人のお膳を食べまわらなくなった) へと変化する傾向にある。2つめは、解決前パターン4 (食

後も残っているお膳を探し食べまわっていた）が、解決後パターン４（食べ物の要求までの時間間隔が長くなった）へと変化する傾向にある。この 2 つの相関係数はともに有意水準 5%であった。（表２－２－３－７参照）

次に高齢者パターン１（自立、中程度重症度）に限定してみると、上記２つの相関ともに認められない。（表２－２－３－８参照）

高齢者パターン 2（一部介助、中高程度重症度）に限定してみると、上記 2 つの傾向がみられることから、上記の傾向は高齢者パターンに影響されていることがわかる。（表２－２－３－９参照）

（４）高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した（注 2）。

解決前の状況については、高齢者パターン１（自立、中程度重症度）では「自分の食事が終わっても、何か食べるものは無いか要求したり、落ち着かなかった」（50.0%）と「食事を終えても、何も食べていないと怒っていた」（47.1%）に集中しているのに対して、高齢者パターン２（一部介助、中高程度重症度）では「自分の食事が終わっても、何か食べるものは無いか要求したり、落ち着かなかった」（40.5%）、「自分の食事が終わっても他の人の食事を取って食べてしまう」（38.1%）、「近くにあるものを口に入れようとしたり、かじったりすることが度々みられた」（31.0%）、「食事を終えても、何も食べていないと怒っていた」（28.6%）、「自分の食事を早く食べてしまい、残っているお膳をさがし、次々と食べてしまっていた」（21.4%）など比較的分散している。また高齢者パターン２（一部介助、中高程度重症度）では「近くにあるものを口に入れようとしたり、かじったりすることが度々みられた」と「自分の食事を早く食べてしまい、残っているお膳をさがし、次々と食べてしまっていた」が、パターン１（自立、中程度重症度）を大きく上回っている。（表２－２－３－１０参照）

解決後の状況については、高齢者パターン１（自立、中程度重症度）では「自分の食事で満足するようになった」（25.7%）と「要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった」（24.3%）に対して、高齢者パターン 2（一部介助、中高程度重症度）では「食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった」（35.7%）、「自分の食事で満足するようになった」（26.2%）、「要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった」（21.4%）、「食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった」（21.4%）などのように、介助の必要度合いがより高い高齢者において特徴的な傾向がみられる。（表２－２－３－１１参照）

この結果は、解決に際して介助と重症度の度合いを考慮した対応が望まれることを示唆している。

（注 2）潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス 1 に対して 0.97、クラス 2 に対して 0.03、（全クラスへの帰属確率合計は 1.00 である）となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

4）食事過剰要求場面の解決方法

食事過剰要求場面で解決経験がある 160 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

（1）解決方法の概況

食事過剰要求場面を解決する時に行った解決方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 43 分類した。分類結果は、食事環境の調整に関するものが 6 分類、食事の工夫に関するものが 13 分類、声かけや会話の工夫に関するものが 10 分類、活動の工夫に関するものが 9 分類、その他が 5 分類であった。

有効回答 158 件のなかで多くあがったものは、「スタッフが一緒に食事をとる」が 91 件（57.6%）、「おやつや代替え品を提供」が 77 件（48.7%）、「外出」が 70 件（44.3%）、「水分の摂取を増やす」が 68 件（43.0%）、「訴えを受容し、会話を多くする」が 67 件（42.4%）、「席の変更」が 55 件（34.8%）、「隣の席から離れる」が 52 件（32.9%）、「味の感想を伺う」と「食後のレクリエーション活動への誘導」が各 46 件（29.1%）、「食器を小さくし、おかわりを増やす、食事数を増やす」が 32 件（20.3%）などであり、1 事例あたり平均 5.5 項目あげられた。（表２－２－４－１参照）

（2）解決方法の組み合わせパターン

上記のように解決方法は多様な組み合わせであり、1 事例平均 5.5 の方法で構成されている。43 分類の方法の任意な数の組み合わせは天文学的とも言える数にのぼりその詳細を示すのは不可能に近い。そこで実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した（注 3）。

その結果 12 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 3.5 項目の組み合わせであり、「スタッフが一緒に食事をとる」（58.3%）と「おやつや代替え品を提供」（54.1%）を主として、「席の変更」（36.5%）、「低カロリーにして大盛りにした」（35.7%）、「味の感想を伺う」（34.7%）などで構成されている。第 1 パターンの該当事例は 26 件（16.5%）である。

第 2 パターンは平均 6.8 項目の組み合わせであり、「外出」（99.6%）、「訴えを

受容し、会話を多くする」(90.4%)、「スタッフが一緒に食事をとる」(78.2%)、「水分の摂取を増やす」(77.7%) の 4 項目を共通ベースとして、「食事以外の話をする」(47.2%)、「味の感想を伺う」(42.8%)、「おやつや代替え品を提供」(42.9%)、「食器を小さくし、おかわりを増やす、食事数を増やす」(30.4%)、「低カロリーの間食や夜食の提供」(26.3%)、「食後のレクリエーション活動への誘導」(26.5%) などで構成されている。第 2 パターンの該当する事例は 23 件 (14.6%) である。

第 3 パターンは平均 2.8 項目と最少の組み合わせであり、共通ベースはなく、「水分の摂取を増やす」(39.5%)、「おやつや代替え品を提供」(27.8%)、「席の変更」(31.2%)、「隣の席から離れる」(28.1%)、「訴えを受容し、会話を多くする」(37.0%) などに分散しつつも食事の工夫と食事環境の調整が多い。第 3 パターンに該当する事例は 21 件 (13.3%) である。

第 4 パターンは平均 5.7 項目の組み合わせであり、「食後のレクリエーション活動への誘導」(99.2%) を共通ベースとして、「味の感想を伺う」(59.1%) と「おやつや代替え品を提供」(55.7%) も多く、「外出」(45.2%)、「低カロリーにして大盛りにした」(43.4%)、「水分の摂取を増やす」(40.5%)、「低カロリーの間食や夜食の提供」(38.7%)、「席の変更」(39.5%)、「隣の席から離れる」(22.5%) などで構成されている。第 4 パターンに該当する事例は 19 件 (12.0%) である。

第 5 パターンは平均 4.7 項目の組み合わせであり、「スタッフが一緒に食事をとる」(99.7%) と「隣の席から離れる」(99.6%) を共通ベースとして、「待ってねと声かけ」(47.5%)、「訴えを受容し、会話を多くする」(25.3%)、「食後のレクリエーション活動への誘導」(44.3%)、「おやつや代替え品を提供」(31.8%) などで構成されている。第 5 パターンに該当する事例は 15 件 (9.5%) である。

第 6 パターンは平均 6.1 項目の組み合わせであり、「スタッフが一緒に食事をとる」(99.6%)、「水分の摂取を増やす」(99.5%)、「隣の席から離れる」(90.6%)、「外出」(75.3%) の 4 項目を共通ベースとして、「おやつや代替え品を提供」(62.0%) も多く、「食事以外の話をする」(35.3%)、「席の変更」(26.7%) と「摂取状態に応じた食材形態変更」が (26.5%)、などで構成されている。第 6 パターンに該当する事例は 11 件 (7.0%) である。

第 7 パターンは平均 5.5 項目の組み合わせであり、「外出」(99.5%) と「席の変更」(81.3%) を共通ベースとして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」(72.4%)、「スタッフが一緒に食事をとる」(63.5%)、「おやつや代替え品を提供」(63.8%) の 3 項目も多く、「訴えを受容し、会話を多くする」(36.7%)、「別の場所へ移動し会話する」(27.2%)、「水分の摂取を増やす」(27.3%) などで構成されている。第 7 パターンに該当する事例は 11 件 (7.0%) である。

第 8 パターンは平均 5.0 項目の組み合わせであり、「訴えを受容し、会話を多くする」(60.2%) と「おやつや代替え品を提供」(50.4%) を主として、「低カロリ

ーの間食や夜食の提供」(47.9%)、「摂取状態に応じた食材形態変更」(37.0%)、「スタッフが一緒に食事をとる」(37.0%)、「食事時間の確認や説明を丁寧に(35.8%)」、「隣の席から離れる」(36.1%) などで構成されている。第 8 パターンに該当する事例は 8 件 (5.1%) である。

第 9 パターンは平均 11.9 項目と最多の組み合わせであり、「外出」(99.3%)、「食後のレクリエーション活動への誘導」(99.1%)、「訴えを受容し、会話を多くする」(85.1%)、「水分の摂取を増やす」(84.5%) の 4 項目を共通ベースとして、「おやつや代替え品を提供」(70.2%)、「席の変更」(70.5%)、「隣の席から離れる」(70.4%)、「スタッフが一緒に食事をとる」(71.9%)、「待ってねと声かけ」(69.5%)、「味の感想を伺う」(57.6%)、「興味のあるものを提供」(56.9%) の 7 項目も多く、「摂取状態に応じた食材形態変更」(42.6%)、「カロリーを考慮し、好きなおかず数を増加」(42.2%)、「低カロリーの間食や夜食の提供」(29.2%)、「低カロリーにして大盛りにする」(27.3%)、「食事以外の話をする」(42.7%)、「計算ドリル」(42.6%)、「献立の掲示や説明」(42.6%) など多種多様な構成である。第 9 パターンに該当する事例は 7 件 (4.4%) である。

第 10 パターンは平均 7.3 項目の組み合わせであり、「外出」(99.3%)、「食後のレクリエーション活動への誘導」(83.3%)、「スタッフが一緒に食事をとる」(99.4%)、「席の変更」(83.3%) の 4 項目を共通ベースとして、「低カロリーにして大盛りにした」(44.8%)、「カロリーを考慮し、好きなおかず数を増加」(42.9%)、「水分の摂取を増やす」(41.2%)、「食事以外の話をする」(45.2%) などで構成される。第 10 パターンに該当する事例は 7 件 (4.4%) である。

第 11 パターンは平均 9.0 項目の組み合わせであり、「スタッフが一緒に食事をとる」(99.4%)、「訴えを受容し、会話を多くする」(99.1%)、「食器を小さくし、おかわりを増やす、食事数を増やす」(98.8%) の 3 項目を共通ベースとして、「味の感想を伺う」(66.8%)、「献立の掲示や説明」(66.4%)、「おやつや代替え品を提供」(66.1%)、「席の変更」(65.9%) の 4 項目も多く、「計算ドリル」と「興味のあるものを提供」、「外出」(33.9%)、「食後のレクリエーションへの誘導」(32.4%)、「隣の席から離れる」(33.6%)、「スプーンを小さくする」(33.2%) など多様に構成される。第 11 パターンに該当する事例は 6 件 (3.8%) である。

第 12 パターンは平均 7.2 項目の組み合わせであり、「おやつや代替え品を提供」(98.9%)、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」(98.4%)、「味の感想を伺う」(98.6%)、「献立の掲示や説明」(98.1%) の 4 項目を共通ベースとして、「水分の摂取を増やす」(49.9%)、「低カロリーの間食や夜食の提供」(49.4%)、「訴えを受容し、会話を多くする」(49.8%)、「スタッフが一緒に食事をとる」(25.6%)、「隣の席から離れる」(49.6%) などで構成されている。第 12 パターンに該当する事例は 4 件 (2.5%) である。(表２－２－４－２参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－２－４－３参照)

（注 3）組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は（注 1）に示したような局所独立を仮定して異質な部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold”が算出する“Classification Statistics”（分類精度情報）の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。したがって、例えば第 6 と第 7 パターンのように僅差の確率であれば表示件数が同じ値（11 件）となる。

（3）解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、12 の組み合わせパターンと解決後のパターンの相関を分析した後、参考までに個別状況との関連を確認する。

まず、解決方法の組み合わせ 12 パターンと解決後の 6 パターンの帰属確率による相関分析を行うと、4 通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 3 と解決後パターン 1 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 3 は、“「水分の摂取を増やす」、「訴え受容会話多く」、「席の変更」などに分散した平均 2.8 項目の最少組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 1 の“自分の食事で満足するようになった”という結果に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 12 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 12 は、“「おやつや代替え品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の 4 項目を共通ベースにして平均 7.2 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 3 の“要求も穏やかになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 11 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 11 は、“「スタッフが一緒に食事をとる」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の 3 項目を共通ベースにして、平均 9.0 項目で 2 番目に多い多様な組み合わせ”であり、その多様な方法が、解決後パターン 5 の“食べ物の要求がなくなった”に貢献している傾向が読み取れる。

4 つめは、解決方法パターン 9 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 9 は、“「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の 4 項目を共通ベースとして平均 11.9 項目と最多で多種多様な組み合わせ”であり、その多様な

方法が、解決後パターン 4 の“食べ物の要求までの時間間隔が長くなった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－２－４－４参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても上記 4 通りの傾向が確認できる。

1 つめの解決方法パターン 3 では、解決後に“自分の食事で満足するようになった”が 62.3%と多くなっており、これは解決後パターン 1 の主要項目である。

2 つめの解決方法パターン 12 では、解決後に“要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった”が 75.0%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。

3 つめの解決方法パターン 11 では、解決後に“食べ物の要求は無くなってきた”が 50.6%と多くなっており、これは解決後パターン 5 の主要項目である。

4 つめの解決方法パターン 9 では、解決後に“食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった”が 48.6%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。(表２－２－４－５参照)

（4）高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン 1(一部介助、中程度重症度)に限定した相関分析を行うと、5 通りの相関が認められる (注 4)。

5 通りのうち、1 つめから 3 つめは上記でみた全体を対象とした 1 つめから 3 つめと同じ傾向である。

4 つめは、解決方法パターン 5 と解決後パターン 1 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 5 は、“「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均 4.7 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 1 の“自分の食事で満足するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

5 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 10 は、“「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の 4 項目を共通ベースにして平均 7.3 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 5 の“食べ物の要求がなくなった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－２－４－６参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン 3 では、解決後に“自分の食事で満足するようになった”が 82.0%と多くなっており、これは解決後パターン 1 の主要項目である。

解決方法パターン 12 では、解決後に“要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった”が 100.0%であり、これは解決後パターン 3 の主要項目である。

解決方法パターン 11 では、解決後に“食べ物の要求は無くなってきた”が 66.6%と多くなっており、これは解決後パターン 5 の主要項目である。

解決方法パターン 5 では、解決後に“自分の食事で満足するようになった”が 54.8%と多くなっており、これは解決後パターン 1 の主要項目である。

解決方法パターン 10 では、解決後に“食べ物の要求は無くなってきた”が 51.8%と多くなっており、これは解決後パターン 5 の主要項目である。(表２－２－４－７参照)

また高齢者パターン 2（一部介助、中高程度重症度）に限定した相関分析を行うと、4 通りの相関が認められる。(有意水準 5%で相関が認められる、解決方法パターン 11 と解決後パターン 3、および解決方法パターン 2 と解決後パターン 4、の 2 通りは、事例数が各 1 例にとどまるため省略する。)

1 つめは、解決方法パターン 9 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。これは全体でみた、4 つめの傾向と同様である。

2 つめは、解決方法パターン 5 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 5 は、“「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均 4.7 項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン 3 の“要求も穏やかになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 1 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 1 は、“「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均 3.5 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 5 の“食べ物の要求がなくなった”に貢献している傾向が読み取れる。

4 つめは、解決方法パターン 7 と解決後パターン 6 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 7 は、“「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替え品を提供」の 3 項目も多い平均 5.5 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 6 の“食事時間まで待てるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－２－４－８参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこの 4 通りの傾向が確認できる。

1 つめの解決方法パターン 9 では、解決後に“食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった”が 73.4%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

2 つめの解決方法パターン 5 では、解決後に“要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった”が 59.8%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。

3 つめの解決方法パターン 1 では、解決後に“食べ物の要求は無くなってきた”

が27.9％と相対的に多くなっており、これは解決後パターン5の主要項目である。

4つめの解決方法パターン7では、解決後に“食事の時間まで待てるようになった”が33.6％と相対的に多くなっており、これは解決後パターン6の主要項目である。（表２－２－４－９参照）

（注4）高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン1と2を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義（＝クラスター化）した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

5）食事過剰要求場面の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ795件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

（1）役立った情報の概況

有効回答795件のなかで多くあがったものは、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が280件（35.2％）、「気分」が181件（22.8％）、「本人の気持ち、意志」が150件（18.9％）、「スタッフとの関係」が146件（18.4％）、「他の入居者との関係」が136件（17.1％）、「食中の様子」が91件（11.4％）などであり、ひとつの解決方法当たり平均2.9項目あげられた。（表２－２－５－１参照）

（2）役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果17の組み合わせパターンを得た。

第1パターンは平均2.2項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（99.8％）を共通ベースとして、「スタッフとの関係」（30.9％）や「他の入居者との関係」（22.0％）の人間関係を主として構成されている。第1パターンの該当事例は延べ118件（14.8％）である。

第2パターンは平均2.5項目の組み合わせであり、「満腹感、空腹感」（54.8％）、「当日の食事量・おやつ量」（41.8％）、「最近の食事量」（25.8％）などの食事関係を主として構成されている。第2パターンの該当事例は延べ111件（14.0％）である。

第3パターンは平均2.3項目の組み合わせであり、「他の入居者との関係」

（45.0%）や「スタッフとの関係」（40.9%）の人間関係、「気分」（46.7%）や「本人の気持ち、意志」（23.1%）の心理面を主として構成されている。第3パターンの該当事例は延べ90件（11.3%）である。

第4パターンは平均2.9項目の組み合わせであり、「席の位置」（73.0%）や「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」（35.2%）の環境、「他の入居者との関係」（49.1%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（33.1%）などを主として構成されている。第4パターンの該当事例は延べ69件（8.7%）である。

第5パターンは平均3.8項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（77.7%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」（49.2%）と「気分」（27.2%）の心理面、「表情」（34.3%）や「食事中の会話」（30.0%）などの食事中の状態、「スタッフとの関係」（43.8%）などを主として構成されている。第5パターンの該当事例は延べ58件（7.3%）である。

第6パターンは平均3.0項目の組み合わせであり、「生活習慣（ここ数年）」（77.2%）を共通ベースとして、「生活歴（幼少期から）」（48.3%）を含めた習慣、「本人の気持ち、意志」（23.2%）などを主として構成されている。第6パターンの該当事例は延べ56件（7.0%）である。

第7パターンは平均3.4項目の組み合わせであり、「食中の様子」（84.9%）を共通ベースとして、「表情」（44.4%）、「食事中の会話」（34.6%）、「目線」（33.4%）を含めた食事中の状態を主として構成されている。第7パターンの該当事例は延べ52件（6.5%）である。

第8パターンは平均2.0項目の最少組み合わせであり、「気分」（61.7%）や「運動量」（27.4%）を主として構成されている。第8パターンの該当事例は延べ50件（6.3%）である。

第9パターンは平均4.1項目の組み合わせであり、「体調」（63.8%）、「本人の気持ち、意志」（50.5%）、「気分」（43.7%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（49.7%）、「スタッフとの関係」（49.3%）などを主として構成されている。第9パターンの該当事例は延べ30件（3.8%）である。

第10パターンは平均3.2項目の組み合わせであり、「盛付」（49.0%）、「食器の大きさ」（42.9%）、「食の嗜好・興味・意欲」（37.0%）、「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」（28.6%）などの食事関係を主として構成されている。第10パターンの該当事例は延べ29件（3.6%）である。

第11パターンは平均3.9項目の組み合わせであり、「認知機能」（73.5%）、「本人の気持ち、意志」（45.1%）と「気分」（45.0%）の心理面、「食の嗜好・興味・意欲」（46.4%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（40.8%）などを主として構成されている。第11パターンの該当事例は延べ24件（3.0%）である。

第12パターンは平均3.6項目の組み合わせであり、「認知症の症状」（99.2%）を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（54.1%）、「食事中の

会話」(46.5%)、「気分」(41.2%) などを主として構成されている。第 12 パターンの該当事例は延べ 24 件 (3.0%) である。

第 13 パターンは平均 2.5 項目の組み合わせであり、「水分状態」(83.1%) を共通ベースとして、「排泄状況」(49.4%) を含めた健康面や「満腹感、空腹感」(30.2%) などを主として構成されている。第 13 パターンの該当事例は延べ 22 件 (2.8%) である。

第 14 パターンは平均 4.0 項目の組み合わせであり、「運動量」(82.2%) を共通ベースとして、「体調」(52.5%)、「睡眠時間・状況」(31.5%)、「体重・ＢＭＩ」(26.4%) などを含めた健康面、「心配ごと・不満状況」(45.8%)、「気分」(43.1%)、「本人の気持ち、意志」(37.1%) の心理面などを主として構成されている。第 14 パターンの該当事例は延べ 19 件 (2.4%) である。

第 15 パターンは平均 3.5 項目の組み合わせであり、「現病・既往歴」(57.2%)、「体調」(51.4%)、「体重・ＢＭＩ」(20.7%) などの健康面、「認知症の症状」(33.4%) と「認知機能」(22.1%) の認知能力、「本人の気持ち、意志」(35.6%)、「最近の食事量」(21.6%) や「満腹感、空腹感」(20.1%) の食事関係、「最近の食習慣」(26.8%) などを主として構成されている。第 15 パターンの該当事例は延べ 15 件 (1.9%) である。

第 16 パターンは平均 4.3 項目の最多組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(90.0%) と「心配ごと・不満状況」(80.1%) を共通ベースとして、「気分」(71.8%) を含めた心理面、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(55.7%)、「周囲の雰囲気・刺激 (音・光・匂い)」(23.3%)、「食中の様子」(21.8%)、「食の嗜好・興味・意欲」(21.1%) などを主として構成されている。第 16 パターンの該当事例は延べ 15 件 (1.9%) である。

第 17 パターンは平均 4.1 項目の組み合わせであり、「食の嗜好・興味・意欲」(96.8%) と「満腹感、空腹感」(94.3%) を共通ベースとして、「当日の食事量・おやつ量」(38.8%) を含めた食事関係、「スタッフとの関係」(34.7%)、「表情」(30.5%)、「気分」(21.5%)、「周囲の雰囲気・刺激 (音・光・匂い)」(20.3%) などを主として構成されている。第 17 パターンの該当事例は延べ 15 件 (1.9%) である。(表２－２－５－２参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－２－５－３参照)

（３）情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析と次の傾向である。

第 13 パターン (「水分状態」を共通ベースに、「排泄状況」を含めた健康面や「満腹感、空腹感」を主にした平均 2.5 項目の組み合わせ) は、「水分の摂取を増やす」が 87.9%をも占めている。

第 10 パターン (「盛付」、「食器の大きさ」、「食の嗜好・興味・意欲」など食事関係を主にした平均 3.2 項目の組み合わせ) は、「食器を小さくし、おかわりを増

やす、食事数を増やす」が 40.8%を占め、「隣の席から離れる」が 11.4%、「味の感想を伺う」が 10.0%となっている。

第 4 パターン（「席の位置」や「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い)」の環境、「他の入居者との関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などを主にした平均 2.9 項目の組み合わせ) は、「席の変更」が 35.2%、「隣の席から離れる」が 29.9%を占めている。

第 14 パターン（「運動量」を共通ベースに、「体調」や「睡眠時間・状況」などの健康面、心理面などを主にした平均 4.0 項目の組み合わせ) は、「外出」が 34.6%を占め、「食後のレクリエーション活動への誘導」が 18.6%、「おやつや代替え品を提供」が 15.4%となっている。

第 17 パターン（「食の嗜好・興味・意欲」や「満腹感、空腹感」など食事関係を共通ベースに、「スタッフとの関係」、「表情」などを主にした平均 4.1 項目の組み合わせ) は、「おやつや代替え品を提供」が 32.2%、「味の感想を伺う」が 27.0%を占めている。

第 12 パターン（「認知症の症状」を共通ベースに、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「食中の会話」、「気分」を主にした平均 3.6 項目の組み合わせ）は、「スタッフが一緒に食事をとる」が 28.3%、「おやつや代替え品を提供」が 17.3%、「訴えを受容し、会話を多くする」が 10.3%を占めている。

第 9 パターン（「本人の気持ち、意志」など心理面、「体調」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」などを主とした平均 4.1 項目の組み合わせ）は、「外出」が 26.8%、「訴えを受容し、会話を多くする」が 14.6%、「食事以外の話をする」が 14.3%を占めている。

第 1 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースに、「スタッフとの関係」や「他の入居者との関係」の人間関係を主とした平均 2.2 項目の組み合わせ）は、「スタッフが一緒に食事をとる」が 25.2%、「訴えを受容し、会話を多くする」が 14.7%を占めている。

第 8 パターン（「気分」や「運動量」を主とした平均 2.0 項目と最少の組み合わせ）は、「外出」が 24.3%、「食後のレクリエーション活動への誘導」が 19.3%を占めている。

第 7 パターン（「食事中の様子」を共通ベースに、「表情」、「食事中の会話」、「目線」を含めた食事中の状態を主とした平均 3.4 項目の組み合わせ）は、「スタッフが一緒に食事をとる」が 22.0%、「訴えを受容し、会話を多くする」が 11.2%、「味の感想を伺う」が 11.8%、「隣の席から離れる」が 12.9%、「席の変更」が 10.8%となっている。

第 16 パターン（「本人の気持ち、意志」や「心配事・不満状況」など心理面を共通ベースに、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などを主にした平均 4.3 項目と最多の組み合わせ）は、「席の変更」が 21.2%、「おやつや代替え品を提供」が

14.8%、「味の感想を伺う」が 13.4%、「訴えを受容し、会話を多くする」が 10.7%、「外出」が 13.8%となっている。

第 2 パターン（「満腹感、空腹感」、「当日の食事量・おやつ量」、「最近の食事量」など食事関係を主にした平均 2.5 項目の組み合わせ）は、「おやつや代替え品を提供」が 20.2%、「水分の摂取を増やす」が 16.1%、「低カロリーにして大盛りにした」が 15.4%となっている。

第 5 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースに、心理面、食事中の状態、人間関係を主とした平均 3.8 項目の組み合わせ）は、「スタッフが一緒に食事をとる」が 18.9%、「訴えを受容し、会話を多くする」が 11.5%、「おやつや代替え品を提供」が 12.2%、「水分の摂取を増やす」が 10.2%となっている。

第 3 パターン（「他の入居者との関係」や「スタッフとの関係」の人間関係、「気分」や「本人の気持ち、意志」の心理面を主にした平均 2.3 項目の組み合わせ）は、「訴えを受容し、会話を多くする」が 16.0%、「外出」が 12.4%、「食後のレクリエーション活動への誘導」が 11.0%となっている。

第 15 パターン（「現病・既往歴」、「体調」などの健康面、認知能力、「本人の気持ち、意志」などを主にした平均 3.5 項目の組み合わせ）は、「おやつや代替え品を提供」が 15.7%、「低カロリーの間食や夜食の提供」が 14.8%、「味の感想を伺う」が 13.1%となっている。

第 11 パターン（「認知機能」、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「食の嗜好・興味・意欲」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などを主とした平均 3.9 項目の組み合わせ）は、「献立の掲示や説明」が 13.7%、「訴えを受容し、会話を多くする」が 13.2%となっている。

第 6 パターン（「生活習慣（ここ数年）」を共通ベースに、「生活歴（幼少期から）」を含めた習慣、「本人の気持ち、意志」などを主とした平均 3.0 項目の組み合わせ）は、「興味のあるものを提供」が 11.9%、「おやつや代替え品を提供」が 10.3%となっている。（表２－２－５－４参照）

６）絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答 189 件中、「否定・指示・命令的な声かけ」が 176 件（93.1%）、「大きな声で、いらいらした気持ちで受け答えする」が 169 件（89.4%）、「そのままにして放っておく」が 168 件（88.9%）、「批判する」と「食べるだけ食べさせ、過剰に摂取させる」が各 159 件（84.1%）、となっている。（表２－２－６－１参照）

（表２－２－１－１）回答者の年齢

	有効回答数	24 歳以下	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60 歳以上
実数	199	5	26	38	34	17	26	20	21	12
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	2.5	13.1	19.1	17.1	8.5	13.1	10.1	10.6	6.0

（平均年齢等）

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
199	41.2	11.3	22	66

（表２－２－１－２）回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	202	46	156
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	22.8	77.2

（表２－２－１－３）回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネージャー	看護師	その他
実数	190	66	10	51	9	66
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	34.7	5.3	26.8	4.7	34.7

（表２－２－１－４）回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	195	9	80	44	1	0	66
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	4.6	41.0	22.6	0.5	0.0	33.8

（表２－２－１－５）回答者の所有資格

	有効回答数	看護師（准看護師）	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネージャー	ヘルパー	その他
実数	201	15	121	7	69	83	17
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	7.5	60.2	3.5	34.3	41.3	8.5

（表２－２－１－６）回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設（ユニット型）	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	203	2	3	188	1	11
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	1.0	1.5	92.6	0.5	5.4

（表２－２－１－７）回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
205	4.3	3.4	0.2	21.5

（表２－２－１－８）回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
196	8.7	5.3	0.6	33.7

（表２－２－２－１）食事過剰要求の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	194	160	34
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	82.5	17.5

（表２－２－２－２）高齢者の年齢

	解決経験のある 有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	149	13	26	30	58	22
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	8.7	17.4	20.1	38.9	14.8

（平均年齢等）

解決経験のある 有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
149	83.2	6.9	60	100

（表２－２－２－３）高齢者の性別割合

	解決経験のある 有効回答数	男	女
実数	157	35	122
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	22.3	77.7

（表２－２－２－４）認知症の原因疾患

	解決経験のある 有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	147	85	39	4	8	11
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	57.8	26.5	2.7	5.4	7.5

（表２－２－２－５）機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答 (=なし)
実数	160	0	2	45	0	113
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.0	1.3	28.1	0.0	70.6

（表２－２－２－６）食事介助

	解決経験のある 有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	158	3	43	112
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	1.9	27.2	70.9

（表２－２－２－７）移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他（回答者追記）
実数	124	13	66	44	1
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	10.5	53.2	35.5	0.8

（表２－２－２－８）排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし	その他（回答者追記）
実数	143	82	61	2
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	57.3	42.7	1.4

（表２－２－２－９）入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	151	31	19	53	38	10
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	20.5	12.6	35.1	25.2	6.6

（表２－２－２－１０）認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	Ⅰ 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	Ⅱ 日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	Ⅲ ランクⅡの症状がときどき見られ、介護を必要とする（徘徊、失禁など）	Ⅳ ランクⅡの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	Ⅴ 著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	159	11	38	53	51	6
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	6.9	23.9	33.3	32.1	3.8

（表２－２－２－１１）身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J 何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	A 屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	B 屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベット上での生活主体で座位を保つ	C 一日中ベットで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	154	17	105	28	4
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	11.0	68.2	18.2	2.6

（表２－２－２－１２）食事過剰要求高齢者のパターン
（潜在クラス２クラスモデルのプロフィール）

(n=131)

項目	カテゴリー	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
	サイズ	1.000	0.654	0.346
性別	男	0.199	0.196	0.204
	女	0.802	0.804	0.796
食事介助	全介助	0.015	0.000	0.044
	一部介助	0.237	0.050	0.590
	自立	0.748	0.950	0.366
認知症の重症度	Ⅰ	0.076	0.102	0.028
	Ⅱ	0.267	0.350	0.111
	Ⅲ	0.298	0.301	0.291
	Ⅳ	0.321	0.203	0.544
	Ⅴ	0.038	0.044	0.027
身体障害の重症度	J	0.122	0.147	0.075
	A	0.672	0.846	0.343
	B	0.191	0.007	0.539
	C	0.015	0.000	0.044
	（参考）該当事例数 →	(131)	(86)	(45)

（表２－２－２－１３）潜在クラスモデル評価（高齢者パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	945.7	916.9
モデル2（クラス数2）	961.6	901.3
モデル3（クラス数3）	1000.2	908.1
モデル4（クラス数4）	1037.6	914.0

（表２－２－３－１）解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	自分の食事が終わっても他の人の食事を取って食べてしまう	自分の食事が終わっても、何か食べるものは無いか要求したり、落ち着かなかった	食事を終えても、何も食べていないと怒っていた	近くにあるものを口に入れようとしたり、かじったりすることが度々みられた	自分の食事を早く食べてしまい、残っているお膳をさがし、次々と食べてしまっていた	その他
実数	157	48	69	57	30	17	16
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	30.6	43.9	36.3	19.1	10.8	10.2

（表２－２－３－２）解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	食事の時間まで待てるようになった	食べ物の要求は無くなってきた	食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった	要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった	食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった	自分の食事で満足するようになった	その他
実数	155	17	25	32	30	24	45	12
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	11.0	16.1	20.6	19.4	15.5	29.0	7.7

（表２－２－３－３）解決前のパターン
（潜在クラス５クラスモデルのプロフィール）

(n=112)

状況	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		食後も食物を要求したり落ち着かなかった	食後も食べていないと怒っていた	食後に他人の食事を取って食べていた	食後も残っているお膳を探し食べまわっていた	近くのものを口に入れたりかじっていた
サイズ	1.000	0.399	0.211	0.158	0.137	0.095
自分の食事が終わっても他の人の食事を取って食べてしまう	0.313	0.241	0.036	0.990	0.334	0.070
自分の食事が終わっても、何か食べるものは無いか要求したり、落ち着かなかった	0.464	0.995	0.047	0.015	0.337	0.098
食事を終えても、何も食べていないと怒っていた	0.402	0.425	0.995	0.018	0.137	0.008
近くにあるものを口に入れようとしたり、かじったりすることが度々みられた	0.170	0.001	0.001	0.190	0.332	0.981
自分の食事を早く食べてしまい、残っているお膳をさがし、次々と食べてしまっていた	0.134	0.001	0.001	0.003	0.967	0.003
（参考）平均項目数 →	1.5	1.7	1.1	1.2	2.1	1.2
該当事例数 →	(112)	(45)	(24)	(18)	(15)	(11)

（表２－２－３－４）潜在クラスモデル評価（解決前パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	658.5	644.9
モデル2(クラス数2)	652.9	623.0
モデル3(クラス数3)	658.6	612.4
モデル4(クラス数4)	673.6	611.1
モデル5(クラス数5)	685.0	606.1
モデル6(クラス数6)	712.2	617.1
モデル7(クラス数7)	723.9	612.4
モデル8(クラス数8)	750.5	622.7

（表２－２－３－５）解決後のパターン
（潜在クラス６クラスモデルのプロフィール）

(n=112)

状況	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
		自分の食事で満足するようになった	人のお膳を食べまわらなくなった	要求も穏やかになった	食べ物の要求までの時間間隔が長くなった	食べ物の要求がなくなった	食事時間まで待てるようになった
サイズ	1.000	0.206	0.203	0.198	0.179	0.136	0.078
食事の時間まで待てるようになった	0.125	0.012	0.001	0.077	0.150	0.030	0.979
食べ物の要求は無くなってきた	0.170	0.010	0.001	0.001	0.150	0.989	0.071
食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった	0.232	0.002	0.994	0.010	0.150	0.003	0.005
要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった	0.232	0.117	0.037	0.993	0.004	0.003	0.040
食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった	0.188	0.003	0.003	0.044	0.988	0.002	0.005
自分の食事で満足するようになった	0.259	0.994	0.002	0.017	0.150	0.121	0.091
（参考）平均項目数 →	1.2	1.1	1.0	1.1	1.6	1.1	1.2
該当事例数 →	(112)	(23)	(23)	(22)	(20)	(15)	(9)

（表２－２－３－６）潜在クラスモデル評価（解決後パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	693.7	677.3
モデル2(クラス数2)	692.5	657.2
モデル3(クラス数3)	692.0	637.6
モデル4(クラス数4)	700.7	627.3
モデル5(クラス数5)	714.5	622.0
モデル6(クラス数6)	727.7	616.2
モデル7(クラス数7)	747.4	617.0
モデル8(クラス数8)	777.2	627.7

（表２－２－３－７）解決前後のパターンの相関行列
（全体）

（n=112）

			解決後のパターン					
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
			自分の食事で満足するようになった	人のお膳を食べまわらなくなった	要求も穏やかになった	食べ物の要求までの時間間隔が長くなった	食べ物の要求がなくなった	食事時間まで待てるようになった
解決前のパターン	パターン1	食後も食物要求したり落ち着かなかった	-0.283 **	-0.012	0.165	0.040	0.057	0.073
	パターン2	食後も食べていないと怒っていた	0.058	-0.169	0.053	0.054	0.065	-0.072
	パターン3	食後に他人の食事を取って食べていた	0.092	0.261 *	-0.091	-0.209 *	-0.051	-0.035
	パターン4	食後も残っているお膳を探し食べまわっていた	0.118	-0.003	-0.194 *	0.227 *	-0.159	-0.013
	パターン5	近くのものを口に入れたりかじっていた	0.142	-0.065	-0.008	-0.156	0.068	0.037

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数

（有意水準）1%水準　**

5%水準　*

（表２－２－３－８）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン１“自立、中程度重症度”の場合）

（n=74）

			解決後のパターン					
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
			自分の食事で満足するようになった	人のお膳を食べまわらなくなった	要求も穏やかになった	食べ物の要求までの時間間隔が長くなった	食べ物の要求がなくなった	食事時間まで待てるようになった
解決前のパターン	パターン1	食後も食物要求したり落ち着かなかった	-0.256 *	0.007	0.097	0.005	0.049	0.150
	パターン2	食後も食べていないと怒っていた	0.057	-0.172	0.064	0.118	-0.019	-0.096
	パターン3	食後に他人の食事を取って食べていた	0.106	0.155	-0.005	-0.184	-0.082	0.019
	パターン4	食後も残っているお膳を探し食べまわっていた	0.180	0.128	-0.174	0.093	-0.146	-0.107
	パターン5	近くのものを口に入れたりかじっていた	0.058	-0.090	-0.116	-0.100	0.278	-0.029

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数

高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）

（帰属確率によるパターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**

5%水準　*

（表２－２－３－９）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン２“一部介助、中高程度重症度”の場合）

（n=38）

			解決後のパターン					
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
			自分の食事で満足するようになった	人のお膳を食べまわらなくなった	要求も穏やかになった	食べ物の要求までの時間間隔が長くなった	食べ物の要求がなくなった	食事時間まで待てるようになった
解決前のパターン	パターン1	食後も食物要求したり落ち着かなかった	−0.351 *	0.032	0.301	0.119	0.016	−0.154
	パターン2	食後も食べていないと怒っていた	0.073	−0.048	−0.053	−0.132	0.299	−0.076
	パターン3	食後に他人の食事を取って食べていた	0.071	0.370 *	−0.242	−0.257	0.055	−0.127
	パターン4	食後も残っているお膳を探し食べまわっていた	0.041	−0.211	−0.216	0.418 **	−0.152	0.176
	パターン5	近くのものを口に入れたりかじっていた	0.256	−0.151	0.151	−0.246	−0.107	0.173

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率によるパターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－２－３－１０）高齢者パターン別にみた解決前の状況

【実数】

	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
有効回答数	112	70	42
自分の食事が終わっても他の人の食事を取って食べてしまう	35	19	16
自分の食事が終わっても、何か食べるものは無いか要求したり、落ち着かなかった	52	35	17
食事を終えても、何も食べていないと怒っていた	45	33	12
近くにあるものを口に入れようとしたり、かじったりすることが度々みられた	19	6	13
自分の食事を早く食べてしまい、残っているお膳をさがし、次々と食べてしまっていた	15	6	9

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0
自分の食事が終わっても他の人の食事を取って食べてしまう	31.3	27.1	38.1
自分の食事が終わっても、何か食べるものは無いか要求したり、落ち着かなかった	46.4	50.0	40.5
食事を終えても、何も食べていないと怒っていた	40.2	47.1	28.6
近くにあるものを口に入れようとしたり、かじったりすることが度々みられた	17.0	8.6	31.0
自分の食事を早く食べてしまい、残っているお膳をさがし、次々と食べてしまっていた	13.4	8.6	21.4

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－２－３－１１）高齢者パターン別にみた解決後の状況

【実数】

	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
有効回答数	112	70	42
食事の時間まで待てるようになった	14	10	4
食べ物の要求は無くなってきた	19	13	6
食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった	26	11	15
要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった	26	17	9
食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった	21	12	9
自分の食事で満足するようになった	29	18	11

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0
食事の時間まで待てるようになった	12.5	14.3	9.5
食べ物の要求は無くなってきた	17.0	18.6	14.3
食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった	23.2	15.7	35.7
要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった	23.2	24.3	21.4
食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった	18.8	17.1	21.4
自分の食事で満足するようになった	25.9	25.7	262.2

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（図表２－２－４－１）食事過剰要求場面の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
有効回答数			158	100.0
食事環境の調整	101	隣の席から離れる	52	32.9
	102	席の変更	55	34.8
	104	仲の良い人の隣に座った	2	1.3
	105	テーブル、椅子の調整	1	0.6
	106	好きな音楽を流す	1	0.6
	190	その他	2	1.3
食事の工夫	201	低カロリーにして大盛りにした	31	19.6
	202	カロリーを考慮し、好きなおかず数を増加	20	12.7
	203	摂取状態に応じた食材形態変更	16	10.1
	204	おやつや代替え品を提供	77	48.7
	206	水分の摂取を増やす	68	43.0
	207	低カロリーの間食や夜食の提供	27	17.1
	208	食器を小さくし、おかわりを増やす、食事数を増やす	32	20.3
	209	スプーンを小さくする	6	3.8
	210	配膳、下膳のタイミングを調整した	10	6.3
	211	盛りつけの工夫	6	3.8
	212	好きなものを提供	2	1.3
	215	食事時間の調整	2	1.3
	290	その他	4	2.5
声かけや会話の工夫	301	スタッフが一緒に食事をとる	91	57.6
	302	訴えを受容し、会話を多くする	67	42.4
	303	待ってねと声かけ	25	15.8
	304	別の場所へ移動し会話する	11	7.0
	305	味の感想を伺う	46	29.1
	306	食事以外の話をする	22	13.9
	308	着席のタイミングを調整した	1	0.6
	309	声かけをやめ、静かにする	1	0.6
	310	食事時間の確認や説明を丁寧にする	5	3.2
	390	その他	4	2.5
活動の工夫	401	食後のレクリエーション活動への誘導	46	29.1
	402	外出	70	44.3
	403	興味のあるものを提供	18	11.4
	404	計算ドリル	8	5.1
	405	役割	4	2.5
	407	配膳、下膳を手伝ってもらう	2	1.3
	408	買い物につきあってもらう	4	2.5
	409	食事の準備や調理、片づけに参加してもらう	5	3.2
	490	その他	1	0.6
その他	501	献立の掲示や説明	15	9.5
	503	体重の管理	1	0.6
	504	医療的対応	1	0.6
	506	食べ物を視野から取り除く	3	1.9
	590	その他	4	2.5

（参考）平均回答項目数 → 5.5

（図表２－２－４－２）食事過剰要求場面の解決方法組み合わせパターン
（潜在クラス 12 クラスモデルのプロフィール）

（n=158）

区分	code	解決方法	全体	パターン1 「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	パターン2 「外出」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	パターン3 共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「訴え受容会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	パターン4 「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替え品を提供」も多い平均5.7項目の組み合わせ	パターン5 「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	パターン6 「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の4項目を共通ベースにして「おやつや代替え品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	パターン7 「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替え品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	パターン8 「訴えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	パターン9 外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとして平均11.9項目と最多で多種多様な組み合わせ	パターン10 外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の4項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	パターン11 「スタッフが一緒に食事をとる」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の3項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	パターン12 「おやつや代替え品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の4項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ
		サイズ	1.000	0.163	0.146	0.132	0.118	0.098	0.071	0.069	0.053	0.044	0.043	0.038	0.026
食事環境の調整	101	隣の席から離れる	0.329	0.052	0.088	0.281	0.225	0.996	0.906	0.003	0.361	0.704	0.159	0.336	0.496
	102	席の変更	0.348	0.365	0.186	0.312	0.395	0.067	0.267	0.813	0.005	0.705	0.833	0.659	0.007
	104	仲の良い人の隣に座った	0.013	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.091	0.120	0.000	0.000	0.000	0.000
	105	テーブル、椅子の調整	0.006	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.119	0.000	0.000	0.000	0.000
	106	好きな音楽を流す	0.006	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.245
	190	その他	0.013	0.000	0.043	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.166	0.000
食事の工夫	201	低カロリーにして大盛りにした	0.196	0.357	0.173	0.127	0.434	0.001	0.002	0.093	0.130	0.273	0.448	0.003	0.004
	202	カロリーを考慮し、好きなおかず数を増加	0.127	0.198	0.133	0.001	0.058	0.085	0.229	0.092	0.001	0.422	0.429	0.002	0.003
	203	摂取状態に応じた食材形態変更	0.101	0.189	0.000	0.001	0.001	0.001	0.265	0.001	0.370	0.426	0.152	0.167	0.002
	204	おやつや代替え品を提供	0.487	0.541	0.429	0.278	0.557	0.318	0.620	0.638	0.504	0.702	0.161	0.661	0.989
	206	水分の摂取を増やす	0.430	0.178	0.777	0.395	0.405	0.173	0.995	0.273	0.137	0.845	0.412	0.172	0.499
	207	低カロリーの間食や夜食の提供	0.171	0.152	0.263	0.003	0.387	0.001	0.090	0.001	0.479	0.292	0.101	0.003	0.494
	208	食器を小さくし、おかわりを増やす、食事数を増やす	0.203	0.116	0.304	0.095	0.058	0.001	0.002	0.724	0.002	0.002	0.156	0.988	0.984
	209	スプーンを小さくする	0.038	0.039	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.091	0.120	0.000	0.149	0.332	0.001
	210	配膳、下膳のタイミングを調整した	0.063	0.000	0.000	0.236	0.054	0.194	0.001	0.001	0.126	0.001	0.001	0.001	0.001
	211	盛りつけの工夫	0.038	0.078	0.043	0.047	0.054	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.001	0.246
	212	好きなものを提供	0.013	0.000	0.042	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.151	0.000	0.000
	215	食事時間の調整	0.013	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.120	0.142	0.000	0.000	0.000
	290	その他	0.025	0.000	0.000	0.095	0.000	0.064	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.166	0.001
声かけや会話の工夫	301	スタッフが一緒に食事をとる	0.576	0.583	0.782	0.003	0.137	0.997	0.996	0.635	0.370	0.719	0.994	0.994	0.256
	302	訴えを受容し、会話を多くする	0.424	0.088	0.904	0.370	0.394	0.253	0.091	0.367	0.602	0.851	0.145	0.991	0.498
	303	待ってねと声かけ	0.158	0.043	0.001	0.091	0.117	0.475	0.233	0.093	0.243	0.695	0.151	0.157	0.003
	304	別の場所へ移動し会話する	0.070	0.039	0.000	0.000	0.222	0.121	0.001	0.272	0.001	0.001	0.150	0.001	0.001
	305	味の感想を伺う	0.291	0.347	0.428	0.002	0.591	0.140	0.078	0.095	0.003	0.576	0.004	0.668	0.986
	306	食事以外の話をする	0.139	0.039	0.472	0.001	0.001	0.001	0.353	0.002	0.002	0.427	0.452	0.002	0.003
	308	着席のタイミングを調整した	0.006	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.142	0.000	0.000	0.000
	309	声かけをやめ、静かにする	0.006	0.000	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	310	食事時間の確認や説明を丁寧にする	0.032	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.358	0.000	0.149	0.000	0.246
	390	その他	0.025	0.000	0.000	0.143	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.142	0.000	0.000	0.001
活動の工夫	401	食後のレクリエーション活動への誘導	0.291	0.001	0.265	0.001	0.992	0.443	0.002	0.002	0.003	0.991	0.833	0.324	0.006
	402	外出	0.443	0.002	0.996	0.002	0.452	0.227	0.753	0.995	0.005	0.993	0.993	0.339	0.009
	403	興味のあるものを提供	0.114	0.001	0.215	0.047	0.001	0.130	0.090	0.001	0.241	0.569	0.002	0.498	0.002
	404	計算ドリル	0.051	0.000	0.086	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.426	0.001	0.498	0.001
	405	役割	0.025	0.000	0.043	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.239	0.000	0.149	0.000	0.001
	407	配膳、下膳を手伝ってもらう	0.013	0.000	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.091	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	408	買い物につきあってもらう	0.025	0.000	0.129	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.142	0.000	0.000	0.001
	409	食事の準備や調理、片づけに参加してもらう	0.032	0.040	0.000	0.046	0.000	0.000	0.000	0.092	0.001	0.142	0.000	0.000	0.246
	490	その他	0.006	0.039	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
その他	501	献立の掲示や説明	0.095	0.000	0.000	0.000	0.161	0.001	0.089	0.001	0.001	0.426	0.001	0.664	0.981
	503	体重の管理	0.006	0.000	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	504	医療的対応	0.006	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.166	0.000
	506	食べ物を視野から取り除く	0.019	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.120	0.142	0.148	0.000	0.000
	590	その他	0.025	0.000	0.000	0.095	0.000	0.000	0.000	0.000	0.239	0.000	0.000	0.000	0.001
		（参考）平均項目数 →	5.5	3.5	6.8	2.8	5.7	4.7	6.1	5.5	5.0	11.9	7.3	9.0	7.2
		該当事例数 →	(158)	(26)	(23)	(21)	(19)	(15)	(11)	(11)	(8)	(7)	(7)	(6)	(4)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－２－４－３）　潜在クラスモデル評価（解決方法組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル１（クラス数1）	4063.4	3931.7	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル２（クラス数2）	4142.1	3875.6	0.070	0.849	0.734	0.783
モデル３（クラス数3）	4284.3	3883.1	0.076	0.829	0.799	0.803
モデル４（クラス数4）	4444.6	3908.7	0.094	0.861	0.813	0.809
モデル５（クラス数5）	4608.9	3938.2	0.095	0.849	0.826	0.810
モデル６（クラス数6）	4745.7	3940.2	0.086	0.886	0.862	0.843
モデル７（クラス数7）	4951.3	4011.1	0.078	0.895	0.879	0.856
モデル８（クラス数8）	5098.6	4023.6	0.054	0.930	0.913	0.897
モデル９（クラス数9）	5309.2	4099.5	0.061	0.922	0.906	0.888
モデル 10（クラス数 10）	5477.3	4132.9	0.049	0.940	0.932	0.914
モデル 11（クラス数 11）	5678.3	4199.0	0.058	0.927	0.926	0.901
モデル 12（クラス数 12）	5847.5	4233.5	0.027	0.968	0.960	0.949
モデル 13（クラス数 13）	6046.2	4297.4	0.038	0.952	0.946	0.929
モデル 14（クラス数 14）	6237.6	4354.1	0.029	0.964	0.957	0.946
モデル 15（クラス数 15）	6442.2	4424.0	0.044	0.948	0.944	0.922

（表２－２－４－４）　食事過剰要求の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（全体）

（n=111）

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン					
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
		自分の食事で満足するようになった	人のお膳を食べまわらなくなった	要求も穏やかになった	食べ物の要求までの時間間隔が長くなった	食べ物の要求がなくなった	食事時間まで待てるようになった
パターン1	「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	0.012	0.020	-0.158	0.073	-0.030	0.127
パターン2	「外出」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	-0.028	0.040	-0.028	0.001	0.048	-0.042
パターン3	共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「訴え受容会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	0.335 **	-0.087	-0.079	-0.078	-0.038	-0.100
パターン4	「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替え品を提供」も多い平均5.7項目の組み合わせ	-0.005	0.014	0.079	-0.029	0.001	-0.096
パターン5	「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	0.123	0.026	0.109	-0.137	-0.122	-0.037
パターン6	「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の4項目を共通ベースにして「おやつや代替え品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	-0.076	0.023	0.017	0.054	-0.026	0.012
パターン7	「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替え品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	-0.085	0.072	0.000	0.023	-0.127	0.154
パターン8	「訴えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	-0.112	-0.116	-0.001	0.017	0.162	0.119
パターン9	「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとして平均11.9項目と最多で多種多様な組み合わせ	-0.025	-0.018	-0.123	0.203 *	-0.046	0.019
パターン10	外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の4項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	-0.030	0.056	0.001	-0.106	0.140	-0.073
パターン11	「スタッフが一緒に食事をとる」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の3項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	-0.102	0.001	0.037	-0.082	0.212 *	-0.059
パターン12	「おやつや代替え品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の4項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ	-0.101	-0.099	0.272 **	0.040	-0.079	-0.059

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－２－４－５）　食事過剰要求の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン１“自立、中程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況					
			食事の時間まで待てるようになった	食べ物の要求は無くなってきた	食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった	要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった	食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった	自分の食事で満足するようになった
全体		111	12.6	17.1	23.4	23.4	18.0	26.1
パターン1	「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	18	18.3	11.5	24.2	11.3	23.1	26.6
パターン2	「外出」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	17	5.3	18.1	24.2	17.5	17.4	29.2
パターン3	共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「訴え受容会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	10	6.5	9.8	16.5	19.3	8.3	62.3
パターン4	「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替え品を提供」も多い平均5.7項目の組み合わせ	15	7.5	13.8	22.0	28.8	14.8	20.4
パターン5	「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	8	14.8	0.1	24.0	35.9	0.2	37.3
パターン6	「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の4項目を共通ベースにして「おやつや代替え品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	8	8.9	12.1	23.7	22.3	23.9	21.4
パターン7	「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替え品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	10	30.3	10.2	39.5	19.9	20.3	10.1
パターン8	「訴えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	5	21.3	38.0	0.0	20.1	19.9	1.2
パターン9	外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとして平均11.9項目と最多で多種多様な組み合わせ	6	33.5	50.2	34.4	0.0	48.6	50.3
パターン10	外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の4項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	6	0.0	33.3	29.9	36.0	0.7	17.8
パターン11	「スタッフが一緒に食事をとる」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の3項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	4	0.0	50.6	25.7	48.9	23.7	0.1
パターン12	「おやつや代替え品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の4項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－２－４－６）　食事過剰要求の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン１“自立、中程度重症度”の場合）

（n=74）

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン					
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
		自分の食事で満足するようになった	人のお膳を食べまわらなくなった	要求も穏やかになった	食べ物の要求までの時間間隔が長くなった	食べ物の要求がなくなった	食事時間まで待てるようになった
パターン1	「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	−0.018	0.050	−0.126	0.205	−0.191	0.121
パターン2	「外出」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	−0.052	0.122	−0.075	−0.032	0.082	−0.036
パターン3	共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「訴え受容会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	0.485 **	−0.135	−0.039	−0.127	−0.145	−0.108
パターン4	「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替え品を提供」も多い平均5.7項目の組み合わせ	0.003	−0.013	−0.018	0.040	0.054	−0.092
パターン5	「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	0.248 *	0.035	−0.020	−0.134	−0.132	−0.016
パターン6	「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の4項目を共通ベースにして「おやつや代替え品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	−0.140	−0.123	0.085	0.141	−0.004	0.046
パターン7	「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替え品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	−0.169	0.128	0.055	0.092	−0.146	0.068
パターン8	「訴えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	−0.136	−0.115	−0.010	0.021	0.168	0.111
パターン9	「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとして平均11.9項目と最多で多種多様な組み合わせ	0.122	−0.069	−0.090	−0.076	0.022	0.124
パターン10	「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の4項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	−0.127	0.029	0.040	−0.105	0.235 *	−0.081
パターン11	「スタッフが一緒に食事をとる」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の3項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	−0.108	0.072	−0.078	−0.095	0.284 *	−0.069
パターン12	「おやつや代替え品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の4項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ	−0.107	−0.086	0.400 **	−0.095	−0.094	−0.069

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－２－４－７）　食事過剰要求の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン１“自立、中程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況					
			食事の時間まで待てるようになった	食べ物の要求は無くなってきた	食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった	要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった	食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった	自分の食事で満足するようになった
全体		74	13.5	18.9	16.2	24.3	17.6	25.7
パターン1	「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	11	19.0	0.3	18.8	9.7	35.6	26.1
パターン2	「外出」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	13	6.9	23.6	23.7	15.2	15.1	30.7
パターン3	共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「訴え受容会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	6	0.0	0.2	0.0	30.3	2.7	82.0
パターン4	「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替え品を提供」も多い平均5.7項目の組み合わせ	9	11.7	21.6	13.5	21.4	21.4	21.1
パターン5	「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	5	23.4	0.0	18.9	21.7	0.0	54.8
パターン6	「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の4項目を共通ベースにして「おやつや代替え品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	6	13.2	17.9	0.1	33.1	35.6	18.1
パターン7	「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替え品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	7	28.9	14.5	42.5	28.5	28.9	0.0
パターン8	「訴えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	5	19.8	38.7	0.0	20.5	20.3	1.2
パターン9	外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとして平均11.9項目と最多で多種多様な組み合わせ	2	49.9	49.8	0.2	0.0	0.1	49.7
パターン10	外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の4項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	4	0.0	51.8	18.9	28.3	1.1	0.0
パターン11	「スタッフが一緒に食事をとる」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の3項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	3	0.0	66.6	33.3	33.3	0.0	0.1
パターン12	「おやつや代替え品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の4項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

（注）高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
潜在クラス帰属確率による集計

（表２－２－４－８）　食事過剰要求の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン２“一部介助、中高程度重症度”の場合）

（n=37）

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン					
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
		自分の食事で満足するようになった	人のお膳を食べまわらなくなった	要求も穏やかになった	食べ物の要求までの時間間隔が長くなった	食べ物の要求がなくなった	食事時間まで待てるようになった
パターン1	「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	0.063	−0.054	−0.213	−0.161	0.371 *	0.159
パターン2	「外出」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	0.032	−0.048	0.079	0.079	−0.105	−0.085
パターン3	共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「訴え受容会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	0.056	−0.036	−0.158	0.016	0.235	−0.081
パターン4	「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替え品を提供」も多い 平均5.7項目の組み合わせ	−0.020	0.042	0.291	−0.165	−0.125	−0.101
パターン5	「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	−0.110	0.001	0.385 *	−0.142	−0.097	−0.078
パターン6	「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の4項目を共通ベースにして「おやつや代替え品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	0.052	0.248	−0.135	−0.131	−0.088	−0.071
パターン7	「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替え品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	0.093	0.001	−0.136	−0.130	−0.088	0.371 *
パターン8	「訴えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	（事例なし）					
パターン9	「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとして平均11.9項目と最多で多種多様な組み合わせ	−0.185	−0.044	−0.161	0.546 **	−0.104	−0.083
パターン10	「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の4項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	0.142	0.090	−0.074	−0.107	−0.072	−0.058
パターン11	「スタッフが一緒に食事をとる」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の3項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	−0.089	−0.112	0.358 *	−0.052	−0.051	−0.041
パターン12	「おやつや代替え品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の4項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ	−0.087	−0.115	−0.076	0.379 *	−0.050	−0.040

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－２－４－９）　食事過剰要求の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン２“一部介助、中高程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況					
			食事の時間まで待てるようになった	食べ物の要求は無くなってきた	食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった	要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった	食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった	自分の食事で満足するようになった
全体		37	10.8	13.5	37.8	21.6	18.9	27.0
パターン1	「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	7	17.2	27.9	32.2	13.7	4.7	27.4
パターン2	「外出」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の４項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	4	0.0	0.0	26.0	24.8	24.6	24.7
パターン3	共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「訴え受容会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	4	18.1	26.8	45.6	0.0	18.0	27.6
パターン4	「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替え品を提供」も多い平均5.7項目の組み合わせ	5	0.0	0.0	37.1	41.9	3.1	19.2
パターン5	「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	3	0.3	0.3	32.5	59.8	0.3	7.7
パターン6	「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の４項目を共通ベースにして「おやつや代替え品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	3	0.0	0.0	71.8	0.1	0.1	28.2
パターン7	「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替え品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	3	33.6	0.0	32.6	0.0	0.3	33.6
パターン8	「訴えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン9	外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の４項目を共通ベースとして平均11.9項目と最多で多種多様な組み合わせ	4	25.1	50.5	51.9	0.0	73.4	50.5
パターン10	外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の４項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	2	0.0	0.0	49.9	49.8	0.1	50.0
パターン11	「スタッフが一緒に食事をとる」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の３項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	1	0.0	0.0	1.5	98.2	98.4	0.0
パターン12	「おやつや代替え品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の４項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

（注）高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法の制約上の配慮）
潜在クラス帰属確率による集計

（表２－２－５－１）　解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
計（延解決方法件数）			795	100.0
認知能力	1	認知機能	35	4.4
	2	認知症の種類	4	0.5
	3	認知症の症状	46	5.8
健康面	5	体調	51	6.4
	6	現病・既往歴	21	2.6
	7	排泄状況	15	1.9
	8	水分状態	29	3.6
	9	視力・視覚機能	18	2.3
	10	体重・BMI	25	3.1
	11	運動量	36	4.5
	12	睡眠時間・状況	9	1.1
	13	手指腕の機能	15	1.9
口腔機能	14	口腔状況	4	0.5
	15	咀嚼力	13	1.6
	16	嚥下状態・誤嚥	19	2.4
心理面	17	気分	181	22.8
	18	心配ごと・不満状況	58	7.3
	19	本人の気持ち、意志	150	18.9
食事関係	20	食の嗜好・興味・意欲	97	12.2
	21	最近の食事量	46	5.8
	22	当日の食事量・おやつ量	68	8.6
	23	満腹感、空腹感	106	13.3
	24	食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)	28	3.5
	25	盛付	37	4.7
	26	食器の配置	19	2.4
	27	食器の大きさ	32	4.0
	28	食器の色	3	0.4
食事中の状態	29	食中の様子	91	11.4
	30	姿勢	11	1.4
	31	目線	39	4.9
	32	食事中の会話	77	9.7
	33	表情	77	9.7
習慣	34	最近の食習慣	34	4.3
	35	生活習慣(ここ数年)	65	8.2
	36	生活歴(幼少期から)	48	6.0
環境	37	周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)	63	7.9
	38	席の位置	69	8.7
	39	椅子・机の形	3	0.4
	40	椅子・机の高さ	4	0.5
	41	椅子・机の色	1	0.1
人間関係	42	他の入居者との関係	136	17.1
	43	スタッフとの関係	146	18.4
	44	家族関係	10	1.3
介護者の対応	45	スタッフの声かけ内容・見守り方	280	35.2
その他	46	その他	22	2.8

（参考）平均記入項目数 →　2.9

（表２－２－５－２）食欲過剰場面の解決に役立った情報の組み合わせパターン

（潜在クラス 17 クラスモデルのプロフィール）

（n=795）

区分	code	解決に役立った情報	全体	パターン1 「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースに、「スタッフとの関係」や「他の入居者との関係」の人間関係を主とした平均2.2項目の組み合わせ	パターン2 「満腹感、空腹感」、「当日の食事量・おやつ量」、「最近の食事量」など食事関係を主にした平均2.5項目の組み合わせ	パターン3 「他の入居者との関係」や「スタッフとの関係」の人間関係、「気分」や「本人の気持ち、意志」の心理面を主にした平均2.3項目の組み合わせ	パターン4 「席の位置」や「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」の環境、「他の入居者との関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などを主にした平均2.9項目の組み合わせ	パターン5 「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースに、心理面、食事中の状態、人間関係を主とした平均3.8項目の組み合わせ	パターン6 「生活習慣（ここ数年）」を共通ベースに、「生活歴（幼少期から）」を含めた習慣、「本人の気持ち、意志」などを主とした平均3.0項目の組み合わせ	パターン7 「食事中の様子」を共通ベースに、「表情」、「食事中の会話」、「目線」を含めた食事中の状態を主とした平均3.4項目の組み合わせ	パターン8 「気分」や「運動量」を主とした平均2.0項目と最少の組み合わせ	パターン9 「本人の気持ち、意志」など心理面、「体調」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」などを主とした平均4.1 項目の組み合わせ	パターン10 「盛付」、「食器の大きさ」、「食の嗜好・興味・意欲」など食事関係を主にした平均3.2項目の組み合わせ	パターン11 「認知機能」、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「食の嗜好・興味・意欲」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などを主とした平均3.9項目の組み合わせ	パターン12 「認知症の症状」を共通ベースに、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「食中の会話」、「気分」を主にした平均3.6項目の組み合わせ	パターン13 「水分状態」を共通ベースに、「排泄状況」を含めた健康面や「満腹感、空腹感」を主にした平均2.5項目の組み合わせ	パターン14 「運動量」を共通ベースに、「体調」や「睡眠時間・状況」などの健康面、心理面などを主にした平均4.0項目の組み合わせ	パターン15 「現病・既往歴」、「体調」などの健康面、認知能力、「本人の気持ち、意志」などを主にした平均3.5項目の組み合わせ	パターン16 「本人の気持ち、意志」や「心配事・不満状況」など心理面を共通ベースに、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などを主にした平均4.3項目と最多の組み合わせ	パターン17 「食の嗜好・興味・意欲」や「満腹感、空腹感」など食事関係を共通ベースに、「スタッフとの関係」、「表情」などを主にした平均4.1項目の組み合わせ
		サイズ	1.000	0.148	0.139	0.113	0.087	0.074	0.071	0.065	0.063	0.038	0.036	0.030	0.030	0.027	0.024	0.019	0.019	0.019
認知能力	1	認知機能	0.044	0.042	0.008	0.000	0.075	0.000	0.036	0.000	0.000	0.041	0.000	0.735	0.000	0.000	0.000	0.221	0.000	0.000
	2	認知症の種類	0.005	0.017	0.000	0.023	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	3	認知症の症状	0.058	0.011	0.000	0.000	0.000	0.000	0.022	0.000	0.046	0.233	0.000	0.000	0.992	0.053	0.123	0.334	0.076	0.069
健康面	5	体調	0.064	0.023	0.000	0.000	0.000	0.000	0.028	0.000	0.115	0.638	0.000	0.000	0.084	0.094	0.525	0.514	0.000	0.000
	6	現病・既往歴	0.026	0.011	0.023	0.000	0.000	0.038	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.173	0.054	0.046	0.000	0.572	0.000	0.000
	7	排泄状況	0.019	0.000	0.030	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.494	0.053	0.000	0.000	0.000
	8	水分状態	0.037	0.017	0.024	0.000	0.000	0.000	0.019	0.000	0.000	0.174	0.000	0.000	0.000	0.831	0.000	0.000	0.000	0.000
	9	視力・視覚機能	0.023	0.007	0.000	0.000	0.017	0.000	0.000	0.000	0.000	0.234	0.000	0.337	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.068
	10	体重・BMI	0.031	0.000	0.064	0.000	0.023	0.006	0.000	0.020	0.000	0.000	0.063	0.000	0.085	0.134	0.264	0.207	0.000	0.001
	11	運動量	0.045	0.014	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.274	0.044	0.000	0.000	0.000	0.107	0.822	0.074	0.000	0.000
	12	睡眠時間・状況	0.011	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.027	0.048	0.315	0.081	0.000	0.000
	13	手指腕の機能	0.019	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.127	0.000	0.084	0.177	0.042	0.000	0.053	0.000	0.000	0.000
口腔機能	14	口腔状況	0.005	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.019	0.000	0.000	0.035	0.084	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	15	咀嚼力	0.016	0.009	0.055	0.000	0.000	0.000	0.000	0.052	0.021	0.033	0.042	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	16	嚥下状態・誤嚥	0.024	0.008	0.060	0.000	0.000	0.000	0.000	0.096	0.015	0.000	0.063	0.000	0.000	0.000	0.000	0.200	0.000	0.063
心理面	17	気分	0.228	0.095	0.029	0.467	0.122	0.272	0.054	0.163	0.617	0.437	0.001	0.450	0.412	0.102	0.431	0.001	0.718	0.215
	18	心配ごと・不満状況	0.073	0.045	0.030	0.166	0.000	0.000	0.107	0.042	0.043	0.040	0.000	0.047	0.000	0.000	0.458	0.000	0.801	0.071
	19	本人の気持ち、意志	0.189	0.001	0.092	0.231	0.109	0.492	0.232	0.096	0.092	0.505	0.087	0.451	0.173	0.001	0.371	0.356	0.900	0.125
食事関係	20	食の嗜好・興味・意欲	0.122	0.001	0.160	0.128	0.050	0.204	0.130	0.000	0.001	0.000	0.370	0.464	0.126	0.042	0.108	0.001	0.211	0.968
	21	最近の食事量	0.058	0.000	0.258	0.003	0.013	0.042	0.041	0.101	0.000	0.034	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.216	0.067	0.069
	22	当日の食事量・おやつ量	0.086	0.000	0.418	0.000	0.000	0.148	0.000	0.061	0.000	0.000	0.000	0.087	0.043	0.001	0.000	0.078	0.000	0.388
	23	満腹感、空腹感	0.133	0.063	0.548	0.017	0.000	0.102	0.000	0.000	0.039	0.000	0.000	0.001	0.000	0.302	0.210	0.201	0.069	0.943
	24	食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)	0.035	0.009	0.141	0.000	0.000	0.000	0.000	0.040	0.000	0.000	0.286	0.000	0.000	0.000	0.000	0.072	0.000	0.000
	25	盛付	0.047	0.000	0.153	0.000	0.000	0.039	0.000	0.000	0.000	0.000	0.490	0.157	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001
	26	食器の配置	0.024	0.025	0.000	0.012	0.072	0.000	0.035	0.020	0.000	0.000	0.210	0.000	0.042	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	27	食器の大きさ	0.040	0.000	0.118	0.000	0.016	0.000	0.035	0.000	0.027	0.000	0.429	0.000	0.000	0.098	0.000	0.000	0.000	0.000
	28	食器の色	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.104	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
食事中の状態	29	食中の様子	0.115	0.073	0.063	0.000	0.114	0.142	0.043	0.849	0.000	0.000	0.055	0.178	0.167	0.000	0.000	0.001	0.218	0.001
	30	姿勢	0.014	0.000	0.009	0.000	0.000	0.000	0.000	0.118	0.058	0.000	0.035	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	31	目線	0.049	0.025	0.039	0.000	0.037	0.000	0.000	0.334	0.043	0.188	0.145	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	32	食事中の会話	0.097	0.083	0.000	0.123	0.062	0.300	0.056	0.346	0.000	0.000	0.047	0.000	0.465	0.000	0.000	0.000	0.001	0.073
	33	表情	0.097	0.035	0.065	0.036	0.052	0.343	0.057	0.444	0.000	0.227	0.000	0.000	0.057	0.000	0.000	0.000	0.001	0.305
習慣	34	最近の食習慣	0.043	0.000	0.055	0.032	0.022	0.176	0.145	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.051	0.000	0.268	0.000	0.000
	35	生活習慣（ここ数年）	0.082	0.000	0.000	0.001	0.041	0.129	0.772	0.000	0.098	0.129	0.086	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	36	生活歴（幼少期から）	0.060	0.052	0.000	0.000	0.057	0.000	0.483	0.000	0.070	0.000	0.113	0.045	0.000	0.000	0.000	0.000	0.068	0.136
環境	37	周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）	0.079	0.003	0.000	0.090	0.352	0.000	0.034	0.022	0.195	0.098	0.149	0.097	0.058	0.000	0.000	0.000	0.233	0.203
	38	席の位置	0.087	0.020	0.000	0.000	0.730	0.000	0.000	0.149	0.000	0.000	0.082	0.000	0.127	0.000	0.000	0.072	0.129	0.000
	39	椅子・机の形	0.004	0.000	0.000	0.000	0.021	0.000	0.000	0.011	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.067	0.000
	40	椅子・机の高さ	0.005	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.039	0.000	0.033	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.067	0.000
	41	椅子・机の色	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.067	0.000
人間関係	42	他の入居者との関係	0.171	0.220	0.000	0.450	0.491	0.145	0.169	0.156	0.097	0.001	0.000	0.001	0.118	0.001	0.058	0.001	0.003	0.065
	43	スタッフとの関係	0.184	0.309	0.000	0.409	0.128	0.438	0.165	0.104	0.057	0.493	0.000	0.001	0.001	0.051	0.001	0.001	0.001	0.347
	44	家族関係	0.013	0.016	0.000	0.012	0.000	0.000	0.105	0.000	0.000	0.000	0.041	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
介護者の対応	45	スタッフの声かけ内容・見守り方	0.352	0.998	0.074	0.143	0.331	0.777	0.204	0.116	0.005	0.497	0.154	0.408	0.541	0.046	0.232	0.002	0.557	0.006
		（参考）選択された平均項目数 →	2.9	2.2	2.5	2.3	2.9	3.8	3.0	3.4	2.0	4.1	3.2	3.9	3.6	2.5	4.0	3.5	4.3	4.1
		該当事例数 →	(795)	(118)	(111)	(90)	(69)	(58)	(56)	(52)	(50)	(30)	(29)	(24)	(24)	(22)	(19)	(15)	(15)	(15)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－２－５－３）潜在クラスモデル評価（情報の組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1（クラス数1）	15084.9	14879.0	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2（クラス数2）	14922.6	14506.2	0.073	0.752	0.696	0.737
モデル3（クラス数3）	14998.6	14371.7	0.103	0.737	0.703	0.719
モデル4（クラス数4）	15135.0	14297.6	0.152	0.728	0.691	0.681
モデル5（クラス数5）	15308.7	14260.7	0.142	0.734	0.729	0.710
モデル6（クラス数6）	15488.3	14229.8	0.159	0.751	0.735	0.710
モデル7（クラス数7）	15712.9	14243.9	0.180	0.721	0.726	0.677
モデル8（クラス数8）	15892.6	14213.1	0.183	0.748	0.743	0.691
モデル9（クラス数9）	16136.6	14246.5	0.196	0.753	0.746	0.681
モデル 10（クラス数 10）	16363.1	14262.5	0.188	0.749	0.754	0.693
モデル 11（クラス数 11）	16592.0	14280.9	0.155	0.815	0.796	0.740
モデル 12（クラス数 12）	16840.2	14318.6	0.185	0.775	0.788	0.712
モデル 13（クラス数 13）	17117.5	14385.4	0.184	0.766	0.770	0.702
モデル 14（クラス数 14）	17325.3	14382.7	0.176	0.793	0.790	0.720
モデル 15（クラス数 15）	17553.8	14400.6	0.162	0.812	0.813	0.743
モデル 16（クラス数 16）	17797.9	14434.2	0.164	0.806	0.815	0.738
モデル 17（クラス数 17）	18075.2	14500.9	0.155	0.818	0.822	0.752
モデル 18（クラス数 18）	18359.9	14575.1	0.169	0.807	0.822	0.740
モデル 19（クラス数 19）	18589.9	14594.6	0.177	0.797	0.825	0.736

（表２－２－５－４）情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

区分	code	解決方法	合計	情報の組み合わせパターン																
				パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17
				「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースに、「スタッフとの関係」や「他の入居者との関係」の人間関係を主とした平均2.2項目の組み合わせ	「満腹感、空腹感」、「当日の食事量・おやつ量」、「最近の食事量」など食事関係を主にした平均2.5項目の組み合わせ	「他の入居者との関係」や「スタッフとの関係」の人間関係、「気分」や「本人の気持ち、意志」の心理面を主にした平均2.3項目の組み合わせ	「席の位置」や「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」の環境、「他の入居者との関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などを主にした平均2.9項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースに、心理面、食事中の状態、人間関係を主とした平均3.8項目の組み合わせ	「生活習慣（こ数年）」を共通ベースに、「生活歴（幼少期から）」を含めた習慣、「本人の気持ち、意志」などを主とした平均3.0項目の組み合わせ	「食事中の様子」を共通ベースに、「表情」、「食事中の会話」、「目線」を含めた食事中の状態を主とした平均3.4項目の組み合わせ	「気分」や「運動量」を主とした平均2.0項目と最少の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」など心理面、「体調」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」などを主とした平均4.1項目の組み合わせ	「盛付」、「食器の大きさ」、「食の嗜好・興味・意欲」など食事関係を主にした平均3.2項目の組み合わせ	「認知機能」、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「食の嗜好・興味・意欲」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などを主とした平均3.9項目の組み合わせ	「認知症の症状」を共通ベースに、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「食虫の会話」、「気分」を主にした平均3.6項目の組み合わせ	「水分状態」を共通ベースに、「排泄状況」を含めた健康面や「満腹感、空腹感」を主にした平均2.5項目の組み合わせ	「運動量」を共通ベースに、「体調」や「睡眠時間・状況」などの健康面、心理面などを主にした平均4.0項目の組み合わせ	「現病・既往歴」、「体調」などの健康面、認知能力、「本人の気持ち、意志」などを主にした平均3.5項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」や「心配事・不満状況」など心理面を共通ベースに、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などを主にした平均4.3項目と最多の組み合わせ	「食の嗜好・興味・意欲」や「満腹感、空腹感」など食事関係を共通ベースに、「スタッフとの関係」、「表情」などを主にした平均4.1項目の組み合わせ
延べ方法件数 一			795	118	111	90	69	58	56	52	50	30	29	24	24	22	19	15	15	15
食事環境の調整	101	隣の席から離れる	5.9	1.0	0.1	6.7	29.9	0.8	5.1	12.9	2.7	0.3	11.4	0.2	16.7	0.0	0.1	0.1	2.0	0.0
	102	席の変更	6.4	6.3	0.2	4.5	35.2	1.2	3.5	10.8	4.1	0.0	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	7.2	21.2	0.0
	104	仲の良い人の隣に座った	0.3	0.0	0.0	0.6	1.5	0.2	0.1	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	105	テーブル、椅子の調整	0.1	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	106	好きな音楽を流す	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	190	その他	0.3	0.0	0.0	1.1	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
食事の工夫	201	低カロリーにして大盛りにした	3.5	0.6	15.4	0.7	0.0	3.1	0.5	1.4	0.7	0.0	4.9	0.1	4.1	0.9	11.2	3.7	0.2	6.9
	202	カロリーを考慮し、好きなおかず数を増加	2.3	0.0	9.7	0.3	0.9	2.5	0.1	0.1	0.4	3.4	3.6	4.3	0.0	0.1	0.4	0.3	0.0	9.4
	203	摂取状態に応じた食材形態変更	1.9	0.0	6.1	0.2	0.1	0.4	1.3	5.2	0.4	0.0	6.9	4.2	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	1.0
	204	おやつや代替え品を提供	8.8	4.3	20.2	7.3	0.5	12.2	10.3	2.1	5.0	3.2	1.2	5.5	17.3	1.1	15.4	15.7	14.8	32.2
	206	水分の摂取を増やす	7.8	5.0	16.1	4.2	0.6	10.2	9.1	0.5	0.5	1.3	3.9	0.2	0.0	87.9	5.4	2.1	0.2	3.6
	207	低カロリーの間食や夜食の提供	3.0	2.1	9.0	2.2	0.1	3.4	3.5	0.0	0.1	0.0	0.5	0.6	4.2	0.7	5.7	14.8	0.5	5.1
	208	食器を小さくし、おかわりを増やす、食事数を増やす	4.0	0.6	8.1	0.6	0.2	5.4	2.2	1.2	5.0	3.5	40.8	4.5	0.0	0.9	0.0	0.2	0.4	0.0
	209	スプーンを小さくする	0.8	0.0	2.3	0.3	0.1	0.0	0.1	0.2	4.4	0.0	1.9	0.2	0.0	0.4	0.0	0.1	0.0	0.0
	210	配膳、下膳のタイミングを調整した	1.1	1.6	0.0	1.4	1.8	1.3	0.2	5.0	0.1	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	211	盛りつけの工夫	0.8	0.0	1.5	1.6	0.4	0.4	0.1	0.0	0.2	0.0	1.4	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3
	212	好きなものを提供	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	215	食事時間の調整	0.3	0.8	0.3	0.0	0.1	0.1	0.0	0.5	0.4	0.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	290	その他	0.5	0.8	1.0	0.0	0.0	0.2	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0
声かけや会話の工夫	301	スタッフが一緒に食事をとる	10.6	25.2	1.9	7.4	4.7	18.9	5.1	22.0	3.4	7.0	4.7	7.3	28.3	0.4	0.2	8.0	7.3	7.2
	302	訴えを受容し、会話を多くする	8.2	14.7	0.4	16.0	1.6	11.5	6.8	11.2	3.0	14.6	0.2	13.2	10.3	0.2	6.4	0.7	10.7	6.9
	303	待ってねと声かけ	2.5	6.1	0.1	3.4	1.8	3.1	2.0	7.0	0.4	2.0	0.1	0.0	1.2	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
	304	別の場所へ移動し会話する	1.3	1.3	0.0	5.0	1.9	0.4	0.3	0.1	2.3	0.2	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	6.4	0.0
	305	味の感想を伺う	5.3	3.7	4.5	4.8	0.6	9.0	5.9	11.8	0.3	0.2	10.0	9.2	0.2	0.2	0.1	13.1	13.4	27.0
	306	食事以外の話をする	2.5	4.9	0.1	1.5	0.2	1.6	5.8	0.0	3.5	14.3	0.1	0.2	7.7	0.1	0.6	1.6	1.3	0.0
	308	着席のタイミングを調整した	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	1.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	309	声かけをやめ、静かにする	0.1	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	310	食事時間の確認や説明を丁寧にする	0.6	0.8	0.0	1.4	0.0	0.0	0.5	0.0	1.1	0.1	0.0	0.1	2.7	0.2	0.6	1.5	5.6	0.0
	390	その他	0.5	0.7	1.1	0.4	0.2	0.1	0.1	0.0	2.3	0.3	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0	0.1	0.0	0.0
活動の工夫	401	食後のレクリエーション活動への誘導	5.3	5.5	0.1	11.0	3.7	2.1	6.4	0.1	19.3	4.7	0.2	8.8	0.0	0.5	18.6	6.9	0.6	0.0
	402	外出	7.5	7.3	0.1	12.4	3.6	4.9	7.0	0.5	24.3	26.8	0.5	1.0	0.0	0.9	34.6	6.9	13.8	0.0
	403	興味のあるものを提供	2.1	2.0	0.0	0.8	1.3	0.1	11.9	0.1	5.7	4.3	1.0	4.4	2.9	0.1	0.1	0.5	0.2	0.0
	404	計算ドリル	0.9	0.8	0.0	0.9	1.5	0.1	0.0	0.0	2.2	3.5	0.0	8.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	405	役割	0.5	0.7	0.0	0.4	0.1	0.0	1.0	0.0	1.7	4.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	407	配膳、下膳を手伝ってもらう	0.3	0.0	0.0	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	2.2	0.1	0.0	0.8	0.0	0.0	0.1	0.0	0.5	0.0
	408	買い物につきあってもらう	0.5	0.8	0.0	0.9	0.1	2.6	0.1	0.0	0.5	0.9	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.5	0.0
	409	食事の準備や調理、片づけに参加してもらう	0.6	0.0	0.0	0.4	0.1	1.1	3.7	0.0	1.1	0.8	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	490	その他	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	501	献立の掲示や説明	1.8	1.4	0.8	1.0	5.0	1.5	2.1	1.6	0.4	0.8	1.8	13.7	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2
	503	体重の管理	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	506	食べ物を視野から取り除く	0.3	0.8	0.0	0.0	0.0	0.1	1.5	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	590	その他	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	1.9	0.2	0.0	0.1	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－２－６－１）絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	そのままにして放っておく	否定・指示・命令的な声かけ	食べるだけ食べさせ、過剰に摂取させる	批判する	大きな声で、いらいらした気持ちで受け答えする	その他
実数	189	168	176	159	159	169	18
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	88.9	93.1	84.1	84.1	89.4	9.5

２．食事拒否への成功事例調査

１）回答者属性

本調査の回答 266 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

（１）年齢

有効回答 258 件における回答者の平均年齢は、42.9 歳（SD12.8 歳）で最少年齢が 18 歳、最高年齢が 90 歳であった。その分布をみると、25 歳から 59 歳までほぼ均等にばらついている（35 歳～39 歳がやや少ない）。（表２－３－１－１参照）

（２）性別割合

有効回答 263 件中、回答者の性別割合は男性が 76 件（28.6%）、女性が 187 件（71.1%）と女性の割合が多かった。（表２－３－１－２参照）

（３）職名の割合

有効回答 246 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 102 件（41.5%）、ケアマネージャーが 77 件（31.3%）、看護師が 20 件（8.1%）、相談員が 5 件（2.0%）となっている。（表２－３－１－３参照）

（４）役職の割合

有効回答 254 件中、回答者の役職の割合は管理者が 92 件（36.2%）、主任・リーダーが 65 件(25.6%)、施設長が 26 件(10.2%)、事務長と理事長が各 1 件(0.4%)で、79 件（31.1%）が役職なしであった。（表２－３－１－４参照）

（５）資格の所有割合

有効回答 260 件中、回答者の資格の所有割合は介護福祉士が 176 件（67.7%）、ケアマネージャーが 88 件（33.8%）、ヘルパーが 87 件（33.5%）、看護師（准看護師）が 24 件（9.2%）、社会福祉士が 12 件（4.6%）であった。（表２－３－１－５参照）

（６）所属事業種の割合

有効回答 261 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 248 件(95.0%)、介護老人福祉施設と介護老人福祉施設(ユニット型)が各 4 件(1.5%)、小規模多機能型通所介護事業が 3 件（1.1%）であった。（表２－３－１－６参照）

（７）所属事業所での勤続年数

有効回答 266 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.0 年（SD2.4 年）で最少が 0.1 年、最高が 14.8 年であった。（表２－３－１－７参照）

（８）総介護経験年数

有効回答 263 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、8.5 年（SD5.3 年）で最少が 0.7 年、最高が 42.7 年であった。（表２－３－１－８参照）

２）食事拒否の解決経験

本調査に回答を得た 266 件における食事拒否の解決経験、解決した高齢者に関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とＡＤＬ、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

（１）解決経験の有無

有効回答 262 件中、食事拒否で解決経験があるのは 255 件（97.3%）であった。（表２－３－２－１参照）

（２）高齢者の状態

①　年齢

解決経験がある 255 件のうち有効回答 242 件における高齢者の平均年齢は、84.5 歳（SD6.1 歳）で最少年齢が 65 歳、最高年齢が 97 歳であった。その分布をみると、80 歳～84 歳が 74 件（30.6%）で最も多い。（表２－３－２－２参照）

⑥　性別

性別割合は、有効回答 249 件中、男性が 47 件（18.9%）、女性が 202 件（81.1%）と女性が多い。（表２－３－２－３参照）

③　認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 243 件中、アルツハイマー型が 146 件（60.1%）、脳血管疾患型が 56 件（23.0%）、前頭側頭型が 2 件（0.8%）、混合が 17 件（7.0%）であった。（表２－３－２－４参照）

④　身体機能の障害とＡＤＬ

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 255 件中、下肢が 78 件（30.6%）、体幹が 11 件（4.3%）、上肢が 3 件（1.2%）であり、残りの 163 件（63.9%）が機能障害なし（＝無回答）であった。（表２－３－２－５参照）

【食事介助】

食事介助は、有効回答 246 件中、自立が 150 件（61.0%）、一部介助が 80 件（32.5%）、全介助が 16 件（6.5%）であった。（表２－３－２－６参照）

【移動】

移動は、有効回答 196 件中、短距離歩行自立が 116 件（59.2%）、長距離歩行自立が 52 件（26.5%）、杖自立が 25 件（12.8%）であった。（表２－３－２－７参照）

【排泄】

排泄は、有効回答 225 件中、身体介助必要が 144 件（64.0%）、身体介助必要なしが 79 件（35.1%）であった。（表２－３－２－８参照）

【入浴】

入浴は、有効回答 250 件中、洗身洗髪介助が 92 件（36.8%）、移動介助が 49

件（19.6%）、全介助が 23 件（9.2%）、その他一部介助が 70 件（28.0%）で、自立が 16 件（6.4%）であった。（表２－３－２－９参照）

③　認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 250 件中、ランクⅠが 23 件（9.2%）、ランクⅡが 49 件（19.6%）、ランクⅢが 92 件（36.8%）、ランクⅣが 70 件（28.0%）、ランクⅤが 16 件（6.4%）であった。（表２－３－２－１０参照）

⑥　身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 247 件中、Ｊランクが 22 件（8.9%）、Ａランクが 148 件（59.9%）、Ｂランクが 64 件（25.9%）、Ｃランクが 13 件（5.3%）であった。（表２－３－２－１１参照）

⑦　高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、食事介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析（注 1）を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、食事介助で自立（83.9%）が多く、身体障害の重症度でＡランク（76.4%）が多く、認知症の重症度でランクⅡ（27.9%）、ランクⅢ（46.2%）の中程度が多いことから、これを「自立、中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 217 件のうち 154 件（71.0%）が該当する。

第 2 パターンは、食事介助で一部介助（73.3%）が多く、身体障害の重症度でＢランク（56.0%）とＡランク（29.2%）が多く、認知症の重症度でランクⅣ（66.5%）が多いことから、これを「一部介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 63 件（29.0%）が該当する。（表２－３－２－１２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－３－２－１３参照）

（注 1）潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、食事介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団（これをクラスと呼ぶ）を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル（クラス数）を評価する指標としてＡＩＣやＢＩＣなどの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である（注 2 参照）。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

3）解決前と解決後の変化

食事拒否で解決経験がある 255 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出するとともに、解決前後の関連を分析し、高齢者パターンによる差異も確認した。

（1）解決前の状況

食事拒否が解決される前の状況としては、有効回答 255 件中、「配膳しても手をつけようとしなかった」が 160 件（62.7%）、「食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した」が 71 件（27.8%）、「席に誘導しようとすると拒否した」が 69 件（27.1%）、「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった」が 66 件（25.9%）、「食事の時間になっても食卓につこうとせず、別の場所にいってしまっていた」が 57 件（22.4%）、「居室内でお菓子を食べていた」が 13 件（5.1%）、「食事の時間になっても、床拭きなどの作業をして声かけをし誘っても断った」が 7 件（2.7%）であった。（表２－３－３－１参照）

（2）解決後の状況

食事拒否が解決された後の状況としては、有効回答 251 件中、「声をかけると素直に食べることが多くなった」が 75 件（29.9%）、「時間はかかるが摂取するようになった」が 73 件（29.1%）、「拒否が少なくなり、食べるようになった」が 66 件（26.3%）、「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた」が 65 件（25.9%）、「毎回ではないが食べ始めるようになった」が 41 件（16.3%）、「他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった」が 40 件（15.9%）、「全量完食するようになった」が 31 件（12.4%）、「介助すると口をあけ、食べるようになった」29 件（11.6%）、「自分から食器を持ち食べるようになった」26 件（10.4%）、「食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった」が 18 件（7.2%）であった。（表２－３－３－２参照）

（3）解決前後の関連

解決前後それぞれの項目重複による影響排除のために、パターン化を経て分析することにした。

① 解決前のパターン

パターン化に用いた方法は潜在クラス分析である。

解決前は 6 パターンであり、第 1 は、「配膳しても手をつけようとしなかった」（99.9%）に加えて、「食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した」（22.0%）や「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった」（14.8%）を若干伴っている。これに該当する事例が 90 件（43.9%）であり、“配膳しても手をつけようとしなかった”パターンと表示する。

第 2 は、「席に誘導しようとすると拒否した」（98.7%）に加えて、「配膳して

も手をつけようとしなかった」(38.6%)、「食事の時間になっても食卓につこうとせず、別の場所にいってしまっていた」(25.8%)、「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった」(18.8%) などを伴っている。これに該当する事例が 31 件 (15.1%) であり、“食卓につこうとしなかった”パターンと表示する。

第3は、「食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した」(80.3%) に加えて、「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった」(48.9%) や「配膳しても手をつけようとしなかった」(31.2%) を伴っている。これに該当する事例が 29 件 (14.1%) であり、“介助しても食べようとしなかった”パターンと表示する。

第4は、「席に誘導しようとすると拒否した」(98.5%) に加えて、「配膳しても手をつけようとしなかった」(73.1%)、「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった」(67.8%)、「食事の時間になっても食卓につこうとせず、別の場所にいってしまっていた」(63.1%)、「食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した」(52.3%) など平均 3.7 項目の多様な状況を伴っている。これに該当する事例が 28 件 (13.7%) であり、“複合的食卓誘導拒否”パターンと表示する。

第 5 は「食事の時間になっても食卓につこうとせず、別の場所にいってしまっていた」(98.6%) に加えて、「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった」(19.4%) や「配膳しても手をつけようとしなかった」(11.0%) を伴っている。これに該当する事例が 18 件 (8.8%) であり、“食卓以外の別の場所にいっていた”パターンと表示する。

第 6 は「居室内でお菓子を食べていた」(95.4%) に加えて、「配膳しても手をつけようとしなかった」(38.6%) や「食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した」(25.7%) を伴っている。これに該当する事例が 8 件 (3.9%) であり、“居室内でお菓子を食べていた”パターンと表示する。(表２－３－３－３参照)

なお潜在クラスモデルの評価に際しては、4 クラスから 6 クラスまで 3 種モデルの情報量規準のＡＩＣが僅差のため、クラスの解釈が最も妥当と判断される 6 クラスモデルを採用した。(表２－３－３－４参照)

② 解決後のパターン

解決後は 8 パターンであり、第 1 は、「声かけると素直に食べることが多くなった」(79.7%) に加えて、「全量完食するようになった」(31.6%) や「自分から食器を持ち食べるようになった」(26.1%) などを伴っている。これに該当する事例が 46 件 (22.4%) であり、“声をかけると素直に食べることが多くなった”パターンと表示する。

第 2 は、「時間はかかるが摂取するようになった」(99.1%) に加えて、「声を

かけると素直に食べることが多くなった」(26.0%) や「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた」(17.8%) などを伴っている。これに該当する事例が 45 件 (22.0%) であり、“時間はかかるが摂取するようになった”パターンと表示する。

第 3 は、「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた」(99.5%) に加えて、「毎回ではないが食べ始めるようになった」(10.5%)、「拒否が少なくなり、食べるようになった」(9.7%) などを伴っている。これに該当する事例が 28 件 (13.7%) であり、“必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた”パターンと表示する。

第 4 は、「毎回ではないが食べ始めるようになった」(75.0%) に加えて、「時間はかかるが摂取するようになった」(23.6%)、「他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった」(22.9%)、「食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった」(17.2%) などを伴っている。これに該当する事例が 28 件 (13.7%) であり、“毎回ではないが食べ始めるようになった”パターンと表示する。

第 5 は、「拒否が少なくなり、食べるようになった」(99.1%) に加えて、「他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった」(15.0%) 他を伴っている。これに該当する事例が 26 件 (12.7%) であり、“拒否が少なくなり、食べるようになった”パターンと表示する。

第 6 は、「介助すると口をあけ、食べるようになった」(92.3%) に加えて、「食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった」(34.0%)、「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた」(27.4%)、「毎回ではないが食べ始めるようになった」(18.6%)、「自分から食器を持ち食べるようになった」(17.5%) などを伴っている。これに該当する事例が 12 件 (5.9%) であり、“介助すると口をあけ、食べるようになった”パターンと表示する。

第 7 は、「拒否が少なくなり、食べるようになった」(98.7%)、「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた」(98.1%)、「他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった」(81.1%) の 3 項目に加えて、「声かけると素直に食べることが多くなった」(61.0%)、「自分から食器を持ち食べるようになった」(44.8%)、「全量完食するようになった」(33.3%) など平均 4.4 項目に及ぶ多様な状況を伴っている。これに該当する事例が 11 件 (5.4%) であり、“拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもでてきた”パターンと表示する。

第 8 は、「時間はかかるが摂取するようになった」(98.7%) と「介助すると口をあけ、食べるようになった」(81.2%) の 2 項目に加えて、「拒否が少なくなり、食べるようになった」(68.5%)、「必ず少しは箸をつけるようになり、全

量摂取することもでてきた」(65.4%)、「声かけると素直に食べることが多くなった」(37.0%)、「毎回ではないが食べ始めるようになった」(32.8%)、「他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった」(23.6%) など平均4.1項目の多様な状況を伴っている。これに該当する事例が 9 件 (4.4%) であり、“介助すると口をあけ、時間はかかるが摂食するようになった”パターンと表示する。(表２－３－３－５参照)

ここでも潜在クラスモデルの評価に際しては、5 クラスから 8 クラスまで 4 種モデルの情報量規準のＡＩＣが僅差のため、クラスの解釈が最も妥当と判断される 8 クラスモデルを採用した。(表２－３－３－６参照)

③　解決前後のパターンの関連

各パターンへの帰属確率の相関によって解決前後の関連分析をした。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では 3 つの変化傾向がみられる。1 つめは、解決前パターン 4 (複合型食卓誘導拒否) が、解決後パターン 8 (介助すると口をあけ、時間はかかるが摂食するようになった) へと変化する傾向であり、有意水準 1%で相関が認められる。

2 つめは、同じく解決前パターン 4 (複合型食卓誘導拒否) が、解決後パターン 7 (拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもでてきた) へと変化する傾向であり、これも有意水準 1%で相関が認められる。

3 つめは、解決前パターン 3 (介助しても食べようとしなかった) が、解決後パターン 4 (毎回ではないが食べ始めるようになった) へと変化する傾向であり、有意水準 5%で相関が認められる。(表２－３－３－７参照)

次に高齢者パターン 1 (自立、中程度重症度) に限定してみると、上記 3 つの傾向のうち 1 つめの解決前パターン 4 (複合型食卓誘導拒否) が、解決後パターン 8 (介助すると口をあけ、時間はかかるが摂食するようになった) へと変化する傾向だけが確認され、他の 2 つの傾向は認められない。(表２－３－３－８参照)

高齢者パターン 2 (一部介助、中高程度重症度) に限定してみると、上記 3 つの傾向を含めて、都合 6 つの傾向が認められる。

上記 3 つの傾向は省略するが、4 つめは、解決前パターン 2 (食卓につこうとしなかった) が、解決後パターン 1 (声かけると素直に食べることが多くなった) へと変化する傾向であり、有意水準 1%で相関が認められる。

5 つめは、解決前パターン 6 (居室内でお菓子を食べていた) が、解決後パターン 2 (時間はかかるが摂取するようになった) へと変化する傾向であり、有意水準 5%で相関が認められる。

6つめは、解決前パターン5（食卓以外の別の場所にいっていた）が、解決後パターン5(拒否が少なくなり、食べるようになった)へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。(表２－３－３－９参照)

このように、解決前後の変化は高齢者パターンによって異なることがわかる。

（４）高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した(注2)。

解決前の状況については、高齢者パターン1（自立、中程度重症度）では「配膳しても手をつけようとしなかった」(69.4%）が際立つものの他の項目はいずれも30%に満たないのに対して、高齢者パターン2（一部介助、中高程度重症度）では「配膳しても手をつけようとしなかった」(61.0%）が高齢者パターン1をやや下回るものの、「食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した」(44.3%）と「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった」(37.7%）がパターン1（自立、中程度重症度）を上回っている。（表２－３－３－１０参照)

解決後の状況については、高齢者パターン1（自立、中程度重症度）では「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた」(30.6%)、「拒否が少なくなり、食べるようになった」(27.1%)、「声をかけると素直に食べることが多くなった」(26.4%)、「時間はかかるが摂取するようになった」(25.7%）の4項目がほぼ同じ割合であるのに対して、高齢者パターン2（一部介助、中高程度重症度）では「時間はかかるが摂取するようになった」(42.6%）と「声をかけると素直に食べることが多くなった」(37.7%）が高齢者パターン1を上回り、「拒否が少なくなり、食べるようになった」(26.2%）と「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた」(24.6%）も高齢者パターン1と同程度であることに加えて、「介助すると口をあけ、食べるようになった」(21.3%）と「全量完食するようになった」(18.0%）が高齢者パターン1を上回っており、介助の必要度合いがより高い高齢者において特徴的な傾向がみられる。(表２－３－３－１１参照)

(注2) 潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス1に対して0.97、クラス2に対して0.03、(全クラスへの帰属確率合計は1.00である）となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

4）食事拒否の解決方法

食事拒否で解決経験がある255件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

（1）解決方法の概況

食事拒否を解決する時に行った解決方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して55分類した。分類結果は、環境調整に関するものが8分類、声かけの工夫に関するものが9分類、誘導の工夫に関するものが7分類、食事の工夫に関するものが15分類、生活のリズムに関するものが9分類、その他が7分類であった。

有効回答253件のなかで多くあがったものは、「本人ペースで声かけ」が181件（71.5%）、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」と「活動量を増やす」が各108件（42.7%）、「コミュニケーションをふやす」が86件（34.0%）、「好きな食べ物を見せる」が78件（30.8%）、「好きな話題で声かけ」が77件（30.4%）、「好きな場所で食事を取る」が75件（29.6%）、「声かけをせず、職員が一緒に」が72件（28.5%）、「好きな献立にする」が63件（24.9%）、「ぐっすり眠ってもらうようにした」が58件（22.9%）、「食事内容、献立の説明」が56件（22.1%）、「家族の話題」が51件（20.2%）などであり、1事例あたり平均6.4項目あげられた。（表２－３－４－１参照）

（2）解決方法の組み合わせパターン

55分類のなかから1事例平均6.4の方法で構成された解決方法を実際の組み合わせに高い確率で近似するパターンを得るために潜在クラス分析を応用した（注3）。

その結果13の組み合わせパターンを得た。

第1パターンは平均3.6項目と最少の組み合わせであり、「本人ペースで声かけ」（73.3%）を主として、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」（32.8%）、「コミュニケーションをふやす」（32.4%）、「活動量を増やす」（25.6%）、「好きな場所で食事を取る」（25.8%）などで構成されている。第1パターンの該当事例は75件（29.6%）である。

第2パターンは平均5.2項目の組み合わせであり、「本人ペースで声かけ」（84.5%）を共通ベースとして、「好きな場所で食事を取る」（63.0%）、「コミュニケーションをふやす」（41.7%）、「一端、休憩」（28.0%）、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」（35.1%）、「好きな食べ物を見せる」（30.3%）、「声かけをせず、職員が一緒に」（31.3%）、「食事内容、献立の説明」（29.1%）などで構成されている。第2パターンに該当する事例は36件（14.2%）である。

第3パターンは平均4.0項目の組み合わせであり、「好きな食べ物を見せる」（59.2%）を主として、「カロリーを考慮し、おやつを提供」（30.5%）と「一端、休憩」（30.2%）などに分散している。第3パターンに該当する事例は22件（8.7%）

である。

第4パターンは平均8.0項目の組み合わせであり、「活動量を増やす」(99.7%)と「本人ペースで声かけ」(81.2%)を共通ベースとして、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」(62.4%)、「好きな食べ物を見せる」(62.3%)、「好きな献立にする」(51.0%)、「声かけをせず、職員が一緒に」、「好きな場所で食事を取る」なども多いのに加えて、「一緒に買い物に行き、好きなメニューにする」(31.7%)、「外出時、外食に誘導」(31.4%)などの“食事の工夫”や、「好きな話題で声かけ」(35.7%)他の“声かけの工夫”などで多く構成されている。第4パターンに該当する事例は16件(6.3%)である。

第5パターンは平均6.6項目の組み合わせであり、「本人ペースで声かけ」(67.8%)、「活動量を増やす」(58.4%)、「食事前にお茶を提供」(58.3%)の3項目を主として、「一端、休憩」(31.5%)、「コミュニケーションをふやす」(26.0%)、「ぐっすり眠ってもらうようにした」(25.4%)など“生活のリズム”や、「水分摂取量を増やした」(29.9%)、「好きな食べ物を見せる」(28.2%)など“食事の工夫”などで構成されている。第5パターンに該当する事例は16件(6.3%)である。

第6パターンは平均9.2項目の組み合わせであり、「好きな食べ物を見せる」(86.2%)と「本人ペースで声かけ」(80.5%)を共通ベースにして、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」(65.8%)、「カロリーを考慮し、おやつを提供」(63.1%)、「外出時、外食に誘導」(51.7%)、「一端、休憩」(58.2%)、「生活のリズム調整」(52.8%)、「好きな話題で声かけ」(57.4%)なども多く、“食事の工夫”、“声かけの工夫”、“生活のリズム”など多様に構成されている。第6パターンに該当する事例は16件(6.3%)である。

第7パターンは平均14.7項目と最多の組み合わせであり、「本人ペースで声かけ」(99.9%)、「食事前からこまめに声かけ」(85.8%)、「食事内容、献立の説明」(99.6%)、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」(79.3%)の4項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」(73.1%)、「家族の話題」(59.4%)、「好きな食べ物を見せる」(73.1%)、「好きな献立にする」(59.9%)、「活動量を増やす」(72.6%)、「生活のリズム調整」(52.8%)、「ぐっすり眠ってもらうようにした」(52.6%)、「好きな場所で食事を取る」(72.9%)、「食事前にお茶を提供」(59.0%)なども多く、“声かけの工夫”、“食事の工夫”、“生活のリズム”、“誘導の工夫”、“環境調整”と全般的に構成されている。第7パターンに該当する事例は15件(5.9%)である。

第8パターンは平均8.6項目の組み合わせであり、「ぐっすり眠ってもらうようにした」(99.5%)、「コミュニケーションをふやす」(75.2%)、「本人ペースで声かけ」(93.8%)、「声かけをせず、職員が一緒に」(79.1%)、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」(85.4%)の5項目を共通ベースとして、「活動量を増やす」

(57.8%)、「好きな話題で声かけ」(53.4%)、「好きな食べ物を見せる」(53.7%)の3項目も多く、“声かけの工夫”、“食事の工夫”、“生活のリズム”の3分野にウェイトをおいて構成されている。第8パターンに該当する事例は14件(5.5%)である。

第9パターンは平均8.9項目の組み合わせであり、「活動量を増やす」(99.6%)と「食べやすいよう、盛りつけを工夫」(80.3%)を共通ベースとして、「水分摂取量を増やした」(66.6%)、「ぐっすり眠ってもらうようにした」(57.1%)、「本人ペースで声かけ」(67.4%)、「少人数席に変更」(50.2%)の4項目も多く、「声かけをせず、職員が一緒に」(49.8%)、「好きな話題で声かけ」(49.5%)、「家族の話題」(41.8%)など“声かけの工夫”も多く構成されている。第9パターンに該当する事例は10件(4.0%)である。

第10パターンは平均5.3項目の組み合わせであり、「調理を手伝う」(86.5%)を共通ベースとして、「配膳をしてもらう」(54.7%)と「好きな献立にする」(65.2%)も多く、「活動量を増やす」(44.9%)、「ぐっすり眠ってもらうようにした」(33.0%)、「食事内容、献立の説明」(32.9%)、「食事メンバー」(32.8%)などで構成される。第10パターンに該当する事例は9件(3.6%)である。

第11パターンは平均7.3項目の組み合わせであり、「本人ペースで声かけ」(99.7%)、「活動量を増やす」(86.4%)、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」(85.8%)の3項目を共通ベースとして、「食事メンバー」(73.8%)と「コミュニケーションをふやす」(62.1%)も多く、「好きな話題で声かけ」(49.5%)、「ぐっすり眠ってもらうようにした」(36.9%)、「食事内容、献立の説明」(36.3%)、「好きな食べ物を見せる」(25.4%)などで構成される。第11パターンに該当する事例は8件(3.2%)である。

第12パターンは平均8.4項目の組み合わせであり、「本人ペースで声かけ」(99.7%)、「コミュニケーションをふやす」(87.2%)、「活動量を増やす」(86.1%)、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」(86.4%)の4項目を共通ベースとして、「声かけをせず、職員が一緒に」(74.2%)も多く、「家族の話題」(49.2%)、「食事前からこまめに声かけ」(37.3%)、「席位置の変更」(49.5%)、「食事内容、献立の説明」(37.4%)、「調理を手伝う」(36.8%)、「水分摂取量を増やした」(49.1%)、「ぐっすり眠ってもらうようにした」(25.1%)などで構成されている。第12パターンに該当する事例は8件(3.2%)である。

第13パターンは平均9.8項目の組み合わせであり、「活動量を増やす」(85.3%)を共通ベースとして、「カロリーを考慮し、おやつを提供」(70.9%)、「好きな献立にする」(70.1%)、「食材の形態、色等の工夫」(55.7%)、「好きな食べ物を見せる」(56.3%)、「本人ペースで声かけ」(70.7%)、「食事メンバー」(69.7%)なども多く、“声かけの工夫”、“食事の工夫”、“生活のリズム”、“誘導の工夫”などの分野にウェイトをおいて構成されている。第13パターンに該当する事例は7件

（2.8%）である。（表２－３－４－２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－３－４－３参照）

（注 3）組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は（注 1）に示したような局所独立を仮定して異質な部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold”が算出する“Classification Statistics”（分類精度情報）の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。

（３）解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、13 の組み合わせパターンと解決後の状況との関連を分析した。

まず、解決方法の組み合わせ 13 パターンと解決後の 8 パターンの帰属確率による相関分析を行うと、7 通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 7 と解決後パターン 7 の相関が有意水準１％で認められる。解決方法パターン 7 は、“「本人ペースで声かけ」、「食事前からこまめに声かけ」、「食事内容、献立の説明」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」の 4 項目を共通ベースにした平均 14.7 項目と最多の組み合わせ”であり、これらの多様な方法が、解決後パターン 7 の“拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもでてきた”という結果に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 6 と解決後パターン 8 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 6 は、“「好きな食べ物を見せる」と「本人ペースで声かけ」を共通ベースにした平均 9.2 項目の多様な組み合わせ”であり、これらの多様な方法が、解決後パターン 8 の“介助すると口をあけ、時間はかかるが摂食するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 12 と解決後パターン 7 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 12 は、“「活動量を増やす」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」の 4 項目を共通ベースにした平均 8.4 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 7 の“拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもでてきた”に貢献している傾向が読み取れる。

4 つめは、解決方法パターン 9 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 9 は、“「活動量を増やす」と「食べやすいよう、盛りつけを工夫」を共通ベースにした平均 8.9 項目の組み合わせ”であり、それらの

方法が、解決後パターン 5 の“拒否が少なくなり、食べるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

5 つめは、解決方法パターン 3 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 3 は、“「好きな食べ物を見せる」を主として、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「一端、休憩」などに分散した平均 4.0 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 2 の“時間はかかるが摂取するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

6 つめは、解決方法パターン 8 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 8 は、“「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」、「声かけをせず、職員が一緒に」の 5 項目を共通ベースにした平均 8.6 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 5 の“拒否が少なくなり、食べるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

7 つめは、解決方法パターン 1 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 1 は、“「本人ペースで声かけ」を主として、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」や「コミュニケーションをふやす」などに分散した平均 3.6 項目と最少の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 4 の“毎回ではないが食べ始めるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。（表２－３－４－４参照）

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても上記の傾向が確認できる。

1 つめの解決方法パターン 7 では、解決後に“必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた”が 63.7%、“他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった”が 35.6%、“拒否が少なくなり、食べるようになった”が 35.2%と多くなっており、これらは解決後パターン 7 の主要項目である。

2 つめの解決方法パターン 6 では、解決後に“時間はかかるが摂取するようになった”が 51.1%、“拒否が少なくなり、食べるようになった”が 34.6%、“介助すると口をあけ、食べるようになった”が 27.2%と多くなっており、これらは解決後パターン 8 の主要項目である。

3 つめの解決方法パターン 12 では、解決後に“必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた”が 79.4%、“声かけると素直に食べることが多くなった”が 60.2%、“拒否が少なくなり、食べるようになった”が 59.5%、“他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった”が 40.1%、“全量完食するようになった”各 41.0%と多くなっており、これらは解決後パターン 7 の主要項目である。

4 つめの解決方法パターン 9 では、解決後に“拒否が少なくなり、食べるようになった”が 38.4%と多くなっており、これは解決後パターン 5 の主要項目である。

5 つめの解決方法パターン 3 では、解決後に“時間はかかるが摂取するようにな

った”が 43.5%と多くなっており、これは解決後パターン 2 の主要項目である。

6 つめの解決方法パターン 8 では、解決後に“拒否が少なくなり、食べるようになった”が 44.4%と多くなっており、これは解決後パターン 5 の主要項目である。最後の 7 つめの解決方法パターン 1 に関してはクロス集計による明確な傾向は認めがたい。(表２－３－４－５参照)

（4）高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン 1（自立、中程度重症度）に限定した相関分析を行うと、5 通りの相関が認められる（注 4)。

5 通りのうち 4 通りは上記でみた全体を対象とした傾向と同様であり、次のひとつが異なる。

解決方法パターン 4 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 4 は、“「活動量を増やす」と「本人ペースで声かけ」を共通ベースにして、“食事の工夫”や“声かけの工夫”などに関する多様な項目が多く、平均 8.0 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 3 の“必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－３－４－６参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン 6 では、解決後に“時間はかかるが摂取するようになった”が 45.0%、“拒否が少なくなり、食べるようになった”が 40.7%と多くなっており、これは解決後パターン 8 の主要項目である。

解決方法パターン 12 では、解決後に“必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた”が 79.4%、“声をかけると素直に食べることが多くなった”が 60.2%、“拒否が少なくなり、食べるようになった”が 59.6%、“他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった”が 40.1%と多くなっており、これらは解決後パターン 7 の主要項目である。

解決方法パターン 8 では、解決後に“拒否が少なくなり、食べるようになった”が 43.3%と多くなっており、これは解決後パターン 5 の主要項目である。

解決方法パターン 4 では、解決後に“必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた”が 40.7%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。

解決方法パターン 7 では、解決後に“必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた”が 74.4%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。(表２－３－４－７参照)

また高齢者パターン 2（一部介助、中高程度重症度）に限定した相関分析を行うと、4 通りの相関が認められる。(相関が認められる、解決方法パターン 10 と解決後パターン 4 と 5、解決方法パターン 12 と解決後パターン 8、解決方法パターン

13 と解決後パターン 3、の 4 通りは、事例数が 1 例以下にとどまるため省略する。）

4 通りのうち 2 通りは上記でみた全体を対象とした傾向と同様であり、解決方法パターン 8 と同パターン 5 のふたつが異なる。

解決方法パターン 8 は解決後パターン 4 との相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 8 は、“「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」、「声かけをせず、職員が一緒に」の 5 項目を共通ベースにした平均 8.6 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 4 の“毎回ではないが食べ始めるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

解決方法パターン 5 は解決後パターン 5 との相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 5 は、“「本人ペースで声かけ」、「活動量を増やす」、「食事前にお茶を提供」などを主にして、“生活リズム”に関する項目も多い、平均 6.6 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 5 の“拒否が少なくなり、食べるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。（表２－３－４－８参照）

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても上記の傾向が確認できる。

解決方法パターン 7 では、解決後に“拒否が少なくなり、食べるようになった”、“声かけると素直に食べることが多くなった”、“必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた”、“他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった”がそれぞれ 49.4%と多くなっており、これらは解決後パターン 7 の主要項目である。

解決方法パターン 9 では、解決後に“拒否が少なくなり、食べるようになった”が 40.1%と多くなっており、これは解決後パターン 5 の主要項目である。

解決方法パターン 8 では、解決後に“拒否が少なくなり、食べるようになった”が 49.7%と多くなっており、これは解決後パターン 5 の主要項目である。（表２－３－４－９参照）

（注 4）高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン 1 と 2 を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義（＝クラスター化）した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

5）食事拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ 1,441 件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

（1）役立った情報の概況

有効回答 1,441 件のなかで多くあがったものは、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 419 件（29.1%）、「本人の気持ち、意志」が 392 件（27.2%）、「気分」が 333 件（23.1%）、「食の嗜好・興味・意欲」が 309 件（21.4%）、「スタッフとの関係」が 223 件（15.5%）、「他の入居者との関係」が 162 件（11.2%）、「体調」が 148 件（10.3%）などであり、ひとつの解決方法当たり平均 3.0 項目あげられた。（表２－３－５－１参照）

（2）役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 17 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「食の嗜好・興味・意欲」（95.4%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」（22.2%）他に分散して構成されている。第 1 パターンの該当事例は延べ 163 件（11.3%）である。

第 2 パターンは平均 2.6 項目の組み合わせであり、「生活習慣（ここ数年）」（53.0%）、「生活歴（幼少期から）」（42.3%）、「最近の食習慣」（23.2%）などの“習慣”を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（33.6%）他に分散して構成されている。第 2 パターンの該当事例は延べ 141 件（9.8%）である。

第 3 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」（99.8%）を共通ベースとして、「気分」（54.8%）や「心配ごと・不満状況」（24.1%）を含めた“心理面”、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（70.9%）、「スタッフとの関係」（33.3%）などで構成されている。第 3 パターンの該当事例は延べ 133 件（9.2%）である。

第 4 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（99.7%）を共通ベースとして、「スタッフとの関係」（47.3%）や「気分」（26.5%）などで構成されている。第 4 パターンの該当事例は延べ 107 件（7.4%）である。

第 5 パターンは平均 2.9 項目の組み合わせであり、「気分」（81.3%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」（62.9%）と「心配ごと・不満状況」（26.3%）を含めた“心理面”にウェイトを置き、「食の嗜好・興味・意欲」（29.6%）他に分散して構成されている。第 5 パターンの該当事例は延べ 105 件（7.3%）である。

第 6 パターンは平均 2.9 項目の組み合わせであり、「周囲の雰囲気・刺激（音・

光・匂い)」(62.6%) と「席の位置」(57.3%) を主として、「他の入居者との関係」(44.4%) 他に分散して構成されている。第 6 パターンの該当事例は延べ 104 件 (7.2%) である。

第 7 パターンは平均 3.5 項目の組み合わせであり、「表情」(73.4%)、「食中の様子」(40.3%)、「食事中の会話」(34.6%)、「目線」(24.2%) など“食事中の状態”を主として、「スタッフとの関係」(20.4%) 他に分散して構成されている。第 7 パターンの該当事例は延べ 102 件 (7.1%) である。

第 8 パターンは平均 2.5 項目の組み合わせであり、「睡眠時間・状況」(55.0%)、「運動量」(42.7%)、「体調」(37.4%)、「薬の種類、服薬状況」(29.0%) など“健康面”を主として構成されている。第 8 パターンの該当事例は延べ 95 件 (6.6%) である。

第 9 パターンは平均 2.5 項目の組み合わせであり、「家族関係」(66.4%) を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(32.3%)、「生活歴 (幼少期から)」(30.3%)、「心配ごと・不満状況」(26.9%)、「本人の気持ち、意志」(25.9%)、「所持金/ 経済不安」(20.4%) などに分散して構成されている。第 9 パターンの該当事例は延べ 86 件 (6.0%) である。

第 10 パターンは平均 3.0 項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」(73.3%)、「家族関係」(42.9%)、「他の入居者との関係」(30.8%) の“人間関係”を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(31.3%)、「気分」(23.9%)、「本人の気持ち、意志」(23.3%) などで構成されている。第 10 パターンの該当事例は延べ 68 件 (4.7%) である。

第 11 パターンは平均 3.6 項目の組み合わせであり、「盛付」(76.5%) を共通ベースとして、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」(62.7%)、「食器の配置」(48.8%)、「食の嗜好・興味・意欲」(45.5%) などを含めた“食事関係”を主として構成されている。第 11 パターンの該当事例は延べ 65 件 (4.5%) である。

第 12 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「水分状態」(63.3%)、「排泄状況」(30.9%)、「体調」(29.6%) など“健康面”を主として構成されている。第 12 パターンの該当事例は延べ 65 件 (4.5%) である。

第 13 パターンは平均 3.6 項目の組み合わせであり、「体調」(67.6%)、「睡眠時間・状況」(26.1%)、「運動量」(23.0%)、「排泄状況」(22.2%) などの“健康面”と、「本人の気持ち、意志」(61.8%)、「気分」(43.4%) などの“心理面”を主として構成されている。第 13 パターンの該当事例は延べ 62 件 (4.3%) である。

第 14 パターンは平均 3.8 項目の組み合わせであり、「咀嚼力」(59.6%)、「嚥下状態・誤嚥」(56.4%)、「口腔状況」(40.7%) の“口腔機能”と、「食の嗜好・興味・意欲」(43.1%) や「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」(31.7%) などの“食事関係”を主として構成されている。第 14 パターンの該当事例は延べ 46 件 (3.2%) である。

第15パターンは平均3.3項目の組み合わせであり、「当日の食事量・おやつ量」（90.4%）を共通ベースとして、「食の嗜好・興味・意欲」（74.9%）や「最近の食事量」（57.9%）などを含めた“食事関係”を主として構成されている。第15パターンの該当事例は延べ39件（2.7%）である。

第16パターンは平均3.8項目の組み合わせであり、共通ベースがなく、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」（41.1%）、「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い)」(31.5%)、「席の位置」(26.3%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(35.2%)、「口腔状況」（29.6%）、「本人の気持ち、意志」（24.6%）などに分散して構成されている。第16パターンの該当事例は延べ33件（2.3%）である。

第17パターンは平均4.0項目の最多組み合わせであり、「認知症の症状」（89.0%）を共通ベースとして、「認知機能」(36.4%）と「認知症の種類」(35.4%）を含めた“認知能力”にウェイトを置き、「気分」（28.3%）、「本人の気持ち、意志」（21.6%）、「生活習慣」（22.9%）他に分散して構成されている。第17パターンの該当事例は延べ29件（2.0%）である。（表２－３－５－２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－３－５－３参照）

（３）情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析と次の傾向である。

第8パターン（「睡眠時間・状況」、「運動量」、「体調」、「薬の種類、服薬状況」など“健康面”を主として構成された平均2.5項目の組み合わせ）は、「活動量を増やす」が40.4%、「ぐっすり眠ってもらうようにした」が28.8%と多い。

第11パターン（「盛付」を共通ベースとして、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」、「食器の配置」、「食の嗜好・興味・意欲」などを含めた“食事関係”を主として構成された平均3.6項目の組み合わせ）は、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」が39.6%と多い。

第12パターン（「水分状態」、「排泄状況」、「体調」など“健康面”を主として構成された平均2.7項目の組み合わせ）は、「水分摂取量を増やした」が33.3%と多い。

第15パターン（「当日の食事量・おやつ量」を共通ベースとして、「食の嗜好・興味・意欲」や「最近の食事量」などを含めた“食事関係”を主として構成された平均3.3項目の組み合わせ）は、「カロリーを考慮し、おやつを提供」が36.4%と多い。

第3パターン（「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」や「心配ごと・不満状況」を含めた″心理面″、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ）は、「本人ペースで声かけ」が28.6%と多い。

第13パターン（「体調」、「睡眠時間・状況」、「運動量」、「排泄状況」などの“健康面”と、「本人の気持ち、意志」、「気分」などの“心理面”を主として構成され

た平均 3.6 項目の組み合わせ）は、「本人ペースで声かけ」が 25.3%、「活動量を増やす」が 21.7%、と多い。

第 9 パターン（「家族関係」を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「生活歴（幼少期から）」、「心配ごと・不満状況」、「本人の気持ち、意志」、「所持金/ 経済不安」などに分散して構成された平均 2.5 項目の組み合わせ）は、「家族の話題」が 24.5%と多い。

第 4 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」や「気分」などで構成された平均 2.8 項目の組み合わせ）は、「本人ペースで声かけ」が 24.0%と多い。

第 6 パターン（「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」と「席の位置」を主として、「他の入居者との関係」他に分散して構成された平均 2.9 項目の組み合わせ）は、「少人数席に変更」が 21.4%と多い。

第 16 パターン（共通ベースがなく、「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」、「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」、「席の位置」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「口腔状況」、「本人の気持ち、意志」などに分散して構成された平均 3.8 項目の組み合わせ）は、「好きな場所で食事を取る」が 20.7%と多い。（表２－３－５－４参照）

６）絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答 249 件中、「しかったり、怒り口調で声かけ」が 226 件（90.8%）、「強引に口に入れる」が 225 件（90.4%）、「強制的な声かけ」が 216 件（86.7%）、「食べないからとすぐに下膳する」が 211 件（84.7%）、「無理やり席に座らせる」が 209 件（83.9%）、「会話の内容を否定する」が 197 件（79.1%）、「本人任せで放っておく」が 170 件（68.3%）となっている。（表２－３－６－１参照）

（表２－３－１－１）回答者の年齢

	有効回答数	24 歳以下	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60 歳以上
実数	258	6	38	43	25	30	33	30	28	25
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	2.3	14.7	16.7	9.7	11.6	12.8	11.6	10.9	9.7

（平均年齢等）

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
258	42.9	12.8	18	90

（表２－３－１－２）回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	263	76	187
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	28.9	71.1

（表２－３－１－３）回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネージャー	看護師	その他
実数	246	102	5	77	20	61
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	41.5	2.0	31.3	8.1	24.8

（表２－３－１－４）回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	254	26	92	65	1	1	79
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	10.2	36.2	25.6	0.4	0.4	31.1

（表２－３－１－５）回答者の所有資格

	有効回答数	看護師（准看護師）	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネージャー	ヘルパー	その他
実数	260	24	176	12	88	87	16
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	9.2	67.7	4.6	33.8	33.5	6.2

（表２－３－１－６）回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設（ユニット型）	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	261	4	4	248	3	7
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	1.5	1.5	95.0	1.1	2.7

（表２－３－１－７）回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
266	4.0	2.4	0.1	14.8

（表２－３－１－８）回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
263	8.5	5.3	0.7	42.7

（表２－３－２－１）食事拒否の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	262	255	7
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	97.3	2.7

（表２－３－２－２）高齢者の年齢

	解決経験のある 有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	242	15	29	74	70	54
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	6.2	12.0	30.6	28.9	22.3

（平均年齢等）

解決経験のある 有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
242	84.5	6.1	65	97

（表２－３－２－３）高齢者の性別割合

	解決経験のある 有効回答数	男	女
実数	249	47	202
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	18.9	81.1

（表２－３－２－４）認知症の原因疾患

	解決経験のある 有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	243	146	56	2	17	22
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	60.1	23.0	0.8	7.0	9.1

（表２－３－２－５）機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	なし （=無回答）
実数	255	0	3	78	11	163
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.0	1.2	30.6	4.3	63.9

（表２－３－２－６）食事介助

	解決経験のある 有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	246	16	80	150
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	6.5	32.5	61.0

（表２－３－２－７）移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他（回答者追記）
実数	196	25	116	52	3
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	12.8	59.2	26.5	1.5

（表２－３－２－８）排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし	その他（回答者追記）
実数	225	144	79	2
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	64.0	35.1	0.9

（表２－３－２－９）入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	250	23	49	92	70	16
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	9.2	19.6	36.8	28.0	6.4

（表２－３－２－１０）認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	Ⅰ 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	Ⅱ 日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	Ⅲ ランクⅡの症状がときどき見られ、介護を必要とする（徘徊、失禁など）	Ⅳ ランクⅡの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	Ⅴ 著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	250	23	49	92	70	16
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	9.2	19.6	36.8	28.0	6.4

（表２－３－２－１１）身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J 何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	A 屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	B 屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベット上での生活主体で座位を保つ	C 一日中ベットで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	247	22	148	64	13
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	8.9	59.9	25.9	5.3

（表２－３－２－１２）食事拒否高齢者のパターン
（潜在クラス２クラスモデルのプロフィール）

(n=217)

項目	カテゴリー	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
	サイズ	1.000	0.709	0.291
性別	男	0.207	0.235	0.141
	女	0.793	0.765	0.859
食事介助	全介助	0.060	0.000	0.205
	一部介助	0.327	0.161	0.733
	自立	0.613	0.839	0.062
認知症の重症度	Ⅰ	0.101	0.143	0.001
	Ⅱ	0.198	0.279	0.002
	Ⅲ	0.378	0.462	0.173
	Ⅳ	0.267	0.104	0.665
	Ⅴ	0.055	0.013	0.159
身体障害の重症度	J	0.083	0.109	0.020
	A	0.627	0.764	0.292
	B	0.244	0.114	0.560
	C	0.046	0.013	0.128
	（参考）該当事例数 →	(217)	(154)	(63)

（表２－３－２－１３）潜在クラスモデル評価（食事拒否高齢者パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	1687.1	1653.3
モデル2（クラス数2）	1622.0	1551.1
モデル3（クラス数3）	1665.9	1557.8
モデル4（クラス数4）	1714.2	1568.9

（表２－３－３－１）解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	席に誘導しようとすると拒否した	食事の時間になっても食卓につこうとせず、別の場所にいってしまっていた	配膳しても手をつけようとしなかった	しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった	食事の時間になっても、床拭きなどの作業をして声かけをし誘っても断った	食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した	居室内でお菓子を食べていた	その他
実数	255	69	57	160	66	7	71	13	26
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	27.1	22.4	62.7	25.9	2.7	27.8	5.1	10.2

（表２－３－３－２）解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	拒否が少なくなり、食べるようになった	声をかけると素直に食べることが多くなった	食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった	必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできた	毎回ではないが食べ始めるようになった	時間はかかるが摂取するようになった	他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった	全量完食するようになった	介助すると口をあけ、食べるようになった	自分から食器を持ち食べるようになった	その他
実数	251	66	75	18	65	41	73	40	31	29	26	13
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	26.3	29.9	7.2	25.9	16.3	29.1	15.9	12.4	11.6	10.4	5.2

（表２－３－３－３）食事拒否の解決前のパターン
（潜在クラス６クラスモデルのプロフィール）

(n=205)

状況	全体	パターン1 配膳に手をつけようとしなかった	パターン2 食卓につこうとしなかった	パターン3 介助しても食べようとしなかった	パターン4 複合的食卓誘導拒否	パターン5 食卓以外の別の場所にいっていた	パターン6 居室内でお菓子を食べていた
サイズ	1.000	0.440	0.153	0.140	0.138	0.089	0.041
席に誘導しようとすると拒否した	0.293	0.007	0.987	0.006	0.985	0.016	0.006
食事の時間になっても食卓につこうとせず、別の場所にいってしまっていた	0.234	0.045	0.258	0.002	0.631	0.986	0.005
配膳しても手をつけようとしなかった	0.668	0.999	0.386	0.312	0.731	0.110	0.386
しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった	0.273	0.148	0.188	0.489	0.678	0.194	0.006
食事の時間になっても、床拭きなどの作業をして声かけをし誘っても断った	0.020	0.022	0.025	0.000	0.043	0.000	0.000
食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した	0.293	0.220	0.005	0.803	0.523	0.003	0.257
居室内でお菓子を食べていた	0.059	0.001	0.001	0.001	0.106	0.056	0.954
（参考）平均項目数 →	1.8	1.4	1.8	1.6	3.7	1.4	1.6
該当事例数 →	(205)	(90)	(31)	(29)	(28)	(18)	(8)

（表２－３－３－４）潜在クラスモデル評価（食事拒否の解決前パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1387.9	1364.6
モデル2(クラス数2)	1380.0	1330.2
モデル3(クラス数3)	1400.5	1324.1
モデル4(クラス数4)	1419.4	1316.3
モデル5(クラス数5)	1446.6	1317.0
モデル6(クラス数6)	1474.4	1318.2
モデル7(クラス数7)	1509.2	1326.4
モデル8(クラス数8)	1546.8	1337.4

（表２－３－３－５）食事拒否の解決後のパターン
（潜在クラス８クラスモデルのプロフィール）

(n=205)

状況	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8
		声をかけると素直に食べることが多くなった	時間はかかるが摂取するようになった	必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた	毎回ではないが食べ始めるようになった	拒否が少なくなり、食べるようになった	介助すると口をあけ、食べるようになった	拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもでてきた	介助すると口をあけ、時間はかかるが摂食するようになった
サイズ	1.000	0.225	0.218	0.138	0.135	0.129	0.059	0.053	0.044
拒否が少なくなり、食べるようになった	0.268	0.168	0.002	0.097	0.047	0.991	0.003	0.987	0.685
声をかけると素直に食べることが多くなった	0.298	0.797	0.260	0.001	0.053	0.042	0.004	0.610	0.370
食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった	0.073	0.024	0.047	0.064	0.172	0.000	0.340	0.107	0.001
必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた	0.288	0.060	0.178	0.995	0.004	0.007	0.274	0.981	0.654
毎回ではないが食べ始めるようになった	0.146	0.001	0.001	0.105	0.750	0.001	0.186	0.094	0.328
時間はかかるが摂取するようになった	0.307	0.004	0.991	0.005	0.236	0.068	0.108	0.004	0.987
他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった	0.171	0.150	0.104	0.040	0.229	0.150	0.094	0.811	0.236
全量完食するようになった	0.117	0.316	0.112	0.001	0.001	0.028	0.001	0.333	0.002
介助すると口をあけ、食べるようになった	0.107	0.000	0.080	0.001	0.001	0.001	0.923	0.001	0.812
自分から食器を持ち食べるようになった	0.127	0.261	0.110	0.001	0.049	0.027	0.175	0.448	0.002
（参考）平均項目数 →	1.9	1.8	1.9	1.3	1.5	1.3	2.1	4.4	4.1
該当事例数 →	(205)	(46)	(45)	(28)	(28)	(26)	(12)	(11)	(9)

（表２－３－３－６）潜在クラスモデル評価（食事拒否の解決後パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1949.4	1916.2
モデル2(クラス数2)	1956.4	1886.6
モデル3(クラス数3)	1985.5	1879.1
モデル4(クラス数4)	2017.8	1874.9
モデル5(クラス数5)	2044.7	1865.2
モデル6(クラス数6)	2077.9	1861.9
モデル7(クラス数7)	2113.0	1860.4
モデル8(クラス数8)	2153.7	1864.6
モデル9(クラス数9)	2200.3	1874.7

（表２－３－３－７）解決前後のパターンの相関行列
（全体）

(n=205)

			解決後のパターン							
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8
			声をかけると素直に食べることが多くなった	時間はかかるが摂取するようになった	必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた	毎回ではないが食べ始めるようになった	拒否が少なくなり、食べるようになった	介助すると口をあけ、食べるようになった	拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもでてきた	介助すると口をあけ、時間はかかるが摂食するようになった
解決前のパターン	パターン1	配膳に手をつけようとしなかった	0.029	0.021	0.120	-0.084	0.013	0.089	-0.192	-0.091
	パターン2	食卓につこうとしなかった	0.087	0.009	-0.119	-0.016	0.101	-0.125	0.068	-0.059
	パターン3	介助しても食べようとしなかった	-0.164	0.049	0.010	0.163 *	-0.043	0.118	-0.028	-0.085
	パターン4	複合的食卓誘導拒否	0.001	-0.086	-0.090	-0.048	-0.029	-0.109	0.204 **	0.368 **
	パターン5	食卓以外の別の場所にいっていた	0.107	-0.100	0.027	-0.011	-0.004	0.011	0.009	-0.060
	パターン6	居室内でお菓子を食べていた	-0.112	0.136	0.000	0.063	-0.081	-0.033	0.054	-0.044

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－３－３－８）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン１“自立、中程度重症度”の場合）

（n=145）

			解決後のパターン							
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8
			声をかけると素直に食べることが多くなった	時間はかかるが摂取するようになった	必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた	毎回ではないが食べ始めるようになった	拒否が少なくなり、食べるようになった	介助すると口をあけ、食べるようになった	拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもでてきた	介助すると口をあけ、時間はかかるが摂食するようになった
解決前のパターン	パターン1	配膳に手をつけようとしなかった	0.109	0.054	0.073	−0.089	−0.039	0.081	−0.193	−0.145
	パターン2	食卓につこうとしなかった	−0.012	0.020	−0.121	0.004	0.141	−0.120	0.109	−0.052
	パターン3	介助しても食べようとしなかった	−0.180	−0.015	0.092	0.095	0.030	0.108	−0.069	−0.063
	パターン4	複合的食卓誘導拒否	−0.061	−0.027	−0.126	−0.006	0.022	−0.106	0.160	0.428 **
	パターン5	食卓以外の別の場所にいっていた	0.137	−0.116	0.050	−0.002	−0.083	0.030	0.028	−0.056
	パターン6	居室内でお菓子を食べていた	−0.111	0.068	0.018	0.088	−0.090	−0.022	0.089	−0.028

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率によるパターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－３－３－９）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン２“一部介助、中高程度重症度”の場合）

（n=60）

			解決後のパターン							
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8
			声をかけると素直に食べることが多くなった	時間はかかるが摂取するようになった	必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた	毎回ではないが食べ始めるようになった	拒否が少なくなり、食べるようになった	介助すると口をあけ、食べるようになった	拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもでてきた	介助すると口をあけ、時間はかかるが摂食するようになった
解決前のパターン	パターン1	配膳に手をつけようとしなかった	-0.142	-0.043	0.248	-0.093	0.165	0.116	-0.193	-0.007
	パターン2	食卓につこうとしなかった	0.341 **	-0.003	-0.139	-0.113	-0.069	-0.131	-0.050	-0.050
	パターン3	介助しても食べようとしなかった	-0.169	0.116	-0.110	0.395 **	-0.152	0.120	0.050	-0.175
	パターン4	複合的食卓誘導拒否	0.110	-0.215	0.006	-0.144	-0.149	-0.123	0.305 *	0.312 *
	パターン5	食卓以外の別の場所にいっていた	0.041	-0.034	-0.087	-0.082	0.290 *	-0.028	-0.058	-0.047
	パターン6	居室内でお菓子を食べていた	-0.112	0.316 *	-0.062	-0.027	-0.060	-0.056	-0.044	-0.067

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率によるパターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－３－３－１０）高齢者パターン別にみた解決前の状況

【実数】

	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
有効回答数	205	144	61
席に誘導しようとすると拒否した	60	43	17
食事の時間になっても食卓につこうとせず、別の場所にいってしまっていた	48	33	15
配膳しても手をつけようとしなかった	137	100	37
しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった	56	33	23
食事の時間になっても、床拭きなどの作業をして声かけをし誘っても断った	4	3	1
食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した	60	33	27
居室内でお菓子を食べていた	12	9	3

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0
席に誘導しようとすると拒否した	29.3	29.9	27.9
食事の時間になっても食卓につこうとせず、別の場所にいってしまっていた	23.4	22.9	24.6
配膳しても手をつけようとしなかった	66.8	69.4	60.7
しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった	27.3	22.9	37.7
食事の時間になっても、床拭きなどの作業をして声かけをし誘っても断った	2.0	2.1	1.6
食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した	29.3	22.9	44.3
居室内でお菓子を食べていた	5.9	6.3	4.9

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－３－３－１１）高齢者パターン別にみた解決後の状況

【実数】

	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
有効回答数	205	144	61
拒否が少なくなり、食べるようになった	55	39	16
声をかけると素直に食べることが多くなった	61	38	23
食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった	15	9	6
必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた	59	44	15
毎回ではないが食べ始めるようになった	30	21	9
時間はかかるが摂取するようになった	63	37	26
他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった	35	25	10
全量完食するようになった	24	13	11
介助すると口をあけ、食べるようになった	22	9	13
自分から食器を持ち食べるようになった	26	16	10

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0
拒否が少なくなり、食べるようになった	26.8	27.1	26.2
声をかけると素直に食べることが多くなった	29.8	26.4	37.7
食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった	7.3	6.3	9.8
必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもでてきた	28.8	30.6	24.6
毎回ではないが食べ始めるようになった	14.6	14.6	14.8
時間はかかるが摂取するようになった	30.7	25.7	42.6
他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった	17.1	17.4	16.4
全量完食するようになった	11.7	9.0	18.0
介助すると口をあけ、食べるようになった	10.7	6.3	21.3
自分から食器を持ち食べるようになった	12.7	11.1	16.4

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－３－４－１）食事拒否の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
有効回答数			253	100.0
環境調整	101	少人数席に変更	46	18.2
	102	広い場所から小さい場所へ変更	3	1.2
	103	好きな場所で食事を取る	75	29.6
	104	花等をテーブルに置き、落ち着く環境	18	7.1
	105	食事メンバー	17	6.7
	107	席位置の変更	5	2.0
	108	静かな環境を調整	7	2.8
	190	その他	5	2.0
声かけの工夫	201	本人ペースで声かけ	181	71.5
	202	声かけの内容を工夫	35	13.8
	203	作業の流れで声かけ	13	5.1
	204	食事前からこまめに声かけ	39	15.4
	205	声かけをせず、職員が一緒に	72	28.5
	211	好きな話題で声かけ	77	30.4
	212	家族の話題	51	20.2
	216	仲の良い人が声かけ	3	1.2
	217	声かけ、会話量の増加	2	0.8
誘導の工夫	226	配膳をしてもらう	17	6.7
	227	調理を手伝う	27	10.7
	228	おしぼりを渡す	4	1.6
	229	食事前にお茶を提供	35	13.8
	230	食事内容、献立の説明	56	22.1
	238	誘導時間の調整	3	1.2
	290	その他	2	0.8
食事の工夫	301	食べやすいよう、盛りつけを工夫	108	42.7
	302	カロリーを考慮し、おやつを提供	45	17.8
	303	水分摂取量を増やした	36	14.2
	304	外出時、外食に誘導	30	11.9
	305	一緒に買い物に行き、好きなメニューにする	12	4.7
	306	好きな食べ物を見せる	78	30.8
	307	好きな献立にする	63	24.9
	308	食事時間の調整	3	1.2
	309	職員と一緒に食事	9	3.6
	310	最初だけ介助	2	0.8
	312	食器の工夫	5	2.0
	313	食材の形態、色等の工夫	12	4.7
	314	食事回数の調整	1	0.4
	333	量を減らす	3	1.2
	390	その他	3	1.2
生活のリズム	401	活動量を増やす	108	42.7
	402	生活のリズム調整	30	11.9
	403	静かな、落ち着いた環境をつくり、静養	14	5.5
	404	ぐっすり眠ってもらうようにした	58	22.9
	405	一端、休憩	37	14.6
	406	発声練習	14	5.5
	409	趣味活動を実施	2	0.8
	410	コミュニケーションをふやす	86	34.0
	490	その他	2	0.8
その他	502	受容し、安心してもらった	25	9.9
	503	義歯調整	17	6.7
	504	医療的対応	4	1.6
	506	排便調整	2	0.8
	507	服薬の調整	3	1.2
	508	疼痛管理	1	0.4
	590	その他	5	2.0

（参考）平均回答項目数 → 6.4

（表２－３－４－２）食事拒否の解決方法組み合わせパターン
（潜在クラス 13 クラスモデルのプロフィール）

(n=253)

区分	code	解決方法	全体	パターン1 「本人ペースで声かけ」を主として、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」や「コミュニケーションをふやす」などに分散した平均3.6項目と最少の組み合わせ	パターン2 「本人ペースで声かけ」を共通ペースにして、「好きな場所で食事を取る」も多く、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」などに分散した平均5.2項目の組み合わせ	パターン3 「好きな食べ物を見せる」を主として、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「一端、休 憩」などに分散した平均4.0項目の組み合わせ	パターン4 「活動量を増やす」と「本人ペースで声かけ」を共通ペースにして、“食事の工夫”や“声かけの工夫”などに関する多様な項目が多く、平均8.0項目の組み合わせ	パターン5 「本人ペースで声かけ」、「活動量を増やす」、「食事前にお茶を提供」などを主にして、“生活リズム”に関する項目も多い、平均6.6項目の組み合わせ	パターン6 「好きな食べ物を見せる」と「本人ペースで声かけ」を共通ペースに、“食事の工夫”や“声かけの工夫”そして“生活のリズム”に関する項目が多く、平均9.2項目と多様な組み合わせ	パターン7 「本人ペースで声かけ」、「食事前からこまめに声かけ」、「食事内容、献立の説明」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」の４項目を共通ペースにして、“声かけの工夫”、“誘導の工夫”、“生活のリズム”、“環境調整”など多種多様におよぶ、平均14.7項目と最多の組み合わせ	パターン8 「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」、「声かけをせず、職員が一緒に」の５項目を共通ペースにした平均8.6項目の組み合わせ	パターン9 「活動量を増やす」と「食べやすいよう、盛りつけを工夫」を共通ペースにして、「水分摂取量を増やした」、「本人ペースで声かけ」、「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「少人数席に変更」なども多い、平均8.9項目の組み合わせ	パターン10 「調理を手伝う」を共通ペースにして、「配膳をしてもらう」や「好きな献立にする」も多く、“誘導の工夫”が目立つ、平均5.3項目の組み合わせ	パターン11 「本人ペースで声かけ」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「活動量を増やす」の３項目を共通ペースにして、「食事メンバー」と「コミュニケーションをふやす」も多い、平均7.3項目の組み合わせ	パターン12 「活動量を増やす」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」の４項目を共通ペースにして、「声かけをせず、職員が一緒に」も多い、平均8.4項目の組み合わせ	パターン13 「活動量を増やす」を共通ペースにして、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「好きな献立にする」、「好きな食べ物を見せる」、「食材の形態、色等の工夫」など“食事の工夫”や“声かけの工夫”も多い、平均9.8項目の組み合わせ
		サイズ	1.000	0.296	0.144	0.087	0.065	0.063	0.062	0.060	0.057	0.041	0.036	0.032	0.032	0.028
環境調整	101	少人数席に変更	0.182	0.192	0.001	0.090	0.310	0.211	0.333	0.132	0.481	0.502	0.002	0.002	0.244	0.002
	102	広い場所から小さい場所へ変更	0.012	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.066	0.140	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	103	好きな場所で食事を取る	0.296	0.258	0.630	0.001	0.587	0.275	0.002	0.729	0.390	0.002	0.003	0.134	0.003	0.144
	104	花等をテーブルに置き、落ち着く環境	0.071	0.029	0.000	0.000	0.061	0.115	0.317	0.332	0.000	0.194	0.001	0.001	0.001	0.140
	105	食事メンバー	0.067	0.000	0.054	0.000	0.062	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.328	0.738	0.001	0.697
	107	席位置の変更	0.020	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.110	0.000	0.495	0.000
	108	静かな環境を調整	0.028	0.015	0.000	0.039	0.122	0.063	0.000	0.131	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	190	その他	0.020	0.000	0.080	0.049	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.097	0.000	0.000	0.000	0.000
声かけの工夫	201	本人ペースで声かけ	0.715	0.733	0.845	0.099	0.812	0.678	0.805	0.999	0.938	0.674	0.007	0.997	0.997	0.707
	202	声かけの内容を工夫	0.138	0.139	0.089	0.001	0.001	0.132	0.389	0.463	0.140	0.108	0.001	0.125	0.001	0.279
	203	作業の流れで声かけ	0.051	0.038	0.000	0.099	0.000	0.000	0.000	0.262	0.071	0.000	0.110	0.001	0.001	0.280
	204	食事前からこまめに声かけ	0.154	0.085	0.115	0.135	0.001	0.341	0.065	0.858	0.066	0.201	0.001	0.002	0.373	0.002
	205	声かけをせず、職員が一緒に	0.285	0.122	0.313	0.095	0.591	0.002	0.454	0.394	0.791	0.498	0.121	0.003	0.742	0.433
	211	好きな話題で声かけ	0.304	0.226	0.213	0.199	0.357	0.203	0.574	0.731	0.534	0.495	0.226	0.495	0.004	0.003
	212	家族の話題	0.202	0.242	0.119	0.097	0.001	0.194	0.255	0.594	0.072	0.418	0.002	0.002	0.492	0.142
	216	仲の良い人が声かけ	0.012	0.000	0.000	0.046	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.122	0.000	0.140
	217	声かけ、会話量の増加	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.070	0.000	0.000	0.122	0.000	0.000
誘導の工夫	226	配膳をしてもらう	0.067	0.014	0.000	0.047	0.179	0.000	0.000	0.197	0.000	0.001	0.547	0.001	0.124	0.420
	227	調理を手伝う	0.107	0.013	0.109	0.050	0.129	0.001	0.130	0.132	0.001	0.187	0.865	0.001	0.368	0.281
	228	おしぼりを渡す	0.016	0.000	0.000	0.000	0.000	0.126	0.000	0.131	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	229	食事前にお茶を提供	0.138	0.000	0.059	0.001	0.318	0.563	0.001	0.590	0.191	0.483	0.001	0.001	0.001	0.281
	230	食事内容、献立の説明	0.221	0.000	0.291	0.094	0.369	0.274	0.312	0.996	0.069	0.002	0.329	0.363	0.374	0.420
	238	誘導時間の調整	0.012	0.000	0.000	0.046	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.245	0.000	0.000
	290	その他	0.008	0.013	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.113	0.000	0.000	0.000
食事の工夫	301	食べやすいよう、盛りつけを工夫	0.427	0.328	0.351	0.030	0.624	0.003	0.658	0.793	0.854	0.803	0.226	0.858	0.864	0.144
	302	カロリーを考慮し、おやつを提供	0.178	0.000	0.223	0.305	0.001	0.129	0.631	0.596	0.001	0.196	0.120	0.003	0.125	0.709
	303	水分摂取量を増やした	0.142	0.029	0.060	0.001	0.130	0.299	0.123	0.464	0.141	0.666	0.001	0.124	0.491	0.281
	304	外出時、外食に誘導	0.119	0.102	0.000	0.000	0.314	0.195	0.517	0.394	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
	305	一緒に買い物に行き、好きなメニューにする	0.047	0.000	0.000	0.046	0.317	0.000	0.000	0.066	0.000	0.272	0.110	0.000	0.001	0.140
	306	好きな食べ物を見せる	0.308	0.001	0.303	0.592	0.623	0.282	0.862	0.731	0.537	0.002	0.003	0.254	0.122	0.563
	307	好きな献立にする	0.249	0.107	0.088	0.243	0.510	0.088	0.447	0.599	0.468	0.196	0.652	0.127	0.002	0.701
	308	食事時間の調整	0.012	0.000	0.027	0.000	0.000	0.000	0.064	0.066	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	309	職員と一緒に食事	0.036	0.024	0.035	0.082	0.000	0.000	0.000	0.000	0.070	0.000	0.227	0.000	0.000	0.151
	310	最初だけ介助	0.008	0.013	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.097	0.000	0.000	0.000	0.000
	312	食器の工夫	0.020	0.000	0.000	0.182	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.124	0.000
	313	食材の形態、色等の工夫	0.047	0.000	0.110	0.000	0.000	0.063	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.246	0.124	0.557
	314	食事回数の調整	0.004	0.000	0.000	0.046	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	333	量を減らす	0.012	0.000	0.000	0.000	0.000	0.126	0.000	0.000	0.000	0.097	0.000	0.000	0.000	0.000
	390	その他	0.012	0.000	0.027	0.000	0.000	0.000	0.064	0.000	0.070	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
生活のリズム	401	活動量を増やす	0.427	0.256	0.046	0.225	0.997	0.584	0.196	0.726	0.578	0.996	0.449	0.864	0.861	0.853
	402	生活のリズム調整	0.119	0.000	0.047	0.000	0.121	0.190	0.528	0.528	0.140	0.194	0.001	0.001	0.001	0.420
	403	静かな、落ち着いた環境をつくり、静養	0.055	0.057	0.048	0.000	0.061	0.191	0.128	0.131	0.000	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001
	404	ぐっすり眠ってもらうようにした	0.229	0.132	0.036	0.001	0.098	0.254	0.321	0.526	0.995	0.571	0.330	0.369	0.251	0.003
	405	一端、休憩	0.146	0.000	0.280	0.302	0.001	0.315	0.582	0.201	0.001	0.196	0.001	0.001	0.126	0.002
	406	発声練習	0.055	0.026	0.000	0.051	0.000	0.184	0.000	0.328	0.000	0.195	0.001	0.001	0.001	0.140
	409	趣味活動を実施	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.245	0.000	0.000
	410	コミュニケーションをふやす	0.340	0.324	0.417	0.188	0.135	0.260	0.260	0.267	0.752	0.003	0.234	0.621	0.872	0.434
	490	その他	0.008	0.000	0.027	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.122	0.000	0.000
その他	502	受容し、安心してもらった	0.099	0.079	0.130	0.056	0.122	0.132	0.129	0.266	0.070	0.001	0.001	0.001	0.245	0.001
	503	義歯調整	0.067	0.026	0.000	0.177	0.000	0.000	0.066	0.328	0.000	0.205	0.110	0.001	0.001	0.280
	504	医療的対応	0.016	0.013	0.000	0.046	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.193	0.000	0.000	0.000	0.000
	506	排便調整	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.109	0.122	0.000	0.000
	507	服薬の調整	0.012	0.000	0.000	0.046	0.000	0.063	0.000	0.000	0.000	0.097	0.000	0.000	0.000	0.000
	508	疼痛管理	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.097	0.000	0.000	0.000	0.000
	590	その他	0.020	0.000	0.000	0.181	0.000	0.064	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
		（参考）平均項目数 →	6.4	3.6	5.2	4.0	8.0	6.6	9.2	14.7	8.6	8.9	5.3	7.3	8.4	9.8
		該当事例数 →	(253)	(75)	(36)	(22)	(16)	(16)	(16)	(15)	(14)	(10)	(9)	(8)	(8)	(7)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－３－４－３）　潜在クラスモデル評価（食事拒否の解決方法組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1（クラス数1）	7985.7	7791.4	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2（クラス数2）	8006.5	7614.3	0.065	0.817	0.753	0.790
モデル3（クラス数3）	8166.1	7576.0	0.071	0.836	0.800	0.812
モデル4（クラス数4）	8361.0	7573.1	0.083	0.848	0.829	0.822
モデル5（クラス数5）	8604.6	7618.8	0.071	0.863	0.849	0.840
モデル6（クラス数6）	8831.3	7647.6	0.081	0.874	0.852	0.837
モデル7（クラス数7）	9038.2	7656.7	0.089	0.863	0.874	0.842
モデル8（クラス数8）	9295.7	7716.2	0.087	0.885	0.874	0.845
モデル9（クラス数9）	9556.2	7778.9	0.065	0.896	0.899	0.877
モデル 10（クラス数 10）	9830.2	7855.1	0.074	0.891	0.887	0.861
モデル 11（クラス数 11）	10040.3	7867.2	0.075	0.887	0.897	0.863
モデル 12（クラス数 12）	10312.9	7942.0	0.087	0.890	0.892	0.853
モデル 13（クラス数 13）	10557.6	7988.8	0.061	0.913	0.918	0.886
モデル 14（クラス数 14）	10838.8	8072.2	0.084	0.900	0.903	0.863
モデル 15（クラス数 15）	11078.9	8114.4	0.073	0.911	0.917	0.879

（表２－３－４－４）　食事拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（全体）

（n=204）

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン							
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8
		声をかけると素直に食べることが多くなった	時間はかかるが摂取するようになった	必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできた	毎回ではないが食べ始めるようになった	拒否が少なくなり、食べるようになった	介助するとロをあけ、食べるようになった	拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもできた	介助するとロをあけ、時間はかかるが摂食するようになった
パターン1	「本人ペースで声かけ」を主として、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」や「コミュニケーションをふやす」などに分散した平均3.6項目と最少の組み合わせ	0.112	−0.062	−0.028	0.144 *	−0.043	−0.009	−0.110	−0.086
パターン2	「本人ペースで声かけ」を共通ベースにして、「好きな場所で食事を取る」も多く、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」などに分散した平均5.2項目の組み合わせ	−0.024	0.008	0.065	0.063	−0.071	0.045	−0.031	−0.090
パターン3	「好きな食べ物を見せる」を主として、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「一端、休憩」などに分散した平均4.0項目の組み合わせ	0.109	0.145 *	−0.066	−0.081	−0.027	−0.068	−0.080	−0.057
パターン4	「活動量を増やす」と「本人ペースで声かけ」を共通ベースにして、“食事の工夫”や“声かけの工夫”などに関する多様な項目が多く、平均8.0項目の組み合わせ	0.065	−0.099	0.121	0.024	−0.068	−0.060	−0.045	0.050
パターン5	「本人ペースで声かけ」、「活動量を増やす」、「食事前にお茶を提供」などを主にして、“生活リズム”に関する項目も多い、平均6.6項目の組み合わせ	0.020	0.054	−0.027	−0.099	0.093	0.016	−0.067	−0.038
パターン6	「好きな食べ物を見せる」と「本人ペースで声かけ」を共通ベースに、“食事の工夫”や“声かけの工夫”そして“生活のリズム”に関する項目が多く、平均9.2項目と多様な組み合わせ	−0.106	0.044	−0.050	−0.004	−0.056	0.043	0.008	0.263 **
パターン7	「本人ペースで声かけ」、「食事前からこまめに声かけ」、「食事内容、献立の説明」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」の4項目を共通ベースにして、“声かけの工夫”、“誘導の工夫”、“食事の工夫”、“生活のリズム”、“環境調整”など多種多様におよぶ、平均14.7項目と最多の組み合わせ	−0.125	−0.006	0.003	−0.007	−0.111	0.082	0.269 **	0.066
パターン8	「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」、「声かけをせず、職員が一緒に」の5項目を共通ベースにした平均8.6項目の組み合わせ	−0.058	−0.096	0.130	0.030	0.144 *	−0.068	−0.061	−0.059
パターン9	「活動量を増やす」と「食べやすいよう、盛りつけを工夫」を共通ベースにして、「水分摂取量を増やした」、「本人ペースで声かけ」、「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「少人数席に変更」なども多い、平均8.9項目の組み合わせ	−0.110	−0.018	−0.033	−0.027	0.173 *	0.066	−0.058	0.066
パターン10	「調理を手伝う」を共通ベースにして、「配膳をしてもらう」や「好きな献立にする」も多く、“誘導の工夫”が目立つ、平均5.3項目の組み合わせ	−0.045	0.070	−0.004	−0.084	0.075	−0.051	0.056	−0.036
パターン11	「本人ペースで声かけ」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「活動量を増やす」の3項目を共通ベースにして、「食事メンバー」と「コミュニケーションをふやす」も多い、平均7.3項目の組み合わせ	0.110	−0.033	−0.084	−0.004	−0.041	−0.054	0.072	0.048
パターン12	「活動量を増やす」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」の4項目を共通ベースにして、「声かけをせず、職員が一緒に」も多い、平均8.4項目の組み合わせ	−0.085	0.065	−0.063	−0.069	0.029	−0.042	0.260 **	−0.024
パターン13	「活動量を増やす」を共通ベースにして、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「好きな献立にする」、「好きな食べ物を見せる」、「食材の形態、色等の工夫」など“食事の工夫”や“声かけの工夫”も多い、平均9.8項目の組み合わせ	0.052	−0.023	0.013	−0.072	0.016	0.085	−0.044	−0.040

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－３－４－５）　食事拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連（全体）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況									
			拒否が少なくなり、食べるようになった	声をかけると素直に食べることが多くなった	食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった	必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできた	毎回ではないが食べ始めるようになった	時間はかかるが摂取するようになった	他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった	全量完食するようになった	介助すると口をあけ、食べるようになった	自分から食器を持ち食べるようになった
全体		204	27.0	29.9	7.4	28.9	14.7	30.4	17.2	11.8	10.8	12.7
パターン1	「本人ペースで声かけ」を主として、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」や「コミュニケーションをふやす」などに分散した平均3.6項目と最少の組み合わせ	56	18.4	29.8	5.1	21.7	17.4	23.4	12.2	10.8	6.7	7.2
パターン2	「本人ペースで声かけ」を共通ベースにして、「好きな場所で食事を取る」も多く、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」などに分散した平均5.2項目の組み合わせ	27	12.9	18.3	3.8	27.4	24.4	27.5	11.6	7.1	8.4	9.8
パターン3	「好きな食べ物を見せる」を主として、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「一端、休憩」などに分散した平均4.0項目の組み合わせ	17	15.1	29.1	6.0	11.9	1.6	43.5	17.8	18.4	5.9	22.9
パターン4	「活動量を増やす」と「本人ペースで声かけ」を共通ベースにして、“食事の工夫”や“声かけの工夫”などに関する多様な項目が多く、平均8.0項目の組み合わせ	13	31.1	33.4	15.9	31.5	15.0	15.2	9.6	15.4	8.3	29.2
パターン5	「本人ペースで声かけ」、「活動量を増やす」、「食事前にお茶を提供」などを主にして、“生活リズム”に関する項目も多い、平均6.6項目の組み合わせ	13	40.2	40.2	8.0	10.8	0.6	31.6	6.5	16.6	14.9	28.7
パターン6	「好きな食べ物を見せる」と「本人ペースで声かけ」を共通ベースに、“食事の工夫”や“声かけの工夫”そして“生活のリズム”に関する項目が多く、平均9.2項目と多様な組み合わせ	15	34.6	27.0	13.8	28.8	27.5	51.1	13.9	20.6	27.2	6.9
パターン7	「本人ペースで声かけ」、「食事前からこまめに声かけ」、「食事内容、献立の説明」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」の４項目を共通ベースにして、“声かけの工夫”、“誘導の工夫”、“食事の工夫”、“生活のリズム”、“環境調整”など多種多様におよぶ、平均14.7項目と最多の組み合わせ	14	35.2	28.4	14.1	63.7	21.6	42.6	35.6	7.1	28.5	21.1
パターン8	「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」、「声かけをせず、職員が一緒に」の５項目を共通ベースにした平均8.6項目の組み合わせ	12	44.4	16.5	8.1	31.5	16.6	15.1	39.4	5.9	0.0	8.1
パターン9	「活動量を増やす」と「食べやすいよう、盛りつけを工夫」を共通ベースにして、「水分摂取量を増やした」、「本人ペースで声かけ」、「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「少人数席に変更」なども多い、平均8.9項目の組み合わせ	10	38.4	9.8	0.0	28.8	12.3	39.0	29.3	9.7	20.5	0.0
パターン10	「調理を手伝う」を共通ベースにして、「配膳をしてもらう」や「好きな献立にする」も多く、“誘導の工夫”が目立つ、平均5.3項目の組み合わせ	8	37.7	37.0	12.4	49.6	0.4	36.6	12.4	0.0	0.0	0.0
パターン11	「本人ペースで声かけ」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「活動量を増やす」の３項目を共通ベースにして、「食事メンバー」と「コミュニケーションをふやす」も多い、平均7.3項目の組み合わせ	8	38.3	62.0	12.5	36.5	12.5	36.8	12.8	12.9	11.8	24.8
パターン12	「活動量を増やす」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」の４項目を共通ベースにして、「声かけをせず、職員が一緒に」も多い、平均8.4項目の組み合わせ	5	59.5	60.2	0.0	79.4	0.1	39.3	40.1	41.0	0.0	20.1
パターン13	「活動量を増やす」を共通ベースにして、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「好きな献立にする」、「好きな食べ物を見せる」、「食材の形態、色等の工夫」など“食事の工夫”や“声かけの工夫”も多い、平均9.8項目の組み合わせ	6	16.5	50.4	0.1	16.6	0.0	16.5	16.4	0.0	16.4	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－３－４－６）　食事拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン１“自立、中程度重症度”の場合）

（n=145）

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン							
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8
		声をかけると素直に食べることが多くなった	時間はかかるが摂取するようになった	必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできた	毎回ではないが食べ始めるようになった	拒否が少なくなり、食べるようになった	介助するとロをあけ、食べるようになった	拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもできた	介助するとロをあけ、時間はかかるが摂食するようになった
パターン1	「本人ペースで声かけ」を主として、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」や「コミュニケーションをふやす」などに分散した平均3.6項目と最少の組み合わせ	0.132	−0.063	−0.071	0.137	−0.051	−0.021	−0.107	0.000
パターン2	「本人ペースで声かけ」を共通ベースにして、「好きな場所で食事を取る」も多く、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」などに分散した平均5.2項目の組み合わせ	−0.079	0.069	0.028	0.095	−0.078	0.003	−0.019	−0.062
パターン3	「好きな食べ物を見せる」を主として、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「一端、休憩」などに分散した平均4.0項目の組み合わせ	0.110	0.130	−0.105	−0.050	−0.011	−0.064	−0.070	−0.039
パターン4	「活動量を増やす」と「本人ペースで声かけ」を共通ベースにして、“食事の工夫”や“声かけの工夫”などに関する多様な項目が多く、平均8.0項目の組み合わせ	0.007	−0.077	0.181 *	0.047	−0.070	−0.062	−0.041	−0.047
パターン5	「本人ペースで声かけ」、「活動量を増やす」、「食事前にお茶を提供」などを主にして、“生活リズム”に関する項目も多い、平均6.6項目の組み合わせ	−0.009	−0.016	0.049	−0.079	0.035	0.111	−0.056	−0.037
パターン6	「好きな食べ物を見せる」と「本人ペースで声かけ」を共通ベースに、“食事の工夫”や“声かけの工夫”そして“生活のリズム”に関する項目が多く、平均9.2項目と多様な組み合わせ	−0.050	−0.011	0.000	−0.035	−0.012	−0.034	−0.062	0.417 **
パターン7	「本人ペースで声かけ」、「食事前からこまめに声かけ」、「食事内容、献立の説明」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」の4項目を共通ベースにして、“声かけの工夫”、“誘導の工夫”、“食事の工夫”、“生活のリズム”、“環境調整”など多種多様におよぶ、平均14.7項目と最多の組み合わせ	−0.085	0.015	0.066	−0.039	−0.107	0.086	0.179 *	−0.038
パターン8	「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」、「声かけをせず、職員が一緒に」の5項目を共通ベースにした平均8.6項目の組み合わせ	−0.038	−0.084	0.094	−0.040	0.184 *	−0.068	−0.068	−0.043
パターン9	「活動量を増やす」と「食べやすいよう、盛りつけを工夫」を共通ベースにして、「水分摂取量を増やした」、「本人ペースで声かけ」、「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「少人数席に変更」なども多い、平均8.9項目の組み合わせ	−0.073	−0.104	0.015	0.007	0.127	0.155	−0.052	−0.033
パターン10	「調理を手伝う」を共通ベースにして、「配膳をしてもらう」や「好きな献立にする」も多く、“誘導の工夫”が目立つ、平均5.3項目の組み合わせ	−0.048	0.096	−0.014	−0.110	0.069	−0.055	0.065	−0.022
パターン11	「本人ペースで声かけ」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「活動量を増やす」の3項目を共通ベースにして、「食事メンバー」と「コミュニケーションをふやす」も多い、平均7.3項目の組み合わせ	0.045	−0.006	−0.085	0.030	−0.025	−0.047	0.129	−0.027
パターン12	「活動量を増やす」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」の4項目を共通ベースにして、「声かけをせず、職員が一緒に」も多い、平均8.4項目の組み合わせ	−0.100	0.086	−0.081	−0.088	0.022	−0.047	0.306 **	−0.011
パターン13	「活動量を増やす」を共通ベースにして、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「好きな献立にする」、「好きな食べ物を見せる」、「食材の形態、色等の工夫」など“食事の工夫”や“声かけの工夫”も多い、平均9.8項目の組み合わせ	0.098	−0.002	−0.084	−0.083	0.023	0.130	−0.049	−0.030

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－３－４－７）　食事拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン１“自立、中程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況									
			拒否が少なくなり、食べるようになった	声をかけると素直に食べることが多くなった	食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった	必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできた	毎回ではないが食べ始めるようになった	時間はかかるが摂取するようになった	他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった	全量完食するようになった	介助すると口をあけ、食べるようになった	自分から食器を持ち食べるようになった
全体		145	27.6	26.9	6.2	30.3	14.5	25.5	17.9	9.0	6.2	11.0
パターン1	「本人ペースで声かけ」を主として、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」や「コミュニケーションをふやす」などに分散した平均3.6項目と最少の組み合わせ	44	21.7	31.2	2.2	23.6	19.9	21.6	12.8	11.7	6.3	8.6
パターン2	「本人ペースで声かけ」を共通ベースにして、「好きな場所で食事を取る」も多く、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」などに分散した平均5.2項目の組み合わせ	22	15.5	12.5	4.7	27.5	25.1	31.6	14.1	8.3	5.5	2.3
パターン3	「好きな食べ物を見せる」を主として、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「一端、休憩」などに分散した平均4.0項目の組み合わせ	9	13.9	21.5	0.1	11.5	3.1	39.4	22.8	11.5	0.0	32.5
パターン4	「活動量を増やす」と「本人ペースで声かけ」を共通ベースにして、“食事の工夫”や“声かけの工夫”などに関する多様な項目が多く、平均8.0項目の組み合わせ	10	30.6	24.5	19.4	40.7	19.5	9.7	12.5	1.2	0.0	19.2
パターン5	「本人ペースで声かけ」、「活動量を増やす」、「食事前にお茶を提供」などを主にして、“生活リズム”に関する項目も多い、平均6.6項目の組み合わせ	6	21.1	36.0	17.8	23.8	1.3	17.3	0.8	1.3	15.6	32.7
パターン6	「好きな食べ物を見せる」と「本人ペースで声かけ」を共通ベースに、“食事の工夫”や“声かけの工夫”そして“生活のリズム”に関する項目が多く、平均9.2項目と多様な組み合わせ	7	40.7	25.7	13.4	29.3	13.5	45.0	13.8	13.3	13.5	0.1
パターン7	「本人ペースで声かけ」、「食事前からこまめに声かけ」、「食事内容、献立の説明」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」の４項目を共通ベースにして、“声かけの工夫”、“誘導の工夫”、“食事の工夫”、“生活のリズム”、“環境調整”など多種多様におよぶ、平均14.7項目と最多の組み合わせ	8	24.6	12.6	12.3	74.4	13.0	24.6	25.4	12.3	12.3	24.6
パターン8	「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」、「声かけをせず、職員が一緒に」の５項目を共通ベースにした平均8.6項目の組み合わせ	10	43.3	19.6	0.0	28.0	10.1	18.0	46.9	7.0	0.0	9.7
パターン9	「活動量を増やす」と「食べやすいよう、盛りつけを工夫」を共通ベースにして、「水分摂取量を増やした」、「本人ペースで声かけ」、「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「少人数席に変更」なども多い、平均8.9項目の組み合わせ	5	36.7	0.0	0.0	18.2	5.1	0.0	19.1	0.0	21.0	0.0
パターン10	「調理を手伝う」を共通ベースにして、「配膳をしてもらう」や「好きな献立にする」も多く、“誘導の工夫”が目立つ、平均5.3項目の組み合わせ	8	37.6	37.3	12.5	50.1	0.0	36.4	12.5	0.0	0.0	0.0
パターン11	「本人ペースで声かけ」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「活動量を増やす」の３項目を共通ベースにして、「食事メンバー」と「コミュニケーションをふやす」も多い、平均7.3項目の組み合わせ	5	60.2	40.2	19.7	19.8	19.7	39.3	20.1	0.6	0.0	19.8
パターン12	「活動量を増やす」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」の４項目を共通ベースにして、「声かけをせず、職員が一緒に」も多い、平均8.4項目の組み合わせ	5	59.6	60.2	0.0	79.4	0.1	39.3	40.1	41.0	0.0	20.1
パターン13	「活動量を増やす」を共通ベースにして、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「好きな献立にする」、「好きな食べ物を見せる」、「食材の形態、色等の工夫」など“食事の工夫”や“声かけの工夫”も多い、平均9.8項目の組み合わせ	5	19.8	60.4	0.1	0.1	0.0	19.7	19.7	0.0	19.7	0.1

（注）高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）
潜在クラス帰属確率による集計

（表２－３－４－８）　食事拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン２“一部介助、中高程度重症度”の場合）

（n=59）

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン							
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8
		声をかけると素直に食べることが多くなった	時間はかかるが摂取するようになった	必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできた	毎回ではないが食べ始めるようになった	拒否が少なくなり、食べるようになった	介助するとロをあけ、食べるようになった	拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもできた	介助するとロをあけ、時間はかかるが摂食するようになった
パターン1	「本人ペースで声かけ」を主として、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」や「コミュニケーションをふやす」などに分散した平均3.6項目と最少の組み合わせ	0.086	-0.033	0.079	0.132	-0.065	0.040	-0.126	-0.184
パターン2	「本人ペースで声かけ」を共通ベースにして、「好きな場所で食事を取る」も多く、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」などに分散した平均5.2項目の組み合わせ	0.144	-0.146	0.168	-0.105	-0.097	0.186	-0.075	-0.110
パターン3	「好きな食べ物を見せる」を主として、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「一端、休憩」などに分散した平均4.0項目の組み合わせ	0.097	0.156	0.031	-0.123	-0.025	-0.093	-0.097	-0.122
パターン4	「活動量を増やす」と「本人ペースで声かけ」を共通ベースにして、“食事の工夫”や“声かけの工夫”などに関する多様な項目が多く、平均8.0項目の組み合わせ	0.214	-0.154	-0.082	-0.072	-0.079	-0.051	-0.057	0.224
パターン5	「本人ペースで声かけ」、「活動量を増やす」、「食事前にお茶を提供」などを主にして、“生活リズム”に関する項目も多い、平均6.6項目の組み合わせ	0.040	0.130	-0.126	-0.117	0.270 *	-0.119	-0.088	-0.090
パターン6	「好きな食べ物を見せる」と「本人ペースで声かけ」を共通ベースに、“食事の工夫”や“声かけの工夫”そして“生活のリズム”に関する項目が多く、平均9.2項目と多様な組み合わせ	-0.206	0.114	-0.127	0.094	-0.122	0.144	0.129	0.097
パターン7	「本人ペースで声かけ」、「食事前からこまめに声かけ」、「食事内容、献立の説明」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」の4項目を共通ベースにして、“声かけの工夫”、“誘導の工夫”、“食事の工夫”、“生活のリズム”、“環境調整”など多種多様におよぶ、平均14.7項目と最多の組み合わせ	-0.203	-0.061	-0.115	0.091	-0.110	0.067	0.457 **	0.146
パターン8	「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」、「声かけをせず、職員が一緒に」の5項目を共通ベースにした平均8.6項目の組み合わせ	-0.109	-0.121	0.247	0.292 *	-0.061	-0.057	-0.044	-0.068
パターン9	「活動量を増やす」と「食べやすいよう、盛りつけを工夫」を共通ベースにして、「水分摂取量を増やした」、「本人ペースで声かけ」、「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「少人数席に変更」なども多い、平均8.9項目の組み合わせ	-0.179	0.094	-0.103	-0.071	0.335 **	-0.067	-0.070	0.120
パターン10	「調理を手伝う」を共通ベースにして、「配膳をしてもらう」や「好きな献立にする」も多く、“誘導の工夫”が目立つ、平均5.3項目の組み合わせ	-0.112	-0.114	-0.063	0.259 *	0.289 *	-0.057	-0.044	-0.035
パターン11	「本人ペースで声かけ」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「活動量を増やす」の3項目を共通ベースにして、「食事メンバー」と「コミュニケーションをふやす」も多い、平均7.3項目の組み合わせ	0.228	-0.094	-0.078	-0.082	-0.075	-0.072	-0.049	0.125
パターン12	「活動量を増やす」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」の4項目を共通ベースにして、「声かけをせず、職員が一緒に」も多い、平均8.4項目の組み合わせ	-0.075	0.018	-0.052	-0.046	-0.048	-0.036	-0.037	0.310 *
パターン13	「活動量を増やす」を共通ベースにして、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「好きな献立にする」、「好きな食べ物を見せる」、「食材の形態、色等の工夫」など“食事の工夫”や“声かけの工夫”も多い、平均9.8項目の組み合わせ	-0.076	-0.083	0.391 **	-0.046	-0.042	-0.039	-0.031	-0.048

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－３－４－９）　食事拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン２“一部介助、中高程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況									
			拒否が少なくなり、食べるようになった	声をかけると素直に食べることが多くなった	食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった	必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできた	毎回ではないが食べ始めるようになった	時間はかかるが摂取するようになった	他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった	全量完食するようになった	介助すると口をあけ、食べるようになった	自分から食器を持ち食べるようになった
全体		59	25.4	37.3	10.2	25.4	15.3	42.4	15.3	18.6	22.0	16.9
パターン1	「本人ペースで声かけ」を主として、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」や「コミュニケーションをふやす」などに分散した平均3.6項目と最少の組み合わせ	12	6.0	24.4	15.6	14.6	8.1	29.9	10.2	7.5	7.8	2.0
パターン2	「本人ペースで声かけ」を共通ペースにして、「好きな場所で食事を取る」も多く、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」などに分散した平均5.2項目の組み合わせ	5	0.7	44.9	0.0	27.1	20.9	8.8	0.1	1.9	21.5	44.1
パターン3	「好きな食べ物を見せる」を主として、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「一端、休憩」などに分散した平均4.0項目の組み合わせ	8	16.5	37.3	12.4	12.4	0.0	47.9	12.4	25.9	12.4	12.4
パターン4	「活動量を増やす」と「本人ペースで声かけ」を共通ペースにして、“食事の工夫”や“声かけの工夫”などに関する多様な項目が多く、平均8.0項目の組み合わせ	3	32.7	63.0	4.3	0.9	0.0	33.5	0.0	62.2	35.6	62.1
パターン5	「本人ペースで声かけ」、「活動量を増やす」、「食事前にお茶を提供」などを主にして、“生活リズム”に関する項目も多い、平均6.6項目の組み合わせ	7	55.7	43.6	0.0	0.3	0.0	43.3	11.1	29.0	14.4	25.4
パターン6	「好きな食べ物を見せる」と「本人ペースで声かけ」を共通ペースに、“食事の工夫”や“声かけの工夫”そして“生活のリズム”に関する項目が多く、平均9.2項目と多様な組み合わせ	7	28.3	28.5	14.1	28.3	42.2	57.4	14.1	28.2	41.5	14.1
パターン7	「本人ペースで声かけ」、「食事前からこまめに声かけ」、「食事内容、献立の説明」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」の４項目を共通ペースにして、“声かけの工夫”、“誘導の工夫”、“食事の工夫”、“生活のリズム”、“環境調整”など多種多様におよぶ、平均14.7項目と最多の組み合わせ	6	49.4	49.6	16.5	49.4	33.1	66.9	49.4	0.1	50.3	16.6
パターン8	「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」、「声かけをせず、職員が一緒に」の５項目を共通ペースにした平均8.6項目の組み合わせ	2	49.7	0.8	49.7	49.6	49.7	0.0	0.6	0.1	0.0	0.1
パターン9	「活動量を増やす」と「食べやすいよう、盛りつけを工夫」を共通ペースにして、「水分摂取量を増やした」、「本人ペースで声かけ」、「ぐっすり眠ってもらうようにした」、「少人数席に変更」なども多い、平均8.9項目の組み合わせ	5	40.1	19.9	0.0	39.9	19.9	79.8	39.9	19.9	19.9	0.0
パターン10	「調理を手伝う」を共通ペースにして、「配膳をしてもらう」や「好きな献立にする」も多く、“誘導の工夫”が目立つ、平均5.3項目の組み合わせ	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン11	「本人ペースで声かけ」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「活動量を増やす」の３項目を共通ペースにして、「食事メンバー」と「コミュニケーションをふやす」も多い、平均7.3項目の組み合わせ	3	0.0	100.0	0.0	65.7	0.0	32.4	0.0	34.2	32.4	33.4
パターン12	「活動量を増やす」、「コミュニケーションをふやす」、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」、「本人ペースで声かけ」の４項目を共通ペースにして、「声かけをせず、職員が一緒に」も多い、平均8.4項目の組み合わせ	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン13	「活動量を増やす」を共通ペースにして、「カロリーを考慮し、おやつを提供」、「好きな献立にする」、「好きな食べ物を見せる」、「食材の形態、色等の工夫」など“食事の工夫”や“声かけの工夫”も多い、平均9.8項目の組み合わせ	1	0.0	0.0	0.0	99.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（注）高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）
潜在クラス帰属確率による集計

（表２－３－５－１）　食事拒否の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
		計（延解決方法件数）	1,441	100.0
認知能力	1	認知機能	39	2.7
	2	認知症の種類	22	1.5
	3	認知症の症状	92	6.4
	4	認知症罹患期間	2	0.1
健康面	5	体調	148	10.3
	6	現病・既往歴	41	2.8
	7	排泄状況	61	4.2
	8	水分状態	69	4.8
	9	視力・視覚機能	16	1.1
	10	体重・BMI	12	0.8
	11	運動量	62	4.3
	12	睡眠時間・状況	86	6.0
	13	手指腕の機能	29	2.0
	14	薬の種類、服薬状況	49	3.4
	15	麻痺	3	0.2
	16	味覚・嗅覚	34	2.4
口腔機能	17	口腔状況	46	3.2
	18	咀嚼力	36	2.5
	19	嚥下状態・誤嚥	52	3.6
心理面	20	気分	333	23.1
	21	心配ごと・不満状況	130	9.0
	22	本人の気持ち、意志	392	27.2
食事関係	23	食の嗜好・興味・意欲	309	21.4
	24	最近の食事量	62	4.3
	25	当日の食事量・おやつ量	68	4.7
	26	満腹感、空腹感	44	3.1
	27	食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)	116	8.0
	28	盛付	82	5.7
	29	食器の配置	37	2.6
食事中の状態	30	食中の様子	88	6.1
	31	姿勢	30	2.1
	32	目線	44	3.1
	33	食事中の会話	92	6.4
	34	表情	137	9.5
習慣	35	最近の食習慣	82	5.7
	36	生活習慣(ここ数年)	117	8.1
	37	生活歴(幼少期から)	141	9.8
環境	38	周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)	136	9.4
	39	席の位置	98	6.8
	40	椅子・机の形	1	0.1
	41	椅子・机の高さ	15	1.0
	42	椅子・机の色	0	0.0
人間関係	43	他の入居者との関係	162	11.2
	44	スタッフとの関係	223	15.5
	45	家族関係	104	7.2
介護者の対応	46	スタッフの声かけ内容・見守り方	419	29.1
その他	47	所持金/ 経済不安	22	1.5
	48	その他	3	0.2
		（参考）平均記入項目数 →	3.0	

（表２－３－５－２）食事拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン

（潜在クラス 17 クラスモデルのプロフィール）

(n=1441)

区分	code	解決に役立った情報	全体	パターン1 「食の嗜好・興味・意欲」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」他に分散した平均2.7項目の組み合わせ	パターン2 「生活習慣（ここ数年）」、「生活歴（幼少期から）」、「最近の食習慣」を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」他に分散した平均2.6項目の組み合わせ	パターン3 「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」や「心配ごと・不満状況」を含めた"心理面"、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	パターン4 「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」や「気分」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	パターン5 「気分」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」と「心配ごと・不満状況」を含めた"心理面"にウェイトを置き、「食の嗜好・興味・意欲」他に分散して構成された平均2.9項目の組み合わせ	パターン6 「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」と「席の位置」を主として、「他の入居者との関係」他に分散して構成された平均2.9項目の組み合わせ	パターン7 「表情」、「食中の様子」、「食事中の会話」、「目線」など"食事中の状態"を主として、「スタッフとの関係」他に分散して構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン8 「睡眠時間・状況」、「運動量」、「体調」、「薬の種類、服薬状況」など"健康面"を主として構成された平均2.5項目の組み合わせ	パターン9 「家族関係」を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「生活歴（幼少期から）」、「心配ごと・不満状況」、「本人の気持ち、意志」、「所持金／経済不安」などに分散して構成された平均2.5項目の組み合わせ	パターン10 「スタッフとの関係」、「家族関係」、「他の入居者との関係」の"人間関係"を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	パターン11 「盛付」を共通ベースとして、「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」、「食器の配置」、「食の嗜好・興味・意欲」などを含めた"食事関係"を主として構成された平均3.6項目の組み合わせ	パターン12 「水分状態」、「排泄状況」、「体調」など"健康面"を主として構成された平均2.7項目の組み合わせ	パターン13 「体調」、「睡眠時間・状況」、「運動量」、「排泄状況」などの"健康面"と、「本人の気持ち、意志」、「気分」などの"心理面"を主として構成された平均3.6項目の組み合わせ	パターン14 「咀嚼力」、「嚥下状態・誤嚥」、「口腔状況」の"口腔機能"と、「食の嗜好・興味・意欲」や「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」などの"食事関係"を主として構成された平均3.8項目の組み合わせ	パターン15 「当日の食事量・おやつ量」を共通ベースとして、「食の嗜好・興味・意欲」や「最近の食事量」などを含めた"食事関係"を主として構成された平均3.3項目の組み合わせ	パターン16 共通ベースがなく、「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」、「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」、「席の位置」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「口腔状況」、「本人の気持ち、意志」などに分散して構成された平均3.8項目の組み合わせ	パターン17 「認知症の症状」を共通ベースとして、「認知機能」と「認知症の種類」を含めた"認知能力"にウェイトを置き、「気分」、「本人の気持ち、意志」、「生活習慣」他に分散して構成された平均4.0項目の最多組み合わせ
		サイズ	1.000	0.113	0.098	0.093	0.074	0.073	0.072	0.071	0.066	0.059	0.047	0.045	0.045	0.043	0.032	0.027	0.023	0.020
認知能力	1	認知機能	0.027	0.035	0.019	0.055	0.000	0.000	0.018	0.012	0.000	0.000	0.063	0.046	0.000	0.021	0.022	0.000	0.000	0.364
	2	認知症の種類	0.015	0.000	0.000	0.007	0.000	0.009	0.053	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.037	0.045	0.000	0.000	0.354
	3	認知症の症状	0.064	0.012	0.000	0.031	0.048	0.050	0.046	0.055	0.087	0.078	0.194	0.000	0.047	0.099	0.046	0.000	0.000	0.890
	4	認知症罹患期間	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.010	0.000	0.000	0.000	0.015	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
健康面	5	体調	0.103	0.018	0.000	0.098	0.069	0.000	0.046	0.043	0.374	0.000	0.080	0.000	0.296	0.676	0.155	0.000	0.076	0.135
	6	現病・既往歴	0.029	0.004	0.000	0.014	0.009	0.003	0.000	0.000	0.116	0.014	0.044	0.000	0.109	0.148	0.068	0.000	0.000	0.099
	7	排泄状況	0.042	0.000	0.000	0.000	0.047	0.020	0.006	0.000	0.081	0.000	0.000	0.000	0.309	0.222	0.000	0.073	0.119	0.176
	8	水分状態	0.048	0.017	0.000	0.061	0.000	0.000	0.000	0.020	0.053	0.000	0.000	0.000	0.633	0.067	0.026	0.000	0.000	0.158
	9	視力・視覚機能	0.011	0.031	0.000	0.000	0.017	0.000	0.040	0.000	0.008	0.000	0.000	0.017	0.022	0.027	0.000	0.000	0.000	0.000
	10	体重・BMI	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.108	0.000	0.021	0.077	0.000	0.034
	11	運動量	0.043	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.427	0.000	0.017	0.000	0.049	0.230	0.000	0.000	0.000	0.058
	12	睡眠時間・状況	0.060	0.012	0.007	0.011	0.063	0.000	0.032	0.012	0.550	0.000	0.000	0.000	0.000	0.261	0.000	0.000	0.000	0.075
	13	手指腕の機能	0.020	0.026	0.000	0.000	0.039	0.000	0.000	0.019	0.029	0.000	0.000	0.047	0.060	0.019	0.092	0.025	0.000	0.096
	14	薬の種類、服薬状況	0.034	0.000	0.016	0.030	0.000	0.000	0.000	0.000	0.290	0.000	0.017	0.000	0.162	0.036	0.000	0.000	0.000	0.051
	15	麻痺	0.002	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.010	0.000	0.000	0.000	0.000	0.017	0.022	0.000	0.000	0.000
	16	味覚・嗅覚	0.024	0.087	0.006	0.008	0.000	0.000	0.000	0.025	0.000	0.000	0.000	0.033	0.075	0.000	0.098	0.025	0.000	0.100
口腔機能	17	口腔状況	0.032	0.017	0.010	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.018	0.172	0.017	0.407	0.000	0.296	0.000
	18	咀嚼力	0.025	0.007	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.015	0.017	0.020	0.000	0.596	0.027	0.094	0.000
	19	嚥下状態・誤嚥	0.036	0.000	0.000	0.000	0.036	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.137	0.050	0.564	0.102	0.193	0.000
心理面	20	気分	0.231	0.065	0.103	0.548	0.265	0.813	0.167	0.162	0.073	0.166	0.239	0.017	0.000	0.434	0.183	0.031	0.135	0.283
	21	心配ごと・不満状況	0.090	0.000	0.041	0.241	0.128	0.263	0.000	0.097	0.000	0.269	0.000	0.000	0.000	0.152	0.000	0.000	0.195	0.071
	22	本人の気持ち、意志	0.272	0.222	0.128	0.998	0.001	0.629	0.140	0.197	0.000	0.259	0.233	0.107	0.000	0.618	0.145	0.001	0.246	0.216
食事関係	23	食の嗜好・興味・意欲	0.214	0.954	0.088	0.036	0.043	0.296	0.013	0.000	0.000	0.000	0.099	0.455	0.139	0.089	0.431	0.749	0.001	0.001
	24	最近の食事量	0.043	0.085	0.000	0.008	0.009	0.022	0.011	0.004	0.011	0.012	0.000	0.148	0.123	0.000	0.000	0.579	0.000	0.000
	25	当日の食事量・おやつ量	0.047	0.024	0.000	0.015	0.017	0.046	0.000	0.000	0.012	0.014	0.000	0.070	0.093	0.000	0.092	0.904	0.000	0.103
	26	満腹感、空腹感	0.031	0.000	0.021	0.009	0.014	0.083	0.023	0.000	0.053	0.000	0.000	0.130	0.040	0.108	0.000	0.116	0.000	0.000
	27	食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）	0.081	0.193	0.035	0.014	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.627	0.028	0.000	0.317	0.180	0.411	0.000
	28	盛付	0.057	0.117	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.019	0.000	0.000	0.000	0.765	0.000	0.000	0.161	0.099	0.000	0.000
	29	食器の配置	0.026	0.008	0.000	0.000	0.000	0.012	0.000	0.007	0.000	0.000	0.000	0.488	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.069
食事中の状態	30	食中の様子	0.061	0.094	0.009	0.000	0.053	0.059	0.062	0.403	0.000	0.000	0.000	0.040	0.031	0.018	0.000	0.051	0.138	0.000
	31	姿勢	0.021	0.018	0.000	0.000	0.000	0.026	0.000	0.113	0.000	0.000	0.000	0.058	0.000	0.000	0.067	0.034	0.139	0.000
	32	目線	0.031	0.025	0.000	0.000	0.000	0.000	0.057	0.246	0.000	0.000	0.006	0.037	0.000	0.000	0.000	0.000	0.183	0.000
	33	食事中の会話	0.064	0.050	0.126	0.032	0.098	0.005	0.014	0.346	0.000	0.020	0.000	0.102	0.000	0.000	0.000	0.026	0.112	0.043
	34	表情	0.095	0.104	0.021	0.072	0.059	0.121	0.000	0.734	0.000	0.055	0.000	0.000	0.000	0.031	0.000	0.000	0.189	0.035
習慣	35	最近の食 習慣	0.057	0.129	0.232	0.000	0.000	0.053	0.055	0.025	0.025	0.000	0.000	0.125	0.000	0.000	0.047	0.047	0.000	0.000
	36	生活 習慣（ここ数年）	0.081	0.028	0.530	0.000	0.000	0.114	0.042	0.034	0.028	0.000	0.030	0.085	0.000	0.000	0.024	0.000	0.000	0.229
	37	生活歴（幼少期から）	0.098	0.065	0.423	0.077	0.000	0.044	0.030	0.078	0.000	0.303	0.147	0.073	0.000	0.000	0.000	0.026	0.105	0.000
環境	38	周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）	0.094	0.013	0.076	0.043	0.071	0.158	0.626	0.022	0.098	0.023	0.000	0.000	0.000	0.053	0.000	0.024	0.315	0.000
	39	席の位置	0.068	0.018	0.000	0.048	0.046	0.000	0.573	0.076	0.000	0.014	0.000	0.016	0.000	0.050	0.000	0.000	0.263	0.080
	40	椅子・机の形	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.012	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	41	椅子・机の高さ	0.010	0.006	0.000	0.000	0.000	0.010	0.067	0.007	0.000	0.000	0.000	0.015	0.000	0.000	0.024	0.000	0.096	0.000
人間関係	43	他の入居者との関係	0.112	0.000	0.138	0.192	0.153	0.051	0.444	0.109	0.000	0.044	0.308	0.000	0.017	0.118	0.000	0.052	0.000	0.097
	44	スタッフとの関係	0.155	0.028	0.135	0.333	0.473	0.000	0.146	0.204	0.015	0.030	0.733	0.063	0.000	0.000	0.092	0.021	0.133	0.040
	45	家族関係	0.072	0.013	0.066	0.000	0.000	0.000	0.013	0.037	0.000	0.664	0.429	0.000	0.023	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
介護者の対応	46	スタッフの声かけ内容・見守り方	0.291	0.173	0.336	0.709	0.997	0.001	0.186	0.372	0.150	0.323	0.313	0.040	0.027	0.002	0.049	0.001	0.352	0.122
その他	47	所持金／経済不安	0.015	0.000	0.000	0.012	0.000	0.011	0.000	0.000	0.000	0.204	0.011	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.035
		（参考）選択された平均項目数 →	3.0	2.7	2.6	3.7	2.8	2.9	2.9	3.5	2.5	2.5	3.0	3.6	2.7	3.6	3.8	3.3	3.8	4.0
		該当事例数 →	(1441)	(163)	(141)	(133)	(107)	(105)	(104)	(102)	(95)	(86)	(68)	(65)	(65)	(62)	(46)	(39)	(33)	(29)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－３－５－３）潜在クラスモデル評価（食事拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル１（クラス数1）	28685.5	28442.9	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル２（クラス数2）	27958.4	27468.0	0.061	0.788	0.740	0.776
モデル３（クラス数3）	27605.7	26867.4	0.087	0.801	0.760	0.776
モデル４（クラス数4）	27660.5	26674.4	0.143	0.778	0.723	0.716
モデル５（クラス数5）	27766.2	26532.3	0.169	0.778	0.719	0.699
モデル６（クラス数6）	27878.4	26396.7	0.154	0.797	0.746	0.724
モデル７（クラス数7）	28010.1	26280.5	0.159	0.800	0.752	0.721
モデル８（クラス数8）	28211.8	26234.4	0.164	0.794	0.762	0.721
モデル９（クラス数9）	28428.9	26203.6	0.152	0.788	0.776	0.731
モデル 10（クラス数 10）	28648.7	26175.6	0.160	0.795	0.775	0.726
モデル 11（クラス数 11）	28889.7	26168.8	0.177	0.789	0.774	0.717
モデル 12（クラス数 12）	29115.7	26146.9	0.178	0.790	0.777	0.714
モデル 13（クラス数 13）	29409.6	26193.1	0.179	0.790	0.777	0.715
モデル 14（クラス数 14）	29646.4	26182.0	0.191	0.776	0.779	0.704
モデル 15（クラス数 15）	29906.9	26194.6	0.183	0.789	0.792	0.715
モデル 16（クラス数 16）	30188.6	26228.5	0.175	0.795	0.801	0.725
モデル 17（クラス数 17）	30489.2	26281.3	0.169	0.809	0.813	0.733
モデル 18（クラス数 18）	30749.6	26293.8	0.180	0.788	0.798	0.717
モデル 19（クラス数 19）	31030.5	26326.9	0.209	0.761	0.786	0.688

（表２－３－５－４）食事拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

【比率】（縦100）

区分	code	解決方法	合計	情報の組み合わせパターン パターン1 「食の嗜好・興味・意欲」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」他に分散した平均2.7項目の組み合わせ	パターン2 「生活習慣（ここ数年）」、「生活歴（幼少期から）」、「最近の食習慣」などの〝習慣〟を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」他に分散した平均2.6項目の組み合わせ	パターン3 「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」や「心配ごと・不満状況」を含めた〝心理面〟、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	パターン4 「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」や「気分」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	パターン5 「気分」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」と「心配ごと・不満状況」を含めた〝心理面〟にウェイトを置き、「食の嗜好・興味・意欲」他に分散して構成された平均2.9項目の組み合わせ	パターン6 「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」と「席の位置」を主として、「他の入居者との関係」他に分散して構成された平均2.9項目の組み合わせ	パターン7 「表情」、「食中の様子」、「食事中の会話」、「目線」など〝食事中の状態〟を主として、「スタッフとの関係」他に分散して構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン8 「睡眠時間・状況」、「運動量」、「体調」、「薬の種類、服薬状況」などの〝健康面〟を主として構成された平均2.5項目の組み合わせ	パターン9 「家族関係」を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「生活歴（幼少期から）」、「心配ごと・不満状況」、「本人の気持ち、意志」、「所持金／経済不安」などに分散して構成された平均2.5項目の組み合わせ	パターン10 「スタッフとの関係」、「家族関係」、「他の入居者との関係」の〝人間関係〟を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	パターン11 「盛付」を共通ベースとして、「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」、「食器の配置」、「食の嗜好・興味・意欲」などを含めた〝食事関係〟を主として構成された平均3.6項目の組み合わせ	パターン12 「水分状態」、「排泄状況」、「体調」など〝健康面〟を主として構成された平均2.7項目の組み合わせ	パターン13 「体調」、「睡眠時間・状況」、「運動量」、「排泄状況」などの〝健康面〟と、「本人の気持ち、意志」、「気分」などの〝心理面〟を主として構成された平均3.6項目の組み合わせ	パターン14 「咀嚼力」、「嚥下状態・誤嚥」、「口腔状況」の〝口腔機能〟と、「食の嗜好・興味・意欲」や「最近の食事量」などを含めた〝食事関係〟を主として構成された平均3.8項目の組み合わせ	パターン15 「当日の食事量・おやつ量」を共通ベースとして、「食の嗜好・興味・意欲」や「最近の食事量」などを含めた〝食事関係〟を主として構成された平均3.3項目の組み合わせ	パターン16 共通ベースがなく、「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」、「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」、「席の位置」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「口腔状況」、「本人の気持ち、意志」などに分散して構成された平均3.8項目の組み合わせ	パターン17 「認知症の症状」を共通ベースとして、「認知機能」と「認知症の種類」を含めた〝認知能力〟にウェイトを置き、「気分」、「本人の気持ち、意志」、「生活習慣」他に分散して構成された平均4.0項目の最多組み合わせ
		延べ方法件数 →	1,441	163	141	134	107	105	104	102	95	86	68	65	65	62	46	39	33	29
環境調整	101	少人数席に変更	2.9	0.6	1.9	1.4	1.0	2.2	21.4	3.0	1.1	1.3	0.0	0.3	0.0	3.0	0.1	0.0	9.6	0.3
	102	広い場所から小さい場所へ変更	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	103	好きな場所で食事を取る	4.9	1.9	4.9	4.7	2.4	11.6	12.6	3.6	1.7	3.5	2.7	3.3	1.3	5.8	0.4	0.0	20.7	7.6
	104	花等をテーブルに置き、落ち着く環境	1.0	0.3	1.7	0.0	0.7	3.1	3.3	1.6	0.4	0.8	0.7	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	1.0	0.0
	105	食事メンバー	1.0	1.2	0.0	1.3	0.0	1.0	3.7	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	3.1	6.9
	107	席位置の変更	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	1.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	108	静かな環境を調整	0.4	0.0	1.5	0.5	0.0	0.3	0.9	0.5	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0
	190	その他	0.3	0.0	0.7	0.0	0.8	0.0	0.8	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.8
声かけの工夫	201	本人ベースで声かけ	11.8	3.4	7.1	28.6	24.0	19.3	11.4	14.4	1.8	3.8	10.7	2.1	4.0	25.3	4.9	4.3	10.7	15.6
	202	声かけの内容を工夫	2.2	2.2	2.7	3.5	5.2	3.6	0.7	1.7	0.2	3.1	2.8	0.2	0.1	0.4	4.2	2.4	0.3	0.1
	203	作業の流れで声かけ	0.7	0.0	0.5	1.8	1.3	0.7	2.0	1.2	0.0	0.2	1.7	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	204	食事前からこまめに声かけ	2.3	2.2	3.4	4.2	4.3	4.4	1.9	1.1	1.0	0.6	2.1	0.2	1.7	1.9	0.1	2.8	0.3	0.5
	205	声かけをせず、職員が一緒に	4.7	1.7	3.3	7.3	10.0	1.5	2.4	16.8	0.3	3.1	5.1	7.6	0.1	4.5	2.3	2.5	5.1	3.9
	211	好きな話題で声かけ	4.6	0.9	12.9	3.7	8.0	4.8	1.0	11.7	0.2	10.1	9.2	0.2	0.0	0.4	0.1	0.0	1.2	0.1
	212	家族の話題	3.1	0.6	5.3	2.1	2.0	0.7	0.4	2.6	0.8	24.5	6.9	0.1	0.6	0.3	0.1	0.0	0.7	1.2
	216	仲の良い人が声かけ	0.2	0.0	0.4	0.0	0.6	0.0	0.1	0.5	0.0	0.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	217	声かけ、会話量の増加	0.1	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
誘導の工夫	226	配膳をしてもらう	1.0	1.7	2.0	1.5	0.0	1.2	0.2	1.2	0.0	0.0	0.4	4.6	0.0	0.1	0.1	0.1	0.3	0.0
	227	調理を手伝う	1.5	0.3	2.2	4.1	4.6	0.7	1.9	0.4	0.1	0.5	4.0	1.6	0.0	0.0	0.1	0.0	2.0	0.1
	228	おしぼりを渡す	0.3	0.0	0.2	0.3	0.0	1.0	0.5	0.8	0.0	0.1	0.9	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0
	229	食事前にお茶を提供	2.1	2.1	1.9	0.2	1.5	2.3	0.6	2.4	1.0	0.2	0.1	0.7	16.0	2.0	3.8	0.1	1.9	3.5
	230	食事内容、献立の説明	3.5	13.7	2.7	0.8	2.0	1.7	0.1	3.0	0.1	0.2	1.7	10.3	0.4	0.1	3.7	12.0	3.7	0.0
	238	誘導時間の調整	0.2	0.0	0.2	0.7	0.0	0.3	0.5	0.1	0.0	0.3	0.7	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
	290	その他	0.1	0.5	0.0	0.1	0.4	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
食事の工夫	301	食べやすいよう、盛りつけを工夫	7.0	17.4	5.2	0.9	0.6	5.3	1.0	5.2	1.0	0.4	3.4	39.6	5.9	0.8	23.3	12.4	0.4	7.3
	302	カロリーを考慮し、おやつを提供	2.7	4.0	1.2	1.3	0.0	0.8	0.0	0.8	1.6	0.8	2.3	0.3	11.9	0.2	2.4	36.4	0.8	0.1
	303	水分摂取量を増やした	2.4	1.4	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	2.8	0.1	0.2	0.0	33.3	3.1	4.3	0.1	0.4	4.2
	304	外出時、外食に誘導	1.7	6.9	1.3	1.4	0.6	4.5	1.1	0.8	0.1	0.9	0.4	0.2	0.1	0.2	2.4	0.2	0.3	0.0
	305	一緒に買い物に行き、好きなメニューにする	0.7	2.6	0.7	0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	1.1	2.0	0.0	0.7	0.1	4.6	0.0	0.0
	306	好きな食べ物を見せる	4.9	17.7	7.3	2.2	0.0	8.2	0.2	0.4	0.1	2.7	0.6	12.5	0.1	0.4	4.7	11.7	3.3	3.0
	307	好きな献立にする	3.7	14.1	6.1	0.0	1.6	2.4	0.3	0.1	0.1	4.6	1.8	9.4	0.1	0.1	2.6	8.1	3.5	0.0
	308	食事時間の調整	0.1	0.0	0.2	0.0	0.9	0.0	0.0	0.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	309	職員と一緒に食事	0.6	0.0	0.1	0.7	1.8	0.0	1.1	3.7	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.1	0.0
	310	最初だけ介助	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.4	0.0
	312	食器の工夫	0.3	0.1	0.1	0.0	0.9	0.6	0.4	0.0	0.2	0.1	0.1	1.6	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	313	食材の形態、色等の工夫	0.8	0.6	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	2.2	1.6	0.1	15.4	0.1	0.8	0.0
	314	食事回数の調整	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
	333	量を減らす	0.2	0.0	1.4	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.4	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0
	390	その他	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	3.4
生活のリズム	401	活動量を増やす	6.5	0.8	5.9	3.1	1.9	1.5	4.6	1.1	40.4	0.5	10.5	0.2	9.6	21.7	0.2	0.6	0.3	16.2
	402	生活のリズム調整	1.9	0.5	2.2	2.5	1.4	4.7	8.1	1.8	2.7	0.2	0.2	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	1.5	0.4
	403	静かな、落ち着いた環境をつくり、静養	0.9	0.0	1.4	0.2	0.4	0.6	4.5	3.0	0.2	1.2	0.5	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.5	0.0
	404	ぐっすり眠ってもらうようにした	3.7	0.0	1.1	3.2	4.2	0.8	3.8	0.1	28.8	1.6	3.4	0.0	1.8	6.1	0.0	0.0	3.6	2.2
	405	一端、休憩	2.3	0.1	0.8	4.1	0.6	4.1	1.0	4.3	7.6	0.5	0.3	0.0	0.9	11.5	0.2	0.0	1.0	0.1
	406	発声練習	0.8	0.0	1.6	0.3	0.4	0.0	1.5	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	2.2	0.5	7.0	0.1	1.6	0.0
	409	趣味活動を実施	0.1	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	410	コミュニケーションをふやす	5.1	0.1	4.1	9.3	13.5	1.9	1.5	4.5	2.4	16.6	17.0	0.0	1.3	1.8	0.1	0.0	1.0	9.3
	490	その他	0.1	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4
その他	502	受容し、安心してもらった	1.5	0.0	0.2	0.6	0.3	1.6	0.0	0.7	0.0	16.2	4.6	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.1
	503	義歯調整	1.0	0.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.3	0.2	2.5	0.0	10.6	0.0	12.7	0.0
	504	医療的対応	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.2	0.2	0.0	1.6	0.1	0.0	0.0	0.0	8.0
	506	排便調整	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	507	服薬の調整	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	1.6
	508	疼痛管理	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	590	その他	0.3	0.2	1.2	0.4	0.9	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－３－６－１）絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	本人任せで放っておく	強制的な声かけ	しかったり、怒り口調で声かけ	会話の内容を否定する	強引に口に入れる	無理やり席に座らせる	食べないからとすぐに下膳する	その他
実数	249	170	216	226	197	225	209	211	32
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	68.3	86.7	90.8	79.1	90.4	83.9	84.7	12.9

３．食事中断への成功事例調査

１）回答者属性

本調査の回答 260 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

（１）年齢

有効回答 254 件における回答者の平均年齢は、42.9 歳（SD11.9 歳）で最少年齢が 21 歳、最高年齢が 90 歳であった。その分布をみると、25 歳から 59 歳までほぼ均等にばらついている。（表２－４－１－１参照）

（２）性別割合

有効回答 258 件中、回答者の性別割合は男性が 47 件（18.2%）、女性が 211 件（81.8%）と女性の割合が多かった。（表２－４－１－２参照）

（３）職名の割合

有効回答 240 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 95 件（39.6%）、ケアマネージャーが 80 件（33.3%）、看護師が 19 件（7.9%）、相談員が 10 件（4.2%）となっている。（表２－４－１－３参照）

（４）役職の割合

有効回答 247 件中、回答者の役職の割合は管理者が 100 件（40.5%）、主任・リーダーが 71 件（28.7%）、施設長が 15 件（6.1%）、事務長が 3 件（1.2%）、理事長が 1 件（0.4%）で、67 件（27.1%）が役職なしであった。（表２－４－１－４参照）

（５）資格の所有割合

有効回答 255 件中、回答者の資格の所有割合は介護福祉士が 153 件（60.0%）、ケアマネージャーが 103 件（40.4%）、ヘルパーが 99 件（38.8%）、看護師（准看護師）が 30 件（11.8%）、社会福祉士が 16 件（6.3%）であった。（表２－４－１－５参照）

（６）所属事業種の割合

有効回答 254 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 240 件（94.5%）、介護老人福祉施設が 4 件（1.6%）、介護老人福祉施設（ユニット型）が 3 件（1.2%）、小規模多機能型通所介護事業が 2 件（0.8%）であった。（表２－４－１－６参照）

（７）所属事業所での勤続年数

有効回答 260 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.3 年（SD3.7 年）で最少が 0.2 年、最高が 37.0 年であった。（表２－４－１－７参照）

（８）総介護経験年数

有効回答 251 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、8.9 年（SD5.2 年）で最少が 0.6 年、最高が 28.7 年であった。（表２－４－１－８参照）

２）食事中断の解決経験

本調査に回答を得た 260 件における食事中断の解決経験、解決した高齢者に関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とＡＤＬ、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

（１）解決経験の有無

有効回答 253 件中、食事中断で解決経験があるのは 239 件（94.5%）であった。（表２－４－２－１参照）

（２）高齢者の状態

①　年齢

解決経験がある 239 件のうち有効回答 230 件における高齢者の平均年齢は、84.4 歳（SD6.8 歳）で最少年齢が 52 歳、最高年齢が 99 歳であった。その分布をみると、85 歳～89 歳が 69 件（30.0%）で最も多い。（表２－４－２－２参照）

④　性別

性別割合は、有効回答 238 件中、男性が 43 件（18.1%）、女性が 195 件（81.9%）と女性が多い。（表２－４－２－３参照）

③　認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 221 件中、アルツハイマー型が 129 件（58.4%）、脳血管疾患型が 46 件（20.8%）、前頭側頭型が 3 件（1.4%）、混合が 16 件（7.2%）であった。（表２－４－２－４参照）

④　身体機能の障害とＡＤＬ

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 239 件中、下肢が 80 件（33.5%）、体幹が 6 件（2.5%）、上肢が 2 件（0.8%）、首が 1 件（0.4%）であり、残りの 150 件（62.8%）が機能障害なし（＝無回答）であった。（表２－４－２－５参照）

【食事介助】

食事介助は、有効回答 223 件中、自立が 107 件（48.0%）、一部介助が 105 件（47.1%）、全介助が 11 件（4.9%）であった。（表２－４－２－６参照）

【移動】

移動は、有効回答 166 件中、短距離歩行自立が 97 件（58.4%）、長距離歩行自立が 38 件（22.9%）、杖自立が 25 件（15.1%）であった。（表２－４－２－７参照）

【排泄】

排泄は、有効回答 213 件中、身体介助必要が 150 件（70.4%）、身体介助必要なしが 63 件（29.6%）であった。（表２－４－２－８参照）

【入浴】

入浴は、有効回答 228 件中、全介助が 81 件（35.5%）、洗身洗髪介助が 75 件

（32.9％）、移動介助が 32 件（14.0％）、その他一部介助が 37 件（16.2％）で、自立が 3 件（1.3％）であった。（表２－４－２－９参照）

⑦　認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 237 件中、ランクⅠが 11 件（4.6％）、ランクⅡが 30 件（12.7％）、ランクⅢが 83 件（35.0％）、ランクⅣが 101 件（42.6％）、ランクⅤが 12 件（5.1％）であった。（表２－４－２－１０参照）

⑥　身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 226 件中、Ｊランクが 16 件（7.1％）、Ａランクが 146 件（64.6％）、Ｂランクが 57 件（25.2％）、Ｃランクが 7 件（3.1％）であった。（表２－４－２－１１参照）

⑦　高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、食事介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析（注 1）を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、食事介助で自立（72.1％）が多く、身体障害の重症度でＡランク（87.5％）が多く、認知症の重症度でランクⅡ（23.0％）、ランクⅢ（49.0％）の中程度が多いことから、これを「自立、中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 195 件のうち 107 件（54.9％）が該当する。

第 2 パターンは、食事介助で一部介助（70.9％）が多く、身体障害の重症度でＢランク（52.7％）とＡランク（35.4％）が多く、認知症の重症度でランクⅣ（72.4％）が多いことから、これを「一部介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 88 件（45.1％）が該当する。（表２－４－２－１２参照）

（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－４－２－１３参照）

（注 1）潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、食事介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団（これをクラスと呼ぶ）を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル（クラス数）を評価する指標としてＡＩＣやＢＩＣなどの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である（注 2 参照）。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

3）解決前と解決後の変化

食事中断で解決経験がある 239 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出するとともに、解決前後の関連を分析し、高齢者パターンによる差異も確認した。

（1）解決前の状況

食事中断が解決される前の状況としては、有効回答 238 件中、「食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた」が 148 件（62.2%）と際立って多く、「食事は食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた」が 35 件（14.7%）、「食事の途中で手を止め、その後は手をつけず寝てしまっていた」が 27 件（11.3%）、「たまに全量摂取するが殆ど残していた」が 20 件（8.4%）、「おかずは食べるが、ご飯だけ残していた」が 18 件（7.6%）、「食事中にそわそわ等落ち着きがみられず、苦痛な表情をしていた」が 17 件（7.1%）であった。（表２－４－３－１参照）

（2）解決後の状況

食事中断が解決された後の状況としては、有効回答 238 件中、「中断する回数が減り、最後まで食べられるようになった」が 155 件（65.1%）と際立って多く、「好みに合わせたときは食べた」が 47 件（19.7%）、「職員と同じペースで食べられることも増えてきた」が 20 件（8.4%）であった。（表２－４－３－２参照）

（3）解決前後の関連

解決前後それぞれの項目重複による影響排除のために、パターン化を経て分析することにした。

① 解決前のパターン

パターン化に用いた方法は潜在クラス分析である。

解決前は 6 パターンであり、第 1 は、「食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた」（99.9%）だけにほぼ集中している。これに該当する事例が 76 件（49.0%）であり、“少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた”パターンと表示する。

第 2 は、「食事は食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた」（99.1%）に加えて、「食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた」（13.7%）を若干伴っている。これに該当する事例が 18 件（11.6%）であり、“食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた”パターンと表示する。

第 3 は、「食事の途中で手を止め、その後は手をつけず寝てしまっていた」（97.5%）に加えて、「食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた」（61.0%）を多くが伴い、「たまに全量摂取するが殆ど残していた」（16.3%）や「食事は食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた」（5.6%）も多少伴っている。これに該当する事例が 18 件（11.6%）であり、“途中で食べるのをやめたり、寝てしまっていた”パターンと表示する。

第 4 は、「食事中にそわそわ等落ち着きがみられず、苦痛な表情をしていた」（98.4%）に加えて、「食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた」（27.0%）や「食事は食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた」（13.1%）を多少伴っている。これに該当する事例が 15 件（9.7%）であり、“食事中にそわそわ等落ち着きがみられず、苦痛な表情をしていた”パターンと表示する。

第 5 は、「おかずは食べるが、ご飯だけ残していた」（95.9%）に加えて、「食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた」（65.0%）を多く伴い、「食事は食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた」（14.8%）や「食事の途中で手を止め、その後は手をつけず寝てしまっていた」（13.2%）も多少伴っている。これに該当する事例が 14 件（9.0%）であり、“おかずは食べるが、ご飯だけ残したり、途中で食べるのをやめてしまっていた”パターンと表示する。

第 6 は、「たまに全量摂取するが殆ど残していた」（97.8%）に加えて、「食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた」（39.1%）や「食事は食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた」（15.4%）を伴っている。これに該当する事例が 13 件（8.4%）であり、“たまに全量摂取するが殆ど残したり、途中で食べるのをやめてしまっていた”パターンと表示する。（表２－４－３－３参照）

なお潜在クラスモデルの評価に際しては、5 クラスと 6 クラス両モデルの情報量規準のＡＩＣが僅差のため、クラスの解釈が最も妥当と判断される 6 クラスモデルを採用した。（表２－４－３－４参照）

② 解決後のパターン

解決後は 3 パターンであり、第 1 は、「中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった」（99.9%）だけにほぼ集中している。これに該当する事例が 104 件（67.1%）であり、“中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった”パターンと表示する。

第 2 は、「好みに合わせたときは食べた」（99.1%）に加えて、「中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった」（21.0%）を多少伴っている。これに該当する事例が 35 件（22.6%）であり、“好みに合わせたときは食べた”パターンと表示する。

第 3 は、「職員と同じペースで食べられることも増えてきた」（97.0%）に加えて、「中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった」（29.3%）と「好みに合わせたときは食べた」（15.3%）を多少伴っている。これに該当する事例が 16 件（10.3%）であり、“職員と同じペースで食べられることも増えてきた”パターンと表示する。（表２－４－３－５参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－４－３－６参照）

③　解決前後のパターンの関連

各パターンへの帰属確率の相関によって解決前後の関連分析をした。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では１つの変化傾向がみられる。解決前パターン１（少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた）が、解決後パターン１（中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった）へと変化する傾向であり、有意水準 5%で相関が認められる。（表２－４－３－７参照）

次に高齢者パターン１（自立、中程度重症度）に限定してみると、上記の傾向は認められない。（表２－４－３－８参照）

高齢者パターン２（一部介助、中高程度重症度）に限定してみると、上記の傾向が認められる。（表２－４－３－９参照）

このように、解決前後の変化は高齢者パターンによってやや異なることがわかる。

（４）高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した（注 2）。

解決前の状況については、高齢者パターン １（自立、中程度重症度）、高齢者パターン ２（一部介助、中高程度重症度）ともに顕著な差異はみられない。（表２－４－３－１０参照）

解決後の状況については、高齢者パターン１（自立、中程度重症度）では全体の傾向とほぼ同じであるのに対して、高齢者パターン２（一部介助、中高程度重症度）では「好みに合わせたときは食べた」（31.0%）が高齢者パターン１より明らかに多くみられる。（表２－４－３－１１参照）

（注 2）潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス１に対して 0.97、クラス２に対して 0.03、（全クラスへの帰属確率合計は 1.00 である）となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

４）食事中断の解決方法

食事中断で解決経験がある 239 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

（1）解決方法の概況

食事中断を解決する時に行った解決方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 50 分類した。分類結果は、声かけの工夫に関するものが 7 分類、誘導の工夫に関するものが 7 分類、メンバー調整に関するものが 4 分類、食事の工夫に関するものが 13 分類、食事環境調整に関するものが 11 分類、その他が 8 分類であった。

有効回答 238 件のなかで多くあがったものは、「ペースを尊重し、食事の促し」が 164 件（68.9%）、「促さず、見守る」が 140 件（58.8%）、「食物の形態を変更」が 120 件（50.4%）、「好きな場所で」が 115 件（48.3%）、「職員と一緒に」が 111 件（46.6%）、「食事の認識を促す」が 97 件（40.8%）、「急かさず、声かけの繰り返し」が 86 件（36.1%）、「食事を一端止め、待つ」が 84 件（35.3%）、「仲の良い人と食べる」が 79 件（33.2%）、「静かな環境で」が 75 件（31.5%）、「食事前にトイレへ誘導」が 71 件（29.8%）、「好みのものにする」が 62 件（26.1%）などであり、1 事例あたり平均 7.3 項目あげられた。（表２－４－４－１参照）

（2）解決方法の組み合わせパターン

50 分類のなかから 1 事例平均 7.3 の方法で構成された解決方法を実際の組み合わせに高い確率で近似するパターンを得るために潜在クラス分析を応用した（注 3）。

その結果 13 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 4.2 項目と最少の組み合わせであり、「促さず、見守る」（55.5%）を主として、「急かさず、声かけの繰り返し」（39.0%）、「好きな場所で」（34.0%）、「家族の名前を出して誘導する」（26.9%）などで構成されている。第 1 パターンの該当事例は 36 件（15.1%）である。

第 2 パターンは平均 5.8 項目の組み合わせであり、「ペースを尊重し、食事の促し」（99.9%）を共通ベースとして、「好きな場所で」（63.9%）、「食事の認識を促す」（55.5%）、「食物の形態を変更」（54.7%）、「職員と一緒に」（51.1%）の 4 項目も多く、「促さず、見守る」（36.3%）、「仲の良い人と食べる」（31.3%）などで構成されている。第 2 パターンに該当する事例は 32 件（13.4%）である。

第 3 パターンは平均 6.6 項目の組み合わせであり、「ペースを尊重し、食事の促し」（99.9%）を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」（64.0%）と「促さず、見守る」（58.5%）も多く、「好みのものにする」（48.5%）、「好きな場所で」（47.6%）、「静かな環境で」（46.1%）、「食事を一端止め、待つ」（33.4%）、「ペースが一緒の利用者と」（32.1%）、「食事前の活動を促す」（29.8%）、「食事に関する思い出を家族から聞く」（26.6%）などで構成されている。第 3 パターンに該当する事例は 28 件（11.8%）である。

第 4 パターンは平均 6.8 項目の組み合わせであり、「食物の形態を変更」（99.8%）と「静かな環境で」（94.2%）を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」（61.8%）と「促さず、見守る」（53.3%）も多く、「食事の認識を促す」（49.5%）、

「食事を一端止め、待つ」(27.4%)、「食事前にトイレへ誘導」(46.7%)、「義歯の調整」(29.8%)、「職員と一緒に」(37.1%) などで構成されている。第 4 パターンに該当する事例は 24 件 (10.1%) である。

第 5 パターンは平均 6.0 項目の組み合わせであり、「急かさず、声かけの繰り返し」(86.0%) を共通ベースとして、「食物の形態を変更」(71.5%)、「ペースを尊重し、食事の促し」(67.0%)、「促さず、見守る」(53.7%) の 3 項目も多く、「食事を一端止め、待つ」(49.5%)、「食事の認識を促す」(46.3%)、「職員と一緒に」(45.9%)、「食事前にトイレへ誘導」(36.6%) などで構成されている。第 5 パターンに該当する事例は 20 件 (8.4%) である。

第 6 パターンは平均 9.3 項目の組み合わせであり、「好きな場所で」(94.1%)、「促さず、見守る」(84.9%)、「食事を一端止め、待つ」(83.3%)、「食事の認識を促す」(78.6%) の 4 項目を共通ベースとして、「急かさず、声かけの繰り返し」(70.1%)、「ペースを尊重し、食事の促し」(70.0%)、「食物の形態を変更」(73.5%)、「職員と一緒に」(53.0%) の５項目も多く、「他者と離れて、一人で」(42.6%)、「仲の良い人と食べる」(36.6%)、「本人の気持ちの確認、質問」(39.2%)、「食事に関する思い出を家族から聞く」(30.2%)、「静かな環境で」(30.0%) などで構成されている。第 6 パターンに該当する事例は 20 件 (8.4%) である。

第 7 パターンは平均 7.4 項目の組み合わせであり、「ペースを尊重し、食事の促し」(99.8%)、「促さず、見守る」(99.8%)、「食物の形態を変更」(99.4%)、「好きな場所で」(83.8%) の 4 項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」(68.6%) も多く、「職員と一緒に」(37.7%)、「食事前の活動を促す」(33.2%) などで構成されている。第 7 パターンに該当する事例は 17 件 (7.1%) である。

第 8 パターンは平均 7.9 項目の組み合わせであり、「食事前にトイレへ誘導」(87.9%) と「急かさず、声かけの繰り返し」(84.6%) を共通ベースとして、「食事の認識を促す」(68.6%)、「好きな場所で」(67.5%)、「職員と一緒に」(61.8%)、「食物の形態を変更」(61.5%)、「食器の大きさを変えた」(51.1%) の 5 項目も多く、「食事を一端止め、待つ」(45.2%)、「促さず、見守る」(26.5%)、「仲の良い人と食べる」(37.2%)、「義歯の調整」(35.2%) などで構成されている。第 8 パターンに該当する事例は 14 件 (5.9%) である。

第 9 パターンは平均 12.1 項目と多い組み合わせであり、「食事前にトイレへ誘導」(99.5%)、「好きな場所で」(84.0%)、「静かな環境で」(76.3%)、「食物の形態を変更」(83.9%)、「ペースを尊重し、食事の促し」(77.1%)、「職員と一緒に」(76.3%) の 6 項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」(68.5%)、「好みのものにする」(68.5%)、「促さず、見守る」(61.1%)、「テーブルに花を置く」(60.5%)、「食事前の活動を促す」(60.8%) の５項目も多く、「食事を一端止め、待つ」(45.6%)、「家族の名前を出して誘導する」(38.6%)、「食事の認識を促す」(38.2%)、「食事に関する思い出を家族から聞く」(38.0%)、「スタッフの通る場

所をさける」(37.7%)、「急かさず、声かけの繰り返し」(30.8%)、「食器の形や材質変更」(30.3%)、「ペースが一緒の利用者と」(30.0%) などで構成されている。第9パターンに該当する事例は13件 (5.5%) である。

第 10 パターンは平均 7.3 項目の組み合わせであり、「好みのものにする」(99.4%) と「職員と一緒に」(85.8%) を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」(74.2%)、「食事を一端止め、待つ」(74.0%)、「促さず、見守る」(73.4%)、「スタッフの通る場所をさける」(50.1%) の 4 項目も多く、「食事前の活動を促す」(42.1%)、「好きな場所で」(34.5%)、「食事の認識を促す」(36.3%)、「仲の良い人と食べる」(26.6%)、「急かさず、声かけの繰り返し」(25.2%) などで構成される。第10パターンに該当する事例は12件 (5.0%) である。

第 11 パターンは平均 7.6 項目の組み合わせであり、「食事の認識を促す」(88.2%) と「職員と一緒に」(76.9%) を共通ベースとして、「食器の大きさを変えた」(73.3%) と「急かさず、声かけの繰り返し」(65.2%) も多く、「促さず、見守る」(45.8%)、「食事を一端止め、待つ」(44.6%)、「ペースを尊重し、食事の促し」(44.9%)、「静かな環境で」(33.5%)、「食物の形態を変更」(33.4%)、「スタッフの通る場所をさける」(32.4%) などで構成される。第 11 パターンに該当する事例は9件 (3.8%) である。

第12パターンは平均18.2項目と最多の組み合わせであり、「食事の認識を促す」(99.4%)、「食事を一端止め、待つ」(99.3%)、「職員と一緒に」(99.4%)、「他者と離れて、一人で」(99.1%)、「本人の気持ちの確認、質問」(99.1%)、「ペースを尊重し、食事の促し」(85.5%)、「好きな場所で」(99.4%)、「食物の形態を変更」(85.3%)、「好みのものにする」(85.1%) の9項目を共通ベースとして、「食事前にトイレへ誘導」(71.0%)、「食事前の活動を促す」(70.9%)、「食事に関する思い出を家族から聞く」(56.7%)、「食事準備に参加してもらう」(70.8%)、「促さず、見守る」(57.2%)、「仲の良い人と食べる」(71.0%)、「急かさず、声かけの繰り返し」(71.0%)、「食器の大きさを変えた」(56.7%) の8項目も多く、「嗅覚を刺激する」(42.5%)、「家族の名前を出して誘導する」(28.4%)、「ペースが一緒の利用者と」(42.6%)、「食器の形や材質変更」(42.5%)、「食器の柄や色を変える」(28.3%)、「おやつ、間食」(28.3%)、「静かな環境で」(42.7%)、「テーブルに花を置く」(42.5%)、「花柄のカーテンなど飾る」(28.3%)、「義歯の調整」(42.5%) などで構成されている。第12パターンに該当する事例は7件 (2.9%) である。

第13パターンは平均9.9項目の組み合わせであり、「静かな環境で」(99.1%)、「促さず、見守る」(99.5%)、「ペースを尊重し、食事の促し」(83.0%)、「職員と一緒に」(82.6%) の4項目を共通ベースとして、「外食に誘う」(66.4%)、「食事に関する思い出を家族から聞く」(63.2%)、「好きな場所で」(52.8%)、「ペースが一緒の利用者と」(52.1%) の4項目も多く、「過去の食事スタイル」(49.8%)、

「好みのものにする」(47.0%)、「おやつ、間食」(33.2%)、「食事前にトイレへ誘導」(46.7%)、「食事を一端止め、待つ」(36.2%)、「食事の認識を促す」(33.9%)、「他者と離れて、一人で」(35.6%) などで構成されている。第 13 パターンに該当する事例は 6 件 (2.5%) である。(表２－４－４－２参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－４－４－３参照)

(注 3) 組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は (注 1) に示したような局所独立を仮定して異質な部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold” が算出する “Classification Statistics” (分類精度情報) の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。

(３) 解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、13 の組み合わせパターンと解決後の状況との関連を分析した。

まず、解決方法の組み合わせ 13 パターンと解決後の 3 パターンの帰属確率による相関分析を行うと、3 通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 10 は、“「好みのものにする」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「スタッフの通る場所をさける」の 4 項目も多く、「食事前の活動を促す」、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「仲の良い人と食べる」、「急かさず、声かけの繰り返し」などで構成された平均 7.3 項目の組み合わせ” であり、これらの方法が、解決後パターン 3 の “職員と同じペースで食べられることも増えてきた” という結果に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 5 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 1 %で認められる。解決方法パターン 5 は、“「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」の 3 項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」、「職員と一緒に」、「食事前にトイレへ誘導」などで構成された平均 6.0 項目の組み合わせ” であり、これらの方法が、解決後パターン 2 の “好みに合わせたときは食べた” に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 1 と解決後パターン 1 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 1 は、“「促さず、見守る」を主として、「急かさず、声

かけの繰り返し」、「好きな場所で」、「家族の名前を出して誘導する」などで構成された平均 4.2 項目と最少の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 1 の“中断する回数が減り、最後まで食べられるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－４－４－４参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても上記の傾向が確認できる。

解決方法パターン 10 では、解決後に“職員と同じペースで食べられることも増えてきた”が 44.3%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。

解決方法パターン 5 では、解決後に“好みに合わせたときは食べた”が 62.4%と多くなっており、これは解決後パターン 2 の主要項目である。

解決方法パターン 1 では、解決後に“中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった”が 87.1%と多くなっており、これは解決後パターン 1 の主要項目である。(表２－４－４－５参照)

（4）高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン 1（自立、中程度重症度）に限定した相関分析を行うと、3 通りの相関が認められる (注 4)。

3 通りのうち 2 通りは上記でみた全体を対象とした傾向と同様であり、次のひとつが異なる。

解決方法パターン 3 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 3 は、“「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」と「促さず、見守る」も多く、「好みのものにする」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースが一緒の利用者と」、「食事前の活動を促す」、「食事に関する思い出を家族から聞く」などで構成された平均 6.6 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 2 の“時間はかかるが摂取するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－４－４－６参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン 10 では、解決後に“職員と同じペースで食べられることも増えてきた”が 95.0%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。

解決方法パターン 1 では、解決後に“中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった”が 92.1%と多くなっており、これは解決後パターン 1 の主要項目である。

解決方法パターン 3 では、解決後に“好みに合わせたときは食べた”が 38.9%と多くなっており、これは解決後パターン 2 の主要項目である。(表２－４－４－

７参照）

一方、高齢者パターン２（一部介助、中高程度重症度）に限定した相関分析を行うと、解決方法パターンと解決後パターンの相関は認められなかった。（表２－４－４－８参照）

（注 4）高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン 1 と 2 を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義（＝クラスター化）した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

５）食事中断の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ 1,571 件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

（１）役立った情報の概況

有効回答 1,571 件のなかで多くあがったものは、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 473 件（30.1%）、「気分」が 428 件（27.2%）、「本人の気持ち、意志」が 388 件（24.7%）、「食の嗜好・興味・意欲」が 241 件（15.3%）、「他の入居者との関係」が 218 件（13.9%）、「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」が 206 件（13.1%）、「食中の様子」が 205 件（13.0%）、「スタッフとの関係」が 203 件（12.9%）、「表情」が 202 件（12.9%）、「食事中の会話」が 158 件（10.1%）、「席の位置」が 157 件（10.0%）などであり、ひとつの解決方法当たり平均 3.1 項目あげられた。（表２－４－５－１参照）

（２）役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 20 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.6 項目の組み合わせであり、「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」（44.1%）、「席の位置」（43.1%）、「他の入居者との関係」（38.0%）、「気分」（35.0%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（28.4%）などで構成されている。第 1 パターンの該当方法は延べ 238 件（15.2%）である。

第 2 パターンは平均 3.3 項目の組み合わせであり、「表情」（55.3%）を主として、「食中の様子」（48.9%）、「気分」（36.7%）、「本人の気持ち、意志」（29.4%）、

「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い)」(27.3%）などで構成されている。第 2 パターンの該当方法は延べ 175 件（11.2%）である。

第 3 パターンは平均 3.0 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(71.8%）と「スタッフとの関係」(61.2%）を主として、「他の入居者との関係」(34.6%)、「食事中の会話」(22.3%）などで構成されている。第 3 パターンの該当方法は延べ 133 件（8.5%）である。

第 4 パターンは平均 2.6 項目の組み合わせであり、「咀嚼力」(58.8%）を主として、「嚥下状態・誤嚥」(45.2%）と「口腔状況」(41.4%）を加えた“口腔機能”にウェイトを置き、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」(31.6%）などで構成されている。第 4 パターンの該当方法は延べ 114 件（7.3%）である。

第 5 パターンは平均 2.4 項目と最少の組み合わせであり、「生活習慣(ここ数年)」(42.7%）や「生活歴（幼少期から)」(38.5%）の“習慣”にウェイトを置き、「家族関係」(35.2%)、「本人の気持ち、意志」(23.7%)、「食の嗜好・興味・意欲」(20.5%）などで構成されている。第 5 パターンの該当方法は延べ 103 件（6.6%）である。

第 6 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(93.4%）を共通ベースとして、「気分」(50.8%）も多く、「心配ごと・不満状況」(33.1%）を加えた“心理面”にウェイトを置いて構成されている。第 6 パターンの該当方法は延べ 79 件（5.0%）である。

第 7 パターンは平均 3.2 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(71.9%）を主として、「気分」(40.4%)、「本人の気持ち、意志」(32.4%)、「最近の食習慣」(33.9%)、「生活習慣（ここ数年)」(27.1%）などで構成されている。第 7 パターンの該当方法は延べ 77 件（4.9%）である。

第 8 パターンは平均 4.2 項目と最多の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(99.7%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(71.0%)、「気分」(65.2%)、「心配ごと・不満状況」(27.0%)、「食中の様子」(28.3%)、「スタッフとの関係」(29.4%）などで構成されている。第 8 パターンの該当方法は延べ 75 件（4.8%）である。

第 9 パターンは平均 2.5 項目の組み合わせであり、「食の嗜好・興味・意欲」(99.5%）を共通ベースとして、「気分」(20.0%）他に分散して構成されている。第 9 パターンの該当方法は延べ 72 件（4.6%）である。

第 10 パターンは平均 3.4 項目の組み合わせであり、「食事中の会話」(66.4%）を主として、「表情」(26.0%)、「気分」(41.2%)、「食の嗜好・興味・意欲」(29.9%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(34.5%)、「スタッフとの関係」(30.4%）などで構成されている。第 10 パターンの該当方法は延べ 70 件（4.5%）である。

第 11 パターンは平均 3.8 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(59.2%）と「表情」(50.0%）を主として、「食の嗜好・興味・意欲」(37.2%)、「満腹感、空腹感」(35.0%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(30.5%）な

どで構成されている。第 11 パターンの該当方法は延べ 55 件（3.5%）である。

第 12 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「排泄状況」（99.7%）を共通ベースとして、「水分状態」（26.0%）、「気分」（27.4%）などで構成されている。第 12 パターンの該当方法は延べ 55 件（3.5%）である。

第 13 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（64.1%）、「認知症の症状」（54.0%）、「気分」（52.8%）の 3 項目を主として、「嚥下状態・誤嚥」（31.5%）他で構成されている。第 13 パターンの該当方法は延べ 50 件（3.2%）である。

第 14 パターンは平均 3.9 項目の組み合わせであり、「体調」（77.2%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」（57.8%）も多く、「気分」（47.3%）、「睡眠時間・状況」（45.8%）、「認知機能」（25.7%）などで構成されている。第 14 パターンの該当方法は延べ 50 件（3.2%）である。

第 15 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「食器の配置」（65.3%）と「盛付」（59.7%）を主として、「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」（20.5%）を含めた“食事関係”、「認知機能」（21.4%）などで構成されている。第 15 パターンの該当方法は延べ 48 件（3.1%）である。

第 16 パターンは平均 3.0 項目の組み合わせであり、「最近の食事量」（49.2%）、「当日の食事量・おやつ量」（46.4%）、「満腹感、空腹感」（36.5%）、「盛付」（24.9%）、「食の嗜好・興味・意欲」（21.8%）、「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」（20.9%）などにウェイトを置いて構成されている。第 16 パターンの該当方法は延べ 42 件（2.7%）である。

第 17 パターンは平均 3.8 項目の組み合わせであり、「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」（73.6%）を主として、「食の嗜好・興味・意欲」（47.2%）、「盛付」（27.7%）、「咀嚼力」（27.9%）などで構成されている。第 17 パターンの該当方法は延べ 40 件（2.6%）である。

第 18 パターンは平均 3.4 項目の組み合わせであり、「認知症の症状」（52.6%）、「認知症の種類」（29.9%）、「認知機能」（20.3%）といった“認知機能”にウェイトを置き、「体調」（21.2%）、「現病・既往歴」（20.9%）などで構成されている。第 18 パターンの該当方法は延べ 37 件（2.4%）である。

第 19 パターンは平均 3.6 項目の組み合わせであり、「運動量」（66.6%）、「体調」（48.4%）、「水分状態」（36.2%）、「排泄状況」（33.5%）などの“健康面”にウェイトを置いて、「満腹感、空腹感」（20.9%）などで構成されている。第 19 パターンの該当方法は延べ 28 件（1.8%）である。

第 20 パターンは平均 3.9 項目の組み合わせであり、「目線」（71.3%）と「認知機能」（51.3%）を主として、「姿勢」（46.4%）、「本人の気持ち、意志」（32.1%）、「視力・視覚機能」（28.7%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（26.9%）などで構成されている。第 20 パターンの該当方法は延べ 26 件（1.7%）である。（表

２－４－５－２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－４－５－３参照）

（３）情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第 12 パターン（「排泄状況」を共通ベースとして、「水分状態」、「気分」などで構成された平均 2.7 項目の組み合わせ）は、「食事前にトイレへ誘導」が 73.4％と多い。

第 4 パターン（「咀嚼力」を主として、「嚥下状態・誤嚥」と「口腔状況」を加えた“口腔機能”にウェイトを置き、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」などで構成された平均 2.6 項目の組み合わせ）は、「食物の形態を変更」が 67.3％と多い。

第 19 パターン（「運動量」、「体調」、「水分状態」、「排泄状況」などの“健康面”にウェイトを置いて、「満腹感、空腹感」などで構成された平均 3.6 項目の組み合わせ）は、「食事前の活動を促す」が 55.1％と多い。

第 17 パターン（「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」を主として、「食の嗜好・興味・意欲」、「盛付」、「咀嚼力」などで構成された平均 3.8 項目の組み合わせ）は、「食物の形態を変更」が 32.4％、「ペースを尊重し、食事の促し」が 22.3％と多い。

第 3 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を主として、「他の入居者との関係」、「食事中の会話」などで構成された平均 3.0 項目の組み合わせ）は、「職員と一緒に」が 26.4％と多い。

第 7 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を主として、「気分」、「本人の気持ち、意志」、「最近の食習慣」、「生活習慣（ここ数年)」などで構成された平均 3.2 項目の組み合わせ）は、「ペースを尊重し、食事の促し」が 25.6％と多い。

第 14 パターン（「体調」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」も多く、「気分」、「睡眠時間・状況」、「認知機能」などで構成された平均 3.9 項目の組み合わせ）は、「促さず、見守る」が 24.8％と多い。

第 1 パターン（「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い)」、「席の位置」、「他の入居者との関係」、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 2.6 項目の組み合わせ）は、「好きな場所で」が 21.8％と多い。

第 16 パターン（「最近の食事量」、「当日の食事量・おやつ量」、「満腹感、空腹感」、「盛付」、「食の嗜好・興味・意欲」、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」などにウェイトを置いて構成された平均 3.0 項目の組み合わせ）は、「食器の大きさを変えた」が 21.7％と多い。

第 11 パターン（「本人の気持ち、意志」と「表情」を主として、「食の嗜好・興味・意欲」、「満腹感、空腹感」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 3.8 項目の組み合わせ）は、「ペースを尊重し、食事の促し」が 20.4％と多い。（表２－４－５－４参照）

６）絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答 235 件中、「しかったり、怒り口調で声かけ」が 217 件（92.3%）、「強引に口に入れる」が 210 件（89.4%）、「強制的な声かけ」と「会話の内容を否定する」が各 207 件（88.1%）、「本人任せで放っておく」が 163 件（69.4%）となっている。（表２－４－６－１参照）

（表２－４－１－１）回答者の年齢

	有効回答数	24 歳以下	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60 歳以上
実数	254	7	29	35	44	28	27	30	37	17
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	2.8	11.4	13.8	17.3	11.0	10.6	11.8	14.6	6.7

（平均年齢等）

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
254	42.9	11.9	21	90

（表２－４－１－２）回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	258	47	211
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	18.2	81.8

（表２－４－１－３）回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネージャー	看護師	その他
実数	240	95	10	80	19	68
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	39.6	4.2	33.3	7.9	28.3

（表２－４－１－４）回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	247	15	100	71	3	1	67
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	6.1	40.5	28.7	1.2	0.4	27.1

（表２－４－１－５）回答者の所有資格

	有効回答数	看護師（准看護師）	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネージャー	ヘルパー	その他
実数	255	30	153	16	103	99	22
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	11.8	60.0	6.3	40.4	38.8	8.6

（表２－４－１－６）回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設（ユニット型）	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	254	4	3	240	2	8
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	1.6	1.2	94.5	0.8	3.1

（表２－４－１－７）回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
260	4.3	3.7	0.2	37.0

（表２－４－１－８）回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
251	8.9	5.2	0.6	28.7

（表２－４－２－１）食事中断の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	253	239	14
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	94.5	5.5

（表２－４－２－２）高齢者の年齢

	解決経験のある 有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	230	16	33	58	69	54
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	7.0	14.3	25.2	30.0	23.5

（平均年齢等）

解決経験のある 有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
230	84.4	6.8	52	99

（表２－４－２－３）高齢者の性別割合

	解決経験のある 有効回答数	男	女
実数	238	43	195
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	18.1	81.9

（表２－４－２－４）認知症の原因疾患

	解決経験のある 有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	221	129	46	3	16	27
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	58.4	20.8	1.4	7.2	12.2

（表２－４－２－５）機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答 (=なし)
実数	239	1	2	80	6	150
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.4	0.8	33.5	2.5	62.8

（表２－４－２－６）食事介助

	解決経験のある 有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	223	11	105	107
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	4.9	47.1	48.0

（表２－４－２－７）移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他（回答者追記）
実数	166	25	97	38	6
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	15.1	58.4	22.9	3.6

（表２－４－２－８）排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし
実数	213	150	63
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	70.4	29.6

（表２－４－２－９）入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	228	81	32	75	37	3
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	35.5	14.0	32.9	16.2	1.3

（表２－４－２－１０）認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	Ⅰ 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	Ⅱ 日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	Ⅲ ランクⅡの症状がときどき見られ、介護を必要とする（徘徊、失禁など）	Ⅳ ランクⅡの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	Ⅴ 著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	237	11	30	83	101	12
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	4.6	12.7	35.0	42.6	5.1

（表２－４－２－１１）身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J 何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	A 屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	B 屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベット上での生活主体で座位を保つ	C 一日中ベットで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	226	16	146	57	7
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	7.1	64.6	25.2	3.1

（表２－４－２－１２）食事中断高齢者のパターン
（潜在クラス２クラスモデルのプロフィール）

(n=195)

項目	カテゴリー	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
	サイズ	1.000	0.551	0.449
性別	男	0.159	0.157	0.162
	女	0.841	0.843	0.838
食事介助	全介助	0.041	0.000	0.091
	一部介助	0.472	0.278	0.709
	自立	0.487	0.721	0.200
認知症の重症度	Ⅰ	0.056	0.092	0.013
	Ⅱ	0.133	0.230	0.015
	Ⅲ	0.339	0.490	0.153
	Ⅳ	0.421	0.173	0.724
	Ⅴ	0.051	0.015	0.095
身体障害の重症度	J	0.077	0.107	0.040
	A	0.641	0.875	0.354
	B	0.246	0.018	0.527
	C	0.036	0.000	0.080
	（参考）該当事例数 →	(195)	(107)	(88)

（表２－４－２－１３）潜在クラスモデル評価（食事中断高齢者パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	1431.3	1398.5
モデル2（クラス数2）	1411.2	1342.5
モデル3（クラス数3）	1448.4	1343.6
モデル4（クラス数4）	1488.3	1347.5

（表２－４－３－１）解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた	食事の途中で手を止め、その後は手をつけず寝てしまっていた	食事は食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた	たまに全量摂取するが殆ど残していた	おかずは食べるが、ご飯だけ残していた	食事中にそわそわ等落ち着きがみられず、苦痛な表情をしていた	その他
実数	238	148	27	35	20	18	17	44
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	62.2	11.3	14.7	8.4	7.6	7.1	18.5

（表２－４－３－２）解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	中断する回数が減り、最後まで食べられるようになった	職員と同じペースで食べられることも増えてきた	好みに合わせたときは食べた	その他
実数	238	155	20	47	45
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	65.1	8.4	19.7	18.9

（表２－４－３－３）食事中断の解決前のパターン
（潜在クラス６クラスモデルのプロフィール）

(n=155)

状況	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
		少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた	食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた	途中で食べるのをやめたり、寝てしまっていた	食事中にそわそわ等落ち着きがみられず、苦痛な表情をしていた	おかずは食べるが、ご飯だけ残したり、途中で食べるのをやめてしまっていた	たまに全量摂取するが殆ど残したり、途中で食べるのをやめてしまっていた
サイズ	1.000	0.491	0.119	0.117	0.097	0.091	0.085
食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた	0.697	0.999	0.137	0.610	0.270	0.650	0.391
食事の途中で手を止め、その後は手をつけず寝てしまっていた	0.129	0.004	0.002	0.975	0.001	0.132	0.011
食事は食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた	0.168	0.008	0.991	0.056	0.131	0.148	0.154
たまに全量摂取するが殆ど残していた	0.103	0.001	0.001	0.163	0.001	0.001	0.978
おかずは食べるが、ご飯だけ残していた	0.090	0.002	0.001	0.013	0.001	0.959	0.001
食事中にそわそわ等落ち着きがみられず、苦痛な表情をしていた	0.097	0.001	0.005	0.001	0.984	0.001	0.001
（参考）平均項目数 →	1.3	1.0	1.1	1.8	1.4	1.9	1.5
該当事例数 →	(155)	(76)	(18)	(18)	(15)	(14)	(13)

（表２－４－３－４）潜在クラスモデル評価（食事中断の解決前パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	775.4	757.2
モデル2（クラス数2）	772.1	732.5
モデル3（クラス数3）	789.7	728.8
モデル4（クラス数4）	809.7	727.6
モデル5（クラス数5）	815.7	712.3
モデル6（クラス数6）	839.8	715.1
モデル7（クラス数7）	870.0	723.9
モデル8（クラス数8）	902.9	735.6

（表２－４－３－５）食事中断の解決後のパターン
（潜在クラス８クラスモデルのプロフィール）

(n=155)

状況	全体	パターン1 中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	パターン2 好みに合わせたときは食べた	パターン3 職員と同じペースで食べられることも増えてきた
サイズ	1.000	0.671	0.223	0.106
中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	0.748	0.999	0.210	0.293
職員と同じペースで食べられることも増えてきた	0.110	0.004	0.019	0.970
好みに合わせたときは食べた	0.252	0.022	0.991	0.153
（参考）平均項目数 →	1.1	1.0	1.2	1.4
該当事例数 →	(155)	(104)	(35)	(16)

（表２－４－３－６）潜在クラスモデル評価（食事中断の解決後パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	472.1	463.0
モデル2（クラス数2）	411.8	390.5
モデル3（クラス数3）	399.4	365.9
モデル4（クラス数4）	419.4	373.7
モデル5（クラス数5）	439.4	381.6

（表２－４－３－７）解決前後のパターンの相関行列
（全体）

（n=155）

			解決後のパターン		
			パターン1	パターン2	パターン3
			中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	好みに合わせたときは食べた	職員と同じペースで食べられることも増えてきた
解決前のパターン	パターン1	少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた	0.185 *	−0.238 **	0.037
	パターン2	食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた	−0.048	0.097	−0.057
	パターン3	途中で食べるのをやめたり、寝てしまっていた	−0.020	0.027	−0.005
	パターン4	食事中にそわそわ等落ち着きがみられず、苦痛な表情をしていた	−0.120	0.078	0.080
	パターン5	おかずは食べるが、ご飯だけ残したり、途中で食べるのをやめてしまっていた	−0.098	0.091	0.028
	パターン6	たまに全量摂取するが殆ど残したり、途中で食べるのをやめてしまっていた	−0.025	0.108	−0.107

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数

（有意水準）1%水準　**

5%水準　*

（表２－４－３－８）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン１“自立、中程度重症度”の場合）

（n=87）

			解決後のパターン		
			パターン1	パターン2	パターン3
			中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	好みに合わせたときは食べた	職員と同じペースで食べられることも増えてきた
解決前のパターン	パターン1	少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた	0.101	−0.206	0.096
	パターン2	食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた	−0.063	0.102	−0.031
	パターン3	途中で食べるのをやめたり、寝てしまっていた	0.046	−0.034	−0.025
	パターン4	食事中にそわそわ等落ち着きがみられず、苦痛な表情をしていた	−0.107	0.130	0.000
	パターン5	おかずは食べるが、ご飯だけ残したり、途中で食べるのをやめてしまっていた	0.029	−0.036	0.001
	パターン6	たまに全量摂取するが殆ど残したり、途中で食べるのをやめてしまっていた	−0.077	0.187	−0.108

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数

高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）

（帰属確率によるパターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**

5%水準　*

（表２－４－３－９）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン２“一部介助、中高程度重症度”の場合）

（n=68）

			解決後のパターン		
			パターン1	パターン2	パターン3
			中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	好みに合わせたときは食べた	職員と同じペースで食べられることも増えてきた
解決前のパターン	パターン1	少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた	0.296 *	−0.294 *	−0.045
	パターン2	食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた	−0.044	0.113	−0.105
	パターン3	途中で食べるのをやめたり、寝てしまっていた	−0.112	0.108	0.022
	パターン4	食事中にそわそわ等落ち着きがみられず、苦痛な表情をしていた	−0.132	0.023	0.192
	パターン5	おかずは食べるが、ご飯だけ残したり、途中で食べるのをやめてしまっていた	−0.251 *	0.232	0.067
	パターン6	たまに全量摂取するが殆ど残したり、途中で食べるのをやめてしまっていた	0.034	0.029	−0.106

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率によるパターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－４－３－１０）高齢者パターン別にみた解決前の状況

【実数】

	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
有効回答数	155	84	71
食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた	108	59	49
食事の途中で手を止め、その後は手をつけず寝てしまっていた	20	11	9
食事は食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた	26	15	11
たまに全量摂取するが殆ど残していた	16	9	7
おかずは食べるが、ご飯だけ残していた	14	8	6
食事中にそわそわ等落ち着きがみられず、苦痛な表情をしていた	15	7	8

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0
食卓テーブルにつくと、少し食べるが途中で食べるのをやめてしまっていた	69.7	70.2	69.0
食事の途中で手を止め、その後は手をつけず寝てしまっていた	12.9	13.1	12.7
食事は食べ始めるが途中で席を立ち歩き回っていた	16.8	17.9	15.5
たまに全量摂取するが殆ど残していた	10.3	10.7	9.9
おかずは食べるが、ご飯だけ残していた	9.0	9.5	8.5
食事中にそわそわ等落ち着きがみられず、苦痛な表情をしていた	9.7	8.3	11.3

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－４－３－１１）高齢者パターン別にみた解決後の状況

【実数】

	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
有効回答数	155	84	71
中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	116	66	50
職員と同じペースで食べられることも増えてきた	17	10	7
好みに合わせたときは食べた	39	17	22

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 自立、中程度重症度	パターン2 一部介助、中高程度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0
中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	74.8	78.6	70.4
職員と同じペースで食べられることも増えてきた	11.0	11.9	9.9
好みに合わせたときは食べた	25.2	20.2	31.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－４－４－１）食事中断の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
有効回答数			238	100.0
声かけの工夫	101	急かさず、声かけの繰り返し	86	36.1
	102	本人の気持ちの確認、質問	35	14.7
	103	ペースを尊重し、食事の促し	164	68.9
	104	好きな話題を提供	2	0.8
	105	ほめる	1	0.4
	106	仲の良い利用者からの誘い	1	0.4
	107	その他	5	2.1
誘導の工夫	201	促さず、見守る	140	58.8
	202	食事の認識を促す	97	40.8
	203	家族の名前を出して誘導する	37	15.5
	205	外食に誘う	14	5.9
	206	食事を一端止め、待つ	84	35.3
	207	食事準備に参加してもらう	22	9.2
	208	嗅覚を刺激する	11	4.6
メンバー調整	301	仲の良い人と食べる	79	33.2
	302	ペースが一緒の利用者と	39	16.4
	303	職員と一緒に	111	46.6
	305	他者と離れて、一人で	36	15.1
食事の工夫	401	食器の大きさを変えた	44	18.5
	402	好みのものにする	62	26.1
	403	食物の形態を変更	120	50.4
	405	おやつ、間食	14	5.9
	406	高カロリー食で量を増やす	10	4.2
	407	食器を毎日変える	4	1.7
	408	食器の柄や色を変える	15	6.3
	409	食器の形や材質変更	16	6.7
	410	過去の食事スタイル	16	6.7
	411	食事の盛り方の工夫	5	2.1
	412	食品数の調整	1	0.4
	413	食品の配置の工夫	3	1.3
	414	その他	5	2.1
食事環境調整	501	好きな場所で	115	48.3
	502	食べる場所を選択できるようにする	9	3.8
	504	スタッフの通る場所をさける	31	13.0
	506	花柄のカーテンなど飾る	3	1.3
	507	テーブルに花を置く	16	6.7
	509	静かな環境で	75	31.5
	510	周囲に物を置かず、集中できるようにする	2	0.8
	511	姿勢を整える	2	0.8
	512	イス、テーブルの高さ調整	3	1.3
	513	好きな音楽をかける	1	0.4
	514	その他	2	0.8
その他	601	義歯の調整	28	11.8
	602	食事に関する思い出を家族から聞く	39	16.4
	603	食事前の活動を促す	45	18.9
	604	食事前にトイレへ誘導	71	29.8
	605	ほほマッサージ	2	0.8
	606	食事介助	2	0.8
	607	生活のリズム調整	1	0.4
	608	排泄の調整	1	0.4

（参考）平均回答項目数 → 7.3

（表２－４－４－２）食事中断の解決方法組み合わせパターン
（潜在クラス 13 クラスモデルのプロフィール）

(n=238)

区分	code	解決方法	全体	パターン1 「促さず、見守る」を主として、「急かさず、声かけの繰り返し」、「好きな場所で」、「家族の名前を出して誘導する」などで構成された平均4.2項目と最少の組み合わせ	パターン2 「ベースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の4項目も多く、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	パターン3 「ベースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」と「促さず、見守る」も多く、「好みのものにする」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食事を一端止め、待つ」、「ベースが一緒の利用者と」、「食事前の活動を促す」、「食事に関する思い出を家族から聞く」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	パターン4 「食物の形態を変更」と「静かな環境で」を共通ベースとして、「ベースを尊重し、食事の促し」と「促さず、見守る」も多く、「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「食事前にトイレへ誘導」、「義歯の調整」、「職員と一緒に」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	パターン5 「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして「食物の形態を変更」、「ベースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」の3項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」、「職員と一緒に」、「食事前にトイレへ誘導」などで構成された平均6.0項目の組み合わせ	パターン6 「好きな場所で」、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」の4項目を共通ベースとして、「急かさず、声かけの繰り返し」、「ベースを尊重し、食事の促し」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の5項目も多い、平均9.3項目の組み合わせ	パターン7 「ベースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」、「食物の形態を変更」、「好きな場所で」の4項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」も多く、「職員と一緒に」、「食事前の活動を促す」などで構成された平均7.4項目の組み合わせ	パターン8 「食事前にトイレへ誘導」と「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食事の認識を促す」、「好きな場所で」、「職員と一緒に」、「食物の形態を変更」、「食器の大きさを変えた」の5項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」、「義歯の調整」などで構成された平均7.9項目の組み合わせ	パターン9 「食事前にトイレへ誘導」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「ベースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の6項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」、「好みのものにする」、「促さず、見守る」、「テーブルに花を置く」、「食事前の活動を促す」の5項目も多い、平均12.1項目と多い組み合わせ	パターン10 「好みのものにする」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「ベースを尊重し、食事の促し」、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「スタッフの通る場所をさける」の4項目も多く、「食事前の活動を促す」、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「仲の良い人と食べる」、「急かさず、声かけの繰り返し」などで構成された平均7.3項目の組み合わせ	パターン11 「食事の認識を促す」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「食器の大きさを変えた」と「急かさず、声かけの繰り返し」も多く、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「ベースを尊重し、食事の促し」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「スタッフの通る場所をさける」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	パターン12 「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「職員と一緒に」、「他者と離れて、一人で」、「本人の気持ちの確認、質問」、「ベースを尊重し、食事の促し」、「好きな場所で」、「食物の形態を変更」、「好みのものにする」の9項目を共通ベースとして、「食事前にトイレへ誘導」、「食事前の活動を促す」など多くを伴った平均18.2項目と最多の組み合わせ	パターン13 「静かな環境で」、「促さず、見守る」、「ベースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の4項目を共通ベースとして「外食に誘う」、「食事に関する思い出を家族から聞く」、「他者と離れて、一人で」の4項目も多く、平均9.9項目の組み合わせ
		サイズ	1.000	0.150	0.134	0.119	0.099	0.085	0.084	0.071	0.059	0.055	0.050	0.040	0.030	0.025
声かけの工夫	101	急かさず、声かけの繰り返し	0.361	0.390	0.076	0.109	0.130	0.860	0.701	0.061	0.846	0.308	0.252	0.652	0.710	0.170
	102	本人の気持ちの確認、質問	0.147	0.210	0.000	0.026	0.172	0.235	0.392	0.063	0.001	0.001	0.085	0.107	0.991	0.002
	103	ベースを尊重し、食事の促し	0.689	0.239	0.999	0.999	0.618	0.670	0.700	0.998	0.155	0.771	0.742	0.449	0.855	0.830
	104	好きな話題を提供	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.049	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.106	0.000	0.000
	105	ほめる	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.105	0.000	0.000
	106	仲の良い利用者からの誘い	0.004	0.028	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	107	その他	0.021	0.047	0.000	0.000	0.000	0.066	0.000	0.000	0.000	0.076	0.000	0.000	0.000	0.166
誘導の工夫	201	促さず、見守る	0.588	0.555	0.363	0.585	0.533	0.537	0.849	0.998	0.265	0.611	0.734	0.458	0.572	0.995
	202	食事の認識を促す	0.408	0.141	0.555	0.043	0.495	0.463	0.786	0.003	0.686	0.382	0.363	0.882	0.994	0.339
	203	家族の名前を出して誘導する	0.156	0.269	0.203	0.109	0.086	0.171	0.103	0.001	0.082	0.386	0.088	0.001	0.284	0.168
	205	外食に誘う	0.059	0.055	0.032	0.000	0.000	0.050	0.000	0.234	0.000	0.076	0.000	0.001	0.142	0.664
	206	食事を一端止め、待つ	0.353	0.139	0.001	0.334	0.274	0.495	0.833	0.119	0.452	0.456	0.740	0.446	0.993	0.362
	207	食事準備に参加してもらう	0.092	0.032	0.173	0.120	0.000	0.000	0.000	0.112	0.001	0.230	0.001	0.213	0.708	0.001
	208	嗅覚を刺激する	0.046	0.056	0.000	0.035	0.000	0.000	0.050	0.117	0.143	0.000	0.000	0.000	0.425	0.001
メンバー調整	301	仲の良い人と食べる	0.332	0.210	0.313	0.640	0.045	0.002	0.366	0.686	0.372	0.685	0.266	0.003	0.710	0.171
	302	ベースが一緒の利用者と	0.164	0.063	0.184	0.321	0.161	0.088	0.247	0.001	0.001	0.300	0.001	0.125	0.426	0.521
	303	職員と一緒に	0.466	0.210	0.511	0.147	0.371	0.459	0.530	0.377	0.618	0.763	0.858	0.769	0.994	0.826
	305	他者と離れて、一人で	0.151	0.168	0.067	0.001	0.088	0.001	0.426	0.122	0.148	0.150	0.087	0.107	0.991	0.356
食事の工夫	401	食器の大きさを変えた	0.185	0.088	0.086	0.233	0.202	0.001	0.201	0.215	0.511	0.077	0.001	0.733	0.567	0.002
	402	好みのものにする	0.261	0.118	0.095	0.485	0.143	0.150	0.001	0.169	0.002	0.685	0.994	0.231	0.851	0.470
	403	食物の形態を変更	0.504	0.002	0.547	0.057	0.998	0.715	0.735	0.994	0.615	0.839	0.113	0.334	0.853	0.198
	405	おやつ、間食	0.059	0.024	0.000	0.135	0.000	0.000	0.157	0.060	0.000	0.001	0.000	0.120	0.283	0.332
	406	高カロリー食で量を増やす	0.042	0.000	0.086	0.048	0.043	0.049	0.000	0.169	0.000	0.000	0.000	0.000	0.142	0.001
	407	食器を毎日変える	0.017	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.149	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.142	0.000
	408	食器の柄や色を変える	0.063	0.110	0.031	0.000	0.000	0.000	0.000	0.118	0.143	0.230	0.087	0.001	0.283	0.001
	409	食器の形や材質変更	0.067	0.000	0.094	0.000	0.044	0.000	0.149	0.000	0.000	0.303	0.000	0.104	0.425	0.166
	410	過去の食事スタイル	0.067	0.063	0.000	0.130	0.000	0.101	0.049	0.000	0.219	0.003	0.000	0.001	0.142	0.498
	411	食事の盛り方の工夫	0.021	0.000	0.000	0.070	0.042	0.000	0.000	0.000	0.072	0.000	0.000	0.107	0.000	0.000
	412	食品数の調整	0.004	0.028	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	413	食品の配置の工夫	0.013	0.000	0.031	0.000	0.042	0.000	0.050	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	414	その他	0.021	0.000	0.000	0.035	0.000	0.098	0.000	0.000	0.000	0.076	0.000	0.000	0.142	0.000
食事環境調整	501	好きな場所で	0.483	0.340	0.639	0.476	0.050	0.004	0.941	0.838	0.675	0.840	0.345	0.005	0.994	0.528
	502	食べる場所を選択できるようにする	0.038	0.000	0.000	0.102	0.000	0.098	0.000	0.000	0.072	0.000	0.095	0.211	0.000	0.001
	504	スタッフの通る場所をさける	0.130	0.000	0.162	0.138	0.213	0.001	0.001	0.171	0.001	0.377	0.501	0.324	0.001	0.002
	506	花柄のカーテンなど飾る	0.013	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.084	0.000	0.283	0.000
	507	テーブルに花を置く	0.067	0.052	0.063	0.000	0.000	0.000	0.057	0.000	0.000	0.605	0.001	0.001	0.425	0.001
	509	静かな環境で	0.315	0.112	0.001	0.461	0.942	0.002	0.300	0.125	0.218	0.763	0.205	0.335	0.427	0.991
	510	周囲に物を置かず、集中できるようにする	0.008	0.028	0.000	0.000	0.042	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	511	姿勢を整える	0.008	0.000	0.000	0.000	0.042	0.000	0.000	0.000	0.072	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	512	イス、テーブルの高さ調整	0.013	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.076	0.000	0.211	0.000	0.000
	513	好きな音楽をかける	0.004	0.028	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	514	その他	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.143	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
その他	601	義歯の調整	0.118	0.000	0.150	0.000	0.298	0.051	0.001	0.247	0.352	0.076	0.169	0.001	0.425	0.002
	602	食事に関する思い出を家族から聞く	0.164	0.139	0.111	0.266	0.001	0.152	0.302	0.002	0.073	0.380	0.001	0.001	0.567	0.632
	603	食事前の活動を促す	0.189	0.057	0.086	0.298	0.172	0.002	0.101	0.332	0.073	0.608	0.421	0.110	0.709	0.003
	604	食事前にトイレへ誘導	0.298	0.167	0.096	0.146	0.467	0.366	0.158	0.059	0.879	0.995	0.091	0.110	0.710	0.467
	605	ほぼマッサージ	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.211	0.000	0.000
	606	食事介助	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.098	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	607	生活のリズム調整	0.004	0.028	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	608	排泄の調整	0.004	0.000	0.000	0.000	0.042	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
		（参考）平均項目数 →	7.3	4.2	5.8	6.6	6.8	6.0	9.3	7.4	7.9	12.1	7.3	7.6	18.2	9.9
		該当事例数 →	(238)	(36)	(32)	(28)	(24)	(20)	(20)	(17)	(14)	(13)	(12)	(9)	(7)	(6)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が確差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－４－４－３）　潜在クラスモデル評価（食事中断の解決方法組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1（クラス数1）	7401.8	7228.2	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2（クラス数2）	7490.4	7139.7	0.030	0.793	0.803	0.814
モデル3（クラス数3）	7644.3	7116.5	0.104	0.797	0.723	0.732
モデル4（クラス数4）	7819.0	7114.2	0.114	0.822	0.786	0.774
モデル5（クラス数5）	8011.9	7130.0	0.112	0.844	0.810	0.790
モデル6（クラス数6）	8208.9	7149.9	0.128	0.817	0.793	0.765
モデル7（クラス数7）	8416.0	7179.8	0.081	0.883	0.873	0.844
モデル8（クラス数8）	8666.0	7252.8	0.078	0.896	0.877	0.854
モデル9（クラス数9）	8890.8	7300.5	0.101	0.880	0.869	0.830
モデル 10（クラス数 10）	9112.7	7345.3	0.077	0.905	0.893	0.866
モデル 11（クラス数 11）	9305.0	7360.5	0.058	0.932	0.923	0.899
モデル 12（クラス数 12）	9566.4	7444.9	0.069	0.916	0.912	0.883
モデル 13（クラス数 13）	9793.7	7495.0	0.057	0.933	0.928	0.902
モデル 14（クラス数 14）	10057.6	7581.9	0.057	0.928	0.926	0.900
モデル 15（クラス数 15）	10273.5	7620.7	0.064	0.927	0.928	0.893

（表２－４－４－４）　食事中断の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（全体）

（n=154）

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン		
		パターン1	パターン2	パターン3
		中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	好みに合わせたときは食べた	職員と同じペースで食べられることも増えてきた
パターン1	「促さず、見守る」を主として、「急かさず、声かけの繰り返し」、「好きな場所で」、「家族の名前を出して誘導する」などで構成された平均4.2項目と最少の組み合わせ	0.177 *	−0.150	−0.071
パターン2	「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の４項目も多く、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	−0.057	0.046	0.026
パターン3	「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」と「促さず、見守る」も多く、「好みのものにする」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースが一緒の利用者と」、「食事前の活動を促す」、「食事に関する思い出を家族から聞く」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	−0.049	0.149	−0.125
パターン4	「食物の形態を変更」と「静かな環境で」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」と「促さず、見守る」も多く、「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「食事前にトイレへ誘導」、「義歯の調整」、「職員と一緒に」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	0.130	−0.097	−0.069
パターン5	「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」の３項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」、「職員と一緒に」、「食事前にトイレへ誘導」などで構成された平均6.0項目の組み合わせ	−0.175 *	0.208 **	−0.011
パターン6	「好きな場所で」、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」の４項目を共通ベースとして、「急かさず、声かけの繰り返し」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の５項目も多い、平均9.3項目の組み合わせ	0.089	−0.030	−0.097
パターン7	「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」、「食物の形態を変更」、「好きな場所で」の４項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」も多く、「職員と一緒に」、「食事前の活動を促す」などで構成された平均7.4項目の組み合わせ	0.038	−0.094	0.068
パターン8	「食事前にトイレへ誘導」と「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食事の認識を促す」、「好きな場所で」、「職員と一緒に」、「食物の形態を変更」、「食器の大きさを変えた」の５項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」、「義歯の調整」などで構成された平均7.9項目の組み合わせ	0.039	−0.056	0.016
パターン9	「食事前にトイレへ誘導」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の６項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」、「好みのものにする」、「促さず、見守る」、「テーブルに花を置く」、「食事前の活動を促す」の５項目も多い、平均12.1項目と多い組み合わせ	−0.071	0.014	0.090
パターン10	「好みのものにする」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「スタッフの通る場所をさける」の４項目も多く、「食事前の活動を促す」、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「仲の良い人と食べる」、「急かさず、声かけの繰り返し」などで構成された平均7.3項目の組み合わせ	−0.215 **	0.033	0.286 **
パターン11	「食事の認識を促す」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「食器の大きさを変えた」と「急かさず、声かけの繰り返し」も多く、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「スタッフの通る場所をさける」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	0.053	0.004	−0.086
パターン12	「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「職員と一緒に」、「他者と離れて、一人で」、「本人の気持ちの確認、質問」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「好きな場所で」、「食物の形態を変更」、「好みのものにする」の９項目を共通ベースとして、「食事前にトイレへ誘導」、「食事前の活動を促す」など多くを伴った平均18.2項目と最多の組み合わせ	−0.139	0.074	0.114
パターン13	「静かな環境で」、「促さず、見守る」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の４項目を共通ベースとして、「外食に誘う」、「食事に関する思い出を家族から聞く」、「好きな場所で」、「ペースが一緒の利用者と」の４項目も多い、平均9.9項目の組み合わせ	0.117	−0.091	−0.058

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－４－４－５）　食事中断の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連
（全体）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況		
			中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	職員と同じペースで食べられることも増えてきた	好みに合わせたときは食べた
全体		154	74.7	11.0	25.3
パターン1	「促さず、見守る」を主として、「急かさず、声かけの繰り返し」、「好きな場所で」、「家族の名前を出して誘導する」などで構成された平均4.2項目と最少の組み合わせ	20	87.1	5.2	7.6
パターン2	「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の4項目も多く、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	24	74.2	12.1	30.4
パターン3	「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」と「促さず、見守る」も多く、「好みのものにする」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースが一緒の利用者と」、「食事前の活動を促す」、「食事に関する思い出を家族から聞く」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	18	65.4	1.0	38.5
パターン4	「食物の形態を変更」と「静かな環境で」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」と「促さず、見守る」も多く、「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「食事前にトイレへ誘導」、「義歯の調整」、「職員と一緒に」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	16	84.1	6.0	16.0
パターン5	「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」の3項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」、「職員と一緒に」、「食事前にトイレへ誘導」などで構成された平均6.0項目の組み合わせ	9	48.0	10.9	62.4
パターン6	「好きな場所で」、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」の4項目を共通ベースとして、「急かさず、声かけの繰り返し」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の5項目も多い、平均9.3項目の組み合わせ	12	81.1	0.7	18.4
パターン7	「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」、「食物の形態を変更」、「好きな場所で」の4項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」も多く、「職員と一緒に」、「食事前の活動を促す」などで構成された平均7.4項目の組み合わせ	10	81.5	18.4	9.1
パターン8	「食事前にトイレへ誘導」と「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食事の認識を促す」、「好きな場所で」、「職員と一緒に」、「食物の形態を変更」、「食器の大きさを変えた」の5項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」、「義歯の調整」などで構成された平均7.9項目の組み合わせ	8	74.7	12.4	13.1
パターン9	「食事前にトイレへ誘導」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の6項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」、「好みのものにする」、「促さず、見守る」、「テーブルに花を置く」、「食事前の活動を促す」の5項目も多い、平均12.1項目と多い組み合わせ	8	63.5	24.2	37.3
パターン10	「好みのものにする」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「スタッフの通る場所をさける」の4項目も多く、「食事前の活動を促す」、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「仲の良い人と食べる」、「急かさず、声かけの繰り返し」などで構成された平均7.3項目の組み合わせ	9	40.3	44.3	27.9
パターン11	「食事の認識を促す」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「食器の大きさを変えた」と「急かさず、声かけの繰り返し」も多く、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「スタッフの通る場所をさける」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	8	86.1	0.1	26.0
パターン12	「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「職員と一緒に」、「他者と離れて、一人で」、「本人の気持ちの確認、質問」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「好きな場所で」、「食物の形態を変更」、「好みのものにする」の9項目を共通ベースとして、「食事前にトイレへ誘導」、「食事前の活動を促す」など多くを伴った平均18.2項目と最多の組み合わせ	7	85.7	28.6	42.8
パターン13	「静かな環境で」、「促さず、見守る」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の4項目を共通ベースとして、「外食に誘う」、「食事に関する思い出を家族から聞く」、「好きな場所で」、「ペースが一緒の利用者と」の4項目も多い、平均9.9項目の組み合わせ	4	99.7	0.0	0.3

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－４－４－６）　食事中断の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン１“自立、中程度重症度”の場合）

(n=87)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン パターン1 中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	パターン2 好みに合わせたときは食べた	パターン3 職員と同じペースで食べられることも増えてきた
パターン1	「促さず、見守る」を主として、「急かさず、声かけの繰り返し」、「好きな場所で」、「家族の名前を出して誘導する」などで構成された平均4.2項目と最少の組み合わせ	0.244 *	−0.219 *	−0.088
パターン2	「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の4項目も多く、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	−0.158	0.177	0.017
パターン3	「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」と「促さず、見守る」も多く、「好みのものにする」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースが一緒の利用者と」、「食事前の活動を促す」、「食事に関する思い出を家族から聞く」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	−0.112	0.263 *	−0.147
パターン4	「食物の形態を変更」と「静かな環境で」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」と「促さず、見守る」も多く、「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「食事前にトイレへ誘導」、「義歯の調整」、「職員と一緒に」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	0.207	−0.150	−0.116
パターン5	「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」の3項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」、「職員と一緒に」、「食事前にトイレへ誘導」などで構成された平均6.0項目の組み合わせ	−0.045	0.113	−0.066
パターン6	「好きな場所で」、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」の4項目を共通ベースとして、「急かさず、声かけの繰り返し」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の5項目も多い、平均9.3項目の組み合わせ	0.110	−0.080	−0.061
パターン7	「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」、「食物の形態を変更」、「好きな場所で」の4項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」も多く、「職員と一緒に」、「食事前の活動を促す」などで構成された平均7.4項目の組み合わせ	−0.063	−0.042	0.135
パターン8	「食事前にトイレへ誘導」と「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食事の認識を促す」、「好きな場所で」、「職員と一緒に」、「食物の形態を変更」、「食器の大きさを変えた」の5項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」、「義歯の調整」などで構成された平均7.9項目の組み合わせ	0.162	−0.119	−0.089
パターン9	「食事前にトイレへ誘導」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の6項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」、「好みのものにする」、「促さず、見守る」、「テーブルに花を置く」、「食事前の活動を促す」の5項目も多い、平均12.1項目と多い組み合わせ	0.073	−0.052	−0.041
パターン10	「好みのものにする」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「スタッフの通る場所をさける」の4項目も多く、「食事前の活動を促す」、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「仲の良い人と食べる」、「急かさず、声かけの繰り返し」などで構成された平均7.3項目の組み合わせ	−0.325 **	−0.075	0.537 **
パターン11	「食事の認識を促す」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「食器の大きさを変えた」と「急かさず、声かけの繰り返し」も多く、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「スタッフの通る場所をさける」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	0.010	0.063	−0.086
パターン12	「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「職員と一緒に」、「他者と離れて、一人で」、「本人の気持ちの確認、質問」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「好きな場所で」、「食物の形態を変更」、「好みのものにする」の9項目を共通ベースとして、「食事前にトイレへ誘導」、「食事前の活動を促す」など多くを伴った平均18.2項目と最多の組み合わせ	−0.174	0.066	0.167
パターン13	「静かな環境で」、「促さず、見守る」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の4項目を共通ベースとして、「外食に誘う」、「食事に関する思い出を家族から聞く」、「好きな場所で」、「ペースが一緒の利用者と」の4項目も多い、平均9.9項目の組み合わせ	0.071	−0.051	−0.039

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－４－４－７）　食事中断の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン１“自立、中程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況		
			中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	職員と同じペースで食べられることも増えてきた	好みに合わせたときは食べた
全体		87	80.5	11.5	18.4
パターン1	「促さず、見守る」を主として、「急かさず、声かけの繰り返し」、「好きな場所で」、「家族の名前を出して誘導する」などで構成された平均4.2項目と最少の組み合わせ	17	92.1	6.0	1.9
パターン2	「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の4項目も多く、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	16	72.8	12.2	33.7
パターン3	「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」と「促さず、見守る」も多く、「好みのものにする」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースが一緒の利用者と」、「食事前の活動を促す」、「食事に関する思い出を家族から聞く」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	13	66.9	1.2	38.9
パターン4	「食物の形態を変更」と「静かな環境で」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」と「促さず、見守る」も多く、「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「食事前にトイレへ誘導」、「義歯の調整」、「職員と一緒に」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	8	100.0	0.0	0.2
パターン5	「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」の3項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」、「職員と一緒に」、「食事前にトイレへ誘導」などで構成された平均6.0項目の組み合わせ	3	62.3	0.8	37.0
パターン6	「好きな場所で」、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」の4項目を共通ベースとして、「急かさず、声かけの繰り返し」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の5項目も多い、平均9.3項目の組み合わせ	2	99.1	0.6	0.8
パターン7	「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」、「食物の形態を変更」、「好きな場所で」の4項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」も多く、「職員と一緒に」、「食事前の活動を促す」などで構成された平均7.4項目の組み合わせ	8	75.0	25.3	12.1
パターン8	「食事前にトイレへ誘導」と「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食事の認識を促す」、「好きな場所で」、「職員と一緒に」、「食物の形態を変更」、「食器の大きさを変えた」の5項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」、「義歯の調整」などで構成された平均7.9項目の組み合わせ	5	99.7	0.2	0.1
パターン9	「食事前にトイレへ誘導」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の6項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」、「好みのものにする」、「促さず、見守る」、「テーブルに花を置く」、「食事前の活動を促す」の5項目も多い、平均12.1項目と多い組み合わせ	1	99.9	0.8	2.2
パターン10	「好みのものにする」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「スタッフの通る場所をさける」の4項目も多く、「食事前の活動を促す」、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「仲の良い人と食べる」、「急かさず、声かけの繰り返し」などで構成された平均7.3項目の組み合わせ	3	4.5	95.0	4.1
パターン11	「食事の認識を促す」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「食器の大きさを変えた」と「急かさず、声かけの繰り返し」も多く、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「スタッフの通る場所をさける」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	4	73.9	0.0	26.1
パターン12	「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「職員と一緒に」、「他者と離れて、一人で」、「本人の気持ちの確認、質問」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「好きな場所で」、「食物の形態を変更」、「好みのものにする」の9項目を共通ベースとして、「食事前にトイレへ誘導」、「食事前の活動を促す」など多くを伴った平均18.2項目と最多の組み合わせ	6	100.0	33.3	33.3
パターン13	「静かな環境で」、「促さず、見守る」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の4項目を共通ベースとして、「外食に誘う」、「食事に関する思い出を家族から聞く」、「好きな場所で」、「ペースが一緒の利用者と」の4項目も多い、平均9.9項目の組み合わせ	1	99.9	0.0	0.1

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－４－４－８）　食事中断の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン２“一部介助、中高程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況		
			中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	職員と同じペースで食べられることも増えてきた	好みに合わせたときは食べた
全体		67	67.2	10.4	34.3
パターン1	「促さず、見守る」を主として、「急かさず、声かけの繰り返し」、「好きな場所で」、「家族の名前を出して誘導する」などで構成された平均4.2項目と最少の組み合わせ	3	53.0	0.1	46.9
パターン2	「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の4項目も多く、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	8	76.9	11.7	23.8
パターン3	「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」と「促さず、見守る」も多く、「好みのものにする」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースが一緒の利用者と」、「食事前の活動を促す」、「食事に関する思い出を家族から聞く」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	5	61.7	0.6	37.7
パターン4	「食物の形態を変更」と「静かな環境で」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」と「促さず、見守る」も多く、「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「食事前にトイレへ誘導」、「義歯の調整」、「職員と一緒に」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	9	69.9	11.3	30.1
パターン5	「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」の3項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」、「職員と一緒に」、「食事前にトイレへ誘導」などで構成された平均6.0項目の組み合わせ	6	42.0	15.2	73.1
パターン6	「好きな場所で」、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」の4項目を共通ベースとして、「急かさず、声かけの繰り返し」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の5項目も多い、平均9.3項目の組み合わせ	9	76.7	0.7	22.8
パターン7	「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」、「食物の形態を変更」、「好きな場所で」の4項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」も多く、「職員と一緒に」、「食事前の活動を促す」などで構成された平均7.4項目の組み合わせ	3	98.2	0.5	1.3
パターン8	「食事前にトイレへ誘導」と「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食事の認識を促す」、「好きな場所で」、「職員と一緒に」、「食物の形態を変更」、「食器の大きさを変えた」の5項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」、「義歯の調整」などで構成された平均7.9項目の組み合わせ	3	33.0	32.6	34.8
パターン9	「食事前にトイレへ誘導」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の6項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」、「好みのものにする」、「促さず、見守る」、「テーブルに花を置く」、「食事前の活動を促す」の5項目も多い、平均12.1項目と多い組み合わせ	7	57.6	28.1	43.0
パターン10	「好みのものにする」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「スタッフの通る場所をさける」の4項目も多く、「食事前の活動を促す」、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「仲の良い人と食べる」、「急かさず、声かけの繰り返し」などで構成された平均7.3項目の組み合わせ	6	59.4	17.4	40.6
パターン11	「食事の認識を促す」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「食器の大きさを変えた」と「急かさず、声かけの繰り返し」も多く、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「スタッフの通る場所をさける」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	4	99.2	0.3	25.8
パターン12	「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「職員と一緒に」、「他者と離れて、一人で」、「本人の気持ちの確認、質問」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「好きな場所で」、「食物の形態を変更」、「好みのものにする」の9項目を共通ベースとして、「食事前にトイレへ誘導」、「食事前の活動を促す」など多くを伴った平均18.2項目と最多の組み合わせ	1	0.0	0.0	100.0
パターン13	「静かな環境で」、「促さず、見守る」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の4項目を共通ベースとして、「外食に誘う」、「食事に関する思い出を家族から聞く」、「好きな場所で」、「ペースが一緒の利用者と」の4項目も多い、平均9.9項目の組み合わせ	3	99.6	0.0	0.4

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－４－４－９）　食事中断の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン２“一部介助、中高程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況		
			中断する回数が減り、最後まで食べらるようになった	職員と同じペースで食べられることも増えてきた	好みに合わせたときは食べた
全体		67	67.2	10.4	34.3
パターン1	「促さず、見守る」を主として、「急かさず、声かけの繰り返し」、「好きな場所で」、「家族の名前を出して誘導する」などで構成された平均4.2項目と最少の組み合わせ	3	53.0	0.1	46.9
パターン2	「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「食物の形態を変更」、「職員と一緒に」の４項目も多く、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	8	76.9	11.7	23.8
パターン3	「ペースを尊重し、食事の促し」を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」と「促さず、見守る」も多く、「好みのものにする」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースが一緒の利用者と」、「食事前の活動を促す」、「食事に関する思い出を家族から聞く」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	5	61.7	0.6	37.7
パターン4	「食物の形態を変更」と「静かな環境で」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」と「促さず、見守る」も多く、「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「食事前にトイレへ誘導」、「義歯の調整」、「職員と一緒に」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	9	69.9	11.3	30.1
パターン5	「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」の３項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」、「職員と一緒に」、「食事前にトイレへ誘導」などで構成された平均6.0項目の組み合わせ	6	42.0	15.2	73.1
パターン6	「好きな場所で」、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「食事の認識を促す」の４項目を共通ベースとして、「急かさず、声かけの繰り返し」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食物の形態を変更」、「一端、休憩」、「職員と一緒に」の５項目も多い、平均9.3項目の組み合わせ	9	76.7	0.7	22.8
パターン7	「ペースを尊重し、食事の促し」、「促さず、見守る」、「食物の形態を変更」、「好きな場所で」の４項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」も多く、「職員と一緒に」、「食事前の活動を促す」などで構成された平均7.4項目の組み合わせ	3	98.2	0.5	1.3
パターン8	「食事前にトイレへ誘導」と「急かさず、声かけの繰り返し」を共通ベースとして、「食事の認識を促す」、「好きな場所で」、「職員と一緒に」、「食物の形態を変更」、「食器の大きさを変えた」の５項目も多く、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「仲の良い人と食べる」、「義歯の調整」などで構成された平均7.9項目の組み合わせ	3	33.0	32.6	34.8
パターン9	「食事前にトイレへ誘導」、「好きな場所で」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の６項目を共通ベースとして、「仲の良い人と食べる」、「好みのものにする」、「促さず、見守る」、「テーブルに花を置く」、「食事前の活動を促す」の５項目も多い、平均12.1項目と多い組み合わせ	7	57.6	28.1	43.0
パターン10	「好みのものにする」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「ペースを尊重し、食事の促し」、「食事を一端止め、待つ」、「促さず、見守る」、「スタッフの通る場所をさける」の４項目も多く、「食事前の活動を促す」、「好きな場所で」、「食事の認識を促す」、「仲の良い人と食べる」、「急かさず、声かけの繰り返し」などで構成された平均7.3項目の組み合わせ	6	59.4	17.4	40.6
パターン11	「食事の認識を促す」と「職員と一緒に」を共通ベースとして、「食器の大きさを変えた」と「急かさず、声かけの繰り返し」も多く、「促さず、見守る」、「食事を一端止め、待つ」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「静かな環境で」、「食物の形態を変更」、「スタッフの通る場所をさける」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	4	99.2	0.3	25.8
パターン12	「食事の認識を促す」、「食事を一端止め、待つ」、「職員と一緒に」、「他者と離れて、一人で」、「本人の気持ちの確認、質問」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「好きな場所で」、「食物の形態を変更」、「好みのものにする」の９項目を共通ベースとして、「食事前にトイレへ誘導」、「食事前の活動を促す」など多くを伴った平均18.2項目と最多の組み合わせ	1	0.0	0.0	100.0
パターン13	「静かな環境で」、「促さず、見守る」、「ペースを尊重し、食事の促し」、「職員と一緒に」の４項目を共通ベースとして、「外食に誘う」、「食事に関する思い出を家族から聞く」、「好きな場所で」、「ペースが一緒の利用者と」の４項目も多い、平均9.9項目の組み合わせ	3	99.6	0.0	0.4

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－４－５－１）　食事中断の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
		計（延解決方法件数）	1,571	100.0
認知能力	1	認知機能	109	6.9
	2	認知症の種類	20	1.3
	3	認知症の症状	113	7.2
	4	認知症罹患期間	－	－
健康面	5	体調	116	7.4
	6	現病・既往歴	21	1.3
	7	排泄状況	78	5.0
	8	水分状態	30	1.9
	9	視力・視覚機能	35	2.2
	10	体重・BMI	7	0.4
	11	運動量	31	2.0
	12	睡眠時間・状況	44	2.8
	13	手指腕の機能	30	1.9
口腔機能	14	口腔状況	75	4.8
	15	咀嚼力	95	6.0
	16	嚥下状態・誤嚥	88	5.6
心理面	17	気分	428	27.2
	18	心配ごと・不満状況	112	7.1
	19	本人の気持ち、意志	388	24.7
食事関係	20	食の嗜好・興味・意欲	241	15.3
	21	最近の食事量	69	4.4
	22	当日の食事量・おやつ量	53	3.4
	23	満腹感、空腹感	58	3.7
	24	食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)	136	8.7
	25	盛付	71	4.5
	26	食器の配置	59	3.8
食事中の状態	27	食中の様子	205	13.0
	28	姿勢	34	2.2
	29	目線	89	5.7
	30	食事中の会話	158	10.1
	31	表情	202	12.9
習　慣	32	最近の食習慣	96	6.1
	33	生活習慣(ここ数年)	106	6.7
	34	生活歴(幼少期から)	71	4.5
環　境	35	周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)	206	13.1
	36	席の位置	157	10.0
	37	椅子・机の形	2	0.1
	38	椅子・机の高さ	17	1.1
	39	椅子・机の色	1	0.1
人間関係	40	他の入居者との関係	218	13.9
	41	スタッフとの関係	203	12.9
	42	家族関係	75	4.8
介護者の対応	43	スタッフの声かけ内容・見守り方	473	30.1
その他	44	その他	3	0.2

（参考）平均記入項目数 →　3.1

（表２－４－５－２）食事中断の解決に役立った情報の組み合わせパターン

（潜在クラス 20 クラスモデルのプロフィール）

（n=1568）

区分	code	解決に役立った情報	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17	パターン18	パターン19	パターン20
				「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」、「席の位置」、「他の入居者との関係」、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均2.6項目の組み合わせ	「表情」を主として、「食中の様子」、「気分」、「本人の気持ち、意志」、「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」などで構成された平均3.3項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を主として、「他の入居者との関係」、「食事中の会話」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	「咀嚼力」を主として、「嚥下状態・誤嚥」と「口腔状況」を加えた"口腔機能"にウェイトを置き、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」などで構成された平均2.6項目の組み合わせ	「生活習慣（ここ数年）」や「生活歴（幼少期から）」の"習慣"にウェイトを置き、「家族関係」、「本人の気持ち、意志」、「食の嗜好・興味・意欲」などで構成された平均2.4項目と最少の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」も多く、「心配ごと・不満状況」を加えた"心理面"にウェイトを置いて構成された平均2.8項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」を主として、「気分」、「本人の気持ち、意志」、「最近の食習慣」、「生活習慣（ここ数年）」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」「気分」、「心配ごと・不満状況」、「食中の様子」、「スタッフとの関係」などで主として構成された平均4.2項目と最多の組み合わせ	「食の嗜好・興味・意欲」を共通ベースとして、「気分」他に分散して構成された平均2.5項目の組み合わせ	「食事中の会話」を主として、「表情」、「気分」、「食の嗜好・興味・意欲」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.4項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」と「表情」を主として、「食の嗜好・興味・意欲」、「満腹感、空腹感」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	「排泄状況」を共通ベースとして、「水分状態」、「気分」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「認知症の症状」、「気分」の3項目を主として、「嚥下状態・誤嚥」他で構成された平均3.7項目の組み合わせ	「体調」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」も多く、「気分」、「睡眠時間・状況」、「認知機能」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	「食器の配置」と「盛付」を主として、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」を含めた"食事関係"、「認知機能」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	「最近の食事量」、「当日の食事量・おやつ量」、「満腹感、空腹感」、「盛付」、「食の嗜好・興味・意欲」、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」などにウェイトを置いて構成された平均3.0項目の組み合わせ	「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」を主として、「食の嗜好・興味・意欲」、「盛付」、「咀嚼力」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	「認知症の症状」、「認知症の種類」、「認知機能」といった"認知機能"にウェイトを置き、「体調」、「現病・既往歴」などで構成された平均3.4項目の組み合わせ	「運動量」、「体調」、「水分状態」、「排泄状況」などの"健康面"にウェイトを置いて、「満腹感、空腹感」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	「目線」と「認知機能」を主として、「姿勢」、「本人の気持ち、意志」、「視力・視覚機能」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ
		サイズ	1.000	0.152	0.112	0.085	0.073	0.066	0.050	0.049	0.048	0.046	0.045	0.035	0.035	0.032	0.032	0.030	0.027	0.026	0.023	0.018	0.016
認知能力	1	認知機能	0.070	0.010	0.075	0.027	0.039	0.011	0.060	0.001	0.068	0.142	0.000	0.063	0.104	0.204	0.257	0.214	0.001	0.000	0.203	0.041	0.513
	2	認知症の種類	0.013	0.000	0.000	0.000	0.018	0.000	0.036	0.014	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.020	0.000	0.000	0.000	0.299	0.073	0.000
	3	認知症の症状	0.072	0.043	0.080	0.008	0.000	0.000	0.182	0.114	0.029	0.000	0.000	0.032	0.048	0.540	0.023	0.137	0.000	0.000	0.526	0.076	0.064
健康面	5	体調	0.074	0.004	0.007	0.043	0.082	0.000	0.000	0.119	0.072	0.007	0.059	0.131	0.096	0.033	0.772	0.009	0.001	0.087	0.212	0.484	0.043
	6	現病・既往歴	0.013	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.038	0.000	0.013	0.000	0.000	0.000	0.015	0.000	0.000	0.000	0.047	0.000	0.209	0.186	0.047
	7	排泄状況	0.050	0.025	0.000	0.000	0.010	0.000	0.000	0.004	0.006	0.000	0.000	0.000	0.997	0.053	0.045	0.000	0.000	0.026	0.000	0.335	0.000
	8	水分状態	0.019	0.000	0.000	0.000	0.020	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.260	0.000	0.062	0.000	0.000	0.000	0.000	0.362	0.000
	9	視力・視覚機能	0.022	0.000	0.007	0.000	0.020	0.000	0.048	0.092	0.000	0.022	0.017	0.000	0.000	0.000	0.022	0.105	0.070	0.000	0.043	0.000	0.287
	10	体重・BMI	0.005	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.100	0.117	0.000
	11	運動量	0.020	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.108	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.052	0.000	0.000	0.000	0.033	0.666	0.000
	12	睡眠時間・状況	0.028	0.000	0.000	0.000	0.000	0.010	0.000	0.000	0.044	0.000	0.113	0.024	0.000	0.000	0.458	0.000	0.000	0.027	0.028	0.190	0.000
	13	手指腕の機能	0.019	0.000	0.000	0.005	0.054	0.000	0.000	0.074	0.000	0.000	0.020	0.000	0.015	0.000	0.000	0.081	0.161	0.000	0.000	0.160	0.000
口腔機能	14	口腔状況	0.048	0.000	0.000	0.000	0.414	0.044	0.033	0.091	0.016	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.160	0.131	0.040	0.000
	15	咀嚼力	0.061	0.000	0.025	0.000	0.588	0.000	0.027	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.152	0.025	0.000	0.000	0.279	0.000	0.000	0.052
	16	嚥下状態・誤嚥	0.056	0.000	0.000	0.006	0.452	0.000	0.023	0.000	0.000	0.000	0.020	0.000	0.000	0.315	0.067	0.000	0.000	0.050	0.191	0.000	0.161
心理面	17	気分	0.273	0.350	0.367	0.001	0.000	0.125	0.508	0.404	0.652	0.200	0.412	0.236	0.274	0.528	0.473	0.118	0.192	0.231	0.001	0.089	0.001
	18	心配ごと・不満状況	0.071	0.042	0.049	0.089	0.000	0.000	0.331	0.000	0.270	0.028	0.000	0.115	0.190	0.089	0.020	0.040	0.000	0.000	0.135	0.149	0.000
	19	本人の気持ち、意志	0.247	0.128	0.294	0.116	0.038	0.237	0.934	0.324	0.710	0.075	0.073	0.592	0.118	0.040	0.578	0.084	0.197	0.121	0.059	0.057	0.321
食事関係	20	食の嗜好・興味・意欲	0.154	0.007	0.054	0.037	0.146	0.205	0.111	0.162	0.071	0.995	0.299	0.372	0.052	0.001	0.024	0.143	0.218	0.472	0.172	0.045	0.041
	21	最近の食事量	0.044	0.003	0.048	0.000	0.068	0.000	0.000	0.096	0.000	0.035	0.028	0.040	0.000	0.000	0.089	0.000	0.492	0.159	0.139	0.044	0.000
	22	当日の食事量・おやつ量	0.034	0.002	0.058	0.016	0.052	0.016	0.022	0.000	0.049	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.104	0.000	0.464	0.035	0.033	0.000	0.000
	23	満腹感、空腹感	0.037	0.012	0.000	0.000	0.040	0.012	0.000	0.017	0.000	0.005	0.000	0.350	0.034	0.033	0.068	0.000	0.365	0.000	0.000	0.209	0.000
	24	食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)	0.087	0.034	0.000	0.000	0.316	0.000	0.002	0.000	0.068	0.154	0.000	0.236	0.000	0.193	0.000	0.205	0.209	0.736	0.068	0.000	0.091
	25	盛付	0.045	0.000	0.000	0.008	0.000	0.026	0.000	0.001	0.000	0.078	0.073	0.086	0.000	0.036	0.000	0.597	0.249	0.277	0.000	0.000	0.000
	26	食器の配置	0.038	0.000	0.007	0.022	0.014	0.000	0.000	0.027	0.049	0.054	0.000	0.000	0.000	0.000	0.021	0.653	0.056	0.193	0.000	0.000	0.058
食事中の状態	27	食中の様子	0.131	0.045	0.489	0.074	0.117	0.031	0.000	0.085	0.283	0.051	0.099	0.179	0.050	0.218	0.044	0.116	0.123	0.073	0.088	0.000	0.050
	28	姿勢	0.022	0.000	0.000	0.000	0.023	0.000	0.002	0.000	0.035	0.000	0.154	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.143	0.000	0.000	0.464
	29	目線	0.057	0.034	0.159	0.000	0.000	0.000	0.034	0.000	0.010	0.046	0.242	0.000	0.000	0.045	0.000	0.136	0.000	0.000	0.000	0.076	0.713
	30	食事中の会話	0.101	0.094	0.161	0.223	0.000	0.063	0.119	0.000	0.124	0.000	0.664	0.000	0.015	0.028	0.000	0.000	0.001	0.058	0.000	0.039	0.000
	31	表情	0.129	0.001	0.553	0.160	0.032	0.000	0.013	0.041	0.158	0.057	0.260	0.500	0.017	0.000	0.057	0.000	0.000	0.054	0.183	0.043	0.001
習　慣	32	最近の食習慣	0.061	0.042	0.052	0.000	0.012	0.143	0.002	0.339	0.014	0.132	0.000	0.000	0.063	0.131	0.027	0.040	0.003	0.193	0.034	0.048	0.000
	33	生活習慣（ここ数年）	0.068	0.014	0.006	0.021	0.000	0.427	0.000	0.271	0.000	0.156	0.012	0.000	0.105	0.126	0.081	0.000	0.000	0.140	0.000	0.000	0.000
	34	生活歴（幼少期から）	0.045	0.009	0.000	0.052	0.000	0.385	0.000	0.000	0.017	0.121	0.000	0.065	0.000	0.081	0.000	0.069	0.000	0.033	0.000	0.000	0.000
環　境	35	周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）	0.131	0.441	0.273	0.121	0.000	0.024	0.000	0.019	0.014	0.000	0.107	0.047	0.000	0.123	0.083	0.000	0.000	0.090	0.106	0.000	0.160
	36	席の位置	0.100	0.431	0.091	0.085	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.079	0.190	0.018	0.001	0.070	0.000	0.000	0.000	0.029	0.000	0.204
	37	椅子・机の形	0.001	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	38	椅子・机の高さ	0.011	0.040	0.000	0.025	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.022	0.000	0.000	0.000	0.000	0.120
	39	椅子・机の色	0.001	0.000	0.000	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
人間関係	40	他の入居者との関係	0.139	0.380	0.244	0.346	0.011	0.079	0.142	0.000	0.122	0.000	0.001	0.001	0.000	0.000	0.061	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.226
	41	スタッフとの関係	0.130	0.138	0.000	0.612	0.001	0.071	0.097	0.032	0.294	0.001	0.304	0.218	0.000	0.112	0.087	0.000	0.000	0.109	0.034	0.000	0.000
	42	家族関係	0.048	0.000	0.000	0.181	0.000	0.352	0.071	0.036	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.167	0.000	0.000
介護者の対応	43	スタッフの声かけ内容・見守り方	0.302	0.284	0.219	0.718	0.030	0.109	0.003	0.719	0.997	0.094	0.345	0.305	0.212	0.641	0.172	0.001	0.137	0.085	0.178	0.118	0.269
		（参考）選択された平均項目数 →	3.1	2.6	3.3	3.0	2.6	2.4	2.8	3.2	4.2	2.5	3.4	3.8	2.7	3.7	3.9	2.8	3.0	3.8	3.4	3.6	3.9
		該当事例数 →	（1568）	（238）	（175）	（133）	（114）	（103）	（79）	（77）	（75）	（72）	（70）	（55）	（55）	（50）	（50）	（48）	（42）	（40）	（37）	（28）	（26）

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－４－５－３）潜在クラスモデル評価（食事中断の解決に役立った情報の組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1（クラス数1）	30799.3	30574.3	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2（クラス数2）	30268.2	29812.8	0.111	0.761	0.632	0.681
モデル3（クラス数3）	30204.8	29519.0	0.159	0.702	0.636	0.653
モデル4（クラス数4）	30247.9	29331.8	0.152	0.709	0.670	0.665
モデル5（クラス数5）	30334.8	29188.2	0.186	0.683	0.661	0.645
モデル6（クラス数6）	30445.4	29068.5	0.212	0.692	0.665	0.626
モデル7（クラス数7）	30627.3	29020.1	0.218	0.709	0.677	0.633
モデル8（クラス数8）	30804.8	28967.2	0.222	0.698	0.686	0.635
モデル9（クラス数9）	31015.7	28947.7	0.243	0.707	0.685	0.619
モデル 10（クラス数 10）	31228.5	28930.1	0.245	0.715	0.691	0.618
モデル 11（クラス数 11）	31425.8	28897.1	0.229	0.731	0.717	0.643
モデル 12（クラス数 12）	31670.1	28911.0	0.241	0.704	0.713	0.630
モデル 13（クラス数 13）	31910.7	28921.1	0.233	0.720	0.727	0.643
モデル 14（クラス数 14）	32126.6	28906.7	0.232	0.730	0.735	0.647
モデル 15（クラス数 15）	32392.6	28942.4	0.239	0.723	0.730	0.638
モデル 16（クラス数 16）	32691.7	29011.1	0.255	0.714	0.727	0.620
モデル 17（クラス数 17）	32895.0	28984.0	0.237	0.717	0.746	0.645
モデル 18（クラス数 18）	33146.4	29005.0	0.233	0.736	0.752	0.649
モデル 19（クラス数 19）	33441.8	29070.0	0.239	0.727	0.757	0.649
モデル 20（クラス数 20）	33682.8	29080.6	0.217	0.744	0.770	0.668
モデル 21（クラス数 21）	33966.8	29134.3	0.254	0.722	0.753	0.633
モデル 22（クラス数 22）	34220.4	29157.5	0.225	0.741	0.786	0.670
モデル 23（クラス数 23）	34455.8	29162.5	0.236	0.739	0.772	0.654

（表２－４－５－４）食事中断の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

【比率】（縦100）

区分	code	解決方法	合計	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17	パターン18	パターン19	パターン20
				情報の組み合わせパターン																			
				「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」、「席の位置」、「他の入居者との関係」、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均2.6項目の組み合わせ	「表情」を主として、「食中の様子」、「気分」、「本人の気持ち、意志」、「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」などで構成された平均3.3項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を主として、「他の入居者との関係」、「食事中の会話」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	「咀嚼力」を主として、「嚥下状態・誤嚥」と「口腔状況」を加えた"口腔機能"にウェイトを置き、「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」などで構成された平均2.6項目の組み合わせ	「生活習慣（ここ数年）」や「生活歴（幼少期から）」の"習慣"にウェイトを置き、「家族関係」、「本人の気持ち、意志」、「食の嗜好・興味・意欲」などで構成された平均2.4項目と最少の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」も多く、「心配ごと・不満状況」を加えた"心理面"にウェイトを置いて構成された平均2.8項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」を主として、「気分」、「本人の気持ち、意志」、「最近の食習慣」、「生活習慣（ここ数年）」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「心配ごと・不満状況」、「食中の様子」、「スタッフとの関係」などで主として構成された平均4.2項目と最多の組み合わせ	「食の嗜好・興味・意欲・意欲」を共通ベースとして、「気分」他に分散して構成された平均2.5項目の組み合わせ	「食事中の会話」を主として、「表情」、「気分」、「食の嗜好・興味・意欲」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.4項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」と「表情」を主として、「食の嗜好・興味・意欲」、「満腹感、空腹感」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	「排泄状況」を共通ベースとして、「水分状態」、「気分」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「認知症の症状」、「気分」の3項目を主として、「嚥下状態・誤嚥」他で構成された平均3.7項目の組み合わせ	「体調」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」も多く、「気分」、「睡眠時間・状況」、「認知機能」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	「食器の配置」と「盛付」を主として、「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」を含めた"食事関係"、「認知機能」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	「最近の食事量」、「当日の食事量・おやつ量」、「満腹感、空腹感」、「盛付」、「食の嗜好・興味・意欲」、「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」などにウェイトを置いて構成された平均3.0項目の組み合わせ	「食材の質（形・固さ・味・匂い・温度）」を主として、「食の嗜好・興味・意欲」、「盛付」、「咀嚼力」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	「認知症の症状」、「認知症の種類」、「認知機能」といった"認知機能"にウェイトを置き、「体調」、「現病・既往歴」などで構成された平均3.4項目の組み合わせ	「運動量」、「体調」、「水分状態」、「排泄状況」などの"健康面"にウェイトを置いて、「満腹感、空腹感」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	「目線」と「認知機能」を主として、「姿勢」、「本人の気持ち、意志」、「視力・視覚機能」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ
延べ方法件数 →			1,568	238	175	133	114	104	79	77	75	71	70	55	55	50	50	47	42	40	37	28	26
声かけの工夫	101	急かさず、声かけの繰り返し	4.8	2.0	6.4	2.2	0.3	1.4	6.4	6.6	11.9	5.0	6.6	3.9	3.5	7.8	14.2	0.9	0.3	2.9	14.3	4.0	14.1
	102	本人の気持ちの確認、質問	2.0	2.3	1.9	1.4	0.0	1.6	2.2	0.3	7.3	0.0	4.2	0.5	8.6	3.7	0.3	0.1	0.1	0.2	2.8	0.1	0.0
	103	ペースを尊重し、食事の促し	10.0	6.2	7.0	8.9	1.0	6.4	11.5	25.6	21.8	5.6	14.4	20.4	3.0	17.3	16.6	5.8	6.5	22.3	12.6	1.7	5.6
	104	好きな話題を提供	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.2	0.4	1.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	106	仲の良い利用者からの誘い	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	107	その他	0.2	0.0	0.0	0.6	0.0	0.2	0.1	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	3.5	0.0
誘導の工夫	201	促さず、見守る	8.2	4.5	11.6	3.3	1.8	5.1	10.4	13.5	11.7	7.1	10.8	10.5	0.0	16.3	24.8	2.7	18.3	5.3	11.0	7.8	5.2
	202	食事の認識を促す	5.6	1.9	6.1	3.8	0.7	3.3	2.2	9.0	4.1	19.1	12.0	8.3	1.3	7.4	1.3	15.2	6.0	8.4	6.5	4.0	12.3
	203	家族の名前を出して誘導する	2.3	0.8	0.7	6.5	0.3	11.1	5.4	0.5	0.4	1.5	0.7	1.9	0.1	0.1	3.6	0.1	0.1	0.1	5.5	2.3	0.0
	205	外食に誘う	0.7	0.2	0.1	0.9	0.0	4.3	0.5	0.5	0.0	1.9	1.5	0.3	0.0	0.1	2.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0
	206	食事を一端止め、待つ	5.0	5.0	7.4	3.0	1.2	2.2	9.2	5.4	15.4	2.6	2.7	11.5	5.3	3.7	4.4	2.2	4.7	2.9	2.4	0.3	0.7
	207	食事準備に参加してもらう	1.2	0.4	1.6	1.3	0.1	4.3	2.2	2.3	0.5	2.9	1.3	1.3	0.0	0.2	0.2	0.1	0.2	0.3	0.2	2.7	0.0
	208	嗅覚を刺激する	0.6	0.6	0.6	0.7	0.9	1.1	0.0	0.3	0.1	0.2	0.2	2.2	0.0	0.5	1.6	0.2	2.3	1.0	0.2	0.0	0.0
メンバー調整	301	仲の良い人と食べる	4.7	13.1	8.1	8.0	0.1	1.0	7.6	0.2	3.3	0.2	3.9	1.3	0.0	0.3	2.1	1.9	1.0	0.7	3.0	0.0	2.4
	302	ペースが一緒の利用者と	2.0	3.4	5.6	1.6	0.1	1.4	1.6	0.4	0.6	0.0	0.7	3.4	0.0	0.1	0.4	0.3	0.1	0.0	7.0	0.1	11.0
	303	職員と一緒に	6.6	9.2	3.5	26.4	0.4	2.0	6.5	4.0	8.3	1.5	13.7	4.5	0.0	11.6	0.3	2.0	5.2	0.5	0.8	0.1	4.2
	305	他者と離れて、一人で	2.1	5.7	4.6	3.5	0.0	0.6	4.8	1.2	0.6	0.0	0.7	0.1	0.0	0.1	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1
食事の工夫	401	食器の大きさを変えた	2.4	0.0	1.7	0.1	4.5	0.5	1.1	4.2	1.1	1.1	0.5	3.2	0.0	0.1	0.6	16.2	21.7	5.5	1.4	1.3	0.1
	402	好みのものにする	3.6	0.4	0.8	1.3	1.1	13.8	1.4	4.1	1.3	19.1	2.3	7.5	0.0	4.1	1.7	4.1	9.7	7.2	2.2	0.2	0.1
	403	食物の形態を変更	7.1	0.7	1.0	0.0	67.3	0.5	0.1	2.5	0.1	3.4	0.2	2.3	0.0	8.7	0.4	7.4	5.0	32.4	2.2	0.3	4.2
	405	おやつ、間食	0.8	0.1	1.4	0.0	0.4	0.3	1.3	0.2	0.0	2.2	0.3	0.1	1.7	0.0	2.2	0.3	8.8	0.4	0.4	0.1	0.8
	406	高カロリー食で量を増やす	0.6	0.0	0.3	0.2	0.8	0.2	0.4	0.1	0.0	4.6	0.1	0.1	1.4	0.0	0.6	0.1	1.5	0.4	2.8	1.0	0.0
	407	食器を毎日変える	0.2	0.3	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
	408	食器の柄や色を変える	0.8	0.2	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.5	0.0	2.3	0.1	0.3	0.0	1.7	0.0	8.6	0.7	0.2	2.9	0.0	5.0
	409	食器の形や材質変更	1.0	0.0	0.0	0.0	1.4	1.3	0.0	0.7	0.7	3.7	0.4	0.2	0.0	0.2	0.0	14.0	0.4	2.0	0.0	0.0	0.8
	410	過去の食事スタイル	0.9	0.3	0.1	0.2	0.1	4.3	0.0	0.6	0.0	5.8	0.1	3.6	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	1.0	2.8	0.0	0.0
	411	食事の盛り方の工夫	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	2.6	4.6	2.6	0.0	0.0	0.0
	412	食品数の調整	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
	413	食品の配置の工夫	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	1.2	0.0	0.9
	414	その他	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	2.0	1.8	0.2	0.7	0.0	0.0	0.8
食事環境調整	501	好きな場所で	6.9	21.8	9.8	10.6	0.1	5.1	7.5	2.4	1.6	0.0	3.2	5.3	0.0	4.1	2.6	2.2	0.2	0.7	0.4	0.1	1.6
	502	食べる場所を選択できるようにする	0.6	0.1	1.4	1.2	0.0	0.7	0.7	0.5	0.7	1.2	0.8	0.6	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	1.9
	504	スタッフの通る場所をさける	1.8	4.2	3.9	2.9	0.0	0.4	3.0	0.5	0.1	0.0	4.1	0.6	0.0	0.9	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	1.0
	506	花柄のカーテンなど飾る	0.1	0.5	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
	507	テーブルに花を置く	0.8	2.3	2.5	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	3.0	0.3	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.6
	509	静かな環境で	4.5	10.8	8.6	4.5	0.3	2.9	5.0	0.7	0.3	1.3	6.6	0.5	0.0	3.6	4.2	0.6	0.3	0.4	4.3	0.1	12.6
	510	周囲に物を置かず、集中できるようにする	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	2.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
	511	姿勢を整える	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9
	512	イス、テーブルの高さ調整	0.2	0.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0
	513	好きな音楽をかける	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	601	義歯の調整	1.7	0.0	0.0	0.1	15.3	2.9	1.1	2.7	0.2	0.0	0.1	0.7	0.0	2.1	0.1	0.0	0.0	0.6	1.2	0.1	0.0
	602	食事に関する思い出を家族から聞く	2.4	0.2	0.1	4.6	0.1	17.3	2.6	1.5	1.8	4.9	0.6	0.3	0.0	2.0	0.1	0.3	0.1	0.2	5.1	0.0	0.9
	603	食事前の活動を促す	2.3	1.0	0.8	0.5	0.1	0.1	1.0	6.1	2.3	0.0	0.4	2.4	1.5	0.3	7.2	0.0	1.1	0.0	5.0	55.1	0.0
	604	食事前にトイレへ誘導	3.8	0.8	1.0	1.3	0.1	1.1	2.3	2.0	2.3	0.0	1.8	1.4	73.4	1.2	2.1	0.0	0.1	0.1	0.3	11.0	0.0
	605	ほぼマッサージ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0
	606	食事介助	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	1.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2
	607	生活のリズム調整	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	608	排泄の調整	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－４－６－１）絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	本人任せで放っておく	強制的な声かけ	しかったり、怒り口調で声かけ	会話の内容を否定する	強引に口に入れる	その他
実数	235	163	207	217	207	210	22
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	69.4	88.1	92.3	88.1	89.4	9.4

４．清拭拒否への成功事例調査

１）回答者属性

本調査の回答 260 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

（１）年齢

有効回答 251 件における回答者の平均年齢は、44.2 歳（SD12.3 歳）で最少年齢が 21 歳、最高年齢が 76 歳であった。その分布をみると、50 歳から 59 歳のウェイトがやや高い。（表２－５－１－１参照）

（２）性別割合

有効回答 258 件中、回答者の性別割合は男性が 43 件（16.7%）、女性が 215 件（83.3%）と女性の割合が多かった。（表２－５－１－２参照）

（３）職名の割合

有効回答 245 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 97 件（39.6%）、ケアマネージャーが 76 件（31.0%）、看護師が 22 件（9.0%）、相談員が 7 件（2.9%）となっている。（表２－５－１－３参照）

（４）役職の割合

有効回答 248 件中、回答者の役職の割合は管理者が 82 件（33.1%）、主任・リーダーが 68 件（27.4%）、施設長が 21 件（8.5%）、理事長が 1 件（0.4%）で、76 件（30.6%）が役職なしであった。（表２－５－１－４参照）

（５）資格の所有割合

有効回答 253 件中、回答者の資格の所有割合は介護福祉士が 162 件（64.0%）、ヘルパーが 102 件（40.3%）、ケアマネージャーが 96 件（37.9%）、看護師（准看護師）が 30 件（11.9%）、社会福祉士が 8 件（3.2%）であった。（表２－５－１－５参照）

（６）所属事業種の割合

有効回答 256 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 244 件（95.3%）、介護老人福祉施設（ユニット型）と小規模多機能型通所介護事業が各 4 件（1.6%）、介護老人福祉施設が 2 件（0.8%）、であった。（表２－５－１－６参照）

（７）所属事業所での勤続年数

有効回答 258 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.5 年（SD3.3 年）で最少が 0.1 年、最高が 24.3 年であった。（表２－５－１－７参照）

（８）総介護経験年数

有効回答 246 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、9.2 年（SD6.0 年）で最少が 0.0 年、最高が 40.1 年であった。（表２－５－１－８参照）

２）清拭拒否の解決経験

本調査に回答を得た 260 件における清拭拒否の解決経験、解決した高齢者に関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とＡＤＬ、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

（１）解決経験の有無

有効回答 250 件中、清拭拒否で解決経験があるのは 217 件（86.8%）であった。（表２－５－２－１参照）

（２）高齢者の状態

①　年齢

解決経験がある 217 件のうち有効回答 203 件における高齢者の平均年齢は、84.8 歳（SD6.0 歳）で最少年齢が 62 歳、最高年齢が 105 歳であった。その分布をみると、85 歳～89 歳が 75 件（36.9%）で最も多い。（表２－５－２－２参照）

②　性別

性別割合は、有効回答 214 件中、男性が 36 件（16.8%）、女性が 178 件（83.2%）と女性が多い。（表２－５－２－３参照）

③　認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 203 件中、アルツハイマー型が 111 件（54.7%）、脳血管疾患型が 55 件（27.1%）、前頭側頭型が 1 件（0.5%）、混合が 17 件（8.4%）であった。（表２－５－２－４参照）

④　身体機能の障害とＡＤＬ

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 217 件中、下肢が 51 件（23.5%）、体幹が 9 件（4.1%）、首と上肢が各 2 件（0.9%）であり、残りの 153 件（70.5%）が機能障害なし（＝無回答）であった。（表２－５－２－５参照）

【食事介助】

食事介助は、有効回答 203 件中、自立が 156 件（76.8%）、一部介助が 41 件（20.2%）、全介助が 6 件（3.0%）であった。（表２－５－２－６参照）

【移動】

移動は、有効回答 176 件中、短距離歩行自立が 103 件（58.5%）、長距離歩行自立が 43 件（24.4%）、杖自立が 25 件（14.2%）であった。（表２－５－２－７参照）

【排泄】

排泄は、有効回答 192 件中、身体介助必要が 96 件（50.0%）、身体介助必要なしが 96 件（50.0%）と半々であった。（表２－５－２－８参照）

【入浴】

入浴は、有効回答 206 件中、全介助が 39 件（18.9%）、洗身洗髪介助が 80 件（38.8%）、移動介助が 17 件（8.3%）、その他一部介助が 59 件（28.6%）で、

自立が 11 件（5.3%）であった。（表２－５－２－９参照）

⑤　認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 214 件中、ランクⅠが 11 件（5.1%）、ランクⅡが 67 件（31.3%）、ランクⅢが 74 件（34.6%）、ランクⅣが 49 件（22.9%）、ランクⅤが 13 件（6.1%）であった。（表２－５－２－１０参照）

⑥　身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 206 件中、Ｊランクが 26 件（12.6%）、Ａランクが 145 件（70.4%）、Ｂランクが 32 件（15.5%）、Ｃランクが 3 件（1.5%）であった。（表２－５－２－１１参照）

⑦　高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、入浴介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析（注 1）を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、入浴介助で洗身洗髪介助（42.3%）とその他一部介助（38.2%）が多く、身体障害の重症度でＡランク（84.0%）が多く、認知症の重症度でランクⅡ（44.3%）とランクⅢ（38.2%）の中程度が多いことから、これを「一部介助、中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 195 件のうち 127 件（71.8%）が該当する。

第 2 パターンは、入浴介助で全介助（61.0%）が多く、身体障害の重症度でＢランク（49.9%）とＡランク（36.3%）が多く、認知症の重症度でランクⅣ（54.5%）とランクⅢ（36.9%）が多いことから、これを「全介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 50 件（28.2%）が該当する。（表２－５－２－１２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－５－２－１３参照）

（注 1）潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、入浴介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団（これをクラスと呼ぶ）を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル（クラス数）を評価する指標としてＡＩＣやＢＩＣなどの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である（注 2 参照）。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

3）解決前と解決後の変化

清拭拒否で解決経験がある 239 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出するとともに、解決前後の関連を分析し、高齢者パターンによる差異も確認した。

（1）解決前の状況

清拭拒否が解決される前の状況としては、有効回答 216 件中、「色々な理由をつけて拒否していた」が 108 件（50.0%）と際立って多く、「頑固に拒否していた」が 62 件（28.7%）、「入浴・清拭という言葉を聞くだけで拒否していた」が 52 件（24.1%）、「暴言、暴力を伴いながら拒否していた」が 51 件（23.6%）、「入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた」が 15 件（6.9%）であった。（表２－５－３－１参照）

（2）解決後の状況

清拭拒否が解決された後の状況としては、有効回答 217 件中、「拒否の回数が減り、応じる回数が増えた」が 124 件（57.1%）と際立って多く、「徐々に清拭の声かけを受入れるようになった」が 48 件（22.1%）、「入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った」が 36 件（16.6%）、「清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった」が 21 件（9.7%）、「拒否することが全くなくなった」が 8 件（3.7%）であった。（表２－５－３－２参照）

（3）解決前後の関連

解決前後それぞれの項目重複による影響排除のために、パターン化を経て分析することにした。

① 解決前のパターン

パターン化に用いた方法は潜在クラス分析である。

解決前は 6 パターンであり、第 1 は、「色々な理由をつけて拒否していた」（99.9%）だけにほぼ集中している。これに該当する事例が 65 件（39.9%）であり、“色々な理由をつけて拒否していた”パターンと表示する。

第 2 は、「頑固に拒否していた」（99.4%）に加えて、「色々な理由をつけて拒否していた」（10.5%）や「暴言、暴力を伴いながら拒否していた」（10.2%）を若干伴っている。これに該当する事例が 26 件（16.0%）であり、“頑固に拒否していた”パターンと表示する。

第 3 は、「暴言、暴力を伴いながら拒否していた」（99.4%）に加えて、「色々な理由をつけて拒否していた」（7.0%）や「頑固に拒否していた」（6.8%）を若干伴っている。これに該当する事例が 25 件（15.3%）であり、“暴言、暴力を伴いながら拒否していた”パターンと表示する。

第 4 は、「入浴・清拭という言葉を聞くだけで拒否していた」（99.4%）に加えて、「頑固に拒否していた」（5.6%）や「色々な理由をつけて拒否していた」（5.1%）を若干伴っている。これに該当する事例が 24 件（14.7%）であり、“入

浴・清拭という言葉を聞くだけで拒否していた”パターンと表示する。

第5は、「頑固に拒否していた」(98.4%)に加えて、「入浴・清拭という言葉を聞くだけで拒否していた」(74.0%)、「色々な理由をつけて拒否していた」(72.0%)、「暴言、暴力を伴いながら拒否していた」(50.8%)、「入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた」(27.8%)など多くの状況を伴っている。これに該当する事例が17件(10.4%)であり、“複合的清拭拒否”パターンと表示する。

第6は、「入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた」(96.1%)に加えて、「色々な理由をつけて拒否していた」(33.5%)を伴っている。これに該当する事例が6件(3.7%)であり、“入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた”パターンと表示する。(表２－５－３－３参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表２－５－３－４参照)

②　解決後のパターン

解決後は5パターンであり、第1は、「拒否の回数が減り、応じる回数が増えた」(99.9%)だけにほぼ集中している。これに該当する事例が87件(53.4%)であり、“拒否の回数が減り、応じる回数が増えた”パターンと表示する。

第2は、「徐々に清拭の声かけを受入れるようになった」(99.4%)にほぼ集中している。これに該当する事例が31件(19.0%)であり、“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”パターンと表示する。

第3は、「入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った」(99.1%)に加えて、「拒否の回数が減り、応じる回数が増えた」(12.7%)や「徐々に清拭の声かけを受入れるようになった」(8.1%)を若干伴っている。これに該当する事例が23件(14.1%)であり、“入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った”パターンと表示する。

第4は、「清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった」(94.3%)に加えて、「拒否の回数が減り、応じる回数が増えた」(56.7%)、「入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った」(22.6%)、「徐々に清拭の声かけを受入れるようになった」(22.4%)など比較的多様な状況を伴っている。これに該当する事例が14件(8.6%)であり、“清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった”パターンと表示する。

第5は、「拒否することが全くなくなった」(96.9%)に加えて、「拒否の回数が減り、応じる回数が増えた」(14.0%)や「徐々に清拭の声かけを受入れるようになった」(13.0%)を若干伴っている。これに該当する事例が8件(4.9%)であり、“拒否することが全くなくなった”パターンと表示する。(表２－５－３－５参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表２－５－３－６参照)

③　解決前後のパターンの関連

各パターンへの帰属確率の相関によって解決前後の関連分析をした。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では3つの変化傾向がみられる。1つめは、解決前パターン5（複合的清拭拒否）から、解決後パターン4（清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった）へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。

2つめは、解決前パターン4（入浴・清拭という言葉を聞くだけで拒否していた）から、解決後パターン3（入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。

3つめは、解決前パターン3（暴言、暴力を伴いながら拒否していた）から、解決後パターン1（拒否の回数が減り、応じる回数が増えた）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。（表２－５－３－７参照）

次に高齢者パターン1（一部介助、中程度重症度）に限定してみると、上記3つの傾向のうち、1つめと2つめの傾向が認められ、3つめの傾向は認められない。（表２－５－３－８参照）

高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）に限定してみるとやや違った傾向がみられる。1つめは、解決前パターン6（入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた）から、解決後パターン4（清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった）へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。

2つめは、解決前パターン4（入浴・清拭という言葉を聞くだけで拒否していた）から、解決後パターン5（拒否することが全くなくなった）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。

3つめは全体の傾向同様に、解決前パターン3（暴言、暴力を伴いながら拒否していた）から、解決後パターン1（拒否の回数が減り、応じる回数が増えた）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。（表２－５－３－９参照）

このように、解決前後の変化は高齢者パターンによってやや異なることがわかる。

（４）高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した（注2）。

解決前の状況は高齢者パターンでやや異なっている。高齢者パターン1（一部介助、中程度重症度）では「色々な理由をつけて拒否していた」が61.0%であるのに対して、高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）のそれは29.9%と2倍の格差がある。また、高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）では「暴言、暴力を伴いながら拒否していた」が37.8%に対して、高齢者パターン1（一部介

助、中程度重症度）のそれは16.9％と2倍以上の格差がある。（表２－５－３－１０参照）

解決後の状況については、高齢者パターンによる差異はみられない。（表２－５－３－１１参照）

（注2）潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス1に対して0.97、クラス2に対して0.03、（全クラスへの帰属確率合計は1.00である）となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

４）清拭拒否の解決方法

清拭拒否で解決経験がある239件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

（１）解決方法の概況

清拭拒否を解決する時に行った解決方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して33分類した。分類結果は、清拭方法の工夫に関するものが6分類、誘導の工夫に関するものが9分類、声かけの工夫に関するものが7分類、清拭環境の調整に関するものが5分類、介助者の工夫に関するものが4分類、その他が2分類であった。

有効回答217件のなかで多くあがったものは、「声かけの態度の工夫」が142件（65.4％）、「信頼関係が出来ている介助者」が115件（53.0％）、「気持ちをくつろがせる」が104件（47.9％）、「お礼やねぎらいを」が96件（44.2％）、「１人で」が88件（40.6％）、「コンプレックスを確認」が80件（36.9％）、「温度調節」が71件（32.7％）、「清潔、血行など効果を説明」が68件（31.3％）、「トイレ時に実施」が65件（30.0％）、「家族からの依頼」が61件（28.1％）、「部分から開始」が55件（25.3％）、「声かけを簡単に」が53件（24.4％）、「薬を塗るため」と「複数のスタッフ」が各52件（24.0％）、「清拭布の温度」が49件（22.6％）、「清拭場所の調整」が46件（21.2％）、「清拭時間を本人のペースで」が44件（20.3％）などであり、1事例あたり平均6.5項目あげられた。（表２－５－４－１参照）

（２）解決方法の組み合わせパターン

33分類のなかから1事例平均6.5の方法で構成された解決方法を実際の組み合わせに高い確率で近似するパターンを得るために潜在クラス分析を応用した（注3）。

その結果14の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 6.4 項目の組み合わせであり、「温度調節」（73.2%）、「信頼関係が出来ている介助者」（69.0%）、「部分から開始」（62.9%）、「お礼やねぎらいを」（58.2%）、「声かけの態度の工夫」（51.3%）の 5 項目を主として、「清拭布の温度」（48.0%）、「コンプレックスを確認」（41.0%）、「薬を塗るため」（36.4%）、「家族からの依頼」（32.3%）、「内科受診のため」（30.4%）、「暖かいタオルを渡し自分で」（26.6%）などで構成されている。第 1 パターンの該当事例は 27 件（12.4%）である。

第 2 パターンは平均 3.9 項目の組み合わせであり、「声かけの態度の工夫」（91.6%）を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」（55.7%）も多く、「清拭時間を本人のペースで」（48.0%）などで構成されている。第 2 パターンに該当する事例は 24 件（11.1%）である。

第 3 パターンは平均 5.0 項目の組み合わせであり、「お礼やねぎらいを」（99.6%）を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」（68.1%）も多く、「気持ちをくつろがせる」（48.3%）、「他者から誘導」（39.0%）、「家族からの依頼」（36.8%）、「清拭場所の調整」（33.7%）、「声かけの態度の工夫」（33.3%）などで構成されている。第 3 パターンに該当する事例は 23 件（10.6%）である。

第 4 パターンは平均 7.8 項目の組み合わせであり、「声かけの態度の工夫」（99.8%）、「信頼関係が出来ている介助者」（94.8%）、「1 人で」（93.0%）、「コンプレックスを確認」（91.9%）の 4 項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」（62.5%）と「トイレ時に実施」（50.8%）も多く、「お礼やねぎらいを」（43.9%）、「清潔、血行など効果を説明」（33.3%）、「薬を塗るため」（32.5%）、「温度調整」（27.2%）などで構成されている。第 4 パターンに該当する事例は 22 件（10.1%）である。

第 5 パターンは平均 5.2 項目の組み合わせであり、「薬を塗るため」（99.4%）を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」（59.5%）も多く、「気持ちをくつろがせる」（47.3%）、「部分から開始」（34.5%）、「信頼関係が出来ている介助者」（41.5%）、「複数のスタッフ」（41.3%）、「声かけを簡単に」（40.3%）、「コンプレックスを確認」（34.4%）などで構成されている。第 5 パターンに該当する事例は 17 件（7.8%）である。

第 6 パターンは平均 4.7 項目の組み合わせであり、「清潔、血行など効果を説明」（99.5%）を共通ベースとして、「トイレ時に実施」（68.9%）も多く、「声かけを簡単に」（42.0%）、「声かけの態度の工夫」（41.0%）、「お礼やねぎらいを」（31.4%）、「信頼関係が出来ている介助者」（45.0%）、「1 人で」（31.7%）などで構成されている。第 6 パターンに該当する事例は 16 件（7.3%）である。

第 7 パターンは平均 11.8 項目と最多の組み合わせであり、「声かけの態度の工夫」（99.8%）、「お礼やねぎらいを」（75.5%）、「1 人で」（99.7%）、「信頼関係が出来ている介助者」（93.0%）、「清潔、血行など効果を説明」（93.4%）、「トイレ

時に実施」(93.1%) の 6 項目を共通ベースとして、「暖かいタオルを渡し自分で」(67.4%)、「清拭時間を本人のペースで」(56.3%)、「部分から開始」(55.9%)、「清拭布の温度」(74.6%)、「温度調節」(67.9%)、「コンプレックスを確認」(50.7%) など全分野にわたって構成されている。第 7 パターンに該当する事例は 16 件 (7.3%) である。

第 8 パターンは平均 5.9 項目の組み合わせであり、「気持ちをくつろがせる」(99.7%) を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」(68.0%)、「お礼やねぎらいを」(51.4%)、「家族からの依頼」(65.9%)、「1 人で」(50.5%) の 4 項目も多く、「複数のスタッフ」(43.8%)、「家族の協力」(42.5%)、「声かけを簡単に」(38.6%)、「他者から誘導」(28.4%)、「温度調節」(26.3%) などで構成されている。第 8 パターンに該当する事例は 16 件 (7.3%) である。

第 9 パターンは平均 3.6 項目と最少の組み合わせであり、「家族からの依頼」(57.1%) を主として、「気持ちをくつろがせる」(44.3%)、「トイレ時に実施」(35.7%)、「家族の協力」(35.7%)、「信頼関係が出来ている介助者」(26.3%)、「内科受診のため」(32.8%)、「声かけを簡単に」(30.1%) などで構成されている。第 9 パターンに該当する事例は 14 件 (6.5%) である。

第 10 パターンは平均 8.4 項目の組み合わせであり、「1 人で」(99.5%)、「複数のスタッフ」(91.6%)、「声かけの態度の工夫」(84.0%)、「トイレ時に実施」(76.3%) の 4 項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」(61.7%)、「清潔、血行など効果を説明」(60.2%)、「お礼やねぎらいを」(53.3%) の 3 項目も多く、「清拭場所の調整」(45.1%)、「清拭布の温度」(37.7%)、「声かけを簡単に」(39.3%)、「薬を塗るため」(38.3%)、「コンプレックスを確認」(38.0%)、「暖かいタオルを渡し自分で」(30.3%) などで構成される。第 10 パターンに該当する事例は 13 件 (6.0%) である。

第 11 パターンは平均 6.8 項目の組み合わせであり、「温度調節」(99.5%)、「声かけの態度の工夫」(91.2%)、「気持ちをくつろがせる」(81.1%) の 3 項目を共通ベースとして、「部分から開始」(44.7%)、「清拭時間を本人のペースで」(34.1%)、「信頼関係が出来ている介助者」(41.9%)、「家族の協力」(33.1%)、「コンプレックスを確認」(34.6%)、「お礼やねぎらいを」(29.1%)、「内科受診のため」(26.0%) などで構成される。第 11 パターンに該当する事例は 12 件 (5.5%) である。

第 12 パターンは平均 9.2 項目の組み合わせであり、「声かけの態度の工夫」(99.7%)、「お礼やねぎらいを」(99.5%)、「声かけを簡単に」(99.3%)、「内科受診のため」(99.1%)、「家族からの依頼」(86.8%) の 5 項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」(74.6%) と「コンプレックスを確認」(63.0%) も多く、「複数のスタッフ」(49.3%)、「信頼関係が出来ている介助者」(38.2%)、「1 人で」(36.9%)、「温度調節」(25.6%)、「清拭場所の調整」(25.2%)、「清拭時間

を本人のペースで」(37.7%)、「清潔、血行など効果を説明」(25.3%)、「他者から誘導」(25.1%) などで構成されている。第 12 パターンに該当する事例は 8 件 (3.7%) である。

第 13 パターンは平均 10.8 項目の組み合わせであり、「信頼関係が出来ている介助者」(99.4%)、「1 人で」(99.3%)、「温度調節」(99.2%)、「清拭布の温度」(99.1%)、「コンプレックスを確認」(99.2%)、「気持ちをくつろがせる」(99.4%) の 6 項目を共通ベースとして、「清拭場所の調整」(66.5%)、「複数のスタッフ」(66.8%)、「声かけの態度の工夫」(66.2%)、「家族からの依頼」(65.7%) の 4 項目も多く、“清拭環境の調整”に高いウェイトを置き、ほぼ全分野にわたって構成されている。第 13 パターンに該当する事例は 6 件 (2.8%) である。

第 14 パターンは平均 6.7 項目の組み合わせであり、「トイレ時に実施」(98.8%)、「清潔、血行など効果を説明」(98.8%)、「声かけを簡単に」(98.7%)、「コンプレックスを確認」(98.1%) の 4 項目を共通ベースとして、「複数のスタッフ」(48.7%)、「清拭場所の調整」(49.5%)、「1 人で」(49.5%)、「温度調節」(25.2%) などで構成されている。第 14 パターンに該当する事例は 4 件 (1.8%) である。(表２－５－４－２参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－５－４－３参照)

(注 3) 組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は (注 1) に示したような局所独立を仮定して異質な部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold” が算出する “Classification Statistics” (分類精度情報) の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。

（３）解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、14 の組み合わせパターンと解決後のパターンの相関を分析した後、参考までに個別状況との関連を確認する。

まず、解決方法の組み合わせ 14 パターンと解決後の 5 パターンの帰属確率による相関分析を行うと、3 通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 7 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 7 は、“「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「1 人で」、「信頼関係が出来ている介助者」、「清潔、血行など効果を説明」、「トイレ時に実施」の 6 項目を共通ベースに、全分野にわたる平均 11.8 項目と最多の組み合わせ” であり、その多様な方法が、解決後パターン 4 の “清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった” を含めて、“拒否の

回数が減り、応じる回数が増えた”などの結果に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 12 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 12 は、“「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「声かけを簡単に」、「内科受診のため」、「家族からの依頼」の 5 項目を共通ベースにした平均 9.2 項目の組み合わせ”であり、これも多様な方法が、解決後パターン 3 の“入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 1 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 1 は、“「温度調節」、「信頼関係が出来ている介助者」、「部分から開始」、「お礼やねぎらいを」、「声かけの態度の工夫」の 5 項目を主とた平均 6.4 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 2 の“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－５－４－４参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても、上記 3 通りの傾向が確認できる。

1 つめの解決方法パターン 7 では、解決後に“清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった”が 29.7%、“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”が 38.5%となっており、解決後パターン 4 の主要項目であるこの 2 つの項目が多くあがっている。

2 つめの解決方法パターン 12 では、解決後に“入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った”が 49.7%であり、解決後パターン 3 の主要項目が多くあがっている。

3 つめの解決方法パターン 1 では、解決後に“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”が 39.7%であり、解決後パターン 2 の主要項目が多くあがっている。(表２－５－４－５参照)

（４）高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン 1(一部介助、中程度重症度)に限定した相関分析を行うと、2 通りの相関が認められる (注 4)。

1 つめは、解決方法パターン 1 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 5%で認められる。これは上記でみた全体的傾向の 3 つめと同様の傾向である。

2 つめは、解決方法パターン 4 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 4 は、“「声かけの態度の工夫」、「信頼関係が出来ている介助者」、「1 人で」、「コンプレックスを確認」の 4 項目を共通ベースとした平均 7.8 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 2 の“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－５－４－６参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこの 2

通りの傾向が確認できる。

解決方法パターン 1、同パターン 4 ともに、解決後に“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”が 42.0%と 41.9%であり、解決後パターン 2 の主要項目が多くあがっている。(表２－５－４－７参照)

また高齢者パターン 2(全介助、中高程度重症度)に限定した相関分析を行うと、4 通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 3 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 3 は、“「お礼やねぎらいを」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「他者から誘導」、「家族からの依頼」、「清拭場所の調整」、「声かけの態度の工夫」などで構成された平均 5.0 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 5 の“拒否することが全くなくなった”に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 10 は、“「1 人で」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「トイレ時に実施」の 4 項目を共通ベースとした平均 8.4 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 2 の“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 12 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 12 は、“「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「声かけを簡単に」、「内科受診のため」、「家族からの依頼」の 5 項目を共通ベースにした平均 9.2 項目の組み合わせ”であり、その多様な方法が、解決後パターン 3 の“入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った”に貢献している傾向が読み取れる。

4 つめは、解決方法パターン 11 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 11 は、“「温度調節」、「声かけの態度の工夫」、「気持ちをくつろがせる」の 3 項目を共通ベースとした平均 6.8 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 4 の“清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－５－４－８参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこの 4 通りの傾向が確認できる。

1 つめの解決方法パターン 3 では、解決後に“拒否することが全くなくなった”が 28.7%となっており、解決後パターン 5 の主要項目が多くあがっている。

2 つめの解決方法パターン 10 では、解決後に“徐々に清拭の声かけを受入れるようになった”が 98.6%であり、解決後パターン 2 の主要項目が独占している。

3 つめの解決方法パターン 12 では、解決後に“入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った”が 98.6%であり、解決後パターン 3 の主要項目が独占し

ている。

4つめの解決方法パターン11では、解決後に“清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった”が49.9%、“拒否の回数が減り、応じる回数が増えた”が100.0%であり、解決後パターン4の主要項目が多くあがっている。(表２－５－４－９参照)

(注4) 高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン1と2を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義（＝クラスター化）した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

5）清拭拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ1,267件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

（1）役立った情報の概況

有効回答1,267件のなかで多くあがったものは、「本人の気持ち、意志」が584件（46.1%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が446件（35.2%)、「スタッフとの関係」が383件（30.2%)、「気分」が372件（29.4%)、「性格」が193件（15.2%)、「興味・意欲」が136件（10.7%）などであり、ひとつの解決方法当たり平均2.7項目あげられた。(表２－５－５－１参照)

（2）役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果18の組み合わせパターンを得た。

第1パターンは平均2.3項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」（99.8%）を共通ベースとして、「気分」(29.6%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(29.0%)、「スタッフとの関係」(25.2%）などで構成されている。第1パターンの該当方法は延べ226件（17.8%）である。

第2パターンは平均2.0項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」(65.0%)と「スタッフの声かけ内容・見守り方」(64.5%）を主として、「気分」(19.4%)などで構成されている。第2パターンの該当方法は延べ179件（14.1%）である。

第3パターンは平均2.2項目の組み合わせであり、「気分」(62.0%）を主とし

て、「清拭タオルの温度」(27.8%)、「本人の気持ち、意志」(21.0%) などで構成されている。第 3 パターンの該当方法は延べ 137 件 (10.8%) である。

第 4 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「性格」(99.2%) を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(39.5%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(31.5%)、「本人の気持ち、意志」(30.1%) などで構成されている。第 4 パターンの該当方法は延べ 95 件 (7.5%) である。

第 5 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「清潔度」(51.6%)、「皮膚疾患」(47.8%)、「失禁有無」(34.0%)、「排泄状況」(29.9%) など“健康面”にウェイトを置いて構成されている。第 5 パターンの該当方法は延べ 87 件 (6.9%) である。

第 6 パターンは平均 4.2 項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」(99.7%)、「本人の気持ち、意志」(86.1%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(84.6%) の３項目を共通ベースとして、「気分」(47.6%) などで構成されている。第 6 パターンの該当方法は延べ 86 件 (6.8%) である。

第 7 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「興味・関心」(83.7%) を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(66.2%) や「気分」(52.3%) の“心理面”にウェイトを置いて構成されている。第 7 パターンの該当方法は延べ 75 件 (5.9%) である。

第 8 パターンは平均 2.6 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(50.8%)、「清潔度」(48.2%)、「清拭時間帯」(42.5%)、「入浴習慣(自宅)」(23.6%) などで構成されている。第 8 パターンの該当方法は延べ 72 件 (5.7%) である。

第 9 パターンは平均 1.6 項目と最少の組み合わせであり、「家族関係」(41.3%)、「入浴習慣 (自宅)」(26.3%)、「浴室環境 (自宅)」(21.8%) などで構成されている。第 9 パターンの該当方法は延べ 61 件 (4.8%) である。

第 10 パターンは平均 3.0 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(34.0%)、「介護者の性別」(32.7%)、「下着の状態」(31.9%)、「気分」(30.9%)、「失禁有無」(22.3%)、「清拭時間帯」(21.5%) などで構成されている。第 10 パターンの該当方法は延べ 51 件 (4.0%) である。

第 11 パターンは平均 3.5 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(99.8%) を共通ベースとして、「気分」(48.1%)、「生活歴(幼少期から)」(40.0%)、「言語理解」(22.2%) などで構成されている。第 11 パターンの該当方法は延べ 47 件 (3.7%) である。

第 12 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「他の入居者との関係」(99.0%) を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(37.2%)、「本人の気持ち、意志」(30.7%)、「性格」(28.7%) などで構成されている。第 12 パターンの該当方法は延べ 43 件 (3.4%) である。

第 13 パターンは平均 4.2 項目の組み合わせであり、「性格」(99.6%) と「スタ

ッフの声かけ内容・見守り方」（89.7%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」（75.0%）、「気分」（43.6%）、「清拭時間帯」（33.9%）などで構成されている。第13パターンの該当方法は延べ29件（2.3%）である。

第14パターンは平均3.8項目の組み合わせであり、「過去の入浴体験」（99.3%）を共通ベースとして、「生活歴（幼少期から）」（49.2%）、「入浴習慣（自宅）」（31.7%）、「本人の気持ち、意志」（34.2%）、「認知機能」（23.9%）、「家族関係」（20.1%）などで構成されている。第14パターンの該当方法は延べ20件（1.6%）である。

第15パターンは平均4.7項目と最多の組み合わせであり、「気分」と「本人の気持ち、意志」（各99.7%）と「スタッフの声かけ内容・見守り方」（93.2%）の3項目を共通ベースとして、「介護者の性別」（73.9%）と「興味・関心」（68.2%）も多く、「言語理解」（29.1%）などで構成されている。第15パターンの該当方法は延べ19件（1.5%）である。

第16パターンは平均4.0項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（82.8%）を共通ベースとして、「スタッフとの関係」（70.3%）も多く、「排泄状況」（28.0%）、「着脱能力」（26.3%）などで構成されている。第16パターンの該当方法は延べ18件（1.4%）である。

第17パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「妄想の有無」（98.9%）を共通ベースとして、「現病・既往歴」（34.3%）、「性格」（34.4%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（32.4%）、「スタッフとの関係」（25.6%）、「本人の気持ち、意志」（27.7%）などで構成されている。第17パターンの該当方法は延べ15件（1.2%）である。

第18パターンは平均3.9項目の組み合わせであり、「興味・関心」（99.2%）を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（57.7%）、「性別」（51.8%）、「趣味」（51.7%）の3項目も多く、「介護者の性別」（38.3%）、「他の入居者との関係」と「認知機能」（各25.9%）などで構成されている。第18パターンの該当方法は延べ8件（0.6%）である。（表２－５－５－２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－５－５－３参照）

（３）情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第5パターン（「清潔度」、「皮膚疾患」、「失禁有無」、「排泄状況」など“健康面”にウェイトを置いて構成された平均2.7項目の組み合わせ）は、「清潔、血行など効果を説明」が22.9%、「薬を塗るため」が20.5%、「トイレ時に実施」が21.6%と多い。

第12パターン（「他の入居者との関係」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「本人の気持ち、意志」、「性格」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ）は、「１人で」が27.1%、「他者から誘導」が22.0%と多い。

第18パターン（「興味・関心」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・

見守り方」、「性別」、「趣味」の 3 項目も多く、「介護者の性別」、「他の入居者との関係」、「認知機能」などで構成された平均 3.9 項目の組み合わせ）は、「声かけを簡単に」が 27.8％と多い。

第 9 パターン（「家族関係」、「入浴習慣（自宅）」、「浴室環境（自宅）」などで構成された平均 1.6 項目と最少の組み合わせ）は、「家族からの依頼」が 22.9％、「家族の協力」が 16.5％と多い。

第 2 パターン（「スタッフとの関係」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を主として、「気分」などで構成された平均 2.0 項目の組み合わせ）は、「声かけの態度の工夫」が 22.4％、「信頼関係が出来ている介助者」が 17.0％と多い。

第 4 パターン（「性格」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 2.7 項目の組み合わせ）は、「信頼関係が出来ている介助者」が 20.7％、「声かけの態度の工夫」が 15.5％、「お礼やねぎらいを」が 15.4％と多い。

第 6 パターン（「スタッフとの関係」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」の 3 項目を共通ベースとして、「気分」などで構成された平均 4.2 項目の組み合わせ）は、「声かけの態度の工夫」が 19.4％、「信頼関係が出来ている介助者」が 17.8％と多い。

第 10 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「介護者の性別」、「下着の状態」、「気分」、「失禁有無」、「清拭時間帯」などで構成された平均 3.0 項目の組み合わせ）は、「清潔、血行など効果を説明」が 17.0％、「コンプレックスを確認」が 15.9％と多い。

第 15 パターン（「気分」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」の 3 項目を共通ベースとして、「介護者の性別」と「興味・関心」も多く、「言語理解」などで構成された平均 4.7 項目と最多の組み合わせ）は、「気持ちをくつろがせる」が 17.0％、「声かけの態度の工夫」が 16.7％と多い。

第 11 パターン（「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」、「生活歴（幼少期から）」、「言語理解」などで構成された平均 3.5 項目の組み合わせ）は、「気持ちをくつろがせる」が 17.8％と多い。

第 13 パターン（「性格」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「清拭時間帯」などで構成された平均 4.2 項目の組み合わせ）は、「声かけの態度の工夫」が 19.7％と多い。

第 16 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」も多く、「排泄状況」、「着脱能力」などで構成された平均 4.0 項目の組み合わせ）は、「信頼関係が出来ている介助者」が 17.4％と多い。（表２－５－５－４参照）

６）絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答238件中、「無理矢理裸にして拭く」が222件(93.3%)、「強引な誘いや命令・指示的な声かけをする」が215件(90.3%)、「放っておいて全く関わらない」が214件（89.9%)、「本人の気分を無視して行う」が208件(87.4%)、「汚い、臭いから拭きましょうと声をかける」が182件(76.5%)、「だますような声かけをする」が113件（47.5%）となっている。(表２－５－６－１参照)

（表２－５－１－１）回答者の年齢

	有効回答数	24 歳以下	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60 歳以上
実数	251	10	19	41	27	24	30	35	45	20
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	4.0	7.6	16.3	10.8	9.6	12.0	13.9	17.9	8.0

（平均年齢等）

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
251	44.2	12.3	21	76

（表２－５－１－２）回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	258	43	215
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	16.7	83.3

（表２－５－１－３）回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネージャー	看護師	その他
実数	245	97	7	76	22	63
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	39.6	2.9	31.0	9.0	25.7

（表２－５－１－４）回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	248	21	82	68	0	1	76
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	8.5	33.1	27.4	0.0	0.4	30.6

（表２－５－１－５）回答者の所有資格

	有効回答数	看護師（准看護師）	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネージャー	ヘルパー	その他
実数	253	30	162	8	96	102	21
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	11.9	64.0	3.2	37.9	40.3	8.3

（表２－５－１－６）回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設（ユニット型）	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	256	2	4	244	4	8
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.8	1.6	95.3	1.6	3.1

（表２－５－１－７）回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
258	4.5	3.3	0.1	24.3

（表２－５－１－８）回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
246	9.2	6.0	0.0	40.1

（表２－５－２－１）清拭拒否の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	250	217	33
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	86.8	13.2

（表２－５－２－２）高齢者の年齢

	解決経験のある 有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	203	10	24	50	75	44
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	4.9	11.8	24.6	36.9	21.7

（平均年齢等）

解決経験のある 有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
203	84.8	6.0	62	105

（表２－５－２－３）高齢者の性別割合

	解決経験のある 有効回答数	男	女
実数	214	36	178
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	16.8	83.2

（表２－５－２－４）認知症の原因疾患

	解決経験のある 有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	203	111	55	1	17	19
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	54.7	27.1	0.5	8.4	9.4

（表２－５－２－５）機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答 (=なし)
実数	217	2	2	51	9	153
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.9	0.9	23.5	4.1	70.5

（表２－５－２－６）食事介助

	解決経験のある 有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	203	6	41	156
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	3.0	20.2	76.8

（表２－５－２－７）移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他（回答者追記）
実数	176	25	103	43	5
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	14.2	58.5	24.4	2.8

（表２－５－２－８）排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし
実数	192	96	96
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	50.0	50.0

（表２－５－２－９）入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	206	39	17	80	59	11
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	18.9	8.3	38.8	28.6	5.3

（表２－５－２－１０）認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	Ⅰ 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	Ⅱ 日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	Ⅲ ランクⅡの症状がときどき見られ、介護を必要とする（徘徊、失禁など）	Ⅳ ランクⅡの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	Ⅴ 著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	214	11	67	74	49	13
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	5.1	31.3	34.6	22.9	6.1

（表２－５－２－１１）身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J 何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	A 屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	B 屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベット上での生活主体で座位を保つ	C 一日中ベットで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	206	26	145	32	3
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	12.6	70.4	15.5	1.5

（表２－５－２－１２）清拭拒否高齢者のパターン
（潜在クラス２クラスモデルのプロフィール）

(n=177)

項目	カテゴリー	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 全介助、中高程度重症度
	サイズ	1.000	0.720	0.280
性別	男	0.164	0.195	0.084
	女	0.836	0.805	0.916
入浴介助	全介助	0.181	0.014	0.610
	移動介助	0.090	0.119	0.017
	洗身洗髪介助	0.407	0.423	0.366
	その他一部介助	0.277	0.382	0.007
	自立	0.045	0.063	0.001
認知症の重症度	Ⅰ	0.023	0.031	0.000
	Ⅱ	0.322	0.443	0.012
	Ⅲ	0.379	0.382	0.369
	Ⅳ	0.243	0.125	0.545
	Ⅴ	0.034	0.019	0.074
身体障害の重症度	J	0.119	0.127	0.098
	A	0.706	0.840	0.363
	B	0.164	0.034	0.499
	C	0.011	0.000	0.040
	（参考）該当事例数 →	(177)	(127)	(50)

（表２－５－２－１３）潜在クラスモデル評価（清拭拒否高齢者パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	1462.6	1424.5
モデル2（クラス数2）	1451.3	1371.9
モデル3（クラス数3）	1499.1	1378.4
モデル4（クラス数4）	1554.6	1392.6

（表２－５－３－１）解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた	入浴･清拭という言葉を聞くだけで拒否していた	色々な理由をつけて拒否していた	頑固に拒否していた	暴言、暴力を伴いながら拒否していた	その他
実数	216	15	52	108	62	51	9
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	6.9	24.1	50.0	28.7	23.6	4.2

（表２－５－３－２）解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	入浴･清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	拒否することが全くなくなった	清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	その他
実数	217	36	48	124	8	21	28
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	16.6	22.1	57.1	3.7	9.7	12.9

（表２－５－３－３）清拭拒否の解決前のパターン
（潜在クラス６クラスモデルのプロフィール）

(n=163)

状況	全体	パターン1 色々な理由をつけて拒否していた	パターン2 頑固に拒否していた	パターン3 暴言、暴力を伴いながら拒否していた	パターン4 入浴･清拭という言葉を聞くだけで拒否していた	パターン5 複合的清拭拒否	パターン6 入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた
サイズ	1.000	0.398	0.161	0.152	0.145	0.105	0.038
入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた	0.074	0.003	0.001	0.001	0.043	0.278	0.961
入浴･清拭という言葉を聞くだけで拒否していた	0.245	0.030	0.039	0.029	0.994	0.740	0.022
色々な理由をつけて拒否していた	0.522	0.999	0.105	0.070	0.051	0.720	0.335
頑固に拒否していた	0.288	0.012	0.994	0.068	0.056	0.984	0.026
暴言、暴力を伴いながら拒否していた	0.227	0.008	0.102	0.994	0.019	0.508	0.006
（参考）平均項目数 →	1.4	1.1	1.2	1.2	1.2	3.2	1.4
該当事例数 →	(163)	(65)	(26)	(25)	(24)	(17)	(6)

（表２－５－３－４）潜在クラスモデル評価（清拭拒否の解決前パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	888.9	873.5
モデル2（クラス数2）	852.0	818.0
モデル3（クラス数3）	855.9	803.3
モデル4（クラス数4）	858.7	787.5
モデル5（クラス数5）	870.2	780.5
モデル6（クラス数6）	884.3	776.1
モデル7（クラス数7）	913.9	787.0
モデル8（クラス数8）	943.0	797.6

（表２－５－３－５）清拭拒否の解決後のパターン
（潜在クラス５クラスモデルのプロフィール）

(n=163)

状況	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	拒否することが全くなくなった
サイズ	1.000	0.536	0.188	0.139	0.087	0.050
入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	0.160	0.001	0.006	0.991	0.226	0.004
徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	0.227	0.006	0.994	0.081	0.224	0.130
拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	0.620	0.999	0.054	0.127	0.567	0.140
拒否することが全くなくなった	0.049	0.000	0.001	0.000	0.001	0.969
清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	0.098	0.017	0.036	0.002	0.943	0.003
（参考）平均項目数 →	1.2	1.0	1.1	1.2	2.0	1.2
該当事例数 →	(163)	(87)	(31)	(23)	(14)	(8)

（表２－５－３－６）潜在クラスモデル評価（清拭拒否の解決後パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	728.2	712.7
モデル2（クラス数2）	670.4	636.4
モデル3（クラス数3）	667.5	614.9
モデル4（クラス数4）	675.1	603.9
モデル5（クラス数5）	686.8	597.1
モデル6（クラス数6）	717.2	608.9
モデル7（クラス数7）	738.9	612.1
モデル8（クラス数8）	769.4	624.0

（表２－５－３－７）解決前後のパターンの相関行列
（全体）

（n=163）

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	拒否することが全くなくなった
解決前のパターン	パターン1	色々な理由をつけて拒否していた	0.092	0.034	-0.026	-0.081	-0.131
	パターン2	頑固に拒否していた	-0.033	0.053	-0.058	-0.037	0.116
	パターン3	暴言、暴力を伴いながら拒否していた	0.176 *	-0.073	-0.090	-0.122	0.018
	パターン4	入浴・清拭という言葉を聞くだけで拒否していた	-0.077	-0.116	0.200 *	-0.009	0.071
	パターン5	複合的清拭拒否	-0.237 **	0.120	-0.027	0.305 **	0.007
	パターン6	入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた	-0.017	-0.014	0.016	0.071	-0.046

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）　1%水準
**　　5%水準

（表２－５－３－８）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン１“一部介助、中程度重症度”の場合）

（n=123）

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	拒否することが全くなくなった
解決前のパターン	パターン1	色々な理由をつけて拒否していた	0.133	0.036	-0.063	-0.088	-0.160
	パターン2	頑固に拒否していた	-0.036	0.082	-0.087	-0.093	0.160
	パターン3	暴言、暴力を伴いながら拒否していた	0.118	-0.167	0.004	-0.075	0.094
	パターン4	入浴・清拭という言葉を聞くだけで拒否していた	-0.082	-0.073	0.210 *	-0.024	0.008
	パターン5	複合的清拭拒否	-0.207 *	0.106	-0.053	0.315 **	0.025
	パターン6	入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた	-0.020	-0.014	0.022	0.089	-0.057

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率によるパターン1の事例数に近似するもやや異なる）
（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－５－３－９）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン２“全介助、中高程度重症度”の場合）

（n=40）

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	拒否することが全くなくなった
解決前のパターン	パターン1	色々な理由をつけて拒否していた	-0.076	0.039	0.113	-0.013	-0.086
	パターン2	頑固に拒否していた	-0.025	-0.032	0.025	0.087	-0.071
	パターン3	暴言、暴力を伴いながら拒否していた	0.346 *	0.077	-0.289	-0.256	-0.112
	パターン4	入浴・清拭という言葉を聞くだけで拒否していた	-0.058	-0.229	0.173	0.005	0.348 *
	パターン5	複合的清拭拒否	-0.319 *	0.158	0.042	0.287	-0.062
	パターン6	入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた	-0.179	-0.064	-0.065	0.448 **	-0.030

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率によるパターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－５－３－１０）高齢者パターン別にみた解決前の状況

【実数】

	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 全介助、中高程度重症度
有効回答数	163	118	45
入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた	12	9	3
入浴・清拭という言葉を聞くだけで拒否していた	40	27	13
色々な理由をつけて拒否していた	85	72	13
頑固に拒否していた	47	35	12
暴言、暴力を伴いながら拒否していた	37	20	17

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 全介助、中高程度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0
入浴も清拭も拒否して寝てばかりいた	7.4	7.6	6.7
入浴・清拭という言葉を聞くだけで拒否していた	24.5	22.9	28.9
色々な理由をつけて拒否していた	52.1	61.0	28.9
頑固に拒否していた	28.8	29.7	26.7
暴言、暴力を伴いながら拒否していた	22.7	16.9	37.8

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－５－３－１１）高齢者パターン別にみた解決後の状況

【実数】

	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 全介助、中高程度重症度
有効回答数	163	118	45
入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	26	19	7
徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	37	27	10
拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	101	74	27
拒否することが全くなくなった	8	6	2
清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	16	11	5

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 全介助、中高程度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0
入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	16.0	16.1	15.6
徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	22.7	22.9	22.2
拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	62.0	62.7	60.0
拒否することが全くなくなった	4.9	5.1	4.4
清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	9.8	9.3	11.1

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－５－４－１）清拭拒否の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
有効回答数			217	100.0
清拭方法の工夫	101	暖かいタオルを渡し自分で	33	15.2
	102	部分から開始	55	25.3
	103	トイレ時に実施	65	30.0
	104	清拭時間を本人のペースで	44	20.3
	105	気持ちをくつろがせる	104	47.9
	190	その他	3	1.4
誘導の工夫	201	家族からの依頼	61	28.1
	202	内科受診のため	38	17.5
	203	薬を塗るため	52	24.0
	204	清潔、血行など効果を説明	68	31.3
	205	他者から誘導	24	11.1
	206	介助者と一緒に	2	0.9
	208	入浴前に散歩する	1	0.5
	209	医者の指示と伝える	1	0.5
	290	その他	6	2.8
声かけの工夫	301	声かけの態度の工夫	142	65.4
	302	声かけを簡単に	53	24.4
	303	お礼やねぎらいを	96	44.2
	304	本人のペースで声かけ	5	2.3
	305	好きな話題をしながら	5	2.3
	306	温泉に誘う	2	0.9
	390	その他	2	0.9
清拭環境の調整	401	温度調節	71	32.7
	402	清拭布の温度	49	22.6
	403	清拭場所の調整	46	21.2
	404	1人で	88	40.6
	490	その他	3	1.4
介助者の工夫	501	信頼関係が出来ている介助者	115	53.0
	502	複数のスタッフ	52	24.0
	503	家族の協力	28	12.9
	590	その他	1	0.5
その他	601	コンプレックスを確認	80	36.9
	690	その他	6	2.8

（参考）平均回答項目数 → 6.5

（表２－５－４－２）清拭拒否の解決方法組み合わせパターン
（潜在クラス 14 クラスモデルのプロフィール）

（n=217）

区分	code	解決方法	全体	パターン1 「温度調節」、「信頼関係が出来ている介助者」、「部分から開始」、「おれやねぎらいを」、「声かけの態度の工夫」の5項目を主として、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「薬を塗るため」、「家族からの依頼」、「内科受診のため」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均6.4項目の組み合わせ	パターン2 「声かけの態度の工夫」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「清拭時間を本人のペースで」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	パターン3 「おれやねぎらいを」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「他者から誘導」、「家族からの依頼」、「清拭場所の調整」、「声かけの態度の工夫」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	パターン4 「声かけの態度の工夫」、「信頼関係が出来ている介助者」、「1人で」、「コンプレックスを確認」の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「トイレ時に実施」も多く、「おれやねぎらいを」、「清潔、血行など効果を説明」、「薬を塗るため」、「温度調整」などで構成された平均7.8項目の組み合わせ	パターン5 「薬を塗るため」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「部分から開始」、「信頼関係が出来ている介助者」、「複数のスタッフ」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.2項目の組み合わせ	パターン6 「清潔、血行など効果を説明」を共通ベースとして、「トイレ時に実施」も多く、「声かけを簡単に」、「声かけの態度の工夫」、「おれやねぎらいを」、「信頼関係が出来ている介助者」、「1人で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	パターン7 「声かけの態度の工夫」、「おれやねぎらいを」、「1人で」、「信頼関係が出来ている介助者」、「清潔、血行など効果を説明」、「トイレ時に実施」の6項目を共通ベースとして、「暖かいタオルを渡し自分で」、「清拭時間を本人のペースで」、「部分から開始」、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」など全分野にわたって構成された平均11.8項目と最多の組み合わせ	パターン8 「気持ちをくつろがせる」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」、「おれやねぎらいを」、「家族からの依頼」、「1人で」の4項目も多く、「複数のスタッフ」、「家族の協力」、「声かけを簡単に」、「他者から誘導」、「温度調節」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	パターン9 「家族からの依頼」を主として、「気持ちをくつろがせる」、「トイレ時に実施」、「家族の協力」、「信頼関係が出来ている介助者」、「内科受診のため」、「声かけを簡単に」などで構成された平均3.6項目と最少の組み合わせ	パターン10 「1人で」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「トイレ時に実施」の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」、「清潔、血行など効果を説明」、「おれやねぎらいを」の3項目も多く、「清拭場所の調整」、「清拭布の温度」、「声かけを簡単に」、「薬を塗るため」、「コンプレックスを確認」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均8.4項目の組み合わせ	パターン11 「温度調節」、「声かけの態度の工夫」、「気持ちをくつろがせる」の3項目を共通ベースとして、「部分から開始」、「清拭時間を本人のペースで」、「信頼関係が出来ている介助者」、「家族の協力」、「コンプレックスを確認」、「おれやねぎらいを」、「内科受診のため」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	パターン12 「声かけの態度の工夫」、「おれやねぎらいを」、「声かけを簡単に」、「内科受診のため」、「家族からの依頼」の5項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「コンプレックスを確認」も多く、「複数のスタッフ」、「信頼関係が出来ている介助者」、「1人で」、「温度調節」、「清拭場所の調整」、「清拭時間を本人のペースで」、「清潔、血行など効果を説明」、「他者から誘導」などで構成された平均9.2項目の組み合わせ	パターン13 「信頼関係が出来ている介助者」、「1人で」、「温度調節」、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「気持ちをくつろがせる」の6項目を共通ベースとして、「清拭場所の調整」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「清潔、血行など効果を説明」、「他者から誘導」などで構成された平均10.8項目の組み合わせ	パターン14 「トイレ時に実施」、「清潔、血行など効果を説明」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」の4項目を共通ベースとして、「複数のスタッフ」、「清拭場所の調整」、「1人で」、「温度調節」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ
		サイズ	1.000	0.126	0.110	0.106	0.100	0.077	0.073	0.073	0.072	0.065	0.060	0.056	0.037	0.027	0.019
清拭方法の工夫	101	暖かいタオルを渡し自分で	0.152	0.266	0.203	0.001	0.237	0.001	0.001	0.674	0.001	0.001	0.303	0.001	0.001	0.002	0.249
	102	部分から開始	0.254	0.629	0.076	0.135	0.201	0.345	0.001	0.559	0.093	0.215	0.155	0.447	0.127	0.164	0.005
	103	トイレ時に実施	0.300	0.001	0.001	0.223	0.508	0.064	0.689	0.931	0.002	0.357	0.763	0.097	0.115	0.164	0.988
	104	清拭時間を本人のペースで	0.203	0.186	0.480	0.130	0.092	0.126	0.206	0.563	0.001	0.002	0.001	0.341	0.377	0.002	0.247
	105	気持ちをくつろがせる	0.479	0.196	0.157	0.483	0.625	0.473	0.188	0.497	0.997	0.443	0.617	0.811	0.746	0.994	0.008
	190	その他	0.014	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.063	0.000	0.000	0.000	0.165	0.000	0.000	0.000
誘導の工夫	201	家族からの依頼	0.281	0.323	0.225	0.368	0.059	0.062	0.001	0.254	0.659	0.571	0.084	0.147	0.868	0.657	0.005
	202	内科受診のため	0.175	0.304	0.001	0.141	0.173	0.001	0.001	0.187	0.001	0.328	0.236	0.260	0.991	0.165	0.003
	203	薬を塗るため	0.240	0.364	0.001	0.221	0.325	0.994	0.070	0.315	0.002	0.001	0.383	0.006	0.002	0.333	0.004
	204	清潔、血行など効 果を説明	0.313	0.153	0.071	0.001	0.333	0.060	0.995	0.934	0.206	0.100	0.602	0.224	0.253	0.338	0.988
	205	他者から誘導	0.111	0.000	0.140	0.390	0.146	0.063	0.001	0.001	0.284	0.001	0.079	0.001	0.251	0.001	0.002
	206	介助者と一緒に	0.009	0.000	0.042	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.064	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	208	入浴前に散歩する	0.005	0.000	0.000	0.044	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	209	医者の指示と伝える	0.005	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.071	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	290	その他	0.028	0.000	0.042	0.000	0.000	0.178	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.166	0.000	0.000	0.001
声かけの工夫	301	声かけの態度の工夫	0.654	0.513	0.916	0.333	0.998	0.595	0.410	0.998	0.680	0.005	0.840	0.912	0.997	0.662	0.012
	302	声かけを簡単に	0.244	0.118	0.001	0.001	0.137	0.403	0.420	0.254	0.386	0.301	0.393	0.002	0.993	0.333	0.987
	303	おれやねぎらいを	0.442	0.582	0.002	0.996	0.439	0.132	0.314	0.755	0.514	0.003	0.533	0.291	0.995	0.336	0.008
	304	本人のペースで声かけ	0.023	0.073	0.000	0.000	0.046	0.000	0.000	0.000	0.000	0.071	0.076	0.000	0.000	0.000	0.000
	305	好きな話題をしながら	0.023	0.000	0.000	0.044	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.142	0.000	0.165	0.000	0.000	0.000
	306	温泉に誘う	0.009	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.165	0.000	0.000	0.000
	390	その他	0.009	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.165	0.000	0.000	0.000
清拭環境の調整	401	温度調節	0.327	0.732	0.001	0.084	0.272	0.006	0.202	0.679	0.263	0.073	0.226	0.995	0.256	0.992	0.252
	402	清拭布の温度	0.226	0.480	0.124	0.088	0.065	0.063	0.205	0.746	0.001	0.001	0.377	0.117	0.005	0.991	0.250
	403	清拭場所の調整	0.212	0.040	0.223	0.337	0.198	0.178	0.002	0.381	0.230	0.001	0.451	0.091	0.252	0.665	0.495
	404	1人で	0.406	0.127	0.196	0.091	0.930	0.234	0.317	0.997	0.505	0.002	0.995	0.091	0.369	0.993	0.495
	490	その他	0.014	0.036	0.000	0.000	0.000	0.059	0.000	0.063	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
介助者の工夫	501	信頼関係が出 来ている介助者	0.530	0.690	0.557	0.681	0.948	0.415	0.450	0.930	0.003	0.263	0.006	0.419	0.382	0.994	0.009
	502	複数のスタッフ	0.240	0.157	0.127	0.001	0.140	0.413	0.130	0.246	0.438	0.001	0.916	0.002	0.493	0.668	0.487
	503	家族の協力	0.129	0.002	0.167	0.101	0.001	0.001	0.001	0.126	0.425	0.357	0.001	0.331	0.127	0.336	0.248
	590	その他	0.005	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.083	0.000	0.000	0.000
その他	601	コンプレックスを確認	0.369	0.410	0.124	0.093	0.919	0.344	0.090	0.507	0.187	0.116	0.380	0.346	0.630	0.992	0.981
	690	その他	0.028	0.000	0.042	0.000	0.000	0.000	0.000	0.126	0.000	0.214	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001
		（参考）平均項目数 →	6.5	6.4	3.9	5.0	7.8	5.2	4.7	11.8	5.9	3.6	8.4	6.8	9.2	10.8	6.7
		該当事例数 →	(217)	(27)	(24)	(23)	(22)	(17)	(16)	(16)	(16)	(14)	(13)	(12)	(8)	(6)	(4)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－５－４－３）　潜在クラスモデル評価（清拭拒否の解決方法組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1（クラス数1）	5720.1	5608.5	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2（クラス数2）	5730.2	5503.8	0.076	0.821	0.711	0.763
モデル3（クラス数3）	5827.5	5486.1	0.122	0.807	0.725	0.735
モデル4（クラス数4）	5934.6	5478.3	0.121	0.811	0.774	0.763
モデル5（クラス数5）	6045.6	5474.4	0.086	0.865	0.843	0.826
モデル6（クラス数6）	6171.9	5485.7	0.082	0.889	0.867	0.847
モデル7（クラス数7）	6327.6	5526.6	0.098	0.871	0.847	0.823
モデル8（クラス数8）	6438.4	5522.4	0.091	0.880	0.872	0.842
モデル9（クラス数9）	6573.4	5542.6	0.079	0.897	0.888	0.860
モデル 10（クラス数 10）	6735.1	5589.3	0.078	0.902	0.899	0.864
モデル 11（クラス数 11）	6883.0	5622.3	0.080	0.906	0.900	0.865
モデル 12（クラス数 12）	7020.2	5644.6	0.080	0.910	0.902	0.865
モデル 13（クラス数 13）	7154.8	5664.3	0.049	0.944	0.933	0.911
モデル 14（クラス数 14）	7284.1	5678.6	0.048	0.945	0.942	0.919
モデル 15（クラス数 15）	7442.0	5721.7	0.049	0.946	0.940	0.914
モデル 16（クラス数 16）	7618.7	5783.4	0.062	0.929	0.930	0.895

（表２－５－４－４）　清拭拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（全体）

(n=163)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	拒否することが全くなくなった
パターン1	「温度調節」、「信頼関係が出来ている介助者」、「部分から開始」、「お礼やねぎらいを」、「声かけの態度の工夫」の５項目を主として、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「薬を塗るため」、「家族からの依頼」、「内科受診のため」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均6.4項目の組み合わせ	-0.148	0.164 *	0.007	-0.056	0.099
パターン2	「声かけの態度の工夫」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「清拭時間を本人のペースで」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	-0.017	0.080	-0.002	-0.016	-0.081
パターン3	「お礼やねぎらいを」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「他者から誘導」、「家族からの依頼」、「清拭場所の調整」、「声かけの態度の工夫」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	0.043	-0.017	-0.085	-0.037	0.110
パターン4	「声かけの態度の工夫」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「コンプレックスを確認」の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「トイレ時に実施」も多く、「お礼やねぎらいを」、「清潔、血行など効果を説明」、「薬を塗るため」、「温度調整」などで構成された平均7.8項目の組み合わせ	-0.102	0.150	0.108	-0.095	-0.092
パターン5	「薬を塗るため」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「部分から開始」、「信頼関係が出来ている介助者」、「複数のスタッフ」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.2項目の組み合わせ	0.049	-0.119	0.051	0.069	-0.060
パターン6	「清潔、血行など効果を説明」を共通ベースとして、「トイレ時に実施」も多く、「声かけを簡単に」、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	0.079	-0.115	-0.027	0.011	0.052
パターン7	「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「１人で」、「信頼関係が出来ている介助者」、「清潔、血行など効果を説明」、「トイレ時に実施」の６項目を共通ベースとして、「暖かいタオルを渡し自分で」、「清拭時間を本人のペースで」、「部分から開始」、「清拭布の温度」、「温度調節」、「コンプレックスを確認」など全分野にわたって構成された平均11.8項目と最多の組み合わせ	-0.101	0.011	-0.048	0.207 **	0.040
パターン8	「気持ちをくつろがせる」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「家族からの依頼」、「１人で」の４項目も多く、「複数のスタッフ」、「家族の協力」、「声かけを簡単に」、「他者から誘導」、「温度調節」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	0.075	-0.132	0.044	0.046	-0.061
パターン9	「家族からの依頼」を主として、「気持ちをくつろがせる」、「トイレ時に実施」、「家族の協力」、「信頼関係が出来ている介助者」、「内科受診のため」、「声かけを簡単に」などで構成された平均3.6項目と最少の組み合わせ	0.062	0.000	-0.066	-0.089	0.069
パターン10	「１人で」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「トイレ時に実施」の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」、「清潔、血行など効果を説明」、「お礼やねぎらいを」の３項目も多く、「清拭場所の調整」、「清拭布の温度」、「声かけを簡単に」、「薬を塗るため」、「コンプレックスを確認」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均8.4項目の組み合わせ	0.002	0.103	-0.046	-0.041	-0.065
パターン11	「温度調節」、「声かけの態度の工夫」、「気持ちをくつろがせる」の3項目を共通ベースとして、「部分から開始」、「清拭時間を本人のペースで」、「信頼関係が出来ている介助者」、「家族の協力」、「コンプレックスを確認」、「お礼やねぎらいを」、「内科受診のため」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	0.009	-0.117	-0.029	0.149	0.058
パターン12	「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「声かけを簡単に」、「内科受診のため」、「家族からの依頼」の5項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「コンプレックスを確認」も多く、「複数のスタッフ」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「温度調節」、「清拭場所の調整」、「清拭時間を本人のペースで」、「清潔、血行など効果を説明」、「他者から誘導」などで構成された平均9.2項目の組み合わせ	-0.012	-0.089	0.189 *	-0.060	-0.045
パターン13	「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「温度調節」、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「気持ちをくつろがせる」の６項目を共通ベースとして、「清拭場所の調整」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「家族からの依頼」の４項目も多く、″清拭環境の調整″に高いウェイトを置き、ほぼ全分野にわたって構成された平均10.8項目の組み合わせ	0.129	-0.067	-0.055	-0.045	-0.031
パターン14	「トイレ時に実施」、「清潔、血行など効果を説明」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」の４項目を共通ベースとして、「複数のスタッフ」、「清拭場所の調整」、「１人で」、「温度調節」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	0.130	-0.068	-0.056	-0.045	-0.031

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－５－４－５）　清拭拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連
（全体）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況				
			入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	拒否することが全くなくなった	清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった
全体		163	16.0	22.7	62.0	4.9	9.8
パターン1	「温度調節」、「信頼関係が出来ている介助者」、「部分から開始」、「お礼やねぎらいを」、「声かけの態度の工夫」の５項目を主として、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「薬を塗るため」、「家族からの依頼」、「内科受診のため」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均6.4項目の組み合わせ	20	14.5	39.7	41.0	10.3	4.8
パターン2	「声かけの態度の工夫」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「清拭時間を本人のペースで」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	18	18.0	27.1	56.2	0.1	7.4
パターン3	「お礼やねぎらいを」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「他者から誘導」、「家族からの依頼」、「清拭場所の調整」、「声かけの態度の工夫」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	18	5.9	17.1	59.9	11.4	5.8
パターン4	「声かけの態度の工夫」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「コンプレックスを確認」の４項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「トイレ時に実施」も多く、「お礼やねぎらいを」、「清潔、血行など効果を説明」、「薬を塗るため」、「温度調整」などで構成された平均7.8項目の組み合わせ	21	24.8	37.7	51.8	0.0	2.3
パターン5	「薬を塗るため」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「部分から開始」、「信頼関係が出来ている介助者」、「複数のスタッフ」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.2項目の組み合わせ	10	20.6	2.1	78.4	0.0	19.8
パターン6	「清潔、血行など効果を説明」を共通ベースとして、「トイレ時に実施」も多く、「声かけを簡単に」、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	9	10.2	1.6	79.2	9.4	12.6
パターン7	「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「１人で」、「信頼関係が出来ている介助者」、「清潔、血行など効果を説明」、「トイレ時に実施」の６項目を共通ベースとして、「暖かいタオルを渡し自分で」、「清拭時間を本人のペースで」、「部分から開始」、「清拭布の温度」、「温度調節」、「コンプレックスを確認」など全分野にわたって構成された平均11.8項目と最多の組み合わせ	13	16.1	38.5	45.9	7.8	29.7
パターン8	「気持ちをくつろがせる」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「家族からの依頼」、「１人で」の４項目も多く、「複数のスタッフ」、「家族の協力」、「声かけを簡単に」、「他者から誘導」、「温度調節」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	10	19.6	0.1	75.8	0.0	15.4
パターン9	「家族からの依頼」を主として、「気持ちをくつろがせる」、「トイレ時に実施」、「家族の協力」、「信頼関係が出来ている介助者」、「内科受診のため」、「声かけを簡単に」などで構成された平均3.6項目と最少の組み合わせ	11	5.6	18.8	65.2	10.4	0.0
パターン10	「１人で」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「トイレ時に実施」の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」、「清潔、血行など効果を説明」、「お礼やねぎらいを」の３項目も多く、「清拭場所の調整」、「清拭布の温度」、「声かけを簡単に」、「薬を塗るため」、「コンプレックスを確認」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均8.4項目の組み合わせ	12	8.4	41.0	66.5	0.0	8.4
パターン11	「温度調節」、「声かけの態度の工夫」、「気持ちをくつろがせる」の3項目を共通ベースとして、「部分から開始」、「清拭時間を本人のペースで」、「信頼関係が出来ている介助者」、「家族の協力」、「コンプレックスを確認」、「お礼やねぎらいを」、「内科受診のため」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	10	20.1	1.8	78.5	9.6	26.9
パターン12	「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「声かけを簡単に」、「内科受診のため」、「家族からの依頼」の５項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「コンプレックスを確認」も多く、「複数のスタッフ」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「温度調節」、「清拭場所の調整」、「清拭時間を本人のペースで」、「清潔、血行など効果を説明」、「他者から誘導」などで構成された平均9.2項目の組み合わせ	6	49.7	16.6	66.8	0.0	0.0
パターン13	「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「温度調節」、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「気持ちをくつろがせる」の６項目を共通ベースとして、「清拭場所の調整」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「家族からの依頼」の４項目も多く、"清拭環境の調整"に高いウェイトを置き、ほぼ全分野にわたって構成された平均10.8項目の組み合わせ	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
パターン14	「トイレ時に実施」、「清潔、血行など効果を説明」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」の４項目を共通ベースとして、「複数のスタッフ」、「清拭場所の調整」、「１人で」、「温度調節」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－５－４－６）　清拭拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン１“一部介助、中程度重症度”の場合）

(n=123)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	拒否することが全くなくなった
パターン1	「温度調節」、「信頼関係が出来ている介助者」、「部分から開始」、「お礼やねぎらいを」、「声かけの態度の工夫」の５項目を主として、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「薬を塗るため」、「家族からの依頼」、「内科受診のため」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均6.4項目の組み合わせ	-0.176	0.190 *	-0.025	-0.027	0.123
パターン2	「声かけの態度の工夫」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「清拭時間を本人のペースで」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	-0.016	0.056	0.017	0.014	-0.098
パターン3	「お礼やねぎらいを」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「他者から誘導」、「家族からの依頼」、「清拭場所の調整」、「声かけの態度の工夫」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	0.122	-0.039	-0.071	-0.115	0.024
パターン4	「声かけの態度の工夫」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「コンプレックスを確認」の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「トイレ時に実施」も多く、「お礼やねぎらいを」、「清潔、血行など効果を説明」、「薬を塗るため」、「温度調整」などで構成された平均7.8項目の組み合わせ	-0.093	0.187 *	0.047	-0.078	-0.101
パターン5	「薬を塗るため」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「部分から開始」、「信頼関係が出来ている介助者」、「複数のスタッフ」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.2項目の組み合わせ	0.025	-0.130	0.079	0.118	-0.072
パターン6	「清潔、血行など効果を説明」を共通ベースとして、「トイレ時に実施」も多く、「声かけを簡単に」、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	0.007	-0.089	-0.079	0.117	0.128
パターン7	「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「１人で」、「信頼関係が出来ている介助者」、「清潔、血行など効果を説明」、「トイレ時に実施」の６項目を共通ベースとして、「暖かいタオルを渡し自分で」、「清拭時間を本人のペースで」、「部分から開始」、「清拭布の温度」、「温度調節」、「コンプレックスを確認」など全分野にわたって構成された平均11.8項目と最多の組み合わせ	-0.061	0.022	-0.099	0.141	0.096
パターン8	「気持ちをくつろがせる」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「家族からの依頼」、「１人で」の４項目も多く、「複数のスタッフ」、「家族の協力」、「声かけを簡単に」、「他者から誘導」、「温度調節」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	0.029	-0.137	0.088	0.104	-0.069
パターン9	「家族からの依頼」を主として、「気持ちをくつろがせる」、「トイレ時に実施」、「家族の協力」、「信頼関係が出来ている介助者」、「内科受診のため」、「声かけを簡単に」などで構成された平均3.6項目と最少の組み合わせ	0.023	-0.023	-0.034	-0.077	0.117
パターン10	「１人で」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「トイレ時に実施」の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」、「清潔、血行など効果を説明」、「お礼やねぎらいを」の３項目も多く、「清拭場所の調整」、「清拭布の温度」、「声かけを簡単に」、「薬を塗るため」、「コンプレックスを確認」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均8.4項目の組み合わせ	0.048	0.027	-0.032	-0.024	-0.074
パターン11	「温度調節」、「声かけの態度の工夫」、「気持ちをくつろがせる」の3項目を共通ベースとして、「部分から開始」、「清拭時間を本人のペースで」、「信頼関係が出来ている介助者」、「家族の協力」、「コンプレックスを確認」、「お礼やねぎらいを」、「内科受診のため」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	0.003	-0.098	0.022	0.015	0.107
パターン12	「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「声かけを簡単に」、「内科受診のため」、「家族からの依頼」の5項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「コンプレックスを確認」も多く、「複数のスタッフ」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「温度調節」、「清拭場所の調整」、「清拭時間を本人のペースで」、「清潔、血行など効果を説明」、「他者から誘導」などで構成された平均9.2項目の組み合わせ	0.026	-0.091	0.139	-0.058	-0.051
パターン13	「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「温度調節」、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「気持ちをくつろがせる」の６項目を共通ベースとして、「清拭場所の調整」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「家族からの依頼」の４項目も多く、″清拭環境の調整″に高いウェイトを置き、ほぼ全分野にわたって構成された平均10.8項目の組み合わせ	0.119	-0.063	-0.051	-0.040	-0.032
パターン14	「トイレ時に実施」、「清潔、血行など効果を説明」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」の４項目を共通ベースとして、「複数のスタッフ」、「清拭場所の調整」、「１人で」、「温度調節」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	0.119	-0.063	-0.051	-0.040	-0.032

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－５－４－７）　清拭拒否の解決方法パターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン１“一部介助、中程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況				
			入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	拒否することが全くなくなった	清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった
全体		123	15.4	22.8	61.8	5.7	8.9
パターン1	「温度調節」、「信頼関係が出来ている介助者」、「部分から開始」、「お礼やねぎらいを」、「声かけの態度の工夫」の５項目を主として、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「薬を塗るため」、「家族からの依頼」、「内科受診のため」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均6.4項目の組み合わせ	16	11.6	42.0	40.6	12.5	5.8
パターン2	「声かけの態度の工夫」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「清拭時間を本人のペースで」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	17	19.8	23.9	57.8	0.2	8.1
パターン3	「お礼やねぎらいを」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「他者から誘導」、「家族からの依頼」、「清拭場所の調整」、「声かけの態度の工夫」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	14	7.3	14.8	70.9	7.2	0.1
パターン4	「声かけの態度の工夫」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「コンプレックスを確認」の４項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「トイレ時に実施」も多く、「お礼やねぎらいを」、「清潔、血行など効果を説明」、「薬を塗るため」、「温度調整」などで構成された平均7.8項目の組み合わせ	16	19.3	41.9	50.9	0.0	2.9
パターン5	「薬を塗るため」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「部分から開始」、「信頼関係が出来ている介助者」、「複数のスタッフ」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.2項目の組み合わせ	9	22.9	2.2	76.1	0.0	22.0
パターン6	「清潔、血行など効果を説明」を共通ベースとして、「トイレ時に実施」も多く、「声かけを簡単に」、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	4	0.0	1.6	78.5	20.8	28.0
パターン7	「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「１人で」、「信頼関係が出来ている介助者」、「清潔、血行など効果を説明」、「トイレ時に実施」の６項目を共通ベースとして、「暖かいタオルを渡し自分で」、「清拭時間を本人のペースで」、「部分から開始」、「清拭布の温度」、「温度調節」、「コンプレックスを確認」など全分野にわたって構成された平均11.8項目と最多の組み合わせ	7	14.6	42.3	43.2	14.6	26.9
パターン8	「気持ちをくつろがせる」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「家族からの依頼」、「１人で」の４項目も多く、「複数のスタッフ」、「家族の協力」、「声かけを簡単に」、「他者から誘導」、「温度調節」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	8	24.3	0.1	70.0	0.0	19.1
パターン9	「家族からの依頼」を主として、「気持ちをくつろがせる」、「トイレ時に実施」、「家族の協力」、「信頼関係が出来ている介助者」、「内科受診のため」、「声かけを簡単に」などで構成された平均3.6項目と最少の組み合わせ	7	8.9	15.0	59.5	16.6	0.0
パターン10	「１人で」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「トイレ時に実施」の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」、「清潔、血行など効果を説明」、「お礼やねぎらいを」の３項目も多く、「清拭場所の調整」、「清拭布の温度」、「声かけを簡単に」、「薬を塗るため」、「コンプレックスを確認」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均8.4項目の組み合わせ	10	10.0	29.6	70.0	0.0	10.1
パターン11	「温度調節」、「声かけの態度の工夫」、「気持ちをくつろがせる」の3項目を共通ベースとして、「部分から開始」、「清拭時間を本人のペースで」、「信頼関係が出来ている介助者」、「家族の協力」、「コンプレックスを確認」、「お礼やねぎらいを」、「内科受診のため」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	6	16.8	3.1	64.1	16.1	11.5
パターン12	「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「声かけを簡単に」、「内科受診のため」、「家族からの依頼」の５項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「コンプレックスを確認」も多く、「複数のスタッフ」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「温度調節」、「清拭場所の調整」、「清拭時間を本人のペースで」、「清潔、血行など効果を説明」、「他者から誘導」などで構成された平均9.2項目の組み合わせ	5	39.8	19.9	80.1	0.0	0.0
パターン13	「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「温度調節」、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「気持ちをくつろがせる」の６項目を共通ベースとして、「清拭場所の調整」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「家族からの依頼」の４項目も多く、"清拭環境の調整"に高いウェイトを置き、ほぼ全分野にわたって構成された平均10.8項目の組み合わせ	2	0.0	0.0	99.9	0.0	0.0
パターン14	「トイレ時に実施」、「清潔、血行など効果を説明」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」の４項目を共通ベースとして、「複数のスタッフ」、「清拭場所の調整」、「１人で」、「温度調節」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率によるパターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－５－４－８）　清拭拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン２“全介助、中高程度重症度”の場合）

(n=40)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった	拒否することが全くなくなった
パターン1	「温度調節」、「信頼関係が出来ている介助者」、「部分から開始」、「お礼やねぎらいを」、「声かけの態度の工夫」の５項目を主として、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「薬を塗るため」、「家族からの依頼」、「内科受診のため」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均6.4項目の組み合わせ	-0.057	0.079	0.124	-0.123	-0.052
パターン2	「声かけの態度の工夫」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「清拭時間を本人のペースで」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	-0.053	0.236	-0.095	-0.086	-0.036
パターン3	「お礼やねぎらいを」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「他者から誘導」、「家族からの依頼」、「清拭場所の調整」、「声かけの態度の工夫」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	-0.238	0.060	-0.133	0.174	0.549 **
パターン4	「声かけの態度の工夫」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「コンプレックスを確認」の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「トイレ時に実施」も多く、「お礼やねぎらいを」、「清潔、血行など効果を説明」、「薬を塗るため」、「温度調整」などで構成された平均7.8項目の組み合わせ	-0.138	0.027	0.312	-0.138	-0.062
パターン5	「薬を塗るため」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「部分から開始」、「信頼関係が出来ている介助者」、「複数のスタッフ」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.2項目の組み合わせ	0.157	-0.078	-0.066	-0.062	-0.026
パターン6	「清潔、血行など効果を説明」を共通ベースとして、「トイレ時に実施」も多く、「声かけを簡単に」、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	0.225	-0.178	0.042	-0.147	-0.062
パターン7	「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「１人で」、「信頼関係が出来ている介助者」、「清潔、血行など効果を説明」、「トイレ時に実施」の６項目を共通ベースとして、「暖かいタオルを渡し自分で」、「清拭時間を本人のペースで」、「部分から開始」、「清拭布の温度」、「温度調節」、「コンプレックスを確認」など全分野にわたって構成された平均11.8項目と最多の組み合わせ	-0.173	-0.014	0.037	0.282	-0.070
パターン8	「気持ちをくつろがせる」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「家族からの依頼」、「１人で」の４項目も多く、「複数のスタッフ」、「家族の協力」、「声かけを簡単に」、「他者から誘導」、「温度調節」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	0.228	-0.115	-0.096	-0.087	-0.037
パターン9	「家族からの依頼」を主として、「気持ちをくつろがせる」、「トイレ時に実施」、「家族の協力」、「信頼関係が出来ている介助者」、「内科受診のため」、「声かけを簡単に」などで構成された平均3.6項目と最少の組み合わせ	0.160	0.050	-0.140	-0.127	-0.053
パターン10	「１人で」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「トイレ時に実施」の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」、「清潔、血行など効果を説明」、「お礼やねぎらいを」の３項目も多く、「清拭場所の調整」、「清拭布の温度」、「声かけを簡単に」、「薬を塗るため」、「コンプレックスを確認」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均8.4項目の組み合わせ	-0.185	0.397 *	-0.096	-0.077	-0.036
パターン11	「温度調節」、「声かけの態度の工夫」、「気持ちをくつろがせる」の3項目を共通ベースとして、「部分から開始」、「清拭時間を本人のペースで」、「信頼関係が出来ている介助者」、「家族の協力」、「コンプレックスを確認」、「お礼やねぎらいを」、「内科受診のため」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	0.034	-0.167	-0.140	0.340 *	-0.054
パターン12	「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「声かけを簡単に」、「内科受診のため」、「家族からの依頼」の5項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「コンプレックスを確認」も多く、「複数のスタッフ」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「温度調節」、「清拭場所の調整」、「清拭時間を本人のペースで」、「清潔、血行など効果を説明」、「他者から誘導」などで構成された平均9.2項目の組み合わせ	-0.166	-0.081	0.385 *	-0.062	-0.026
パターン13	「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「温度調節」、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「気持ちをくつろがせる」の６項目を共通ベースとして、「清拭場所の調整」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「家族からの依頼」の４項目も多く、″清拭環境の調整″に高いウェイトを置き、ほぼ全分野にわたって構成された平均10.8項目の組み合わせ	0.159	-0.080	-0.067	-0.061	-0.026
パターン14	「トイレ時に実施」、「清潔、血行など効果を説明」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」の４項目を共通ベースとして、「複数のスタッフ」、「清拭場所の調整」、「１人で」、「温度調節」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	0.163	-0.082	-0.069	-0.062	-0.026

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－５－４－９）　清拭拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の状況
（高齢者パターン２“全介助、中高程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況 入浴・清拭という言葉を聞いても嫌がることは減った	徐々に清拭の声かけを受入れるようになった	拒否の回数が減り、応じる回数が増えた	拒否することが全くなくなった	清拭を始めると「気持ちがいい、こっちも拭いて」と手や足を出すようになった
全体		40	17.5	22.5	62.5	2.5	12.5
パターン1	「温度調節」、「信頼関係が出来ている介助者」、「部分から開始」、「お礼やねぎらいを」、「声かけの態度の工夫」の５項目を主として、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「薬を塗るため」、「家族からの依頼」、「内科受診のため」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均6.4項目の組み合わせ	3	28.3	28.9	42.7	0.0	0.0
パターン2	「声かけの態度の工夫」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「清拭時間を本人のペースで」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	2	0.0	60.1	39.9	0.0	0.0
パターン3	「お礼やねぎらいを」を共通ベースとして、「信頼関係が出来ている介助者」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「他者から誘導」、「家族からの依頼」、「清拭場所の調整」、「声かけの態度の工夫」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	3	0.6	26.5	15.7	28.7	28.6
パターン4	「声かけの態度の工夫」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「コンプレックスを確認」の4項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「トイレ時に実施」も多く、「お礼やねぎらいを」、「清潔、血行など効果を説明」、「薬を塗るため」、「温度調整」などで構成された平均7.8項目の組み合わせ	4	44.9	22.2	55.3	0.0	0.1
パターン5	「薬を塗るため」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」も多く、「気持ちをくつろがせる」、「部分から開始」、「信頼関係が出来ている介助者」、「複数のスタッフ」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.2項目の組み合わせ	1	0.5	1.0	98.5	0.0	0.0
パターン6	「清潔、血行など効果を説明」を共通ベースとして、「トイレ時に実施」も多く、「声かけを簡単に」、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	5	18.6	1.6	79.7	0.0	0.0
パターン7	「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「１人で」、「信頼関係が出来ている介助者」、「清潔、血行など効果を説明」、「トイレ時に実施」の６項目を共通ベースとして、「暖かいタオルを渡し自分で」、「清拭時間を本人のペースで」、「部分から開始」、「清拭布の温度」、「温度調節」、「コンプレックスを確認」など全分野にわたって構成された平均11.8項目と最多の組み合わせ	6	17.9	34.3	49.0	0.0	33.0
パターン8	「気持ちをくつろがせる」を共通ベースとして、「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「家族からの依頼」、「１人で」の４項目も多く、「複数のスタッフ」、「家族の協力」、「声かけを簡単に」、「他者から誘導」、「温度調節」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	2	0.0	0.0	99.9	0.0	0.0
パターン9	「家族からの依頼」を主として、「気持ちをくつろがせる」、「トイレ時に実施」、「家族の協力」、「信頼関係が出来ている介助者」、「内科受診のため」、「声かけを簡単に」などで構成された平均3.6項目と最少の組み合わせ	4	0.0	25.2	74.8	0.0	0.0
パターン10	「１人で」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「トイレ時に実施」の４項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」、「清潔、血行など効果を説明」、「お礼やねぎらいを」の３項目も多く、「清拭場所の調整」、「清拭布の温度」、「声かけを簡単に」、「薬を塗るため」、「コンプレックスを確認」、「暖かいタオルを渡し自分で」などで構成された平均8.4項目の組み合わせ	2	0.3	98.6	49.1	0.0	0.0
パターン11	「温度調節」、「声かけの態度の工夫」、「気持ちをくつろがせる」の３項目を共通ベースとして、「部分から開始」、「清拭時間を本人のペースで」、「信頼関係が出来ている介助者」、「家族の協力」、「コンプレックスを確認」、「お礼やねぎらいを」、「内科受診のため」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	4	25.0	0.0	100.0	0.0	49.9
パターン12	「声かけの態度の工夫」、「お礼やねぎらいを」、「声かけを簡単に」、「内科受診のため」、「家族からの依頼」の５項目を共通ベースとして、「気持ちをくつろがせる」と「コンプレックスを確認」も多く、「複数のスタッフ」、「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「温度調節」、「清拭場所の調整」、「清拭時間を本人のペースで」、「清潔、血行など効果を説明」、「他者から誘導」などで構成された平均9.2項目の組み合わせ	1	98.6	0.0	1.4	0.0	0.0
パターン13	「信頼関係が出来ている介助者」、「１人で」、「温度調節」、「清拭布の温度」、「コンプレックスを確認」、「気持ちをくつろがせる」の６項目を共通ベースとして、「清拭場所の調整」、「複数のスタッフ」、「声かけの態度の工夫」、「家族からの依頼」の４項目も多く、″清拭環境の調整″に高いウェイトを置き、ほぼ全分野にわたって構成された平均10.8項目の組み合わせ	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
パターン14	「トイレ時に実施」、「清潔、血行など効果を説明」、「声かけを簡単に」、「コンプレックスを確認」の４項目を共通ベースとして、「複数のスタッフ」、「清拭場所の調整」、「１人で」、「温度調節」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率によるパターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－５－５－１）　清拭拒否の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
		計（延解決方法件数）	1,267	100.0
認知能力	1	認知機能	50	3.9
	2	認知症の種類	14	1.1
	3	見当識	14	1.1
	4	妄想の有無	18	1.4
健康面	5	現病・既往歴	32	2.5
	6	バイタル	21	1.7
	7	失禁有無	55	4.3
	8	排泄状況	43	3.4
	9	清潔度	124	9.8
	10	食欲	4	0.3
	11	睡眠時間・状況	12	0.9
	12	皮膚疾患	77	6.1
	13	生理	3	0.2
能力・機能	14	歩行・下肢機能	16	1.3
	15	着脱能力	10	0.8
	16	言語理解	50	3.9
	17	上肢機能	4	0.3
心理面	18	気分	372	29.4
	19	本人の気持ち、意志	584	46.1
	20	興味・関心	136	10.7
清拭方法	21	清拭時間帯	98	7.7
	22	清拭タオルの温度	75	5.9
拒否時の状態	28	清拭拒否の開始時期	21	1.7
入浴習慣	29	入浴習慣（自宅）	65	5.1
	30	浴室環境（自宅）	32	2.5
	31	生活歴（幼少期から）	46	3.6
	32	過去の入浴体験	55	4.3
人間関係	33	他の入居者との関係	66	5.2
	34	スタッフとの関係	383	30.2
	35	家族関係	69	5.4
介護者の対応	36	スタッフの声かけ内容・見守り方	446	35.2
	37	介護者の性別	104	8.2
	38	介助者の人数	25	2.0
その他	39	性格	193	15.2
	40	性別	32	2.5
	41	下着の状態	32	2.5
	42	趣味	13	1.0
	43	着替えのストック	12	0.9
	44	その他	46	3.6

（参考）平均記入項目数 →　2.7

（表２－５－５－２）清拭拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン

（潜在クラス 18 クラスモデルのプロフィール）

（n=1267）

区分	code	解決に役立った情報	全体	パターン1 「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」などで構成された平均2.3項目の組み合わせ	パターン2 「スタッフとの関係」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を主として、「気分」などで構成された平均2.0項目の組み合わせ	パターン3 「気分」を主として、「清拭タオルの温度」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均2.2項目の組み合わせ	パターン4 「性格」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	パターン5 「清潔度」、「皮膚疾患」、「失禁有無」、「排泄状況」など"健康面"にウェイトを置いて構成された平均2.7項目の組み合わせ	パターン6 「スタッフとの関係」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」の3項目を共通ベースとして、「気分」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ	パターン7 「興味・関心」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」や「気分」の"心理面"にウェイトを置いて構成された平均2.8項目の組み合わせ	パターン8 「本人の気持ち、意志」、「清潔度」、「清拭時間帯」、「入浴習慣（自宅）」などで構成された平均2.6項目の組み合わせ	パターン9 「家族関係」、「入浴習慣（自宅）」、「浴室環境（自宅）」などで構成された平均1.6項目と最少の組み合わせ	パターン10 「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「介護者の性別」、「下着の状態」、「気分」、「失禁有無」、「清拭時間帯」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	パターン11 「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」、「生活歴（幼少期から）」、「言語理解」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン12 「他の入居者との関係」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「本人の気持ち、意志」、「性格」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	パターン13 「性格」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「清拭時間帯」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ	パターン14 「過去の入浴体験」を共通ベースとして、「生活歴（幼少期から）」、「入浴習慣（自宅）」、「本人の気持ち、意志」、「認知機能」、「家族関係」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	パターン15 「気分」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」の3項目を共通ベースとして、「介護者の性別」と「興味・関心」も多く、「言語理解」などで構成された平均4.7項目と最多の組み合わせ	パターン16 「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」も多く、「排泄状況」、「着脱能力」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	パターン17 「妄想の有無」を共通ベースとして、「現病・既往歴」、「性格」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン18 「興味・関心」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「性別」、「趣味」の3項目も多く、「介護者の性別」、「他の入居者との関係」、「認知機能」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ
		クラスサイズ	1.000	0.178	0.142	0.108	0.075	0.068	0.068	0.059	0.057	0.048	0.041	0.037	0.034	0.023	0.016	0.015	0.015	0.012	0.006
認知能力	1	認知機能	0.040	0.023	0.008	0.082	0.000	0.094	0.088	0.018	0.000	0.000	0.000	0.141	0.000	0.032	0.239	0.000	0.000	0.060	0.259
	2	認知症の種類	0.011	0.000	0.000	0.000	0.000	0.024	0.081	0.000	0.000	0.000	0.021	0.019	0.000	0.034	0.000	0.000	0.000	0.137	0.000
	3	見当識	0.011	0.000	0.000	0.052	0.010	0.000	0.000	0.013	0.000	0.000	0.000	0.000	0.023	0.000	0.000	0.000	0.165	0.064	0.000
	4	妄想の有無	0.014	0.000	0.002	0.009	0.000	0.000	0.000	0.014	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.053	0.000	0.989	0.000
健康面	5	現病・既往歴	0.025	0.004	0.000	0.039	0.000	0.138	0.022	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.024	0.103	0.051	0.000	0.105	0.343	0.000
	6	バイタル	0.017	0.009	0.000	0.071	0.000	0.034	0.000	0.000	0.075	0.000	0.000	0.000	0.024	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	7	失禁有無	0.043	0.026	0.000	0.000	0.000	0.340	0.000	0.000	0.032	0.019	0.223	0.056	0.000	0.000	0.051	0.000	0.060	0.000	0.000
	8	排泄状況	0.034	0.000	0.000	0.004	0.000	0.299	0.062	0.000	0.000	0.000	0.077	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.280	0.137	0.000
	9	清潔度	0.098	0.047	0.000	0.111	0.018	0.516	0.020	0.107	0.482	0.029	0.088	0.000	0.025	0.001	0.000	0.000	0.001	0.000	0.001
	10	食欲	0.003	0.000	0.000	0.010	0.000	0.012	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.035	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	11	睡眠時間・状況	0.010	0.000	0.000	0.046	0.010	0.035	0.000	0.000	0.024	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	12	皮膚疾患	0.061	0.019	0.012	0.059	0.000	0.478	0.013	0.059	0.070	0.000	0.000	0.025	0.018	0.066	0.111	0.000	0.244	0.000	0.001
	13	生理	0.002	0.000	0.000	0.000	0.000	0.030	0.000	0.000	0.000	0.007	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
能力・機能	14	歩行・下肢機能	0.013	0.004	0.000	0.040	0.020	0.000	0.000	0.000	0.000	0.019	0.090	0.000	0.000	0.000	0.038	0.000	0.058	0.000	0.000
	15	着脱能力	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.012	0.000	0.000	0.030	0.000	0.037	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.263	0.000	0.000
	16	言語理解	0.040	0.000	0.050	0.000	0.000	0.046	0.094	0.000	0.044	0.000	0.093	0.222	0.024	0.024	0.000	0.291	0.180	0.000	0.000
	17	上肢機能	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.019	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.108	0.000	0.130
心理面	18	気分	0.294	0.296	0.194	0.620	0.172	0.001	0.476	0.523	0.049	0.107	0.309	0.481	0.147	0.436	0.001	0.997	0.132	0.001	0.002
	19	本人の気持ち、意志	0.461	0.998	0.003	0.210	0.301	0.206	0.861	0.662	0.508	0.003	0.183	0.998	0.307	0.750	0.342	0.997	0.084	0.277	0.008
	20	興味・関心	0.107	0.000	0.075	0.048	0.000	0.000	0.134	0.837	0.024	0.025	0.000	0.159	0.000	0.244	0.152	0.682	0.000	0.000	0.992
清拭方法	21	清拭時間帯	0.077	0.055	0.000	0.140	0.010	0.000	0.081	0.000	0.425	0.000	0.215	0.000	0.119	0.339	0.051	0.000	0.000	0.069	0.001
	22	清拭タオルの温度	0.059	0.086	0.011	0.278	0.022	0.069	0.000	0.052	0.000	0.000	0.056	0.000	0.000	0.024	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
拒否時の状態	28	清拭拒否の開始時期	0.017	0.000	0.000	0.010	0.000	0.000	0.023	0.000	0.067	0.000	0.076	0.000	0.071	0.099	0.155	0.000	0.000	0.000	0.000
入浴習慣	29	入浴習慣（自宅）	0.051	0.024	0.001	0.035	0.047	0.000	0.000	0.000	0.236	0.263	0.000	0.157	0.024	0.000	0.317	0.000	0.138	0.000	0.000
	30	浴室環境（自宅）	0.025	0.010	0.000	0.039	0.000	0.000	0.000	0.000	0.044	0.218	0.000	0.146	0.000	0.000	0.050	0.000	0.000	0.000	0.000
	31	生活歴（幼少期から）	0.036	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.018	0.129	0.000	0.400	0.024	0.107	0.492	0.000	0.115	0.069	0.134
	32	過去の入浴体験	0.043	0.056	0.032	0.000	0.015	0.014	0.000	0.015	0.054	0.001	0.047	0.039	0.000	0.031	0.993	0.000	0.221	0.000	0.000
人間関係	33	他の入居者との関係	0.052	0.000	0.044	0.000	0.000	0.016	0.000	0.102	0.000	0.000	0.000	0.000	0.990	0.027	0.051	0.000	0.000	0.206	0.259
	34	スタッフとの関係	0.302	0.252	0.650	0.058	0.395	0.034	0.997	0.198	0.083	0.127	0.083	0.168	0.372	0.002	0.112	0.005	0.703	0.256	0.003
	35	家族関係	0.055	0.032	0.040	0.000	0.082	0.000	0.012	0.071	0.000	0.413	0.025	0.148	0.000	0.000	0.201	0.000	0.000	0.207	0.001
介護者の対応	36	スタッフの声かけ内容・見守り方	0.352	0.290	0.645	0.181	0.315	0.183	0.846	0.033	0.175	0.126	0.340	0.146	0.118	0.897	0.062	0.932	0.828	0.324	0.577
	37	介護者の性別	0.082	0.037	0.156	0.000	0.117	0.000	0.174	0.000	0.027	0.000	0.327	0.000	0.051	0.000	0.112	0.739	0.085	0.000	0.383
	38	介助者の人数	0.020	0.030	0.075	0.000	0.000	0.000	0.000	0.016	0.000	0.033	0.030	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
その他	39	性格	0.152	0.000	0.001	0.034	0.992	0.000	0.174	0.036	0.128	0.001	0.090	0.171	0.287	0.996	0.166	0.001	0.197	0.344	0.144
	40	性別	0.025	0.016	0.018	0.000	0.135	0.000	0.000	0.000	0.000	0.024	0.077	0.000	0.071	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.518
	41	下着の状態	0.025	0.000	0.000	0.000	0.016	0.151	0.000	0.000	0.000	0.000	0.319	0.000	0.000	0.000	0.050	0.000	0.000	0.000	0.000
	42	趣味	0.010	0.000	0.031	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.050	0.021	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.517
	43	着替えのストック	0.010	0.012	0.000	0.000	0.000	0.000	0.012	0.015	0.000	0.048	0.081	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
		（参考）平均項目数 →	2.7	2.3	2.0	2.2	2.7	2.7	4.2	2.8	2.6	1.6	3.0	3.5	2.7	4.2	3.8	4.7	4.0	3.5	3.9
		該当事例数 →	(1267)	(226)	(179)	(137)	(95)	(87)	(86)	(75)	(72)	(61)	(51)	(47)	(43)	(29)	(20)	(19)	(18)	(15)	(8)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－５－５－３）潜在クラスモデル評価（清拭拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1（クラス数1）	19372.5	19177.1	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2（クラス数2）	19287.1	18890.9	0.128	0.648	0.538	0.593
モデル3（クラス数3）	19347.1	18750.3	0.182	0.635	0.553	0.561
モデル4（クラス数4）	19521.4	18724.0	0.216	0.613	0.546	0.529
モデル5（クラス数5）	19700.2	18702.2	0.254	0.632	0.560	0.528
モデル6（クラス数6）	19880.2	18681.5	0.263	0.639	0.596	0.543
モデル7（クラス数7）	20087.9	18688.6	0.298	0.621	0.588	0.523
モデル8（クラス数8）	20290.7	18690.8	0.273	0.612	0.603	0.528
モデル9（クラス数9）	20491.9	18691.3	0.281	0.628	0.621	0.545
モデル 10（クラス数 10）	20707.7	18706.5	0.273	0.658	0.653	0.566
モデル 11（クラス数 11）	20942.6	18740.8	0.300	0.630	0.643	0.542
モデル 12（クラス数 12）	21185.5	18783.1	0.260	0.674	0.678	0.588
モデル 13（クラス数 13）	21389.8	18786.7	0.255	0.690	0.691	0.591
モデル 14（クラス数 14）	21606.1	18802.4	0.260	0.675	0.691	0.588
モデル 15（クラス数 15）	21863.5	18859.2	0.236	0.715	0.725	0.634
モデル 16（クラス数 16）	22089.3	18884.3	0.273	0.680	0.702	0.588
モデル 17（クラス数 17）	22290.3	18884.7	0.194	0.770	0.779	0.688
モデル 18（クラス数 18）	22563.6	18957.3	0.176	0.786	0.792	0.707
モデル 19（クラス数 19）	22764.2	18957.3	0.211	0.759	0.780	0.672
モデル 20（クラス数 20）	23060.6	19053.1	0.239	0.724	0.756	0.635

（表２－５－５－４）清拭拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

【比率】（縦100）

区分	code	解決方法	合計	情報の組み合わせパターン																	
				パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17	パターン18
				「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」などで構成された平均2.3項目の組み合わせ	「スタッフとの関係」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を主として、「気分」などで構成された平均2.0項目の組み合わせ	「気分」を主として、「清拭タオルの温度」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均2.2項目の組み合わせ	「性格」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	「清潔度」、「皮膚疾患」、「失禁有無」、「排泄状況」など"健康面"にウェイトを置いて構成された平均2.7項目の組み合わせ	「スタッフとの関係」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」の3項目を共通ベースとして、「気分」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ	「興味・関心」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」や「気分」の"心理面"にウェイトを置いて構成された平均2.8項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」、「清潔度」、「清拭時間帯」、「入浴習慣（自宅）」などで構成された平均2.6項目の組み合わせ	「家族関係」、「入浴習慣（自宅）」、「浴室環境（自宅）」などで構成された平均1.6項目と最少の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「介護者の性別」、「下着の状態」、「気分」、「失禁有無」、「清拭時間帯」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」、「生活歴（幼少期から）」、「言語理解」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	「他の入居者との関係」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「本人の気持ち、意志」、「性格」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	「性格」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「清拭時間帯」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ	「過去の入浴体験」を共通ベースとして、「生活歴（幼少期から）」、「入浴習慣（自宅）」、「本人の気持ち、意志」、「認知機能」、「家族関係」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	「気分」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」の3項目を共通ベースとして、「介護者の性別」と「興味・関心」も多く、「言語理解」などで構成された平均4.7項目と最多の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」も多く、「排泄状況」、「着脱能力」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	「妄想の有無」を共通ベースとして、「現病・既往歴」、「性格」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	「興味・関心」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「性別」、「趣味」の3項目も多く、「介護者の性別」、「他の入居者との関係」、「認知機能」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ
延べ方法件数 →			1,267	226	179	137	95	87	86	75	72	61	51	47	43	29	20	19	18	15	8
清拭方法の工夫	101	暖かいタオルを渡し自分で	2.5	3.5	0.5	6.4	2.6	1.9	1.1	3.4	3.1	1.3	1.2	0.8	0.0	2.6	0.0	0.0	5.5	6.9	0.0
	102	部分から開始	4.3	6.5	0.4	6.2	1.6	3.8	4.1	2.3	9.2	5.9	1.3	5.6	0.0	7.9	1.7	5.2	14.8	0.0	0.0
	103	トイレ時に実施	4.7	3.0	0.8	5.0	0.2	21.6	4.1	0.5	13.2	1.3	13.1	0.7	2.3	0.0	5.1	5.3	5.9	6.3	0.0
	104	清拭時間を本人のペースで	2.9	3.8	0.0	3.1	1.1	2.4	2.2	1.5	9.6	1.4	3.2	1.4	2.4	6.9	9.3	0.5	5.4	6.9	13.0
	105	気持ちをくつろがせる	7.7	9.4	8.0	9.3	2.4	2.3	5.8	16.9	5.1	2.1	7.7	17.8	3.3	6.0	5.4	17.0	0.6	12.8	13.5
	190	その他	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
誘導の工夫	201	家族からの依頼	4.4	4.7	2.0	1.6	5.6	0.5	1.3	10.3	2.0	22.9	0.4	8.4	0.0	8.0	10.0	0.5	0.2	6.9	0.0
	202	内科受診のため	2.8	2.8	1.1	2.2	1.9	3.0	2.6	5.3	3.9	8.8	0.9	2.8	0.3	3.6	10.2	0.0	0.2	0.0	13.0
	203	薬を塗るため	3.9	3.6	1.3	5.6	0.2	20.5	1.1	4.7	4.8	0.3	0.4	0.5	0.0	9.5	0.0	0.5	7.9	0.1	0.4
	204	清潔、血行など効果を説明	5.0	3.4	2.7	3.0	2.2	22.9	2.7	4.9	6.2	0.5	17.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5	0.0	1.4
	205	他者から誘導	1.7	0.4	0.9	0.6	0.0	0.0	0.0	6.7	1.4	0.1	0.1	0.3	22.0	0.0	5.0	0.1	0.0	6.9	0.0
	206	介助者と一緒に	0.2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1	1.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	208	入浴前に散歩する	0.1	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
	209	医者の指示と伝える	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	290	その他	0.4	0.3	0.0	0.2	0.8	1.2	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	2.6	5.0	0.5	0.0	0.0	0.0
声かけの工夫	301	声かけの態度の工夫	10.5	9.4	22.4	6.9	15.5	0.9	19.4	6.2	2.0	4.3	5.4	8.6	2.8	19.7	4.5	16.7	4.3	11.7	14.3
	302	声かけを簡単に	3.8	2.5	6.1	2.4	3.4	2.2	5.9	2.6	4.2	0.9	2.5	3.5	0.0	6.8	5.7	11.0	12.2	0.0	27.8
	303	お礼やねぎらいを	6.8	6.2	11.9	3.6	15.4	0.3	11.9	7.7	2.8	1.7	7.3	4.0	0.6	7.1	4.4	7.2	2.2	6.9	2.0
	304	本人のペースで声かけ	0.4	0.2	0.5	1.3	0.0	0.0	1.8	0.1	0.1	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
	305	好きな話題をしながら	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	2.3	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	306	温泉に誘う	0.2	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	390	その他	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清拭環境の調整	401	温度調節	4.6	6.3	1.0	12.9	2.0	2.2	1.2	2.6	9.9	10.0	1.6	5.3	0.0	0.1	0.0	0.5	0.1	0.0	13.1
	402	清拭布の温度	3.2	4.0	1.3	12.5	0.0	1.8	0.2	4.4	2.2	0.2	3.2	3.2	2.4	0.0	7.7	0.1	0.2	0.0	0.0
	403	清拭場所の調整	3.3	4.0	0.8	5.9	2.5	0.1	3.0	4.5	2.7	4.4	2.0	6.6	5.3	7.7	2.7	0.2	1.0	6.9	0.0
	404	1人で	5.9	9.6	3.9	3.3	4.3	6.0	1.9	3.7	7.6	3.0	5.0	5.3	27.1	3.4	2.7	14.6	0.4	0.1	0.0
	490	その他	0.2	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介助者の工夫	501	信頼関係が出来ている介助者	8.1	2.9	17.0	1.7	20.7	0.7	17.8	4.9	2.9	6.4	6.1	3.4	6.1	1.3	8.6	13.7	17.4	13.8	0.0
	502	複数のスタッフ	3.7	2.7	11.2	2.5	2.2	0.4	4.0	1.6	1.8	2.5	4.9	0.5	5.4	5.8	0.9	0.5	1.9	0.0	1.4
	503	家族の協力	2.0	1.6	1.1	0.3	2.8	0.0	0.1	1.8	1.4	16.5	0.2	3.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.1	13.7	0.0
	590	その他	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	601	コンプレックスを確認	5.8	8.1	3.5	1.6	11.6	2.7	5.3	1.1	1.9	5.2	15.9	10.5	17.5	0.5	5.8	5.9	5.9	0.0	0.0
	690	その他	0.4	0.0	0.0	1.1	1.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－５－６－１）絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	無理矢理裸にして拭く	汚い、臭いから拭きましょうと声をかける	放っておいて全く関わらない	本人の気分を無視して行う	だますような声かけをする	強引な誘いや命令・指示的な声かけをする	その他
実数	238	222	182	214	208	113	215	20
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	93.3	76.5	89.9	87.4	47.5	90.3	8.4

５．洗髪拒否への成功事例調査

１）回答者属性

本調査の回答 296 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

（１）年齢

有効回答 285 件における回答者の平均年齢は、41.4 歳（SD12.8 歳）で最少年齢が 19 歳、最高年齢が 88 歳であった。（表２－６－１－１参照）

（２）性別割合

有効回答 291 件中、回答者の性別割合は男性が 75 件（25.8%）、女性が 216 件（74.2%）と女性の割合が多かった。（表２－６－１－２参照）

（３）職名の割合

有効回答 275 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 144 件（52.4%）、ケアマネージャーが 73 件（26.5%）、相談員が 10 件（3.6%）、看護師が 6 件（2.2%）となっている。（表２－６－１－３参照）

（４）役職の割合

有効回答 270 件中、回答者の役職の割合は管理者が 93 件（34.4%）、主任・リーダーが 72 件（26.7%）、施設長が 16 件（5.9%）、事務長と理事長が各 1 件（0.4%）で、95 件（35.2%）が役職なしであった。（表２－６－１－４参照）

（５）資格の所有割合

有効回答 283 件中、回答者の資格の所有割合は介護福祉士が 170 件（60.1%）、ヘルパーが 125 件（44.2%）、ケアマネージャーが 94 件（33.2%）、看護師（准看護師）が 19 件（6.7%）、社会福祉士が 15 件（5.3%）であった。（表２－６－１－５参照）

（６）所属事業種の割合

有効回答 283 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 277 件（97.9%）、介護老人福祉施設が 3 件（1.1%）、介護老人福祉施設（ユニット型）が 2 件（0.7%）、小規模多機能型通所介護事業が 1 件（0.4%）であった。（表２－６－１－６参照）

（７）所属事業所での勤続年数

有効回答 288 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.2 年（SD2.7 年）で最少が 0.1 年、最高が 15.0 年であった。（表２－６－１－７参照）

（８）総介護経験年数

有効回答 282 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、8.6 年（SD5.2 年）で最少が 0.5 年、最高が 29.5 年であった。（表２－６－１－８参照）

２）洗髪拒否の解決経験

本調査に回答を得た 296 件における洗髪拒否の解決経験、解決した高齢者に関す

る年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とＡＤＬ、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

（１）解決経験の有無

有効回答 291 件中、洗髪拒否で解決経験があるのは 276 件（94.8%）であった。（表２－６－２－１参照）

（２）高齢者の状態

①　年齢

解決経験がある 276 件のうち有効回答 262 件における高齢者の平均年齢は、84.6 歳（SD6.9 歳）で最少年齢が 46 歳、最高年齢が 99 歳であった。その分布をみると、85 歳～89 歳が 85 件（32.4%）で最も多い。（表２－６－２－２参照）

②　性別

性別割合は、有効回答 271 件中、男性が 30 件（11.1%）、女性が 241 件（88.9%）と女性が多い。（表２－６－２－３参照）

③　認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 257 件中、アルツハイマー型が 170 件（66.1%）、脳血管疾患型が 45 件（17.5%）、前頭側頭型が 4 件（1.6%）、混合が 8 件（3.1%）であった。（表２－６－２－４参照）

④　身体機能の障害とＡＤＬ

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 276 件中、下肢が 45 件（16.3%）、上肢が 5 件（1.8%）、体幹が 3 件（1.1%）であり、残りの 223 件（80.8%）が機能障害なし（＝無回答）であった。（表２－６－２－５参照）

【食事介助】

食事介助は、有効回答 258 件中、自立が 210 件（81.4%）、一部介助が 44 件（17.1%）、全介助が 4 件（1.6%）であった。（表２－６－２－６参照）

【移動】

移動は、有効回答 235 件中、短距離歩行自立が 120 件（51.1%）、長距離歩行自立が 82 件（34.9%）、杖自立が 28 件（11.9%）であった。（表２－６－２－７参照）

【排泄】

排泄は、有効回答 236 件中、身体介助必要が 91 件（38.6%）、身体介助必要なしが 145 件（61.4%）であった。（表２－６－２－８参照）

【入浴】

入浴は、有効回答 263 件中、全介助が 36 件（13.7%）、洗身洗髪介助が 118 件（44.9%）、移動介助が 18 件（6.8%）、その他一部介助が 66 件（25.1%）で、自立が 25 件（9.5%）であった。（表２－６－２－９参照）

⑤　認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 274 件中、ランクⅠが 32 件（11.7%）、ランクⅡが 73 件（26.6%）、ランクⅢが 95 件（34.7%）、ランクⅣが 66 件（24.1%）、ランクⅤが 8 件（2.9%）であった。（表２－６－２－１０参照）

⑥　身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 265 件中、Ｊランクが 44 件（16.6%）、Ａランクが 190 件（71.7%）、Ｂランクが 28 件（10.6%）、Ｃランクが 3 件（1.1%）であった。（表２－６－２－１１参照）

⑦　高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、入浴介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析（注 1）を行った結果 3 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、入浴介助で洗身洗髪介助（50.5%）とその他一部介助（32.8%）が多く、身体障害の重症度でＡランク（86.7%）が多く、認知症の重症度でランクⅡ（40.7%）とランクⅢ（37.7%）の中程度が多いことから、これを「一部介助、中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 229 件のうち 144 件（62.9%）が該当する。

第 2 パターンは、入浴介助で全介助（46.3%）と洗身洗髪介助（43.0%）が多く、身体障害の重症度でＢランク（37.5%）とＡランク（57.8%）が多く、認知症の重症度でランクⅣ（52.6%）とランクⅢ（41.1%）が多いことから、これを「全介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 66 件（28.8%）が該当する。

第 3 パターンは、入浴介助で自立（48.5%）と洗身洗髪介助（30.7%）が多く、身体障害の重症度でＪランク（86.0%）が多く、認知症の重症度でランクⅠ（52.5%）とランクⅡ（21.7%）が多いことから、これを「自立、軽中程度重症度」と解釈した。このパターンには 18 件（7.9%）が該当する。（表２－６－２－１２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－６－２－１３参照）

（注 1）潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、入浴介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団（これをクラスと呼ぶ）を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル（クラス数）を評価する指標としてＡＩＣやＢＩＣなどの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である（注 2 参照）。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

３）解決前と解決後の変化

洗髪拒否で解決経験がある 276 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出するとともに、解決前後の関連を分析し、高齢者パターンによる差異も確認した。

（１）解決前の状況

洗髪拒否が解決される前の状況としては、有効回答 275 件中、「入浴はするが、洗髪は嫌がっていた」が 141 件（51.3%）、「顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた」が 116 件（42.2%）、「大きな声を出して拒否していた」が 114 件（41.5%）、「脱衣することを嫌がった」が 81 件（29.5%）、「湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった」が 64 件（23.3%）、「洗髪できても、入浴後も機嫌が悪かった」が 28 件（10.2%）、「シャンプーはできても、流すことができなかった」が 14 件（5.1%）であった。（表２－６－３－１参照）

（２）解決後の状況

洗髪拒否が解決された後の状況としては、有効回答 273 件中、「入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた」が 149 件（54.6%）、「徐々に洗える日が多くなった」が 147 件（53.8%）、「洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した」が 65 件（23.8%）、「後ろ髪は嫌がらずに洗えた」が 16 件（5.9%）、「自分で洗髪するようになった」が 15 件（5.5%）、「洗ってほしいと訴えることもでてきた」が 12 件（4.4%）、「理容室では洗髪できた」が 9 件（3.3%）であった。（表２－６－３－２参照）

（３）解決前後の関連

解決前後それぞれの項目重複による影響排除のために、パターン化を経て分析することにした。

①　解決前のパターン

パターン化に用いた方法は潜在クラス分析である。

解決前は 5 パターンであり、第 1 は、「入浴はするが、洗髪は嫌がっていた」（99.8％）に加えて、「大きな声を出して拒否していた」（15.4％）や「顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた」（11.7％）を若干伴っている。これに該当する事例が 72 件（34.3％）であり、“入浴はするが、洗髪は嫌がっていた”パターンと表示する。

第 2 は、「顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた」（84.3％）に加えて、「大きな声を出して拒否していた」（63.1％）や「脱衣することを嫌がった」（40.6％）を多く伴っている。これに該当する事例が 54 件（25.7％）であり、“手で払いのけ、大声で拒否したり、脱衣を嫌がったり”パターンと表示する。

第 3 は、「脱衣することを嫌がった」（62.4％）や「湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった」（45.9％）が多く、「大きな声を出して拒否していた」（29.2％）や「入浴はするが、洗髪は嫌がっていた」（23.7％）を伴っている。これに該当する事例が 37 件（17.6％）であり、“脱衣を嫌がったり、湯が頭にかかることを嫌がっていた”パターンと表示する。

第 4 は、「顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた」（98.8％）、「湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった」（96.0％）、「大きな声を出して拒否していた」（82.5％）の３項目に加えて、「入浴はするが、洗髪は嫌がっていた」（49.3％）や「脱衣することを嫌がった」（45.0％）など多面的な状況を伴っている。これに該当する事例が 33 件（15.7％）であり、“複合的洗髪拒否”パターンと表示する。

第 5 は、「洗髪できても、入浴後も機嫌が悪かった」（87.4％）に加えて、「入浴はするが、洗髪は嫌がっていた」（58.5％）、「顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた」（42.0％）、「大きな声を出して拒否していた」（33.7％）を伴っている。これに該当する事例が 13 件（6.2％）であり、“手で払いのけ、洗髪は嫌がって、入浴後も機嫌悪かった”パターンと表示する。（表２－６－３－３参照）

なお潜在クラスモデルの評価に際しては、3 クラスから 5 クラスまでの 3 モデルの情報量規準のＡＩＣが僅差のため、クラスの解釈が最も妥当と判断される 5 クラスモデルを採用した。（表２－６－３－４参照）

② 解決後のパターン

解決後は 5 パターンであり、第 1 は、「徐々に洗える日が多くなった」（99.8％）に加えて、「入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた」（23.2％）を多少伴っている。これに該当する事例が 71 件（33.8％）であり、“徐々に洗える日が多くなった”パターンと表示する。

第 2 は、「入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた」（99.8％）にほぼ集中している。これに該当する事例が 57 件（27.1％）であり、“入浴への誘導、洗髪に抵

抗が薄れた”パターンと表示する。

第 3 は、「洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した」(97.6%)に加えて、「徐々に洗える日が多くなった」(65.1%) や「入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた」(64.5%) を伴っている。これに該当する事例が 45 件 (21.4%) であり、“暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった”パターンと表示する。

第 4 は、「後ろ髪は嫌がらずに洗えた」(56.0%)、「洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した」(55.9%)、「入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた」(44.7%)、「徐々に洗える日が多くなった」(36.0%) などが複合されている。これに該当する事例が 19 件 (9.0%) であり、“後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した”パターンと表示する。

第 5 は、「自分で洗髪するようになった」(62.0%)、「徐々に洗える日が多くなった」(47.6%)、「洗ってほしいと訴えることもでてきた」(25.3%)、「入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた」(23.7%) などで構成されている。これに該当する事例が 18 件 (8.6%) であり、“洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった”パターンと表示する。(表２－６－３－５参照)

なお潜在クラスモデルの評価に際しては、3 クラスから 5 クラスまでの 3 モデルの情報量規準のＡＩＣが僅差のため、クラスの解釈が最も妥当と判断される 5 クラスモデルを採用した。(表２－６－３－６参照)

③　解決前後のパターンの関連

各パターンへの帰属確率の相関によって解決前後の関連分析をした。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では 5 つの変化傾向がみられる。1 つめは、解決前パターン 4 (複合的洗髪拒否) から、解決後パターン 3 (暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった) へと変化する傾向であり、有意水準 1%で相関が認められる。

2 つめは、解決前パターン 1 (入浴はするが、洗髪は嫌がっていた) から、解決後パターン 1 (徐々に洗える日が多くなった) へと変化する傾向であり、有意水準 1%で相関が認められる。

3 つめは、解決前パターン 1 (入浴はするが、洗髪は嫌がっていた) から、解決後パターン 5 (洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった) へと変化する傾向であり、有意水準 1%で相関が認められる。

4 つめは、解決前パターン 3 (脱衣を嫌がったり、湯が頭にかかることを嫌がっていた) から、解決後パターン 2 (入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた) へと変化する傾向であり、有意水準 1%で相関が認められる。

5つめは、解決前パターン2（手で払いのけ、大声で拒否したり、脱衣を嫌がったり）から、解決後パターン3（暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。（表２－６－３－７参照）

次に高齢者パターン1（一部介助、中程度重症度）に限定してみると、上記5つの傾向のうち、1つめから3つめと5つめの傾向が認められるが、4つめの傾向は認められない。（表２－６－３－８参照）

高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）に限定してみるとやや違った傾向がみられる。全体でみた3つめと4つめの傾向はここでもみられるが、解決前パターン5（手で払いのけたり、洗髪は嫌がって、入浴後も機嫌悪かった）から、解決後パターン4（後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した）へと変化する傾向がみられ、有意水準1%で相関が認められる。（表２－６－３－９参照）

高齢者パターン3（自立、軽中程度重症度）に限定してみると、解決前パターン5（手で払いのけたり、洗髪は嫌がって、入浴後も機嫌悪かった）から、解決後パターン4（後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した）へと変化する傾向だけがみられ、有意水準1%で相関が認められる。（表２－６－３－１０参照）

このように、解決前後の変化は高齢者パターンによってやや異なることがわかる。

（４）高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した(注2)。

解決前の状況は、高齢者パターン1（一部介助、中程度重症度）と高齢者パターン3（自立、軽中程度重症度）はほぼ似通った傾向であるのに対して、高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）がやや異なっている。

高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）では、「顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた」（62.5%）と「大きな声を出して拒否していた」（60.9%）が際立って多く、他のパターンとの格差が大きい。また、「湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった」(39.1%)、「入浴はするが、洗髪は嫌がっていた」（35.9%）、「脱衣することを嫌がった」（34.4%）の3項目が同程度の割合であがっているが、「湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった」が他の2パターンを大きく上回っている。（表２－６－３－１１参照）

解決後の状況については、高齢者パターン3（自立、軽中程度重症度）で「徐々に洗える日が多くなった」（76.5%）が他の2パターンより多くみられる。また、高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）では、「洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した」（40.5%）が他の2パターンより多くみられる。（表２－６－３

－１２参照)

（注 2）潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス 1 に対して 0.97、クラス 2 に対して 0.03、（全クラスへの帰属確率合計は 1.00 である）となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

4）洗髪拒否の解決方法

洗髪拒否で解決経験がある 239 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

（1）解決方法の概況

洗髪拒否を解決する時に行った解決方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 40 分類した。分類結果は、洗髪方法の工夫に関するものが 15 分類、声かけ・誘導の工夫に関するものが 9 分類、洗髪環境の調整に関するものが 5 分類、介助者の工夫に関するものが 6 分類、その他が 5 分類であった。

有効回答 274 件のなかで多くあがったものは、「声かけの態度を工夫」が 177 件 (64.6%)、「お礼やねぎらい」が 142 件 (51.8%)、「一部分から」が 112 件 (40.9%)、「不安を除きながら」が 107 件 (39.1%)、「湯温調整」が 104 件 (38.0%)、「好きな話題で会話しながら」が 102 件 (37.2%)、「単純な声かけ」が 90 件 (32.8%)、「顔に湯がかからない工夫」が 88 件 (32.1%)、「浴室温度調整」が 77 件 (28.1%)、「介助者の工夫」が 65 件 (23.7%)、「湯船につかったり、洗身してから」が 63 件 (23.0%)、「１人で」が 61 件 (22.3%)、「洗髪の効能を説明」が 59 件 (21.5%)、「洗髪後の手入れを行う」が 56 件 (20.4%) などであり、1 事例あたり平均 5.5 項目あげられた。(表２－６－４－１参照)

（2）解決方法の組み合わせパターン

40 分類のなかから 1 事例平均 5.5 の方法で構成された解決方法を実際の組み合わせに高い確率で近似するパターンを得るために潜在クラス分析を応用した (注 3)。

その結果 18 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 9.5 項目の組み合わせであり、「温度調節」(99.9%)、「声かけの態度を工夫」(96.3%)、「お礼やねぎらい」(81.9%)、「一部分から」(89.2%)、「洗髪後の手入れを行う」(78.5%) の 5 項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」(66.4%)、「好きな話題で会話しながら」(57.5%)、「浴室温度調整」(71.6%) の 3 項目も多く、「顔に湯がかからない工夫」(43.5%)、「湯船につか

ったり、洗身してから」(43.0%)、「１人で」(44.0%)、「コンプレックスを確認」(36.9%) などで構成されている。第 1 パターンの該当事例は 31 件 (11.3%) である。

第 2 パターンは平均 4.4 項目の組み合わせであり、「お礼やねぎらい」(99.8%) を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」(74.8%) も多く、「不安を除きながら」(45.7%)、「湯船につかったり、洗身してから」(38.2%)、「一部分から」(36.8%)、「単純な声かけ」(30.3%)、「好きな話題で会話しながら」(29.9%)、「洗髪の効能を説明」(25.5%) などで構成されている。第 2 パターンに該当する事例は 25 件 (9.1%) である。

第 3 パターンは平均 4.5 項目の組み合わせであり、「洗髪の効能を説明」(84.0%) を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」(74.4%) も多く、「お礼やねぎらい」(33.5%)、「単純な声かけ」(29.9%)、「不安を除きながら」(37.9%)、「顔に湯がかからない工夫」(30.7%)、「好きなシャンプー、リンスを使用」(42.9%)、「浴室温度調整」(26.6%) などで構成されている。第 3 パターンに該当する事例は 22 件 (8.0%) である。

第 4 パターンは平均 5.1 項目の組み合わせであり、「声かけの態度を工夫」(99.9%) を共通ベースとして、「一部分から」(58.2%) も多く、「湯船につかったり、洗身してから」(41.9%)、「浴室温度調整」(43.7%)、「湯温調整」(42.4%)、「１人で」(46.2%)、「洗髪の効能を説明」(36.0%)、「コンプレックスを確認」(28.6%) などで構成されている。第 4 パターンに該当する事例は 22 件 (8.0%) である。

第 5 パターンは平均 4.0 項目の組み合わせであり、「好きな話題で会話しながら」(99.5%) と「声かけの態度を工夫」(80.8%) を共通ベースとして、「介助者の工夫」(44.6%)、「一部分から」(26.5%) などで構成されている。第 5 パターンに該当する事例は 21 件 (7.7%) である。

第 6 パターンは平均 6.8 項目の組み合わせであり、「浴室温度調整」(85.3%)、「お礼やねぎらい」(84.8%)、「不安を除きながら」(76.3%) の 3 項目を共通ベースとして、「一部分から」(70.6%) と「湯温調整」(72.5%) も多く、「単純な声かけ」(46.5%)、「声かけの態度を工夫」(42.6%)、「好きな話題で会話しながら」(38.0%)、「１人で」(46.8%)、「介助者の工夫」(35.3%)、「顔に湯がかからない工夫」(26.1%) などで構成されている。第 6 パターンに該当する事例は 21 件 (7.7%) である。

第 7 パターンは平均 2.7 項目と最少の組み合わせであり、「不安を除きながら」(59.6%) と「顔に湯がかからない工夫」(50.9%) を主として、「単純な声かけ」(48.7%)、「声かけの態度を工夫」(37.4%) などで構成されている。第 7 パターンに該当する事例は 21 件 (7.7%) である。

第 8 パターンは平均 2.9 項目の組み合わせであり、「単純な声かけ」(53.6%)

を主として、「一部分から」(43.8%)、「湯船につかったり、洗身してから」(28.8%)、「介助者の工夫」(44.6%)、「好きなシャンプー、リンスを使用」(21.7%) などで構成されている。第8パターンに該当する事例は20件 (7.3%) である。

第9パターンは平均4.9項目の組み合わせであり、「お礼やねぎらい」(76.4%)、「湯温調整」(74.1%)、「複数のスタッフ」(55.9%) の3項目を主として、「好きな話題で会話しながら」(47.2%)、「単純な声かけ」(35.8%)、「声かけの態度を工夫」(28.9%)、「一部分から」(46.2%)、「顔に湯がかからない工夫」(30.8%)、「湯船につかったり、洗身してから」(25.7%)、「洗髪の効能を説明」(41.5%) などで構成されている。第9パターンに該当する事例は18件 (6.6%) である。

第 10 パターンは平均 5.9 項目の組み合わせであり、「コンプレックスを確認」(99.0%) と「声かけの態度を工夫」(90.5%) を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」(55.0%)、「不安を除きながら」(63.0%)、「介助者の工夫」(59.3%) の３項目も多く、「湯温調整」(42.6%)、「浴室温度調整」(26.9%)、「１人で」(35.1%)、「単純な声かけ」(33.8%)、「一部分から」(27.3%) などで構成される。第10パターンに該当する事例は11件 (4.0%) である。

第 11 パターンは平均 4.6 項目の組み合わせであり、「洗髪後の手入れを行う」(98.8%) と「お礼やねぎらい」(80.9%) を共通ベースとして、「単純な声かけ」(55.1%) と「好きな話題で会話しながら」(54.3%) も多く、「声かけの態度を工夫」(44.8%)、「顔に湯がかからない工夫」(36.0%)、「仲の良い人と一緒に入浴」(26.8%) などで構成される。第11パターンに該当する事例は11件 (4.0%) である。

第 12 パターンは平均 8.7 項目の組み合わせであり、「声かけの態度を工夫」(99.8%)、「お礼やねぎらい」(99.7%)、「好きな話題で会話しながら」(89.8%)、「不安を除きながら」(99.4%)、「顔に湯がかからない工夫」(98.9%)、「湯温調整」(89.9%) の 6 項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」(72.6%) も多く、「一部分から」(44.7%)、「湯船につかったり、洗身してから」(27.4%)、「浴室温度調整」(35.5%)、「介助者の工夫」(26.8%) などで構成されている。第12パターンに該当する事例は11件 (4.0%) である。

第13パターンは平均7.0項目の組み合わせであり、「単純な声かけ」(99.4%)、「声かけの態度を工夫」(78.1%)、「洗髪後の手入れを行う」(87.5%)、「一部分から」(76.8%)、「浴室温度調整」(88.9%) の5項目を共通ベースとして、「湯温調整」(65.5%) も多く、「顔に湯がかからない工夫」(44.6%)、「不安を除きながら」(32.7%)、「複数のスタッフ」(45.0%) などで構成されている。第13パターンに該当する事例は9件 (3.3%) である。

第14パターンは平均4.3項目の組み合わせであり、「１人で」(99.1%) を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」(63.8%) も多く、「お礼やねぎらい」(45.9%)、「声かけの態度を工夫」(31.0%)、「髪を染めるため」(46.2%)、「湯

船につかったり、洗身してから」(34.6%)、「顔に湯がかからない工夫」(29.1%)、「一部分から」(24.4%) などで構成されている。第 14 パターンに該当する事例は 9 件 (3.3%) である。

第 15 パターンは平均 4.8 項目の組み合わせであり、「顔に湯がかからない工夫」(98.9%)、「好きな話題で会話しながら」(85.9%)、「お礼やねぎらい」(85.4%) の 3 項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」(37.0%)、「不安を除きながら」(24.3%)、「家族からの依頼」(24.9%)、「介助者の工夫」(37.7%) などで構成されている。第 15 パターンに該当する事例は 8 件 (2.9%) である。

第 16 パターンは平均 14.1 項目と最多の組み合わせであり、「声かけの態度を工夫」(99.6%)、「お礼やねぎらい」(99.5%)、「単純な声かけ」(99.2%)、「仲の良い人と一緒に入浴」(99.0%)、「１人で」と「介助者の工夫」が (各 79.4%)、「好きなシャンプー、リンスを使用」(99.0%)、「洗髪後の手入れを行う」(99.1%)、「一部分から」(79.6%)、「湯船につかったり、洗身してから」(79.4%) の 10 項目を共通ベースとして、「顔に湯がかからない工夫」(59.7%)、「不安を除きながら」(59.8%)、「浴室温度調整」(59.6%)、「湯温調整」(59.8%)、「洗髪の効能を説明」(59.6%)、「コンプレックスを確認」(59.5%) なども多く、「好きな話題で会話しながら」(39.9%)、「家族と」(39.6%) などで構成されている。第 16 パターンに該当する事例は 5 件 (1.8%) である。

第 17 パターンは平均 4.8 項目の組み合わせであり、「声かけの態度を工夫」(99.6%)、「複数のスタッフ」(99.0%)、「顔に湯がかからない工夫」(79.3%) の 3 項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」(39.4%)、「お礼やねぎらい」(39.9%)、「浴室温度調整」(40.1%)、「コンプレックスを確認」(40.0%) などで構成されている。第 17 パターンに該当する事例は 5 件 (1.8%) である。

第 18 パターンは平均 6.8 項目の組み合わせであり、「お礼やねぎらい」(99.3%)、「好きな話題で会話しながら」(99.1%)、「仲の良い人と一緒に入浴」(98.7%)、「１人で」(75.1%) の 4 項目を共通ベースとして、「洗髪後の手入れを行う」(74.0%)、「一部分から」(50.7%)、「声かけの態度を工夫」(50.7%) の 3 項目も多く、「顔に湯がかからない工夫」(25.3%)、「コンプレックスを確認」(25.2%)、「医者の指示」(25.0%)、「洗髪の効能を説明」(23.9%) などで構成されている。第 18 パターンに該当する事例は 4 件 (1.5%) である。(表２－６－４－２参照)

(潜在クラスモデルの評価経緯は表２－６－４－３参照)

（注 3）組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は（注 1）に示したような局所独立を仮定して異質な部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold”が算出する“Classification Statistics”（分類精度情報）の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。

（３）解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、18 の組み合わせパターンと解決後のパターンの相関を分析した後、参考までに個別状況との関連を確認する。

まず、解決方法の組み合わせ 18 パターンと解決後の 5 パターンの帰属確率による相関分析を行うと、4 通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 1 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 1 は、“「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の 5 項目を共通ベースとした平均 9.5 項目の組み合わせ”であり、その多様な方法が、解決後パターン 4 の“後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した”という結果に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 10 は、“「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースにした平均 5.9 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 5 の“洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 7 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 7 は、“「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主とした平均 2.7 項目と最少の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン 2 の“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”に貢献している傾向が読み取れる。

4 つめは、解決方法パターン 14 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 14 は、“「１人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多い、平均 4.3 項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン 2 の“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”に貢献している傾向が読み取れる。（表２－６－４－４参照）

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても、上記 4

通りの傾向が確認できる。

1つめの解決方法パターン1では、解決後に“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”が76.3%と多くなっており、これは解決後パターン4の主要項目である。

2つめの解決方法パターン10では、解決後に“自分で洗髪するようになった”が22.7%と他のパターンより多くなっており、これは解決後パターン5の主要項目である。

3つめの解決方法パターン7では、解決後に“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”が61.5%と多くなっており、これは解決後パターン2の主要項目である。

4つめの解決方法パターン14では、解決後に“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”が61.2%と多くなっており、これは解決後パターン2の主要項目である。（表２－６－４－５参照）

（４）高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン1（一部介助、中程度重症度）に限定した相関分析を行うと、3通りの相関が認められる（注4）。

1つめは、解決方法パターン7と解決後パターン2の相関が有意水準1%で認められる。これは上記でみた全体的傾向の3つめと同様の傾向である。

2つめは、解決方法パターン12と解決後パターン3の相関が有意水準1%で認められる。解決方法パターン12は、“「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の6項目を共通ベースとした平均8.7項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン3の“暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった”に貢献している傾向が読み取れる。

3つめは、解決方法パターン8と解決後パターン4の相関が有意水準1%で認められる。解決方法パターン8は、“「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン4の“後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した”に貢献している傾向が読み取れる。（表２－６－４－６参照）

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン7では、解決後に“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”が76.2%と多くなっており、これは解決後パターン2の主要項目である。

解決方法パターン12では、解決後に“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”が87.5%、“徐々に洗える日が多くなった”が74.3%、“洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した”が61.0%と多くなっており、これらは解決後パターン3の主要項目である。

解決方法パターン8では、解決後に“後ろ髪は嫌がらずに洗えた”が27.2%と

他のパターンより多くなっており、これは解決後パターン2の主要項目である。(表２－６－４－７参照)

また高齢者パターン2(全介助、中高程度重症度)に限定した相関分析を行うと、3通りの相関が認められる。

1つめは、解決方法パターン1と解決後パターン4の相関が有意水準1%で認められる。これは全体でみた、1つめの傾向と同様である。

2つめは、解決方法パターン7と解決後パターン5の相関が有意水準1%で認められる。解決方法パターン 7 は、“「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主とした平均 2.7 項目と最少の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン 5 の“洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3つめは、解決方法パターン 12 と解決後パターン 1 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 12 は、“「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の 6 項目を共通ベースとした平均 8.7 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 1 の“徐々に洗える日が多くなった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－６－４－８参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこの 3 通りの傾向が確認できる。

1つめの解決方法パターン1では、解決後に“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”が 83.1%と多く、“後ろ髪は嫌がらずに洗えた”も 27.4%と他のパターンを上回っており、解決後パターン4の主要項目が多くあがっている。

2つめの解決方法パターン7では、解決後に“徐々に洗える日が多くなった”が64.0%と多く、“自分で洗髪するようになった”も15.6%と他のパターンを上回っており、解決後パターン5の主要項目が多くあがっている。

3つめの解決方法パターン 12 では、解決後に“徐々に洗える日が多くなった”が99.8%であり、解決後パターン1の主要項目が多くあがっている。(表２－６－４－９参照)

高齢者パターン3（自立、軽中程度重症度）は事例数が少ないので省略する。

(注 4) 高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン 1 と 2 を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義（＝クラスター化）した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

5）洗髪拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ 1,328 件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

（1）役立った情報の概況

有効回答 1,328 件のなかで多くあがったものは、「本人の気持ち、意志」が 518 件（39.0%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 453 件（34.1%）、「気分」が 341 件（25.7%）、「スタッフとの関係」が 314 件（23.6%）、「洗髪への反応・様子」が 197 件（14.8%）、「湯温」が 172 件（13.0%）、「性格」が 137 件（10.3%）などであり、ひとつの解決方法当たり平均 2.6 項目あげられた。（表２－６－５－１参照）

（2）役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 19 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.0 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（99.8%）を共通ベースとして、「スタッフとの関係」（40.6%）他で構成されている。第 1 パターンの該当方法は延べ 176 件（13.3%）である。

第 2 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「気分」（99.9%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」（56.5%）も多く、「興味・関心」（20.6%）を含めた“心理面”にウェイトを置いて、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（20.1%）他で構成されている。第 2 パターンの該当方法は延べ 158 件（11.9%）である。

第 3 パターンは平均 2.5 項目の組み合わせであり、「湯温」（99.4%）を共通ベースとして、「シャワーの水圧」（34.7%）、「浴室の温度」（30.9%）などを含めた“入浴・洗髪方法”にウェイトを置いて構成されている。第 3 パターンの該当方法は延べ 124 件（9.3%）である。

第 4 パターンは平均 2.3 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」（99.7%）を共通ベースとして、「洗髪への反応・様子」（27.1%）、「スタッフとの関係」（23.1%）などで構成されている。第 4 パターンの該当方法は延べ 117 件（8.8%）である。

第 5 パターンは平均 2.1 項目の組み合わせであり、「洗髪への反応・様子」（55.0%）を主として、「清潔度」（24.4%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（20.9%）などで構成されている。第 5 パターンの該当方法は延べ 101 件（7.6%）である。

第 6 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」

（99.2%）と「スタッフの声かけ内容・見守り方」（84.1%）を共通ベースとして、「スタッフとの関係」（56.2%）も多く、「気分」（37.2%）、「性格」（28.3%）などで構成されている。第6パターンの該当方法は延べ97件（7.3%）である。

第7パターンは平均2.3項目の組み合わせであり、「性格」（48.7%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（22.1%）他に分散して構成されている。第7パターンの該当方法は延べ92件（6.9%）である。

第8パターンは平均2.7項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」（82.2%）を共通ベースとして、「介護者の性別」（50.6%）も多く、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（34.8%）などで構成されている。第8パターンの該当方法は延べ61件（4.6%）である。

第9パターンは平均3.0項目の組み合わせであり、「洗髪習慣（自宅での方法）」（99.1%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」（50.9%）も多く、「気分」（22.7%）、「過去の入浴体験」（22.6%）などで構成されている。第9パターンの該当方法は延べ56件（4.2%）である。

第10パターンは平均2.9項目の組み合わせであり、「認知機能」（85.1%）、「言語理解」（35.1%）、「本人の気持ち、意志」（30.2%）、「気分」（22.1%）などで構成されている。第10パターンの該当方法は延べ56件（4.2%）である。

第11パターンは平均1.7項目と最少の組み合わせであり、「他の入居者との関係」（41.8%）、「過去の入浴体験」（34.2%）他で構成されている。第11パターンの該当方法は延べ50件（3.8%）である。

第12パターンは平均3.3項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「本人の気持ち、意志」（各99.7%）を共通ベースとして、「スタッフとの関係」（15.3%）などで構成されている。第12パターンの該当方法は延べ48件（3.6%）である。

第13パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「清潔度」（75.6%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」（46.5%）、「皮膚疾患」（25.8%）、「洗髪への反応・様子」（31.3%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（22.4%）などで構成されている。第13パターンの該当方法は延べ46件（3.5%）である。

第14パターンは平均1.9項目の組み合わせであり、「浴室の温度」（99.5%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」（26.6%）他で構成されている。第14パターンの該当方法は延べ38件（2.9%）である。

第15パターンは平均3.7項目の組み合わせであり、「興味・関心」（74.5%）と「気分」（61.1%）を主として、「本人の気持ち、意志」（40.9%）を含めた“心理面”にウェイトを置き、「入浴のこだわり」（20.9%）、「入浴時間帯」（20.3%）、「スタッフとの関係」（33.5%）などで構成されている。第15パターンの該当方法は延べ29件（2.2%）である。

第16パターンは平均2.3項目の組み合わせであり、「入浴のこだわり」（97.1%）

を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（28.2％）、「気分」（19.4％）などで構成されている。第16パターンの該当方法は延べ29件（2.2％）である。

第17パターンは平均2.4項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」（65.7％）を主として、「入浴時間帯」（42.0％）、「介助者の人数」（22.3％）などで構成されている。第17パターンの該当方法は延べ23件（1.7％）である。

第18パターンは平均4.6項目と最多の組み合わせであり、「気分」（99.6％）、「本人の気持ち、意志」（78.5％）、「湯温」（81.1％）の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（44.3％）、「シャワーの水圧」（39.2％）、「浴室の温度」（22.9％）、「洗髪への反応・様子」（31.8％）、「過去の入浴体験」（26.2％）などで構成されている。第18パターンの該当方法は延べ21件（1.6％）である。

第19パターンは平均4.2項目の組み合わせであり、「洗髪した日」（98.2％）、「本人の気持ち、意志」（80.4％）、「気分」（78.7％）の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（34.1％）、「洗髪拒否の開始時期」（31.3％）、「床屋に行った日」（31.3％）などで構成されている。第19パターンの該当方法は延べ6件（0.5％）である。（表２－６－５－２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－６－５－３参照）

（３）情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第14パターン（「浴室の温度」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」他で構成された平均1.9項目の組み合わせ）は、「浴室温度調整」が79.5％と多い。

第3パターン（「湯温」を共通ベースとして、「シャワーの水圧」、「浴室の温度」などを含めた“入浴・洗髪方法”にウェイトを置いて構成された平均2.5項目の組み合わせ）は、「湯温調整」が39.7％、「一部分から」が21.4％と多い。

第13パターン（「清潔度」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「皮膚疾患」、「洗髪への反応・様子」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ）は、「洗髪の効能を説明」が34.7％と多い。

第10パターン（「認知機能」、「言語理解」、「本人の気持ち、意志」、「気分」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ）は、「単純な声かけ」が32.2％と多い。

第19パターン（「洗髪した日」、「本人の気持ち、意志」、「気分」の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「洗髪拒否の開始時期」、「床屋に行った日」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ）は、「声かけの態度を工夫」が31.9％と多い。

第1パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」他で構成された平均2.0項目の組み合わせ）は、「声かけの態度を工夫」が28.0％と多い。

第11パターン（「他の入居者との関係」、「過去の入浴体験」他で構成された平

均 1.7 項目と最少の組み合わせ）は、「仲の良い人と一緒に入浴」が 26.1％と多い。

第 16 パターン（「入浴のこだわり」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」などで構成された平均 2.3 項目の組み合わせ）は、「湯船につかったり、洗身してから」が 25.2％と多い。

第 18 パターン（「気分」、「本人の気持ち、意志」、「湯温」の 3 項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「シャワーの水圧」、「浴室の温度」、「洗髪への反応・様子」、「過去の入浴体験」などで構成された平均 4.6 項目と最多の組み合わせ）は、「湯温調整」が 24.1％と多い。

第 8 パターン（「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「介護者の性別」も多く、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 2.7 項目の組み合わせ）は、「介助者の工夫」が 24.2％、「声かけの態度を工夫」が 21.6％と多い。

第 6 パターン（「本人の気持ち、意志」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」も多く、「気分」、「性格」などで構成された平均 3.7 項目の組み合わせ）は、「声かけの態度を工夫」が 20.1％と多い。（表２－６－５－４参照）

６）絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答 270 件中、「無理矢理裸にして拭く」が 249 件（92.2％）、「本人の気分を無視して行う」が 247 件（91.5％）、「汚い、臭いから拭きましょうと声をかける」が 227 件（84.1％）、「放っておいて全く関わらない」が 213 件（78.9％）、「だますような声かけをする」が 179 件（66.3％）となっている。（表２－６－６－１参照）

（表２－６－１－１）回答者の年齢

	有効回答数	24 歳以下	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60 歳以上
実数	285	21	42	45	29	28	37	34	27	22
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	7.4	14.7	15.8	10.2	9.8	13.0	11.9	9.5	7.7

（平均年齢等）

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
285	41.4	12.8	19	88

（表２－６－１－２）回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	291	75	216
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	25.8	74.2

（表２－６－１－３）回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネージャー	看護師	その他
実数	275	144	10	73	6	64
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	52.4	3.6	26.5	2.2	23.3

（表２－６－１－４）回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	270	16	93	72	1	1	95
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	5.9	34.4	26.7	0.4	0.4	35.2

（表２－６－１－５）回答者の所有資格

	有効回答数	看護師（准看護師）	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネージャー	ヘルパー	その他
実数	283	19	170	15	94	125	33
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	6.7	60.1	5.3	33.2	44.2	11.7

（表２－６－１－６）回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設（ユニット型）	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	283	3	2	277	1	2
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	1.1	0.7	97.9	0.4	0.7

（表２－６－１－７）回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
288	4.2	2.7	0.1	15.0

（表２－６－１－８）回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
282	8.6	5.2	0.5	29.5

（表２－６－２－１）洗髪拒否の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	291	276	15
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	94.8	5.2

（表２－６－２－２）高齢者の年齢

	解決経験のある 有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	262	16	33	68	85	60
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	6.1	12.6	26.0	32.4	22.9

（平均年齢等）

解決経験のある 有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
262	84.6	6.9	46	99

（表２－６－２－３）高齢者の性別割合

	解決経験のある 有効回答数	男	女
実数	271	30	241
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	11.1	88.9

（表２－６－２－４）認知症の原因疾患

	解決経験のある 有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	257	170	45	4	8	30
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	66.1	17.5	1.6	3.1	11.7

（表２－６－２－５）機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答 (=なし)
実数	276	0	5	45	3	223
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.0	1.8	16.3	1.1	80.8

（表２－６－２－６）食事介助

	解決経験のある 有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	258	4	44	210
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	1.6	17.1	81.4

（表２－６－２－７）移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他（回答者追記）
実数	235	28	120	82	5
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	11.9	51.1	34.9	2.1

（表２－６－２－８）排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし
実数	236	91	145
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	38.6	61.4

（表２－６－２－９）入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	263	36	18	118	66	25
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	13.7	6.8	44.9	25.1	9.5

（表２－６－２－１０）認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	Ⅰ 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	Ⅱ 日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	Ⅲ ランクⅡの症状がときどき見られ、介護を必要とする（徘徊、失禁など）	Ⅳ ランクⅡの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	Ⅴ 著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	274	32	73	95	66	8
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	11.7	26.6	34.7	24.1	2.9

（表２－６－２－１１）身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J 何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	A 屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	B 屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベット上での生活主体で座位を保つ	C 一日中ベットで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	265	44	190	28	3
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	16.6	71.7	10.6	1.1

（表２－６－２－１２）洗髪拒否高齢者のパターン
（潜在クラス３クラスモデルのプロフィール）

(n=229)

項目	カテゴリー	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 全介助、中高程度重症度	パターン3 自立、軽中度重症度
	サイズ	1.000	0.631	0.289	0.080
性別	男	0.109	0.054	0.207	0.192
	女	0.891	0.946	0.793	0.808
入浴介助	全介助	0.144	0.016	0.463	0.003
	移動介助	0.066	0.068	0.077	0.001
	洗身洗髪介助	0.467	0.505	0.430	0.307
	その他一部介助	0.231	0.328	0.030	0.203
	自立	0.092	0.084	0.001	0.485
認知症の重症度	Ⅰ	0.105	0.097	0.007	0.525
	Ⅱ	0.275	0.407	0.003	0.217
	Ⅲ	0.362	0.377	0.411	0.075
	Ⅳ	0.227	0.117	0.526	0.013
	Ⅴ	0.031	0.003	0.053	0.171
身体障害の重症度	J	0.153	0.133	0.002	0.860
	A	0.721	0.867	0.578	0.081
	B	0.114	0.000	0.375	0.059
	C	0.013	0.000	0.045	0.000
（参考）該当事例数 →		(229)	(144)	(66)	(18)

（表２－６－２－１３）潜在クラスモデル評価（洗髪拒否高齢者パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	1872.2	1831.0
モデル2（クラス数2）	1847.2	1761.3
モデル3（クラス数3）	1888.2	1757.8
モデル4（クラス数4）	1945.7	1770.6

（表２－６－３－１）解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	大きな声を出して拒否していた	顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた	入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	脱衣することを嫌がった	湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった	シャンプーはできても、流すことができなかった	洗髪できても、入浴後も機嫌が悪かった	その他
実数	275	114	116	141	81	64	14	28	30
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	41.5	42.2	51.3	29.5	23.3	5.1	10.2	10.9

（表２－６－３－２）解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	徐々に洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えた	理容室では洗髪できた	洗ってほしいと訴えることもできた	自分で洗髪するようになった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	洗髪時や誘導時の暴言･暴力等が減少した	その他
実数	273	147	16	9	12	15	149	65	24
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	53.8	5.9	3.3	4.4	5.5	54.6	23.8	8.8

（表２－６－３－３）洗髪拒否の解決前のパターン
（潜在クラス５クラスモデルのプロフィール）

(n=210)

状況	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	手で払いのけ、大声で拒否したり、脱衣を嫌がったり	脱衣を嫌がったり、湯が頭にかかることを嫌がっていた	複合的洗髪拒否	手で払いのけたり、洗髪は嫌がって、入浴後も機嫌悪かった
サイズ	1.000	0.344	0.256	0.177	0.159	0.064
大きな声を出して拒否していた	0.419	0.154	0.631	0.292	0.825	0.337
顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた	0.448	0.117	0.843	0.040	0.988	0.420
入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	0.543	0.998	0.164	0.237	0.493	0.585
脱衣することを嫌がった	0.295	0.011	0.406	0.624	0.450	0.085
湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった	0.238	0.004	0.009	0.459	0.960	0.010
シャンプーはできても、流すことができなかった	0.038	0.000	0.020	0.052	0.149	0.001
洗髪できても、入浴後も機嫌が悪かった	0.086	0.002	0.001	0.001	0.182	0.874
（参考）平均項目数 →	2.1	1.3	2.1	1.7	4.0	2.3
該当事例数 →	(210)	(72)	(54)	(37)	(33)	(13)

（表２－６－３－４）潜在クラスモデル評価（洗髪拒否の解決前パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1577.6	1554.2
モデル2(クラス数2)	1503.0	1452.8
モデル3(クラス数3)	1524.1	1447.1
モデル4(クラス数4)	1552.3	1448.5
モデル5(クラス数5)	1580.9	1450.3
モデル6(クラス数6)	1617.3	1460.0
モデル7(クラス数7)	1650.8	1466.7

（表２－６－３－５）洗髪拒否の解決後のパターン
（潜在クラス５クラスモデルのプロフィール）

(n=210)

状況	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		徐々に洗える日が多くなった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した	洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった
サイズ	1.000	0.340	0.270	0.215	0.091	0.084
徐々に洗える日が多くなった	0.567	0.998	0.054	0.651	0.360	0.476
後ろ髪は嫌がらずに洗えた	0.067	0.032	0.000	0.022	0.560	0.001
理容室では洗髪できた	0.029	0.023	0.020	0.001	0.169	0.001
洗ってほしいと訴えることもでてきた	0.043	0.043	0.000	0.000	0.074	0.253
自分で洗髪するようになった	0.062	0.013	0.002	0.023	0.001	0.620
入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	0.548	0.232	0.998	0.645	0.447	0.237
洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した	0.271	0.006	0.030	0.976	0.559	0.005
（参考）平均項目数 →	1.6	1.3	1.1	2.3	2.2	1.6
該当事例数 →	(210)	(71)	(57)	(45)	(19)	(18)

（表２－６－３－６）潜在クラスモデル評価（洗髪拒否の解決後パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1188.8	1165.3
モデル2(クラス数2)	1186.3	1136.1
モデル3(クラス数3)	1199.4	1122.4
モデル4(クラス数4)	1228.5	1124.7
モデル5(クラス数5)	1259.0	1128.4
モデル6(クラス数6)	1296.2	1138.9
モデル7(クラス数7)	1331.6	1147.5

（表２－６－３－７）解決前後のパターンの相関行列
（全体）

(n=210)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			徐々に洗える日が多くなった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した	洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった
解決前のパターン	パターン1	入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	0.230 **	-0.031	-0.276 **	-0.132	0.195 **
	パターン2	手で払いのけ、大声で拒否したり、脱衣を嫌がったり	-0.084	-0.062	0.175 *	0.063	-0.072
	パターン3	脱衣を嫌がったり、湯が頭にかかることを嫌がっていた	-0.047	0.222 **	-0.118	-0.039	-0.083
	パターン4	複合的洗髪拒否	-0.163 *	-0.111	0.270 **	0.123	-0.047
	パターン5	手で払いのけたり、洗髪は嫌がって、入浴後も機嫌悪かった	0.012	0.015	0.001	0.019	-0.068

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－６－３－８）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン１“一部介助、中程度重症度”の場合）

(n=140)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			徐々に洗える日が多くなった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した	洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった
解決前のパターン	パターン1	入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	0.168 *	-0.020	-0.256 **	-0.114	0.207 *
	パターン2	手で払いのけ、大声で拒否したり、脱衣を嫌がったり	-0.086	-0.048	0.171 *	0.146	-0.139
	パターン3	脱衣を嫌がったり、湯が頭にかかることを嫌がっていた	-0.038	0.117	-0.083	0.038	-0.051
	パターン4	複合的洗髪拒否	-0.139	-0.060	0.244 **	0.036	-0.032
	パターン5	手で払いのけたり、洗髪は嫌がって、入浴後も機嫌悪かった	0.020	0.023	0.051	-0.083	-0.079

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　5%水準　*
（帰属確率によるパターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－６－３－９）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン２“全介助、中高程度重症度”の場合）

(n=54)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			徐々に洗える日が多くなった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した	洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった
解決前のパターン	パターン1	入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	0.230	-0.086	-0.174	-0.105	0.374 **
	パターン2	手で払いのけ、大声で拒否したり、脱衣を嫌がったり	-0.040	-0.074	0.148	-0.038	-0.060
	パターン3	脱衣を嫌がったり、湯が頭にかかることを嫌がっていた	-0.039	0.498 **	-0.344 *	-0.198	-0.065
	パターン4	複合的洗髪拒否	-0.084	-0.261	0.247	0.251	-0.139
	パターン5	手で払いのけたり、洗髪は嫌がって、入浴後も機嫌悪かった	0.116	-0.111	-0.193	0.311 *	0.116

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　5%水準　*
（帰属確率によるパターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－６－３－１０）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン３“自立、軽中度重症度”の場合）

(n=16)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			徐々に洗える日が多くなった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した	洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった
解決前のパターン	パターン1	入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	0.460	0.141	-0.313	-0.257	-0.129
	パターン2	手で払いのけ、大声で拒否したり、脱衣を嫌がったり	-0.122	0.081	0.117	-0.205	0.162
	パターン3	脱衣を嫌がったり、湯が頭にかかることを嫌がっていた	-0.008	-0.157	0.413	-0.120	-0.228
	パターン4	複合的洗髪拒否	-0.347	-0.104	-0.062	0.060	0.421
	パターン5	手で払いのけたり、洗髪は嫌がって、入浴後も機嫌悪かった	-0.300	-0.103	-0.111	0.992 **	-0.177

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　5%水準　*
（帰属確率によるパターン3の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－６－３－１１）高齢者パターン別にみた解決前の状況

【実数】

	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 全介助、中高程度重症度	パターン3 自立、軽中度重症度
有効回答数	210	129	64	17
大きな声を出して拒否していた	88	42	39	7
顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた	94	46	40	9
入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	114	80	23	11
脱衣することを嫌がった	62	36	22	4
湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった	50	23	25	2
シャンプーはできても、流すことができなかった	8	3	5	0
洗髪できても、入浴後も機嫌が悪かった	18	12	4	2

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 全介助、中高程度重症度	パターン3 自立、軽中度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0	100.0
大きな声を出して拒否していた	41.9	32.6	60.9	41.2
顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた	44.8	35.7	62.5	52.9
入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	54.3	62.0	35.9	64.7
脱衣することを嫌がった	29.5	27.9	34.4	23.5
湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった	23.8	17.8	39.1	11.8
シャンプーはできても、流すことができなかった	3.8	2.3	7.8	0.0
洗髪できても、入浴後も機嫌が悪かった	8.6	9.3	6.3	11.8

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－６－３－１２）高齢者パターン別にみた解決後の状況

【実数】

	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 全介助、中高程度重症度	パターン3 自立、軽中度重症度
有効回答数	210	129	64	17
徐々に洗える日が多くなった	119	74	32	13
後ろ髪は嫌がらずに洗えた	14	9	4	1
理容室では洗髪できた	6	3	2	1
洗ってほしいと訴えることもでてきた	9	5	1	3
自分で洗髪するようになった	13	9	1	3
入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	115	71	36	8
洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した	57	27	26	4

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 全介助、中高程度重症度	パターン3 自立、軽中度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0	100.0
徐々に洗える日が多くなった	56.7	57.4	50.0	76.5
後ろ髪は嫌がらずに洗えた	6.7	7.0	6.3	5.9
理容室では洗髪できた	2.9	2.3	3.1	5.9
洗ってほしいと訴えることもでてきた	4.3	3.9	1.6	17.6
自分で洗髪するようになった	6.2	7.0	1.6	17.6
入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	54.8	55.0	56.3	47.1
洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した	27.1	20.9	40.6	23.5

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－６－４－１）洗髪拒否の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
有効回答数			274	100.0
洗髪方法の工夫	101	顔に湯がかからない工夫	88	32.1
	102	一部分から	112	40.9
	104	湯船につかったり、洗身してから	63	23.0
	105	不安を除きながら	107	39.1
	106	洗髪後の手入れを行う	56	20.4
	107	髪を染めるため	10	3.6
	109	介助者が一緒に	5	1.8
	110	自分の方法で、任せる	6	2.2
	112	湯舟の中で	1	0.4
	113	洗身と続けて	1	0.4
	114	素早く行う	2	0.7
	115	洗髪時間の調整	4	1.5
	116	湯おけ、手ぬぐい等の工夫	2	0.7
	117	散髪してから	1	0.4
	190	その他	5	1.8
声かけ・誘導の工夫	201	声かけの態度を工夫	177	64.6
	202	単純な声かけ	90	32.8
	203	お礼やねぎらい	142	51.8
	205	家族からの依頼	3	1.1
	206	歌をうたいながら	1	0.4
	207	好きな話題で会話しながら	102	37.2
	208	仲の良い人から誘導	2	0.7
	209	入浴という言葉を避けた誘導	1	0.4
	290	その他	5	1.8
洗髪環境の調整	301	好きなシャンプー、リンスを使用	29	10.6
	302	浴室温度調整	77	28.1
	303	湯温調整	104	38.0
	305	理容室のような環境	1	0.4
	390	その他	1	0.4
介助者の工夫	401	仲の良い人と一緒に入浴	32	11.7
	402	1人で	61	22.3
	403	家族と	13	4.7
	404	介助者の工夫	65	23.7
	405	複数のスタッフ	38	13.9
	490	その他	1	0.4
その他	501	洗髪の効能を説明	59	21.5
	502	コンプレックスを確認	46	16.8
	504	信頼関係の構築	2	0.7
	505	医者の指示	1	0.4
	590	その他	1	0.4

（参考）平均記入項目数 → 5.5

（表２－６－４－２）洗髪拒否の解決方法組み合わせパターン

（潜在クラス 18 クラスモデルのプロフィール）

（n=274）

区分	code	解決方法	全体	パターン1 「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の5項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」、「好きな話題で会話しながら」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	パターン2 「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「不安を除きながら」、「湯船につかったり、洗身してから」、「一部分から」、「単純な声かけ」、「好きな話題で会話しながら」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	パターン3 「洗髪の効能を説明」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「浴室温度調整」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	パターン4 「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「一部分から」も多く、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「1人で」、「洗髪の効能を説明」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	パターン5 「好きな話題で会話しながら」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「介助者の工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	パターン6 「浴室温度調整」、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」の3項目を共通ベースとして、「一部分から」と「湯温調整」も多く、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「1人で」、「介助者の工夫」、「顔に湯がかからない工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	パターン7 「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主として、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均2.7項目と最少の組み合わせ	パターン8 「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	パターン9 「お礼やねぎらい」、「湯温調整」、「複数のスタッフ」の3項目を主として、「好きな話題で会話しながら」、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「一部分から」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯船につかったり、洗身してから」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	パターン10 「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」、「介助者の工夫」の3項目も多く、「湯温調整」、「浴室温度調整」、「1人で」、「単純な声かけ」、「一部分から」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	パターン11 「洗髪後の手入れを行う」と「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「単純な声かけ」と「好きな話題で会話しながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「仲の良い人と一緒に入浴」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	パターン12 「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の6項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」も多く、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「介助者の工夫」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	パターン13 「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「浴室温度調整」の5項目を共通ベースとして、「湯温調整」も多く、「顔に湯がかからない工夫」、「不安を除きながら」、「複数のスタッフ」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	パターン14 「1人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多く、「お礼やねぎらい」、「声かけの態度を工夫」、「髪を染めるため」、「湯船につかったり、洗身してから」、「顔に湯がかからない工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	パターン15 「顔に湯がかからない工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「お礼やねぎらい」の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「不安を除きながら」、「家族からの依頼」、「介助者の工夫」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	パターン16 「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「1人で」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」の10項目を共通ベースとした平均14.1項目と最多の組み合わせ	パターン17 「声かけの態度を工夫」、「複数のスタッフ」、「顔に湯がかからない工夫」の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「お礼やねぎらい」、「浴室温度調整」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	パターン18 「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「1人で」の4項目を共通ベースとして、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ
		サイズ	1.000	0.112	0.092	0.082	0.080	0.078	0.077	0.076	0.072	0.066	0.041	0.041	0.039	0.032	0.032	0.029	0.018	0.018	0.018	0.015
洗髪方法の工夫	101	顔に湯がかからない工夫	0.321	0.435	0.078	0.307	0.246	0.083	0.261	0.509	0.001	0.308	0.002	0.360	0.989	0.446	0.291	0.989	0.597	0.793	0.253
	102	一部分から	0.409	0.892	0.368	0.002	0.582	0.265	0.706	0.002	0.438	0.462	0.273	0.195	0.447	0.768	0.244	0.003	0.796	0.005	0.507
	104	湯船につかったり、洗身してから	0.230	0.430	0.382	0.001	0.419	0.001	0.137	0.001	0.288	0.257	0.171	0.003	0.274	0.107	0.346	0.370	0.794	0.394	0.003
	105	不安を除きながら	0.391	0.664	0.457	0.379	0.172	0.195	0.763	0.596	0.002	0.135	0.630	0.185	0.994	0.327	0.003	0.243	0.598	0.004	0.006
	106	洗髪後の手入れを行う	0.204	0.785	0.001	0.178	0.002	0.050	0.001	0.001	0.001	0.001	0.002	0.988	0.001	0.875	0.001	0.002	0.991	0.002	0.740
	107	髪を染めるため	0.037	0.065	0.037	0.048	0.000	0.000	0.000	0.096	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.462	0.000	0.000	0.000	0.001
	109	介助者が一緒に	0.018	0.000	0.000	0.046	0.000	0.000	0.047	0.000	0.100	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.198	0.000	0.000
	110	自分の方法で、任せる	0.022	0.000	0.000	0.000	0.000	0.093	0.094	0.096	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	112	湯舟の中で	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.051	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	113	洗身と続けて	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	114	素早く行う	0.007	0.000	0.000	0.044	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.124	0.000	0.000	0.000
	115	洗髪時間の調整	0.015	0.000	0.040	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.185	0.113	0.000	0.000	0.000	0.000
	116	湯おけ、手ぬぐい等の工夫	0.007	0.000	0.000	0.000	0.000	0.047	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	117	散髪してから	0.004	0.000	0.000	0.000	0.046	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	190	その他	0.018	0.098	0.040	0.045	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
声かけ・誘導の工夫	201	声かけの態度を工夫	0.646	0.963	0.748	0.744	0.999	0.808	0.426	0.374	0.112	0.289	0.905	0.448	0.998	0.781	0.310	0.144	0.996	0.996	0.507
	202	単純な声かけ	0.329	0.226	0.303	0.299	0.001	0.001	0.465	0.487	0.536	0.358	0.338	0.551	0.726	0.994	0.002	0.003	0.992	0.004	0.007
	203	おれやねぎらい	0.518	0.819	0.998	0.335	0.002	0.210	0.848	0.004	0.004	0.764	0.550	0.809	0.997	0.004	0.459	0.854	0.995	0.399	0.993
	205	家族からの依頼	0.011	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.249	0.000	0.000	0.000
	206	歌をうたいながら	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.124	0.000	0.000	0.000
	207	好きな話題で会話しながら	0.372	0.575	0.299	0.001	0.246	0.995	0.380	0.083	0.109	0.472	0.003	0.543	0.898	0.002	0.136	0.859	0.399	0.004	0.991
	208	仲の良い人から誘導	0.007	0.000	0.000	0.000	0.000	0.093	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	209	入浴という言葉を避けた誘導	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.051	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	290	その他	0.018	0.033	0.000	0.045	0.000	0.000	0.000	0.000	0.051	0.055	0.000	0.000	0.000	0.112	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
洗髪環境の調整	301	好きなシャンプー、リンスを使用	0.106	0.135	0.000	0.429	0.048	0.000	0.135	0.001	0.217	0.001	0.088	0.001	0.001	0.114	0.001	0.001	0.990	0.001	0.002
	302	浴室温度調整	0.281	0.716	0.002	0.266	0.437	0.076	0.853	0.001	0.002	0.001	0.269	0.001	0.355	0.889	0.003	0.002	0.596	0.401	0.004
	303	湯温調整	0.380	0.999	0.001	0.001	0.424	0.179	0.725	0.088	0.092	0.741	0.426	0.095	0.899	0.655	0.183	0.244	0.598	0.004	0.005
	305	理容室のような環境	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.199	0.000
	390	その他	0.004	0.033	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
介助者の工夫	401	仲の良い人と一緒に入浴	0.117	0.101	0.075	0.045	0.222	0.134	0.100	0.048	0.053	0.065	0.001	0.268	0.001	0.112	0.001	0.001	0.990	0.001	0.987
	402	1人で	0.223	0.440	0.001	0.179	0.462	0.001	0.468	0.001	0.052	0.001	0.351	0.001	0.178	0.001	0.991	0.121	0.794	0.003	0.751
	403	家族と	0.047	0.033	0.118	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.152	0.000	0.089	0.000	0.094	0.000	0.116	0.000	0.396	0.199	0.001
	404	介助者の工夫	0.237	0.243	0.133	0.231	0.122	0.446	0.353	0.137	0.446	0.001	0.593	0.096	0.268	0.002	0.002	0.377	0.794	0.003	0.003
	405	複数のスタッフ	0.139	0.233	0.001	0.000	0.005	0.226	0.001	0.000	0.099	0.559	0.078	0.001	0.182	0.450	0.117	0.001	0.199	0.990	0.002
	490	その他	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.198	0.000	0.000
その他	501	洗髪の効能を説明	0.215	0.239	0.255	0.840	0.360	0.084	0.001	0.001	0.001	0.415	0.107	0.007	0.182	0.223	0.001	0.002	0.596	0.002	0.239
	502	コンプレックスを確認	0.168	0.369	0.061	0.000	0.286	0.032	0.057	0.001	0.063	0.001	0.990	0.001	0.001	0.001	0.638	0.126	0.595	0.400	0.252
	504	信頼関係の構築	0.007	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.090	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	505	医者の指示	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.250
	590	その他	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.250
		（参考）平均項目数 →	5.5	9.5	4.4	4.5	5.1	4.0	6.8	2.7	2.9	4.9	5.9	4.6	8.7	7.0	4.3	4.8	14.1	4.8	6.8
		該当事例数 →	(274)	(31)	(25)	(22)	(22)	(21)	(21)	(21)	(20)	(18)	(11)	(11)	(11)	(9)	(9)	(8)	(5)	(5)	(4)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－６－４－３）　潜在クラスモデル評価（洗髪拒否の解決方法組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル(クラス数)	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1(クラス数1)	6439.5	6295.0	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2(クラス数2)	6437.1	6144.4	0.049	0.796	0.773	0.799
モデル3(クラス数3)	6591.7	6150.9	0.132	0.781	0.705	0.712
モデル4(クラス数4)	6770.7	6181.8	0.121	0.783	0.760	0.749
モデル5(クラス数5)	6949.3	6212.2	0.131	0.795	0.763	0.738
モデル6(クラス数6)	7132.0	6246.8	0.139	0.809	0.772	0.741
モデル7(クラス数7)	7301.0	6267.7	0.100	0.866	0.838	0.808
モデル8(クラス数8)	7499.3	6317.9	0.128	0.844	0.823	0.784
モデル9(クラス数9)	7664.5	6334.8	0.093	0.885	0.870	0.836
モデル 10(クラス数 10)	7863.2	6385.4	0.104	0.872	0.867	0.823
モデル 11(クラス数 11)	8065.1	6439.2	0.107	0.871	0.866	0.821
モデル 12(クラス数 12)	8255.3	6481.3	0.103	0.880	0.878	0.829
モデル 13(クラス数 13)	8437.0	6514.9	0.098	0.877	0.884	0.837
モデル 14(クラス数 14)	8650.0	6579.7	0.096	0.890	0.887	0.842
モデル 15(クラス数 15)	8846.2	6627.7	0.104	0.883	0.882	0.832
モデル 16(クラス数 16)	9030.8	6664.2	0.107	0.881	0.891	0.833
モデル 17(クラス数 17)	9225.1	6710.4	0.082	0.903	0.913	0.865
モデル 18(クラス数 18)	9412.0	6749.1	0.061	0.932	0.930	0.897
モデル 19(クラス数 19)	9642.5	6831.4	0.087	0.901	0.916	0.865
モデル 20(クラス数 20)	9836.0	6876.8	0.077	0.915	0.924	0.881

（表２－６－４－４）　洗髪拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（全体）

(n=209)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		徐々に洗える日が多くなった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した	洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった
パターン1	「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の５項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」、「好きな話題で会話しながら」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	-0.163 *	0.074	0.001	0.205 **	-0.022
パターン2	「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「不安を除きながら」、「湯船につかったり、洗身してから」、「一部分から」、「単純な声かけ」、「好きな話題で会話しながら」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	0.105	-0.104	0.059	-0.099	-0.009
パターン3	「洗髪の効能を説明」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「浴室温度調整」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	-0.038	0.033	-0.038	0.022	0.051
パターン4	「声かけの態度を工夫」(99.9%)を共通ベースとして、「一部分から」も多く、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「湯温調整」、「１人で」、「洗髪の効能を説明」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	-0.051	0.072	0.002	-0.056	0.015
パターン5	「好きな話題で会話しながら」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「介助者の工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	0.033	-0.079	0.071	-0.020	-0.015
パターン6	「浴室温度調整」、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」の３項目を共通ベースとして、「一部分から」と「湯温調整」も多く、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「１人で」、「介助者の工夫」、「顔に湯がかからない工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	0.042	-0.128	0.027	0.038	0.072
パターン7	「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主として、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均2.7項目と最少の組み合わせ	-0.028	0.153 *	-0.073	-0.092	-0.021
パターン8	「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	0.036	-0.050	-0.071	0.107	0.037
パターン9	「お礼やねぎらい」、「湯温調整」、「複数のスタッフ」の３項目を主として、「好きな話題で会話しながら」、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「一部分から」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯船につかったり、洗身してから」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	0.093	-0.062	-0.008	-0.046	-0.005
パターン10	「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」、「介助者の工夫」の３項目も多く、「湯温調整」、「浴室温度調整」、「１人で」、「単純な声かけ」、「一部分から」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	-0.123	0.096	-0.066	-0.062	0.215 **
パターン11	「洗髪後の手入れを行う」と「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「単純な声かけ」と「好きな話題で会話しながら」も多く、「声かけの態度を工夫」、「顔に湯がかからない工夫」、「仲の良い人と一緒に入浴」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	0.117	-0.064	0.000	-0.068	-0.038
パターン12	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の６項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」も多く、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「介助者の工夫」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	-0.003	-0.069	0.108	0.026	-0.068
パターン13	「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「浴室温度調整」の５項目を共通ベースとして、「湯温調整」も多く、「顔に湯がかからない工夫」、「不安を除きながら」、「複数のスタッフ」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	0.087	0.058	-0.111	-0.034	-0.054
パターン14	「１人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多く、「お礼やねぎらい」、「声かけの態度を工夫」、「髪を染めるため」、「湯船につかったり、洗身してから」、「顔に湯がかからない工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	-0.128	0.137 *	-0.031	0.105	-0.056
パターン15	「顔に湯がかからない工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「お礼やねぎらい」の３項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「不安を除きながら」、「家族からの依頼」、「介助者の工夫」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	0.068	-0.065	0.043	-0.028	-0.052
パターン16	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」の10項目を共通ベースとした平均14.1項目と最多の組み合わせ	-0.024	0.030	0.038	-0.038	-0.036
パターン17	「声かけの態度を工夫」、「複数のスタッフ」、「顔に湯がかからない工夫」の３項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「お礼やねぎらい」、「浴室温度調整」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	-0.008	0.016	0.037	-0.040	-0.036
パターン18	「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」の４項目を共通ベースとして、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	-0.009	0.017	0.038	-0.040	-0.036

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－６－４－５）　洗髪拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連
（全体）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況						
			徐々に洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えた	理容室では洗髪できた	洗ってほしいと訴えることもできた	自分で洗髪するようになった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した
全体		209	56.5	6.7	2.9	4.3	6.2	55.0	26.8
パターン1	「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の5項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」、「好きな話題で会話しながら」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	27	44.5	18.4	7.4	3.7	7.3	76.3	35.1
パターン2	「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「不安を除きながら」、「湯船につかったり、洗身してから」、「一部分から」、「単純な声かけ」、「好きな話題で会話しながら」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	19	74.2	0.3	0.0	4.2	5.5	45.8	30.0
パターン3	「洗髪の効能を説明」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「浴室温度調整」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	12	54.6	7.9	7.9	8.2	13.0	65.3	25.5
パターン4	「声かけの態度を工夫」（99.9%）を共通ベースとして、「一部分から」も多く、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「湯温調整」、「１人で」、「洗髪の効能を説明」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	15	29.3	0.4	0.3	1.9	6.7	50.2	27.0
パターン5	「好きな話題で会話しながら」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「介助者の工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	17	64.7	3.2	3.9	5.7	5.8	46.8	35.8
パターン6	「浴室温度調整」、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」の3項目を共通ベースとして、「一部分から」と「湯温調整」も多く、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「１人で」、「介助者の工夫」、「顔に湯がかからない工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	16	64.4	8.8	0.0	12.3	12.3	47.4	36.6
パターン7	「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主として、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均2.7項目と最少の組み合わせ	16	44.3	0.0	0.0	0.1	6.1	61.5	13.9
パターン8	「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	15	57.5	17.8	1.9	0.2	9.6	27.9	13.4
パターン9	「お礼やねぎらい」、「湯温調整」、「複数のスタッフ」の3項目を主として、「好きな話題で会話しながら」、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「一部分から」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯船につかったり、洗身してから」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	15	66.1	1.9	6.8	7.8	0.1	32.5	22.8
パターン10	「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」、「介助者の工夫」の3項目も多く、「湯温調整」、「浴室温度調整」、「１人で」、「単純な声かけ」、「一部分から」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	8	12.9	0.0	0.0	8.9	22.7	67.4	12.2
パターン11	「洗髪後の手入れを行う」と「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「単純な声かけ」と「好きな話題で会話しながら」も多く、「声かけの態度を工夫」、「顔に湯がかからない工夫」、「仲の良い人と一緒に入浴」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	9	87.8	0.0	0.0	11.0	0.0	45.4	21.9
パターン12	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の6項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」も多く、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「介助者の工夫」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	10	79.4	10.4	0.0	0.0	0.0	79.4	49.1
パターン13	「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「浴室温度調整」の5項目を共通ベースとして、「湯温調整」も多く、「顔に湯がかからない工夫」、「不安を除きながら」、「複数のスタッフ」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	8	63.6	12.8	0.0	0.0	0.0	61.4	0.0
パターン14	「１人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多く、「お礼やねぎらい」、「声かけの態度を工夫」、「髪を染めるため」、「湯船につかったり、洗身してから」、「顔に湯がかからない工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	6	3.1	0.0	18.2	0.0	0.0	61.2	17.9
パターン15	「顔に湯がかからない工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「お礼やねぎらい」の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「不安を除きながら」、「家族からの依頼」、「介助者の工夫」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	7	85.1	13.2	0.1	0.0	0.5	42.4	30.7
パターン16	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」の10項目を共通ベースとした平均14.1項目と最多の組み合わせ	3	66.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	33.3
パターン17	「声かけの態度を工夫」、「複数のスタッフ」、「顔に湯がかからない工夫」の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「お礼やねぎらい」、「浴室温度調整」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	3	66.4	0.0	0.0	0.0	0.0	67.2	33.7
パターン18	「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」の4項目を共通ベースとして、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	3	66.1	0.0	0.0	0.0	0.0	67.6	33.8

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－６－４－６）　洗髪拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン１“一部介助、中程度重症度”の場合）

（n=139）

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		徐々に洗える日が多くなった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した	洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった
パターン1	「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の５項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」、「好きな話題で会話しながら」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	-0.165	0.065	0.081	0.134	-0.052
パターン2	「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「不安を除きながら」、「湯船につかったり、洗身してから」、「一部分から」、「単純な声かけ」、「好きな話題で会話しながら」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	0.154	-0.128	0.094	-0.110	-0.094
パターン3	「洗髪の効能を説明」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「浴室温度調整」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	0.016	0.005	0.002	-0.077	0.028
パターン4	「声かけの態度を工夫」（99.9%）を共通ベースとして、「一部分から」も多く、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「湯温調整」、「１人で」、「洗髪の効能を説明」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	0.023	-0.025	-0.013	-0.064	0.077
パターン5	「好きな話題で会話しながら」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「介助者の工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	0.063	-0.051	-0.040	-0.014	0.048
パターン6	「浴室温度調整」、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」の３項目を共通ベースとして、「一部分から」と「湯温調整」も多く、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「１人で」、「介助者の工夫」、「顔に湯がかからない工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	0.040	-0.101	-0.010	-0.038	0.155
パターン7	「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主として、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均2.7項目と最少の組み合わせ	-0.086	0.220 **	-0.064	-0.078	-0.076
パターン8	「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	0.029	-0.132	-0.070	0.219 **	0.094
パターン9	「お礼やねぎらい」、「湯温調整」、「複数のスタッフ」の３項目を主として、「好きな話題で会話しながら」、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「一部分から」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯船につかったり、洗身してから」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	0.117	-0.085	-0.056	-0.019	0.039
パターン10	「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」、「介助者の工夫」の３項目も多く、「湯温調整」、「浴室温度調整」、「１人で」、「単純な声かけ」、「一部分から」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	-0.146	0.130	-0.047	-0.062	0.157
パターン11	「洗髪後の手入れを行う」と「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「単純な声かけ」と「好きな話題で会話しながら」も多く、「声かけの態度を工夫」、「顔に湯がかからない工夫」、「仲の良い人と一緒に入浴」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	0.141	-0.057	-0.020	-0.075	-0.061
パターン12	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の６項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」も多く、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「介助者の工夫」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	-0.090	-0.076	0.220 **	0.066	-0.080
パターン13	「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「浴室温度調整」の５項目を共通ベースとして、「湯温調整」も多く、「顔に湯がかからない工夫」、「不安を除きながら」、「複数のスタッフ」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	0.061	0.048	-0.094	-0.007	-0.055
パターン14	「１人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多く、「お礼やねぎらい」、「声かけの態度を工夫」、「髪を染めるため」、「湯船につかったり、洗身してから」、「顔に湯がかからない工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	-0.166	0.153	-0.018	0.141	-0.069
パターン15	「顔に湯がかからない工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「お礼やねぎらい」の３項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「不安を除きながら」、「家族からの依頼」、「介助者の工夫」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	0.063	0.007	-0.069	0.019	-0.044
パターン16	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」の10項目を共通ベースとした平均14.1項目と最多の組み合わせ	-0.071	0.136	-0.042	-0.028	-0.026
パターン17	「声かけの態度を工夫」、「複数のスタッフ」、「顔に湯がかからない工夫」の３項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「お礼やねぎらい」、「浴室温度調整」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	0.030	0.056	-0.060	-0.041	-0.032
パターン18	「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」の４項目を共通ベースとして、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	-0.019	0.013	0.065	-0.046	-0.044

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－６－４－７）　洗髪拒否の解決方法パターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン１“一部介助、中程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況 徐々に洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えた	理容室では洗髪できた	洗ってほしいと訴えることもできた	自分で洗髪するようになった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した
全体		139	56.1	7.2	2.2	3.6	6.5	56.1	21.6
パターン1	「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の5項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」、「好きな話題で会話しながら」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	18	49.0	16.8	5.6	0.0	11.1	82.0	36.3
パターン2	「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「不安を除きながら」、「湯船につかったり、洗身してから」、「一部分から」、「単純な声かけ」、「好きな話題で会話しながら」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	17	77.3	0.4	0.0	4.7	0.0	45.7	27.7
パターン3	「洗髪の効能を説明」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「浴室温度調整」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	6	58.3	0.0	0.0	0.8	9.3	49.3	18.5
パターン4	「声かけの態度を工夫」（99.9%）を共通ベースとして、「一部分から」も多く、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「湯温調整」、「１人で」、「洗髪の効能を説明」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	10	41.9	0.1	0.0	2.5	10.5	35.9	19.9
パターン5	「好きな話題で会話しながら」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「介助者の工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	10	70.8	5.7	0.0	10.1	10.2	48.3	18.8
パターン6	「浴室温度調整」、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」の3項目を共通ベースとして、「一部分から」と「湯温調整」も多く、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「１人で」、「介助者の工夫」、「顔に湯がかからない工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	9	80.4	4.7	0.0	10.6	21.2	50.2	21.1
パターン7	「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主として、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均2.7項目と最少の組み合わせ	9	23.7	0.1	0.0	0.1	0.2	76.2	11.3
パターン8	「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	10	57.6	27.2	0.0	0.2	14.4	20.7	10.0
パターン9	「お礼やねぎらい」、「湯温調整」、「複数のスタッフ」の3項目を主として、「好きな話題で会話しながら」、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「一部分から」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯船につかったり、洗身してから」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	9	59.5	2.9	10.6	12.1	0.0	37.0	13.3
パターン10	「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」、「介助者の工夫」の3項目も多く、「湯温調整」、「浴室温度調整」、「１人で」、「単純な声かけ」、「一部分から」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	8	14.3	0.0	0.0	10.0	13.3	75.7	13.5
パターン11	「洗髪後の手入れを行う」と「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「単純な声かけ」と「好きな話題で会話しながら」も多く、「声かけの態度を工夫」、「顔に湯がかからない工夫」、「仲の良い人と一緒に入浴」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	7	84.5	0.0	0.0	0.1	0.0	57.9	14.3
パターン12	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の6項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」も多く、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「介助者の工夫」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	8	74.3	12.9	0.0	0.0	0.0	87.5	61.0
パターン13	「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「浴室温度調整」の5項目を共通ベースとして、「湯温調整」も多く、「顔に湯がかからない工夫」、「不安を除きながら」、「複数のスタッフ」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	5	62.2	20.7	0.0	0.0	0.0	58.4	0.0
パターン14	「１人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多く、「お礼やねぎらい」、「声かけの態度を工夫」、「髪を染めるため」、「湯船につかったり、洗身してから」、「顔に湯がかからない工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	6	3.1	0.0	17.9	0.0	0.0	61.1	17.9
パターン15	「顔に湯がかからない工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「お礼やねぎらい」の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「不安を除きながら」、「家族からの依頼」、「介助者の工夫」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	3	67.0	32.1	0.0	0.1	0.0	32.4	1.8
パターン16	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」の10項目を共通ベースとした平均14.1項目と最多の組み合わせ	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
パターン17	「声かけの態度を工夫」、「複数のスタッフ」、「顔に湯がかからない工夫」の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「お礼やねぎらい」、「浴室温度調整」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	2	49.4	0.0	0.0	0.0	0.0	50.6	0.0
パターン18	「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」の4項目を共通ベースとして、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	3	66.1	0.0	0.0	0.0	0.0	67.6	33.8

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－６－４－８）　洗髪拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン２“全介助、中高程度重症度”の場合）

(n=54)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		徐々に洗える日が多くなった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した	洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった
パターン1	「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の５項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」、「好きな話題で会話しながら」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	-0.207	0.116	-0.139	0.451 **	-0.087
パターン2	「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「不安を除きながら」、「湯船につかったり、洗身してから」、「一部分から」、「単純な声かけ」、「好きな話題で会話しながら」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	-0.073	-0.096	0.189	-0.027	-0.036
パターン3	「洗髪の効能を説明」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「浴室温度調整」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	-0.128	0.197	-0.046	-0.044	-0.037
パターン4	「声かけの態度を工夫」(99.9%)を共通ベースとして、「一部分から」も多く、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「湯温調整」、「１人で」、「洗髪の効能を説明」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	-0.171	0.234	-0.019	-0.073	-0.069
パターン5	「好きな話題で会話しながら」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「介助者の工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	-0.006	-0.130	0.163	-0.011	-0.072
パターン6	「浴室温度調整」、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」の３項目を共通ベースとして、「一部分から」と「湯温調整」も多く、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「１人で」、「介助者の工夫」、「顔に湯がかからない工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	0.063	-0.212	0.072	0.190	-0.061
パターン7	「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主として、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均2.7項目と最少の組み合わせ	0.210	0.048	-0.270 *	-0.151	0.391 **
パターン8	「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	0.000	0.145	-0.081	-0.100	-0.045
パターン9	「お礼やねぎらい」、「湯温調整」、「複数のスタッフ」の３項目を主として、「好きな話題で会話しながら」、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「一部分から」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯船につかったり、洗身してから」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	0.007	-0.017	0.073	-0.095	-0.044
パターン10	「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」、「介助者の工夫」の３項目も多く、「湯温調整」、「浴室温度調整」、「１人で」、「単純な声かけ」、「一部分から」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	-0.087	-0.059	0.179	-0.046	-0.053
パターン11	「洗髪後の手入れを行う」と「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「単純な声かけ」と「好きな話題で会話しながら」も多く、「声かけの態度を工夫」、「顔に湯がかからない工夫」、「仲の良い人と一緒に入浴」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	0.084	-0.136	0.055	-0.060	0.135
パターン12	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の６項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」も多く、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「介助者の工夫」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	0.317 *	-0.104	-0.149	-0.081	0.003
パターン13	「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「浴室温度調整」の５項目を共通ベースとして、「湯温調整」も多く、「顔に湯がかからない工夫」、「不安を除きながら」、「複数のスタッフ」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	0.072	0.133	-0.154	-0.080	-0.018
パターン14	「１人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多く、「お礼やねぎらい」、「声かけの態度を工夫」、「髪を染めるため」、「湯船につかったり、洗身してから」、「顔に湯がかからない工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	-0.106	0.180	-0.086	0.011	-0.012
パターン15	「顔に湯がかからない工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「お礼やねぎらい」の３項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「不安を除きながら」、「家族からの依頼」、「介助者の工夫」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	0.048	-0.172	0.185	-0.091	-0.031
パターン16	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」の10項目を共通ベースとした平均14.1項目と最多の組み合わせ	-0.082	-0.094	0.207	-0.048	-0.037
パターン17	「声かけの態度を工夫」、「複数のスタッフ」、「顔に湯がかからない工夫」の３項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「お礼やねぎらい」、「浴室温度調整」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	-0.082	-0.094	0.207	-0.048	-0.037
パターン18	「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」の４項目を共通ベースとして、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	-0.120	0.116	0.003	0.012	-0.053

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－６－４－９）　洗髪拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の状況
（高齢者パターン２“全介助、中高程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況						
			徐々に洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えた	理容室では洗髪できた	洗ってほしいと訴えることもできた	自分で洗髪するようになった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した
全体		54	50.0	5.6	3.7	1.9	1.9	55.6	42.6
パターン1	「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の5項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」、「好きな話題で会話しながら」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	7	31.8	27.4	13.7	0.0	0.0	83.1	41.8
パターン2	「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「不安を除きながら」、「湯船につかったり、洗身してから」、「一部分から」、「単純な声かけ」、「好きな話題で会話しながら」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	1	99.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	99.0
パターン3	「洗髪の効能を説明」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「浴室温度調整」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	3	6.5	0.0	0.0	0.0	0.6	62.9	32.0
パターン4	「声かけの態度を工夫」（99.9%）を共通ベースとして、「一部分から」も多く、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「湯温調整」、「１人で」、「洗髪の効能を説明」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	5	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	38.8
パターン5	「好きな話題で会話しながら」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「介助者の工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	6	42.9	0.0	11.9	0.0	0.0	44.0	61.5
パターン6	「浴室温度調整」、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」の3項目を共通ベースとして、「一部分から」と「湯温調整」も多く、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「１人で」、「介助者の工夫」、「顔に湯がかからない工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	6	32.6	16.9	0.0	0.0	0.0	34.1	67.7
パターン7	「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主として、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均2.7項目と最少の組み合わせ	6	64.0	0.0	0.0	0.0	15.6	51.0	3.4
パターン8	「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	4	47.4	0.0	6.8	0.0	0.0	51.1	24.8
パターン9	「お礼やねぎらい」、「湯温調整」、「複数のスタッフ」の3項目を主として、「好きな話題で会話しながら」、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「一部分から」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯船につかったり、洗身してから」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	4	72.0	0.0	0.0	0.0	0.2	28.0	47.8
パターン10	「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」、「介助者の工夫」の3項目も多く、「湯温調整」、「浴室温度調整」、「１人で」、「単純な声かけ」、「一部分から」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0
パターン11	「洗髪後の手入れを行う」と「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「単純な声かけ」と「好きな話題で会話しながら」も多く、「声かけの態度を工夫」、「顔に湯がかからない工夫」、「仲の良い人と一緒に入浴」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	2	99.9	0.0	0.0	50.2	0.0	0.0	49.7
パターン12	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の6項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」も多く、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「介助者の工夫」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	2	99.8	0.1	0.0	0.0	0.0	46.8	1.0
パターン13	「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「浴室温度調整」の5項目を共通ベースとして、「湯温調整」も多く、「顔に湯がかからない工夫」、「不安を除きながら」、「複数のスタッフ」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	2	48.7	0.0	0.0	0.0	0.0	99.7	0.0
パターン14	「１人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多く、「お礼やねぎらい」、「声かけの態度を工夫」、「髪を染めるため」、「湯船につかったり、洗身してから」、「顔に湯がかからない工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0
パターン15	「顔に湯がかからない工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「お礼やねぎらい」の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「不安を除きながら」、「家族からの依頼」、「介助者の工夫」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	3	97.3	0.0	0.3	0.0	0.7	64.6	66.8
パターン16	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」の10項目を共通ベースとした平均14.1項目と最多の組み合わせ	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
パターン17	「声かけの態度を工夫」、「複数のスタッフ」、「顔に湯がかからない工夫」の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「お礼やねぎらい」、「浴室温度調整」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	1	99.9	0.0	0.0	0.0	0.0	99.9	99.9
パターン18	「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」の4項目を共通ベースとして、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－６－４－１０）　洗髪拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン３“自立、軽中程度重症度”の場合）

(n=16)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		徐々に洗える日が多くなった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した	洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった
パターン1	「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の５項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」、「好きな話題で会話しながら」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	-0.029	-0.178	-0.148	-0.043	0.204
パターン2	「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「不安を除きながら」、「湯船につかったり、洗身してから」、「一部分から」、「単純な声かけ」、「好きな話題で会話しながら」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	-0.328	0.240	-0.107	-0.102	0.491
パターン3	「洗髪の効能を説明」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「浴室温度調整」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	-0.217	0.264	-0.174	0.499 *	0.040
パターン4	「声かけの態度を工夫」(99.9%)を共通ベースとして、「一部分から」も多く、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「湯温調整」、「１人で」、「洗髪の効能を説明」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	-0.292	-0.137	-0.115	0.987 **	-0.175
パターン5	「好きな話題で会話しながら」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「介助者の工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	-0.009	-0.161	0.412	-0.102	-0.237
パターン6	「浴室温度調整」、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」の３項目を共通ベースとして、「一部分から」と「湯温調整」も多く、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「１人で」、「介助者の工夫」、「顔に湯がかからない工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	0.139	-0.119	-0.104	-0.049	-0.028
パターン7	「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主として、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均2.7項目と最少の組み合わせ	-0.282	-0.125	0.658 **	-0.022	-0.179
パターン8	「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	0.253	-0.114	-0.102	-0.083	-0.138
パターン9	「お礼やねぎらい」、「湯温調整」、「複数のスタッフ」の３項目を主として、「好きな話題で会話しながら」、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「一部分から」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯船につかったり、洗身してから」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	0.224	-0.133	-0.011	-0.088	-0.172
パターン10	「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」、「介助者の工夫」の３項目も多く、「湯温調整」、「浴室温度調整」、「１人で」、「単純な声かけ」、「一部分から」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	-0.307	-0.122	-0.103	-0.090	0.505 *
パターン11	「洗髪後の手入れを行う」と「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「単純な声かけ」と「好きな話題で会話しながら」も多く、「声かけの態度を工夫」、「顔に湯がかからない工夫」、「仲の良い人と一緒に入浴」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	0.155	0.641 **	-0.083	-0.067	-0.155
パターン12	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の６項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」も多く、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「介助者の工夫」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	0.068	0.572 *	0.154	-0.090	-0.224
パターン13	「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「浴室温度調整」の５項目を共通ベースとして、「湯温調整」も多く、「顔に湯がかからない工夫」、「不安を除きながら」、「複数のスタッフ」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	0.261	-0.121	-0.099	-0.080	-0.151
パターン14	「１人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多く、「お礼やねぎらい」、「声かけの態度を工夫」、「髪を染めるため」、「湯船につかったり、洗身してから」、「顔に湯がかからない工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	-0.281	0.133	-0.168	-0.150	0.532 *
パターン15	「顔に湯がかからない工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「お礼やねぎらい」の３項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「不安を除きながら」、「家族からの依頼」、「介助者の工夫」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	0.258	-0.118	-0.100	-0.081	-0.145
パターン16	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」の10項目を共通ベースとした平均14.1項目と最多の組み合わせ	0.155	0.641 **	-0.083	-0.066	-0.155
パターン17	「声かけの態度を工夫」、「複数のスタッフ」、「顔に湯がかからない工夫」の３項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「お礼やねぎらい」、「浴室温度調整」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	-0.305	-0.121	-0.106	-0.095	0.509 *
パターン18	「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」の４項目を共通ベースとして、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	-0.290	-0.103	0.702 **	-0.063	-0.184

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン3の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－６－４－１１）　洗髪拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の状況
（高齢者パターン３“自立、軽中程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況						
			徐々に洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えた	理容室では洗髪できた	洗ってほしいと訴えることもできた	自分で洗髪するようになった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した
全体		16	81.3	6.3	6.3	18.8	18.8	43.8	18.8
パターン1	「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の5項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」、「好きな話題で会話しながら」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	2	50.1	0.0	0.0	49.9	0.0	0.0	0.0
パターン2	「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「不安を除きながら」、「湯船につかったり、洗身してから」、「一部分から」、「単純な声かけ」、「好きな話題で会話しながら」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	1	2.8	0.0	0.0	0.0	97.2	90.3	0.5
パターン3	「洗髪の効能を説明」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「浴室温度調整」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	3	100.0	32.4	32.4	32.4	34.0	100.0	32.4
パターン4	「声かけの態度を工夫」（99.9%）を共通ベースとして、「一部分から」も多く、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「湯温調整」、「1人で」、「洗髪の効能を説明」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0
パターン5	「好きな話題で会話しながら」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「介助者の工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.3	47.3
パターン6	「浴室温度調整」、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」の3項目を共通ベースとして、「一部分から」と「湯温調整」も多く、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「1人で」、「介助者の工夫」、「顔に湯がかからない工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	1	99.5	0.0	0.0	99.2	0.5	99.7	0.0
パターン7	「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主として、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均2.7項目と最少の組み合わせ	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	97.3
パターン8	「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	1	97.2	0.0	0.0	0.0	2.8	2.8	0.0
パターン9	「お礼やねぎらい」、「湯温調整」、「複数のスタッフ」の3項目を主として、「好きな話題で会話しながら」、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「一部分から」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯船につかったり、洗身してから」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.0
パターン10	「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」、「介助者の工夫」の3項目も多く、「湯温調整」、「浴室温度調整」、「1人で」、「単純な声かけ」、「一部分から」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	1	0.3	0.2	0.2	0.3	99.7	0.4	0.2
パターン11	「洗髪後の手入れを行う」と「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「単純な声かけ」と「好きな話題で会話しながら」も多く、「声かけの態度を工夫」、「顔に湯がかからない工夫」、「仲の良い人と一緒に入浴」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0
パターン12	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の6項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」も多く、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「介助者の工夫」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0
パターン13	「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「浴室温度調整」の5項目を共通ベースとして、「湯温調整」も多く、「顔に湯がかからない工夫」、「不安を除きながら」、「複数のスタッフ」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン14	「1人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多く、「お礼やねぎらい」、「声かけの態度を工夫」、「髪を染めるため」、「湯船につかったり、洗身してから」、「顔に湯がかからない工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0
パターン15	「顔に湯がかからない工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「お礼やねぎらい」の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「不安を除きながら」、「家族からの依頼」、「介助者の工夫」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	1	98.7	0.0	0.0	0.0	1.3	1.2	0.0
パターン16	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「1人で」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」の10項目を共通ベースとした平均14.1項目と最多の組み合わせ	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
パターン17	「声かけの態度を工夫」、「複数のスタッフ」、「顔に湯がかからない工夫」の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「お礼やねぎらい」、「浴室温度調整」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0
パターン18	「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「1人で」の4項目を共通ベースとして、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均6.8項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン3の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－６－５－１）　洗髪拒否の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
		計（延解決方法件数）	1,328	100.0
認知能力	1	認知機能	62	4.7
	2	認知症の種類	18	1.4
	3	見当識	19	1.4
	4	妄想の有無	9	0.7
健康面	5	現病・既往歴	7	0.5
	6	バイタル	7	0.5
	7	失禁有無	10	0.8
	8	排泄状況	6	0.5
	9	清潔度	86	6.5
	10	食欲	0	0.0
	11	睡眠時間・状況	5	0.4
	12	皮膚疾患	16	1.2
	13	生理	0	0.0
能力・機能	14	歩行・下肢機能	1	0.1
	15	着脱能力	3	0.2
	16	言語理解	78	5.9
	17	上肢機能	2	0.2
心理面	18	気分	341	25.7
	19	本人の気持ち、意志	518	39.0
	20	興味・関心	109	8.2
入浴・洗髪方法	21	入浴時間帯	56	4.2
	22	入浴のこだわり	59	4.4
	23	入浴人数	13	1.0
	24	浴槽の形	2	0.2
	25	浴室の温度	88	6.6
	26	湯温	172	13.0
	27	シャワーかどうか	34	2.6
	28	洗髪した日	24	1.8
	29	シャワーの水圧	94	7.1
	30	シャンプーの種類	8	0.6
	31	床屋に行った日	6	0.5
拒否時の状態	32	洗髪拒否の開始時期	12	0.9
	33	洗髪への反応・様子	197	14.8
入浴習慣	34	洗髪習慣（自宅での方法）	94	7.1
	35	浴室環境（自宅）	15	1.1
	36	生活歴（幼少期から）	43	3.2
	37	過去の入浴体験	88	6.6
人間関係	38	他の入居者との関係	51	3.8
	39	スタッフとの関係	314	23.6
	40	家族関係	31	2.3
介護者の対応	41	スタッフの声かけ内容・見守り方	453	34.1
	42	介護者の性別	86	6.5
	43	介助者の人数	20	1.5
その他	44	性格	137	10.3
	45	性別	34	2.6
	46	下着の状態	9	0.7
	47	趣味	16	1.2

（参考）平均記入項目数　→　2.6

（表２－６－５－２）洗髪拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン
（潜在クラス 19 クラスモデルのプロフィール）

(n=1328)

区分	code	解決に役立った情報	全体	パターン1 「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」他で構成された平均2.0項目の組み合わせ	パターン2 「気分」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」も多く、「興味・関心」を含めた"心理面"にウェイトを置いて、「スタッフの声かけ内容・見守り方」他で構成された平均2.7項目の組み合わせ	パターン3 「湯温」を共通ベースとして、「シャワーの水圧」、「浴室の温度」などを含め、「入浴・洗髪方法"にウェイトを置いて構成された平均2.5項目の組み合わせ	パターン4 「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「洗髪への反応・様子」、「スタッフとの関係」などで構成された平均2.3項目の組み合わせ	パターン5 「洗髪への反応・様子」を主として、「清潔度」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均2.1項目の組み合わせ	パターン6 「本人の気持ち、意志」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」も多く、「気分」、「性格」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	パターン7 「性格」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」他に分散して構成された平均2.3項目の組み合わせ	パターン8 「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「介護者の性別」も多く、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	パターン9 「洗髪習慣（自宅での方法）」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」も多く、「気分」、「過去の入浴体験」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	パターン10 「認知機能」、「言語理解」、「本人の気持ち、意志」、「気分」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	パターン11 「他の人居者との関係」、「過去の入浴体験」他で構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	パターン12 「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.3項目の組み合わせ	パターン13 「清潔度」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「皮膚疾患」、「洗髪への反応・様子」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン14 「浴室の温度」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」他で構成された平均1.9項目の組み合わせ	パターン15 「興味・関心」と「気分」を主として、「本人の気持ち、意志」を含めた"心理面"にウェイトを置き、「入浴のこだわり」、「入浴時間帯」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	パターン16 「入浴のこだわり」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」などで構成された平均2.3項目の組み合わせ	パターン17 「本人の気持ち、意志」を主として、「入浴時間帯」、「介助者の人数」などで構成された平均2.4項目の組み合わせ	パターン18 「気分」、「本人の気持ち、意志」、「湯温」の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「シャワーの水圧」、「浴室の温度」、「洗髪への反応・様子」、「過去の入浴体験」などで構成された平均4.6項目と最多の組み合わせ	パターン19 「洗髪した日」、「本人の気持ち、意志」、「気分」の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「洗髪拒否の開始時期」、「床屋に行った日」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ
クラスサイズ			1.000	0.132	0.119	0.094	0.088	0.076	0.073	0.070	0.046	0.042	0.042	0.038	0.036	0.034	0.029	0.022	0.022	0.017	0.016	0.005
認知能力	1	認知機能	0.047	0.012	0.000	0.000	0.000	0.000	0.018	0.000	0.000	0.040	0.851	0.000	0.105	0.050	0.026	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	2	認知症の種類	0.014	0.000	0.007	0.000	0.004	0.018	0.000	0.017	0.000	0.000	0.094	0.000	0.000	0.144	0.000	0.039	0.000	0.000	0.000	0.000
	3	見当識	0.014	0.000	0.018	0.000	0.059	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.106	0.004	0.020	0.000	0.000	0.000	0.073	0.000	0.000	0.000
	4	妄想の 有無	0.007	0.000	0.012	0.000	0.025	0.000	0.000	0.021	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.049	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
健康面	5	現病・既往歴	0.005	0.000	0.000	0.000	0.017	0.020	0.000	0.000	0.033	0.000	0.018	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	6	バイタル	0.005	0.000	0.006	0.000	0.013	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.026	0.000	0.000	0.155	0.000	0.000
	7	失禁有無	0.008	0.000	0.000	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.172	0.000	0.174	0.000	0.000
	8	排泄状況	0.005	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.017	0.000	0.000	0.000	0.042	0.000	0.000	0.102	0.000	0.000	0.000	0.000
	9	清潔度	0.065	0.020	0.031	0.026	0.015	0.244	0.000	0.000	0.000	0.087	0.000	0.044	0.089	0.756	0.000	0.071	0.000	0.000	0.000	0.001
	11	睡眠時間・状況	0.004	0.000	0.000	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.033	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.089	0.000	0.000
	12	皮膚疾患	0.012	0.000	0.000	0.000	0.009	0.000	0.000	0.000	0.000	0.015	0.000	0.000	0.000	0.258	0.000	0.000	0.000	0.106	0.000	0.000
能力・機能	14	歩行・下肢機能	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.020	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	15	着脱能 力	0.002	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.022	0.026	0.034	0.000	0.000	0.000	0.000
	16	言語理解	0.059	0.028	0.015	0.023	0.001	0.109	0.166	0.105	0.000	0.000	0.351	0.000	0.001	0.146	0.000	0.000	0.039	0.064	0.099	0.001
	17	上肢機能	0.002	0.000	0.006	0.000	0.009	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
心理面	18	気分	0.257	0.088	0.999	0.124	0.001	0.031	0.372	0.153	0.163	0.227	0.221	0.001	0.001	0.182	0.160	0.611	0.194	0.001	0.996	0.787
	19	本人の 気持ち、意志	0.390	0.001	0.565	0.083	0.997	0.001	0.992	0.191	0.125	0.509	0.302	0.135	0.997	0.465	0.266	0.409	0.003	0.657	0.785	0.804
	20	興味・関心	0.082	0.050	0.206	0.000	0.058	0.017	0.031	0.130	0.000	0.052	0.109	0.108	0.000	0.117	0.000	0.745	0.000	0.000	0.126	0.001
入浴・洗髪方法	21	入浴時間帯	0.042	0.000	0.070	0.048	0.000	0.021	0.000	0.033	0.032	0.018	0.000	0.038	0.102	0.034	0.160	0.203	0.035	0.420	0.000	0.000
	22	入浴のこだわり	0.044	0.000	0.000	0.043	0.045	0.000	0.054	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.191	0.000	0.209	0.971	0.000	0.000	0.000
	23	入浴人数	0.010	0.000	0.014	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.120	0.040	0.000	0.000	0.061	0.000	0.000	0.000	0.000
	24	浴標の 形	0.002	0.000	0.000	0.000	0.000	0.010	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.026	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	25	浴室の 温度	0.066	0.000	0.000	0.309	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.044	0.000	0.000	0.042	0.000	0.995	0.000	0.081	0.000	0.229	0.002
	26	湯温	0.130	0.000	0.001	0.994	0.130	0.000	0.000	0.016	0.000	0.074	0.000	0.000	0.000	0.076	0.057	0.063	0.059	0.000	0.811	0.159
	27	シャワーかどうか	0.026	0.006	0.012	0.102	0.000	0.045	0.000	0.000	0.017	0.033	0.000	0.000	0.000	0.025	0.078	0.000	0.070	0.172	0.000	0.159
	28	洗髪した日	0.018	0.008	0.000	0.008	0.000	0.083	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.123	0.000	0.000	0.000	0.036	0.000	0.000	0.982
	29	シャワーの水圧	0.071	0.008	0.000	0.347	0.100	0.189	0.000	0.000	0.000	0.000	0.020	0.000	0.125	0.000	0.026	0.000	0.079	0.000	0.392	0.001
	30	シャンプーの種類	0.006	0.000	0.012	0.000	0.000	0.011	0.000	0.000	0.000	0.016	0.019	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.071	0.000	0.000	0.157
	31	床屋に行った日	0.005	0.000	0.000	0.016	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.018	0.000	0.000	0.021	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.313
拒否時の状態	32	洗髪拒否の開始時期	0.009	0.000	0.000	0.008	0.017	0.039	0.000	0.000	0.000	0.000	0.019	0.000	0.021	0.023	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.313
	33	洗髪への反応・様子	0.148	0.076	0.184	0.058	0.271	0.550	0.109	0.022	0.088	0.193	0.170	0.000	0.001	0.313	0.000	0.000	0.000	0.001	0.318	0.158
入浴習慣	34	洗髪習慣（自 宅での 方法）	0.071	0.019	0.000	0.046	0.000	0.100	0.020	0.000	0.000	0.991	0.054	0.000	0.136	0.055	0.000	0.082	0.097	0.000	0.000	0.001
	35	浴室環境（自 宅）	0.011	0.004	0.000	0.024	0.014	0.000	0.000	0.032	0.000	0.000	0.000	0.042	0.000	0.000	0.079	0.000	0.000	0.073	0.000	0.000
	36	生活歴（幼少 期から）	0.032	0.015	0.000	0.030	0.067	0.000	0.011	0.155	0.000	0.188	0.000	0.000	0.058	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	37	過去の 入浴体験	0.066	0.000	0.026	0.057	0.051	0.195	0.008	0.059	0.000	0.226	0.080	0.342	0.000	0.000	0.000	0.134	0.035	0.001	0.262	0.001
人間関係	38	他の 入居者との 関 係	0.038	0.010	0.090	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.045	0.000	0.019	0.418	0.100	0.024	0.000	0.111	0.035	0.000	0.000	0.000
	39	スタッフとの関 係	0.236	0.406	0.133	0.037	0.231	0.135	0.562	0.185	0.822	0.096	0.141	0.196	0.153	0.122	0.000	0.335	0.108	0.098	0.170	0.002
	40	家族関 係	0.023	0.004	0.006	0.008	0.005	0.038	0.000	0.116	0.192	0.000	0.000	0.000	0.036	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
介護者の対応	41	スタッフの 声かけ内容・見 守り方	0.341	0.998	0.201	0.090	0.000	0.209	0.841	0.221	0.348	0.002	0.128	0.101	0.997	0.224	0.001	0.001	0.282	0.001	0.443	0.341
	42	介護者の性別	0.065	0.071	0.006	0.000	0.000	0.026	0.196	0.149	0.506	0.070	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.035	0.069	0.000	0.001
	43	介助者の人数	0.015	0.033	0.000	0.000	0.023	0.000	0.000	0.023	0.000	0.000	0.000	0.027	0.020	0.000	0.000	0.071	0.000	0.223	0.000	0.000
その他	44	性格	0.103	0.088	0.081	0.016	0.085	0.000	0.283	0.487	0.000	0.098	0.179	0.000	0.000	0.196	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001
	45	性別	0.026	0.005	0.000	0.000	0.001	0.000	0.013	0.165	0.177	0.018	0.000	0.081	0.000	0.000	0.000	0.030	0.000	0.000	0.000	0.000
	46	下着の 状態	0.007	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.064	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.022	0.000	0.035	0.000	0.045	0.000	0.000
	47	趣味	0.012	0.013	0.008	0.000	0.007	0.000	0.000	0.000	0.052	0.000	0.019	0.000	0.041	0.000	0.000	0.183	0.000	0.000	0.000	0.000
（参考）平均項目数 →			2.6	2.0	2.7	2.5	2.3	2.1	3.7	2.3	2.7	3.0	2.9	1.7	3.3	3.5	1.9	3.7	2.3	2.4	4.6	4.2
該当事例数 →			(1328)	(176)	(158)	(124)	(117)	(101)	(97)	(92)	(61)	(56)	(56)	(50)	(48)	(46)	(38)	(29)	(29)	(23)	(21)	(6)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の 場合、事例数が同値となることがある。

（表２－６－５－３）潜在クラスモデル評価（洗髪拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1（クラス数1）	20828.1	20594.5	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2（クラス数2）	20612.2	20139.8	0.096	0.690	0.636	0.676
モデル3（クラス数3）	20703.3	19992.1	0.173	0.674	0.591	0.600
モデル4（クラス数4）	20880.2	19930.1	0.215	0.673	0.588	0.587
モデル5（クラス数5）	21108.0	19919.1	0.222	0.702	0.629	0.603
モデル6（クラス数6）	21343.8	19916.2	0.234	0.699	0.641	0.601
モデル7（クラス数7）	21592.1	19925.7	0.239	0.706	0.658	0.604
モデル8（クラス数8）	21852.4	19947.2	0.254	0.676	0.661	0.590
モデル9（クラス数9）	22146.4	20002.3	0.271	0.668	0.642	0.575
モデル 10（クラス数 10）	22393.3	20010.5	0.208	0.743	0.722	0.656
モデル 11（クラス数 11）	22654.4	20032.8	0.232	0.720	0.709	0.629
モデル 12（クラス数 12）	22934.1	20073.6	0.209	0.737	0.732	0.663
モデル 13（クラス数 13）	23209.2	20109.9	0.183	0.769	0.768	0.701
モデル 14（クラス数 14）	23449.2	20111.1	0.209	0.744	0.758	0.667
モデル 15（クラス数 15）	23726.2	20149.3	0.190	0.769	0.781	0.695
モデル 16（クラス数 16）	24009.5	20193.8	0.203	0.767	0.776	0.682
モデル 17（クラス数 17）	24302.0	20247.5	0.193	0.781	0.794	0.699
モデル 18（クラス数 18）	24598.6	20305.2	0.208	0.765	0.789	0.683
モデル 19（クラス数 19）	24814.4	20282.3	0.147	0.830	0.842	0.766
モデル 20（クラス数 20）	25136.5	20365.5	0.163	0.801	0.817	0.736

（表２－６－５－４）洗髪拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

【比率】（縦100）

区分	code	解決方法	合計	情報の組み合わせパターン																			
				パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17	パターン18	パターン19
				「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」他で構成された平均2.0項目の組み合わせ	「気分」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」も多く、「興味・関心」を含めた"心理面"にウェイトを置いて、「スタッフの声かけ内容・見守り方」他で構成された平均2.7項目の組み合わせ	「湯温」を共通ベースとして、「シャワーの水圧」、「浴室の温度」などを含めた"入浴・洗髪方法"にウェイトを置いて構成された平均2.5項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「洗髪への反応・様子」、「スタッフとの関係」などで構成された平均2.3項目の組み合わせ	「洗髪への反応・様子」を主として、「清潔度」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均2.1項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」も多く、「気分」、「性格」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「性格」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」他に分散して構成された平均2.3項目の組み合わせ	「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「介護者の性別」も多く、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	「洗髪習慣（自宅での方法）」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」も多く、「気分」、「過去の入浴体験」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	「認知機能」、「言語理解」、「本人の気持ち、意志」、「気分」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	「他の入居者との関係」、「過去の入浴体験」他で構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.3項目の組み合わせ	「清潔度」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「皮膚疾患」、「洗髪への反応・様子」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	「浴室の温度」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」他で構成された平均1.9項目の組み合わせ	「興味・関心」と「気分」を主として、「本人の気持ち、意志」を含めた"心理面"にウェイトを置き、「入浴のこだわり」、「入浴時間帯」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「入浴のこだわり」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」などで構成された平均2.3項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を主として、「入浴時間帯」、「介助者の人数」などで構成された平均2.4項目の組み合わせ	「気分」、「本人の気持ち、意志」、「湯温」の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「シャワーの水圧」、「浴室の温度」、「洗髪への反応・様子」、「過去の入浴体験」などで構成された平均4.6項目と最多の組み合わせ	「洗髪した日」、「本人の気持ち、意志」、「気分」の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「洗髪拒否の開始時期」、「床屋に行った日」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ
		延べ方法件数 →	1,328	176	158	124	117	101	97	92	61	56	56	50	48	46	38	29	29	23	21	6
洗髪方法の工夫	101	顔に湯がかからない工夫	6.2	1.0	7.1	8.3	14.7	15.6	1.8	3.2	0.4	7.5	4.5	2.6	11.1	2.2	0.0	3.4	6.8	2.3	14.8	0.1
	102	一部分から	7.5	1.9	5.7	21.4	8.6	14.8	3.2	2.3	2.5	15.8	4.5	0.2	4.2	12.3	3.1	7.2	6.8	0.6	18.2	0.2
	104	湯船につかったり、洗身してから	4.1	2.7	6.0	4.5	3.7	1.4	1.4	2.6	0.8	9.8	1.9	0.2	2.0	3.7	5.3	4.4	25.2	17.3	6.4	0.1
	105	不安を除きながら	6.9	4.4	5.7	9.9	7.4	8.1	12.7	1.9	1.2	6.9	8.3	4.6	14.6	7.2	3.0	3.6	7.0	4.9	17.8	0.0
	106	洗髪後の手入れを行う	3.7	5.3	7.8	0.0	1.5	4.4	1.8	5.9	2.8	6.1	1.7	2.9	2.1	4.1	0.0	7.7	0.2	0.4	0.4	16.5
	107	髪を染めるため	0.6	0.0	0.0	0.0	0.9	0.2	0.1	1.2	0.0	4.7	0.2	0.7	0.0	0.2	0.0	7.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	109	介助者が一緒に	0.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.6	1.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	110	自分の方法で、任せる	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	112	湯舟の中で	0.1	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	113	洗身と続けて	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	114	素早く行う	0.2	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	115	洗髪時間の調整	0.3	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	0.1	0.0
	116	湯おけ、手ぬぐい等の工夫	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	190	その他	0.3	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
声かけ・誘導の工	201	声かけの態度を工夫	12.0	28.0	11.6	0.0	7.4	6.5	20.1	10.9	21.6	5.3	11.3	8.5	17.8	9.3	0.0	3.2	7.4	4.6	5.8	31.9
	202	単純な声かけ	6.1	9.2	5.5	0.0	6.9	11.1	8.0	2.6	4.4	0.0	32.2	1.6	5.4	1.7	0.0	0.8	0.1	1.9	0.6	16.5
	203	お礼やねぎらい	9.4	14.8	12.2	0.1	11.3	6.5	16.9	16.7	17.4	1.8	11.1	5.3	6.4	5.5	0.0	3.5	0.2	2.8	1.1	0.9
	205	家族からの依頼	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	206	歌をうたいながら	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	207	好きな話題で会話しながら	6.9	6.9	12.8	1.6	3.6	8.6	8.6	10.2	6.4	4.9	7.2	5.9	4.4	6.6	0.0	16.8	7.1	5.0	1.1	0.1
	208	仲の良い人から誘導	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	209	入浴という言葉を避けた誘導	0.1	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	290	その他	0.3	0.8	0.4	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.4	0.4	0.0	0.5	0.0	1.2	0.0	1.7	0.0	0.0
洗髪環境の調整	301	好きなシャンプー、リンスを使用	1.8	1.4	2.2	0.3	1.4	2.8	2.4	0.7	1.0	5.6	3.0	2.4	0.0	1.9	0.0	0.7	7.0	2.5	0.1	0.0
	302	浴室温度調整	4.6	0.9	1.8	13.2	1.8	0.1	0.1	0.8	0.0	0.4	0.0	3.1	0.0	0.3	79.5	0.2	7.8	7.6	4.1	0.0
	303	湯温調整	6.8	0.5	0.6	39.7	13.6	3.3	1.0	0.9	0.2	2.3	0.3	2.4	0.4	0.7	8.9	3.9	13.6	3.5	24.1	0.1
	390	その他	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介助者の工夫	401	仲の良い人と一緒に入浴	2.0	0.0	4.8	0.0	0.8	0.3	0.0	0.2	0.2	0.0	1.7	26.1	1.9	0.1	0.0	2.8	3.5	4.0	0.0	0.0
	402	1人で	3.6	2.6	5.4	0.0	1.8	0.6	4.2	5.4	3.2	3.5	2.1	13.3	5.2	1.0	0.0	9.6	3.5	15.5	0.2	15.7
	403	家族と	0.9	0.0	0.9	0.0	0.8	1.2	0.2	3.2	2.9	2.9	0.1	1.2	0.0	0.1	0.0	0.1	3.4	0.3	0.0	0.0
	404	介助者の工夫	4.6	4.5	1.2	0.0	6.5	1.5	9.3	11.8	24.2	3.4	0.3	3.8	5.0	0.2	0.0	1.2	0.1	2.3	0.1	0.1
	405	複数のスタッフ	2.6	5.9	1.4	0.8	1.5	0.3	2.6	4.0	3.5	0.1	1.4	3.3	6.6	0.2	0.0	7.2	0.1	8.7	0.1	17.2
	490	その他	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	501	洗髪の効能を説明	3.8	3.4	2.3	0.0	1.2	10.2	1.1	2.7	3.4	3.1	3.8	2.0	3.7	34.7	0.0	1.1	0.1	0.3	0.2	0.5
	502	コンプレックスを確認	3.0	2.8	1.5	0.0	3.5	1.3	1.4	10.3	2.3	4.8	2.1	7.3	1.2	5.2	0.0	4.7	0.1	9.6	4.5	0.0
	504	信頼関係の構築	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	505	医者の指示	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	590	その他	0.1	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－６－６－１）絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	無理矢理裸にして拭く	汚い、臭いから拭きましょうと声をかける	放っておいて全く関わらない	本人の気分を無視して行う	だますような声かけをする	その他
実数	270	249	227	213	247	179	28
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	92.2	84.1	78.9	91.5	66.3	10.4

６．入浴拒否への成功事例調査

１）回答者属性

本調査の回答 330 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

（１）年齢

有効回答 319 件における回答者の平均年齢は、43.8 歳（SD12.6 歳）で最少年齢が 21 歳、最高年齢が 93 歳であった。（表２－７－１－１参照）

（２）性別割合

有効回答 328 件中、回答者の性別割合は男性が 71 件（21.6%）、女性が 257 件（78.4%）と女性の割合が多かった。（表２－７－１－２参照）

（３）職名の割合

有効回答 310 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 136 件（43.9%）、ケアマネージャーが 96 件（31.0%）、看護師が 13 件（4.2%）、相談員が 9 件（2.9%）となっている。（表２－７－１－３参照）

（４）役職の割合

有効回答 315 件中、回答者の役職の割合は管理者が 122 件（38.7%）、主任・リーダーが 87 件（27.6%）、施設長が 17 件（5.4%）、事務長が 1 件（0.3%）で、92 件（29.2%）が役職なしであった。（表２－７－１－４参照）

（５）資格の所有割合

有効回答 320 件中、回答者の資格の所有割合は介護福祉士が 211 件（65.9%）、ヘルパーが 134 件（41.9%）、ケアマネージャーが 125 件（39.1%）、看護師（准看護師）が 31 件（9.7%）、社会福祉士が 9 件（2.8%）であった。（表２－７－１－５参照）

（６）所属事業種の割合

有効回答 321 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 306 件（95.3%）、小規模多機能型通所介護事業が 4 件（1.2%）、介護老人福祉施設（ユニット型）が 1 件（0.3%）であった。（表２－７－１－６参照）

（７）所属事業所での勤続年数

有効回答 328 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.2 年（SD2.8 年）で最少が 0.2 年、最高が 22.8 年であった。（表２－７－１－７参照）

（８）総介護経験年数

有効回答 327 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、9.1 年（SD5.5 年）で最少が 0.7 年、最高が 39.3 年であった。（表２－７－１－８参照）

２）入浴拒否の解決経験

本調査に回答を得た 330 件における入浴拒否の解決経験、解決した高齢者に関す

る年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とＡＤＬ、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

（１）解決経験の有無

有効回答 325 件中、入浴拒否で解決経験があるのは 310 件（95.4%）であった。（表２－７－２－１参照）

（２）高齢者の状態

①　年齢

解決経験がある 310 件のうち有効回答 289 件における高齢者の平均年齢は、85.0 歳（SD6.1 歳）で最少年齢が 68 歳、最高年齢が 100 歳であった。その分布をみると、85 歳～89 歳が 91 件（31.5%）で最も多い。（表２－７－２－２参照）

②　性別

性別割合は、有効回答 301 件中、男性が 45 件（15.0%）、女性が 256 件（85.0%）と女性が多い。（表２－７－２－３参照）

③　認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 284 件中、アルツハイマー型が 154 件（54.2%）、脳血管疾患型が 73 件（25.7%）、前頭側頭型が 6 件（2.1%）、混合が 20 件（7.0%）であった。（表２－７－２－４参照）

④　身体機能の障害とＡＤＬ

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 310 件中、下肢が 57 件（18.4%）、上肢が 5 件（1.6%）、体幹が 4 件（1.3%）であり、残りの 244 件（78.7%）が機能障害なし（＝無回答）であった。（表２－７－２－５参照）

【食事介助】

食事介助は、有効回答 300 件中、自立が 262 件（87.3%）、一部介助が 37 件（12.3%）、全介助が 1 件（0.3%）であった。（表２－７－２－６参照）

【移動】

移動は、有効回答 278 件中、短距離歩行自立が 120 件（43.2%）、長距離歩行自立が 108 件（38.8%）、杖自立が 44 件（15.8%）であった。（表２－７－２－７参照）

【排泄】

排泄は、有効回答 269 件中、身体介助必要が 88 件（32.7%）、身体介助必要なしが 181 件（67.3%）であった。（表２－７－２－８参照）

【入浴】

入浴は、有効回答 299 件中、全介助が 25 件（8.4%）、洗身洗髪介助が 121 件（40.5%）、移動介助が 27 件（9.0%）、その他一部介助が 103 件（34.4%）で、自立が 23 件（7.7%）であった。（表２－７－２－９参照）

③　認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 303 件中、ランクⅠが 40 件（13.2%）、ランクⅡが 98 件（32.3%）、ランクⅢが 102 件（33.7%）、ランクⅣが 59 件（19.5%）、ランクⅤが 4 件（1.3%）であった。（表２－７－２－１０参照）

⑥　身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 289 件中、Ｊランクが 59 件（20.4%）、Ａランクが 199 件（68.9%）、Ｂランクが 30 件（10.4%）、Ｃランクが 1 件（0.3%）であった。（表２－７－２－１１参照）

⑦　高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、入浴介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析（注 1）を行った結果 3 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、入浴介助で洗身洗髪介助（50.8%）とその他一部介助（37.4%）が多く、身体障害の重症度でＡランク（85.9%）が多く、認知症の重症度でランクⅡ（38.4%）とランクⅢ（47.7%）の中程度が多いことから、これを「一部介助、中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 242 件のうち 141 件（58.3%）が該当する。

第 2 パターンは、入浴介助で自立（38.3%）とその他一部介助（44.0%）が多く、身体障害の重症度でＪランク（46.1%）とＡランク（53.9%）が多く、認知症の重症度でランクⅠ（41.0%）とランクⅡ（40.3%）が多いことから、これを「自立、軽中程度重症度」と解釈した。このパターンには 52 件（21.5%）が該当する。

第 3 パターンは、入浴介助で全介助（38.4%）と洗身洗髪介助（47.5%）が多く、身体障害の重症度でＢランク（35.2%）とＡランク（42.6%）が多く、認知症の重症度でランクⅣ（75.3%）が多いことから、これを「全介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 49 件（20.2%）が該当する。（表２－７－２－１２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－７－２－１３参照）

（注 1）潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、入浴介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団（これをクラスと呼ぶ）を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル（クラス数）を評価する指標としてＡＩＣやＢＩＣなどの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である（注 2 参照）。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

３）解決前と解決後の変化

入浴拒否で解決経験がある 310 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出するとともに、解決前後の関連を分析し、高齢者パターンによる差異も確認した。

（１）解決前の状況

入浴拒否が解決される前の状況としては、有効回答 309 件中、「何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた」が 181 件（58.6%）、「浴室まで行っても戻ってしまっていた」が 90 件（29.1%）、「暴言や暴力を伴い拒否していた」が 82 件（26.5%）、「たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった」が 72 件（23.3%）、「入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた」が 46 件（14.9%）、「その場からいなくなってしまった」が 15 件（4.9%）、「入所以来清拭のみで対応していた」が 5 件（1.6%）であった。（表２－７－３－１参照）

（２）解決後の状況

入浴拒否が解決された後の状況としては、有効回答 309 件中、「拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった」が 119 件（38.5%）、「以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた」が 108 件（35.0%）、「気持ちよいと言うようになった」が 74 件（23.9%）、「渋々ではあるが入浴するようになった」が 52 件（16.8%）、「拒否せず入浴するようになった」が 49 件（15.9%）、「安心して入浴するようになった」が 24 件（7.8%）、「自分から浴室まで行くようになった」が 16 件（5.2%）、「他の利用者と一緒に入浴するようになった」が 11 件（3.6%）、「自ら使用するタオルや衣類を出してほしいと言うようになった」が 6 件（1.9%）であった。（表２－７－３－２参照）

（３）解決前後の関連

解決前後それぞれの項目重複による影響排除のために、パターン化を経て分析することにした。

① 解決前のパターン

パターン化に用いた方法は潜在クラス分析である。

解決前は5パターンであり、第1は、「何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた」(99.9%) に集中している。これに該当する事例が90件 (38.6%) であり、“何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた”パターンと表示する。

第2は、「暴言や暴力を伴い拒否していた」(99.2%) に加えて、「浴室まで行っても戻ってしまっていた」(41.4%)、「何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた」(41.2%)、「入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた」(35.5%)、「たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった」(29.5%) を伴っている。これに該当する事例が 64 件 (27.4%) であり、“暴言や暴力を伴った複合的入浴拒否”パターンと表示する。

第3は、「浴室まで行っても戻ってしまっていた」(98.9%) に加えて、「何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた」(51.4%) や「たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった」(21.5%) を伴っている。これに該当する事例が 41 件 (17.6%) であり、“浴室まで行っても戻ってしまい、理由をつけて拒否していた”パターンと表示する。

第4は、「たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった」(93.4%) に加えて、「何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた」(37.0%) を伴っている。これに該当する事例が 26 件 (11.2%) であり、“たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった”パターンと表示する。

第5は、「入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた」(97.9%) に加えて、「浴室まで行っても戻ってしまっていた」(16.6%) を若干伴っている。これに該当する事例が13件 (5.6%) であり、“入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた”パターンと表示する。(表２－７－３－３参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－７－３－４参照)

② 解決後のパターン

解決後は5パターンであり、第1は、「拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった」(99.8%) にほぼ集中している。これに該当する事例が 81 件 (34.8%) であり、“拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった”パターンと表示する。

第2は、「以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた」(99.7%) に加えて、「気持ちよいと言うようになった」(18.9%) や「拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった」(11.6%) を若干伴っている。これに該当する事例が 62 件 (26.6%) であり、“以前より拒否は少なくなり、入浴する

回数が増えてきた”パターンと表示する。

第3は、「渋々ではあるが入浴するようになった」(98.7%) に加えて、「気持ちよいと言うようになった」(29.7%)、「以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた」(24.0%)、「拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった」(11.4%)などを多少伴っている。これに該当する事例が37件(15.9%)であり、“渋々ではあるが入浴するようになった”パターンと表示する。

第4は、「拒否せず入浴するようになった」(80.6%) に加えて、「気持ちよいと言うようになった」(47.4%)、「以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた」(15.1%)、「自分から浴室まで行くようになった」(13.4%) などを伴っている。これに該当する事例が 35 件 (15.0%) であり、“拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった”パターンと表示する。

第 5 は、「安心して入浴するようになった」(93.5%) と「気持ちよいと言うようになった」(82.6%) を共通ベースとして、「拒否せず入浴するようになった」(49.8%)、「自分から浴室まで行くようになった」(38.4%)、「以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた」(27.4%) などを多様に伴っている。これに該当する事例が19件 (8.2%) であり、“安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった”パターンと表示する。(表２－７－３－５参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－７－３－６参照)

③　解決前後のパターンの関連

各パターンへの帰属確率の相関によって解決前後の関連分析をした。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では、解決前の 5 パターンと解決後の 5 パターンのどの相関も認められない。(表２－７－３－７参照)

高齢者パターン 1 (一部介助、中程度重症度) に限定してみると、解決前パターン 5 (入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた) から、解決後パターン 4 (拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった) へと変化する傾向であり、有意水準 5%で相関が認められる。(表２－７－３－８参照)

高齢者パターン 2 (自立、軽中程度重症度) に限定してみると、どの相関も認められない。(表２－７－３－９参照)

高齢者パターン 3 (全介助、中高程度重症度) に限定してみると、解決前パターン 3 (浴室まで行っても戻ってしまい、理由をつけて拒否していた) から、解決後パターン 3 (渋々ではあるが入浴するようになった) へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。(表２－７－３－１０参照)

このように、解決前後の変化は高齢者パターンによってやや異なることがわ

かる。

（４）高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した（注 2）。

解決前の状況は、高齢者パターン 3（全介助、中高程度重症度）が他の 2 つのパターンとやや異なっている。

高齢者パターン 3（全介助、中高程度重症度）では、「何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた」（48.9%）が他の 2 つのパターンより 20%前後少ない反面、「暴言や暴力を伴い拒否していた」（42.2%）が他の 2 つのパターンより 20%程度多い。（表２－７－３－１１参照）

解決後の状況についてはそれほど顕著な差はみられない。（表２－７－３－１２参照）

（注 2）潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス 1 に対して 0.97、クラス 2 に対して 0.03、（全クラスへの帰属確率合計は 1.00 である）となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

４）入浴拒否の解決方法

入浴拒否で解決経験がある 310 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

（１）解決方法の概況

入浴拒否を解決する時に行った方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 65 分類した。分類結果は、入浴時間の調整に関するものが 2 分類、入浴前の工夫に関するものが 6 分類、誘導の工夫に関するものが 20 分類、入浴方法の工夫に関するものが 11 分類、入浴メンバーの調整に関するものが 5 分類、入浴環境の調整に関するものが 11 分類、介助者の調整に関するものが 5 分類、その他が 5 分類であった。

有効回答 308 件のなかで多くあがったものは、「入浴前コミュニケーション」が 197 件（64.0%）、「入浴中のコミュニケーションを増やす」が 179 件（58.1%）、「笑顔でゆっくり」が 169 件（54.9%）、「お礼やねぎらい」が 140 件（45.5%）、「繰り返し誘導」が 134 件（43.5%）、「湯温の調整」が 130 件（42.2%）、「浴室室温を調整」が 117 件（38.0%）、「暖まるからと声かけ」が 98 件（31.8%）、「本人の状態に応じた時間」が 95 件（30.8%）、「拒否の理由伺う」が 86 件（27.9%）、

「トイレ誘導時に一緒に」が 82 件 (26.6%)、「複数のスタッフ」が 79 件 (25.6%)、「一人で」が 72 件 (23.4%)、「本人の状態に応じた」と「身体の一部から」が各 70 件 (22.7%)、「同性介護」が 69 件 (22.4%)、「家族から入浴情報を得る」が 67 件 (21.8%)、「徐々にお湯をかける」が 66 件 (21.4%)、「趣味活動を実施した」と「下着の汚れが見られないように」が各 63 件 (20.5%) などであり、1 事例あたり平均 9.9 項目と多岐にわたる。(表２－７－４－１参照)

（２）解決方法の組み合わせパターン

65 分類のなかから 1 事例平均 9.9 の方法で構成されているのを実際の組み合わせに高い確率で近似するパターンを得るために潜在クラス分析を応用した (注 3)。

その結果 17 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.7 項目と最少の組み合わせであり、特定の方法への集中がみられず、「仲の良い人と一緒に」(14.8%)、「本人の状態に応じた時間」(14.7%)、「笑顔でゆっくり」(13.5%)、「繰り返し誘導」(12.9%)、「薬を塗るため、医師の指示」(12.2%)、「本人の状態に応じた」(12.1%)、「過去の入浴時間」(11.6%) などに分散している。第 1 パターンの該当事例は 34 件 (11.0%) である。

第 2 パターンは平均 15.8 項目と多様な組み合わせであり、「浴室室温を調整」と「湯温の調整」(各 99.9%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(96.7%)、「笑顔でゆっくり」(93.5%)、「お礼やねぎらい」(85.1%)、「徐々にお湯をかける」(83.2%)、「入浴前コミュニケーション」(93.4%) の 7 項目を共通ベースとして、「繰り返し誘導」(58.2%)、「暖まるからと声かけ」(56.3%)、「身体の一部から」(51.5%) などで構成されている。第 2 パターンに該当する事例は 31 件 (10.1%) である。

第 3 パターンは平均 8.7 項目の組み合わせであり、「入浴前コミュニケーション」(92.6%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(81.4%)、「湯温の調整」(76.5%) の 3 項目を共通ベースとして、「笑顔でゆっくり」(65.7%)、「お礼やねぎらい」(43.5%)、「一緒に行って誘導」(44.3%)、「暖まるからと声かけ」(42.0%) などで構成されている。第 3 パターンに該当する事例は 29 件 (9.4%) である。

第 4 パターンは平均 7.0 項目の組み合わせであり、「入浴前コミュニケーション」(79.5%) と「繰り返し誘導」(72.4%) を主として、「本人の状態に応じた」(47.5%)、「呼んでいると誘導」(35.3%)、「薬を塗るため、医師の指示」(30.2%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(41.1%)、「笑顔でゆっくり」(36.6%) などで構成されている。第 4 パターンに該当する事例は 25 件 (8.1%) である。

第 5 パターンは平均 6.2 項目の組み合わせであり、「繰り返し誘導」(46.2%)、「家族の面会・依頼」(41.5%)、「トイレ誘導時に一緒に」(36.2%)、「入浴前コミュニケーション」(44.9%)、「スタッフを分けた」(34.0%) などに分散した構成である。第 5 パターンに該当する事例は 25 件 (8.1%) である。

第 6 パターンは平均 7.5 項目の組み合わせであり、「一人で」（94.3%）を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」（56.3%）、「本人の状態に応じた時間」（40.2%）、「入浴前のくつろぎ」（25.2%）、「入浴中のコミュニケーションを増やす」（35.2%）、「湯温の調整」（41.4%）、「浴室室温を調整」（28.6%）、「同性介護」（35.3%）、「下着の汚れが見られないように」と「拒否の理由伺う」（各 30.1%）、「コンプレックスの確認」（29.3%）などで構成されている。第 6 パターンに該当する事例は 20 件（6.5%）である。

第 7 パターンは平均 7.6 項目の組み合わせであり、「笑顔でゆっくり」（99.9%）、「お礼やねぎらい」（84.3%）、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の３項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」（47.9%）、「本人の状態に応じた時間」（42.3%）、「繰り返し誘導」（46.5%）、「他者から誘導」（33.0%）、「同性介護」（33.8%）などで構成されている。第 7 パターンに該当する事例は 20 件（6.5%）である。

第 8 パターンは平均 8.0 項目の組み合わせであり、「浴室室温を調整」（59.2%）、「入浴前コミュニケーション」（58.5%）、「入浴中のコミュニケーションを増やす」（53.0%）、「浴室へ誘導し認識を促す」（51.3%）の 4 項目を主として、「笑顔でゆっくり」（41.5%）、「目や耳などを保護」（40.8%）、「家族と一緒に」（46.1%）、「湯温の調整」（39.5%）、「本人の状態に応じた時間」（38.1%）、「家族の面会・依頼」（35.5%）、「家族から入浴情報を得る」（33.0%）などで構成されている。第 8 パターンに該当する事例は 18 件（5.8%）である。

第 9 パターンは平均 6.9 項目の組み合わせであり、「入浴前コミュニケーション」（70.9%）と「信頼関係のあるスタッフ」（54.3%）を主として、「本人の状態に応じた時間」（49.6%）、「趣味活動を実施した」（48.6%）、「同性介護」（49.3%）、「入浴中のコミュニケーションを増やす」（49.0%）、「仲の良い人と一緒に」（40.1%）、「お礼やねぎらい」（34.3%）、「本人の状態に応じた」（32.3%）、「暖まるからと声かけ」（32.0%）などで構成されている。第 9 パターンに該当する事例は 18 件（5.8%）である。

第 10 パターンは平均 11.2 項目の組み合わせであり、「お礼やねぎらい」（90.9%）と「複数のスタッフ」（79.2%）を共通ベースとして、「呼んでいると誘導」（71.1%）、「スタッフを分けた」（65.2%）、「入浴中のコミュニケーションを増やす」（68.4%）、「トイレ誘導時に一緒に」（66.0%）、「繰り返し誘導」（66.1%）、「笑顔でゆっくり」（62.4%）などで構成される。第 10 パターンに該当する事例は 17 件（5.5%）である。

第 11 パターンは平均 17.7 項目と多様な組み合わせであり、「笑顔でゆっくり」（99.8%）、「お礼やねぎらい」（93.2%）、「入浴中のコミュニケーションを増やす」（87.9%）、「浴室室温を調整」（93.8%）、「湯温の調整」（75.7%）、「一人で」（80.8%）、「本人の状態に応じた時間」（85.1%）、「入浴前コミュニケーション」（75.8%）

の 8 項目を共通ベースとして、「繰り返し誘導」(63.0%)、「トイレ誘導時に一緒に」(56.3%)、「暖まるからと声かけ」(55.2%)、「薬を塗るため、医師の指示」(54.1%)、「家族から入浴情報を得る」(62.4%) などで構成される。第 11 パターンに該当する事例は 17 件 (5.5%) である。

第 12 パターンは平均 12.3 項目の組み合わせであり、「下着の汚れが見られないように」(99.6%)、「湯温の調整」(91.2%)、「浴室室温を調整」(82.9%)、「複数のスタッフ」(75.0%) の 4 項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」(66.8%)、「トイレ誘導時に一緒に」(58.6%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(66.1%)、「笑顔でゆっくり」(58.0%) などで構成されている。第 12 パターンに該当する事例は 12 件 (3.9%) である。

第 13 パターンは平均 13.9 項目の組み合わせであり、「お礼やねぎらい」(99.7%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(90.7%)、「身体の一部から」(81.4%)、「入浴前コミュニケーション」(81.8%)、「繰り返し誘導」(81.7%) の 5 項目を共通ベースとして、「暖まるからと声かけ」(72.5%)、「呼んでいると誘導」(63.1%)、「家族から入浴情報を得る」(63.4%)、「笑顔でゆっくり」(72.7%)、「拒否の理由伺う」(54.5%) などで構成されている。第 13 パターンに該当する事例は 11 件 (3.6%) である。

第 14 パターンは平均 12.3 項目の組み合わせであり、「暖まるからと声かけ」(88.3%)、「薬を塗るため、医師の指示」(76.9%)、「入浴前コミュニケーション」(78.1%)、「笑顔でゆっくり」(77.1%) の 4 項目を共通ベースとして、「浴室室温を調整」(67.2%)、「湯温の調整」(66.4%)、「拒否の理由伺う」(66.4%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(66.2%)、「スタッフを分けた」(55.0%) などで構成されている。第 14 パターンに該当する事例は 9 件 (2.9%) である。

第 15 パターンは平均 8.6 項目の組み合わせであり、「笑顔でゆっくり」(99.7%)、「本人の状態に応じた時間」(99.5%)、「入浴前コミュニケーション」(86.8%) の 3 項目を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」(62.7%)、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(62.5%)、「拒否の理由伺う」(48.8%)、「一人で」(48.9%) などで構成されている。第 15 パターンに該当する事例は 8 件 (2.6%) である。

第 16 パターンは平均 32.5 項目と最多の組み合わせであり、「入浴中のコミュニケーションを増やす」(99.7%)、「笑顔でゆっくり」と「お礼やねぎらい」(各 99.6%)、「身体の一部から」(99.4%) などの“入浴方法の工夫”をはじめ、“入浴前の工夫”、“入浴時間の調整”、“入浴環境の調整”、“入浴メンバーの調整”、“誘導の工夫”、“介護者の調整”、“その他”の全分野に及ぶ実に多種多様な構成である。第 16 パターンに該当する事例は 7 件 (2.3%) である。

第 17 パターンは平均 17.1 項目と多様な組み合わせであり、「笑顔でゆっくり」(99.6%) や「お礼やねぎらい」(99.5%) などの“入浴方法の工夫”や、「繰り返し誘導」(83.1%) 他の“誘導の工夫”など、これもほぼ全分野に及ぶ多様な構

成である。第 17 パターンに該当する事例は 6 件（1.9%）である。（表２－７－４－２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－７－４－３参照）

（注 3）組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は（注 1）に示したような局所独立を仮定して異質な部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold”が算出する“Classification Statistics”（分類精度情報）の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。

（３）解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、17 の組み合わせパターンと解決後のパターンの相関を分析した後、参考までに個別状況との関連を確認する。

まず、解決方法の組み合わせ 17 パターンと解決後の 5 パターンの帰属確率による相関分析を行うと、8 通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 5 と解決後パターン 1 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 5 は、“「繰り返し誘導」、「家族の面会・依頼」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴前コミュニケーション」、「スタッフを分けた」などで構成された平均 6.2 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 1 の“拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった”という結果に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 11 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 11 は、“「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「一人で」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の 8 項目を共通ベースとして構成された平均 17.7 項目と多様な組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 5 の“安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 1 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 10 は、“「お礼やねぎらい」と「複数のスタッフ」を共通ベースとして、「呼んでいると誘導」、「スタッフを分けた」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「トイレ誘導時に一緒に」、「繰り返し誘導」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均 11.2 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 1 の“拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

4つめは、解決方法パターン8と解決後パターン5の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン 8 は、“「浴室室温を調整」、「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室へ誘導し認識を促す」、「笑顔でゆっくり」、「目や耳などを保護」、「家族と一緒に」、「湯温の調整」、「本人の状態に応じた時間」などで構成された平均 8.0 項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン 5 の“安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

5つめは、解決方法パターン7と解決後パターン5の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン 7 は、“「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の3項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「繰り返し誘導」、「他者から誘導」、「同性介護」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン 5 の“安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

6つめは、解決方法パターン1と解決後パターン4の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン 1 は、“「仲の良い人と一緒に」、「本人の状態に応じた時間」、「笑顔でゆっくり」、「繰り返し誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「本人の状態に応じた」、「過去の入浴時間」などに分散した平均 2.7 項目と最少の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン 4 の“拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった”に貢献している傾向が読み取れる。

7つめは、解決方法パターン12と解決後パターン2の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン12は、“「下着の汚れが見られないように」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「複数のスタッフ」の4項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン 2 の“以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた”に貢献している傾向が読み取れる。

8つめは、解決方法パターン13と解決後パターン3の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン13は、“「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「身体の一部から」、「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」の5項目を共通ベースとして、「暖まるからと声かけ」、「呼んでいると誘導」、「家族から入浴情報を得る」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均13.9項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン 3 の“渋々ではあるが入浴するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－７－４－４参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても、上記の傾向が確認できる。

解決方法パターン 5 では、解決後に“拒否されることは多いが、以前よりは入

るようになった”が 75.5%と多くなっており、これは解決後パターン 1 の主要項目である。

解決方法パターン 11 では、解決後に“気持ちよいと言うようになった”が 53.3%、“拒否せず入浴するようになった”が 35.4%、“安心して入浴するようになった”が 26.8%と多くなっており、これらは解決後パターン 5 の主要項目である。

解決方法パターン 10 では、解決後に“拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった”が 64.6%と多くなっており、これは解決後パターン 1 の主要項目である。

解決方法パターン 8 では、解決後に“気持ちよいと言うようになった”が 30.5%、“安心して入浴するようになった”が 22.8%と多くなっており、これらは解決後パターン 5 の主要項目である。

解決方法パターン 7 では、解決後に“気持ちよいと言うようになった”が 52.2%、“拒否せず入浴するようになった”が 27.7%、“安心して入浴するようになった”が 20.6%と多くなっており、これらは解決後パターン 5 の主要項目である。

解決方法パターン 1 では、解決後に“拒否せず入浴するようになった”が 21.2%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 12 では、解決後に“以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた”が 66.1%と多くなっており、これは解決後パターン 2 の主要項目である。

解決方法パターン 13 では、解決後に“渋々ではあるが入浴するようになった”が 42.5%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。(表２－７－４－５参照)

（4）高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン 1(一部介助、中程度重症度)に限定した相関分析を行うと、４通りの相関が認められる (注 4)。(解決方法パターン 16 は 1 事例につきとりあげない。)

1 つめは、解決方法パターン 13 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 5%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

2 つめは、解決方法パターン 8 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 5%で認められる。これも上記の全体的傾向と同様である。

3 つめは、解決方法パターン 7 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 7 は、“「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の 3 項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「繰り返し誘導」、「他者から誘導」、「同性介護」などで構成された平均 7.6 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 4 の“拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった”に貢献している傾向が読み取れる。

4つめは、解決方法パターン5と解決後パターン1の相関が有意水準5%で認められる。これも上記の全体的傾向と同様である。(表２－７－４－６参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン13では、解決後に“渋々ではあるが入浴するようになった”が49.8%と多くなっており、これは解決後パターン3の主要項目である。

解決方法パターン8では、解決後に“安心して入浴するようになった”が32.7%と多くなっており、これは解決後パターン5の主要項目である。

解決方法パターン7では、解決後に“拒否せず入浴するようになった”が25.9%と多くなっており、これは解決後パターン4の主要項目である。

解決方法パターン 5 では、解決後に“拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった”が65.7%と多くなっており、これは解決後パターン 1 の主要項目である。(表２－７－４－７参照)

また高齢者パターン 2（自立、軽中程度重症度）に限定した相関分析を行うと、解決方法パターン 7 と解決後パターン 5 の相関が有意水準１%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。(解決方法パターン8は1事例につきとりあげない。)（表２－７－４－８参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこの傾向が確認できる。

解決方法パターン7では、解決後に“気持ちよいと言うようになった”が58.1%、“安心して入浴するようになった”が41.2%、“拒否せず入浴するようになった”が41.4%と多くなっており、これらは解決後パターン5の主要項目である。(表２－７－４－９参照)

高齢者パターン 3（全介助、中高程度重症度）に限定した相関分析を行うと、5通りの相関が認められる。(解決方法パターン9は1事例につきとりあげない。)

1つめは、解決方法パターン 11 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 1%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

2つめは、解決方法パターン5と解決後パターン1の相関が有意水準1%で認められる。これも上記の全体的傾向と同様である。

3つめは、解決方法パターン1と解決後パターン4の相関が有意水準5%で認められる。これも上記の全体的傾向と同様である。

4つめは、解決方法パターン7と解決後パターン2の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン 7 は、“「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の3項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「繰り返し誘導」、「他者から誘導」、「同性介護」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン 2 の“以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた”

に貢献している傾向が読み取れる。

5つめは、解決方法パターン8と解決後パターン4の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン 8 は、“「浴室室温を調整」、「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室へ誘導し認識を促す」、「笑顔でゆっくり」、「目や耳などを保護」、「家族と一緒に」、「湯温の調整」、「本人の状態に応じた時間」などで構成された平均 8.0 項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン 4 の“拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－７－４－１０参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこの傾向が確認できる。

解決方法パターン11では、解決後に“気持ちよいと言うようになった”が47.2%、“安心して入浴するようになった”が47.2%、“拒否せず入浴するようになった”が47.4%と多くなっており、これらは解決後パターン5の主要項目である。

解決方法パターン 5 では、解決後に“拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった”が96.6%と多くなっており、これは解決後パターン1の主要項目である。

解決方法パターン1では、解決後に“拒否せず入浴するようになった”が36.5%、“気持ちよいと言うようになった”が27.2と多くなっており、これらは解決後パターン4の主要項目である。

解決方法パターン 7 では、解決後に“以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた”が100.0%であり、これは解決後パターン2の主要項目である。

解決方法パターン8では、解決後に“拒否せず入浴するようになった”が49.5%、“気持ちよいと言うようになった”が 49.4%と多くなっており、これらは解決後パターン4の主要項目である。(表２－７－４－１１参照)

(注 4) 高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン 1 と 2 を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義（＝クラスター化）した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

5）入浴拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ 2,735 件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

（１）役立った情報の概況

有効回答 2,735 件のなかで多くあがったものは、「本人の気持ち、意志」が 1,150 件（42.0%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 1,076 件（39.3%）、「気分」が 860 件（31.4%）、「スタッフとの関係」が 760 件（27.8%）、「興味・関心」が 334 件（12.2%）、「性格」が 320 件（11.7%）などであり、ひとつの解決方法当たり平均 2.7 項目あげられた。（表２－７－５－１参照）

（２）役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 16 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.1 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（71.1%）と「スタッフとの関係」（53.6%）を主として他に分散して構成されている。第 1 パターンの該当方法は延べ 590 件（21.6%）である。

第 2 パターンは平均 3.6 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」（81.9%）を共通ベースとして、「気分」（70.2%）、「スタッフとの関係」（62.0%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（61.9%）の 3 項目も多く、「興味・関心」（20.8%）などで構成されている。第 2 パターンの該当方法は延べ 374 件（13.7%）である。

第 3 パターンは平均 2.5 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」（99.8%）を共通ベースとして、「気分」（45.7%）と「興味・関心」（22.7%）を含めた“心理面”にウェイトを置いて構成されている。第 3 パターンの該当方法は延べ 357 件（13.1%）である。

第 4 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「入浴習慣（自宅）」（54.6%）を主として、「生活歴（幼少期から）」（39.2%）、「過去の入浴体験」（24.2%）、「入浴のこだわり」（29.0%）、「本人の気持ち、意志」（28.4%）などで構成されている。第 4 パターンの該当方法は延べ 254 件（9.3%）である。

第 5 パターンは平均 1.7 項目と最少の組み合わせであり、「気分」（35.0%）、「興味・関心」（17.6%）、「他の入居者との関係」（17.2%）、「家族関係」（16.4%）他に分散して構成されている。第 5 パターンの該当方法は延べ 214 件（7.8%）である。

第 6 パターンは平均 2.2 項目の組み合わせであり、「湯温」（55.5%）、「浴室の温度」（49.3%）、「入浴のこだわり」（26.3%）など“入浴スタイル”にウェイトを置いて構成されている。第 6 パターンの該当方法は延べ 210 件（7.7%）である。

第 7 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（58.3%）、「本人の気持ち、意志」（52.3%）、「スタッフとの関係」（32.0%）などで構成されている。第 7 パターンの該当方法は延べ 151 件（5.5%）である。

第 8 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「失禁有無」（79.9%）を共

通ベースとして、「清潔度」(44.1%)、「排泄状況」(36.8%)、「下着の状態」(33.3%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(31.9%)、「本人の気持ち、意志」(30.6%)などで構成されている。第8パターンの該当方法は延べ97件（3.5%）である。

第9パターンは平均2.9項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(37.3%)、「気分」(34.9%)、「言語理解」(34.2%)、「認知機能」(32.2%)、「スタッフとの関係」(27.7%）などで構成されている。第9パターンの該当方法は延べ88件（3.2%）である。

第10パターンは平均3.3項目の組み合わせであり、「性格」(99.5%）を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(50.3%)、「本人の気持ち、意志」(37.5%)、「気分」(30.6%)、「性別」(25.6%)、「認知機能」(22.0%）などで構成されている。第10パターンの該当方法は延べ86件（3.1%）である。

第11パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「興味・関心」(99.5%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(36.3%)、「気分」(34.0%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(35.4%)、「生活歴（幼少期から)」(25.8%)、「スタッフとの関係」(21.2%）などで構成されている。第 11 パターンの該当方法は延べ72件（2.6%）である。

第12パターンは平均3.3項目の組み合わせであり、「気分」(78.0%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(57.1%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(40.0%)、「入浴時間帯」(31.7%）などで構成されている。第12パターンの該当方法は延べ69件（2.5%）である。

第 13 パターンは平均 3.8 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(99.8%）を共通ベースとして、「性格」(41.4%)、「スタッフとの関係」(29.3%)、「過去の入浴体験」(28.2%)、「認知機能」(26.5%）などで構成されている。第13パターンの該当方法は延べ51件（1.9%）である。

第14パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「入浴時間帯」(71.3%）と「本人の気持ち、意志」(59.8%）を主として、「気分」(34.3%)、「入浴のこだわり」(26.0%)などで構成されている。第14パターンの該当方法は延べ45件(1.6%)である。

第 15 パターンは平均 4.0 項目と多様な組み合わせであり、「現病・既往歴」(81.6%）を共通ベースとして、「バイタル」(57.8%)、「本人の気持ち、意志」(42.6%)、「気分」(40.0%)、「認知機能」(35.4%）などで構成されている。第15パターンの該当方法は延べ39件（1.4%）である。

第16パターンは平均4.4項目と最多の組み合わせであり、「気分」(99.7%）と「スタッフの声かけ内容・見守り方」(81.9%）を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(49.2%)、「湯温」(48.8%)、「浴室の温度」(26.4%)、「着替えのストック」(27.1%)、「本人の気持ち、意志」(26.0%）などで構成されている。第 16 パターンの該当方法は延べ 36 件（1.3%）である。（表２－７－５－２参照）（潜

在クラスモデルの評価経緯は表２－７－５－３参照)

（３）情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第 8 パターン（「失禁有無」を共通ベースとして、「清潔度」、「排泄状況」、「下着の状態」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 3.7 項目の組み合わせ）は、「トイレ誘導時に一緒に」が 33.6%、「下着の汚れが見られないように」が 16.9%と多い。

第 6 パターン（「湯温」、「浴室の温度」、「入浴のこだわり」など“入浴スタイル”にウェイトを置いて構成された平均 2.2 項目の組み合わせ）は、「湯温の調整」が 30.7%、「浴室室温を調整」が 24.9%と多い。

第 14 パターン（「入浴時間帯」と「本人の気持ち、意志」を主として、「気分」、「入浴のこだわり」などで構成された平均 3.5 項目の組み合わせ）は、「本人の状態に応じた時間」が 21.3%、「過去の入浴時間」が 13.2%と多い。

第 4 パターン（「入浴習慣（自宅)」を主として、「生活歴（幼少期から)」、「過去の入浴体験」、「入浴のこだわり」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 2.8 項目の組み合わせ）は、「家族から入浴情報を得る」が 15.3%と多い。

第 11 パターン（「興味・関心」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「生活歴（幼少期から)」、「スタッフとの関係」などで構成された平均 3.5 項目の組み合わせ）は、「入浴前コミュニケーション」が 14.7%、「入浴中のコミュニケーションを増やす」が 10.1%と多い。

第 13 パターン（「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「性格」、「スタッフとの関係」、「過去の入浴体験」、「認知機能」などで構成された平均 3.8 項目の組み合わせ）は、「拒否の理由伺う」が 13.9%、「入浴前コミュニケーション」が 10.0%と多い。

第 15 パターン（「現病・既往歴」を共通ベースとして、「バイタル」、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「認知機能」などで構成された平均 4.0 項目と多様な組み合わせ）は、「浴室室温を調整」が 13.0%、「拒否の理由伺う」が 12.8%、「暖まるからと声かけ」が 11.0%と多い。

第 2 パターン（「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」、「スタッフとの関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」の 3 項目も多く、「興味・関心」などで構成された平均 3.6 項目の組み合わせ）は、「入浴前コミュニケーション」が 12.0%と多い。

第 16 パターン（「気分」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「湯温」、「浴室の温度」、「着替えのストック」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 4.4 項目と最多の組み合わせ）は、「入浴前コミュニケーション」が 11.8%と多い。

第 1 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を

主として他に分散して構成された平均2.1項目の組み合わせ）は、「笑顔でゆっくり」が10.1％と多い。（表２－７－５－４参照）

６）絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答318件中、「本人の意志や気分を考えず無理矢理入浴させる」が292件（91.8％）、「いきなりお湯をかける」が291件（91.5％）、「感情的に対応する」が283件（89.0％）、「何日も入浴しないで放っておく」と「拒否されているからそのままにして関わらない」が各281件（88.4％）、「自尊心を傷つける言葉（汚い、臭いなど）で説得しようとする」が280件（88.1％）、「間をあけずに、何度もしつこく誘う」が259件（81.4％）、「入浴の時間だからと介護者側のペースで誘う」が244件（76.7％）、「わざと服を濡らす、汚す等して入浴させる」が228件（71.7％）、「だまして浴室に連れて行く」が156件（49.1％）となっている。（表２－７－６－１参照）

（表２－７－１－１）回答者の年齢

	有効回答数	24 歳以下	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60 歳以上
実数	319	11	34	51	38	29	30	52	50	24
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	3.4	10.7	16.0	11.9	9.1	9.4	16.3	15.7	7.5

（平均年齢等）

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
319	43.8	12.6	21	93

（表２－７－１－２）回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	328	71	257
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	21.6	78.4

（表２－７－１－３）回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネージャー	看護師	その他
実数	310	136	9	96	13	86
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	43.9	2.9	31.0	4.2	27.7

（表２－７－１－４）回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	315	17	122	87	1	0	92
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	5.4	38.7	27.6	0.3	0.0	29.2

（表２－７－１－５）回答者の所有資格

	有効回答数	看護師（准看護師）	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネージャー	ヘルパー	その他
実数	320	31	211	9	125	134	18
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	9.7	65.9	2.8	39.1	41.9	5.6

（表２－７－１－６）回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設（ユニット型）	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	321	0	1	306	4	16
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.0	0.3	95.3	1.2	5.0

（表２－７－１－７）回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
328	4.2	2.8	0.2	22.8

（表２－７－１－８）回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
327	9.1	5.5	0.7	39.3

（表２－７－２－１）入浴拒否の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	325	310	15
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	95.4	4.6

（表２－７－２－２）高齢者の年齢

	解決経験のある 有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	289	14	44	71	91	69
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	4.8	15.2	24.6	31.5	23.9

（平均年齢等）

解決経験のある 有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
289	85.0	6.1	68	100

（表２－７－２－３）高齢者の性別割合

	解決経験のある 有効回答数	男	女
実数	301	45	256
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	15.0	85.0

（表２－７－２－４）認知症の原因疾患

	解決経験のある 有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	284	154	73	6	20	31
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	54.2	25.7	2.1	7.0	10.9

（表２－７－２－５）機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答 (=なし)
実数	310	0	5	57	4	244
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.0	1.6	18.4	1.3	78.7

（表２－７－２－６）食事介助

	解決経験のある 有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	300	1	37	262
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.3	12.3	87.3

（表２－７－２－７）移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他（回答者追記）
実数	278	44	120	108	6
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	15.8	43.2	38.8	2.2

（表２－７－２－８）排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし
実数	269	88	181
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	32.7	67.3

（表２－７－２－９）入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	299	25	27	121	103	23
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	8.4	9.0	40.5	34.4	7.7

（表２－７－２－１０）認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	Ⅰ 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	Ⅱ 日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	Ⅲ ランクⅡの症状がときどき見られ、介護を必要とする（徘徊、失禁など）	Ⅳ ランクⅡの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	Ⅴ 著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	303	40	98	102	59	4
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	13.2	32.3	33.7	19.5	1.3

（表２－７－２－１１）身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J 何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	A 屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	B 屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベット上での生活主体で座位を保つ	C 一日中ベットで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	289	59	199	30	1
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	20.4	68.9	10.4	0.3

（表２－７－２－１２）入浴拒否高齢者のパターン
（潜在クラス３クラスモデルのプロフィール）

(n=242)

項目	カテゴリー	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度	パターン3 全介助、中高程度重症度
	サイズ	1.000	0.583	0.214	0.203
性別	男	0.149	0.066	0.261	0.268
	女	0.851	0.934	0.739	0.732
入浴介助	全介助	0.079	0.001	0.001	0.384
	移動介助	0.095	0.117	0.002	0.130
	洗身洗髪介助	0.430	0.508	0.174	0.475
	その他一部介助	0.314	0.374	0.440	0.010
	自立	0.083	0.000	0.383	0.001
認知症の重症度	Ⅰ	0.116	0.047	0.410	0.001
	Ⅱ	0.322	0.384	0.403	0.060
	Ⅲ	0.347	0.477	0.148	0.186
	Ⅳ	0.207	0.078	0.039	0.753
	Ⅴ	0.008	0.014	0.000	0.000
身体障害の重症度	J	0.198	0.101	0.461	0.202
	A	0.703	0.859	0.539	0.426
	B	0.095	0.040	0.001	0.352
	C	0.004	0.000	0.000	0.020
（参考）該当事例数 →		(242)	(141)	(52)	(49)

（表２－７－２－１３）潜在クラスモデル評価（入浴拒否高齢者パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	1972.5	1930.6
モデル2（クラス数2）	1962.9	1875.7
モデル3（クラス数3）	1994.6	1862.0
モデル4（クラス数4）	2046.4	1868.5

（表２－７－３－１）解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた	入所以来清拭のみで対応していた	たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった	その場からいなくなってしまった	暴言や暴力を伴い拒否していた	浴室まで行っても戻ってしまっていた	入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた	その他
実数	309	181	5	72	15	82	90	46	19
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	58.6	1.6	23.3	4.9	26.5	29.1	14.9	6.1

（表２－７－３－２）解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになった	安心して入浴するようになった	気持ちよいと言うようになった	他の利用者と一緒に入浴するようになった	自分から浴室まで行くようになった	自ら使用するタオルや衣類を出してほしいと言うようになった	その他
実数	309	108	119	52	49	24	74	11	16	6	21
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	35.0	38.5	16.8	15.9	7.8	23.9	3.6	5.2	1.9	6.8

（表２－７－３－３）入浴拒否の解決前のパターン
（潜在クラス５クラスモデルのプロフィール）

(n=233)

状況	全体	パターン1 何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた	パターン2 暴言や暴力を伴った複合的入浴拒否	パターン3 浴室まで行っても戻ってしまい、理由をつけて拒否していた	パターン4 たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった	パターン5 入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた
サイズ	1.000	0.385	0.274	0.177	0.110	0.055
何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた	0.631	0.999	0.412	0.514	0.370	0.034
入所以来清拭のみで対応していた	0.017	0.011	0.000	0.025	0.077	0.000
たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった	0.232	0.005	0.295	0.215	0.934	0.162
その場からいなくなってしまった	0.052	0.000	0.093	0.098	0.080	0.001
暴言や暴力を伴い拒否していた	0.279	0.005	0.992	0.016	0.005	0.036
浴室まで行っても戻ってしまっていた	0.300	0.004	0.414	0.989	0.017	0.166
入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた	0.159	0.019	0.355	0.001	0.004	0.979
（参考）平均項目数 →	1.7	1.0	2.6	1.9	1.5	1.4
該当事例数 →	(233)	(90)	(64)	(41)	(26)	(13)

（表２－７－３－４）潜在クラスモデル評価（入浴拒否の解決前パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1497.0	1472.8
モデル2(クラス数2)	1442.9	1391.2
モデル3(クラス数3)	1470.4	1391.0
モデル4(クラス数4)	1490.1	1383.1
モデル5(クラス数5)	1512.3	1377.7
モデル6(クラス数6)	1543.8	1381.6
モデル7(クラス数7)	1579.4	1389.6

（表２－７－３－５）入浴拒否の解決後のパターン
（潜在クラス５クラスモデルのプロフィール）

(n=233)

状況	全体	パターン1 拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	パターン2 以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	パターン3 渋々ではあるが入浴するようになった	パターン4 拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった	パターン5 安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった
サイズ	1.000	0.346	0.266	0.158	0.149	0.082
以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	0.352	0.012	0.997	0.240	0.151	0.274
拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	0.395	0.998	0.116	0.114	0.004	0.004
渋々ではあるが入浴するようになった	0.172	0.011	0.004	0.987	0.070	0.002
拒否せず入浴するようになった	0.172	0.025	0.009	0.001	0.806	0.498
安心して入浴するようになった	0.082	0.000	0.001	0.028	0.001	0.935
気持ちよいと言うようになった	0.266	0.089	0.189	0.297	0.474	0.826
他の利用者と一緒に入浴するようになった	0.043	0.026	0.031	0.081	0.000	0.159
自分から浴室まで行くようになった	0.056	0.013	0.000	0.000	0.134	0.384
自ら使用するタオルや衣類を出してほしいと言うようになった	0.022	0.000	0.016	0.000	0.054	0.111
（参考）平均項目数 →	1.6	1.2	1.4	1.7	1.7	3.2
該当事例数 →	(233)	(81)	(62)	(37)	(35)	(19)

（表２－７－３－６）潜在クラスモデル評価（入浴拒否の解決後パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1724.1	1693.0
モデル2(クラス数2)	1631.2	1565.7
モデル3(クラス数3)	1610.5	1510.4
モデル4(クラス数4)	1598.7	1464.1
モデル5(クラス数5)	1628.9	1459.8
モデル6(クラス数6)	1664.3	1460.7
モデル7(クラス数7)	1710.9	1472.7

（表２－７－３－７）解決前後のパターンの相関行列
（全体）

(n=233)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった	安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった
解決前のパターン	パターン1	何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた	0.001	0.018	-0.017	-0.031	0.031
	パターン2	暴言や暴力を伴った複合的入浴拒否	0.071	-0.019	0.006	-0.076	-0.004
	パターン3	浴室まで行っても戻ってしまい、理由をつけて拒否していた	-0.001	-0.079	-0.018	0.090	0.039
	パターン4	たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった	-0.101	0.106	0.073	0.003	-0.095
	パターン5	入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた	-0.006	-0.011	-0.043	0.063	0.004

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－７－３－８）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン１“一部介助、中程度重症度”の場合）

(n=140)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった	安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった
解決前のパターン	パターン1	何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた	-0.040	0.049	0.041	-0.116	0.055
	パターン2	暴言や暴力を伴った複合的入浴拒否	0.041	-0.041	0.064	-0.047	-0.027
	パターン3	浴室まで行っても戻ってしまい、理由をつけて拒否していた	0.079	-0.066	-0.139	0.096	0.043
	パターン4	たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった	-0.049	0.075	0.054	0.028	-0.129
	パターン5	入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた	-0.053	-0.044	-0.081	0.173 *	0.069

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　5%水準　*
（帰属確率によるパターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－７－３－９）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン２“自立、軽中程度重症度”の場合）

(n=45)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった	安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった
解決前のパターン	パターン1	何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた	0.159	0.001	-0.123	0.030	-0.190
	パターン2	暴言や暴力を伴った複合的入浴拒否	0.112	-0.208	0.078	-0.115	0.135
	パターン3	浴室まで行っても戻ってしまい、理由をつけて拒否していた	-0.134	0.109	-0.082	0.085	0.132
	パターン4	たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった	-0.227	0.146	0.200	-0.004	-0.079
	パターン5	入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた	-0.124	-0.050	0.279	-0.077	-0.031

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　5%水準　*
（帰属確率によるパターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－７－３－１０）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン３“全介助、中高程度重症度”の場合）

(n=48)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった	安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった
解決前のパターン	パターン1	何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた	0.011	-0.083	-0.104	0.134	0.095
	パターン2	暴言や暴力を伴った複合的入浴拒否	0.060	0.147	-0.190	-0.112	0.031
	パターン3	浴室まで行っても戻ってしまい、理由をつけて拒否していた	-0.069	-0.211	0.432 **	-0.004	-0.067
	パターン4	たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった	-0.132	0.223	-0.059	-0.030	-0.015
	パターン5	入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた	0.020	0.007	0.019	0.000	-0.096

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　5%水準　*
（帰属確率によるパターン3の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－７－３－１１）高齢者パターン別にみた解決前の状況

【実数】

	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度	パターン3 全介助、中高程度重症度
有効回答数	233	138	50	45
何かと理由をつけて入浴を拒否し、入浴しない日が続いていた	147	91	35	22
入所以来清拭のみで対応していた	4	3	1	0
たまに入浴するが、ほとんど嫌がって入浴していなかった	54	37	9	8
その場からいなくなってしまった	12	6	3	3
暴言や暴力を伴い拒否していた	65	34	11	19
浴室まで行っても戻ってしまっていた	70	37	17	16
入浴はするが、暴れたり、文句を言いながら、険しい表情をしていた	37	20	4	13

【比率】（縦 100）

全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度	パターン3 全介助、中高程度重症度
100.0	100.0	100.0	100.0
63.1	65.9	70.0	48.9
1.7	2.2	2.0	0.0
23.2	26.8	18.0	17.8
5.2	4.3	6.0	6.7
27.9	24.6	22.0	42.2
30.0	26.8	34.0	35.6
15.9	14.5	8.0	28.9

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－７－３－１２）高齢者パターン別にみた解決後の状況

【実数】

	全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度	パターン3 全介助、中高程度重症度
有効回答数	233	138	50	45
以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	82	55	12	15
拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	92	53	19	20
渋々ではあるが入浴するようになった	40	23	12	6
拒否せず入浴するようになった	40	21	11	7
安心して入浴するようになった	19	14	3	2
気持ちよいと言うようになった	62	38	13	12
他の利用者と一緒に入浴するようになった	10	7	2	1
自分から浴室まで行くようになった	13	10	3	0
自ら使用するタオルや衣類を出してほしいと言うようになった	5	4	1	0

【比率】（縦 100）

全体	パターン1 一部介助、中程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度	パターン3 全介助、中高程度重症度
100.0	100.0	100.0	100.0
35.2	39.9	24.0	33.3
39.5	38.4	38.0	44.4
17.2	16.7	24.0	13.3
17.2	15.2	22.0	15.6
8.2	10.1	6.0	4.4
26.6	27.5	26.0	26.7
4.3	5.1	4.0	2.2
5.6	7.2	6.0	0.0
2.1	2.9	2.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－７－４－１）入浴拒否の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
有効回答数			308	100.0
入浴時間の調整	101	過去の入浴時間	58	18.8
	102	本人の状態に応じた時間	95	30.8
入浴前の工夫	201	運動の実施	28	9.1
	202	入浴前コミュニケーション	197	64.0
	203	入浴前のくつろぎ	55	17.9
	204	空腹を満たす	32	10.4
	205	趣味活動を実施した	63	20.5
	206	家族から入浴情報を得る	67	21.8
誘導の工夫	301	暖まるからと声かけ	98	31.8
	302	トイレ誘導時に一緒に	82	26.6
	303	本人の状態に応じた	70	22.7
	304	一緒に入りましょうと誘導	34	11.0
	305	繰り返し誘導	134	43.5
	306	薬を塗るため、医師の指示	59	19.2
	307	浴室へ誘導し認識を促す	55	17.9
	308	呼んでいると誘導	51	16.6
	309	一緒に行って誘導	48	15.6
	310	家族の面会・依頼	50	16.2
	311	他者から誘導	55	17.9
	312	直前に誘導、一番風呂を提示	3	1.0
	313	受診のため	7	2.3
	314	体重測定のため	4	1.3
	315	身だしなみの重要性	4	1.3
	316	予約、約束	6	1.9
	317	わかりやすい声かけ	3	1.0
	319	しつこく誘わない	5	1.6
	320	下着が汚れているため	2	0.6
	390	その他	7	2.3
入浴方法の工夫	401	目や耳などを保護	55	17.9
	402	身体の一部から	70	22.7
	403	段階的な誘導	50	16.2
	404	入浴中のコミュニケーションを増やす	179	58.1
	405	笑顔でゆっくり	169	54.9
	406	お礼やねぎらい	140	45.5
	407	湯桶の使用	23	7.5
	408	徐々にお湯をかける	66	21.4
	409	見守りながら本人の自由に	8	2.6
	411	シャワーのみ	2	0.6
	490	その他	4	1.3
入浴メンバーの調整	501	家族と一緒に	19	6.2
	502	仲の良い人と一緒に	42	13.6
	503	一人で	72	23.4
	504	職員と一緒に	1	0.3
	590	その他	1	0.3
入浴環境の調整	601	入浴習慣を取り入れる	36	11.7
	602	浴室室温を調整	117	38.0
	603	湯温の調整	130	42.2
	604	入浴剤や風呂備品の工夫	3	1.0
	605	銭湯や温泉	6	1.9
	606	清潔の徹底	1	0.3
	607	安全な環境づくり	3	1.0
	609	明るさの調整	1	0.3
	610	わかりやすい環境	1	0.3
	611	音楽をかける	1	0.3
	690	その他	1	0.3
介助者の調整	701	同性介護	69	22.4
	702	信頼関係のあるスタッフ	48	15.6
	703	複数のスタッフ	79	25.6
	704	スタッフを分けた	55	17.9
	705	介助者の服装の工夫	33	10.7
その他	801	コンプレックスの確認	27	8.8
	802	下着の汚れが見られないように	63	20.5
	803	医師へ相談	10	3.2
	804	拒否の理由伺う	86	27.9
	890	その他	3	1.0

（参考）平均記入項目数　→　9.9

（表２－７－４－２）入浴拒否の解決方法組み合わせパターン
（潜在クラス17クラスモデルのプロフィール）

（n=308）

区分	code	解決方法	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17
				「仲の良い人と一緒に」、「本人の状態に応じた時間」、「笑顔でゆっくり」、「繰り返し誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「本人の状態に応じた」、「過去の入浴時間」などに分散した平均2.7項目と最少の組み合わせ	「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「徐々にお湯をかける」、「入浴前コミュニケーション」の7項目を共通ベースとして構成された平均15.8項目と多様な組み合わせ	「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「湯温の調整」の3項目を共通ベースとして、「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「一緒に行って誘導」、「暖まるからと声かけ」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」、「本人の状態に応じた」、「呼んでいると誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	「繰り返し誘導」、「家族の面会・依頼」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴前コミュニケーション」、「スタッフを分けた」などで構成された平均6.2項目の組み合わせ	「一人で」を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前のくつろぎ」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「同性介護」、「下着の汚れが見られないように」などで構成された平均7.5項目の組み合わせ	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の3項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「繰り返し誘導」、「他者から誘導」、「同性介護」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	「浴室室温を調整」、「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室へ誘導し認識を促す」、「笑顔でゆっくり」、「目や耳などを保護」、「家族と一緒に」、「湯温の調整」、「本人の状態に応じた時間」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	「入浴前コミュニケーション」、「信頼関係のあるスタッフ」、「本人の状態に応じた時間」、「趣味活動を実施した」、「同性介護」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「仲の良い人と一緒に」、「お礼やねぎらい」、「本人の状態に応じた」などで構成された平均6.9項目の組み合わせ	「お礼やねぎらい」と「複数のスタッフ」を共通ベースとして、「呼んでいると誘導」、「スタッフを分けた」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「トイレ誘導時に一緒に」、「繰り返し誘導」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均11.2項目の組み合わせ	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「一人で」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の8項目を共通ベースとして構成された平均17.7項目と多様な組み合わせ	「下着の汚れが見られないように」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「複数のスタッフ」の4項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ	「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「身体の一部から」、「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」の5項目を共通ベースとして、「暖まるからと声かけ」、「呼んでいると誘導」、「家族から入浴情報を得る」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均13.9項目の組み合わせ	「暖まるからと声かけ」、「薬を塗るため、医師の指示」、「入浴前コミュニケーション」、「笑顔でゆっくり」の4項目を共通ベースとして、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「拒否の理由伺う」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ	「笑顔でゆっくり」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の3項目を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「拒否の理由伺う」、「一人で」などで構成された平均8.6項目の組み合わせ	「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などの"入浴方法の工夫"をはじめ、"入浴前の工夫"、"入浴時間の調整"、"入浴環境の調整"、"入浴メンバーの調整"、"誘導の工夫"、"介護者の調整"など全分野に及ぶ平均32.5項目と最多の多種多様な組み合わせ	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」などの"入浴方法の工夫"や、「繰り返し誘導」他の"誘導の工夫"など、ほぼ全分野に及ぶ平均17.1項目の多様な組み合わせ
		サイズ	1.000	0.110	0.100	0.095	0.081	0.081	0.066	0.066	0.060	0.059	0.056	0.054	0.038	0.036	0.029	0.026	0.023	0.020
入浴時間の調整	101	過去の入浴時間	0.188	0.116	0.388	0.270	0.001	0.123	0.197	0.104	0.162	0.001	0.172	0.367	0.085	0.091	0.329	0.246	0.852	0.002
	102	本人の状態に応じた時間	0.308	0.147	0.330	0.056	0.168	0.001	0.402	0.423	0.381	0.496	0.001	0.851	0.338	0.092	0.337	0.995	0.853	0.827
入浴前の工夫	201	運動の実施	0.091	0.059	0.000	0.100	0.000	0.155	0.000	0.061	0.001	0.001	0.114	0.242	0.169	0.181	0.329	0.125	0.567	0.001
	202	入浴前コミュニケーション	0.640	0.081	0.934	0.926	0.795	0.449	0.563	0.479	0.585	0.709	0.339	0.758	0.668	0.818	0.781	0.868	0.997	0.997
	203	入浴前のくつろぎ	0.179	0.089	0.429	0.045	0.248	0.000	0.252	0.191	0.110	0.001	0.225	0.437	0.169	0.001	0.001	0.126	0.710	0.168
	204	空腹を満たす	0.104	0.029	0.309	0.047	0.034	0.120	0.000	0.000	0.000	0.057	0.000	0.374	0.001	0.181	0.112	0.001	0.851	0.001
	205	趣味活動を実施した	0.205	0.060	0.229	0.001	0.299	0.109	0.056	0.149	0.123	0.486	0.427	0.365	0.331	0.272	0.335	0.002	0.710	0.002
	206	家族から入浴情報を得る	0.218	0.052	0.398	0.076	0.081	0.206	0.104	0.050	0.330	0.111	0.228	0.624	0.165	0.634	0.001	0.002	0.710	0.662
誘導の工夫	301	暖まるからと声かけ	0.318	0.001	0.563	0.420	0.249	0.118	0.156	0.235	0.290	0.320	0.167	0.552	0.338	0.725	0.883	0.003	0.994	0.169
	302	トイレ誘導時に一緒に	0.266	0.117	0.404	0.332	0.001	0.362	0.099	0.001	0.269	0.167	0.660	0.563	0.586	0.182	0.108	0.002	0.852	0.003
	303	本人の状態に応じた	0.227	0.121	0.330	0.067	0.475	0.001	0.101	0.051	0.168	0.323	0.283	0.182	0.327	0.273	0.336	0.373	0.569	0.827
	304	一緒に入りましょうと誘導	0.110	0.059	0.064	0.110	0.000	0.000	0.049	0.141	0.055	0.110	0.169	0.480	0.168	0.001	0.113	0.001	0.709	0.167
	305	繰り返し誘導	0.435	0.129	0.582	0.397	0.724	0.462	0.153	0.465	0.058	0.265	0.661	0.630	0.500	0.817	0.110	0.384	0.854	0.831
	306	薬を塗るため、医師の指示	0.192	0.122	0.001	0.170	0.302	0.217	0.098	0.001	0.001	0.055	0.344	0.541	0.085	0.452	0.769	0.125	0.427	0.332
	307	浴室へ誘導し認識を促す	0.179	0.000	0.351	0.063	0.231	0.042	0.001	0.095	0.513	0.001	0.171	0.430	0.251	0.001	0.331	0.001	0.852	0.333
	308	呼んでいると誘導	0.166	0.060	0.197	0.000	0.353	0.221	0.001	0.001	0.056	0.059	0.711	0.062	0.001	0.631	0.001	0.001	0.710	0.167
	309	一緒に行って誘導	0.156	0.032	0.196	0.443	0.266	0.091	0.001	0.196	0.001	0.055	0.058	0.299	0.001	0.181	0.001	0.001	0.426	0.496
	310	家族の面会・依頼	0.162	0.001	0.127	0.035	0.042	0.415	0.102	0.001	0.355	0.001	0.343	0.485	0.001	0.362	0.001	0.366	0.426	0.167
	311	他者から誘導	0.179	0.089	0.352	0.236	0.123	0.123	0.049	0.330	0.059	0.234	0.115	0.304	0.001	0.092	0.328	0.001	0.568	0.002
	312	直前に誘導、一番風呂を提示	0.010	0.000	0.000	0.000	0.040	0.000	0.098	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	313	受診のため	0.023	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.050	0.000	0.054	0.273	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	314	体重測定のため	0.013	0.059	0.032	0.000	0.000	0.000	0.049	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	315	身だしなみの重要性	0.013	0.059	0.000	0.000	0.041	0.000	0.000	0.049	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	316	予約、約束	0.020	0.089	0.000	0.000	0.000	0.080	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.090	0.000	0.000	0.000	0.000
	317	わかりやすい声かけ	0.010	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.049	0.000	0.000	0.000	0.120	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	319	しつこく誘わない	0.016	0.058	0.000	0.000	0.000	0.000	0.100	0.000	0.000	0.000	0.000	0.060	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	320	下着が汚れているため	0.007	0.000	0.000	0.000	0.000	0.040	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.090	0.000	0.000	0.000	0.000
	390	その他	0.023	0.059	0.000	0.000	0.000	0.000	0.098	0.000	0.000	0.000	0.057	0.000	0.000	0.180	0.000	0.000	0.000	0.000
入浴方法の工夫	401	目や耳などを保護	0.179	0.043	0.455	0.226	0.045	0.106	0.001	0.001	0.408	0.001	0.316	0.181	0.254	0.094	0.224	0.126	0.852	0.002
	402	身体の一部から	0.227	0.027	0.515	0.105	0.160	0.205	0.146	0.197	0.109	0.110	0.058	0.242	0.253	0.814	0.442	0.002	0.994	0.333
	403	段階的な誘導	0.162	0.085	0.323	0.000	0.119	0.165	0.247	0.001	0.221	0.001	0.116	0.061	0.419	0.271	0.001	0.001	0.710	0.826
	404	入浴中のコミュニケーションを増やす	0.581	0.001	0.967	0.814	0.411	0.208	0.352	0.824	0.530	0.490	0.684	0.879	0.661	0.907	0.662	0.625	0.997	0.831
	405	笑顔でゆっくり	0.549	0.135	0.935	0.657	0.366	0.136	0.061	0.999	0.415	0.243	0.624	0.998	0.580	0.727	0.771	0.997	0.996	0.996
	406	お礼やねぎらい	0.455	0.064	0.851	0.435	0.001	0.001	0.249	0.843	0.167	0.343	0.909	0.932	0.332	0.997	0.338	0.627	0.996	0.995
	407	湯桶の使用	0.075	0.000	0.227	0.000	0.000	0.120	0.000	0.049	0.000	0.000	0.113	0.121	0.000	0.000	0.335	0.001	0.567	0.164
	408	徐々にお湯をかける	0.214	0.000	0.832	0.040	0.124	0.122	0.001	0.001	0.213	0.001	0.228	0.309	0.417	0.364	0.329	0.126	0.852	0.166
	409	見守りながら本人の自由に	0.026	0.000	0.000	0.034	0.000	0.000	0.197	0.049	0.000	0.000	0.000	0.000	0.169	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	411	シャワーのみ	0.007	0.030	0.000	0.000	0.000	0.040	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	490	その他	0.013	0.030	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.110	0.000	0.000	0.084	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
入浴メンバーの調整	501	家族と一緒に	0.062	0.025	0.000	0.000	0.000	0.145	0.000	0.000	0.461	0.000	0.000	0.000	0.000	0.181	0.000	0.001	0.567	0.001
	502	仲の良い人と一緒に	0.136	0.148	0.156	0.072	0.115	0.045	0.000	0.134	0.000	0.401	0.168	0.069	0.001	0.091	0.224	0.001	0.851	0.497
	503	一人で	0.234	0.052	0.285	0.210	0.095	0.095	0.943	0.001	0.001	0.001	0.116	0.808	0.254	0.001	0.329	0.489	0.569	0.333
	504	職員と一緒に	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.049	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	590	その他	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.124	0.000	0.000
入浴環境の調整	601	入浴習慣を取り入れる	0.117	0.000	0.162	0.000	0.000	0.000	0.197	0.099	0.108	0.000	0.000	0.300	0.338	0.001	0.335	0.001	0.993	0.660
	602	浴室室温を調整	0.380	0.001	0.999	0.363	0.093	0.141	0.286	0.001	0.592	0.001	0.483	0.938	0.829	0.277	0.672	0.003	0.995	0.498
	603	湯温の調整	0.422	0.001	0.999	0.765	0.284	0.066	0.414	0.001	0.395	0.002	0.342	0.757	0.912	0.367	0.664	0.367	0.854	0.664
	604	入浴剤や風呂備品の工夫	0.010	0.000	0.032	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.124	0.000	0.165
	605	銭湯や温泉	0.020	0.059	0.000	0.000	0.000	0.000	0.049	0.049	0.000	0.000	0.000	0.000	0.169	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	606	清潔の徹底	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.060	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	607	安全な環境づくり	0.010	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.049	0.054	0.000	0.000	0.060	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	609	明るさの調整	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.049	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	610	わかりやすい環境	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.090	0.000	0.000	0.000	0.000
	611	音楽をかける	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.060	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	690	その他	0.003	0.030	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
介助者の調整	701	同性介護	0.224	0.031	0.370	0.289	0.045	0.155	0.353	0.338	0.001	0.493	0.171	0.309	0.086	0.182	0.002	0.118	0.994	0.167
	702	信頼関係のあるスタッフ	0.156	0.000	0.065	0.133	0.000	0.083	0.099	0.156	0.271	0.543	0.001	0.300	0.169	0.001	0.442	0.001	0.851	0.495
	703	複数のスタッフ	0.257	0.033	0.283	0.249	0.383	0.209	0.001	0.050	0.269	0.001	0.792	0.321	0.750	0.365	0.114	0.126	0.427	0.664
	704	スタッフを分けた	0.179	0.031	0.167	0.107	0.000	0.340	0.099	0.196	0.001	0.001	0.652	0.182	0.162	0.092	0.550	0.001	0.710	0.663
	705	介助者の服装の工夫	0.107	0.000	0.133	0.036	0.000	0.239	0.099	0.050	0.000	0.052	0.169	0.120	0.001	0.271	0.001	0.247	0.709	0.495
その他	801	コンプレックスの確認	0.088	0.000	0.068	0.000	0.082	0.000	0.293	0.099	0.000	0.000	0.000	0.179	0.162	0.271	0.001	0.001	0.851	0.164
	802	下着の汚れが見られないように	0.205	0.090	0.325	0.071	0.001	0.041	0.301	0.247	0.059	0.104	0.001	0.361	0.996	0.362	0.001	0.241	0.993	0.331
	803	医師へ相談	0.033	0.000	0.000	0.000	0.120	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.180	0.000	0.124	0.567	0.000
	804	拒否の理由伺う	0.279	0.057	0.449	0.308	0.087	0.236	0.301	0.091	0.167	0.269	0.059	0.385	0.166	0.545	0.664	0.488	0.994	0.829
	890	その他	0.010	0.059	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.090	0.000	0.000	0.000	0.000
		（参考）平均項目数 →	9.9	2.7	15.8	8.7	7.0	6.2	7.5	7.6	8.0	6.9	11.2	17.7	12.3	13.9	12.3	8.6	32.5	17.1
		該当事例数 →	(308)	(34)	(31)	(29)	(25)	(25)	(20)	(20)	(18)	(18)	(17)	(17)	(12)	(11)	(9)	(8)	(7)	(6)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－７－４－３）　潜在クラスモデル評価（入浴拒否の解決方法組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル(クラス数)	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standa R-squared
モデル1(クラス数1)	6439.5	6295.0	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2(クラス数2)	6437.1	6144.4	0.049	0.796	0.773	0.799
モデル3(クラス数3)	6591.7	6150.9	0.132	0.781	0.705	0.712
モデル4(クラス数4)	6770.7	6181.8	0.121	0.783	0.760	0.749
モデル5(クラス数5)	6949.3	6212.2	0.131	0.795	0.763	0.738
モデル6(クラス数6)	7132.0	6246.8	0.139	0.809	0.772	0.741
モデル7(クラス数7)	7301.0	6267.7	0.100	0.866	0.838	0.808
モデル8(クラス数8)	7499.3	6317.9	0.128	0.844	0.823	0.784
モデル9(クラス数9)	7664.5	6334.8	0.093	0.885	0.870	0.836
モデル 10(クラス数 10)	7863.2	6385.4	0.104	0.872	0.867	0.823
モデル 11(クラス数 11)	8065.1	6439.2	0.107	0.871	0.866	0.821
モデル 12(クラス数 12)	8255.3	6481.3	0.103	0.880	0.878	0.829
モデル 13(クラス数 13)	8437.0	6514.9	0.098	0.877	0.884	0.837
モデル 14(クラス数 14)	8650.0	6579.7	0.096	0.890	0.887	0.842
モデル 15(クラス数 15)	8846.2	6627.7	0.104	0.883	0.882	0.832
モデル 16(クラス数 16)	9030.8	6664.2	0.107	0.881	0.891	0.833
モデル 17(クラス数 17)	9225.1	6710.4	0.082	0.903	0.913	0.865
モデル 18(クラス数 18)	9412.0	6749.1	0.061	0.932	0.930	0.897
モデル 19(クラス数 19)	9642.5	6831.4	0.087	0.901	0.916	0.865
モデル 20(クラス数 20)	9836.0	6876.8	0.077	0.915	0.924	0.881

（表２－７－４－４）　入浴拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（全体）

(n=231)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった	安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった
パターン1	「仲の良い人と一緒に」、「本人の状態に応じた時間」、「笑顔でゆっくり」、「繰り返し誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「本人の状態に応じた」、「過去の入浴時間」などに分散した平均2.7項目と最少の組み合わせ	-0.011	-0.074	0.019	0.138 *	-0.061
パターン2	「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「徐々にお湯をかける」、「入浴前コミュニケーション」の7項目を共通ベースとして構成された平均15.8項目と多様な組み合わせ	-0.092	0.094	-0.078	0.048	0.053
パターン3	「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「湯温の調整」の３項目を共通ベースとして、「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「一緒に行って誘導」、「暖まるからと声かけ」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	-0.024	-0.001	0.069	0.040	-0.100
パターン4	「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」、「本人の状態に応じた」、「呼んでいると誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	0.035	0.073	-0.033	-0.034	-0.091
パターン5	「繰り返し誘導」、「家族の面会・依頼」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴前コミュニケーション」、「スタッフを分けた」などで構成された平均6.2項目の組み合わせ	0.252 **	-0.182 **	-0.013	-0.127	0.028
パターン6	「一人で」を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前のくつろぎ」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「同性介護」、「下着の汚れが見られないように」などで構成された平均7.5項目の組み合わせ	0.026	0.042	-0.020	-0.059	-0.011
パターン7	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の３項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「繰り返し誘導」、「他者から誘導」、「同性介護」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	-0.088	0.005	-0.032	0.037	0.141 *
パターン8	「浴室室温を調整」、「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室へ誘導し認識を促す」、「笑顔でゆっくり」、「目や耳などを保護」、「家族と一緒に」、「湯温の調整」、「本人の状態に応じた時間」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	0.001	-0.014	-0.087	-0.003	0.142 *
パターン9	「入浴前コミュニケーション」、「信頼関係のあるスタッフ」、「本人の状態に応じた時間」、「趣味活動を実施した」、「同性介護」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「仲の良い人と一緒に」、「お礼やねぎらい」、「本人の状態に応じた」などで構成された平均6.9項目の組み合わせ	-0.104	0.096	-0.014	0.041	-0.005
パターン10	「お礼やねぎらい」と「複数のスタッフ」を共通ベースとして、「呼んでいると誘導」、「スタッフを分けた」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「トイレ誘導時に一緒に」、「繰り返し誘導」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均11.2項目の組み合わせ	0.148 *	-0.048	-0.013	-0.065	-0.083
パターン11	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「一人で」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の８項目を共通ベースとして構成された平均17.7項目と多様な組み合わせ	-0.109	-0.083	0.106	0.015	0.165 *
パターン12	「下着の汚れが見られないように」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「複数のスタッフ」の４項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ	-0.099	0.131 *	0.095	-0.079	-0.061
パターン13	「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「身体の一部から」、「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」の５項目を共通ベースとして、「暖まるからと声かけ」、「呼んでいると誘導」、「家族から入浴情報を得る」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均13.9項目の組み合わせ	-0.023	0.009	0.129 *	-0.072	-0.055
パターン14	「暖まるからと声かけ」、「薬を塗るため、医師の指示」、「入浴前コミュニケーション」、「笑顔でゆっくり」の４項目を共通ベースとして、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「拒否の理由伺う」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ	0.059	-0.044	0.004	0.004	-0.042
パターン15	「笑顔でゆっくり」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の３項目を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「拒否の理由伺う」、「一人で」などで構成された平均8.6項目の組み合わせ	0.017	0.041	0.019	-0.059	-0.046
パターン16	「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などの"入浴方法の工夫"をはじめ、"入浴前の工夫"、"入浴時間の調整"、"入浴環境の調整"、"入浴メンバーの調整"、"誘導の工夫"、"介護者の調整"など全分野に及ぶ平均32.5項目と最多の多種多様な組み合わせ	0.044	-0.068	-0.059	0.118	-0.040
パターン17	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」などの"入浴方法の工夫"や、「繰り返し誘導」他の"誘導の工夫"など、ほぼ全分野に及ぶ平均17.1項目の多様な組み合わせ	-0.034	0.036	-0.063	0.010	0.074

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－７－４－５）　入浴拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連（全体）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況								
			以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになった	安心して入浴するようになった	気持ちよいと言うようになった	他の利用者と一緒に入浴するようになった	自分から浴室まで行くようになった	自ら使用するタオルや衣類を出してほしいと言うようになった
全体		231	35.1	39.4	17.3	17.3	8.2	26.8	4.3	5.6	2.2
パターン1	「仲の良い人と一緒に」、「本人の状態に応じた時間」、「笑顔でゆっくり」、「繰り返し誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「本人の状態に応じた」、「過去の入浴時間」などに分散した平均2.7項目と最少の組み合わせ	28	21.7	33.1	17.8	21.2	3.5	3.3	3.5	3.6	0.0
パターン2	「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「徐々にお湯をかける」、「入浴前コミュニケーション」の7項目を共通ベースとして構成された平均15.8項目と多様な組み合わせ	25	39.8	29.4	12.1	19.3	12.0	39.5	0.3	7.7	3.9
パターン3	「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「湯温の調整」の3項目を共通ベースとして、「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「一緒に行って誘導」、「暖まるからと声かけ」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	21	32.1	39.7	28.2	21.9	0.2	24.2	0.0	0.0	0.0
パターン4	「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」、「本人の状態に応じた」、「呼んでいると誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	18	42.5	44.9	12.2	11.6	0.0	17.5	5.5	5.5	0.0
パターン5	「繰り返し誘導」、「家族の面会・依頼」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴前コミュニケーション」、「スタッフを分けた」などで構成された平均6.2項目の組み合わせ	19	7.3	75.5	16.0	16.3	10.5	11.3	0.1	10.5	0.0
パターン6	「一人で」を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前のくつろぎ」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「同性介護」、「下着の汚れが見られないように」などで構成された平均7.5項目の組み合わせ	15	39.7	39.1	13.5	6.9	6.7	8.1	0.0	6.7	0.0
パターン7	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の3項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「繰り返し誘導」、「他者から誘導」、「同性介護」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	14	27.6	19.1	11.6	27.7	20.6	52.2	7.0	13.9	7.0
パターン8	「浴室室温を調整」、「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室へ誘導し認識を促す」、「笑顔でゆっくり」、「目や耳などを保護」、「家族と一緒に」、「湯温の調整」、「本人の状態に応じた時間」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	13	46.3	34.9	3.8	17.7	22.8	30.5	0.1	7.7	7.6
パターン9	「入浴前コミュニケーション」、「信頼関係のあるスタッフ」、「本人の状態に応じた時間」、「趣味活動を実施した」、「同性介護」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「仲の良い人と一緒に」、「お礼やねぎらい」、「本人の状態に応じた」などで構成された平均6.9項目の組み合わせ	14	56.5	16.0	14.1	27.3	7.1	34.3	14.2	0.0	0.0
パターン10	「お礼やねぎらい」と「複数のスタッフ」を共通ベースとして、「呼んでいると誘導」、「スタッフを分けた」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「トイレ誘導時に一緒に」、「繰り返し誘導」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均11.2項目の組み合わせ	15	25.3	64.6	16.0	6.5	6.0	26.0	12.3	0.0	0.0
パターン11	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「一人で」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の8項目を共通ベースとして構成された平均17.7項目と多様な組み合わせ	11	53.9	19.0	35.6	35.4	26.8	53.3	0.0	9.1	0.0
パターン12	「下着の汚れが見られないように」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「複数のスタッフ」の4項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ	9	66.1	22.2	33.6	0.0	0.0	43.8	0.0	0.0	0.0
パターン13	「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「身体の一部から」、「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」の5項目を共通ベースとして、「暖まるからと声かけ」、「呼んでいると誘導」、「家族から入浴情報を得る」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均13.9項目の組み合わせ	7	42.7	28.4	42.5	0.5	0.0	14.8	0.0	0.0	0.1
パターン14	「暖まるからと声かけ」、「薬を塗るため、医師の指示」、「入浴前コミュニケーション」、「笑顔でゆっくり」の4項目を共通ベースとして、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「拒否の理由伺う」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ	6	17.1	82.7	17.1	17.1	0.1	50.9	17.0	17.0	0.0
パターン15	「笑顔でゆっくり」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の3項目を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「拒否の理由伺う」、「一人で」などで構成された平均8.6項目の組み合わせ	5	39.5	39.7	20.8	0.0	0.0	40.5	0.0	0.0	19.8
パターン16	「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などの"入浴方法の工夫"をはじめ、"入浴前の工夫"、"入浴時間の調整"、"入浴環境の調整"、"入浴メンバーの調整"、"誘導の工夫"、"介護者の調整"など全分野に及ぶ平均32.5項目と最多の多種多様な組み合わせ	4	25.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン17	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」などの"入浴方法の工夫"や、「繰り返し誘導」他の"誘導の工夫"など、ほぼ全分野に及ぶ平均17.1項目の多様な組み合わせ	5	40.1	60.1	0.1	0.0	20.0	59.9	40.1	20.0	20.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－７－４－６）　入浴拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン１“一部介助、中程度重症度”の場合）

(n=140)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった	安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった
パターン1	「仲の良い人と一緒に」、「本人の状態に応じた時間」、「笑顔でゆっくり」、「繰り返し誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「本人の状態に応じた」、「過去の入浴時間」などに分散した平均2.7項目と最少の組み合わせ	0.076	-0.045	-0.021	0.025	-0.048
パターン2	「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「徐々にお湯をかける」、「入浴前コミュニケーション」の7項目を共通ベースとして構成された平均15.8項目と多様な組み合わせ	-0.080	0.055	-0.135	0.131	0.065
パターン3	「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「湯温の調整」の３項目を共通ベースとして、「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「一緒に行って誘導」、「暖まるからと声かけ」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	0.064	-0.016	0.099	-0.058	-0.132
パターン4	「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」、「本人の状態に応じた」、「呼んでいると誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	0.042	0.081	-0.043	-0.033	-0.105
パターン5	「繰り返し誘導」、「家族の面会・依頼」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴前コミュニケーション」、「スタッフを分けた」などで構成された平均6.2項目の組み合わせ	0.174 *	-0.191 *	0.021	-0.104	0.102
パターン6	「一人で」を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前のくつろぎ」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「同性介護」、「下着の汚れが見られないように」などで構成された平均7.5項目の組み合わせ	0.048	0.058	-0.096	-0.083	0.032
パターン7	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の３項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「繰り返し誘導」、「他者から誘導」、「同性介護」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	-0.101	-0.043	-0.025	0.204 *	0.047
パターン8	「浴室室温を調整」、「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室へ誘導し認識を促す」、「笑顔でゆっくり」、「目や耳などを保護」、「家族と一緒に」、「湯温の調整」、「本人の状態に応じた時間」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	0.043	-0.052	-0.078	-0.103	0.205 *
パターン9	「入浴前コミュニケーション」、「信頼関係のあるスタッフ」、「本人の状態に応じた時間」、「趣味活動を実施した」、「同性介護」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「仲の良い人と一緒に」、「お礼やねぎらい」、「本人の状態に応じた」などで構成された平均6.9項目の組み合わせ	-0.156	0.125	-0.059	0.130	-0.011
パターン10	「お礼やねぎらい」と「複数のスタッフ」を共通ベースとして、「呼んでいると誘導」、「スタッフを分けた」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「トイレ誘導時に一緒に」、「繰り返し誘導」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均11.2項目の組み合わせ	0.045	0.014	0.048	-0.073	-0.072
パターン11	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「一人で」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の８項目を共通ベースとして構成された平均17.7項目と多様な組み合わせ	-0.083	-0.102	0.128	0.010	0.123
パターン12	「下着の汚れが見られないように」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「複数のスタッフ」の４項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ	-0.069	0.154	0.011	-0.067	-0.072
パターン13	「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「身体の一部から」、「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」の５項目を共通ベースとして、「暖まるからと声かけ」、「呼んでいると誘導」、「家族から入浴情報を得る」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均13.9項目の組み合わせ	0.007	-0.069	0.209 *	-0.076	-0.074
パターン14	「暖まるからと声かけ」、「薬を塗るため、医師の指示」、「入浴前コミュニケーション」、「笑顔でゆっくり」の４項目を共通ベースとして、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「拒否の理由伺う」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ	0.042	-0.059	0.028	0.049	-0.057
パターン15	「笑顔でゆっくり」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の３項目を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「拒否の理由伺う」、「一人で」などで構成された平均8.6項目の組み合わせ	-0.024	0.065	0.043	-0.052	-0.059
パターン16	「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などの~入浴方法の工夫~をはじめ、~入浴前の工夫~、~入浴時間の調整~、~入浴環境の調整~、~入浴メンバーの調整~、~誘導の工夫~、~介護者の調整~など全分野に及ぶ平均32.5項目と最多の多種多様な組み合わせ	-0.059	-0.025	-0.037	0.200 *	-0.028
パターン17	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」などの~入浴方法の工夫~や、「繰り返し誘導」他の~誘導の工夫~など、ほぼ全分野に及ぶ平均17.1項目の多様な組み合わせ	-0.009	0.053	-0.073	-0.065	0.085

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン１の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－７－４－７）　入浴拒否の解決方法パターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン１“一部介助、中程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況								
			以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになった	安心して入浴するようになった	気持ちよいと言うようになった	他の利用者と一緒に入浴するようになった	自分から浴室まで行くようになった	自ら使用するタオルや衣類を出してほしいと言うようになった
全体		140	40.7	38.6	16.4	14.3	10.0	28.6	5.0	7.9	3.6
パターン1	「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の5項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」、「好きな話題で会話しながら」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	15	26.2	41.4	13.0	13.0	6.4	0.6	6.4	0.0	0.0
パターン2	「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「不安を除きながら」、「湯船につかったり、洗身してから」、「一部分から」、「単純な声かけ」、「好きな話題で会話しながら」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均9.4項目の組み合わせ	13	41.1	27.4	8.0	15.8	15.7	48.2	0.0	15.7	8.0
パターン3	「洗髪の効能を説明」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	16	37.0	50.6	24.4	10.2	0.0	19.1	0.0	0.0	0.0
パターン4	「声かけの態度を工夫」（99.9%）を共通ベースとして、「一部分から」も多く、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「湯温調整」、「１人で」、「洗髪の効能を説明」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均9.1項目の組み合わせ	11	52.6	46.3	10.3	9.3	0.0	10.5	9.0	9.0	0.0
パターン5	「好きな話題で会話しながら」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「介助者の工夫」、「一部分から」などで構成された平均9.0項目の組み合わせ	10	13.0	65.7	20.4	21.2	20.5	20.4	0.1	20.4	0.0
パターン6	「浴室温度調整」、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」の３項目を共通ベースとして、「一部分から」と「湯温調整」も多く、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「１人で」、「介助者の工夫」、「顔に湯がかからない工夫」などで構成された平均9.7項目の組み合わせ	7	43.1	41.1	1.0	14.9	14.5	15.9	0.1	0.1	0.0
パターン7	「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主として、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均2.7項目と最少の組み合わせ	8	24.0	13.0	11.1	25.9	13.0	61.1	0.0	25.9	13.0
パターン8	「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	9	44.7	39.0	5.3	3.8	32.7	22.4	0.1	11.1	10.9
パターン9	「お礼やねぎらい」、「湯温調整」、「複数のスタッフ」の３項目を主として、「好きな話題で会話しながら」、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「一部分から」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯船につかったり、洗身してから」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	12	67.0	8.8	8.4	32.5	8.5	40.8	16.8	0.0	0.0
パターン10	「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」、「介助者の工夫」の３項目も多く、「湯温調整」、「浴室温度調整」、「１人で」、「単純な声かけ」、「一部分から」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	5	35.8	54.3	27.9	0.0	0.0	18.6	0.0	0.0	0.0
パターン11	「洗髪後の手入れを行う」と「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「単純な声かけ」と「好きな話題で会話しながら」も多く、「声かけの態度を工夫」、「顔に湯がかからない工夫」、「仲の良い人と一緒に入浴」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	8	48.9	26.1	36.9	24.6	24.8	49.3	0.0	12.6	0.0
パターン12	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の６項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」も多く、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「介助者の工夫」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	6	66.0	16.9	17.1	0.0	0.0	48.9	0.0	0.0	0.0
パターン13	「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「浴室温度調整」の５項目を共通ベースとして、「湯温調整」も多く、「顔に湯がかからない工夫」、「不安を除きながら」、「複数のスタッフ」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	6	33.5	33.3	49.8	0.0	0.0	16.8	0.0	0.0	0.1
パターン14	「１人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多く、「お礼やねぎらい」、「声かけの態度を工夫」、「髪を染めるため」、「湯船につかったり、洗身してから」、「顔に湯がかからない工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	5	20.5	79.5	20.5	20.5	0.0	41.0	20.5	20.5	0.0
パターン15	「顔に湯がかからない工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「お礼やねぎらい」の３項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「不安を除きながら」、「家族からの依頼」、「介助者の工夫」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	4	50.5	25.5	24.0	0.0	0.0	49.3	0.0	0.0	25.3
パターン16	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」の10項目を共通ベースとした平均14.1項目と最多の組み合わせ	1	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン17	「声かけの態度を工夫」、「複数のスタッフ」、「顔に湯がかからない工夫」の３項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「お礼やねぎらい」、「浴室温度調整」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	4	50.0	75.0	0.0	0.0	25.0	50.0	50.0	25.0	25.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン１の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－７－４－８）　入浴拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン２“自立、軽中程度重症度”の場合）

(n=43)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった	安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった
パターン1	「仲の良い人と一緒に」、「本人の状態に応じた時間」、「笑顔でゆっくり」、「繰り返し誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「本人の状態に応じた」、「過去の入浴時間」などに分散した平均2.7項目と最少の組み合わせ	-0.066	0.020	-0.040	0.158	-0.124
パターン2	「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「徐々にお湯をかける」、「入浴前コミュニケーション」の7項目を共通ベースとして構成された平均15.8項目と多様な組み合わせ	-0.017	-0.096	0.076	0.040	-0.064
パターン3	「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「湯温の調整」の3項目を共通ベースとして、「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「一緒に行って誘導」、「暖まるからと声かけ」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	-0.267	0.074	-0.006	0.285	-0.071
パターン4	「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」、「本人の状態に応じた」、「呼んでいると誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	-0.173	0.278	0.159	-0.118	-0.060
パターン5	「繰り返し誘導」、「家族の面会･依頼」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴前コミュニケーション」、「スタッフを分けた」などで構成された平均6.2項目の組み合わせ	0.273	-0.087	0.011	-0.211	-0.087
パターン6	「一人で」を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前のくつろぎ」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「同性介護」、「下着の汚れが見られないように」などで構成された平均7.5項目の組み合わせ	-0.197	0.234	0.058	0.027	-0.045
パターン7	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の3項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「繰り返し誘導」、「他者から誘導」、「同性介護」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	0.014	-0.061	-0.059	-0.235	0.651 **
パターン8	「浴室室温を調整」、「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室へ誘導し認識を促す」、「笑顔でゆっくり」、「目や耳などを保護」、「家族と一緒に」、「湯温の調整」、「本人の状態に応じた時間」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	（事例なし）				
パターン9	「入浴前コミュニケーション」、「信頼関係のあるスタッフ」、「本人の状態に応じた時間」、「趣味活動を実施した」、「同性介護」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「仲の良い人と一緒に」、「お礼やねぎらい」、「本人の状態に応じた」などで構成された平均6.9項目の組み合わせ	0.248	-0.062	-0.102	-0.110	-0.050
パターン10	「お礼やねぎらい」と「複数のスタッフ」を共通ベースとして、「呼んでいると誘導」、「スタッフを分けた」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「トイレ誘導時に一緒に」、「繰り返し誘導」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均11.2項目の組み合わせ	0.280	-0.106	0.004	-0.203	-0.079
パターン11	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「一人で」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の8項目を共通ベースとして構成された平均17.7項目と多様な組み合わせ	-0.111	-0.024	-0.087	0.227	-0.011
パターン12	「下着の汚れが見られないように」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「複数のスタッフ」の4項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ	-0.109	-0.033	0.269	-0.098	-0.039
パターン13	「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「身体の一部から」、「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」の5項目を共通ベースとして、「暖まるからと声かけ」、「呼んでいると誘導」、「家族から入浴情報を得る」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均13.9項目の組み合わせ	（事例なし）				
パターン14	「暖まるからと声かけ」、「薬を塗るため、医師の指示」、「入浴前コミュニケーション」、「笑顔でゆっくり」（77.1%）の4項目を共通ベースとして、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「拒否の理由伺う」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ	0.209	-0.048	-0.086	-0.098	-0.037
パターン15	「笑顔でゆっくり」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の3項目を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「拒否の理由伺う」、「一人で」などで構成された平均8.6項目の組み合わせ	0.199	-0.056	-0.057	-0.107	-0.043
パターン16	「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などの"入浴方法の工夫"をはじめ、"入浴前の工夫"、"入浴時間の調整"、"入浴環境の調整"、"入浴メンバーの調整"、"誘導の工夫"、"介護者の調整"など全分野に及ぶ平均32.5項目と最多の多種多様な組み合わせ	-0.113	-0.051	-0.086	0.259	-0.037
パターン17	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」などの"入浴方法の工夫"や、「繰り返し誘導」他の"誘導の工夫"など、ほぼ全分野に及ぶ平均17.1項目の多様な組み合わせ	-0.112	-0.044	-0.072	0.214	0.014

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－７－４－９）　入浴拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の状況
（高齢者パターン２“自立、軽中程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況								
			以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになった	安心して入浴するようになった	気持ちよいと言うようになった	他の利用者と一緒に入浴するようになった	自分から浴室まで行くようになった	自ら使用するタオルや衣類を出してほしいと言うようになった
全体		43	18.6	37.2	25.6	27.9	7.0	25.6	4.7	4.7	0.0
パターン1	「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の5項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」、「好きな話題で会話しながら」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	10	10.7	29.2	20.2	29.7	0.0	0.8	0.0	10.2	0.0
パターン2	「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「不安を除きながら」、「湯船につかったり、洗身してから」、「一部分から」、「単純な声かけ」、「好きな話題で会話しながら」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	3	3.4	32.4	34.6	33.0	2.7	65.0	2.7	0.0	0.0
パターン3	「洗髪の効能を説明」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「浴室温度調整」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	5	15.8	0.9	43.5	61.8	0.8	43.0	0.0	0.0	0.0
パターン4	「声かけの態度を工夫」(99.9%)を共通ベースとして、「一部分から」も多く、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「湯温調整」、「1人で」、「洗髪の効能を説明」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	2	43.7	0.1	51.3	4.9	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
パターン5	「好きな話題で会話しながら」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「介助者の工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	4	2.3	73.2	24.5	23.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン6	「浴室温度調整」、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」の3項目を共通ベースとして、「一部分から」と「湯温調整」も多く、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「1人で」、「介助者の工夫」、「顔に湯がかからない工夫」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	3	65.7	1.1	32.8	0.3	0.0	0.0	0.0	32.9	0.0
パターン7	「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主として、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均2.7項目と最少の組み合わせ	5	5.0	36.6	16.9	41.4	41.2	58.1	21.1	0.0	0.0
パターン8	「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
パターン9	「お礼やねぎらい」、「湯温調整」、「複数のスタッフ」の3項目を主として、「好きな話題で会話しながら」、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「一部分から」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯船につかったり、洗身してから」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	1	0.5	94.4	1.7	3.4	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0
パターン10	「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」、「介助者の工夫」の3項目も多く、「湯温調整」、「浴室温度調整」、「1人で」、「単純な声かけ」、「一部分から」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	4	23.3	76.4	23.6	0.0	23.3	25.5	23.3	0.0	0.0
パターン11	「洗髪後の手入れを行う」と「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「単純な声かけ」と「好きな話題で会話しながら」も多く、「声かけの態度を工夫」、「顔に湯がかからない工夫」、「仲の良い人と一緒に入浴」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	1	98.6	1.2	0.1	98.7	0.0	98.9	0.0	0.0	0.0
パターン12	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の6項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」も多く、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「介助者の工夫」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	1	100.0	99.9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン13	「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「浴室温度調整」の5項目を共通ベースとして、「湯温調整」も多く、「顔に湯がかからない工夫」、「不安を除きながら」、「複数のスタッフ」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
パターン14	「1人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多く、「お礼やねぎらい」、「声かけの態度を工夫」、「髪を染めるため」、「湯船につかったり、洗身してから」、「顔に湯がかからない工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	1	0.6	99.0	0.0	0.4	0.4	99.3	0.0	0.0	0.0
パターン15	「顔に湯がかからない工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「お礼やねぎらい」の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「不安を除きながら」、「家族からの依頼」、「介助者の工夫」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	1	0.0	90.8	9.1	0.0	0.0	9.2	0.0	0.0	0.0
パターン16	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「1人で」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」の10項目を共通ベースとした平均14.1項目と最多の組み合わせ	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン17	「声かけの態度を工夫」、「複数のスタッフ」、「顔に湯がかからない工夫」の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「お礼やねぎらい」、「浴室温度調整」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	99.9	0.1	0.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－７－４－１０）　入浴拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン３“全介助、中高程度重症度”の場合）

（n=48）

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになり、気持ちよいと言うようにもなった	安心して入浴するようになり、気持ちよいと言うようになった
パターン1	「仲の良い人と一緒に」、「本人の状態に応じた時間」、「笑顔でゆっくり」、「繰り返し誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「本人の状態に応じた」、「過去の入浴時間」などに分散した平均2.7項目と最少の組み合わせ	-0.218	-0.149	0.183	0.349 *	-0.031
パターン2	「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「徐々にお湯をかける」、「入浴前コミュニケーション」の7項目を共通ベースとして構成された平均15.8項目と多様な組み合わせ	-0.208	0.247	-0.036	-0.067	0.149
パターン3	「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「湯温の調整」の3項目を共通ベースとして、「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「一緒に行って誘導」、「暖まるからと声かけ」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	（事例なし）				
パターン4	「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」、「本人の状態に応じた」、「呼んでいると誘導」、「薬を塗るため、医師の指示」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	0.125	-0.056	-0.125	0.052	-0.071
パターン5	「繰り返し誘導」、「家族の面会・依頼」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴前コミュニケーション」、「スタッフを分けた」などで構成された平均6.2項目の組み合わせ	0.393 **	-0.216	-0.132	-0.122	-0.077
パターン6	「一人で」を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前のくつろぎ」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「同性介護」、「下着の汚れが見られないように」などで構成された平均7.5項目の組み合わせ	0.122	-0.058	0.070	-0.125	-0.076
パターン7	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」の3項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「本人の状態に応じた時間」、「繰り返し誘導」、「他者から誘導」、「同性介護」などで構成された平均7.6項目の組み合わせ	-0.178	0.347 *	-0.079	-0.083	-0.047
パターン8	「浴室室温を調整」、「入浴前コミュニケーション」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室へ誘導し認識を促す」、「笑顔でゆっくり」、「目や耳などを保護」、「家族と一緒に」、「湯温の調整」、「本人の状態に応じた時間」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	-0.103	-0.003	-0.115	0.291 *	-0.047
パターン9	「入浴前コミュニケーション」、「信頼関係のあるスタッフ」、「本人の状態に応じた時間」、「趣味活動を実施した」、「同性介護」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「仲の良い人と一緒に」、「お礼やねぎらい」、「本人の状態に応じた」などで構成された平均6.9項目の組み合わせ	-0.132	-0.069	0.382 **	-0.066	-0.038
パターン10	「お礼やねぎらい」と「複数のスタッフ」を共通ベースとして、「呼んでいると誘導」、「スタッフを分けた」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「トイレ誘導時に一緒に」、「繰り返し誘導」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均11.2項目の組み合わせ	0.187	-0.087	-0.143	0.027	-0.084
パターン11	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「一人で」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の8項目を共通ベースとして構成された平均17.7項目と多様な組み合わせ	-0.187	-0.111	0.234	-0.089	0.473 **
パターン12	「下着の汚れが見られないように」、「湯温の調整」、「浴室室温を調整」、「複数のスタッフ」の4項目を共通ベースとして、「入浴前コミュニケーション」、「トイレ誘導時に一緒に」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ	-0.178	0.110	0.234	-0.079	-0.047
パターン13	「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「身体の一部から」、「入浴前コミュニケーション」、「繰り返し誘導」の5項目を共通ベースとして、「暖まるからと声かけ」、「呼んでいると誘導」、「家族から入浴情報を得る」、「笑顔でゆっくり」などで構成された平均13.9項目の組み合わせ	-0.124	0.243	-0.055	-0.058	-0.033
パターン14	「暖まるからと声かけ」、「薬を塗るため、医師の指示」、「入浴前コミュニケーション」、「笑顔でゆっくり」(77.1%)の4項目を共通ベースとして、「浴室室温を調整」、「湯温の調整」、「拒否の理由伺う」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」などで構成された平均12.3項目の組み合わせ	（事例なし）				
パターン15	「笑顔でゆっくり」、「本人の状態に応じた時間」、「入浴前コミュニケーション」の3項目を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「拒否の理由伺う」、「一人で」などで構成された平均8.6項目の組み合わせ	（事例なし）				
パターン16	「入浴中のコミュニケーションを増やす」、「笑顔でゆっくり」などの"入浴方法の工夫"をはじめ、"入浴前の工夫"、"入浴時間の調整"、"入浴環境の調整"、"入浴メンバーの調整"、"誘導の工夫"、"介護者の調整"など全分野に及ぶ平均32.5項目と最多の多種多様な組み合わせ	0.247	-0.128	-0.080	-0.089	-0.047
パターン17	「笑顔でゆっくり」、「お礼やねぎらい」などの"入浴方法の工夫"や、「繰り返し誘導」他の"誘導の工夫"など、ほぼ全分野に及ぶ平均17.1項目の多様な組み合わせ	（事例なし）				

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン3の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－７－４－１１）　入浴拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の状況
（高齢者パターン３“全介助、中高程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況								
			以前より拒否は少なくなり、入浴する回数が増えてきた	拒否されることは多いが、以前よりは入るようになった	渋々ではあるが入浴するようになった	拒否せず入浴するようになった	安心して入浴するようになった	気持ちよいと言うようになった	他の利用者と一緒に入浴するようになった	自分から浴室まで行くようになった	自ら使用するタオルや衣類を出してほしいと言うようになった
全体		48	33.3	43.8	12.5	16.7	4.2	22.9	2.1	0.0	0.0
パターン1	「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の5項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」、「好きな話題で会話しながら」、「浴室温度調整」などで構成された平均9.5項目の組み合わせ	3	35.7	0.3	36.0	36.5	0.0	27.2	0.0	0.0	0.0
パターン2	「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「不安を除きながら」、「湯船につかったり、洗身してから」、「一部分から」、「単純な声かけ」、「好きな話題で会話しながら」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	10	49.5	30.9	10.2	19.5	10.2	20.4	0.0	0.0	0.0
パターン3	「洗髪の効能を説明」を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」も多く、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「浴室温度調整」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
パターン4	「声かけの態度を工夫」（99.9%）を共通ベースとして、「一部分から」も多く、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「湯温調整」、「１人で」、「洗髪の効能を説明」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	5	20.1	59.7	0.6	19.4	0.0	39.7	0.0	0.0	0.0
パターン5	「好きな話題で会話しながら」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「介助者の工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	5	0.4	96.6	0.2	0.6	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0
パターン6	「浴室温度調整」、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」の３項目を共通ベースとして、「一部分から」と「湯温調整」も多く、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「１人で」、「介助者の工夫」、「顔に湯がかからない工夫」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	5	19.7	59.1	19.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0
パターン7	「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主として、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」などで構成された平均2.7項目と最少の組み合わせ	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン8	「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	4	50.1	25.2	0.1	49.5	0.0	49.4	0.0	0.0	0.0
パターン9	「お礼やねぎらい」、「湯温調整」、「複数のスタッフ」の３項目を主として、「好きな話題で会話しながら」、「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「一部分から」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯船につかったり、洗身してから」、「洗髪の効能を説明」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	1	9.1	2.9	88.3	0.0	0.0	2.8	2.7	0.0	0.0
パターン10	「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」、「不安を除きながら」、「介助者の工夫」の３項目も多く、「湯温調整」、「浴室温度調整」、「１人で」、「単純な声かけ」、「一部分から」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	6	17.0	66.2	0.0	16.8	0.0	33.2	16.3	0.0	0.0
パターン11	「洗髪後の手入れを行う」と「お礼やねぎらい」を共通ベースとして、「単純な声かけ」と「好きな話題で会話しながら」も多く、「声かけの態度を工夫」、「顔に湯がかからない工夫」、「仲の良い人と一緒に入浴」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	2	52.2	0.3	47.4	47.4	47.2	47.2	0.0	0.0	0.0
パターン12	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の６項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」も多く、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「浴室温度調整」、「介助者の工夫」などで構成された平均8.7項目の組み合わせ	2	50.1	0.0	49.9	0.0	0.0	49.9	0.0	0.0	0.0
パターン13	「単純な声かけ」、「声かけの態度を工夫」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「浴室温度調整」の５項目を共通ベースとして、「湯温調整」も多く、「顔に湯がかからない工夫」、「不安を除きながら」、「複数のスタッフ」などで構成された平均7.0項目の組み合わせ	1	99.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0
パターン14	「１人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多く、「お礼やねぎらい」、「声かけの態度を工夫」、「髪を染めるため」、「湯船につかったり、洗身してから」、「顔に湯がかからない工夫」、「一部分から」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
パターン15	「顔に湯がかからない工夫」、「好きな話題で会話しながら」、「お礼やねぎらい」の３項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「不安を除きながら」、「家族からの依頼」、「介助者の工夫」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
パターン16	「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「単純な声かけ」、「仲の良い人と一緒に入浴」、「１人で」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」、「洗髪後の手入れを行う」、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」の10項目を共通ベースとした平均14.1項目と最多の組み合わせ	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン17	「声かけの態度を工夫」、「複数のスタッフ」、「顔に湯がかからない工夫」の３項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」、「お礼やねぎらい」、「浴室温度調整」、「コンプレックスを確認」などで構成された平均4.8項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン3の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－７－５－１）　入浴拒否の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
		計（延解決方法件数）	1,328	100.0
認知能力	1	認知機能	62	4.7
	2	認知症の種類	18	1.4
	3	見当識	19	1.4
	4	妄想の有無	9	0.7
健康面	5	現病・既往歴	7	0.5
	6	バイタル	7	0.5
	7	失禁有無	10	0.8
	8	排泄状況	6	0.5
	9	清潔度	86	6.5
	11	睡眠時間・状況	5	0.4
	12	皮膚疾患	16	1.2
能力・機能	14	歩行・下肢機能	1	0.1
	15	着脱能力	3	0.2
	16	言語理解	78	5.9
	17	上肢機能	2	0.2
心理面	18	気分	341	25.7
	19	本人の気持ち、意志	518	39.0
	20	興味・関心	109	8.2
入浴・洗髪方法	21	入浴時間帯	56	4.2
	22	入浴のこだわり	59	4.4
	23	入浴人数	13	1.0
	24	浴槽の形	2	0.2
	25	浴室の温度	88	6.6
	26	湯温	172	13.0
	27	シャワーかどうか	34	2.6
	28	洗髪した日	24	1.8
	29	シャワーの水圧	94	7.1
	30	シャンプーの種類	8	0.6
	31	床屋に行った日	6	0.5
拒否時の状態	32	入浴拒否の開始時期	12	0.9
	33	洗髪への反応・様子	197	14.8
入浴習慣	34	洗髪習慣（自宅での方法）	94	7.1
	35	浴室環境（自宅）	15	1.1
	36	生活歴（幼少期から）	43	3.2
	37	過去の入浴体験	88	6.6
人間関係	38	他の入居者との関係	51	3.8
	39	スタッフとの関係	314	23.6
	40	家族関係	31	2.3
介護者の対応	41	スタッフの声かけ内容・見守り方	453	34.1
	42	介護者の性別	86	6.5
	43	介助者の人数	20	1.5
その他	44	性格	137	10.3
	45	性別	34	2.6
	46	下着の状態	9	0.7
	47	趣味	16	1.2

（参考）平均記入項目数 →　2.6

（表２－７－５－２）入浴拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン
（潜在クラス 16 クラスモデルのプロフィール）

（n=2735）

区分	code	解決に役立った情報	全体	パターン1 「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を主として他に分散して構成された平均2.1項目の組み合わせ	パターン2 「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」、「スタッフとの関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」の3項目も多く、「興味・関心」などで構成された平均3.6項目 の組み合わせ	パターン3 「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」と「興味・関心」を含めた"心理面"にウェイトを置いて構成された平均2.5項目の組み合わせ	パターン4 「入浴習慣（自宅）」を主として、「生活歴（幼少期から）」、「過去の入浴体験」、「入浴のこだわり」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	パターン5 「気分」、「興味・関心」、「他の入居者との関係」、「家族関係」他に分散して構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	パターン6 「湯温」、「浴室の温度」、「入浴のこだわり」など"入浴スタイル"にウェイトを置いて構成された平均2.2項目の組み合わせ	パターン7 「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフとの関係」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	パターン8 「失禁有無」を共通ベースとして、「清潔度」、「排泄状況」、「下着の状態」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	パターン9 「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」、「言語理解」、「認知機能」、「スタッフとの関係」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	パターン10 「性格」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「性別」、「認知機能」などで構成された平均3.3項目の組み合わせ	パターン11 「興味・関心」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「生活歴（幼少期から）」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン12 「気分」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「入浴時間帯」などで構成された平均3.3項目の組み合わせ	パターン13 「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「過去の入浴体験」、「認知機能」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	パターン14 「入浴時間帯」と「本人の気持ち、意志」を主として、「気分」、「入浴のこだわり」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン15 「現病・既往歴」を共通ベースとして、「バイタル」、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「認知機能」などで構成された平均4.0項目と多様な組み合わせ	パターン16 「気分」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「湯温」、「浴室の温度」、「着替えのストック」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均4.4項目と最多の組み合わせ
		クラスサイズ	1.000	0.216	0.137	0.131	0.093	0.078	0.077	0.055	0.036	0.032	0.031	0.026	0.025	0.019	0.017	0.014	0.013
認知能力	1	認知機能	0.045	0.014	0.049	0.000	0.018	0.000	0.000	0.045	0.000	0.322	0.220	0.111	0.000	0.265	0.000	0.354	0.042
	2	認知症の種類	0.011	0.000	0.026	0.000	0.000	0.000	0.000	0.017	0.012	0.101	0.000	0.000	0.000	0.000	0.149	0.048	0.000
	3	見当識	0.013	0.000	0.000	0.010	0.000	0.000	0.006	0.021	0.033	0.173	0.000	0.096	0.024	0.000	0.000	0.000	0.000
	4	妄想の有無	0.013	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.026	0.020	0.157	0.027	0.037	0.061	0.076	0.000	0.053	0.000
健康面	5	現病・既往歴	0.022	0.000	0.014	0.000	0.010	0.000	0.000	0.067	0.023	0.000	0.000	0.099	0.000	0.000	0.042	0.816	0.000
	6	バイタル	0.019	0.003	0.026	0.000	0.000	0.000	0.028	0.000	0.037	0.018	0.000	0.000	0.029	0.097	0.000	0.578	0.000
	7	失禁有無	0.032	0.000	0.016	0.000	0.009	0.000	0.000	0.000	0.799	0.000	0.000	0.000	0.020	0.000	0.000	0.000	0.000
	8	排泄状況	0.020	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.368	0.000	0.000	0.055	0.170	0.000	0.000	0.000	0.069
	9	清潔度	0.046	0.001	0.025	0.036	0.014	0.090	0.000	0.077	0.441	0.182	0.000	0.029	0.000	0.055	0.031	0.060	0.000
	10	食欲	0.006	0.000	0.006	0.000	0.000	0.032	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.019	0.057	0.031	0.000	0.000	0.000
	11	睡眠時間・状況	0.008	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.011	0.022	0.000	0.000	0.014	0.086	0.000	0.128	0.078	0.000
	12	皮膚疾患	0.027	0.000	0.000	0.025	0.000	0.073	0.000	0.140	0.185	0.022	0.035	0.016	0.019	0.032	0.000	0.000	0.000
	13	生理	0.002	0.000	0.000	0.005	0.000	0.009	0.000	0.000	0.000	0.015	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.028
能力・機能	14	歩行・下肢機能	0.017	0.007	0.000	0.007	0.003	0.029	0.000	0.000	0.025	0.000	0.009	0.013	0.207	0.138	0.000	0.171	0.000
	15	着脱能力	0.007	0.000	0.000	0.000	0.009	0.000	0.000	0.018	0.000	0.016	0.000	0.000	0.088	0.084	0.000	0.033	0.000
	16	言語理解	0.036	0.013	0.011	0.035	0.015	0.012	0.006	0.000	0.012	0.342	0.084	0.103	0.069	0.170	0.000	0.168	0.000
	17	上肢機能	0.002	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.005	0.000	0.010	0.012	0.000	0.000	0.014	0.000	0.000	0.000	0.027
心理面	18	気分	0.314	0.114	0.702	0.457	0.107	0.350	0.147	0.001	0.198	0.349	0.306	0.340	0.780	0.230	0.343	0.400	0.997
	19	本人の気持ち、意志	0.421	0.119	0.819	0.998	0.284	0.002	0.090	0.523	0.306	0.164	0.375	0.363	0.571	0.998	0.598	0.426	0.260
	20	興味・関心	0.122	0.056	0.208	0.227	0.031	0.176	0.040	0.028	0.013	0.001	0.010	0.995	0.000	0.116	0.053	0.000	0.053
入浴スタイル	21	入浴時間帯	0.047	0.005	0.005	0.060	0.103	0.008	0.048	0.009	0.013	0.000	0.000	0.059	0.317	0.000	0.713	0.068	0.000
	22	入浴のこだわり	0.084	0.000	0.061	0.067	0.290	0.034	0.263	0.155	0.024	0.034	0.015	0.002	0.000	0.000	0.260	0.107	0.000
	23	入浴人数	0.009	0.007	0.000	0.000	0.005	0.020	0.012	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.015	0.000	0.189	0.053	0.000
	24	浴槽の形	0.006	0.000	0.003	0.000	0.011	0.011	0.013	0.000	0.031	0.000	0.012	0.000	0.000	0.000	0.024	0.026	0.000
	25	浴室の温度	0.056	0.000	0.000	0.019	0.028	0.000	0.493	0.056	0.000	0.063	0.000	0.000	0.066	0.084	0.000	0.086	0.264
	26	湯温	0.067	0.001	0.023	0.054	0.048	0.000	0.555	0.000	0.000	0.000	0.044	0.000	0.000	0.000	0.000	0.136	0.488
	27	シャワーかどうか	0.017	0.000	0.000	0.028	0.015	0.000	0.083	0.065	0.012	0.011	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.110
拒否時の状態	28	入浴拒否の開始時期	0.010	0.007	0.000	0.003	0.006	0.056	0.000	0.012	0.009	0.000	0.000	0.000	0.046	0.021	0.028	0.000	0.032
入浴習慣	29	入浴習慣（自宅）	0.074	0.016	0.000	0.029	0.546	0.021	0.069	0.000	0.000	0.000	0.028	0.000	0.160	0.027	0.092	0.159	0.000
	30	浴室環境（自宅）	0.026	0.004	0.000	0.014	0.173	0.022	0.047	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.066	0.056	0.000	0.000
	31	生活歴（幼少期から）	0.062	0.011	0.008	0.028	0.392	0.089	0.000	0.000	0.012	0.099	0.000	0.258	0.029	0.000	0.000	0.000	0.003
	32	過去の入浴体験	0.052	0.028	0.020	0.041	0.242	0.042	0.046	0.018	0.023	0.000	0.000	0.000	0.031	0.282	0.000	0.066	0.000
人間関係	33	他の入居者との関係	0.052	0.056	0.068	0.017	0.007	0.172	0.000	0.091	0.034	0.066	0.049	0.000	0.000	0.114	0.162	0.000	0.000
	34	スタッフとの関係	0.278	0.536	0.620	0.001	0.107	0.075	0.036	0.320	0.177	0.277	0.155	0.212	0.003	0.293	0.185	0.035	0.492
	35	家族関係	0.036	0.011	0.026	0.020	0.094	0.164	0.000	0.034	0.000	0.000	0.001	0.034	0.000	0.084	0.001	0.037	0.031
介護者の対応	36	スタッフの声かけ内容・見守り方	0.393	0.711	0.619	0.199	0.136	0.035	0.128	0.583	0.319	0.373	0.503	0.354	0.400	0.059	0.047	0.061	0.819
	37	介護者の性別	0.078	0.189	0.134	0.001	0.036	0.000	0.012	0.000	0.033	0.044	0.141	0.040	0.000	0.086	0.122	0.000	0.179
	38	介助者の人数	0.022	0.086	0.000	0.004	0.005	0.000	0.000	0.000	0.013	0.054	0.015	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
その他	39	性格	0.117	0.069	0.135	0.095	0.075	0.083	0.020	0.140	0.078	0.000	0.995	0.072	0.000	0.414	0.212	0.001	0.102
	40	性別	0.015	0.022	0.001	0.000	0.012	0.000	0.004	0.000	0.011	0.000	0.256	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	41	下着の状態	0.028	0.007	0.000	0.006	0.000	0.042	0.007	0.143	0.333	0.000	0.000	0.037	0.000	0.000	0.000	0.000	0.102
	42	趣味	0.013	0.003	0.012	0.000	0.004	0.016	0.011	0.046	0.000	0.000	0.021	0.167	0.014	0.000	0.000	0.000	0.000
	43	着替えのストック	0.014	0.001	0.001	0.000	0.000	0.023	0.000	0.124	0.038	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.026	0.000	0.271
		（参考）平均項目数 →	2.7	2.1	3.6	2.5	2.8	1.7	2.2	2.8	3.7	2.9	3.3	3.5	3.3	3.8	3.5	4.0	4.4
		該当事例数 →	(2735)	(590)	(374)	(357)	(254)	(214)	(210)	(151)	(97)	(88)	(86)	(72)	(69)	(51)	(45)	(39)	(36)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－７－５－３）潜在クラスモデル評価（入浴拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1（クラス数1）	43499.1	43244.8	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2（クラス数2）	42923.6	42409.1	0.100	0.641	0.575	0.623
モデル3（クラス数3）	42731.6	41956.9	0.202	0.666	0.543	0.564
モデル4（クラス数4）	42671.7	41636.8	0.206	0.665	0.580	0.576
モデル5（クラス数5）	42713.4	41418.3	0.204	0.657	0.610	0.586
モデル6（クラス数6）	42841.7	41286.4	0.225	0.668	0.607	0.580
モデル7（クラス数7）	43018.3	41202.7	0.249	0.672	0.620	0.570
モデル8（クラス数8）	43218.8	41143.0	0.258	0.664	0.621	0.563
モデル9（クラス数9）	43452.2	41116.2	0.261	0.666	0.637	0.570
モデル 10（クラス数 10）	43727.0	41130.8	0.281	0.642	0.623	0.551
モデル 11（クラス数 11）	43979.0	41122.6	0.273	0.666	0.631	0.556
モデル 12（クラス数 12）	44212.8	41096.2	0.253	0.680	0.671	0.592
モデル 13（クラス数 13）	44516.6	41139.8	0.249	0.695	0.677	0.594
モデル 14（クラス数 14）	44806.5	41169.5	0.265	0.659	0.667	0.573
モデル 15（クラス数 15）	45052.4	41155.1	0.260	0.695	0.680	0.585
モデル 16（クラス数 16）	45325.1	41167.6	0.245	0.687	0.709	0.611
モデル 17（クラス数 17）	45662.4	41244.7	0.265	0.673	0.690	0.587
モデル 18（クラス数 18）	45886.2	41208.3	0.277	0.679	0.701	0.578

（表２－７－５－４）入浴拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

【比率】（縦100）

区分	code	解決方法	合計	情報の組み合わせパターン															
				パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16
				「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を主として他に分散して構成された平均2.1項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」、「スタッフとの関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」の3項目も多く、「興味・関心」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」と「興味・関心」を含めた"心理面"にウェイトを置いて構成された平均2.5項目の組み合わせ	「入浴習慣(自宅)」を主として、「生活歴(幼少期から)」、「過去の入浴体験」、「入浴のこだわり」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	「気分」、「興味・関心」、「他の入居者との関係」、「家族関係」他に分散して構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	「湯温」、「浴室の温度」、「入浴のこだわり」など"入浴スタイル"にウェイトを置いて構成された平均2.2項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフとの関係」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	「失禁有無」を共通ベースとして、「清潔度」、「排泄状況」、「下着の状態」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」、「言語理解」、「認知機能」、「スタッフとの関係」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	「性格」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「性別」、「認知機能」などで構成された平均3.3項目の組み合わせ	「興味・関心」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「生活歴（幼少期から）」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	「気分」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「入浴時間帯」などで構成された平均3.3項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「性格」、「スタッフとの関係」、「過去の入浴体験」、「認知機能」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	「入浴時間帯」と「本人の気持ち、意志」を主として、「気分」、「入浴のこだわり」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	「現病・既往歴」を共通ベースとして、「バイタル」、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「認知機能」などで構成された平均4.0項目と多様な組み合わせ	「気分」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「湯温」、「浴室の温度」、「着替えのストック」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均4.4項目と最多の組み合わせ
		延べ方法件数 →	2,735	590	375	357	254	214	210	151	97	88	86	72	70	51	45	39	36
入浴時間の調整	101	過去の入浴時間	2.0	0.5	0.9	3.1	6.7	0.7	1.4	1.1	1.2	0.2	0.4	0.4	7.5	0.5	13.2	2.9	0.1
	102	本人の状態に応じた時間	3.3	0.6	2.3	6.0	6.4	1.9	2.1	2.4	1.4	2.4	1.0	2.8	8.5	3.8	21.3	5.4	5.8
入浴前の工夫	201	運動の実施	1.0	0.6	0.6	0.7	0.3	3.2	0.2	1.2	3.8	1.1	0.6	1.2	1.6	0.2	1.7	0.1	0.2
	202	入浴前コミュニケーション	6.7	6.0	12.0	8.2	3.9	2.5	0.4	8.1	1.5	8.1	4.3	14.7	8.4	10.0	8.0	5.8	11.8
	203	入浴前のくつろぎ	1.9	1.7	2.8	3.3	1.3	2.3	1.0	1.1	0.1	1.6	0.3	1.5	3.4	0.8	2.7	0.1	0.3
	204	空腹を満たす	1.0	0.5	1.1	1.5	0.3	4.0	0.1	0.2	0.0	0.3	0.0	3.2	3.5	1.4	0.1	0.0	0.3
	205	趣味活動を実施した	2.2	1.4	3.4	2.8	0.5	3.1	0.3	1.0	2.0	1.4	1.0	8.8	6.8	2.8	2.0	0.7	1.0
	206	家族から入浴情報を得る	2.4	0.4	0.1	1.4	15.3	5.7	0.5	1.1	0.2	0.3	0.0	0.1	1.7	0.2	1.4	0.9	0.0
誘導の工夫	301	暖まるからと声かけ	3.1	2.3	3.0	3.5	1.5	3.4	6.5	2.5	0.4	3.6	1.6	4.4	2.9	1.0	2.5	11.0	6.0
	302	トイレ誘導時に一緒に	2.7	1.8	1.8	1.0	0.7	1.7	0.2	5.2	33.6	1.6	1.0	1.3	5.5	0.1	0.9	0.1	0.6
	303	本人の状態に応じた	2.2	1.6	2.9	2.7	1.1	1.5	0.7	0.9	1.0	2.6	1.6	6.9	7.1	2.5	3.0	2.7	6.1
	304	一緒に入りましょうと誘導	1.2	2.6	1.5	0.6	0.3	0.6	0.2	0.9	0.0	1.6	3.9	2.0	0.2	0.2	0.1	0.0	0.1
	305	繰り返し誘導	4.4	5.6	5.8	5.0	1.6	2.3	1.0	3.1	3.3	5.8	6.5	7.5	6.3	4.4	8.2	2.8	5.1
	306	薬を塗るため、医師の指示	1.8	0.6	0.8	1.8	0.1	6.2	0.1	5.8	5.0	2.7	1.3	4.6	0.4	2.8	0.1	2.9	0.1
	307	浴室へ誘導し認識を促す	1.9	1.9	2.0	2.9	0.8	0.1	0.8	4.5	1.1	6.2	0.7	1.4	0.5	1.0	0.3	0.1	5.7
	308	呼んでいると誘導	1.6	2.7	2.5	0.8	0.3	1.1	0.6	1.2	0.1	3.6	1.3	3.8	1.0	1.0	2.1	0.0	0.5
	309	一緒に行って誘導	1.5	2.1	1.9	0.9	0.3	1.5	0.3	2.5	0.2	4.1	0.5	4.6	1.6	0.0	0.1	0.1	2.7
	310	家族の面会・依頼	1.6	0.6	0.9	2.3	3.5	6.9	0.2	1.5	0.0	0.3	0.5	0.3	0.6	2.7	0.1	0.9	0.3
	311	他者から誘導	1.8	1.6	2.3	1.2	0.2	8.3	0.3	0.8	0.1	1.7	1.2	3.5	3.1	0.4	0.8	0.0	0.1
	312	直前に誘導、一番風呂を提示	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	2.8
	313	受診のため	0.2	0.2	0.2	0.4	0.3	0.3	0.0	0.1	0.0	0.1	0.5	0.9	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
	314	体重測定のため	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	315	身だしなみの重要性	0.1	0.0	0.1	0.5	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.5	0.1	0.0	0.0
	316	予約、約束	0.1	0.0	0.1	0.7	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0
	317	わかりやすい声かけ	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.8	1.8	0.0	0.0
	319	しつこく誘わない	0.2	0.0	0.3	0.2	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.4	0.1	1.5	0.0	0.0	0.0
	320	下着が汚れているため	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	390	その他	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	2.5	0.3
入浴方法の工夫	401	目や耳などを保護	1.6	0.9	0.8	2.5	5.2	0.4	2.3	1.5	0.1	1.3	1.0	0.0	0.3	1.7	0.2	2.7	0.3
	402	身体の一部から	2.2	1.1	1.8	3.0	2.4	1.3	3.4	3.3	2.8	3.1	1.5	1.8	0.7	4.3	0.5	3.2	6.1
	403	段階的な誘導	1.5	0.8	1.4	1.4	1.0	2.1	0.6	2.0	6.6	0.5	0.7	1.4	1.1	0.7	0.5	2.7	7.1
	404	入浴中のコミュニケーションを増やす	6.0	8.1	8.5	6.1	3.5	4.2	3.1	6.8	1.3	7.0	5.3	10.1	1.2	4.5	1.1	7.8	5.7
	405	笑顔でゆっくり	5.7	10.1	9.4	4.5	0.6	2.7	1.7	4.8	1.0	7.8	10.3	2.7	3.1	4.7	0.6	0.8	6.6
	406	お礼やねぎらい	4.6	8.1	6.1	4.4	1.6	2.9	1.1	3.5	0.2	4.8	12.4	1.7	2.8	1.5	0.7	0.2	4.2
	407	湯桶の使用	0.8	0.3	0.5	1.6	1.5	1.0	1.9	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.3	0.3	0.2	0.0	0.4
	408	徐々にお湯をかける	1.9	0.7	1.4	2.4	1.6	1.3	7.7	1.8	1.1	1.7	0.2	0.0	1.1	0.6	0.3	3.0	5.6
	409	見守りながら本人の自由に	0.2	0.0	0.1	0.1	0.9	0.1	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.1	0.0	0.0
	411	シャワーのみ	0.1	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	490	その他	0.1	0.0	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入浴メンバーの調整	501	家族と一緒に	0.7	0.2	0.3	0.3	2.1	3.3	0.0	0.6	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	3.2	0.0	0.1	0.3
	502	仲の良い人と一緒に	1.5	1.6	1.6	1.1	0.5	5.5	0.0	1.7	0.1	0.7	1.8	0.0	1.4	2.5	5.1	0.1	0.0
	503	一人で	2.3	1.7	1.9	2.6	4.9	1.7	1.2	3.2	1.9	2.1	3.8	0.1	1.0	6.2	5.9	0.1	0.3
	504	職員と一緒に	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	590	その他	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入浴環境の調整	601	入浴習慣を取り入れる	1.2	0.2	0.1	0.5	7.1	2.3	1.6	0.3	0.0	0.1	0.3	0.4	0.5	0.3	0.4	0.1	0.0
	602	浴室室温を調整	3.7	0.6	0.2	3.0	5.0	1.8	24.9	2.6	0.1	1.8	0.5	0.5	0.6	3.8	0.5	13.0	5.7
	603	湯温の調整	4.2	0.6	0.3	3.6	6.7	1.9	30.7	1.4	0.3	0.3	1.2	0.4	0.8	1.2	2.3	9.4	5.1
	604	入浴剤や風呂備品の工夫	0.1	0.0	0.1	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	605	銭湯や温泉	0.2	0.2	0.3	0.2	0.6	0.1	0.1	0.0	0.1	1.1	0.0	0.0	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0
	606	清潔の徹底	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	607	安全な環境づくり	0.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	0.1	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	609	明るさの調整	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	610	わかりやすい環境	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	611	音楽をかける	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
介助者の調整	701	同性介護	2.3	6.3	2.4	0.6	1.5	0.9	0.2	1.1	0.1	2.5	2.5	1.0	1.6	0.7	2.7	0.0	0.2
	702	信頼関係のあるスタッフ	1.8	4.2	2.6	0.5	0.9	0.3	0.1	1.9	1.1	1.8	2.2	0.0	0.8	0.9	0.5	0.2	0.1
	703	複数のスタッフ	2.6	6.9	2.0	0.9	0.6	0.9	0.3	2.0	1.2	3.9	5.9	0.0	0.6	2.2	0.3	0.0	0.9
	704	スタッフを分けた	1.8	5.5	1.4	0.0	0.2	1.0	0.1	0.7	1.1	0.6	5.1	1.6	1.6	0.3	0.3	0.0	0.5
	705	介助者の服装の工夫	1.1	2.1	1.6	0.5	0.3	0.4	0.1	0.7	0.0	2.7	2.0	0.5	0.3	1.9	0.2	0.0	0.6
その他	801	コンプレックスの確認	0.8	0.4	0.9	1.2	0.8	0.3	0.1	0.8	3.2	0.2	4.3	0.0	0.2	2.9	0.3	0.0	0.0
	802	下着の汚れが見られないように	2.1	1.5	0.9	1.1	0.4	3.3	0.2	7.1	16.9	1.7	2.4	0.0	1.1	1.6	0.2	0.0	0.1
	803	医師へ相談	0.4	0.0	0.0	0.8	0.2	0.1	0.0	0.2	1.2	1.3	0.5	0.0	1.3	0.3	0.2	4.5	0.0
	804	拒否の理由伺う	2.9	1.8	3.3	3.9	3.1	2.1	0.3	3.7	1.5	1.2	5.6	0.5	3.4	13.9	6.1	12.8	0.2
	890	その他	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－７－６－１）絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	何日も入浴しないで放っておく	拒否されているからそのままにして関わらない	入浴の時間だからと介護者側のペースで誘う	本人の意志や気分を考えず無理矢理入浴させる	間をあけずに、何度もしつこく誘う	いきなりお湯をかける	だまして浴室に連れて行く	感情的に対応する	自尊心を傷つける言葉（汚い、臭いなど）で説得しようとする	わざと服を濡らす、汚す等して入浴させる	その他
実数	318	281	281	244	292	259	291	156	283	280	228	27
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	88.4	88.4	76.7	91.8	81.4	91.5	49.1	89.0	88.1	71.7	8.5

７．排泄介護拒否への成功事例調査

１）回答者属性

本調査の回答 318 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

（１）年齢

有効回答 307 件における回答者の平均年齢は、42.8 歳（SD13.1 歳）で最少年齢が 19 歳、最高年齢が 94 歳であった。（表２－８－１－１参照）

（２）性別割合

有効回答 310 件中、回答者の性別割合は男性が 51 件（16.5%）、女性が 259 件（83.5%）と女性の割合が多かった。（表２－８－１－２参照）

（３）職名の割合

有効回答 302 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 138 件（45.7%）、ケアマネージャーが 91 件（30.1%）、看護師が 24 件（7.9%）、相談員が 5 件（1.7%）となっている。（表２－８－１－３参照）

（４）役職の割合

有効回答 302 件中、回答者の役職の割合は管理者が 104 件（34.4%）、主任・リーダーが 78 件（25.8%）、施設長が 8 件（2.6%）、事務長が 1 件（0.3%）で、114 件（37.7%）が役職なしであった。（表２－８－１－４参照）

（５）資格の所有割合

有効回答 305 件中、回答者の資格の所有割合は介護福祉士が 191 件（62.6%）、ケアマネージャーが 123 件（40.3%）、ヘルパーが 116 件（38.0%）、看護師（准看護師）が 34 件（11.1%）、社会福祉士が 6 件（2.0%）であった。（表２－８－１－５参照）

（６）所属事業種の割合

有効回答 308 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 293 件（95.1%）、介護老人福祉施設が 3 件（1.0%）、介護老人福祉施設（ユニット型）と小規模多機能型通所介護事業が各 2 件（0.6%）であった。（表２－８－１－６参照）

（７）所属事業所での勤続年数

有効回答 313 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.6 年（SD3.5 年）で最少が 0.1 年、最高が 23.0 年であった。（表２－８－１－７参照）

（８）総介護経験年数

有効回答 308 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、9.0 年（SD5.7 年）で最少が 0.5 年、最高が 44.9 年であった。（表２－８－１－８参照）

２）排泄介護拒否の解決経験

本調査に回答を得た 318 件における排泄介護拒否の解決経験、解決した高齢者に

関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とＡＤＬ、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

（１）解決経験の有無

有効回答 313 件中、排泄介護拒否で解決経験があるのは 300 件（95.8％）であった。（表２－８－２－１参照）

（２）高齢者の状態

①　年齢

解決経験がある 300 件のうち有効回答 279 件における高齢者の平均年齢は、84.2 歳（SD6.3 歳）で最少年齢が 56 歳、最高年齢が 101 歳であった。その分布をみると、80 歳～84 歳が 89 件（31.9％）で最も多い。（表２－８－２－２参照）

②　性別

性別割合は、有効回答 295 件中、男性が 55 件（18.6％）、女性が 240 件（81.4％）と女性が多い。（表２－８－２－３参照）

③　認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 270 件中、アルツハイマー型が 146 件（54.1％）、脳血管疾患型が 69 件（25.6％）、前頭側頭型が 1 件（0.4％）、混合が 23 件（8.5％）であった。（表２－８－２－４参照）

④　身体機能の障害とＡＤＬ

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 300 件中、下肢が 88 件（29.3％）、上肢が 2 件（0.7％）、体幹が 5 件（1.7％）であり、残りの 205 件（68.3％）が機能障害なし（＝無回答）であった。（表２－８－２－５参照）

【食事介助】

食事介助は、有効回答 281 件中、自立が 189 件（67.3％）、一部介助が 80 件（28.5％）、全介助が 12 件（4.3％）であった。（表２－８－２－６参照）

【移動】

移動は、有効回答 236 件中、短距離歩行自立が 142 件（60.2％）、長距離歩行自立が 63 件（26.7％）、杖自立が 29 件（12.3％）であった。（表２－８－２－７参照）

【排泄】

排泄は、有効回答 257 件中、身体介助必要が 160 件（62.3％）、身体介助必要なしが 97 件（37.7％）であった。（表２－８－２－８参照）

【入浴】

入浴は、有効回答 288 件中、全介助が 86 件（29.9％）、洗身洗髪介助が 103 件（35.8％）、移動介助が 31 件（10.8％）、その他一部介助が 58 件（20.1％）で、自立が 10 件（3.5％）であった。（表２－８－２－９参照）

⑤　認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 296 件中、ランクⅠが 12 件（4.1%）、ランクⅡが 44 件（14.9%）、ランクⅢが 109 件（36.8%）、ランクⅣが 113 件（38.2%）、ランクⅤが 18 件（6.1%）であった。（表２－８－２－１０参照）

⑥　身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 288 件中、Ｊランクが 26 件（9.0%）、Ａランクが 196 件（68.1%）、Ｂランクが 58 件（20.1%）、Ｃランクが 8 件（2.8%）であった。（表２－８－２－１１参照）

⑦　高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、排泄介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析（注 1）を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、排泄介助で身体介助必要（98.5%）がほとんどで、身体障害の重症度でＡランク（56.8%）とＢランク（35.7%）が多く、認知症の重症度でランクⅢ（43.6%）とランクⅣ（47.0%）が多いことから、これを「介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 216 件のうち 117 件（54.2%）が該当する。

第 2 パターンは、排泄介助で身体介助必要なし（79.3%）が多く、身体障害の重症度でＪランク（16.4%）とＡランク（80.4%）が多く、認知症の重症度でランクⅡ（29.0%）とランクⅢ（36.3%）が多いことから、これを「自立、軽中程度重症度」と解釈した。このパターンには 99 件（45.8%）が該当する。（表２－８－２－１２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－８－２－１３参照）

（注 1）潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、排泄介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団（これをクラスと呼ぶ）を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル（クラス数）を評価する指標としてＡＩＣやＢＩＣなどの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である（注 2 参照）。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

3）解決前と解決後の変化

排泄介護拒否で解決経験がある 300 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出するとともに、解決前後の関連を分析し、高齢者パターンによる差異も確認した。

（1）解決前の状況

排泄介護拒否が解決される前の状況としては、有効回答 298 件中、「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」が 150 件（50.3%）、「パッドを交換しようとすると抵抗した」が 143 件（48.0%）、「トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された」が 113 件（37.9%）、「失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった」が 81 件（27.2%）、「オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった」が 68 件（22.8%）であった。（表２－８－３－１参照）

（2）解決後の状況

排泄介護拒否が解決された後の状況としては、有効回答 298 件中、「多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった」が 132 件（44.3%）、「パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった」が 87 件（29.2%）、「交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった」が 84 件（28.2%）、「声をかけると抵抗無く、交換できるようになった」が 67 件（22.5%）、「対応する職員によっては居室内では応じるようになった」が 66 件（22.1%）であった。（表２－８－３－２参照）

（3）解決前後の関連

解決前後それぞれの項目重複による影響排除のために、パターン化を経て分析することにした。

① 解決前のパターン

パターン化に用いた方法は潜在クラス分析である。

解決前は 6 パターンであり、第 1 は、「パッドを交換しようとすると抵抗した」（86.7%）、「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」（84.0%）、「トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された」（79.5%）、「失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった」（51.9%）、「オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった」（42.9%）と多様である。これに該当する事例が 58 件（29.4%）であり、“頑固に抵抗拒否”パターンと表示する。

第 2 は、「パッドを交換しようとすると抵抗した」（99.7%）に加えて、「トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された」（15.6%）、「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」（15.2%）、「オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった」（13.4%）などを多少伴っている。これに該当する事例が 43 件（21.8%）

であり、“パッドを交換しようとすると抵抗した”パターンと表示する。

第3は、「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」(99.8%) にほぼ集中している。これに該当する事例が39件 (19.8%) であり、“尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった”パターンと表示する。

第4は、「トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された」(99.5%) に加えて、「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」(15.6%) を多少伴っている。これに該当する事例が23件 (11.7%) であり、“トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された”パターンと表示する。

第5は、「失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった」(99.1%) に加えて、「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」(25.1%) を多少伴っている。これに該当する事例が19件 (9.6%) であり、“失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった”パターンと表示する。

第6は、「オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった」(99.1%) にほぼ集中している。これに該当する事例が15件 (7.6%) であり、“オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった”パターンと表示する。(表２－８－３－３参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－８－３－４参照)

② 解決後のパターン

解決後は5パターンであり、第1は、「多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった」(99.8%) にほぼ集中している。これに該当する事例が54件 (27.4%) であり、“多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった”パターンと表示する。

第2は、「交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった」(98.8%) に加えて、「多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった」(40.3%)、「パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった」(32.6%)、「対応する職員によっては居室内では応じるようになった」(26.3%)、「声をかけると抵抗無く、交換できるようになった」(14.3%) などを伴っている。これに該当する事例が43件 (21.8%) であり、“交換に応じるようになり、お礼のことばを言ってくれるようになった”パターンと表示する。

第3は、「パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった」(99.4%) に加えて、「多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった」(19.8%) や「声をかけると抵抗無く、交換できるようになった」(13.6%) などを多少伴っている。これに該当する事例が35件 (17.8%) であり、“パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるよ

うになった”パターンと表示する。

第４は、「対応する職員によっては居室内では応じるようになった」(98.9%)に加えて、「パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった」(34.3%）と「多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった」(31.1%）を伴っている。これに該当する事例が 32 件（16.2%）であり、“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”パターンと表示する。

第 5 は、「声をかけると抵抗無く、交換できるようになった」(99.2%）に加えて、「交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった」(24.7%）を多少伴っている。これに該当する事例が 32 件（16.2%）であり、“声をかけると抵抗無く、交換できるようになった”パターンと表示する。(表２－８－３－５参照)

なお潜在クラスモデルの評価に際しては､5 クラスと 6 クラスモデルの情報量規準のＡＩＣが僅差のため、クラスの解釈が最も妥当と判断される 5 クラスモデルを採用した。(表２－８－３－６参照)

③　解決前後のパターンの関連

各パターンへの帰属確率の相関によって解決前後の関連分析をした。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では 3 つの変化傾向がみられる。1 つめは、解決前パターン 1（頑固に抵抗拒否）から、解決後パターン 4（対応する職員によっては居室内では応じるようになった）へと変化する傾向であり、有意水準 1%で相関が認められる。

2 つめは、解決前パターン 4（トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された）から、解決後パターン 3（パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった）へと変化する傾向であり、有意水準 5%で相関が認められる。

3 つめは、解決前パターン 3（尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった）から、解決後パターン 1（多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった）へと変化する傾向であり、有意水準 5%で相関が認められる。(表２－８－３－７参照)

次に高齢者パターン 1（介助、中高程度重症度）に限定してみると、上記の全体的傾向はみられず、次の２つの傾向が認められる。1 つめは解決前パターン 1（頑固に抵抗拒否）から、解決後パターン 2（交換に応じるようになり、お礼のことばを言ってくれるようになった）へと変化する傾向であり、有意水準 1%で相関が認められる。

2 つめは、解決前パターン 2（パッドを交換しようとすると抵抗した）から、

解決後パターン１（多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった）へと変化する傾向であり、有意水準 5%で相関が認められる。（表２－８－３－８参照）

高齢者パターン２（自立、軽中程度重症度）に限定してみると、上記の全体的傾向でみられた 3 つの変化傾向がみられ、いずれも有意水準 1%で相関が認められる。（表２－８－３－９参照）

このように、解決前後の変化は高齢者パターンによって異なった変化傾向を示している。

（４）高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した（注 2）。

解決前の状況は、高齢者パターン２（自立、軽中程度重症度）では「尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった」が 60.7%で際立って多く、高齢者パターン１のそれ（45.4%）を上回っている。また高齢者パターン 2 では「オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった」が 15.3%で、高齢者パターン１のそれ（29.6%）を下回っている。（表２－８－３－１０参照）

解決後の状況についてはそれほど顕著な差はみられない。（表２－８－３－１１参照）

（注 2）潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス 1 に対して 0.97、クラス 2 に対して 0.03、（全クラスへの帰属確率合計は 1.00 である）となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

４）排泄介護拒否の解決方法

排泄介護拒否で解決経験がある 300 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

（１）解決方法の概況

排泄介護拒否を解決する時に行った方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 40 分類した。分類結果は、声かけの工夫に関するものが 18 分類、介助方法の工夫に関するものが 12 分類、介護者の工夫に関するものが 4 分類、環境調整に関するものが 3 分類、その他が 3 分類であった。

有効回答 298 件のなかで多くあがったものは、「排泄パターンに応じ」が 183 件

(61.4%)、「信頼関係のある職員が」が182件（61.1%)、「好きな話題で声かけ」が164件（55.0%)、「着替えの流れ」が118件（39.6%)、「トイレ時の下着交換」が97件（32.6%)、「本人だけに声かけ」が90件（30.2%)、「トイレの言葉禁止」が88件（29.5%)、「交換後の処理をすばやく」が73件（24.5%)、「安心できる場所で」が69件（23.2%)、「トイレに誘う」が68件（22.8%)、「事前に確認」が53件(17.8%)、「薬の塗布」が39件(13.1%)、「ケア方法の統一」が30件(10.1%)などであり、1事例あたり平均4.5項目であった。(表２－８－４－１参照)

（２）解決方法の組み合わせパターン

40分類のなかから1事例平均4.5の方法で構成されているのを実際の組み合わせに高い確率で近似するパターンを得るために潜在クラス分析を応用した（注3)。

その結果18の組み合わせパターンを得た。

第1パターンは平均5.8項目の組み合わせであり、「本人だけに声かけ」(99.8%)、「排泄パターンに応じ」(77.9%)、「信頼関係のある職員が」(80.7%）の 3 項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」(62.6%)、「交換後の処理をすばやく」(57.4%)、「安心できる場所で」(50.4%）の 3 項目も多く、「トイレ時の下着交換」(33.9%)、「好きな話題で声かけ」(34.1%)、「トイレの言葉禁止」(32.9%)などで構成されている。第1パターンの該当事例は34件（11.4%）である。

第2パターンは平均3.7項目の組み合わせであり、「トイレに誘う」(99.8%)を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」(67.1%)、「好きな話題で声かけ」(56.1%)、「トイレ時の下着交換」(37.5%)、「事前に確認」(31.7%）などで構成されている。第2パターンに該当する事例は30件（10.1%）である。

第 3 パターンは平均 3.1 項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(86.5%)を共通ベースとして、「着替えの流れ」(58.0%)、「事前に確認」(41.8%)、「信頼関係のある職員が」(49.4%)、「トイレに誘う」(26.9%）などで構成されている。第3パターンに該当する事例は30件（10.1%）である。

第 4 パターンは平均 4.7 項目の組み合わせであり、「信頼関係のある職員が」(99.9%)、「好きな話題で声かけ」(99.8%)、「着替えの流れ」(82.4%）の 3 項目を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」(63.2%)、「本人だけに声かけ」(45.0%）などで構成されている。第4パターンに該当する事例は29件（9.7%）である。

第5パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「トイレの言葉禁止」(99.6%)を共通ベースとして、「着替えの流れ」(62.6%)と「排泄パターンに応じ」(54.3%)も多く、「好きな話題で声かけ」(31.5%）などで構成されている。第 5 パターンに該当する事例は22件（7.4%）である。

第 6 パターンは平均 3.8 項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(99.9%)、「トイレ時の下着交換」(99.7%)、「信頼関係のある職員が」(80.3%)の 3 項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」(53.3%)、「安心できる場

所で」(21.6%) などで構成されている。第 6 パターンに該当する事例は 21 件 (7.0%) である。

第 7 パターンは平均 7.8 項目と多様な組み合わせであり、「好きな話題で声かけ」(94.2%) と「交換後の処理をすばやく」(92.7%) を共通ベースとして、「着替えの流れ」(76.0%)、「本人だけに声かけ」(73.0%)、「排泄パターンに応じ」(70.6%)、「事前に確認」(69.4%)、「信頼関係のある職員が」(68.3%)、「安心できる場所で」(52.3%) なども多く、「トイレに誘う」(41.7%)、「薬の塗布」(40.1%)、「トイレ時の下着交換」(41.8%) などで構成されている。第 7 パターンに該当する事例は 20 件 (6.7%) である。

第 8 パターンは平均 4.6 項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(99.6%)、「交換後の処理をすばやく」(99.2%)、「好きな話題で声かけ」(90.8%) の 3 項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」(68.1%)、「本人だけに声かけ」(25.5%) などで構成されている。第 8 パターンに該当する事例は 14 件 (4.7%) である。

第 9 パターンは平均 4.4 項目の組み合わせであり、「好きな話題で声かけ」(99.7%)、「トイレの言葉禁止」(99.4%)、「トイレ時の下着交換」(81.5%) の 3 項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」(63.0%)、「排泄パターンに応じ」(48.9%) などで構成されている。第 9 パターンに該当する事例は 13 件 (4.4%) である。

第 10 パターンは平均 4.5 項目の組み合わせであり、「本人だけに声かけ」(80.7%) を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」(74.9%)、「ケア方法の統一」(61.0%)、「トイレ時の下着交換」(60.5%)、「トイレの言葉禁止」(38.3%)、「交換後の処理をすばやく」(29.1%) などで構成される。第 10 パターンに該当する事例は 13 件 (4.4%) である。

第 11 パターンは平均 4.7 項目の組み合わせであり、「信頼関係のある職員が」(99.8%) と「薬の塗布」(99.4%) を共通ベースとして、「着替えの流れ」(58.3%)、「トイレ時の下着交換」(48.7%)、「排泄パターンに応じ」(41.8%)、「トイレの言葉禁止」(33.7%)、「安心できる場所で」(25.2%) などで構成される。第 11 パターンに該当する事例は 12 件 (4.0%) である。

第 12 パターンは平均 2.6 項目と最少の組み合わせであり、「トイレ時の下着交換」(55.4%) と「薬の塗布」(52.9%) を主として、「本人だけに声かけ」(34.5%)、「安心できる場所で」(18.4%)、「家族からの誘導」(17.3%) などで構成されている。第 12 パターンに該当する事例は 12 件 (4.0%) である。

第 13 パターンは平均 4.6 項目の組み合わせであり、「信頼関係のある職員が」(99.8%)、「事前に確認」(99.5%)、「好きな話題で声かけ」(99.3%)、「排泄パターンに応じ」(78.5%) の 4 項目を共通ベースとして、「トイレの言葉禁止」(34.9%) などで構成されている。第 13 パターンに該当する事例は 11 件 (3.7%)

である。

第 14 パターンは平均 5.1 項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(99.8%)、「トイレの言葉禁止」(80.0%)、「トイレ時の下着交換」(99.3%) の 3 項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」(71.0%)、「好きな話題で声かけ」(35.9%)、「交換後の処理をすばやく」(26.6%)、「ケア方法の統一」(26.5%) などで構成されている。第 14 パターンに該当する事例は 11 件 (3.7%) である。

第 15 パターンは平均 5.1 項目の組み合わせであり、「好きな話題で声かけ」(99.7%) を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」(71.1%)、「衛生・疾病に関する説明」(67.8%)、「薬の塗布」(59.7%) の 3 項目も多く、「安心できる場所で」(30.6%)、「交換後の処理をすばやく」(27.9%) などで構成されている。第 15 パターンに該当する事例は 10 件 (3.4%) である。

第 16 パターンは平均 3.8 項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(62.2%) と「トイレの言葉禁止」(50.9%) を主として、「好きな話題で会話しながら」(34.2%)、「ケア方法の統一」(25.0%) などで構成されている。第 16 パターンに該当する事例は 9 件 (3.0%) である。

第 17 パターンは平均 5.1 項目の組み合わせであり、「トイレに誘う」(98.9%) を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」(74.0%) と「排泄パターンに応じ」(51.2%) も多く、「安心できる場所で」(45.8%)、「着替えの流れ」(27.7%)、「事前に確認」(26.7%) などで構成されている。第 17 パターンに該当する事例は 4 件 (1.3%) である。

第 18 パターンは平均 7.9 項目と最多の組み合わせであり、「信頼関係のある職員が」(99.0%)、「排泄パターンに応じ」(99.0%)、「トイレ時の下着交換」(98.2%)、「交換後の処理をすばやく」(98.0%)、「好きな話題で会話しながら」(95.9%) の 5 項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」(50.9%)、「トイレに誘う」(50.0%)、「本人だけに声かけ」(48.8%)、「笑顔でやさしく」(48.0%)、「安心できる場所で」(48.6%)、「すばやく」(47.9%) などで構成されている。第 18 パターンに該当する事例は 2 件 (0.7%) である。(表２－８－４－２参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－８－４－３参照)

(注 3) 組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は (注 1) に示したような局所独立を仮定して異質な部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold” が算出する “Classification Statistics” (分類精度情報) の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。

（３）解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、18 の組み合わせパターンと解決後のパターンの相関を分析した後、参考までに個別状況との関連を確認する。

まず、解決方法の組み合わせ 18 パターンと解決後の 5 パターンの帰属確率による相関分析を行うと、3 通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 14 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 14 は、“「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の 3 項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「好きな話題で声かけ」、「交換後の処理をすばやく」、「ケア方法の統一」などで構成された平均 5.1 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 3 の“パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった”という結果に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 10 は、“「本人だけに声かけ」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「ケア方法の統一」、「トイレ時の下着交換」、「トイレの言葉禁止」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均 4.5 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 5 の“声をかけると抵抗無く、交換できるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 1 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 1 は、“「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「信頼関係のある職員が」の 3 項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「交換後の処理をすばやく」、「安心できる場所で」などで構成された平均 5.8 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 4 の“対応する職員によって居室内では応じるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。（表２－８－４－４参照）

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても、上記の傾向が確認できる。

解決方法パターン 14 では、解決後に“パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった”が 73.9%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。

解決方法パターン 10 では、解決後に“声をかけると抵抗無く、交換できるようになった”が 48.7%と多くなっており、これらは解決後パターン 5 の主要項目である。

解決方法パターン 1 では、解決後に“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”が 38.1%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。（表２－８－４－５参照）

（4）高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン 1（介助、中高程度重症度）に限定した相関分析を行うと、4 通りの相関が認められる（注 4）。

1 つめは、解決方法パターン 11 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 11 は、“「信頼関係のある職員が」と「薬の塗布」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「トイレ時の下着交換」、「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「安心できる場所で」などで構成された平均 4.7 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 4 の“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 17 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 17 は、“「トイレに誘う」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「安心できる場所で」、「着替えの流れ」、「事前に確認」などで構成された平均 5.1 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 2 の“交換に応じるようになり、お礼のことばを言ってくれるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 1%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

4 つめは、解決方法パターン 3 と解決後パターン 1 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 3 は、“「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「トイレに誘う」などで構成された平均 3.1 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 1 の“多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。（表２－８－４－６参照）

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン 11 では、解決後に“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”が 79.2%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 17 では、解決後に“交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった”が 93.6%と多くなっており、これは解決後パターン 2 の主要項目である。

解決方法パターン 10 では、解決後に“声をかけると抵抗無く、交換できるようになった”が 49.2%と多くなっており、これは解決後パターン 5 の主要項目である。

解決方法パターン 3 では、解決後に“多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった”が 71.7%と多くなっており、これは解決後パターン 1 の主要項目である。（表２－８－４－７参照）

また高齢者パターン 2（自立、軽中程度重症度）に限定した相関分析を行うと、5 通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 14 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 1%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

2 つめは、解決方法パターン 13 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 13 は、“「信頼関係のある職員が」、「事前に確認」、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」の 4 項目を共通ベースとして、「トイレの言葉禁止」などで構成された平均 4.6 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 4 の“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 1 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1 %で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

4 つめは、解決方法パターン 16 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 16 は、“「排泄パターンに応じ」と「トイレの言葉禁止」を主として、「好きな話題で会話しながら」、「ケア方法の統一」などで構成された平均 3.8 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 4 の“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

5 つめは、解決方法パターン 9 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 9 は、“「好きな話題で声かけ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の 3 項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」などで構成された平均 4.4 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 2 の“交換に応じるようになり、お礼のことばを言ってくれるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－８－４－８参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン 14 では、解決後に“パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった”が 79.6%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。

解決方法パターン 13 では、解決後に“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”が 99.8%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 1 では、解決後に“対応する職員によっては居室内では応じるようになった”が 48.6%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 16 では、解決後に“対応する職員によっては居室内では応じ

るようになった”が 65.3%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 9 では、解決後に“交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった”が 62.7%と多くなっており、これは解決後パターン 2 の主要項目である。(表２－８－４－９参照)

(注 4) 高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン 1 と 2 を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義（＝クラスター化）した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

5）排泄介護拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ 1,256 件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

（1）役立った情報の概況

有効回答 1,256 件のなかで多くあがったものは、「本人の気持ち、意志」が 584 件（46.5%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 513 件（40.8%)、「スタッフとの関係」が 347 件（27.6%)、「気分」が 335 件（26.7%)、「性格」が 230 件（18.3%)、「交換場所」が 174 件（13.9%)、「抵抗時の様子」が 160 件（12.7%)、「認知機能」が 150 件（11.9%)、「抵抗時の表情」が 139 件（11.1%）などであり、ひとつの解決方法当たり平均 3.3 項目あげられた。(表２－８－５－１参照)

（2）役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 17 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.3 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(63.9%) と「スタッフとの関係」(54.6%) を主として、「性格」(26.7%) 他に分散して構成されている。第 1 パターンの該当方法は延べ 256 件（20.4%）である。

第 2 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「気分」(99.7%) を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(68.0%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(58.0%)、「スタッフとの関係」(36.2%)、「性格」(28.5%) などで構成され

ている。第2パターンの該当方法は延べ145件（11.5%）である。

第3パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「興味・関心」（70.0%）と「本人の気持ち、意志」（59.7%）を主として、「気分」（44.3%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（30.2%）、「性格」（28.1%）などで構成されている。第3パターンの該当方法は延べ105件（8.4%）である。

第4パターンは平均3.9項目の組み合わせであり、「抵抗時の様子」（99.0%）を共通ベースとして、「抵抗時の表情」（53.1%）、「本人の気持ち、意志」（53.2%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（34.2%）、「気分」（28.8%）、「スタッフとの関係」（27.4%）などで構成されている。第4パターンの該当方法は延べ94件（7.5%）である。

第5パターンは平均3.7項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」（91.0%）と「スタッフの声かけ内容・見守り方」（78.2%）を共通ベースとして、「スタッフとの関係」（56.4%）などで構成されている。第5パターンの該当方法は延べ86件（6.8%）である。

第6パターンは平均3.7項目の組み合わせであり、「排泄間隔」（54.8%）と「本人の気持ち、意志」（50.1%）を主として、「排泄・排尿時間」（40.4%）、「尿意・排泄感覚」（30.0%）、「排泄頻度」（27.6%）、「排泄に関する生活習慣」（26.5%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（26.1%）などで構成されている。第6パターンの該当方法は延べ83件（6.6%）である。

第7パターンは平均2.2項目と最少の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」（99.8%）を共通ベースとして、「性格」（23.5%）、「認知機能」（20.3%）などで構成されている。第7パターンの該当方法は延べ70件（5.6%）である。

第8パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「交換場所」（99.5%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」（41.9%）、「気分」（31.8%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（31.9%）などで構成されている。第8パターンの該当方法は延べ67件（5.3%）である。

第9パターンは平均3.2項目の組み合わせであり、「皮膚疾患」（44.1%）、「失禁有無」（31.2%）、「排泄状況」（25.8%）、「パッドの必要性」（29.6%）などで構成されている。第9パターンの該当方法は延べ67件（5.3%）である。

第10パターンは平均3.8項目の組み合わせであり、「気分」（70.7%）を主として、「本人の気持ち、意志」（44.6%）、「排泄・排尿時間」（37.6%）、「排泄状況」（32.0%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（26.3%）、「水分状態」（25.6%）、などで構成されている。第10パターンの該当方法は延べ55件（4.4%）である。

第11パターンは平均4.2項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」（81.2%）を共通ベースとして、「排泄間隔」（52.5%）、「交換場所」（49.7%）、「気分」（43.3%）、「抵抗時の表情」（28.4%）、「抵抗時の様子」（25.1%）、「交換の時間帯」（25.1%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（25.3%）などで構成され

ている。第 11 パターンの該当方法は延べ 55 件（4.4%）である。

第 12 パターンは平均 3.1 項目の組み合わせであり、「認知機能」（43.0%）、「認知症の種類」（22.3%）、「見当識」（21.1%）、「尿意・排泄感覚」（28.9%）、「施設環境」（26.6%）などで構成されている。第 12 パターンの該当方法は延べ 40 件（3.2%）である。

第 13 パターンは平均 3.8 項目の組み合わせであり、「尿意・排泄感覚」（54.7%）を主として、「失禁有無」（45.3%）、「抵抗時の様子」（29.0%）、「抵抗時の表情」（28.2%）、「排泄場所」（28.8%）、「排泄・排尿時間」（27.0%）などで構成されている。第 13 パターンの該当方法は延べ 37 件（2.9%）である。

第 14 パターンは平均 4.1 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」（89.1%）を共通ベースとして、「認知機能」（72.3%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（45.9%）、「失禁有無」（33.1%）、「歩行・下肢機能」（29.1%）、「抵抗時の表情」（26.1%）などで構成されている。第 14 パターンの該当方法は延べ 32 件（2.5%）である。

第 15 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「交換場所」（64.0%）、「交換の時間帯」（52.8%）、「尿意・排泄感覚」（51.0%）の 3 項目を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（47.0%）などで構成されている。第 15 パターンの該当方法は延べ 31 件（2.5%）である。

第 16 パターンは平均 4.0 項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」（99.6%）を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（64.7%）、「気分」（44.3%）、「抵抗時の様子」（27.0%）などで構成されている。第 16 パターンの該当方法は延べ 23 件（1.8%）である。

第 17 パターンは平均 4.8 項目と最多の組み合わせであり、「介護者の性別」（98.6%）を共通ベースとして、「気分」（76.4%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（68.4%）、「便の状態」（58.6%）、「性格」（50.9%）、「認知症の種類」（39.3%）、「スタッフとの関係」（34.6%）などで構成されている。第 17 パターンの該当方法は延べ 10 件（0.8%）である。（表２－８－５－２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－８－５－３参照）

（３）情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第 10 パターン（「気分」を主として、「本人の気持ち、意志」、「排泄・排尿時間」、「排泄状況」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「水分状態」などで構成された平均 3.8 項目の組み合わせ）は、「排泄パターンに応じ」が 46.9%と多い。

第 6 パターン（「排泄間隔」と「本人の気持ち、意志」を主として、「排泄・排尿時間」、「尿意・排泄感覚」、「排泄頻度」、「排泄に関する生活習慣」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 3.7 項目の組み合わせ）は、「排泄パターンに応じ」が 38.9%、「トイレに誘う」が 16.8%と多い。

第 13 パターン（「尿意・排泄感覚」を主として、「失禁有無」、「抵抗時の様子」、「抵抗時の表情」、「排泄場所」、「排泄・排尿時間」などで構成された平均 3.8 項目の組み合わせ）は、「排泄パターンに応じ」が 35.9％と多い。

第 1 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を主として、「性格」などで構成された平均 2.3 項目の組み合わせ）は、「信頼関係のある職員が」が 35.2％、「好きな話題で声かけ」が 18.8％と多い。

第 3 パターン（「興味・関心」と「本人の気持ち、意志」を主として、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「性格」などで構成された平均 3.5 項目の組み合わせ）は、「好きな話題で声かけ」が 26.3％と多い。

第 9 パターン（「皮膚疾患」、「失禁有無」、「排泄状況」、「パッドの必要性」などで構成された平均 3.2 項目の組み合わせ）は、「薬の塗布」が 24.7％と多い。

第 8 パターン（「交換場所」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 3.5 項目の組み合わせ）は、「安心できる場所で」が 22.6％、「着替えの流れ」が 22.5％、「トイレ時の下着交換」が 15.7％と多い。

第 16 パターン（「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」、「抵抗時の様子」などで構成された平均 4.0 項目の組み合わせ）は、「着替えの流れ」が 21.9％と多い。

第 11 パターン（「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「排泄間隔」、「交換場所」、「気分」、「抵抗時の表情」、「抵抗時の様子」、「交換の時間帯」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 4.2 項目の組み合わせ）は、「排泄パターンに応じ」が 21.7％と多い。

第 14 パターン（「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「認知機能」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「失禁有無」、「歩行・下肢機能」、「抵抗時の表情」などで構成された平均 4.1 項目の組み合わせ）は、「トイレ時の下着交換」が 21.4％、「排泄パターンに応じ」が 20.1％と多い。

第 15 パターン（「交換場所」、「交換の時間帯」、「尿意・排泄感覚」の 3 項目を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 3.7 項目の組み合わせ）は、「トイレ時の下着交換」が 21.4％、「着替えの流れ」が 17.2％と多い。（表２－８－５－４参照）

６）絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答 286 件中、「声かけせず無言で行う」が 247 件（86.4％）、「放っておく」が 242 件（84.6％）、「無理やり交換する」が 237 件（82.9％）、「臭い、汚いからなどの声かけ」が 230 件（80.4％）、「無理にトイレに連れて行く」が 226 件（79.0％）、「何度もしつこく声をかける」が 215 件（75.2％）となっている。（表２－８－６－１参照）

（表２－８－１－１）回答者の年齢

	有効回答数	24 歳以下	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60 歳以上
実数	307	16	32	52	34	34	41	35	38	25
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	5.2	10.4	16.9	11.1	11.1	13.4	11.4	12.4	8.1

（平均年齢等）

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
307	42.8	13.1	19	94

（表２－８－１－２）回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	310	51	259
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	16.5	83.5

（表２－８－１－３）回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネージャー	看護師	その他
実数	302	138	5	91	24	72
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	45.7	1.7	30.1	7.9	23.8

（表２－８－１－４）回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	302	8	104	78	1	0	114
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	2.6	34.4	25.8	0.3	0.0	37.7

（表２－８－１－５）回答者の所有資格

	有効回答数	看護師（准看護師）	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネージャー	ヘルパー	その他
実数	305	34	191	6	123	116	28
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	11.1	62.6	2.0	40.3	38.0	9.2

（表２－８－１－６）回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設（ユニット型）	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	308	3	2	293	2	12
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	1.0	0.6	95.1	0.6	3.9

（表２－８－１－７）回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
313	4.6	3.5	0.1	23.0

（表２－８－１－８）回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
308	9.0	5.7	0.5	44.9

（表２－８－２－１）排泄介護拒否の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	313	300	13
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	95.8	4.2

（表２－８－２－２）高齢者の年齢

	解決経験のある 有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	279	12	43	89	78	57
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	4.3	15.4	31.9	28.0	20.4

（平均年齢等）

解決経験のある 有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
279	84.2	6.3	56	101

（表２－８－２－３）高齢者の性別割合

	解決経験のある 有効回答数	男	女
実数	295	55	240
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	18.6	81.4

（表２－８－２－４）認知症の原因疾患

	解決経験のある 有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	270	146	69	1	23	31
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	54.1	25.6	0.4	8.5	11.5

（表２－８－２－５）機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答 (=なし)
実数	300	0	2	88	5	205
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.0	0.7	29.3	1.7	68.3

（表２－８－２－６）食事介助

	解決経験のある 有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	281	12	80	189
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	4.3	28.5	67.3

（表２－８－２－７）移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他（回答者追記）
実数	236	29	142	63	2
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	12.3	60.2	26.7	0.8

（表２－８－２－８）排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし
実数	257	160	97
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	62.3	37.7

（表２－８－２－９）入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	288	86	31	103	58	10
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	29.9	10.8	35.8	20.1	3.5

（表２－８－２－１０）認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	Ⅰ 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	Ⅱ 日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	Ⅲ ランクⅡの症状がときどき見られ、介護を必要とする（徘徊、失禁など）	Ⅳ ランクⅡの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	Ⅴ 著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	296	12	44	109	113	18
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	4.1	14.9	36.8	38.2	6.1

（表２－８－２－１１）身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J 何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	A 屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	B 屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベット上での生活主体で座位を保つ	C 一日中ベットで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	288	26	196	58	8
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	9.0	68.1	20.1	2.8

（表２－８－２－１２）排泄介護拒否高齢者のパターン
（潜在クラス２クラスモデルのプロフィール）

(n=216)

項目	カテゴリー	全体	パターン1 介助、中高程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度
	サイズ	1.000	0.543	0.457
性別	男	0.190	0.224	0.149
	女	0.810	0.776	0.851
排泄介助	身体介助必要	0.630	0.985	0.207
	身体介助必要なし	0.370	0.015	0.793
認知症の重症度	Ⅰ	0.032	0.000	0.071
	Ⅱ	0.144	0.021	0.290
	Ⅲ	0.403	0.436	0.363
	Ⅳ	0.366	0.470	0.242
	Ⅴ	0.056	0.073	0.035
身体障害の重症度	J	0.093	0.032	0.164
	A	0.676	0.568	0.804
	B	0.208	0.357	0.032
	C	0.023	0.043	0.000
（参考）該当事例数 →		(216)	(117)	(99)

（表２－８－２－１３）潜在クラスモデル評価（排泄介護拒否高齢者パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	1486.3	1456.0
モデル2（クラス数2）	1466.5	1402.4
モデル3（クラス数3）	1509.2	1411.4
モデル4（クラス数4）	1550.1	1418.5

（表２－８－３－１）解決前の状況

	解決経験のある 有効回答数	尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった	パッドを交換しようとすると抵抗した	トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された	オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった	失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった	その他
実数	298	150	143	113	68	81	21
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	50.3	48.0	37.9	22.8	27.2	7.0

（表２－８－３－２）解決後の状況

	解決経験のある 有効回答数	多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	対応する職員によっては居室内では応じるようになった	パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	声をかけると抵抗無く、交換できるようになった	交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった	その他
実数	298	132	66	87	67	84	28
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	44.3	22.1	29.2	22.5	28.2	9.4

（表２－８－３－３）排泄介護拒否の解決前のパターン
（潜在クラス６クラスモデルのプロフィール）

(n=197)

状況	全体	パターン1 頑固に抵抗拒否	パターン2 パッドを交換しようとすると抵抗した	パターン3 尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった	パターン4 トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された	パターン5 失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった	パターン6 オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった
サイズ	1.000	0.295	0.217	0.200	0.116	0.094	0.077
尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった	0.523	0.840	0.152	0.998	0.156	0.251	0.006
パッドを交換しようとすると抵抗した	0.487	0.867	0.997	0.040	0.031	0.006	0.038
トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された	0.401	0.795	0.156	0.063	0.995	0.004	0.054
オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった	0.234	0.429	0.134	0.001	0.008	0.002	0.991
失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった	0.254	0.519	0.002	0.031	0.002	0.991	0.003
（参考）平均項目数 →	1.9	3.4	1.4	1.1	1.2	1.3	1.1
該当事例数 →	(197)	(58)	(43)	(39)	(23)	(19)	(15)

（表２－８－３－４）潜在クラスモデル評価（排泄介護拒否の解決前パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1274.7	1258.3
モデル2(クラス数2)	1275.9	1239.7
モデル3(クラス数3)	1276.6	1220.7
モデル4(クラス数4)	1276.2	1200.7
モデル5(クラス数5)	1286.8	1191.6
モデル6(クラス数6)	1282.8	1167.9
モデル7(クラス数7)	1305.1	1170.5
モデル8(クラス数8)	1332.7	1178.4

（表２－８－３－５）排泄介護拒否の解決後のパターン
（潜在クラス５クラスモデルのプロフィール）

(n=197)

状況	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	交換に応じるようになり、お礼のことばを言ってくれるようになった	パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	対応する職員によっては居室内では応じるようになった	声をかけると抵抗無く、交換できるようになった
サイズ	1.000	0.275	0.221	0.180	0.164	0.160
多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	0.462	0.998	0.403	0.198	0.311	0.075
対応する職員によっては居室内では応じるようになった	0.228	0.006	0.263	0.008	0.989	0.031
パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	0.315	0.022	0.326	0.994	0.343	0.009
声をかけると抵抗無く、交換できるようになった	0.223	0.028	0.143	0.136	0.004	0.992
交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった	0.284	0.070	0.988	0.021	0.023	0.247
（参考）平均項目数 →	1.5	1.1	2.1	1.4	1.7	1.4
該当事例数 →	(197)	(54)	(43)	(35)	(32)	(32)

（表２－８－３－６）潜在クラスモデル評価（排泄介護拒否の解決後パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1199.9	1183.5
モデル2(クラス数2)	1194.5	1158.3
モデル3(クラス数3)	1184.9	1129.1
モデル4(クラス数4)	1196.2	1120.7
モデル5(クラス数5)	1203.5	1108.3
モデル6(クラス数6)	1220.8	1105.9
モデル7(クラス数7)	1251.5	1116.8
モデル8(クラス数8)	1282.5	1128.2

（表２－８－３－７）解決前後のパターンの相関行列
（全体）

(n=197)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	交換に応じるようになり、お礼のことばを言ってくれるようになった	パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	対応する職員によっては居室内では応じるようになった	声をかけると抵抗無く、交換できるようになった
解決前のパターン	パターン1	頑固に抵抗拒否	-0.137	0.127	-0.049	0.218 **	-0.147 *
	パターン2	パッドを交換しようとすると抵抗した	0.093	0.038	-0.042	-0.180 *	0.078
	パターン3	尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった	0.140 *	-0.081	-0.033	-0.056	0.012
	パターン4	トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された	-0.057	-0.056	0.179 *	-0.078	0.020
	パターン5	失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった	-0.063	-0.016	-0.034	0.101	0.024
	パターン6	オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった	0.015	-0.054	0.014	-0.025	0.053

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－８－３－８）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン１“介助、中高程度重症度”の場合）

(n=118)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	交換に応じるようになり、お礼のことばを言ってくれるようになった	パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	対応する職員によっては居室内では応じるようになった	声をかけると抵抗無く、交換できるようになった
解決前のパターン	パターン1	頑固に抵抗拒否	-0.135	0.278 **	-0.105	0.155	-0.171
	パターン2	パッドを交換しようとすると抵抗した	0.184 *	0.016	-0.020	-0.226 *	0.008
	パターン3	尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった	-0.009	-0.135	0.045	0.057	0.050
	パターン4	トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された	-0.017	-0.011	0.059	-0.129	0.092
	パターン5	失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった	-0.095	-0.154	0.011	0.169	0.095
	パターン6	オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった	0.058	-0.118	0.051	0.007	-0.002

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－８－３－９）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン２“自立、軽中程度重症度”の場合）

(n=79)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	交換に応じるようになり、お礼のことばを言ってくれるようになった	パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	対応する職員によっては居室内では応じるようになった	声をかけると抵抗無く、交換できるようになった
解決前のパターン	パターン1	頑固に抵抗拒否	−0.140	−0.117	0.043	0.320 **	−0.111
	パターン2	パッドを交換しようとすると抵抗した	−0.056	0.073	−0.078	−0.104	0.209
	パターン3	尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった	0.313 **	−0.020	−0.131	−0.198	−0.006
	パターン4	トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された	−0.124	−0.135	0.394 **	0.006	−0.140
	パターン5	失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった	−0.032	0.149	−0.090	0.019	−0.055
	パターン6	オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった	−0.094	0.115	−0.086	−0.084	0.196

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－８－３－１０）高齢者パターン別にみた解決前の状況

【実数】

	全体	パターン1 介助、中高程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度
有効回答数	197	108	89
尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった	103	49	54
パッドを交換しようとすると抵抗した	96	56	40
トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された	79	45	34
オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった	46	32	14
失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった	50	27	23

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 介助、中高程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0
尿取りパッドへの失禁やズボンの汚染があり、尿臭強く、更衣への促しに対する拒否が強かった	52.3	45.4	60.7
パッドを交換しようとすると抵抗した	48.7	51.9	44.9
トイレに誘うと「何を言っているんだ」と拒否された	40.1	41.7	38.2
オムツ交換をしようとすると、つねる、叩くなど暴力行為があった	23.4	29.6	15.7
失禁しズボンにしみ出して、尿臭がひどかった	25.4	25.0	25.8

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－８－３－１１）高齢者パターン別にみた解決後の状況

【実数】

	全体	パターン1 介助、中高程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度
有効回答数	197	108	89
多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	91	49	42
対応する職員によっては居室内では応じるようになった	45	24	21
パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	62	33	29
声をかけると抵抗無く、交換できるようになった	44	27	17
交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった	56	31	25

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 介助、中高程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0
多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	46.2	45.4	47.2
対応する職員によっては居室内では応じるようになった	22.8	22.2	23.6
パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	31.5	30.6	32.6
声をかけると抵抗無く、交換できるようになった	22.3	25.0	19.1
交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった	28.4	28.7	28.1

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－８－４－１）排泄介護拒否の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
有効回答数			298	100.0
声かけの工夫	101	トイレの言葉禁止	88	29.5
	102	薬の塗布	39	13.1
	103	トイレに誘う	68	22.8
	104	排泄パターンに応じ	183	61.4
	105	本人だけに声かけ	90	30.2
	106	時間を置き繰り返す	4	1.3
	107	衛生・疾病に関する説明	12	4.0
	109	家族からの誘導	3	1.0
	110	短く、わかりやすく	1	0.3
	111	全員に声かけ	1	0.3
	112	職員と一緒にトイレへ	2	0.7
	113	好きな話題で声かけ	164	55.0
	114	検査のため	1	0.3
	115	医者の指示と声かけ	1	0.3
	116	衛生状態の確認	2	0.7
	117	入浴に誘導	1	0.3
	118	笑顔でやさしく	5	1.7
	190	その他	10	3.4
介助方法の工夫	201	トイレ時の下着交換	97	32.6
	202	事前に確認	53	17.8
	203	着替えの流れ	118	39.6
	204	交換後の処理をすばやく	73	24.5
	205	説明し、自分で	3	1.0
	206	すばやく	3	1.0
	207	室温、毛布等の工夫	2	0.7
	209	好きな話題で会話しながら	9	3.0
	210	洗濯の勧め	2	0.7
	211	定時交換	2	0.7
	212	気分の良い時に	3	1.0
	290	その他	8	2.7
介助者の工夫	301	信頼関係のある職員が	182	61.1
	302	ケア方法の統一	30	10.1
	303	介助者の変更	10	3.4
	390	その他	3	1.0
環境調整	401	安心できる場所で	69	23.2
	405	パッド、下着の保管方法	3	1.0
	490	その他	2	0.7
その他	502	医師からの指示	1	0.3
	503	家族の面会を増やす	1	0.3
	590	その他	5	1.7

（参考）平均記入項目数 → 4.5

（表２－８－４－２）排泄介護拒否の解決方法組み合わせパターン

（潜在クラス 18 クラスモデルのプロフィール）

（n=298）

区分	code	解決方法	全体	パターン1 「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「信頼関係のある職員が」の3項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「交換後の処理をすばやく」、「安心できる場所で」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	パターン2 「トイレに誘う」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「トイレ時の下着交換」、「事前に確認」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	パターン3 「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「トイレに誘う」などで構成された平均3.1項目の組み合わせ	パターン4 「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「着替えの流れ」の3項目を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	パターン5 「トイレの言葉禁止」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「排泄パターンに応じ」、「好きな話題で声かけ」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン6 「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「信頼関係のある職員が」の3項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「安心できる場所で」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	パターン7 「好きな話題で声かけ」と「交換後の処理をすばやく」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「安心できる場所で」などで構成された平均7.8項目と多様な組み合わせ	パターン8 「排泄パターンに応じ」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で声かけ」の3項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	パターン9 「好きな話題で声かけ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の3項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	パターン10 「本人だけに声かけ」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「ケア方法の統一」、「トイレ時の下着交換」、「トイレの言葉禁止」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	パターン11 「信頼関係のある職員が」と「薬の塗布」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「トイレ時の下着交換」、「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「安心できる場所で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	パターン12 「トイレ時の下着交換」と「薬の塗布」を主として、「本人だけに声かけ」などで構成された平均2.6項目と最少の組み合わせ	パターン13 「信頼関係のある職員が」、「事前に確認」、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」の4項目を共通ベースとして、「トイレの言葉禁止」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	パターン14 「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の3項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「好きな話題で声かけ」、「交換後の処理をすばやく」、「ケア方法の統一」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	パターン15 「好きな話題で声かけ」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「衛生・疾病に関する説明」、「薬の塗布」、「安心できる場所で」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	パターン16 「排泄パターンに応じ」と「トイレの言葉禁止」を主として、「好きな話題で会話」ながら」、「ケア方法の統一」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	パターン17 「トイレに誘う」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「安心できる場所で」、「着替えの流れ」、「事前に確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	パターン18 「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で会話」ながら」の5項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「トイレに誘う」などで構成された平均7.9項目と最多の組み合わせ
		サイズ	1.000	0.114	0.099	0.099	0.098	0.075	0.069	0.068	0.048	0.044	0.044	0.040	0.039	0.039	0.038	0.035	0.029	0.015	0.007
声かけの工夫	101	トイレの言葉禁止	0.295	0.329	0.001	0.001	0.239	0.996	0.002	0.279	0.073	0.994	0.383	0.337	0.002	0.349	0.800	0.093	0.509	0.005	0.008
	102	薬の塗布	0.131	0.001	0.068	0.000	0.000	0.001	0.000	0.401	0.072	0.001	0.087	0.994	0.529	0.041	0.179	0.597	0.001	0.002	0.004
	103	トイレに誘う	0.228	0.172	0.998	0.269	0.055	0.125	0.080	0.417	0.057	0.001	0.218	0.001	0.002	0.001	0.095	0.001	0.002	0.989	0.500
	104	排泄パターンに応じ	0.614	0.779	0.210	0.865	0.632	0.543	0.999	0.706	0.996	0.489	0.078	0.418	0.125	0.785	0.998	0.106	0.622	0.512	0.990
	105	本人だけに声かけ	0.302	0.998	0.001	0.040	0.450	0.001	0.069	0.730	0.255	0.247	0.807	0.084	0.345	0.173	0.003	0.002	0.002	0.004	0.488
	106	時間を置き繰り返す	0.013	0.000	0.000	0.000	0.034	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.089	0.000	0.228	0.000	0.000
	107	衛生・疾病に関する説明	0.040	0.030	0.000	0.101	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.089	0.678	0.000	0.001	0.001
	109	家族からの誘導	0.010	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.173	0.000	0.000	0.097	0.000	0.000	0.000
	110	短く、わかりやすく	0.003	0.000	0.000	0.034	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	111	全員に声かけ	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.044	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	112	職員と一緒にトイレへ	0.007	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.070	0.000	0.000	0.083	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	113	好きな話題で声かけ	0.550	0.341	0.561	0.005	0.998	0.315	0.533	0.942	0.908	0.997	0.749	0.181	0.003	0.993	0.359	0.997	0.120	0.740	0.509
	114	検査のため	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.076	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	115	医者の指示と声かけ	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.076	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	116	衛生状態の確認	0.007	0.000	0.000	0.000	0.068	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	117	入浴に誘導	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.083	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	118	笑顔でやさしく	0.017	0.000	0.000	0.000	0.000	0.044	0.000	0.000	0.000	0.000	0.151	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.227	0.480
	190	その他	0.034	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.049	0.000	0.000	0.000	0.000	0.173	0.087	0.000	0.000	0.683	0.000	0.001
介助方法の工夫	201	トイレ時の下着交換	0.326	0.339	0.375	0.001	0.001	0.002	0.997	0.418	0.002	0.815	0.605	0.487	0.554	0.002	0.993	0.002	0.003	0.242	0.982
	202	事前に確認	0.178	0.001	0.317	0.418	0.000	0.000	0.001	0.694	0.001	0.001	0.087	0.092	0.001	0.995	0.001	0.224	0.001	0.267	0.005
	203	着替えの流れ	0.396	0.626	0.249	0.580	0.824	0.626	0.002	0.760	0.002	0.017	0.002	0.583	0.002	0.002	0.710	0.212	0.003	0.277	0.011
	204	交換後の処理をすばやく	0.245	0.574	0.108	0.001	0.024	0.126	0.001	0.927	0.992	0.001	0.291	0.005	0.001	0.002	0.266	0.279	0.116	0.231	0.980
	205	説明し、自分で	0.010	0.000	0.000	0.000	0.000	0.044	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.228	0.000	0.000
	206	すばやく	0.010	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.075	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.097	0.000	0.000	0.479
	207	室温、毛布等の工夫	0.007	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.114	0.227	0.000
	209	好きな話題で会話」ながら	0.030	0.059	0.000	0.000	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.097	0.342	0.000	0.959
	210	洗濯の勧め	0.007	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.078	0.000	0.084	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	211	定時交換	0.007	0.000	0.034	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.087	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	212	気分の良い時に	0.010	0.000	0.000	0.000	0.034	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.087	0.000	0.000	0.097	0.000	0.000	0.000
	290	その他	0.027	0.088	0.000	0.000	0.068	0.045	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.083	0.086	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001
介助者の工夫	301	信頼関係のある職員が	0.611	0.807	0.671	0.494	0.999	0.237	0.803	0.683	0.681	0.630	0.003	0.998	0.105	0.998	0.099	0.711	0.235	0.010	0.990
	302	ケア方法の統一	0.101	0.077	0.000	0.000	0.100	0.076	0.000	0.274	0.138	0.000	0.610	0.001	0.001	0.001	0.265	0.193	0.250	0.001	0.003
	303	介助者の変更	0.034	0.000	0.035	0.066	0.000	0.000	0.000	0.000	0.070	0.075	0.000	0.000	0.000	0.000	0.089	0.194	0.228	0.001	0.001
	390	その他	0.010	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.070	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.453	0.000
環境調整	401	安心できる場所で	0.232	0.504	0.078	0.229	0.096	0.240	0.216	0.523	0.186	0.062	0.219	0.252	0.184	0.172	0.001	0.306	0.002	0.458	0.486
	405	パッド、下着の保管方法	0.010	0.031	0.000	0.000	0.033	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.114	0.000	0.000
	490	その他	0.007	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.089	0.097	0.000	0.000	0.000
その他	502	医師からの指示	0.003	0.030	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	503	家族の面会を増やす	0.003	0.030	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	590	その他	0.017	0.000	0.000	0.000	0.034	0.000	0.043	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.097	0.000	0.000	0.000	0.000	0.454	0.000
		（参考）平均項目数 →	4.5	5.8	3.7	3.1	4.7	3.5	3.8	7.8	4.6	4.4	4.5	4.7	2.6	4.6	5.1	5.1	3.8	5.1	7.9
		該当事例数 →	(298)	(34)	(30)	(30)	(29)	(22)	(21)	(20)	(14)	(13)	(13)	(12)	(12)	(11)	(11)	(10)	(9)	(4)	(2)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－８－４－３）　潜在クラスモデル評価（排泄介護拒否の解決方法組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル(クラス数)	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1(クラス数1)	5629.3	5481.4	0.000	0.000	1.000	1.000
モデル2(クラス数2)	5763.1	5463.6	0.091	0.622	0.588	0.624
モデル3(クラス数3)	5920.5	5469.5	0.100	0.824	0.724	0.751
モデル4(クラス数4)	6078.0	5475.3	0.082	0.871	0.822	0.824
モデル5(クラス数5)	6242.9	5488.7	0.114	0.836	0.795	0.778
モデル6(クラス数6)	6448.1	5542.3	0.130	0.833	0.796	0.769
モデル7(クラス数7)	6616.0	5558.6	0.098	0.873	0.844	0.818
モデル8(クラス数8)	6808.6	5599.6	0.115	0.855	0.826	0.791
モデル9(クラス数9)	7009.0	5648.5	0.113	0.864	0.851	0.812
モデル 10(クラス数 10)	7191.2	5679.1	0.103	0.876	0.872	0.828
モデル 11(クラス数 11)	7371.7	5708.1	0.106	0.876	0.862	0.818
モデル 12(クラス数 12)	7582.2	5766.9	0.105	0.880	0.877	0.828
モデル 13(クラス数 13)	7780.8	5814.0	0.079	0.905	0.910	0.871
モデル 14(クラス数 14)	7999.1	5880.7	0.082	0.907	0.905	0.862
モデル 15(クラス数 15)	8201.5	5931.4	0.079	0.909	0.911	0.872
モデル 16(クラス数 16)	8402.9	5981.3	0.067	0.924	0.923	0.887
モデル 17(クラス数 17)	8606.0	6032.8	0.080	0.908	0.916	0.872
モデル 18(クラス数 18)	8792.5	6067.7	0.055	0.938	0.938	0.906
モデル 19(クラス数 19)	9002.9	6126.5	0.064	0.927	0.934	0.895
モデル 20(クラス数 20)	9223.8	6195.9	0.084	0.904	0.918	0.867

（表２－８－４－４）　排泄介護拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（全体）

(n=197)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	交換に応じるようになり、おれのことばを言ってくれるようになった	パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	対応する職員によっては居室内では応じるようになった	声をかけると抵抗無く、交換できるようになった
パターン1	「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「信頼関係のある職員が」の３項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「交換後の処理をすばやく」、「安心できる場所で」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	-0.034	-0.021	-0.081	0.144 *	0.000
パターン2	「トイレに誘う」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「トイレ時の下着交換」、「事前に確認」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	0.131	-0.063	0.021	-0.053	-0.057
パターン3	「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「トイレに誘う」などで構成された平均3.1項目の組み合わせ	0.129	-0.060	-0.017	-0.078	0.009
パターン4	「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「着替えの流れ」の３項目を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	-0.019	0.049	-0.110	0.083	0.001
パターン5	「トイレの言葉禁止」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「排泄パターンに応じ」、「好きな話題で声かけ」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	0.039	-0.039	0.133	-0.066	-0.078
パターン6	「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「信頼関係のある職員が」の３項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「安心できる場所で」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	0.011	0.034	-0.085	0.012	0.027
パターン7	「好きな話題で声かけ」と「交換後の処理をすばやく」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「安心できる場所で」などで構成された平均7.8項目と多様な組み合わせ	-0.049	-0.021	0.140	0.003	-0.070
パターン8	「排泄パターンに応じ」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で声かけ」の３項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	0.030	0.014	0.119	-0.105	-0.069
パターン9	「好きな話題で声かけ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の３項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	-0.048	0.118	-0.086	0.017	0.004
パターン10	「本人だけに声かけ」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「ケア方法の統一」、「トイレ時の下着交換」、「トイレの言葉禁止」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	-0.025	0.022	-0.094	-0.095	0.206 **
パターン11	「信頼関係のある職員が」と「薬の塗布」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「トイレ時の下着交換」、「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「安心できる場所で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	-0.090	-0.012	-0.014	0.133	-0.001
パターン12	「トイレ時の下着交換」と「薬の塗布」を主として、「本人だけに声かけ」などで構成された平均2.6項目と最少の組み合わせ	-0.041	-0.042	-0.023	-0.005	0.126
パターン13	「信頼関係のある職員が」、「事前に確認」、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」の４項目を共通ベースとして、「トイレの言葉禁止」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	-0.120	-0.039	-0.022	0.135	0.071
パターン14	「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の３項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「好きな話題で声かけ」、「交換後の処理をすばやく」、「ケア方法の統一」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	0.005	-0.051	0.222 **	-0.086	-0.098
パターン15	「好きな話題で声かけ」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「衛生・疾病に関する説明」、「薬の塗布」、「安心できる場所で」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	0.020	0.127	-0.051	-0.088	-0.016
パターン16	「排泄パターンに応じ」と「トイレの言葉禁止」を主として、「好きな話題で会話しながら」、「ケア方法の統一」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	-0.095	-0.027	0.019	0.098	0.022
パターン17	「トイレに誘う」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「安心できる場所で」、「着替えの流れ」、「事前に確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	0.019	0.140	-0.064	-0.060	-0.044
パターン18	「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で会話しながら」の５項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「トイレに誘う」などで構成された平均7.9項目と最多の組み合わせ	0.053	-0.028	-0.050	-0.047	0.068

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－８－４－５）　排泄介護拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連（全体）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況				
			多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	対応する職員によっては居室内では応じるようになった	パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	声をかけると抵抗無く、交換できるようになった	交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった
全体		197	46.2	22.8	31.5	22.3	28.4
パターン1	「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「信頼関係のある職員が」の３項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「交換後の処理をすばやく」、「安心できる場所で」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	20	50.0	38.1	34.5	25.1	28.6
パターン2	「トイレに誘う」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「トイレ時の下着交換」、「事前に確認」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	23	53.7	12.0	30.9	12.9	22.7
パターン3	「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「トイレに誘う」などで構成された平均3.1項目の組み合わせ	17	63.4	12.8	22.5	31.0	24.2
パターン4	「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「着替えの流れ」の３項目を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	18	33.8	31.1	20.5	16.1	30.3
パターン5	「トイレの言葉禁止」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「排泄パターンに応じ」、「好きな話題で声かけ」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	13	58.4	15.1	44.6	15.0	25.6
パターン6	「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「信頼関係のある職員が」の３項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「安心できる場所で」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	15	44.0	23.6	26.7	19.1	29.4
パターン7	「好きな話題で声かけ」と「交換後の処理をすばやく」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「安心できる場所で」などで構成された平均7.8項目と多様な組み合わせ	15	40.0	20.3	50.3	8.7	25.3
パターン8	「排泄パターンに応じ」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で声かけ」の３項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	10	43.4	10.0	36.9	26.1	27.4
パターン9	「好きな話題で声かけ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の３項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	6	19.2	34.4	16.8	16.7	47.5
パターン10	「本人だけに声かけ」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「ケア方法の統一」、「トイレ時の下着交換」、「トイレの言葉禁止」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	8	35.0	13.9	3.6	48.7	26.7
パターン11	「信頼関係のある職員が」と「薬の塗布」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「トイレ時の下着交換」、「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「安心できる場所で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	11	37.0	44.6	27.8	27.6	27.6
パターン12	「トイレ時の下着交換」と「薬の塗布」を主として、「本人だけに声かけ」などで構成された平均2.6項目と最少の組み合わせ	7	29.8	17.3	28.6	40.1	29.4
パターン13	「信頼関係のある職員が」、「事前に確認」、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」の４項目を共通ベースとして、「トイレの言葉禁止」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	7	43.1	42.7	28.4	42.7	14.3
パターン14	「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の３項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「好きな話題で声かけ」、「交換後の処理をすばやく」、「ケア方法の統一」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	8	61.6	13.1	73.9	0.0	13.4
パターン15	「好きな話題で声かけ」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「衛生・疾病に関する説明」、「薬の塗布」、「安心できる場所で」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	8	49.2	11.7	21.7	13.3	50.3
パターン16	「排泄パターンに応じ」と「トイレの言葉禁止」を主として、「好きな話題で会話しながら」、「ケア方法の統一」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	5	40.7	37.0	40.4	37.4	37.1
パターン17	「トイレに誘う」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「安心できる場所で」、「着替えの流れ」、「事前に確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	3	63.5	30.9	31.6	34.9	60.0
パターン18	「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で会話しながら」の５項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「トイレに誘う」などで構成された平均7.9項目と最多の組み合わせ	2	49.2	0.0	1.6	49.2	50.7

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－８－４－６）　排泄介護拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン１“介助、中高程度重症度”の場合）

(n=118)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	交換に応じるようになり、お礼のことばを言ってくれるようになった	パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	対応する職員によっては居室内では応じるようになった	声をかけると抵抗無く、交換できるようになった
パターン1	「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「信頼関係のある職員が」の３項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「交換後の処理をすばやく」、「安心できる場所で」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	-0.021	0.050	0.007	-0.008	-0.028
パターン2	「トイレに誘う」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「トイレ時の下着交換」、「事前に確認」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	0.102	-0.079	0.124	-0.012	-0.150
パターン3	「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「トイレに誘う」などで構成された平均3.1項目の組み合わせ	0.193 *	-0.082	-0.096	-0.035	-0.005
パターン4	「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「着替えの流れ」の３項目を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	-0.071	-0.006	-0.115	0.064	0.144
パターン5	「トイレの言葉禁止」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「排泄パターンに応じ」、「好きな話題で声かけ」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	0.153	-0.075	0.119	-0.092	-0.132
パターン6	「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「信頼関係のある職員が」の３項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「安心できる場所で」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	-0.028	0.014	-0.064	0.071	0.016
パターン7	「好きな話題で声かけ」と「交換後の処理をすばやく」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「安心できる場所で」などで構成された平均7.8項目と多様な組み合わせ	-0.095	0.012	0.151	0.029	-0.084
パターン8	「排泄パターンに応じ」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で声かけ」の３項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	0.124	-0.051	0.065	-0.099	-0.061
パターン9	「好きな話題で声かけ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の３項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	-0.103	0.030	-0.073	0.097	0.068
パターン10	「本人だけに声かけ」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「ケア方法の統一」、「トイレ時の下着交換」、「トイレの言葉禁止」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	-0.027	0.023	-0.120	-0.114	0.236 **
パターン11	「信頼関係のある職員が」と「薬の塗布」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「トイレ時の下着交換」、「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「安心できる場所で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	-0.136	-0.013	-0.096	0.391 **	-0.103
パターン12	「トイレ時の下着交換」と「薬の塗布」を主として、「本人だけに声かけ」などで構成された平均2.6項目と最少の組み合わせ	-0.091	0.009	0.028	-0.064	0.126
パターン13	「信頼関係のある職員が」、「事前に確認」、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」の４項目を共通ベースとして、「トイレの言葉禁止」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	-0.131	-0.013	0.007	0.031	0.126
パターン14	「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の３項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「好きな話題で声かけ」、「交換後の処理をすばやく」、「ケア方法の統一」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	0.042	0.050	0.040	-0.061	-0.083
パターン15	「好きな話題で声かけ」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「衛生・疾病に関する説明」、「薬の塗布」、「安心できる場所で」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	0.070	0.080	-0.100	-0.081	0.017
パターン16	「排泄パターンに応じ」と「トイレの言葉禁止」を主として、「好きな話題で会話しながら」、「ケア方法の統一」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	-0.077	-0.054	0.134	-0.064	0.068
パターン17	「トイレに誘う」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「安心できる場所で」、「着替えの流れ」、「事前に確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	-0.075	0.265 **	-0.061	-0.060	-0.069
パターン18	「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で会話しながら」の５項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「トイレに誘う」などで構成された平均7.9項目と最多の組み合わせ	（事例なし）				

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン１の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－８－４－７）　排泄介護拒否の解決方法パターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン１“介助、中高程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況				
			多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	対応する職員によっては居室内では応じるようになった	パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	声をかけると抵抗無く、交換できるようになった	交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった
全体		118	44.1	22.9	30.5	25.4	28.8
パターン1	「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「信頼関係のある職員が」の３項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「交換後の処理をすばやく」、「安心できる場所で」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	10	44.1	27.3	46.4	29.1	44.4
パターン2	「トイレに誘う」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「トイレ時の下着交換」、「事前に確認」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	15	54.7	14.0	36.4	7.9	24.6
パターン3	「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「トイレに誘う」などで構成された平均3.1項目の組み合わせ	11	71.7	11.3	16.5	28.5	19.6
パターン4	「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「着替えの流れ」の３項目を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	8	24.4	24.9	2.7	36.8	25.4
パターン5	「トイレの言葉禁止」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「排泄パターンに応じ」、「好きな話題で声かけ」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	8	63.1	15.1	47.2	12.7	12.8
パターン6	「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「信頼関係のある職員が」の３項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「安心できる場所で」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	10	45.2	31.0	25.3	20.0	27.7
パターン7	「好きな話題で声かけ」と「交換後の処理をすばやく」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「安心できる場所で」などで構成された平均7.8項目と多様な組み合わせ	12	35.2	21.7	52.1	10.4	30.7
パターン8	「排泄パターンに応じ」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で声かけ」の３項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	6	55.8	15.6	27.9	26.5	15.8
パターン9	「好きな話題で声かけ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の３項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	3	1.2	65.1	33.8	33.7	31.6
パターン10	「本人だけに声かけ」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「ケア方法の統一」、「トイレ時の下着交換」、「トイレの言葉禁止」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	8	35.4	14.1	3.5	49.2	26.3
パターン11	「信頼関係のある職員が」と「薬の塗布」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「トイレ時の下着交換」、「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「安心できる場所で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	5	20.7	79.2	20.7	20.7	20.7
パターン12	「トイレ時の下着交換」と「薬の塗布」を主として、「本人だけに声かけ」などで構成された平均2.6項目と最少の組み合わせ	4	26.6	6.4	25.5	45.6	49.6
パターン13	「信頼関係のある職員が」、「事前に確認」、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」の４項目を共通ベースとして、「トイレの言葉禁止」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	5	20.4	19.9	19.9	59.7	19.9
パターン14	「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の３項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「好きな話題で声かけ」、「交換後の処理をすばやく」、「ケア方法の統一」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	3	97.1	32.6	64.5	0.1	35.2
パターン15	「好きな話題で声かけ」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「衛生・疾病に関する説明」、「薬の塗布」、「安心できる場所で」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	5	40.9	17.6	17.6	21.0	38.0
パターン16	「排泄パターンに応じ」と「トイレの言葉禁止」を主として、「好きな話題で会話しながら」、「ケア方法の統一」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	2	6.0	0.0	50.6	43.5	42.9
パターン17	「トイレに誘う」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「安心できる場所で」、「着替えの流れ」、「事前に確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	2	51.7	46.8	48.3	46.9	93.6
パターン18	「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で会話しながら」の５項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「トイレに誘う」などで構成された平均7.9項目と最多の組み合わせ	0	0	0	0	0	0

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－８－４－８）　排泄介護拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン２“自立、軽中程度重症度”の場合）

(n=79)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	交換に応じるようになり、おれのことばを言ってくれるようになった	パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	対応する職員によっては居室内では応じるようになった	声をかけると抵抗無く、交換できるようになった
パターン1	「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「信頼関係のある職員が」の３項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「交換後の処理をすばやく」、「安心できる場所で」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	-0.052	-0.107	-0.193	0.306 **	0.054
パターン2	「トイレに誘う」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「トイレ時の下着交換」、「事前に確認」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	0.184	-0.037	-0.160	-0.112	0.121
パターン3	「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「トイレに誘う」などで構成された平均3.1項目の組み合わせ	0.029	-0.025	0.112	-0.137	0.028
パターン4	「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「着替えの流れ」の３項目を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	0.036	0.115	-0.110	0.091	-0.171
パターン5	「トイレの言葉禁止」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「排泄パターンに応じ」、「好きな話題で声かけ」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	-0.129	0.016	0.153	-0.032	0.017
パターン6	「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「信頼関係のある職員が」の３項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「安心できる場所で」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	0.083	0.069	-0.121	-0.076	0.040
パターン7	「好きな話題で声かけ」と「交換後の処理をすばやく」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「安心できる場所で」などで構成された平均7.8項目と多様な組み合わせ	0.076	-0.120	0.137	-0.030	-0.083
パターン8	「排泄パターンに応じ」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で声かけ」の３項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	-0.112	0.114	0.203	-0.113	-0.088
パターン9	「好きな話題で声かけ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の３項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	0.018	0.229 *	-0.104	-0.078	-0.083
パターン10	「本人だけに声かけ」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「ケア方法の統一」、「トイレ時の下着交換」、「トイレの言葉禁止」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	（事例なし）				
パターン11	「信頼関係のある職員が」と「薬の塗布」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「トイレ時の下着交換」、「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「安心できる場所で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	-0.045	-0.010	0.076	-0.132	0.148
パターン12	「トイレ時の下着交換」と「薬の塗布」を主として、「本人だけに声かけ」などで構成された平均2.6項目と最少の組み合わせ	0.028	-0.115	-0.097	0.072	0.128
パターン13	「信頼関係のある職員が」、「事前に確認」、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」の４項目を共通ベースとして、「トイレの言葉禁止」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	-0.099	-0.091	-0.078	0.330 **	-0.067
パターン14	「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の３項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「好きな話題で声かけ」、「交換後の処理をすばやく」、「ケア方法の統一」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	-0.033	-0.150	0.411 **	-0.122	-0.110
パターン15	「好きな話題で声かけ」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「衛生・疾病に関する説明」、「薬の塗布」、「安心できる場所で」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	-0.060	0.205	0.031	-0.098	-0.083
パターン16	「排泄パターンに応じ」と「トイレの言葉禁止」を主として、「好きな話題で会話しながら」、「ケア方法の統一」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	-0.118	-0.001	-0.099	0.244 *	-0.020
パターン17	「トイレに誘う」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「安心できる場所で」、「着替えの流れ」、「事前に確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	0.177	-0.075	-0.068	-0.060	0.005
パターン18	「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で会話しながら」の５項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「トイレに誘う」などで構成された平均7.9項目と最多の組み合わせ	0.082	-0.048	-0.081	-0.080	0.141

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－８－４－９）　排泄介護拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の状況
（高齢者パターン２“自立、軽中程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況 多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	対応する職員によっては居室内では応じるようになった	パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	声をかけると抵抗無く、交換できるようになった	交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった
全体		79	49.4	22.8	32.9	17.7	27.8
パターン1	「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「信頼関係のある職員が」の３項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「交換後の処理をすばやく」、「安心できる場所で」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	10	55.8	48.6	22.9	21.2	13.1
パターン2	「トイレに誘う」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「トイレ時の下着交換」、「事前に確認」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	8	51.7	8.0	19.6	23.3	18.7
パターン3	「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「トイレに誘う」などで構成された平均3.1項目の組み合わせ	6	48.1	15.6	33.5	35.5	32.7
パターン4	「信頼関係のある職員が」、「好きな話題で声かけ」、「着替えの流れ」の３項目を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	10	41.0	35.9	34.4	0.1	34.0
パターン5	「トイレの言葉禁止」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「排泄パターンに応じ」、「好きな話題で声かけ」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	5	51.7	15.2	40.9	18.3	43.9
パターン6	「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「信頼関係のある職員が」の３項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「安心できる場所で」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	5	41.6	8.6	29.6	17.1	32.8
パターン7	「好きな話題で声かけ」と「交換後の処理をすばやく」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「本人だけに声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「事前に確認」、「信頼関係のある職員が」、「安心できる場所で」などで構成された平均7.8項目と多様な組み合わせ	3	60.8	14.3	42.7	1.4	1.3
パターン8	「排泄パターンに応じ」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で声かけ」の３項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「本人だけに声かけ」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	4	22.9	0.7	51.6	25.5	46.6
パターン9	「好きな話題で声かけ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の３項目を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」などで構成された平均4.4項目の組み合わせ	3	36.7	4.8	0.4	0.3	62.7
パターン10	「本人だけに声かけ」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「ケア方法の統一」、「トイレ時の下着交換」、「トイレの言葉禁止」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0
パターン11	「信頼関係のある職員が」と「薬の塗布」を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「トイレ時の下着交換」、「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「安心できる場所で」などで構成された平均4.7項目の組み合わせ	6	50.1	16.6	33.5	33.3	33.2
パターン12	「トイレ時の下着交換」と「薬の塗布」を主として、「本人だけに声かけ」などで構成された平均2.6項目と最少の組み合わせ	3	34.5	33.2	33.2	32.3	0.1
パターン13	「信頼関係のある職員が」、「事前に確認」、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」の４項目を共通ベースとして、「トイレの言葉禁止」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	2	99.9	99.8	49.8	0.0	0.0
パターン14	「排泄パターンに応じ」、「トイレの言葉禁止」、「トイレ時の下着交換」の３項目を共通ベースとして、「着替えの流れ」、「好きな話題で声かけ」、「交換後の処理をすばやく」、「ケア方法の統一」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	5	39.8	1.1	79.6	0.0	0.0
パターン15	「好きな話題で声かけ」を共通ベースとして、「信頼関係のある職員が」、「衛生・疾病に関する説明」、「薬の塗布」、「安心できる場所で」、「交換後の処理をすばやく」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	3	63.3	1.7	28.7	0.1	71.2
パターン16	「排泄パターンに応じ」と「トイレの言葉禁止」を主として、「好きな話題で会話しながら」、「ケア方法の統一」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	3	67.2	65.3	32.7	32.7	32.7
パターン17	「トイレに誘う」を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「安心できる場所で」、「着替えの流れ」、「事前に確認」などで構成された平均5.1項目の組み合わせ	1	84.3	2.7	2.0	13.8	0.8
パターン18	「信頼関係のある職員が」、「排泄パターンに応じ」、「トイレ時の下着交換」、「交換後の処理をすばやく」、「好きな話題で会話しながら」の５項目を共通ベースとして、「好きな話題で声かけ」、「トイレに誘う」などで構成された平均7.9項目と最多の組み合わせ	2	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－８－５－１）　排泄介護拒否の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
		計（延解決方法件数）	1,256	100.0
認知能力	1	認知機能	150	11.9
	2	認知症の種類	28	2.2
	3	見当識	34	2.7
	4	認知症罹患期間	1	0.1
健康面	5	服薬状況	21	1.7
	6	現病・既往歴	16	1.3
	7	失禁有無	103	8.2
	8	水分状態	26	2.1
	9	便の状態	30	2.4
	10	体重	2	0.2
	11	睡眠時間・状況	21	1.7
	12	皮膚疾患	46	3.7
	13	排泄状況	91	7.2
能力・機能	14	歩行・下肢機能	34	2.7
	15	視覚機能	6	0.5
	16	言語能力	32	2.5
	17	上肢機能	0	0.0
	18	尿意・排泄感覚	123	9.8
心理面	19	気分	335	26.7
	20	本人の気持ち、意志	584	46.5
	21	興味・関心	116	9.2
排泄行動	22	排泄・排尿時間	88	7.0
	23	排泄間隔	120	9.6
	24	排泄頻度	41	3.3
	25	排泄場所	40	3.2
	26	抵抗が始まった時期	14	1.1
	27	排泄に関する生活習慣	67	5.3
	28	パッドの必要性	48	3.8
	29	交換の時間帯	94	7.5
抵抗時の状態	30	抵抗時の様子	160	12.7
	31	抵抗時の表情	139	11.1
生活習慣	32	生活状況（数日内）	18	1.4
	33	生活習慣（ここ数年）	67	5.3
	34	生活歴（幼少期から）	50	4.0
環境	35	交換場所	174	13.9
	36	施設環境	30	2.4
人間関係	37	他の入居者との関係	22	1.8
	38	スタッフとの関係	347	27.6
	39	家族関係	27	2.1
介護者の対応	40	スタッフの声かけ内容・見守り方	513	40.8
	41	介護者の性別	93	7.4
その他	42	性格	230	18.3
	43	その他	1	0.1
		（参考）平均記入項目数 →	3.3	

（表２－８－５－２）排泄介護拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン

（潜在クラス 17 クラスモデルのプロフィール）

（n=1256）

区分	code	解決に役立った情報	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17
				「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を主として、「性格」などで構成された平均2.3項目の組み合わせ	「気分」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」、「性格」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「興味・関心」と「本人の気持ち、意志」を主として、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「性格」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	「抵抗時の様子」を共通ベースとして、「抵抗時の表情」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「排泄間隔」と「本人の気持ち、意志」を主として、「排泄・排尿時間」、「尿意・排泄感覚」、「排泄頻度」、「排泄に関する生活習慣」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「性格」、「認知機能」などで構成された平均2.2項目と最少の組み合わせ	「交換場所」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	「皮膚疾患」、「失禁有無」、「排泄状況」、「パッドの必要性」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	「気分」を主として、「本人の気持ち、意志」、「排泄・排尿時間」、「排泄状況」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「水分状態」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「排泄間隔」、「交換場所」、「気分」、「抵抗時の表情」、「抵抗時の様子」、「交換の時間帯」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ	「認知機能」、「認知症の種類」、「見当識」、「尿意・排泄感覚」、「施設環境」などで構成された平均3.1項目の組み合わせ	「尿意・排泄感覚」を主として、「失禁有無」、「抵抗時の様子」、「抵抗時の表情」、「排泄場所」、「排泄・排尿時間」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「認知機能」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「失禁有無」、「歩行・下肢機能」、「抵抗時の表情」などで構成された平均4.1項目の組み合わせ	「交換場所」、「交換の時間帯」、「尿意・排泄感覚」の3項目を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」、「抵抗時の様子」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	「介護者の性別」を共通ベースとして、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「便の状態」、「性格」、「認知症の種類」、「スタッフとの関係」などで構成された平均4.8項目と最多の組み合わせ
クラスサイズ			1.000	0.204	0.115	0.084	0.075	0.069	0.066	0.056	0.054	0.053	0.044	0.044	0.032	0.030	0.025	0.025	0.018	0.008
認知能力	1	認知機能	0.119	0.122	0.104	0.148	0.180	0.000	0.018	0.203	0.104	0.000	0.088	0.034	0.430	0.043	0.723	0.000	0.001	0.001
	2	認知症の種類	0.022	0.000	0.015	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.027	0.000	0.000	0.146	0.223	0.000	0.000	0.000	0.133	0.393
	3	見当識	0.027	0.004	0.003	0.051	0.011	0.038	0.000	0.105	0.000	0.034	0.000	0.024	0.211	0.000	0.000	0.000	0.159	0.000
	4	認知症罹患期間	0.001	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
健康面	5	服薬状況	0.017	0.000	0.000	0.000	0.000	0.031	0.000	0.007	0.000	0.158	0.000	0.000	0.132	0.000	0.000	0.000	0.000	0.195
	6	現病・既往歴	0.013	0.004	0.000	0.000	0.011	0.000	0.000	0.000	0.000	0.136	0.000	0.018	0.072	0.000	0.032	0.000	0.000	0.000
	7	失禁有無	0.082	0.000	0.052	0.000	0.000	0.038	0.191	0.001	0.167	0.312	0.134	0.000	0.081	0.453	0.331	0.200	0.000	0.001
	8	水分状態	0.021	0.000	0.000	0.000	0.000	0.034	0.000	0.000	0.000	0.082	0.256	0.000	0.000	0.068	0.030	0.000	0.000	0.000
	9	便の状態	0.024	0.008	0.000	0.000	0.000	0.010	0.075	0.000	0.000	0.070	0.092	0.041	0.000	0.023	0.000	0.063	0.000	0.586
	10	体重	0.002	0.000	0.000	0.010	0.000	0.000	0.012	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	11	睡眠時間・状況	0.017	0.000	0.000	0.008	0.027	0.036	0.000	0.000	0.000	0.060	0.025	0.000	0.000	0.158	0.000	0.072	0.044	0.000
	12	皮膚疾患	0.037	0.000	0.026	0.031	0.000	0.000	0.000	0.057	0.000	0.441	0.000	0.080	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.098
	13	排泄状況	0.073	0.000	0.016	0.000	0.026	0.095	0.224	0.120	0.000	0.258	0.320	0.034	0.195	0.000	0.000	0.144	0.001	0.198
能力・機能	14	歩行・下肢 機能	0.027	0.000	0.022	0.000	0.007	0.000	0.073	0.021	0.012	0.000	0.050	0.057	0.000	0.154	0.291	0.036	0.000	0.000
	15	視覚機能	0.005	0.003	0.000	0.000	0.000	0.037	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.067	0.000	0.000	0.000
	16	言語能力	0.026	0.004	0.091	0.023	0.021	0.025	0.000	0.039	0.000	0.000	0.032	0.000	0.088	0.000	0.000	0.106	0.000	0.000
	18	尿意・排泄感覚	0.098	0.009	0.105	0.000	0.000	0.088	0.300	0.042	0.000	0.097	0.136	0.000	0.289	0.547	0.200	0.510	0.093	0.001
心理面	19	気分	0.267	0.000	0.997	0.443	0.288	0.001	0.001	0.001	0.318	0.091	0.707	0.433	0.001	0.185	0.001	0.051	0.443	0.764
	20	本人の気持ち、意志	0.465	0.133	0.680	0.597	0.532	0.910	0.501	0.998	0.419	0.208	0.446	0.812	0.040	0.210	0.891	0.002	0.004	0.003
	21	興味・関心	0.092	0.015	0.009	0.700	0.027	0.064	0.000	0.000	0.096	0.000	0.173	0.029	0.173	0.064	0.000	0.067	0.000	0.001
排泄行動	22	排泄・排尿 時間	0.070	0.008	0.000	0.000	0.000	0.069	0.404	0.097	0.000	0.000	0.376	0.000	0.000	0.270	0.023	0.114	0.216	0.000
	23	排泄間隔	0.096	0.019	0.000	0.032	0.024	0.146	0.548	0.000	0.000	0.122	0.221	0.525	0.000	0.037	0.033	0.001	0.000	0.001
	24	排泄頻度	0.033	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.276	0.000	0.000	0.034	0.139	0.076	0.000	0.000	0.000	0.033	0.132	0.000
	25	排泄場所	0.032	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.111	0.000	0.152	0.000	0.000	0.000	0.074	0.288	0.033	0.188	0.000	0.000
	26	抵抗が始まった時期	0.011	0.000	0.014	0.000	0.042	0.000	0.000	0.000	0.000	0.028	0.000	0.000	0.029	0.054	0.000	0.000	0.133	0.000
	27	排泄に関する生活習慣	0.053	0.000	0.023	0.038	0.009	0.016	0.265	0.000	0.055	0.114	0.138	0.000	0.091	0.000	0.137	0.158	0.161	0.000
	28	パッドの必要性	0.038	0.000	0.011	0.000	0.021	0.063	0.000	0.017	0.104	0.296	0.000	0.000	0.028	0.039	0.062	0.081	0.180	0.000
	29	交換の時間帯	0.075	0.000	0.000	0.048	0.051	0.067	0.153	0.000	0.153	0.211	0.023	0.251	0.000	0.160	0.000	0.528	0.175	0.000
抵抗時の状態	30	抵抗時の様子	0.127	0.009	0.000	0.000	0.990	0.075	0.132	0.001	0.085	0.071	0.000	0.251	0.086	0.290	0.072	0.000	0.270	0.003
	31	抵抗時の表情	0.111	0.027	0.034	0.085	0.531	0.100	0.079	0.000	0.115	0.060	0.099	0.284	0.000	0.282	0.261	0.000	0.069	0.001
生活習慣	32	生活状況（数日内）	0.014	0.015	0.022	0.022	0.040	0.000	0.000	0.000	0.009	0.000	0.000	0.000	0.056	0.000	0.067	0.000	0.000	0.000
	33	生活習慣（ここ数年）	0.053	0.033	0.051	0.090	0.055	0.070	0.004	0.000	0.139	0.108	0.000	0.000	0.183	0.000	0.198	0.000	0.000	0.000
	34	生活歴（幼少期から）	0.040	0.044	0.002	0.192	0.043	0.000	0.029	0.051	0.000	0.039	0.000	0.000	0.141	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
環境	35	交換場所	0.139	0.056	0.110	0.002	0.036	0.189	0.000	0.004	0.995	0.000	0.000	0.497	0.110	0.000	0.047	0.640	0.159	0.001
	36	施設環境	0.024	0.028	0.019	0.021	0.000	0.021	0.000	0.059	0.000	0.000	0.022	0.000	0.266	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
人間関係	37	他の入居者との関係	0.018	0.020	0.000	0.010	0.021	0.000	0.020	0.041	0.046	0.079	0.000	0.000	0.000	0.000	0.033	0.000	0.000	0.000
	38	スタッフとの関係	0.276	0.546	0.362	0.209	0.274	0.564	0.001	0.001	0.112	0.024	0.001	0.068	0.146	0.206	0.041	0.148	0.996	0.346
	39	家族関係	0.022	0.045	0.000	0.104	0.011	0.016	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.066	0.000	0.000
介護者の対応	40	スタッフの声かけ内容・見守り方	0.408	0.639	0.580	0.302	0.342	0.782	0.261	0.119	0.319	0.057	0.263	0.253	0.001	0.001	0.459	0.470	0.647	0.684
	41	介護者の性別	0.074	0.205	0.070	0.013	0.064	0.023	0.066	0.029	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.089	0.000	0.000	0.000	0.986
その他	42	性格	0.183	0.267	0.285	0.281	0.249	0.143	0.001	0.235	0.120	0.022	0.026	0.241	0.000	0.172	0.085	0.001	0.001	0.509
		（参考）平均項目数 →	3.3	2.3	3.7	3.5	3.9	3.7	3.7	2.2	3.5	3.2	3.8	4.2	3.1	3.8	4.1	3.7	4.0	4.8
		該当事例数 →	(1256)	(256)	(145)	(105)	(94)	(86)	(83)	(70)	(67)	(67)	(55)	(55)	(40)	(37)	(32)	(31)	(23)	(10)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－８－５－３）潜在クラスモデル評価（排泄介護拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン）

（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1（クラス数1）	23866.7	23656.1	0.000	0.000	1.000	1.000
モデル2（クラス数2）	23591.4	23165.1	0.111	0.712	0.597	0.653
モデル3（クラス数3）	23714.1	23072.1	0.175	0.654	0.585	0.594
モデル4（クラス数4）	23866.5	23008.8	0.201	0.628	0.594	0.582
モデル5（クラス数5）	24023.5	22950.1	0.212	0.679	0.629	0.607
モデル6（クラス数6）	24176.6	22887.5	0.222	0.691	0.647	0.607
モデル7（クラス数7）	24384.2	22879.5	0.242	0.669	0.642	0.589
モデル8（クラス数8）	24596.7	22876.2	0.231	0.691	0.662	0.608
モデル9（クラス数9）	24808.7	22872.5	0.241	0.703	0.679	0.611
モデル 10（クラス数 10）	25025.3	22873.5	0.200	0.748	0.741	0.673
モデル 11（クラス数 11）	25274.1	22906.5	0.248	0.688	0.691	0.610
モデル 12（クラス数 12）	25502.7	22919.4	0.216	0.735	0.736	0.659
モデル 13（クラス数 13）	25719.2	22920.2	0.221	0.728	0.748	0.655
モデル 14（クラス数 14）	25988.7	22974.0	0.221	0.730	0.742	0.650
モデル 15（クラス数 15）	26228.8	22998.5	0.216	0.739	0.761	0.664
モデル 16（クラス数 16）	26480.9	23034.9	0.213	0.755	0.770	0.668
モデル 17（クラス数 17）	26678.5	23016.8	0.162	0.797	0.814	0.739
モデル 18（クラス数 18）	26965.2	23087.8	0.168	0.789	0.812	0.731
モデル 19（クラス数 19）	27207.7	23114.6	0.170	0.809	0.813	0.730
モデル 20（クラス数 20）	27482.5	23173.6	0.224	0.737	0.765	0.658

（表２－８－５－４）排泄介護拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

【比率】（縦100）

区分	code	解決方法	合計	情報の組み合わせパターン																	
				パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17
				「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を主として、「性格」などで構成された平均2.3項目の組み合わせ	「気分」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」、「性格」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「興味・関心」と「本人の気持ち、意志」を主として、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「性格」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	「抵抗時の様子」を共通ベースとして、「抵抗時の表情」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「排泄間隔」と「本人の気持ち、意志」を主として、「排泄・排尿時間」、「尿意・排泄感覚」、「排泄頻度」、「排泄に関する生活習慣」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「性格」、「認知機能」などで構成された平均2.2項目と最少の組み合わせ	「交換場所」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	「皮膚疾患」、「失禁有無」、「排泄状況」、「パッドの必要性」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	「気分」を主として、「本人の気持ち、意志」、「排泄・排尿時間」、「排泄状況」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「水分状態」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「排泄間隔」、「交換場所」、「気分」、「抵抗時の表情」、「抵抗時の様子」、「交換の時間帯」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ	「認知機能」、「認知症の種類」、「見当識」、「尿意・排泄感覚」、「施設環境」などで構成された平均3.1項目の組み合わせ	「尿意・排泄感覚」を主として、「失禁有無」、「抵抗時の様子」、「抵抗時の表情」、「排泄場所」、「排泄・排尿時間」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「認知機能」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「失禁有無」、「歩行・下肢機能」、「抵抗時の表情」などで構成された平均4.1項目の組み合わせ	「交換場所」、「交換の時間帯」、「尿意・排泄感覚」の3項目を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」、「抵抗時の様子」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	「介護者の性別」を共通ベースとして、「気分」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「便の状態」、「性格」、「認知症の種類」、「スタッフとの関係」などで構成された平均4.8項目と最多の組み合わせ
延べ方法件数 →			1,256	256	145	105	94	86	83	70	67	67	55	55	40	37	32	31	23	10
声かけの工夫	101	トイレの言葉禁止	6.4	2.1	6.9	13.7	7.9	7.0	7.6	9.5	0.2	3.9	11.7	9.1	7.3	7.7	5.8	2.7	8.6	0.1
	102	薬の塗布	2.9	1.9	1.3	3.0	3.1	0.2	0.3	1.0	0.0	24.7	0.3	4.8	4.2	0.2	0.0	0.0	4.4	9.9
	103	トイレに誘う	5.2	1.3	5.3	0.7	1.3	3.9	16.8	5.8	4.5	11.4	10.9	4.6	6.5	6.8	8.2	6.1	4.5	10.2
	104	排泄パターンに応じ	14.4	6.2	12.0	7.8	4.1	17.3	38.9	5.7	4.9	17.7	46.9	21.7	12.8	35.9	20.1	11.9	7.3	13.7
	105	本人だけに声かけ	6.5	7.1	7.2	6.8	9.4	6.1	3.3	14.3	2.9	3.6	6.6	3.2	3.0	4.0	11.6	7.7	0.0	10.1
	106	時間を置き繰り返す	0.2	0.0	0.0	0.9	1.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	107	衛生・疾病に関する説明	1.0	0.8	0.0	0.2	1.8	0.8	1.1	3.6	0.0	3.4	0.2	0.6	0.0	0.1	3.8	0.0	0.0	0.0
	109	家族からの誘導	0.2	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.4	0.0	0.0
	111	全員に声かけ	0.1	0.0	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	112	職員と一緒にトイレへ	0.2	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	113	好きな話題で声かけ	12.3	18.8	17.9	26.3	13.2	16.4	0.7	6.8	4.5	3.1	3.6	4.7	15.6	0.7	1.9	3.9	10.1	0.3
	114	検査のため	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	116	衛生状態の確認	0.2	0.2	0.0	0.1	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	118	笑顔でやさしく	0.3	0.3	1.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	190	その他	0.7	0.4	1.2	3.8	0.0	0.6	0.2	0.0	0.0	0.2	0.5	0.1	0.0	2.1	1.2	0.1	0.0	0.0
介助方法の工夫	201	トイレ時の下着交換	7.2	4.6	5.1	6.0	7.4	5.0	5.9	10.9	15.7	10.7	2.7	6.9	2.6	3.3	21.4	21.4	9.4	0.5
	202	事前に確認	4.1	1.8	4.3	2.8	7.9	4.8	2.7	7.9	3.9	3.0	5.4	5.8	0.1	6.7	3.6	4.5	4.7	9.7
	203	着替えの流れ	8.5	3.9	9.7	5.6	5.3	7.7	8.2	8.9	22.5	11.2	6.6	12.0	6.8	10.9	5.3	17.2	21.9	9.8
	204	交換後の処理をすばやく	5.0	5.3	3.8	3.8	3.8	4.7	2.9	13.1	7.4	2.7	2.7	6.2	8.1	8.3	5.2	0.1	0.3	9.8
	205	説明し、自分で	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.7	0.0	0.4	0.1	0.0	1.1	0.3	1.4	0.0	0.0	0.0
	206	すばやく	0.2	0.0	0.6	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	207	室温、毛布等の工夫	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	209	好きな話題で会話しながら	0.6	0.4	2.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
	210	洗濯の勧め	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	211	定時交換	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	212	気分の良い時に	0.2	0.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	290	その他	0.6	0.0	1.4	1.0	0.0	0.1	1.5	1.0	1.4	0.2	0.1	1.3	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
介助者の工夫	301	信頼関係のある職員が	13.6	35.2	12.6	6.6	15.1	18.2	5.1	5.3	7.7	0.3	0.9	4.0	0.9	4.6	1.6	6.7	15.8	15.5
	302	ケア方法の統一	2.1	4.6	0.9	1.0	4.0	1.2	1.0	1.0	0.4	0.0	0.3	0.1	5.2	1.8	0.6	0.3	8.4	0.4
	303	介助者の変更	0.6	1.2	0.7	0.0	3.7	0.1	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
	390	その他	0.2	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0
環境調整	401	安心できる場所で	5.0	2.3	5.2	3.4	4.4	4.5	1.3	1.9	22.6	0.5	0.3	7.9	16.4	3.4	7.3	10.4	4.4	9.8
	405	パッド、下着の保管方法	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.3	1.5	0.0	0.0	0.0	2.0	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0
	490	その他	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
その他	502	医師からの指示	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	503	家族の面会を増やす	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	590	その他	0.3	0.3	0.0	1.1	0.0	0.1	0.8	0.0	0.0	1.4	0.0	0.4	0.0	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－８－６－１）絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	放っておく	無理にトイレに連れて行く	無理やり交換する	声かけせず無言で行う	何度もしつこく声をかける	臭い、汚いからなどの声かけ	その他
実数	286	242	226	237	247	215	230	42
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	84.6	79.0	82.9	86.4	75.2	80.4	14.7

８．排泄誘導拒否への成功事例調査

１）回答者属性

本調査の回答 270 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

（１）年齢

有効回答 265 件における回答者の平均年齢は、41.6 歳（SD13.1 歳）で最少年齢が 19 歳、最高年齢が 89 歳であった。（表２－９－１－１参照）

（２）性別割合

有効回答 268 件中、回答者の性別割合は男性が 77 件（28.7%）、女性が 191 件（71.3%）と女性の割合が多かった。（表２－９－１－２参照）

（３）職名の割合

有効回答 250 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 107 件（42.8%）、ケアマネージャーが 71 件（28.4%）、看護師が 13 件（5.2%）、相談員が 6 件（2.4%）となっている。（表２－９－１－３参照）

（４）役職の割合

有効回答 254 件中、回答者の役職の割合は、主任・リーダーが 77 件（30.3%）、管理者が 74 件（29.1%）、施設長が 10 件（3.9%）、理事長が 1 件（0.4%）で、95 件（37.4%）が役職なしであった。（表２－９－１－４参照）

（５）資格の所有割合

有効回答 262 件中、回答者の資格の所有割合は、介護福祉士が 166 件（63.4%）、ヘルパーが 98 件（37.4%）、ケアマネージャーが 89 件（34.0%）、看護師（准看護師）が 20 件（7.6%）、社会福祉士が 11 件（4.2%）であった。（表２－９－１－５参照）

（６）所属事業種の割合

有効回答 265 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 256 件（96.6%）、小規模多機能型通所介護事業が 5 件（1.9%）、介護老人福祉施設（ユニット型）が 4 件（1.5%）、介護老人福祉施設が 2 件（0.8%）であった。（表２－９－１－６参照）

（７）所属事業所での勤続年数

有効回答 268 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、3.9 年（SD2.8 年）で最少が 0.1 年、最高が 19.7 年であった。（表２－９－１－７参照）

（８）総介護経験年数

有効回答 268 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、8.4 年（SD5.8 年）で最少が 0.3 年、最高が 47.0 年であった。（表２－９－１－８参照）

２）排泄誘導拒否の解決経験

本調査に回答を得た 270 件における排泄誘導拒否の解決経験、解決した高齢者に

関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とＡＤＬ、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

（１）解決経験の有無

有効回答 268 件中、排泄誘導拒否で解決経験があるのは 238 件（88.8％）であった。（表２－９－２－１参照）

（２）高齢者の状態

①　年齢

解決経験がある 238 件のうち有効回答 221 件における高齢者の平均年齢は、84.3 歳（SD6.2 歳）で最少年齢が 66 歳、最高年齢が 103 歳であった。その分布をみると、80 歳～84 歳が 72 件（32.6％）で最も多い。（表２－９－２－２参照）

③　性別

性別割合は、有効回答 235 件中、男性が 44 件（18.7％）、女性が 191 件（81.3％）と女性が多い。（表２－９－２－３参照）

③　認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 210 件中、アルツハイマー型が 117 件（55.7％）、脳血管疾患型が 60 件（28.6％）、前頭側頭型が 3 件（1.4％）、混合が 10 件（4.8％）であった。（表２－９－２－４参照）

④　身体機能の障害とＡＤＬ

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 238 件中、下肢が 60 件（25.2％）、体幹が 5 件（2.1％）、上肢が 2 件（0.8％）、首が 1 件（0.4％）であり、残りの 170 件（71.4％）が機能障害なし（＝無回答）であった。（表２－９－２－５参照）

【食事介助】

食事介助は、有効回答 227 件中、自立が 167 件（73.6％）、一部介助が 56 件（24.7％）、全介助が 4 件（1.8％）であった。（表２－９－２－６参照）

【移動】

移動は、有効回答 192 件中、短距離歩行自立が 116 件（60.4％）、長距離歩行自立が 44 件（22.9％）、杖自立が 29 件（15.1％）であった。（表２－９－２－７参照）

【排泄】

排泄は、有効回答 206 件中、身体介助必要が 127 件（61.7％）、身体介助必要なしが 79 件（38.3％）であった。（表２－９－２－８参照）

【入浴】

入浴は、有効回答 229 件中、全介助が 50 件（21.8％）、洗身洗髪介助が 95 件（41.5％）、移動介助が 40 件（17.5％）、その他一部介助が 44 件（19.2％）であった。（表２－９－２－９参照）

⑥　認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 231 件中、ランクⅠが 13 件（5.6%）、ランクⅡが 32 件（13.9%）、ランクⅢが 112 件（48.5%）、ランクⅣが 66 件（28.6%）、ランクⅤが 8 件（3.5%）であった。（表２－９－２－１０参照）

⑥　身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 223 件中、Ｊランクが 16 件（7.2%）、Ａランクが 163 件（73.1%）、Ｂランクが 41 件（18.4%）、Ｃランクが 3 件（1.3%）であった。（表２－９－２－１１参照）

⑦　高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、排泄介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析（注 1）を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、排泄介助で身体介助必要なし（60.5%）が多く、身体障害の重症度でＡランク（86.5%）とＪランク（12.8%）に集中し、認知症の重症度でランクⅢ（53.8%）が多いことから、これを「自立、軽中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 164 件のうち 108 件（65.9%）が該当する。

第 2 パターンは、排泄介助で身体介助必要（97.0%）が多く、身体障害の重症度でＢランク（48.8%）とＡランク（45.6%）が多く、認知症の重症度でランクⅣ（49.4%）とランクⅢ（31.9%）が多いことから、これを「介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 56 件（34.1%）が該当する。（表２－９－２－１２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－９－２－１３参照）

（注 1）潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、排泄介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団（これをクラスと呼ぶ）を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル（クラス数）を評価する指標としてＡＩＣやＢＩＣなどの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である（注 2 参照）。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

3）解決前と解決後の変化

排泄誘導拒否で解決経験がある 238 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出するとともに、解決前後の関連を分析し、高齢者パターンによる差異も確認した。

（1）解決前の状況

排泄誘導拒否が解決される前の状況としては、有効回答 238 件中、「リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった」が 132 件（55.5%）、「トイレ誘導を定時で行うが拒否された」が 105 件（44.1%）、「強く拒否し、強い口調で怒った」が 100 件（42.0%）、「色々と理由をつけて、拒否した」が 73 件（30.7%）、「トイレまでは行くがズボンを下げなかった」が 52 件（21.8%）であった。（表２－９－３－１参照）

（2）解決後の状況

排泄誘導拒否が解決された後の状況としては、有効回答 238 件中、「最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった」と「トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った」が各 98 件（41.2%）、「拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた」が 56 件（23.5%）、「トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった」が 35 件（14.7%）、「タンスの中に隠していた使用済みパッドが少なくなった」が 21 件（8.8%）であった。（表２－９－３－２参照）

（3）解決前後の関連

解決前後それぞれの項目重複による影響排除のために、パターン化を経て分析することにした。

① 解決前のパターン

パターン化に用いた方法は潜在クラス分析である。

解決前は 6 パターンであり、第 1 は、「強く拒否し、強い口調で怒った」(99.1%) に加えて、「リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった」（54.2%）、「トイレ誘導を定時で行うが拒否された」(43.5%) などを伴っている。これに該当する事例が 43 件（29.9%）であり、“不衛生だったり、定時誘導しても、強く拒否し怒った”パターンと表示する。

第 2 は、「色々と理由をつけて、拒否した」(98.5%) に加えて、「リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった」(55.8%)、「トイレ誘導を定時で行うが拒否された」(33.6%) などを多少伴っている。これに該当する事例が 33 件（22.9%）であり、“不衛生だったり、定時誘導しても、色々理由をつけて拒否した”パターンと表示する。

第 3 は、「リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった」（99.6%）にほぼ集中している。これに該当する事例が 20 件（13.9%）であり、“リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった”パターンと表示する。

第 4 は、「トイレ誘導を定時で行うが拒否された」(99.5%) に加えて、「リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった」(10.5%) を多少伴っている。これに該当する事例が 18 件 (12.5%) であり、“トイレ誘導を定時で行うが拒否された”パターンと表示する。

第 5 は、「強く拒否し、強い口調で怒った」(98.9%)、「トイレ誘導を定時で行うが拒否された」(92.0%)、「色々と理由をつけて、拒否した」(88.7%)、「リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった」(76.4%)、「トイレまでは行くがズボンを下げなかった」(73.3%) と実に多様である。これに該当する事例が 17 件 (11.8%) であり、“頑固に拒否”パターンと表示する。

第 6 は、「トイレまでは行くがズボンを下げなかった」(97.2%) に加えて、「トイレ誘導を定時で行うが拒否された」(49.0%)、「リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった」(25.9%) などを伴っている。これに該当する事例が 12 件 (8.3%) であり、“定時誘導を拒否したり、トイレまでは行くがズボンを下げなかった”パターンと表示する。(表２－９－３－３参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－９－３－４参照)

② 解決後のパターン

解決後は 4 パターンであり、第 1 は、「最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった」(99.6%) に加えて、「トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った」(39.5%) などを伴っている。これに該当する事例が 61 件 (42.4%) であり、“誘導に応じる回数が増えたり、最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった”パターンと表示する。

第 2 は、「トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った」(99.7%) に加えて、「タンスの中に隠していた使用済みパッドが少なくなった」(12.0%) などを多少伴っている。これに該当する事例が 44 件 (30.6%) であり、“トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った”パターンと表示する。

第 3 は、「拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた」(99.2%) にほぼ集中している。これに該当する事例が 28 件 (19.4%) であり、“拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた”パターンと表示する。

第 4 は、「トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった」(97.6%) にほぼ集中している。これに該当する事例が 11 件 (7.6%) であり、“トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった”パターンと表示する。(表２－９－３－５参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－９－３－６参照)

③ 解決前後のパターンの関連

各パターンへの帰属確率の相関によって解決前後の関連分析をした。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では２つの変化傾向がみられる。1つめは、解決前パターン4（トイレ誘導を定時で行うが拒否された）から、解決後パターン2（トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。

2つめは、解決前パターン1（不衛生だったり、定時誘導しても、強く拒否し怒った）から、解決後パターン1（誘導に応じる回数が増えたり、最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。（表２－９－３－７参照）

次に高齢者パターン1（自立、軽中程度重症度）に限定してみると、上記の全体的傾向と異なった次の傾向がみられた。解決前パターン6（定時誘導を拒否したり、トイレまでは行くがズボンを下げなかった）から、解決後パターン2（トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った）へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。（表２－９－３－８参照）

高齢者パターン2（介助、中高程度重症度）に限定してみると、ここでも上記と異なった変化傾向がみられた。解決前パターン2（不衛生だったり、定時誘導しても、色々理由をつけて拒否した）から、解決後パターン3（拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。（表２－９－３－９参照）

このように、解決前後の変化は高齢者パターンによって異なった変化傾向を示している。

（４）高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した（注2）。

解決前の状況は、高齢者パターン1（自立、軽中程度重症度）では「リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった」（58.5%）と「色々と理由をつけて、拒否した」（38.3%）が高齢者パターン2のそれら（50.0%と28.0%）を上回っている。（表２－９－３－１０参照）

解決後の状況についてはそれほど顕著な差はみられない。（表２－９－３－１１参照）

（注2）潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス1に対して0.97、クラス2に対して0.03、（全クラスへの帰属確率合計は1.00である）となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

4）排泄誘導拒否の解決方法

排泄誘導拒否で解決経験がある 238 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

（1）解決方法の概況

排泄誘導拒否を解決する時に行った方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 43 分類した。分類結果は、誘導時間に関するものが 2 分類、誘導の工夫に関するものが 16 分類、介助の工夫に関するものが 9 分類、コミュニケーションに関するものが 13 分類、その他が 3 分類であった。

有効回答 237 件のなかで多くあがったものは、「排泄パターンに応じ」が 177 件（74.7%）、「本人の行動・状態に応じて」が 149 件（62.9%）、「移動時」が 133 件（56.1%）、「会話をしながら」が 123 件（51.9%）、「賞賛、ほめる」が 117 件（49.4%）、「定時声かけ」が 114 件（48.1%）、「トイレという言葉を使用しない」が 97 件（40.9%）、「すばやく」が 90 件（38.0%）、「本人だけに」が 79 件（33.3%）、「衛生・疾病の説明」が 51 件（21.5%）、「パッド交換は職員で」が 49 件（20.7%）、「パッドをすばやく片付ける」が 46 件（19.4%）、「他者と一緒に」が 43 件（18.1%）、「おしりの状態をみる」が 39 件（16.5%）、「職員と一緒に」が 34 件（14.3%）、「トイレ以外の理由で誘導」が 32 件（13.5%）、「慣れた言葉」が 26 件（11.0%）などであり、1 事例あたり平均 6.4 項目であった。（表２－９－４－１参照）

（2）解決方法の組み合わせパターン

43 分類のなかから 1 事例平均 6.4 の方法で構成されているのを実際の組み合わせに高い確率で近似するパターンを得るために潜在クラス分析を応用した（注 3）。

その結果 16 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 4.1 項目と最少の組み合わせであり、「本人の行動・状態に応じて」（99.9%）と「排泄パターンに応じ」（84.2%）を共通ベースとして、「会話をしながら」（43.3%）、「移動時」（39.0%）、「トイレという言葉を使用しない」（32.8%）などで構成されている。第 1 パターンの該当事例は 33 件（13.7%）である。

第 2 パターンは平均 5.0 項目の組み合わせであり、「賞賛、ほめる」（99.8%）と「排泄パターンに応じ」（93.1%）を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」（65.9%）、「移動時」（53.2%）などで構成されている。第 2 パターンに該当する事例は 28 件（9.7%）である。

第 3 パターンは平均 5.0 項目の組み合わせであり、「トイレという言葉を使用しない」（99.6%）を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」（57.5%）、「定時声かけ」（48.5%）、「会話をしながら」（43.6%）、「本人だけに」（41.4%）、「移動時」（40.4%）などで構成されている。第 3 パターンに該当する事例は 22 件（9.3%）である。

第 4 パターンは平均 5.5 項目の組み合わせであり、「移動時」(91.7%) と「すばやく」(89.7%) を共通ベースとして、「定時声かけ」(67.3%)、「本人の行動・状態に応じて」(55.2%)、「会話をしながら」(38.3%)、「排泄パターンに応じ」(32.0%)、「パッド交換は職員で」(32.0%) などで構成されている。第 4 パターンに該当する事例は 18 件 (7.6%) である。

第 5 パターンは平均 8.0 項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(99.8%)、「会話をしながら」(99.6%)、「すばやく」(99.7%)、「賞賛、ほめる」(90.4%) の 4 項目を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」(73.0%)、「移動時」(71.3%)、「定時声かけ」(55.7%) などで構成されている。第 5 パターンに該当する事例は 16 件 (6.8%) である。

第 6 パターンは平均 5.6 項目の組み合わせであり、「本人だけに」(92.0%) を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」(74.7%)、「移動時」(60.7%)、「会話をしながら」(58.5%)、「本人の行動・状態に応じて」(46.6%)、「他者と一緒に」(43.6%) などで構成されている。第 6 パターンに該当する事例は 16 件 (6.8%) である。

第 7 パターンは平均 6.5 項目の組み合わせであり、「賞賛、ほめる」(99.8%) と「定時声かけ」(99.7%) を共通ベースとして、「本人だけに」(71.6%)、「本人の行動・状態に応じて」(56.3%)、「会話をしながら」(50.6%)、「移動時」(50.4%) などで構成されている。第 7 パターンに該当する事例は 16 件 (6.8%) である。

第 8 パターンは平均 11.6 項目と最多の組み合わせであり、「パッドをすばやく片付ける」(99.5%)、「会話をしながら」(92.0%)、「移動時」(84.6%)、「本人の行動・状態に応じて」(84.5%)、「トイレという言葉を使用しない」(84.3%) の 5 項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」(69.7%)、「パッド交換は職員で」(69.2%)、「すばやく」(62.8%)、「排泄パターンに応じ」(62.0%)、「トイレ以外の理由で誘導」(60.2%) などで構成されている。第 8 パターンに該当する事例は 13 件 (5.5%) である。

第 9 パターンは平均 10.8 項目と多様な組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(99.9%)、「定時声かけ」(84.0%)、「本人の行動・状態に応じて」(99.7%)、「会話をしながら」(83.8%)、「本人だけに」(87.7%)、「トイレという言葉を使用しない」(89.1%)、「移動時」(99.3%)、「すばやく」(87.8%) の 8 項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」(59.0%) などで構成されている。第 9 パターンに該当する事例は 13 件 (5.5%) である。

第 10 パターンは平均 6.6 項目の組み合わせであり、「定時声かけ」(99.7%)、「排泄パターンに応じ」(83.6%)、「本人の行動・状態に応じて」(82.7%)、「おしりの状態をみる」(84.0%) の 4 項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」(66.9%)、「移動時」(50.8%) などで構成される。第 10 パターンに該当する事例は 13 件 (5.5%) である。

第 11 パターンは平均 5.9 項目の組み合わせであり、「おしりの状態をみる」(89.1%) と「トイレ以外の理由で誘導」(76.1%) を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」(68.8%)、「本人の行動・状態に応じて」(52.1%)、「トイレという言葉を使用しない」(59.3%)、「衛生・疾病の説明」(57.0%) などで構成される。第 11 パターンに該当する事例は 10 件 (4.2%) である。

第 12 パターンは平均 4.6 項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(99.8%) と「定時声かけ」(76.2%) を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」(56.7%)、「他者と一緒に」(53.4%)、「すばやく」(42.5%) などで構成されている。第 12 パターンに該当する事例は 9 件 (3.8%) である。

第 13 パターンは平均 6.7 項目の組み合わせであり、「会話をしながら」(99.6%) と「賞賛、ほめる」(99.6%) を共通ベースとして、「移動時」(74.6%)、「トイレという言葉を使用しない」(48.5%)、「極力本人で、部分介助」(49.1%)、「衛生・疾病の説明」(48.1%) などで構成されている。第 13 パターンに該当する事例は 8 件 (3.4%) である。

第 14 パターンは平均 6.3 項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(99.8%) を共通ベースとして、「移動時」(60.4%)、「衛生・疾病の説明」(50.0%)、「信頼関係の構築」(50.0%)、「本人の行動・状態に応じて」(48.1%)、「慣れた言葉」(46.5%) などで構成されている。第 14 パターンに該当する事例は 8 件 (3.4%) である。

第 15 パターンは平均 9.1 項目の組み合わせであり、「パッドをすばやく片付ける」(99.1%)、「パッド交換は職員で」(99.3%)、「本人だけに」(99.4%)、「排泄パターンに応じ」(85.6%) の 4 項目を共通ベースとして、「移動時」(71.3%)、「トイレ備品の使用について声かけ」(70.7%)、「衛生・疾病の説明」(56.8%)、「お金の心配払拭」(56.5%) などで構成されている。第 15 パターンに該当する事例は 7 件 (3.0%) である。

第 16 パターンは平均 8.8 項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(99.7%)、「本人の行動・状態に応じて」(99.5%)、「定時声かけ」(82.8%)、「衛生・疾病の説明」(99.2)、「パッド交換は職員で」(99.1%)、「賞賛、ほめる」(82.5%)、「パッドをすばやく片付ける」(82.1%) の 7 項目を共通ベースとして、「移動時」(50.0%)、「会話をしながら」(49.8%) などで構成されている。第 16 パターンに該当する事例は 6 件 (2.5%) である。(表２－９－４－２参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－９－４－３参照)

（注 3）組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は（注 1）に示したような局所独立を仮定して異質な部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold”が算出する“Classification Statistics”（分類精度情報）の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。

（3）解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、16 の組み合わせパターンと解決後のパターンの相関を分析した後、参考までに個別状況との関連を確認する。

まず、解決方法の組み合わせ 16 パターンと解決後の 4 パターンの帰属確率による相関分析を行うと、5 通りの相関が認められる。

1 つめは、解決方法パターン 2 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 2 は、“「賞賛、ほめる」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」などで構成された平均 5.0 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 4 の“トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった”という結果に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 13 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 13 は、“「会話をしながら」と「賞賛、ほめる」を共通ベースとして、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」、「極力本人で、部分介助」、「衛生・疾病の説明」などで構成された平均 6.7 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 2 の“トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 8 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 8 は、“「パッドをすばやく片付ける」、「会話をしながら」、「移動時」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」の 5 項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」他で構成された平均 11.6 項目と最多の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 3 の“拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた”に貢献している傾向が読み取れる。

4 つめは、解決方法パターン 14 と解決後パターン 1 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 14 は、“「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「移動時」、「衛生・疾病の説明」、「信頼関係の構築」、「本人の行動・状態に応じて」、「慣れた言葉」などで構成された平均 6.3 項目の組み合わせ”であり、これ

らの方法が、解決後パターン 1 の“誘導に応じる回数が増えたり、最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

5 つめは、解決方法パターン 5 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 5 は、“「排泄パターンに応じ」、「会話をしながら」、「すばやく」、「賞賛、ほめる」の 4 項目を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」、「定時声かけ」などで構成された平均 8.0 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 3 の“拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた”に貢献している傾向が読み取れる。（表２－９－４－４参照）

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても、上記の傾向が確認できる。

解決方法パターン 2 では、解決後に“トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった”が 23.4%と相対的に多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 13 では、解決後に“トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った”が 83.3%と多くなっており、これらは解決後パターン 2 の主要項目である。

解決方法パターン 8 では、解決後に“拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた”が 56.0%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。

解決方法パターン 14 では、解決後に“最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった”が 94.7%と多くなっており、これは解決後パターン 1 の主要項目である。

解決方法パターン 5 では、解決後に“拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた”が 42.9%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。（表２－９－４－５参照）

（４）高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン 1（自立、軽中程度重症度）に限定した相関分析を行うと、3 通りの相関が認められる（注 4）。

1 つめは、解決方法パターン 2 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

2 つめは、解決方法パターン 13 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 1%で認められる。これも上記の全体的傾向と同様である。

3 つめは、解決方法パターン 8 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 1%で認められる。これも上記の全体的傾向と同様で、より強い相関となっている。（表２－９－４－６参照）

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン 2 では、解決後に“トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった”が 29.1%と相対的に多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 13 では、解決後に“トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った”が100.0%と多くなっており、これは解決後パターン2の主要項目である。

解決方法パターン 8 では、解決後に“拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた”が 65.7%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。(表２－９－４－７参照)

また高齢者パターン２（介助、中高程度重症度）に限定した相関分析を行うと、1 通りの相関が認められる。

解決方法パターン 13 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 13 は、“「会話をしながら」と「賞賛、ほめる」を共通ベースとして、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」、「極力本人で、部分介助」、「衛生・疾病の説明」などで構成された平均 6.7 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 4 の“トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－９－４－８参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもその傾向が確認できる。

解決方法パターン 13 では、解決後に“トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった”が 49.6%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。(表２－９－４－９参照)

（注 4）高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン 1 と 2 を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義（＝クラスター化）した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

5）排泄誘導拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ 1,420 件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

（1）役立った情報の概況

有効回答 1,420 件のなかで多くあがったものは、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 599 件（42.2%)、「本人の気持ち、意志」が 559 件（39.4%)、「スタッ

フとの関係」が 333 件（23.5%）、「気分」が 252 件（17.7%）、「性格」が 212 件（14.9%）、「排泄・排尿時間」と「排泄間隔」が 173 件（12.2%）などであり、ひとつの解決方法当たり平均 2.8 項目あげられた。（表２－９－５－１参照）

（２）役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 20 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 1.8 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（99.9%）を共通ベースとして、「スタッフとの関係」（24.7%）、「性格」（19.1%）などで構成されている。第 1 パターンの該当方法は延べ 157 件（11.1%）である。

第 2 パターンは平均 3.2 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」（81.6%）を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（62.4%）、「性格」（53.8%）、「気分」（46.1%）、「スタッフとの関係」（27.3%）などで構成されている。第 2 パターンの該当方法は延べ 140 件（9.9%）である。

第 3 パターンは平均 1.9 項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」（50.7%）、「他の入居者との関係」（32.1%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（29.1%）、「性格」（29.1%）などで構成されている。第 3 パターンの該当方法は延べ 110 件（7.7%）である。

第 4 パターンは平均 3.0 項目の組み合わせであり、「誘導の時間帯」（73.7%）、「排泄・排尿時間」（67.2%）、「排泄間隔」（40.4%）、「排泄頻度」（40.0%）などの“排泄行動”を主として構成されている。第 4 パターンの該当方法は延べ 106 件（7.5%）である。

第 5 パターンは平均 1.7 項目と最少の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」（99.8%）を共通ベースとして、「他の入居者との関係」（12.1%）などで構成されている。第 5 パターンの該当方法は延べ 92 件（6.5%）である。

第 6 パターンは平均 2.5 項目の組み合わせであり、「気分」（99.6%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」（39.3%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（21.7%）などで構成されている。第 6 パターンの該当方法は延べ 90 件（6.3%）である。

第 7 パターンは平均 3.6 項目の組み合わせであり、「失禁状況」（47.5%）、「排泄状況」（43.0%）、「失禁有無」（40.5%）、「水分状態」（25.7%）、「便の状態」（20.6%）、「尿意・排泄感覚」（29.2%）、「本人の気持ち、意志」（20.2%）などで構成されている。第 7 パターンの該当方法は延べ 86 件（6.1%）である。

第 8 パターンは平均 3.1 項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」（85.0%）を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（78.4%）、「本人の気持ち、意志」（72.9%）などで構成されている。第 8 パターンの該当方法は延べ 84

件（5.9%）である。

第 9 パターンは平均 2.1 項目の組み合わせであり、「性格」（30.3%）、「本人の気持ち、意志」（26.9%）、「生活習慣（ここ数年）」（24.7%）、「排泄に関する生活習慣」（22.4%）などで構成されている。第 9 パターンの該当方法は延べ 84 件（5.9%）である。

第 10 パターンは平均 3.3 項目の組み合わせであり、「抵抗時の表情」（99.7%）を共通ベースとして、「抵抗時の様子」（57.5%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（35.2%）、「本人の気持ち、意志」（28.0%）、「性格」（22.3%）などで構成されている。第 10 パターンの該当方法は延べ 60 件（4.2%）である。

第 11 パターンは平均 3.5 項目の組み合わせであり、「排泄間隔」（63.1%）、「本人の気持ち、意志」（44.7%）、「尿意・排泄感覚」（40.9%）、「排泄・排尿時間」（36.9%）、「パッドの必要性」（26.7%）、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（20.5%）などで構成されている。第 11 パターンの該当方法は延べ 55 件（3.9%）である。

第 12 パターンは平均 4.0 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（99.0%）と「スタッフとの関係」（97.2%）を共通ベースとして、「気分」（69.8%）、「本人の気持ち、意志」（64.2%）などで構成されている。第 12 パターンの該当方法は延べ 54 件（3.8%）である。

第 13 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（56.0%）、「排泄に関する生活習慣」（38.5%）、「排泄場所」（34.7%）、「本人の気持ち、意志」（29.2%）、「スタッフとの関係」（27.1%）などで構成されている。第 13 パターンの該当方法は延べ 51 件（3.6%）である。

第 14 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「興味・関心」（99.6%）を共通ベースとして、「気分」（44.3%）と「本人の気持ち、意志」（37.3%）を含めた“心理面”を主として構成されている。第 14 パターンの該当方法は延べ 49 件（3.5%）である。

第 15 パターンは平均 3.1 項目の組み合わせであり、「排泄間隔」（89.4%）、「排泄頻度」（61.2%）、「排泄・排尿時間」（59.3%）など“排泄行動”を主として構成されている。第 15 パターンの該当方法は延べ 49 件（3.5%）である。

第 16 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（99.7%）と「本人の気持ち、意志」（95.3%）を共通ベースとして、「尿意・排泄感覚」（22.4%）、「生活習慣（ここ数年）」（22.0%）などで構成されている。第 16 パターンの該当方法は延べ 44 件（3.1%）である。

第 17 パターンは平均 4.5 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（93.2%）を共通ベースとして、「排泄間隔」（45.5%）、「排泄・排尿時間」（39.2%）、「排泄頻度」（36.3%）、「スタッフとの関係」（34.4%）、「誘導の時間帯」（28.3%）、「性格」（23.4%）などで構成されている。第 17 パターンの該当方法は延べ 42 件（3.0%）である。

第 18 パターンは平均 3.6 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(85.9%) を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(38.0%)、「失禁状況」(37.8%)、「失禁有無」(28.1%) などで構成されている。第 18 パターンの該当方法は延べ 42 件 (3.0%) である。

第 19 パターンは平均 2.6 項目の組み合わせであり、「失禁有無」(34.8%)、「気分」(26.0%)、「認知症の種類」(22.2%)、「排泄状況」(20.1%) などで構成されている。第 19 パターンの該当方法は延べ 18 件 (1.3%) である。

第 20 パターンは平均 7.9 項目と最多の組み合わせであり、「生活歴 (幼少期から)」(79.0%) を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(59.4%)、「スタッフとの関係」(59.3%)、「現病・既往歴」(58.4%) などで構成されている。第 19 パターンの該当方法は延べ 5 件 (0.4%) である。(表２－９－５－２参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－９－５－３参照)

（３）情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第 15 パターン (「排泄間隔」、「排泄頻度」、「排泄・排尿時間」など“排泄行動”を主として構成された平均 3.1 項目の組み合わせ) は、「排泄パターンに応じ」が 59.3%、「定時声かけ」が 20.6%と多い。

第 4 パターン (「誘導の時間帯」、「排泄・排尿時間」、「排泄間隔」、「排泄頻度」などの“排泄行動”を主として構成された平均 3.0 項目の組み合わせ) は、「定時声かけ」が 41.7%、「排泄パターンに応じ」が 35.1%と多い。

第 7 パターン (「失禁状況」、「排泄状況」、「失禁有無」、「水分状態」、「便の状態」、「尿意・排泄感覚」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 3.6 項目の組み合わせ) は、「排泄パターンに応じ」が 40.6%と多い。

第 20 パターン (「生活歴 (幼少期から)」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」、「現病・既往歴」などで構成された平均 7.9 項目と最多の組み合わせ) は、「信頼関係の構築」が 39.2%、「衛生・疾病の説明」が 19.8%、「本人の行動・状態に応じて」が 19.6%、「外出してから」が 19.5%と多い。

第 11 パターン (「排泄間隔」、「本人の気持ち、意志」、「尿意・排泄感覚」、「排泄・排尿時間」、「パッドの必要性」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 3.5 項目の組み合わせ) は、「排泄パターンに応じ」が 34.8%、「定時声かけ」が 18.2%と多い。

第 19 パターン (「失禁有無」、「気分」、「認知症の種類」、「排泄状況」などで構成された平均 2.6 項目の組み合わせ) は、「排泄パターンに応じ」が 30.2%、「おしりの状態をみる」が 14.9%と多い。

第 8 パターン (「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 3.1 項目の組み

合わせ）は、「移動時」が 13.4%、「賞賛、ほめる」が 13.2%と多い。

第 17 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「排泄間隔」、「排泄・排尿時間」、「排泄頻度」、「スタッフとの関係」、「誘導の時間帯」などで構成された平均 4.5 項目の組み合わせ）は、「排泄パターンに応じ」が 27.4%と多い。

第 14 パターン（「興味・関心」を共通ベースとして、「気分」と「本人の気持ち、意志」を含めた“心理面”を主として構成された平均 2.8 項目の組み合わせ）は、「トイレという言葉を使用しない」が 25.5%、「トイレ以外の理由で誘導」が 19.0%と多い。

第 10 パターン（「抵抗時の表情」を共通ベースとして、「抵抗時の様子」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「排泄状況」、「本人の気持ち、意志」、「性格」などで構成された平均 3.3 項目の組み合わせ）は、「本人の行動・状態に応じて」が 23.8%と多い。

第 12 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「気分」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 4.0 項目の組み合わせ）は、「会話をしながら」が 23.6%と多い。

第 6 パターン（「気分」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 2.5 項目の組み合わせ）は、「本人の行動・状態に応じて」が 19.7%、「会話をしながら」が 16.8%と多い。

第 1 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「性格」などで構成された平均 1.8 項目の組み合わせ）は、「移動時」が 17.7%と多い。

第 16 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「尿意・排泄感覚」、「生活習慣（ここ数年）」などで構成された平均 3.7 項目の組み合わせ）は、「トイレという言葉を使用しない」が 17.2%と多い。（表２－９－５－４参照）

６）絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答 255 件中、「強制・命令・指示的な声かけ」が 249 件（97.6%）、「尿意や便意のサインを無視し放っておく」が 248 件（97.3%）、「失敗をしかる」が 247 件（96.9%）、「失敗が周囲の人にわかるような言動」が 244 件（95.7%）、「衣類等の汚れを見て見ぬふりして交換しない」が 237 件（92.9%）、「子供を扱うような言い方」が 237 件（92.9%）、「無理にトイレに連れて行く」が 222 件（87.1%）、「他利用者に聞こえるようなトイレ誘導、ことばかけ」が 214 件（83.9%）、「オムツ・紙パンツの安易な使用」が 193 件（75.7%）、「自力でトイレに行ったとき、そのまま見過ごす」が 187 件（73.3%）となっている。（表２－９－６－１参照）

（表２－９－１－１）回答者の年齢

	有効回答数	24 歳以下	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60 歳以上
実数	265	17	39	44	31	28	21	33	37	15
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	6.4	14.7	16.6	11.7	10.6	7.9	12.5	14.0	5.7

（平均年齢等）

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
265	41.6	13.1	19	89

（表２－９－１－２）回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	268	77	191
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	28.7	71.3

（表２－９－１－３）回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネージャー	看護師	その他
実数	250	107	6	71	13	75
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	42.8	2.4	28.4	5.2	30.0

（表２－９－１－４）回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	254	10	74	77	0	1	95
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	3.9	29.1	30.3	0.0	0.4	37.4

（表２－９－１－５）回答者の所有資格

	有効回答数	看護師（准看護師）	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネージャー	ヘルパー	その他
実数	262	20	166	11	89	98	24
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	7.6	63.4	4.2	34.0	37.4	9.2

（表２－９－１－６）回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設（ユニット型）	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	265	2	4	256	5	1
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.8	1.5	96.6	1.9	0.4

（表２－９－１－７）回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
268	3.9	2.8	0.1	19.7

（表２－９－１－８）回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
268	8.4	5.8	0.3	47.0

（表２－９－２－１）排泄誘導拒否の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	268	238	30
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	88.8	11.2

（表２－９－２－２）高齢者の年齢

	解決経験のある 有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	221	13	31	72	60	45
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	5.9	14.0	32.6	27.1	20.4

（平均年齢等）

解決経験のある 有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
221	84.3	6.2	66	103

（表２－９－２－３）高齢者の性別割合

	解決経験のある 有効回答数	男	女
実数	235	44	191
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	18.7	81.3

（表２－９－２－４）認知症の原因疾患

	解決経験のある 有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	210	117	60	3	10	20
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	55.7	28.6	1.4	4.8	9.5

（表２－９－２－５）機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答 (=なし)
実数	238	1	2	60	5	170
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.4	0.8	25.2	2.1	71.4

（表２－９－２－６）食事介助

	解決経験のある 有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	227	4	56	167
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	1.8	24.7	73.6

（表２－９－２－７）移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他（回答者追記）
実数	192	29	116	44	3
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	15.1	60.4	22.9	1.6

（表２－９－２－８）排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし
実数	206	127	79
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	61.7	38.3

（表２－９－２－９）入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	229	50	40	95	44	0
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	21.8	17.5	41.5	19.2	0.0

（表２－９－２－１０）認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	Ⅰ 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	Ⅱ 日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	Ⅲ ランクⅡの症状がときどき見られ、介護を必要とする（徘徊、失禁など）	Ⅳ ランクⅡの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	Ⅴ 著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	231	13	32	112	66	8
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	5.6	13.9	48.5	28.6	3.5

（表２－９－２－１１）身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J 何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	A 屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	B 屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベット上での生活主体で座位を保つ	C 一日中ベットで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	223	16	163	41	3
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	7.2	73.1	18.4	1.3

（表２－９－２－１２）排泄誘導拒否高齢者のパターン
（潜在クラス２クラスモデルのプロフィール）

(n=164)

項目	カテゴリー	全体	パターン1 自立、軽中程度重症度	パターン2 介助、中高程度重症度
	サイズ	1.000	0.659	0.341
性別	男	0.189	0.155	0.254
	女	0.811	0.845	0.746
排泄介助	身体介助必要	0.592	0.395	0.970
	身体介助必要なし	0.409	0.605	0.030
認知症の重症度	Ⅰ	0.031	0.033	0.026
	Ⅱ	0.146	0.173	0.095
	Ⅲ	0.463	0.538	0.319
	Ⅳ	0.323	0.235	0.494
	Ⅴ	0.037	0.021	0.067
身体障害の重症度	J	0.092	0.128	0.020
	A	0.726	0.865	0.456
	B	0.171	0.007	0.488
	C	0.012	0.000	0.036
（参考）該当事例数 →		(164)	(108)	(56)

（表２－９－２－１３）潜在クラスモデル評価（排泄誘導拒否高齢者パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	1094.9	1067.0
モデル2（クラス数2）	1107.0	1048.1
モデル3（クラス数3）	1147.7	1057.9
モデル4（クラス数4）	1189.6	1068.7

（表２－９－３－１）解決前の状況

	解決経験のある 有効回答数	強く拒否し、強い口調で怒った	リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった	トイレ誘導を定時で行うが拒否された	トイレまでは行くがズボンを下げなかった	色々と理由をつけて、拒否した	その他
実数	238	100	132	105	52	73	17
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	42.0	55.5	44.1	21.8	30.7	7.1

（表２－９－３－２）解決後の状況

	解決経験のある 有効回答数	最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	タンスの中に隠していた使用済みパッドが少なくなった	トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた	トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった	その他
実数	238	98	21	98	56	35	28
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	41.2	8.8	41.2	23.5	14.7	11.8

（表２－９－３－３）排泄誘導拒否の解決前のパターン
（潜在クラス６クラスモデルのプロフィール）

(n=144)

状況	全体	パターン1 不衛生だったり、定時誘導しても、強く拒否し怒った	パターン2 不衛生だったり、定時誘導しても、色々理由をつけて拒否した	パターン3 リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった	パターン4 トイレ誘導を定時で行うが拒否された	パターン5 頑固に拒否	パターン6 定時誘導を拒否したり、トイレまでは行くがズボンを下げなかった
サイズ	1.000	0.300	0.229	0.140	0.126	0.118	0.087
強く拒否し、強い口調で怒った	0.472	0.991	0.227	0.012	0.017	0.989	0.032
リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった	0.556	0.542	0.558	0.996	0.105	0.764	0.259
トイレ誘導を定時で行うが拒否された	0.493	0.435	0.336	0.063	0.995	0.920	0.490
トイレまでは行くがズボンを下げなかった	0.236	0.132	0.105	0.002	0.011	0.733	0.972
色々と理由をつけて、拒否した	0.347	0.038	0.985	0.008	0.022	0.887	0.016
（参考）平均項目数 →	2.1	2.1	2.2	1.1	1.1	4.3	1.8
該当事例数 →	(144)	(43)	(33)	(20)	(18)	(17)	(12)

（表２－９－３－４）潜在クラスモデル評価（排泄誘導拒否の解決前パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	964.8	950.0
モデル2(クラス数2)	976.1	943.4
モデル3(クラス数3)	999.9	949.4
モデル4(クラス数4)	1020.4	952.1
モデル5(クラス数5)	1032.3	946.2
モデル6(クラス数6)	1049.8	945.9
モデル7(クラス数7)	1071.8	950.0
モデル8(クラス数8)	1098.4	958.8

（表２－９－３－５）排泄誘導拒否の解決後のパターン
（潜在クラス４クラスモデルのプロフィール）

(n=144)

状況	全体	パターン1 誘導に応じる回数が増えたり、最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	パターン2 トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	パターン3 拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた	パターン4 トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった
サイズ	1.000	0.424	0.308	0.193	0.074
最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	0.451	0.996	0.066	0.026	0.047
タンスの中に隠していた使用済みパッドが少なくなった	0.097	0.108	0.120	0.038	0.097
トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	0.486	0.395	0.997	0.020	0.099
拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた	0.243	0.050	0.090	0.992	0.035
トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった	0.139	0.108	0.005	0.098	0.976
（参考）平均項目数 →	1.4	1.7	1.3	1.2	1.3
該当事例数 →	(144)	(61)	(44)	(28)	(11)

（表２－９－３－６）潜在クラスモデル評価（排泄誘導拒否の解決後パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	790.2	775.4
モデル2(クラス数2)	773.2	740.5
モデル3(クラス数3)	769.1	718.6
モデル4(クラス数4)	771.8	703.5
モデル5(クラス数5)	798.4	712.3
モデル6(クラス数6)	827.4	723.4
モデル7(クラス数7)	856.5	734.7
モデル8(クラス数8)	885.8	746.3

（表２－９－３－７）解決前後のパターンの相関行列
（全体）

(n=144)

			解決後のパターン			
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
			誘導に応じる回数が増えたり、最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた	トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった
解決前のパターン	パターン1	不衛生だったり、定時誘導しても、強く拒否し怒った	0.164 *	-0.153	0.013	-0.059
	パターン2	不衛生だったり、定時誘導しても、色々理由をつけて拒否した	-0.100	-0.050	0.142	0.058
	パターン3	リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった	0.016	0.043	-0.152	0.128
	パターン4	トイレ誘導を定時で行うが拒否された	-0.121	0.172 *	-0.030	-0.029
	パターン5	頑固に拒否	0.024	-0.090	0.147	-0.112
	パターン6	定時誘導を拒否したり、トイレまでは行くがズボンを下げなかった	-0.021	0.155	-0.153	0.002

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）　1%水準　**
5%水準　*

（表２－９－３－８）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン１“自立、軽中程度重症度”の場合）

(n=96)

			解決後のパターン			
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
			誘導に応じる回数が増えたり、最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた	トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった
解決前のパターン	パターン1	不衛生だったり、定時誘導しても、強く拒否し怒った	0.201	-0.217 *	0.008	-0.004
	パターン2	不衛生だったり、定時誘導しても、色々理由をつけて拒否した	-0.115	0.039	0.077	0.023
	パターン3	リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった	0.061	-0.036	-0.117	0.130
	パターン4	トイレ誘導を定時で行うが拒否された	-0.179	0.118	0.068	0.018
	パターン5	頑固に拒否	0.100	-0.117	0.090	-0.118
	パターン6	定時誘導を拒否したり、トイレまでは行くがズボンを下げなかった	-0.115	0.312 **	-0.160	-0.080

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）　1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－９－３－９）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン２“介助、中高程度重症度”の場合）

(n=48)

			解決後のパターン			
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
			誘導に応じる回数が増えたり、最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた	トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった
解決前のパターン	パターン1	不衛生だったり、定時誘導しても、強く拒否し怒った	0.090	−0.034	0.030	−0.170
	パターン2	不衛生だったり、定時誘導しても、色々理由をつけて拒否した	−0.047	−0.273	0.300 *	0.141
	パターン3	リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった	−0.069	0.193	−0.220	0.129
	パターン4	トイレ誘導を定時で行うが拒否された	−0.028	0.275	−0.216	−0.120
	パターン5	頑固に拒否	−0.134	−0.033	0.281	−0.104
	パターン6	定時誘導を拒否したり、トイレまでは行くがズボンを下げなかった	0.162	−0.162	−0.137	0.189

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　（有意水準）　1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－９－３－１０）高齢者パターン別にみた解決前の状況

【実数】

	全体	パターン1 自立、軽中程度重症度	パターン2 介助、中高程度重症度
有効回答数	144	94	50
強く拒否し、強い口調で怒った	68	43	25
リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった	80	55	25
トイレ誘導を定時で行うが拒否された	71	46	25
トイレまでは行くがズボンを下げなかった	34	22	12
色々と理由をつけて、拒否した	50	36	14

【比率】（縦 100）

全体	パターン1 自立、軽中程度重症度	パターン2 介助、中高程度重症度
100.0	100.0	100.0
47.2	45.7	50.0
55.6	58.5	50.0
49.3	48.9	50.0
23.6	23.4	24.0
34.7	38.3	28.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－９－３－１１）高齢者パターン別にみた解決後の状況

【実数】

	全体	パターン1 自立、軽中程度重症度	パターン2 介助、中高程度重症度
有効回答数	144	94	50
多少抵抗はあるが、パッドの交換に応じるようになった	65	40	25
対応する職員によっては居室内では応じるようになった	14	11	3
パッド内の失禁は時々見られるが、トイレ時の何回かは交換できるようになった	70	48	22
声をかけると抵抗無く、交換できるようになった	35	23	12
交換の際にお礼のことばを言ってくれるようになった	20	15	5

【比率】（縦 100）

全体	パターン1 自立、軽中程度重症度	パターン2 介助、中高程度重症度
100.0	100.0	100.0
45.1	42.6	50.0
9.7	11.7	6.0
48.6	51.1	44.0
24.3	24.5	24.0
13.9	16.0	10.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－９－４－１）排泄誘導拒否の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
有効回答数			237	100.0
誘導時間	101	排泄パターンに応じ	177	74.7
	102	定時声かけ	114	48.1
誘導の工夫	201	本人の行動・状態に応じて	149	62.9
	202	トイレ以外の理由で誘導	32	13.5
	203	会話をしながら	123	51.9
	204	他者と一緒に	43	18.1
	205	職員と一緒に	34	14.3
	206	慣れた言葉	26	11.0
	207	本人だけに	79	33.3
	208	トイレという言葉を使用しない	97	40.9
	209	移動時	133	56.1
	210	説明と納得	10	4.2
	211	着替えの促し	3	1.3
	213	気分の良いときに	2	0.8
	214	外出してから	1	0.4
	215	家族による説明・誘導	1	0.4
	216	トイレを見せ認識を促す	1	0.4
	290	その他	1	0.4
介助の工夫	301	おしりの状態をみる	39	16.5
	302	すばやく	90	38.0
	303	パッドをすばやく片付ける	46	19.4
	305	見守り、外でまつ	6	2.5
	306	極力本人で、部分介助	4	1.7
	308	静かなところで介助	1	0.4
	309	トイレ室温	1	0.4
	310	介助者の性別考慮	4	1.7
	390	その他	13	5.5
コミュニケーション	401	賞賛、ほめる	117	49.4
	402	トイレ備品の使用について声かけ	16	6.8
	403	お金の心配払拭	15	6.3
	404	衛生・疾病の説明	51	21.5
	405	パッド交換は職員で	49	20.7
	407	好きな話題で	2	0.8
	408	やさしく、笑顔で	3	1.3
	409	本人の思いを傾聴する	1	0.4
	410	わかりやすく伝える	1	0.4
	411	慰め	1	0.4
	412	日頃のコミュニケーション量増やす	2	0.8
	413	信頼関係の構築	10	4.2
	490	その他	2	0.8
その他	501	トイレ表示の工夫	1	0.4
	502	排泄用具の代替	2	0.8
	590	その他	7	3.0

（参考）平均記入項目数 → 6.4

（表２－９－４－２）排泄誘導拒否の解決方法組み合わせパターン

（潜在クラス 16 クラスモデルのプロフィール）

（n=237）

区分	code	解決方法	全体	パターン1 「本人の行動・状態に応じて」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「会話をしながら」、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均4.1項目と最少の組み合わせ	パターン2 「賞賛、ほめる」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	パターン3 「トイレという言葉を使用しない」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「移動時」）などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	パターン4 「移動時」と「すばやく」を共通ベースとして、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「排泄パターンに応じ」、「パッド交換は職員で」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	パターン5 「排泄パターンに応じ」、「会話をしながら」、「すばやく」、「賞賛、ほめる」の4項目を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」、「定時声かけ」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	パターン6 「本人だけに」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「移動時」、「会話をしながら」、「本人の行動・状態に応じて」、「他者と一緒に」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	パターン7 「賞賛、ほめる」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「本人だけに」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「移動時」などで構成された平均6.5項目の組み合わせ	パターン8 「パッドをすばやく片付ける」、「会話をしながら」、「移動時」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」の5項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」他で構成された平均11.6項目と最多の組み合わせ	パターン9 「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「トイレという言葉を使用しない」、「移動時」、「すばやく」の8項目を共通ベースとした平均10.8項目の組み合わせ	パターン10 「定時声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「おしりの状態をみる」の4項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「移動時」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	パターン11 「おしりの状態をみる」と「トイレ以外の理由で誘導」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	パターン12 「排泄パターンに応じ」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「他者と一緒に」、「すばやく」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	パターン13 「会話をしながら」と「賞賛、ほめる」を共通ベースとして、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」、「極力本人で、部分介助」、「衛生・疾病の説明」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	パターン14 「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「移動時」、「衛生・疾病の説明」、「信頼関係の構築」、「本人の行動・状態に応じて」、「慣れた言葉」などで構成された平均6.3項目の組み合わせ	パターン15 「パッドをすばやく片付ける」、「パッド交換は職員で」、「本人だけに」、「排泄パターンに応じ」の4項目を共通ベースとして、「移動時」、「トイレ備品の使用について声かけ」などで構成された平均9.1項目の組み合わせ	パターン16 「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「定時声かけ」、「衛生・疾病の説明」、「パッド交換は職員で」、「賞賛、ほめる」、「パッドをすばやく片付ける」の7項目を共通ベースとした平均8.8項目の組み合わせ
		サイズ	1.000	0.137	0.120	0.093	0.076	0.070	0.068	0.067	0.056	0.054	0.053	0.044	0.040	0.034	0.034	0.030	0.025
誘導時間	101	排泄パターンに応じ	0.747	0.842	0.931	0.575	0.320	0.998	0.747	0.378	0.620	0.999	0.836	0.688	0.998	0.272	0.998	0.856	0.997
	102	定時声かけ	0.481	0.232	0.003	0.485	0.673	0.557	0.338	0.997	0.544	0.840	0.997	0.428	0.762	0.244	0.139	0.429	0.828
誘導の工夫	201	本人の行動・状態に応じて	0.629	0.999	0.659	0.306	0.552	0.730	0.466	0.563	0.845	0.997	0.827	0.521	0.009	0.373	0.481	0.006	0.995
	202	トイレ以外の理由で誘導	0.135	0.000	0.000	0.001	0.001	0.275	0.248	0.001	0.602	0.272	0.001	0.761	0.321	0.001	0.001	0.001	0.170
	203	会話をしながら	0.519	0.433	0.394	0.436	0.383	0.996	0.585	0.506	0.920	0.838	0.493	0.302	0.111	0.996	0.004	0.429	0.498
	204	他者と一緒に	0.181	0.030	0.070	0.228	0.061	0.001	0.436	0.362	0.444	0.486	0.001	0.001	0.534	0.001	0.002	0.427	0.167
	205	職員と一緒に	0.144	0.000	0.236	0.046	0.001	0.055	0.001	0.119	0.527	0.346	0.311	0.388	0.001	0.381	0.001	0.143	0.002
	206	慣れた言葉	0.110	0.101	0.000	0.136	0.001	0.001	0.001	0.235	0.515	0.192	0.001	0.001	0.210	0.124	0.465	0.001	0.001
	207	本人だけに	0.333	0.003	0.289	0.414	0.115	0.157	0.920	0.716	0.467	0.877	0.090	0.002	0.005	0.254	0.398	0.994	0.004
	208	トイレという言葉を使用しない	0.409	0.328	0.226	0.996	0.235	0.497	0.180	0.002	0.843	0.891	0.336	0.593	0.064	0.485	0.393	0.146	0.168
	209	移動時	0.561	0.390	0.532	0.404	0.917	0.713	0.607	0.504	0.846	0.993	0.508	0.108	0.005	0.746	0.604	0.713	0.500
	210	説明と納得	0.042	0.031	0.105	0.000	0.000	0.061	0.000	0.124	0.000	0.000	0.239	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	211	着替えの促し	0.013	0.000	0.035	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.157	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	213	気分の良いときに	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.157	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	214	外出してから	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.125	0.000	0.000
	215	家族による説明・誘導	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.165
	216	トイレを見せ認識を促す	0.004	0.031	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	290	その他	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.075	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
介助の工夫	301	おしりの状態をみる	0.165	0.000	0.069	0.080	0.001	0.001	0.078	0.001	0.313	0.383	0.840	0.891	0.001	0.122	0.136	0.144	0.332
	302	すばやく	0.380	0.216	0.259	0.118	0.897	0.997	0.002	0.475	0.628	0.878	0.184	0.293	0.425	0.003	0.003	0.428	0.173
	303	パッドをすばやく片付ける	0.194	0.001	0.103	0.268	0.234	0.062	0.001	0.242	0.995	0.149	0.001	0.001	0.106	0.002	0.002	0.991	0.821
	305	見守り、外でまつ	0.025	0.091	0.000	0.045	0.000	0.062	0.000	0.000	0.000	0.000	0.079	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	306	極力本人で、部分介助	0.017	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.491	0.000	0.000	0.000
	308	静かなところで介助	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.062	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	309	トイレ室温	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.079	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	310	介助者の性別考慮	0.017	0.000	0.000	0.000	0.056	0.000	0.123	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.123	0.000	0.000	0.000
	390	その他	0.055	0.036	0.000	0.000	0.112	0.061	0.063	0.000	0.000	0.079	0.088	0.000	0.000	0.000	0.586	0.142	0.001
コミュニケーション	401	賞賛、ほめる	0.494	0.002	0.998	0.083	0.211	0.904	0.084	0.998	0.697	0.590	0.669	0.214	0.567	0.996	0.388	0.287	0.825
	402	トイレ備品の使用について声かけ	0.068	0.090	0.000	0.090	0.059	0.000	0.000	0.000	0.226	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.252	0.707	0.001
	403	お金の心配払拭	0.063	0.031	0.000	0.090	0.000	0.119	0.000	0.000	0.303	0.000	0.000	0.000	0.000	0.246	0.001	0.565	0.001
	404	衛生・疾病の説明	0.215	0.135	0.001	0.001	0.184	0.244	0.314	0.001	0.380	0.254	0.002	0.570	0.221	0.481	0.500	0.568	0.992
	405	パッド交換は職員で	0.207	0.000	0.001	0.103	0.320	0.352	0.197	0.180	0.692	0.238	0.001	0.001	0.212	0.002	0.244	0.993	0.991
	407	好きな話題で	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.060	0.000	0.000	0.000	0.000	0.080	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	408	やさしく、笑顔で	0.013	0.031	0.035	0.045	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	409	本人の思いを傾聴する	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.165
	410	わかりやすく伝える	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.062	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	411	慰め	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.141	0.000
	412	日頃のコミュニケーション量増やす	0.008	0.000	0.000	0.000	0.056	0.000	0.000	0.000	0.000	0.079	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	413	信頼関係の構築	0.042	0.053	0.000	0.045	0.070	0.000	0.000	0.000	0.076	0.000	0.000	0.096	0.000	0.000	0.500	0.000	0.000
	490	その他	0.008	0.000	0.000	0.045	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.123	0.000	0.000	0.000
その他	501	トイレ表示の工夫	0.004	0.000	0.000	0.000	0.056	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	502	排泄用具の代替	0.008	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.245	0.000	0.000	0.000
	590	その他	0.030	0.000	0.068	0.000	0.058	0.061	0.062	0.063	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.125	0.000	0.000
		（参考）平均項目数 →	6.4	4.1	5.0	5.0	5.6	8.0	5.6	6.5	11.6	10.8	6.6	5.9	4.6	6.7	6.3	9.1	8.8
		該当事例数 →	(237)	(33)	(28)	(22)	(18)	(16)	(16)	(16)	(13)	(13)	(13)	(10)	(9)	(8)	(8)	(7)	(6)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－９－４－３）　潜在クラスモデル評価（排泄誘導拒否の解決方法組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル(クラス数)	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1(クラス数1)	5772.4	5623.3	0.000	0.000	1.000	1.000
モデル2(クラス数2)	5856.8	5555.1	0.062	0.734	0.720	0.749
モデル3(クラス数3)	6010.7	5556.4	0.092	0.804	0.746	0.761
モデル4(クラス数4)	6170.5	5563.6	0.113	0.771	0.764	0.754
モデル5(クラス数5)	6349.3	5589.8	0.103	0.811	0.792	0.777
モデル6(クラス数6)	6549.7	5637.6	0.148	0.766	0.775	0.729
モデル7(クラス数7)	6719.2	5654.5	0.123	0.806	0.801	0.766
モデル8(クラス数8)	6931.6	5714.3	0.116	0.823	0.826	0.787
モデル9(クラス数9)	7132.4	5762.5	0.118	0.836	0.841	0.794
モデル 10(クラス数 10)	7341.3	5818.8	0.117	0.846	0.847	0.799
モデル 11(クラス数 11)	7526.8	5851.7	0.122	0.851	0.840	0.794
モデル 12(クラス数 12)	7744.5	5916.8	0.100	0.871	0.878	0.835
モデル 13(クラス数 13)	7952.1	5971.8	0.096	0.890	0.880	0.840
モデル 14(クラス数 14)	8155.3	6022.5	0.103	0.883	0.887	0.833
モデル 15(クラス数 15)	8358.8	6073.4	0.089	0.894	0.900	0.857
モデル 16(クラス数 16)	8573.4	6135.4	0.061	0.930	0.929	0.898
モデル 17(クラス数 17)	8796.5	6205.8	0.085	0.900	0.903	0.859
モデル 18(クラス数 18)	8982.1	6238.8	0.098	0.865	0.899	0.840
モデル 19(クラス数 19)	9188.0	6292.2	0.083	0.906	0.916	0.866
モデル 20(クラス数 20)	9400.2	6351.7	0.065	0.926	0.929	0.890

（表２－９－４－４）　排泄誘導拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（全体）

(n=143)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン			
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
		誘導に応じる回数が増えたり、最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた	トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった
パターン1	「本人の行動・状態に応じて」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「会話をしながら」、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均4.1項目と最少の組み合わせ	0.032	−0.042	0.073	−0.104
パターン2	「賞賛、ほめる」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	−0.052	−0.062	−0.029	0.265 **
パターン3	「トイレという言葉を使用しない」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「移動時」）などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	0.056	0.026	−0.037	−0.099
パターン4	「移動時」と「すばやく」を共通ベースとして、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「排泄パターンに応じ」、「パッド交換は職員で」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	0.024	−0.013	−0.055	0.066
パターン5	「排泄パターンに応じ」、「会話をしながら」、「すばやく」、「賞賛、ほめる」の4項目を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」、「定時声かけ」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	−0.033	−0.072	0.166 *	−0.071
パターン6	「本人だけに」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「移動時」、「会話をしながら」、「本人の行動・状態に応じて」、「他者と一緒に」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	−0.064	0.087	−0.043	0.035
パターン7	「賞賛、ほめる」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「本人だけに」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「移動時」などで構成された平均6.5項目の組み合わせ	0.089	−0.016	−0.116	0.040
パターン8	「パッドをすばやく片付ける」、「会話をしながら」、「移動時」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」の5項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」他で構成された平均11.6項目と最多の組み合わせ	−0.003	−0.153	0.209 *	−0.050
パターン9	「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「トイレという言葉を使用しない」、「移動時」、「すばやく」の8項目を共通ベースとした平均10.8項目の組み合わせ	0.066	−0.010	−0.028	−0.067
パターン10	「定時声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「おしりの状態をみる」の4項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「移動時」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	0.025	0.018	−0.075	0.038
パターン11	「おしりの状態をみる」と「トイレ以外の理由で誘導」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	−0.003	0.033	0.002	−0.057
パターン12	「排泄パターンに応じ」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「他者と一緒に」、「すばやく」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	0.023	0.051	−0.061	−0.041
パターン13	「会話をしながら」と「賞賛、ほめる」を共通ベースとして、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」、「極力本人で、部分介助」、「衛生・疾病の説明」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	−0.190 *	0.249 **	−0.106	0.088
パターン14	「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「移動時」、「衛生・疾病の説明」、「信頼関係の構築」、「本人の行動・状態に応じて」、「慣れた言葉」などで構成された平均6.3項目の組み合わせ	0.186 *	−0.099	−0.084	−0.047
パターン15	「パッドをすばやく片付ける」、「パッド交換は職員で」、「本人だけに」、「排泄パターンに応じ」の4項目を共通ベースとして、「移動時」、「トイレ備品の使用について声かけ」などで構成された平均9.1項目の組み合わせ	−0.126	0.100	0.075	−0.058
パターン16	「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「定時声かけ」、「衛生・疾病の説明」、「パッド交換は職員で」、「賞賛、ほめる」、「パッドをすばやく片付ける」の7項目を共通ベースとした平均8.8項目の組み合わせ	0.020	−0.086	0.094	−0.034

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－９－４－５）　排泄誘導拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連
（全体）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況				
			最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	タンスの中に隠していた使用済みパッドが少なくなった	トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた	トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった
全体		143	45.5	9.8	49.0	24.5	13.3
パターン1	「本人の行動・状態に応じて」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「会話をしながら」、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均4.1項目と最少の組み合わせ	20	49.0	5.1	44.7	35.8	8.6
パターン2	「賞賛、ほめる」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	17	39.4	6.0	39.5	19.1	23.4
パターン3	「トイレという言葉を使用しない」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「移動時」)などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	16	52.3	23.3	50.4	22.4	6.0
パターン4	「移動時」と「すばやく」を共通ベースとして、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「排泄パターンに応じ」、「パッド交換は職員で」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	11	48.9	8.9	39.0	12.9	22.7
パターン5	「排泄パターンに応じ」、「会話をしながら」、「すばやく」、「賞賛、ほめる」の４項目を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」、「定時声かけ」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	10	40.3	0.0	39.8	42.9	8.9
パターン6	「本人だけに」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「移動時」、「会話をしながら」、「本人の行動・状態に応じて」、「他者と一緒に」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	11	38.3	1.8	61.4	37.8	9.8
パターン7	「賞賛、ほめる」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「本人だけに」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「移動時」などで構成された平均6.5項目の組み合わせ	8	62.1	0.0	40.3	13.2	21.6
パターン8	「パッドをすばやく片付ける」、「会話をしながら」、「移動時」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」の５項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」他で構成された平均11.6項目と最多の組み合わせ	7	43.9	0.2	15.0	56.0	14.3
パターン9	「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「トイレという言葉を使用しない」、「移動時」、「すばやく」の８項目を共通ベースとした平均10.8項目の組み合わせ	8	58.6	12.7	81.1	15.2	27.3
パターン10	「定時声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「おしりの状態をみる」の４項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「移動時」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	10	48.2	0.0	61.6	9.7	20.7
パターン11	「おしりの状態をみる」と「トイレ以外の理由で誘導」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	5	42.1	0.0	38.6	19.8	0.1
パターン12	「排泄パターンに応じ」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「他者と一緒に」、「すばやく」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	2	56.7	0.1	96.4	4.3	0.0
パターン13	「会話をしながら」と「賞賛、ほめる」を共通ベースとして、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」、「極力本人で、部分介助」、「衛生・疾病の説明」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	6	0.4	0.0	83.3	0.0	16.6
パターン14	「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「移動時」、「衛生・疾病の説明」、「信頼関係の構築」、「本人の行動・状態に応じて」、「慣れた言葉」などで構成された平均6.3項目の組み合わせ	4	94.7	1.7	30.4	1.4	0.9
パターン15	「パッドをすばやく片付ける」、「パッド交換は職員で」、「本人だけに」、「排泄パターンに応じ」の４項目を共通ベースとして、「移動時」、「トイレ備品の使用について声かけ」などで構成された平均9.1項目の組み合わせ	6	16.7	83.1	66.6	33.3	0.1
パターン16	「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「定時声かけ」、「衛生・疾病の説明」、「パッド交換は職員で」、「賞賛、ほめる」、「パッドをすばやく片付ける」の７項目を共通ベースとした平均8.8項目の組み合わせ	2	50.7	49.2	1.2	49.3	1.2

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－９－４－６）　排泄誘導拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン１“自立、軽中程度重症度”の場合）

（n=95）

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン			
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
		誘導に応じる回数が増えたり、最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた	トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった
パターン1	「本人の行動・状態に応じて」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「会話をしながら」、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均4.1項目と最少の組み合わせ	0.161	−0.136	0.021	−0.097
パターン2	「賞賛、ほめる」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	−0.118	−0.025	−0.067	0.382 **
パターン3	「トイレという言葉を使用しない」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「移動時」）などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	0.099	0.003	−0.065	−0.089
パターン4	「移動時」と「すばやく」を共通ベースとして、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「排泄パターンに応じ」、「パッド交換は職員で」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	0.012	0.003	−0.063	0.074
パターン5	「排泄パターンに応じ」、「会話をしながら」、「すばやく」、「賞賛、ほめる」の４項目を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」、「定時声かけ」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	−0.035	−0.047	0.122	−0.046
パターン6	「本人だけに」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「移動時」、「会話をしながら」、「本人の行動・状態に応じて」、「他者と一緒に」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	−0.017	0.061	−0.112	0.103
パターン7	「賞賛、ほめる」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「本人だけに」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「移動時」などで構成された平均6.5項目の組み合わせ	0.011	0.111	−0.098	−0.063
パターン8	「パッドをすばやく片付ける」、「会話をしながら」、「移動時」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」の５項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」他で構成された平均11.6項目と最多の組み合わせ	−0.051	−0.176	0.289 **	−0.055
パターン9	「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「トイレという言葉を使用しない」、「移動時」、「すばやく」の８項目を共通ベースとした平均10.8項目の組み合わせ	0.124	−0.073	−0.019	−0.073
パターン10	「定時声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「おしりの状態をみる」の４項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「移動時」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	0.029	−0.009	0.012	−0.060
パターン11	「おしりの状態をみる」と「トイレ以外の理由で誘導」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	−0.164	0.143	0.066	−0.052
パターン12	「排泄パターンに応じ」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「他者と一緒に」、「すばやく」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	0.140	−0.067	−0.066	−0.040
パターン13	「会話をしながら」と「賞賛、ほめる」を共通ベースとして、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」、「極力本人で、部分介助」、「衛生・疾病の説明」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	−0.186	0.327 **	−0.109	−0.059
パターン14	「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「移動時」、「衛生・疾病の説明」、「信頼関係の構築」、「本人の行動・状態に応じて」、「慣れた言葉」などで構成された平均6.3項目の組み合わせ	0.200	−0.099	−0.095	−0.051
パターン15	「パッドをすばやく片付ける」、「パッド交換は職員で」、「本人だけに」、「排泄パターンに応じ」の４項目を共通ベースとして、「移動時」、「トイレ備品の使用について声かけ」などで構成された平均9.1項目の組み合わせ	−0.149	0.121	0.085	−0.072
パターン16	「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「定時声かけ」、「衛生・疾病の説明」、「パッド交換は職員で」、「賞賛、ほめる」、「パッドをすばやく片付ける」の７項目を共通ベースとした平均8.8項目の組み合わせ	0.030	−0.107	0.109	−0.042

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　　（有意水準）1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－９－４－７）　排泄誘導拒否の解決方法パターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン１“自立、軽中程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況				
			最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	タンスの中に隠していた使用済みパッドが少なくなった	トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた	トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった
全体		95	44.2	12.6	52.6	25.3	14.7
パターン1	「本人の行動・状態に応じて」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「会話をしながら」、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均4.1項目と最少の組み合わせ	11	64.4	9.3	39.9	31.3	7.3
パターン2	「賞賛、ほめる」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	13	29.7	7.5	42.0	13.9	29.1
パターン3	「トイレという言葉を使用しない」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「移動時」)などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	10	57.5	28.0	53.4	24.4	9.8
パターン4	「移動時」と「すばやく」を共通ベースとして、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「排泄パターンに応じ」、「パッド交換は職員で」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	10	44.2	0.0	33.3	13.6	23.4
パターン5	「排泄パターンに応じ」、「会話をしながら」、「すばやく」、「賞賛、ほめる」の４項目を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」、「定時声かけ」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	5	37.2	0.0	57.9	40.2	18.9
パターン6	「本人だけに」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「移動時」、「会話をしながら」、「本人の行動・状態に応じて」、「他者と一緒に」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	6	46.1	3.0	53.7	30.7	15.6
パターン7	「賞賛、ほめる」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「本人だけに」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「移動時」などで構成された平均6.5項目の組み合わせ	4	46.0	0.0	75.7	24.8	0.0
パターン8	「パッドをすばやく片付ける」、「会話をしながら」、「移動時」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」の５項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」他で構成された平均11.6項目と最多の組み合わせ	6	34.2	0.0	17.2	65.7	16.8
パターン9	「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「トイレという言葉を使用しない」、「移動時」、「すばやく」の８項目を共通ベースとした平均10.8項目の組み合わせ	6	65.9	15.4	82.3	17.7	33.2
パターン10	「定時声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「おしりの状態をみる」の４項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「移動時」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	4	50.7	0.0	76.5	22.3	23.2
パターン11	「おしりの状態をみる」と「トイレ以外の理由で誘導」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	3	0.8	0.0	65.8	34.1	0.0
パターン12	「排泄パターンに応じ」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「他者と一緒に」、「すばやく」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	1	97.5	0.1	97.2	4.1	0.0
パターン13	「会話をしながら」と「賞賛、ほめる」を共通ベースとして、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」、「極力本人で、部分介助」、「衛生・疾病の説明」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	4	0.4	0.0	100.0	0.0	0.0
パターン14	「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「移動時」、「衛生・疾病の説明」、「信頼関係の構築」、「本人の行動・状態に応じて」、「慣れた言葉」などで構成された平均6.3項目の組み合わせ	3	93.9	2.3	41.4	0.9	0.5
パターン15	「パッドをすばやく片付ける」、「パッド交換は職員で」、「本人だけに」、「排泄パターンに応じ」の４項目を共通ベースとして、「移動時」、「トイレ備品の使用について声かけ」などで構成された平均9.1項目の組み合わせ	6	16.7	83.1	66.6	33.3	0.1
パターン16	「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「定時声かけ」、「衛生・疾病の説明」、「パッド交換は職員で」、「賞賛、ほめる」、「パッドをすばやく片付ける」の７項目を共通ベースとした平均8.8項目の組み合わせ	2	50.7	49.3	1.2	49.3	1.2

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－９－４－８）　排泄誘導拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン２“介助、中高程度重症度”の場合）

(n=79)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン			
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
		誘導に応じる回数が増えたり、最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた	トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった
パターン1	「本人の行動・状態に応じて」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「会話をしながら」、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均4.1項目と最少の組み合わせ	−0.180	0.112	0.176	−0.118
パターン2	「賞賛、ほめる」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	0.148	−0.180	0.072	−0.081
パターン3	「トイレという言葉を使用しない」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「移動時」）などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	−0.024	0.071	0.020	−0.117
パターン4	「移動時」と「すばやく」を共通ベースとして、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「排泄パターンに応じ」、「パッド交換は職員で」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	0.108	−0.091	−0.058	0.040
パターン5	「排泄パターンに応じ」、「会話をしながら」、「すばやく」、「賞賛、ほめる」の4項目を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」、「定時声かけ」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	−0.045	−0.106	0.257	−0.112
パターン6	「本人だけに」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「移動時」、「会話をしながら」、「本人の行動・状態に応じて」、「他者と一緒に」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	−0.147	0.133	0.087	−0.086
パターン7	「賞賛、ほめる」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「本人だけに」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「移動時」などで構成された平均6.5項目の組み合わせ	0.197	−0.206	−0.143	0.208
パターン8	「パッドをすばやく片付ける」、「会話をしながら」、「移動時」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」の5項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」他で構成された平均11.6項目と最多の組み合わせ	0.167	−0.102	−0.072	−0.041
パターン9	「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「トイレという言葉を使用しない」、「移動時」、「すばやく」の8項目を共通ベースとした平均10.8項目の組み合わせ	−0.088	0.187	−0.074	−0.055
パターン10	「定時声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「おしりの状態をみる」の4項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「移動時」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	0.004	0.060	−0.187	0.176
パターン11	「おしりの状態をみる」と「トイレ以外の理由で誘導」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	0.261	−0.156	−0.114	−0.066
パターン12	「排泄パターンに応じ」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「他者と一緒に」、「すばやく」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	−0.146	0.227	−0.055	−0.042
パターン13	「会話をしながら」と「賞賛、ほめる」を共通ベースとして、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」、「極力本人で、部分介助」、「衛生・疾病の説明」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	−0.199	0.095	−0.100	0.395 **
パターン14	「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「移動時」、「衛生・疾病の説明」、「信頼関係の構築」、「本人の行動・状態に応じて」、「慣れた言葉」などで構成された平均6.3項目の組み合わせ	0.160	−0.102	−0.063	−0.040
パターン15	「パッドをすばやく片付ける」、「パッド交換は職員で」、「本人だけに」、「排泄パターンに応じ」の4項目を共通ベースとして、「移動時」、「トイレ備品の使用について声かけ」などで構成された平均9.1項目の組み合わせ	0.052	0.057	−0.100	−0.058
パターン16	「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「定時声かけ」、「衛生・疾病の説明」、「パッド交換は職員で」、「賞賛、ほめる」、「パッドをすばやく片付ける」の7項目を共通ベースとした平均8.8項目の組み合わせ	−0.026	−0.161	0.245	−0.029

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－９－４－９）　排泄誘導拒否の解決方法組み合わせパターンと解決後の状況
（高齢者パターン２“介助、中高程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況				
			最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	タンスの中に隠していた使用済みパッドが少なくなった	トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた	トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった
全体		48	47.9	4.2	41.7	22.9	10.4
パターン1	「本人の行動・状態に応じて」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「会話をしながら」、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均4.1項目と最少の組み合わせ	9	30.2	0.1	50.6	41.2	10.1
パターン2	「賞賛、ほめる」と「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	3	78.9	0.0	29.3	40.2	0.1
パターン3	「トイレという言葉を使用しない」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「移動時」)などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	6	44.2	15.8	45.6	19.3	0.0
パターン4	「移動時」と「すばやく」を共通ベースとして、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「排泄パターンに応じ」、「パッド交換は職員で」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	1	79.3	66.4	75.6	8.5	17.6
パターン5	「排泄パターンに応じ」、「会話をしながら」、「すばやく」、「賞賛、ほめる」の４項目を共通ベースとして、「本人の行動・状態に応じて」、「移動時」、「定時声かけ」などで構成された平均8.0項目の組み合わせ	6	43.1	0.0	23.7	45.4	0.0
パターン6	「本人だけに」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「移動時」、「会話をしながら」、「本人の行動・状態に応じて」、「他者と一緒に」などで構成された平均5.6項目の組み合わせ	4	26.4	0.1	73.0	48.6	0.8
パターン7	「賞賛、ほめる」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「本人だけに」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「移動時」などで構成された平均6.5項目の組み合わせ	4	80.3	0.0	0.1	0.0	46.0
パターン8	「パッドをすばやく片付ける」、「会話をしながら」、「移動時」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」の５項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」他で構成された平均11.6項目と最多の組み合わせ	1	100.0	0.9	2.3	0.0	0.0
パターン9	「排泄パターンに応じ」、「定時声かけ」、「本人の行動・状態に応じて」、「会話をしながら」、「本人だけに」、「トイレという言葉を使用しない」、「移動時」、「すばやく」の８項目を共通ベースとした平均10.8項目の組み合わせ	1	25.1	0.0	75.5	3.9	0.0
パターン10	「定時声かけ」、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「おしりの状態をみる」の４項目を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「移動時」などで構成された平均6.6項目の組み合わせ	6	46.3	0.0	51.0	0.7	18.9
パターン11	「おしりの状態をみる」と「トイレ以外の理由で誘導」を共通ベースとして、「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「トイレという言葉を使用しない」などで構成された平均5.9項目の組み合わせ	2	97.9	0.0	1.8	0.4	0.2
パターン12	「排泄パターンに応じ」と「定時声かけ」を共通ベースとして、「賞賛、ほめる」、「他者と一緒に」、「すばやく」などで構成された平均4.6項目の組み合わせ	1	0.1	0.0	95.4	4.5	0.0
パターン13	「会話をしながら」と「賞賛、ほめる」を共通ベースとして、「移動時」、「トイレという言葉を使用しない」、「極力本人で、部分介助」、「衛生・疾病の説明」などで構成された平均6.7項目の組み合わせ	2	0.5	0.0	50.0	0.0	49.6
パターン14	「排泄パターンに応じ」を共通ベースとして、「移動時」、「衛生・疾病の説明」、「信頼関係の構築」、「本人の行動・状態に応じて」、「慣れた言葉」などで構成された平均6.3項目の組み合わせ	1	96.9	0.0	0.5	2.7	2.2
パターン15	「パッドをすばやく片付ける」、「パッド交換は職員で」、「本人だけに」、「排泄パターンに応じ」の４項目を共通ベースとして、「移動時」、「トイレ備品の使用について声かけ」などで構成された平均9.1項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0
パターン16	「排泄パターンに応じ」、「本人の行動・状態に応じて」、「定時声かけ」、「衛生・疾病の説明」、「パッド交換は職員で」、「賞賛、ほめる」、「パッドをすばやく片付ける」の７項目を共通ベースとした平均8.8項目の組み合わせ	0	0	0	0	0	0

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－９－５－１）　排泄誘導拒否の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
		計（延解決方法件数）	1,420	100.0
認知能力	1	認知機能	50	3.5
	2	認知症の種類	14	1.0
	3	見当識	11	0.8
	4	認知症罹患期間	2	0.1
健康面	5	服薬状況	17	1.2
	6	現病・既往歴	22	1.5
	7	失禁有無	82	5.8
	8	水分状態	45	3.2
	9	便の状態	34	2.4
	10	失禁状況	93	6.5
	11	睡眠時間・状況	27	1.9
	12	皮膚疾患	26	1.8
	13	排泄状況	65	4.6
能力・機能	14	歩行・下肢機能	34	2.4
	15	視覚機能	2	0.1
	16	言語能力	20	1.4
	18	尿意・排泄感覚	118	8.3
心理面	19	気分	252	17.7
	20	本人の気持ち、意志	559	39.4
	21	興味・関心	78	5.5
排泄行動	22	排泄・排尿時間	173	12.2
	23	排泄間隔	173	12.2
	24	排泄頻度	115	8.1
	25	排泄場所	47	3.3
	26	抵抗が始まった時期	11	0.8
	27	排泄に関する生活習慣	74	5.2
	28	パッドの必要性	58	4.1
	29	誘導の時間帯	139	9.8
抵抗時の状態	30	抵抗時の様子	100	7.0
	31	抵抗時の表情	100	7.0
生活習慣	32	生活状況（数日内）	26	1.8
	33	生活習慣（ここ数年）	75	5.3
	34	生活歴（幼少期から）	34	2.4
環境	35	交換場所	35	2.5
	36	施設環境	31	2.2
人間関係	37	他の入居者との関係	73	5.1
	38	スタッフとの関係	333	23.5
	39	家族関係	6	0.4
介護者の対応	40	スタッフの声かけ内容・見守り方	599	42.2
	41	介護者の性別	57	4.0
その他	42	性格	212	14.9
		（参考）平均記入項目数 →	2.8	

（表２－９－５－２）排泄誘導拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン

（潜在クラス 20 クラスモデルのプロフィール）

(n=1420)

区分	code	解決に役立った情報	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17	パターン18	パターン19	パターン20
				「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「性格」などで構成された平均1.8項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「性格」、「気分」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	「スタッフとの関係」、「他の入居者との関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「性格」などで構成された平均1.9項目の組み合わせ	「誘導の時間帯」、「排泄・排尿時間」、「排泄間隔」、「排泄頻度」などの"排泄行動"を主として構成された平均3.0項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「他の入居者との関係」などで構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	「気分」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均2.5項目の組み合わせ	「失禁状況」、「排泄状況」、「失禁有無」、「水分状態」、「便の状態」、「尿意・排泄感覚」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.1項目の組み合わせ	「性格」、「本人の気持ち、意志」、「生活習慣（ここ数年）」、「排泄に関する生活習慣」などで構成された平均2.1項目の組み合わせ	「抵抗時の表情」を共通ベースとして、「抵抗時の様子」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」、「性格」などで構成された平均3.3項目の組み合わせ	「排泄間隔」、「本人の気持ち、意志」、「尿意・排泄感覚」、「排泄・排尿時間」、「パッドの必要性」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「排泄」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフとの関係」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」に関する生活習慣」、「排泄場所」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフとの関係」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	「興味・関心」を共通ベースとして、「気分」と「本人の気持ち、意志」を含めた"心理面"を主として構成された平均2.8項目の組み合わせ	「排泄間隔」、「排泄頻度」、「排泄・排尿時間」など"排泄行動"を主として構成された平均3.1項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「尿意・排泄感覚」、「生活習慣（ここ数年）」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「排泄間隔」、「排泄・排尿時間」、「排泄頻度」、「スタッフとの関係」、「誘導の時間帯」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「失禁状況」、「失禁有無」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	「失禁有無」、「気分」、「認知症の種類」、「排泄状況」などで構成された平均2.6項目の組み合わせ	「生活歴（幼少期から）」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」、「現病・既往歴」などで構成された平均7.9項目と最多の組み合わせ
		サイズ	1.000	0.111	0.099	0.077	0.074	0.065	0.064	0.060	0.060	0.059	0.043	0.039	0.038	0.036	0.035	0.035	0.031	0.030	0.030	0.013	0.004
認知能力	1	認知機能	0.035	0.006	0.000	0.013	0.008	0.000	0.000	0.098	0.000	0.000	0.018	0.086	0.144	0.184	0.063	0.000	0.124	0.025	0.138	0.000	0.000
	2	認知症の種類	0.010	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.028	0.000	0.000	0.000	0.000	0.011	0.041	0.020	0.000	0.000	0.000	0.092	0.222	0.000
	3	見当識	0.008	0.000	0.000	0.022	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.019	0.040	0.000	0.023	0.000	0.027	0.191	0.000
	4	認知症罹患期間	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.111	0.000
健康面	5	服薬状況	0.012	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.142	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.020	0.036	0.000	0.000	0.000	0.000	0.387
	6	現病・既往歴	0.016	0.007	0.000	0.000	0.000	0.047	0.000	0.080	0.013	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.058	0.000	0.000	0.174	0.584
	7	失禁有無	0.058	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.405	0.009	0.064	0.000	0.156	0.000	0.000	0.000	0.141	0.117	0.032	0.281	0.348	0.195
	8	水分状態	0.032	0.000	0.000	0.000	0.049	0.000	0.000	0.257	0.000	0.000	0.000	0.141	0.000	0.000	0.000	0.000	0.023	0.159	0.000	0.128	0.000
	9	便の状態	0.024	0.000	0.000	0.000	0.000	0.017	0.030	0.206	0.000	0.010	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.040	0.000	0.075	0.113	0.070	0.000
	10	失禁状況	0.066	0.000	0.000	0.006	0.000	0.045	0.000	0.475	0.007	0.097	0.000	0.137	0.000	0.000	0.000	0.167	0.034	0.129	0.378	0.000	0.001
	11	睡眠時間・状況	0.019	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.174	0.012	0.000	0.000	0.000	0.036	0.000	0.000	0.000	0.000	0.024	0.111	0.078	0.389
	12	皮膚疾患	0.018	0.032	0.000	0.000	0.000	0.012	0.000	0.018	0.000	0.077	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.161	0.172	0.387
	13	排泄状況	0.046	0.011	0.000	0.000	0.029	0.042	0.019	0.430	0.000	0.000	0.000	0.036	0.000	0.000	0.000	0.112	0.024	0.092	0.038	0.201	0.000
能力・機能	14	歩行・下肢機能	0.024	0.003	0.025	0.041	0.020	0.063	0.022	0.027	0.000	0.000	0.014	0.033	0.000	0.046	0.000	0.000	0.000	0.000	0.168	0.067	0.000
	15	視覚機能	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.037	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	16	言語能力	0.014	0.000	0.006	0.027	0.000	0.046	0.036	0.012	0.000	0.000	0.018	0.000	0.000	0.000	0.041	0.000	0.081	0.024	0.000	0.000	0.000
	18	尿意・排泄感覚	0.083	0.005	0.007	0.000	0.000	0.047	0.164	0.292	0.000	0.076	0.032	0.409	0.000	0.144	0.000	0.100	0.224	0.259	0.133	0.139	0.001
心理面	19	気分	0.178	0.008	0.461	0.001	0.000	0.002	0.996	0.018	0.000	0.000	0.116	0.163	0.698	0.001	0.443	0.027	0.001	0.058	0.184	0.260	0.391
	20	本人の気持ち、意志	0.394	0.027	0.816	0.083	0.050	0.998	0.393	0.202	0.729	0.269	0.280	0.447	0.642	0.292	0.373	0.001	0.953	0.190	0.859	0.002	0.203
	21	興味・関心	0.055	0.036	0.000	0.000	0.010	0.033	0.000	0.000	0.000	0.000	0.050	0.055	0.089	0.000	0.996	0.000	0.047	0.032	0.064	0.001	0.390
排泄行動	22	排泄・排尿時間	0.122	0.012	0.059	0.000	0.672	0.015	0.000	0.075	0.048	0.000	0.113	0.369	0.000	0.141	0.000	0.593	0.000	0.392	0.000	0.001	0.001
	23	排泄間隔	0.122	0.000	0.072	0.010	0.404	0.001	0.000	0.122	0.024	0.000	0.017	0.631	0.028	0.000	0.058	0.894	0.072	0.455	0.001	0.001	0.001
	24	排泄頻度	0.081	0.000	0.000	0.000	0.400	0.023	0.033	0.060	0.000	0.059	0.000	0.151	0.000	0.000	0.020	0.612	0.063	0.363	0.000	0.000	0.001
	25	排泄場所	0.033	0.000	0.000	0.000	0.121	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.033	0.102	0.000	0.347	0.000	0.165	0.000	0.000	0.022	0.000	0.000
	26	抵抗が始まった時期	0.008	0.000	0.000	0.010	0.033	0.000	0.011	0.000	0.000	0.030	0.000	0.000	0.000	0.017	0.000	0.000	0.000	0.024	0.000	0.000	0.194
	27	排泄に関する生活習慣	0.052	0.000	0.005	0.043	0.142	0.000	0.044	0.000	0.000	0.224	0.034	0.000	0.000	0.385	0.041	0.042	0.049	0.071	0.000	0.000	0.001
	28	パッドの必要性	0.041	0.035	0.000	0.000	0.151	0.023	0.000	0.068	0.019	0.101	0.014	0.267	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.068	0.000	0.000	0.000
	29	誘導の時間帯	0.098	0.016	0.023	0.038	0.737	0.069	0.039	0.107	0.016	0.000	0.073	0.128	0.000	0.000	0.000	0.000	0.162	0.283	0.000	0.000	0.001
抵抗時の状態	30	抵抗時の様子	0.070	0.061	0.122	0.039	0.048	0.000	0.000	0.000	0.000	0.088	0.575	0.000	0.072	0.000	0.041	0.000	0.174	0.102	0.000	0.115	0.393
	31	抵抗時の表情	0.070	0.000	0.097	0.000	0.007	0.000	0.053	0.073	0.055	0.000	0.997	0.000	0.000	0.000	0.000	0.041	0.128	0.000	0.000	0.062	0.195
生活習慣	32	生活状況（数日内）	0.018	0.000	0.000	0.000	0.011	0.000	0.000	0.000	0.000	0.138	0.033	0.000	0.018	0.000	0.000	0.000	0.091	0.072	0.000	0.067	0.394
	33	生活習慣（ここ数年）	0.053	0.000	0.000	0.000	0.109	0.000	0.055	0.000	0.112	0.247	0.000	0.000	0.040	0.162	0.081	0.000	0.220	0.000	0.000	0.127	0.395
	34	生活歴（幼少期から）	0.024	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.088	0.161	0.034	0.000	0.000	0.000	0.081	0.000	0.000	0.069	0.000	0.000	0.790
環境	35	交換場所	0.025	0.000	0.036	0.026	0.000	0.000	0.048	0.000	0.082	0.057	0.048	0.000	0.000	0.095	0.020	0.018	0.000	0.000	0.036	0.000	0.000
	36	施設環境	0.022	0.004	0.000	0.012	0.000	0.000	0.000	0.013	0.058	0.080	0.017	0.000	0.036	0.071	0.101	0.000	0.000	0.000	0.066	0.000	0.393
人間関係	37	他の入居者との関係	0.051	0.011	0.021	0.321	0.012	0.121	0.030	0.000	0.106	0.000	0.064	0.021	0.000	0.000	0.000	0.000	0.046	0.000	0.000	0.000	0.391
	38	スタッフとの関係	0.235	0.247	0.273	0.507	0.022	0.000	0.115	0.061	0.850	0.001	0.123	0.000	0.972	0.271	0.188	0.045	0.001	0.344	0.164	0.030	0.593
	39	家族関係	0.004	0.000	0.000	0.006	0.000	0.000	0.011	0.000	0.018	0.022	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.194
介護者の対応	40	スタッフの声かけ内容・見守り方	0.422	0.999	0.624	0.291	0.000	0.109	0.217	0.059	0.784	0.001	0.352	0.205	0.990	0.560	0.031	0.064	0.997	0.932	0.380	0.002	0.594
	41	介護者の性別	0.040	0.071	0.000	0.148	0.000	0.005	0.061	0.036	0.020	0.041	0.000	0.000	0.165	0.000	0.102	0.000	0.031	0.000	0.000	0.000	0.000
その他	42	性格	0.149	0.191	0.538	0.291	0.013	0.001	0.076	0.032	0.000	0.303	0.223	0.000	0.000	0.059	0.081	0.000	0.000	0.234	0.132	0.001	0.390
		（参考）平均項目数 →	2.8	1.8	3.2	1.9	3.0	1.7	2.5	3.6	3.1	2.1	3.3	3.5	4.0	2.8	2.8	3.1	3.7	4.5	3.6	2.6	7.9
		該当事例数 →	(1420)	(157)	(140)	(110)	(106)	(92)	(90)	(86)	(84)	(84)	(60)	(55)	(54)	(51)	(49)	(49)	(44)	(42)	(42)	(18)	(5)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－９－５－３）潜在クラスモデル評価（排泄誘導拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン）

（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1（クラス数1）	24228.0	24012.4	0.0000	0.000	1.000	1.000
モデル2（クラス数2）	23415.4	22978.9	0.0619	0.785	0.736	0.776
モデル3（クラス数3）	23355.8	22698.5	0.0657	0.767	0.765	0.775
モデル4（クラス数4）	23501.1	22622.9	0.1866	0.652	0.633	0.604
モデル5（クラス数5）	23692.3	22593.2	0.1986	0.687	0.657	0.609
モデル6（クラス数6）	23873.6	22553.7	0.2136	0.677	0.666	0.604
モデル7（クラス数7）	24047.3	22506.6	0.1904	0.734	0.725	0.668
モデル8（クラス数8）	24276.1	22514.5	0.1617	0.781	0.756	0.712
モデル9（クラス数9）	24482.0	22499.5	0.1411	0.819	0.798	0.758
モデル 10（クラス数 10）	24719.6	22516.3	0.2292	0.704	0.713	0.630
モデル 11（クラス数 11）	24927.8	22503.7	0.1984	0.739	0.746	0.671
モデル 12（クラス数 12）	25216.4	22571.4	0.2192	0.716	0.745	0.651
モデル 13（クラス数 13）	25422.5	22556.7	0.2010	0.744	0.761	0.675
モデル 14（クラス数 14）	25690.8	22604.1	0.1930	0.751	0.765	0.683
モデル 15（クラス数 15）	25874.3	22566.7	0.2092	0.755	0.763	0.667
モデル 16（クラス数 16）	26155.2	22626.8	0.2415	0.705	0.729	0.623
モデル 17（クラス数 17）	26442.5	22693.2	0.2472	0.716	0.738	0.622
モデル 18（クラス数 18）	26653.0	22682.9	0.2219	0.737	0.758	0.655
モデル 19（クラス数 19）	26971.3	22780.3	0.2322	0.705	0.750	0.638
モデル 20（クラス数 20）	27189.9	22778.1	0.2009	0.774	0.795	0.690

（表２－９－５－４）排泄誘導拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

【比率】（縦100）

区分	code	解決方法	合計	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17	パターン18	パターン19	パターン20
			情報の組み合わせパターン	「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「性格」などで構成された平均1.8項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「性格」、「気分」、「スタッフとの関係」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	「スタッフとの関係」、「他の入居者との関係」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「性格」などで構成された平均1.9項目の組み合わせ	「誘導の時間帯」、「排泄・排尿時間」、「排泄間隔」、「排泄頻度」などの"排泄行動"を主として構成された平均3.0項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「他の入居者との関係」などで構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	「気分」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均2.5項目の組み合わせ	「失禁状況」、「排泄状況」、「失禁有無」、「水分状態」、「便の状態」、「尿意・排泄感覚」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.1項目の組み合わせ	「性格」、「本人の気持ち、意志」、「生活習慣（ここ数年）」、「排泄に関する生活習慣」などで構成された平均2.1項目の組み合わせ	「抵抗時の表情」を共通ベースとして、「抵抗時の様子」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」、「性格」などで構成された平均3.3項目の組み合わせ	「排泄間隔」、「本人の気持ち、意志」、「尿意・排泄感覚」、「排泄・排尿時間」、「パッドの必要性」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「気分」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「排泄に関する生活習慣」、「排泄場所」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフとの関係」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	「興味・関心」を共通ベースとして、「気分」と「本人の気持ち、意志」を含めた"心理面"を主として構成された平均2.8項目の組み合わせ	「排泄間隔」、「排泄頻度」、「排泄・排尿時間」など"排泄行動"を主として構成された平均3.1項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「尿意・排泄感覚」、「生活習慣（ここ数年）」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「排泄間隔」、「排泄・排尿時間」、「排泄頻度」、「スタッフとの関係」、「誘導の時間帯」などで構成された平均4.5項目の組み合わせ	「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「失禁状況」、「失禁有無」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	「失禁有無」、「気分」、「認知症の種類」、「排泄状況」などで構成された平均2.6項目の組み合わせ	「生活歴（幼少期から）」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」、「現病・既往歴」などで構成された平均7.9項目と最多の組み合わせ
		延べ方法件数 一	1,420	157	140	110	106	92	90	86	84	84	60	55	54	51	49	49	44	42	42	18	5
誘導時間	101	排泄パターンに応じ	12.1	0.4	1.1	1.1	35.1	2.1	3.0	40.6	1.4	6.5	1.6	34.8	5.4	13.3	3.6	59.3	9.5	27.4	8.1	30.2	0.2
	102	定時声かけ	7.8	2.1	1.8	1.5	41.7	1.9	5.9	12.5	0.3	3.0	4.1	18.2	1.8	5.7	6.0	20.6	2.6	14.9	3.9	2.1	0.3
誘導の工夫	201	本人の行動・状態に応じて	10.1	7.0	10.5	5.4	4.2	11.5	19.7	15.3	5.0	7.9	23.8	14.7	8.0	7.9	2.2	10.1	13.3	14.0	10.6	8.6	19.6
	202	トイレ以外の理由で誘導	2.2	1.1	1.0	3.2	0.1	2.5	0.1	0.2	2.5	4.0	0.0	0.4	4.0	1.0	19.0	0.0	2.3	2.5	1.3	7.2	0.3
	203	会話をしながら	8.4	12.5	11.1	10.2	1.9	7.3	16.8	1.6	9.3	2.1	9.6	6.4	23.6	1.9	13.7	0.0	5.2	5.9	6.3	1.2	0.1
	204	他者と一緒に	2.9	1.9	3.3	9.0	4.5	2.9	5.0	0.4	1.3	2.7	0.0	1.7	3.7	5.4	0.0	3.0	0.1	0.6	0.2	0.9	0.0
	205	職員と一緒に	2.3	1.8	3.0	4.8	1.1	3.4	0.8	0.1	5.1	0.2	1.8	1.2	3.9	0.8	4.1	0.2	2.6	5.0	1.2	0.1	0.0
	206	慣れた言葉	1.6	0.0	0.5	0.6	1.6	1.1	2.1	0.3	4.0	7.5	0.0	1.2	0.0	1.6	4.1	0.8	7.1	0.1	0.3	0.4	0.5
	207	本人だけに	5.3	5.2	9.3	13.4	0.1	10.0	0.8	1.0	9.2	4.2	8.6	0.7	5.2	4.8	0.0	0.1	4.9	0.6	7.8	1.4	0.0
	208	トイレという言葉を使用しない	6.6	9.1	7.8	11.1	1.8	4.8	4.8	0.2	7.0	2.2	10.1	2.8	4.3	6.8	25.5	0.0	17.2	5.2	1.7	8.8	0.1
	209	移動時	8.7	17.7	11.7	9.9	2.8	5.3	8.0	2.2	13.4	6.6	7.6	4.4	10.8	8.3	2.1	3.3	14.3	13.1	7.0	3.1	0.0
	210	説明と納得	0.6	0.6	0.4	0.5	0.0	1.2	0.0	1.2	0.7	1.5	0.0	0.0	0.3	4.3	0.0	0.0	1.5	0.2	0.1	0.0	0.0
	211	着替えの促し	0.1	0.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	1.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	213	気分の良いときに	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	214	外出してから	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.5
	215	家族による説明・誘導	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	216	トイレを見せ認識を促す	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介助の工夫	301	おしりの状態をみる	2.7	4.5	2.1	1.2	0.2	6.0	1.0	4.4	2.4	4.2	2.1	2.0	0.8	0.5	1.5	0.0	1.7	0.2	10.2	14.9	0.0
	302	すばやく	5.7	4.8	9.8	4.3	1.0	11.3	10.2	3.6	3.0	9.3	12.4	3.2	2.3	2.1	2.1	0.1	3.3	1.4	12.6	5.3	0.0
	303	パッドをすばやく片付ける	2.7	1.2	3.1	2.6	0.4	9.4	1.1	2.4	2.3	3.7	3.2	2.1	0.2	2.9	0.0	0.0	2.2	0.1	11.5	6.9	0.0
	305	見守り、外でまつ	0.4	1.3	1.3	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.4	0.9	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.0	0.0
	306	極力本人で、部分介助	0.3	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.2	0.5	0.7	1.5	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	308	静かなところで介助	0.1	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	310	介助者の性別考慮	0.3	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	390	その他	0.8	0.5	1.4	0.6	0.0	0.8	0.0	0.5	0.0	2.6	0.0	0.4	1.5	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.1
コミュニケーション	401	賞賛、ほめる	7.5	8.7	12.0	5.8	2.2	9.4	14.5	5.7	13.2	6.6	0.9	2.3	9.7	13.0	0.0	2.0	7.7	7.7	6.0	3.4	0.2
	402	トイレ備品の使用について声かけ	1.1	0.9	0.7	0.4	0.1	0.0	2.3	0.8	2.1	1.9	0.0	0.0	4.7	3.8	2.0	0.1	0.0	0.1	0.6	1.2	0.0
	403	お金の心配払拭	0.9	3.0	0.2	1.6	0.1	0.0	0.0	0.0	1.3	4.9	0.0	0.1	0.6	0.4	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	0.0
	404	衛生・疾病の説明	3.3	7.2	1.5	2.4	0.2	4.7	0.0	3.4	4.3	9.0	5.9	0.1	1.7	2.5	4.0	0.0	2.0	0.2	4.3	3.8	19.8
	405	パッド交換は職員で	3.1	6.7	3.6	3.6	0.0	3.6	3.3	0.2	7.1	4.1	6.0	0.4	1.1	1.5	2.0	0.0	1.6	0.4	3.3	0.2	0.0
	407	好きな話題で	0.1	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	408	やさしく、笑顔で	0.1	0.0	0.6	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	409	本人の思いを傾聴する	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
	410	わかりやすく伝える	0.1	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
	411	慰め	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	412	日頃のコミュニケーション量増やす	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	413	信頼関係の構築	0.7	0.0	0.7	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.4	0.1	0.0	0.0	0.2	4.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	39.2
	490	その他	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	501	トイレ表示の工夫	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	502	排泄用具の代替	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
	590	その他	0.4	1.0	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.8	2.0	2.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－９－６－１）絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	尿意や便意のサインを無視し放っておく	失敗をしかる	衣類等の汚れを見て見ぬふりして交換しない	自力でトイレに行ったとき、そのまま見過ごす	強制・命令・指示的な声かけ	オムツ･紙パンツの安易な使用	無理にトイレに連れて行く	子供を扱うような言い方	他利用者に聞こえるようなトイレ誘導、ことばかけ	失敗が周囲の人にわかるような言動	その他
実数	255	248	247	237	187	249	193	222	237	214	244	24
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	97.3	96.9	92.9	73.3	97.6	75.7	87.1	92.9	83.9	95.7	9.4

９．放尿への成功事例調査

１）回答者属性

本調査の回答 280 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

（１）年齢

有効回答 273 件における回答者の平均年齢は、42.0 歳（SD11.7 歳）で最少年齢が 21 歳、最高年齢が 85 歳であった。（表２－１０－１－１参照）

（２）性別割合

有効回答 277 件中、回答者の性別割合は男性が 65 件（23.5%）、女性が 212 件（76.5%）と女性の割合が多かった。（表２－１０－１－２参照）

（３）職名の割合

有効回答 259 件中、回答者の職名の割合はケアマネージャーが 96 件（37.1%）、ケアワーカーが 90 件（34.7%）、看護師が 19 件（7.3%）、相談員が 9 件（3.5%）となっている。（表２－１０－１－３参照）

（４）役職の割合

有効回答 272 件中、回答者の役職の割合は、管理者が 94 件（34.6%）、主任・リーダーが 74 件（27.2%）、施設長が 22 件（8.1%）、理事長が 4 件（1.5%）、事務長が 1 件（0.4%）で、77 件（28.3%）が役職なしであった。（表２－１０－１－４参照）

（５）資格の所有割合

有効回答 264 件中、回答者の資格の所有割合は、介護福祉士が 167 件（63.3%）、ケアマネージャーが 120 件（45.5%）、ヘルパーが 83 件（31.4%）、看護師（准看護師）が 41 件（15.5%）、社会福祉士が 8 件（3.0%）であった。（表２－１０－１－５参照）

（６）所属事業種の割合

有効回答 276 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 267 件（96.7%）、小規模多機能型通所介護事業が 4 件（1.4%）、介護老人福祉施設（ユニット型）が 3 件（1.1%）、介護老人福祉施設が 2 件（0.7%）であった。（表２－１０－１－６参照）

（７）所属事業所での勤続年数

有効回答 275 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.0 年（SD2.9 年）で最少が 0.1 年、最高が 20.0 年であった。（表２－１０－１－７参照）

（８）総介護経験年数

有効回答 273 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、9.8 年（SD6.5 年）で最少が 0.9 年、最高が 41.3 年であった。（表２－１０－１－８参照）

２）放尿の解決経験

本調査に回答を得た 280 件における放尿の解決経験、解決した高齢者に関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とＡＤＬ、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

（１）解決経験の有無

有効回答 273 件中、放尿で解決経験があるのは 245 件（89.7%）であった。（表２－１０－２－１参照）

（２）高齢者の状態

①　年齢

解決経験がある 245 件のうち有効回答 228 件における高齢者の平均年齢は、82.3 歳（SD7.1 歳）で最少年齢が 53 歳、最高年齢が 97 歳であった。その分布をみると、80 歳～84 歳が 81 件（35.5%）で最も多い。（表２－１０－２－２参照）

⑦　性別

性別割合は、有効回答 239 件中、男性が 86 件（36.0%）、女性が 153 件（64.0%）と女性が多い。（表２－１０－２－３参照）

③　認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 236 件中、アルツハイマー型が 154 件（65.3%）、脳血管疾患型が 48 件（20.3%）、前頭側頭型が 1 件（0.4%）、混合が 16 件（6.8%）であった。（表２－１０－２－４参照）

④　身体機能の障害とＡＤＬ

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 245 件中、下肢が 39 件（15.9%）、体幹が 5 件（2.0%）、首が 1 件（0.4%）であり、残りの 200 件（81.6%）が機能障害なし（＝無回答）であった。（表２－１０－２－５参照）

【食事介助】

食事介助は、有効回答 233 件中、自立が 154 件（66.1%）、一部介助が 74 件（31.8%）、全介助が 5 件（2.1%）であった。（表２－１０－２－６参照）

【移動】

移動は、有効回答 215 件中、短距離歩行自立が 124 件（57.7%）、長距離歩行自立が 68 件（31.6%）、杖自立が 22 件（10.2%）であった。（表２－１０－２－７参照）

【排泄】

排泄は、有効回答 210 件中、身体介助必要が 93 件（44.3%）、身体介助必要なしが 117 件（55.7%）であった。（表２－１０－２－８参照）

【入浴】

入浴は、有効回答235件中、全介助が40件(17.0%)、移動介助が35件(14.9%)、洗身洗髪介助が 94 件（40.0%）、その他一部介助が 57 件（24.3%）であった。（表２－１０－２－９参照）

④　認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 241 件中、ランクⅠが 7 件（2.9%）、ランクⅡが 43 件（17.8%）、ランクⅢが 113 件（46.9%）、ランクⅣが 70 件（29.0%）、ランクⅤが 8 件（3.3%）であった。（表２－１０－２－１０参照）

⑥　身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 233 件中、Ｊランクが 32 件（13.7%）、Ａランクが 169 件（72.5%）、Ｂランクが 31 件（13.3%）、Ｃランクが 1 件（0.4%）であった。（表２－１０－２－１１参照）

⑦　高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、排泄介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析（注 1）を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、排泄介助で身体介助必要（66.1%）が多く、身体障害の重症度でＢランク（22.9%）とＡランク（68.1%）に集中し、認知症の重症度でランクⅣ（46.5%）とランクⅢ（47.4%）が多いことから、これを「介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 177 件のうち 97 件（54.8%）が該当する。

第 2 パターンは、排泄介助で身体介助必要なし（84.9%）が多く、身体障害の重症度でＡランク（79.9%）とＪランク（16.6%）が多く、認知症の重症度でランクⅡ（40.2%）とランクⅢ（42.5%）が多いことから、これを「自立、軽中程度重症度」と解釈した。このパターンには 80 件（45.2%）が該当する。（表２－１０－２－１２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－１０－２－１３参照）

（注 1）潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、排泄介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団（これをクラスと呼ぶ）を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル（クラス数）を評価する指標としてＡＩＣやＢＩＣなどの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である（注 2 参照）。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

３）解決前と解決後の変化

放尿で解決経験がある 245 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出するとともに、解決前後の関連を分析し、高齢者パターンによる差異も確認した。

（１）解決前の状況

放尿が解決される前の状況としては、有効回答 245 件中、「居室のすみにおしっこをしていた」が 122 件（49.8%）、「居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた」が 114 件(46.5%)、「廊下やリビングのすみで、時々放尿していた」が 62 件(25.3%)、「夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった」が 38 件（15.5%）、「屋外の庭でたまに放尿していた」が 22 件（9.0%）、「衣装ケースの中に放尿していた」が 10 件（4.1%）であった。(表２－１０－３－１参照)

（２）解決後の状況

放尿が解決された後の状況としては、有効回答 244 件中、「ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った」が 117 件（48.0%）、「自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった」が 71 件（29.1%）、「失敗することもほとんどなくなった」が 43 件（17.6%）、「自らおしっこに行きたいと訴えるようになった」と「夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった」が各 26 件（10.7%）であった。(表２－１０－３－２参照)

（３）解決前後の関連

解決前後それぞれの項目重複による影響排除のために、パターン化を経て分析することにした。

①　解決前のパターン

パターン化に用いた方法は潜在クラス分析である。

解決前は 6 パターンであり、第 1 は、居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた」(99.7%）に加えて、「居室のすみにおしっこをしていた」(13.7%）を若干伴っている。これに該当する事例が 43 件（28.3%）であり、“居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた”パターンと表示する。

第 2 は、「居室のすみにおしっこをしていた」(99.7%）に加えて、「居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた」(11.3%）を若干伴っている。これに該当する事例が 37 件（24.3%）であり、“居室のすみにおしっこをしていた”パターンと表示する。

第 3 は、「廊下やリビングの角で、時々放尿していた」(98.9%）に加えて、「居室のすみにおしっこをしていた」(41.2%）や「居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた」(21.5%）を伴っている。これに該当する事例が 23 件（15.1%）であり、“居室のすみや、ゴミ箱や、廊下やリビングのすみで時々放尿していた”

パターンと表示する。

第 4 は、「居室のすみにおしっこをしていた」(99.0%)、「居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた」(97.1%)、「廊下やリビングのすみで、時々放尿していた」(95.2%) に加えて、「夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった」(20.5%) や「衣装ケースの中に放尿していた」(14.1%) を多少伴うなど多様な状況を呈している。これに該当する事例が 21 件 (13.8%) であり、“方々で放尿していた”パターンと表示する。

第 5 は、「夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった」(98.8%) に加えて、「居室のすみにおしっこをしていた」(20.4%) を多少伴っている。これに該当する事例が 19 件 (12.5%) であり、“夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった”パターンと表示する。

第 6 は、「屋外の庭でたまに放尿していた」(69.6%) または「衣装ケースの中に放尿していた」(26.3%) が主体である。これに該当する事例が 8 件 (5.3%) であり、“屋外の庭、または衣装ケースの中に放尿していた”パターンと表示する。(表２－１０－３－３参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表２－１０－３－４参照)

② 解決後のパターン

解決後は 5 パターンであり、第 1 は、「ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った」(99.9%) に集中している。これに該当する事例が 64 件 (42.1%) であり、“ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った”パターンと表示する。

第 2 は、「自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった」(99.5%) に加えて、「ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った」(18.1%) を多少伴っている。これに該当する事例が 39 件 (25.7%) であり、“自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった”パターンと表示する。

第 3 は、「失敗することもほとんどなくなった」(98.8%) に加えて、「夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった」(14.2%) を多少伴っている。これに該当する事例が 18 件 (11.8%) であり、“失敗することもほとんどなくなった”パターンと表示する。

第 4 は、「夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった」(97.3%) に加えて、「ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った」(42.9%) や「自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった」(24.6%) を伴っている。これに該当する事例が 17 件 (11.2%) であり、“放尿回数や夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった”パターンと表示する。

第 5 は、「自らおしっこに行きたいと訴えるようになった」(95.8%) に加えて、「自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった」(49.5%) や「ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った」(36.5%) を伴っている。これに該当す

る事例が 14 件（9.2%）であり、“放尿回数が減り、自らおしっこに行きたいと訴えるようになった”パターンと表示する。（表２－１０－３－５参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－１０－３－６参照）

③　解決前後のパターンの関連

各パターンへの帰属確率の相関によって解決前後の関連分析をした。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では 3 つの変化傾向がみられる。1 つめは、解決前パターン 4（方々で放尿していた）から、解決後パターン 5（放尿回数が減り、自らおしっこに行きたいと訴えるようになった）へと変化する傾向であり、有意水準 1%で相関が認められる。

2 つめは、解決前パターン 6（屋外の庭、または衣装ケースの中に放尿していた）から、解決後パターン 3（失敗することもほとんどなくなった）へと変化する傾向であり、有意水準 1%で相関が認められる。

3 つめは、解決前パターン 5（夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった）から、解決後パターン 2（自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった）へと変化する傾向であり、有意水準 5%で相関が認められる。（表２－１０－３－７参照）

次に高齢者パターン 1（介助、中高程度重症度）に限定してみると、上記の全体的傾向の 1 つめ、解決前パターン 4（方々で放尿していた）から、解決後パターン 5（放尿回数が減り、自らおしっこに行きたいと訴えるようになった）へと変化する傾向であり、有意水準 1%で相関が認められる。（表２－１０－３－８参照）

高齢者パターン 2（自立、軽中程度重症度）に限定してみると、全体的傾向同様の 3 つの傾向に加えて、解決前パターン 3（居室のすみや、ゴミ箱や、廊下やリビングのすみで時々放尿していた）から、解決後パターン 4（放尿回数や夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった）へと変化する傾向もみられ、有意水準 5%で相関が認められる。（表２－１０－３－９参照）

このように、解決前後の変化は高齢者パターンによってやや異なった傾向を示している。

（４）高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した (注 2)。

解決前の状況は、高齢者パターン 1（介助、中高程度重症度）では「居室のすみにおしっこをしていた」（56.0%）と「廊下やリビングのすみで、時々放尿していた」（34.5%）が高齢者パターン 2（自立、軽中程度重症度）のそれら（45.6%と 25.0%）を上回っている。（表２－１０－３－１０参照）

解決後の状況は、高齢者パターン１（介助、中高程度重症度）では「ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った」（61.9%）で高齢者パターン２（自立、軽中程度重症度）のそれ（47.1%）を上回り、高齢者パターン２では「自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった」（42.6%）で高齢者パターン１のそれ（26.2%）を上回っている。（表２－１０－３－１１参照）

（注 2）潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス１に対して 0.97、クラス２に対して 0.03、（全クラスへの帰属確率合計は 1.00 である）となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

４）放尿の解決方法

放尿で解決経験がある 245 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

（１）解決方法の概況

放尿を解決する時に行った方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 23 分類した。分類結果は、誘導の工夫に関するものが 8 分類、環境調整に関するものが 7 分類、その他が 8 分類であった。

有効回答 245 件のなかで多くあがったものは、「状態に応じた」が 163 件(66.5%)、「排尿パターンに応じ」が 151 件(61.6%)、「トイレ表示の工夫」が 105 件(42.9%)、「誘導回数を増やす」が 86 件（35.1%)、「繰り返し説明」が 60 件（24.5%)、「夜間照明」が 59 件（24.1%)、「ポータブルトイレ」が 51 件（20.8%)、「トイレが見えるよう」が 38 件（15.5%)、「トイレの位置調整」が 31 件（12.7%)、「薬調整、受診」が 28 件（11.4%）などであり、1 事例あたり平均 3.4 項目であった。（表２－１０－４－１参照）

（２）解決方法の組み合わせパターン

23 分類のなかから 1 事例平均 3.4 の方法で構成されているのを実際の組み合わせに高い確率で近似するパターンを得るために潜在クラス分析を応用した（注 3)。

その結果 19 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 3.8 項目の組み合わせであり、「トイレ表示の工夫」(99.7%)と「状態に応じた」(99.7%)を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」(71.5%)、「夜間照明」（35.7%)、「誘導回数を増やす」（30.6%）などで構成されている。第 1 パターンの該当事例は 28 件（11.4%）である。

第 2 パターンは平均 2.2 項目の組み合わせであり、「排尿パターンに応じ」(99.7%) を共通ベースとして、「状態に応じた」(69.4%) 他で構成されている。第 2 パターンに該当する事例は 26 件 (10.6%) である。

第 3 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「ポータブルトイレ」(99.2%) を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」(53.3%)、「状態に応じた」(47.2%)、「トイレの位置調整」(31.6%) などで構成されている。第 3 パターンに該当する事例は 25 件 (10.2%) である。

第 4 パターンは平均 1.7 項目と最少の組み合わせであり、「状態に応じた」(45.0%)、「放尿場所の遮断」(33.7%)、「トイレ表示の工夫」(30.1%) などに分散して構成されている。第 4 パターンに該当する事例は 21 件 (8.6%) である。

第 5 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「排泄パターンに応じ」(99.3%) と「誘導回数を増やす」(98.9%) を共通ベースとして、「状態に応じた」(44.0%) などで構成されている。第 5 パターンに該当する事例は 19 件 (7.8%) である。

第 6 パターンは平均 3.6 項目の組み合わせであり、「繰り返し説明」(98.8%) と「排尿パターンに応じ」(93.3%) を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」(68.8%)、「状態に応じた」(33.0%)、「トイレの位置調整」(31.2%) などで構成されている。第 6 パターンに該当する事例は 19 件 (7.8%) である。

第 7 パターンは平均 5.3 項目の組み合わせであり、「排尿パターンに応じ」(99.8%) と「状態に応じた」(87.2%) を共通ベースとして、「繰り返し説明」(77.8%)、「誘導回数を増やす」(73.1%)、「トイレが見えるよう」(67.0%)、「ポータブルトイレ」(29.7%) などで構成されている。第 7 パターンに該当する事例は 18 件 (7.3%) である。

第 8 パターンは平均 3.2 項目の組み合わせであり、「誘導回数を増やす」(98.8%) を共通ベースとして、「状態に応じた」(71.9%)、「トイレ表示の工夫」(54.4%)、「夜間照明」(33.0%)、「繰り返し説明」(26.7%) などで構成されている。第 8 パターンに該当する事例は 17 件 (6.9%) である。

第 9 パターンは平均 2.4 項目の組み合わせであり、「状態に応じた」(99.8%) を共通ベースとして、「夜間照明」(55.9%)、「繰り返し説明」(45.9%) などで構成されている。第 9 パターンに該当する事例は 11 件 (4.5%) である。

第 10 パターンは平均 3.2 項目の組み合わせであり、「状態に応じた」(99.8%) と「薬調整、受診」(83.3%) を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」(56.6%)、「ポータブルトイレ」(33.2%) などで構成される。第 10 パターンに該当する事例は 11 件 (4.5%) である。

第 11 パターンは平均 6.1 項目と最多の組み合わせであり、「状態に応じた」(99.8%)、「排尿パターンに応じ」(99.7%)、「誘導回数を増やす」(99.6%)、「薬調整、受診」(83.3%) の 4 項目を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」(77.2%)、

「トイレが見えるよう」(52.8%)、「トイレの位置調整」(34.4%) などで構成される。第 11 パターンに該当する事例は 9 件 (3.7%) である。

第 12 パターンは平均 4.9 項目の組み合わせであり、「状態に応じた」(99.7%)、「トイレ表示の工夫」(97.8%)、「排尿パターンに応じ」(83.1%) の 3 項目を共通ベースとして、「トイレが見えるよう」(71.8%)、「繰り返し説明」(70.7%)、「放尿場所の遮断」(36.2%) などで構成されている。第 12 パターンに該当する事例は 8 件 (3.3%) である。

第 13 パターンは平均 4.0 項目の組み合わせであり、「トイレが見えるよう」(98.6%) と「夜間照明」(87.4%) を共通ベースとして、「状態に応じた」(74.7%)、「トイレ表示の工夫」(61.7%)、「トイレの位置調整」(37.2%)、「繰り返し説明」(36.9%) などで構成されている。第 13 パターンに該当する事例は 8 件 (3.3%) である。

第 14 パターンは平均 2.9 項目の組み合わせであり、「誘導回数を増やす」(99.1%) を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」(71.4%)、「トイレが見えるよう」(53.7%)、「ポータブルトイレ」(41.3%) などで構成されている。第 14 パターンに該当する事例は 6 件 (2.4%) である。

第 15 パターンは平均 3.2 項目の組み合わせであり、「排尿パターンに応じ」(99.2%) と「トイレ表示の工夫」(99.0%) を共通ベースとして、「薬調整、受診」(55.9%)、「状態に応じた」(27.1%) などで構成されている。第 15 パターンに該当する事例は 5 件 (2.0%) である。

第 16 パターンは平均 3.0 項目の組み合わせであり、「排尿パターンに応じ」(99.3%) と「夜間照明」(98.1%) を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」(55.3%)、「ポータブルトイレ」(42.8%) などで構成されている。第 16 パターンに該当する事例は 5 件 (2.0%) である。

第 17 パターンは平均 5.8 項目の組み合わせであり、「ポータブルトイレ」(98.9%) と「トイレの位置調整」(98.2%) を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」(73.9%)、「誘導回数を増やす」(71.5%)、「夜間照明」(70.6%)、「薬調整、受診」(50.4%) などで構成されている。第 17 パターンに該当する事例は 4 件 (1.6%) である。

第 18 パターンは平均 4.3 項目の組み合わせであり、「状態に応じた」(99.4%) と「誘導回数を増やす」(98.9%) を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」(67.1%)、「トレイに誘導する」(32.6%)、「同性誘導」(32.5%) などで構成されている。第 18 パターンに該当する事例は 3 件 (1.2%) である。

第 19 パターンは平均 5.0 項目の組み合わせであり、「状態に応じた」(99.1%)、「排尿パターンに応じ」(99.0%)、「夜間照明」(98.0%)、「放尿場所の遮断」(97.5%) の 4 項目を共通ベースとして、「薬調整、受診」(49.0%) などで構成されている。第 19 パターンに該当する事例は 2 件 (0.8%) である。(表２－１０

－４－２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－１０－４－３参照）

（注 3）組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は（注 1）に示したような局所独立を仮定して異質な部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold”が算出する“Classification Statistics”（分類精度情報）の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。

（３）解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、19 の組み合わせパターンと解決後のパターンの相関を分析した後、参考までに個別状況との関連を確認する。

まず、解決方法の組み合わせ 19 パターンと解決後の 5 パターンの帰属確率による相関分析を行うと、4 通りの相関が認められる。（事例 1 件の解決方法パターン 18 はとりあげない。）

1 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 1％で認められる。解決方法パターン 10 は、“「状態に応じた」と「薬調整、受診」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均 3.2 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 5 の“放尿回数が減り、自らおしっこに行きたいと訴えるようになった”という結果に貢献している傾向が読み取れる。

2 つめは、解決方法パターン 14 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 14 は、“「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均 2.9 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 4 の“放尿回数や夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 15 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 15 は、“「排尿パターンに応じ」と「トイレ表示の工夫」を共通ベースとして、「薬調整、受診」、「状態に応じた」などで構成された平均 3.2 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 4 の“放尿回数や夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

4 つめは、解決方法パターン 13 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 13 は、“「トイレが見えるよう」と「夜間照明」を共

通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「トイレの位置調整」、「繰り返し説明」などで構成された平均 4.0 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 2 の“自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－１０－４－４参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても、上記の傾向が確認できる。

解決方法パターン 10 では、解決後に“ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った”が 77.3%、“自らおしっこに行きたいと訴えるようになった”が 42.3%と多くなっており、これらは解決後パターン 5 の主要項目である。

解決方法パターン 14 では、解決後に“自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった”が 84.4%、“ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った”が 76.6%、“夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった”が 61.1%と多くなっており、これらは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 15 では、解決後に“ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った”が 99.3%、“夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった”が 63.9%と多くなっており、これらは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 13 では、解決後に“自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった”が 74.0%と多くなっており、これは解決後パターン 2 の主要項目である。(表２－１０－４－５参照)

（4）高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン 1（介助、中高程度重症度）に限定した相関分析を行うと、5 通りの相関が認められる (注 4)。(事例 1 件の解決方法パターン 18 と同 16 はとりあげない。)

1 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 1%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

2 つめは、解決方法パターン 14 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。これも上記の全体的傾向と同様である。

3 つめは、解決方法パターン 1 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 1 は、“「トイレ表示の工夫」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「誘導回数を増やす」などで構成された平均 3.8 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 3 の“失敗することもほとんどなくなった”に貢献している傾向が読み取れる。

4 つめは、解決方法パターン 13 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 5%で認められる。これも上記の全体的傾向と同様である。

5 つめは、解決方法パターン 7 と解決後パターン 5 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 7 は、“「排尿パターンに応じ」と「状態に応じた」を

共通ベースとして、「繰り返し説明」、「誘導回数を増やす」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均5．3項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 5 の“放尿回数が減り、自らおしっこに行きたいと訴えるようになった”に貢献している傾向が読み取れる。（表２－１０－４－６参照）

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン10では、解決後に“自らおしっこに行きたいと訴えるようになった”が77.2%、“ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った”が59.2%、“自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった”が 34.6%と多くなっており、これは解決後パターン5の主要項目である。

解決方法パターン14では、解決後に“自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった”が99.6%、“ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った”が80.4%、“夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった”が 80.0%と多くなっており、これは解決後パターン4の主要項目である。

解決方法パターン 1 では、解決後に“失敗することもほとんどなくなった”が48.5%と多くなっており、これは解決後パターン3の主要項目である。

解決方法パターン13では、解決後に“自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった”が66.4%と多くなっており、これは解決後パターン2の主要項目である。

解決方法パターン 7 では、解決後に“ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った”が 80.9%、“自らおしっこに行きたいと訴えるようになった”が 34.5%と多くなっており、これは解決後パターン5の主要項目である。（表２－１０－４－７参照）

また高齢者パターン 2（自立、軽中程度重症度）に限定した相関分析を行うと、5通りの相関が認められる。（事例1件の解決方法パターン19はとりあげない。）

1 つめは、解決方法パターン 15 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。これは上記の全体的傾向と同様である。

2 つめは、解決方法パターン 11 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン11は、“「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「薬調整、受診」の4項目を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「トイレの位置調整」などで構成された平均 6.1 項目と最多の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 3 の“失敗することもほとんどなくなった”に貢献している傾向が読み取れる。

3つめは、解決方法パターン4と解決後パターン2の相関が有意水準1%で認められる。解決方法パターン 4 は、“「状態に応じた」、「放尿場所の遮断」、「トイレ表示の工夫」などに分散して構成された平均 1.7 項目と最少の組み合わせ”であ

り、これらの方法が、解決後パターン 2 の“自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

4 つめは、解決方法パターン 10 と解決後パターン 1 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 10 は、“「状態に応じた」と「薬調整、受診」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均 3.2 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 1 の“ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った”に貢献している傾向が読み取れる。

5 つめは、解決方法パターン 2 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 5%で認められる。解決方法パターン 2 は、“「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「状態に応じた」他で構成された平均 2.2 項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン 3 の“失敗することもほとんどなくなった”に貢献している傾向が読み取れる。(表２－１０－４－８参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもその傾向が確認できる。

解決方法パターン 15 では、解決後に“ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った”が 99.3%、“夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった”が 95.8%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

解決方法パターン 11 では、解決後に“失敗することもほとんどなくなった”が 34.3%と多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。

解決方法パターン 4 では、解決後に“自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった”が 85.1%と多くなっており、これは解決後パターン 2 の主要項目である。

解決方法パターン 10 では、解決後に“ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った”が 98.8%と多くなっており、これは解決後パターン 1 の主要項目である。

解決方法パターン 2 では、解決後に“失敗することもほとんどなくなった”が 22.2%と相対的に多くなっており、これは解決後パターン 3 の主要項目である。(表２－１０－４－９参照)

(注 4) 高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン 1 と 2 を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義（＝クラスター化）した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

5）放尿の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ 748 件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

（1）役立った情報の概況

有効回答 748 件のなかで多くあがったものは、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 264 件（35.3%）、「排泄・排尿時間」が 203 件（27.1%）、「排泄間隔」が 196 件（26.2%）、「本人の気持ち、意志」が 179 件（23.9%）、「排泄頻度」と「トイレの場所」が各 143 件（19.1%）、「トイレの表示」が 113 件（15.1%）、「尿意・排泄感覚」と「排泄場所」が各 112 件（15.0%）、「放尿時の様子」が 89 件（11.9%）、「スタッフとの関係」が 85 件（11.4%）などであり、ひとつの解決方法当たり平均 3.2 項目あげられた。（表２－１０－５－１参照）

（2）役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 15 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.2 項目の組み合わせであり、「トイレの表示」（64.7%）と「トイレの場所」（54.0%）を主として、「トイレの扉」（24.1%）などで構成されている。第 1 パターンの該当方法は延べ 105 件（14.0%）である。

第 2 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「排泄間隔」（93.0%）と「排泄頻度」（82.8%）を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（16.8%）などで構成されている。第 2 パターンの該当方法は延べ 104 件（13.9%）である。

第 3 パターンは平均 3.4 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（83.2%）を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」（58.9%）、「スタッフとの関係」（55.8%）、「気分」（36.5%）などで構成されている。第 3 パターンの該当方法は延べ 63 件（8.4%）である。

第 4 パターンは平均 3.5 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」（80.2%）を共通ベースとして、「スタッフとの関係」（43.2%）、「放尿時の様子」（48.9%）、「放尿時の表情」（33.9%）などで構成されている。第 4 パターンの該当方法は延べ 57 件（7.6%）である。

第 5 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「トイレの場所」（55.5%）、「排泄場所」（42.2%）、「排泄・排尿時間」（22.2%）、「歩行・下肢機能」（22.0%）、「本人の気持ち、意志」（21.4%）などで構成されている。第 5 パターンの該当方法は延べ 56 件（7.5%）である。

第 6 パターンは平均 3.9 項目の組み合わせであり、「排泄・排尿時間」（73.0%）、

「排泄間隔」(56.4%)、「尿意・排泄感覚」(47.1%)、「失禁有無」(41.9%)、「水分状態」(36.0%)、「本人の気持ち、意志」(28.0%) などで構成されている。第6パターンの該当方法は延べ51件 (6.8%) である。

第7パターンは平均2.1項目と最少の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(37.2%)、「本人の気持ち、意志」(34.3%)、「生活習慣 (ここ数年)」(32.9%)、「トイレの表示」(32.0%) などで構成されている。第7パターンの該当方法は延べ48件 (6.4%) である。

第8パターンは平均2.8項目の組み合わせであり、「尿意・排泄感覚」(61.7%)、「本人の気持ち、意志」(59.8%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(55.0%) などで構成されている。第8パターンの該当方法は延べ47件 (6.3%) である。

第9パターンは平均4.1項目と最多の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(82.1%) と「トイレの場所」(80.2%) を共通ベースとして、「トイレの表示」(47.2%)、「スタッフとの関係」(34.3%)、「排泄場所」(32.8%)、「見当識」(31.2%) などで構成されている。第 9 パターンの該当方法は延べ 42 件 (5.6%) である。

第10パターンは平均3.6項目の組み合わせであり、「排泄間隔」(98.2%) を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(56.9%)、「排泄頻度」(40.2%)、「本人の気持ち、意志」(36.0%)、「尿意・排泄感覚」(33.1%) などで構成されている。第10パターンの該当方法は延べ41件 (5.5%) である。

第11パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「放尿時の様子」(99.3%) を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(53.2%)、「尿意・排泄感覚」(25.0%)、「排泄場所」(24.3%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(23.5%) などで構成されている。第11パターンの該当方法は延べ35件 (4.7%) である。

第12パターンは平均3.3項目の組み合わせであり、「服薬状況」(67.2%)、「現病・既往歴」(58.7%)、「睡眠時間・状況」(37.9%)、「水分状態」(34.2%)、「失禁有無」(26.8%) など“健康面”を主として構成されている。第 12 パターンの該当方法は延べ31件 (4.1%) である。

第13パターンは平均3.2項目の組み合わせであり、「排泄場所」(78.6%)、「生活状況 (数日内)」(35.9%)、「排泄間隔」(33.3%)、「見当識」(32.5%) などで構成されている。第13パターンの該当方法は延べ28件 (3.7%) である。

第14パターンは平均4.0項目の組み合わせであり、「尿意・排泄感覚」(74.0%)、「睡眠時間・状況」(57.8%)、「水分状態」(38.3%)、「失禁有無」(35.0%)、「排泄頻度」(32.4%)、「排泄場所」(30.2%) などで構成されている。第14パターンの該当方法は延べ25件 (3.3%) である。

第 15 パターンは平均 3.5 項目の組み合わせであり、「生活状況 (数日内)」(98.9%) を共通ベースとして、「排泄・排尿時間」(47.1%)、「排泄間隔」(42.3%)、「睡眠時間・状況」(31.0%) などで構成されている。第 15 パターンの該当方法

は延べ 16 件（2.1%）である。（表２－１０－５－２参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表２－１０－５－３参照）

（３）情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第 2 パターン（「排泄間隔」と「排泄頻度」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 3.7 項目の組み合わせ）は、「排尿パターンに応じ」が 63.7%、「誘導回数を増やす」が 23.2%と多い。

第 12 パターン（「服薬状況」、「現病・既往歴」、「睡眠時間・状況」、「水分状態」、「失禁有無」など“健康面”を主として構成された平均 3.3 項目の組み合わせ）は、「薬調整、受診」が 61.5%と多い。

第 1 パターン（「トイレの表示」と「トイレの場所」を主として、「トイレの扉」などで構成された平均 2.2 項目の組み合わせ）は、「トイレ表示の工夫」が 50.1%、「夜間照明」が 20.2%と多い。

第 6 パターン（「排泄・排尿時間」、「排泄間隔」、「尿意・排泄感覚」、「失禁有無」、「水分状態」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 3.9 項目の組み合わせ）は、「排尿パターンに応じ」が 47.5%、「誘導回数を増やす」が 26.7%と多い。

第 8 パターン（「尿意・排泄感覚」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 2.8 項目の組み合わせ）は、「状態に応じた」が 45.8%と多い。

第 11 パターン（「放尿時の様子」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「尿意・排泄感覚」、「排泄場所」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 3.5 項目の組み合わせ）は、「状態に応じた」が 45.7%、「ポータブルトイレ」が 15.2%と多い。

第 3 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「スタッフとの関係」、「気分」などで構成された平均 3.4 項目の組み合わせ）は、「状態に応じた」が 44.7%と多い。

第 4 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「放尿時の様子」、「放尿時の表情」などで構成された平均 3.5 項目の組み合わせ）は、「状態に応じた」が 41.1%と多い。

第 15 パターン（「生活状況（数日内）」を共通ベースとして、「排泄・排尿時間」、「排泄間隔」、「睡眠時間・状況」などで構成された平均 3.5 項目の組み合わせ）は、「排尿パターンに応じ」が 34.8%、「状態に応じた」が 30.4%と多い。

第 14 パターン（「尿意・排泄感覚」、「睡眠時間・状況」、「水分状態」、「失禁有無」、「排泄頻度」、「排泄場所」などで構成された平均 4.0 項目の組み合わせ）は、「排尿パターンに応じ」が 34.1%と多い。

第 10 パターン（「排泄間隔」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「排泄頻度」、「本人の気持ち、意志」、「尿意・排泄感覚」などで構成さ

れた平均 3.6 項目の組み合わせ）は、「状態に応じた」が 32.4%、「誘導回数を増やす」が 27.1%と多い。

第 7 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」、「生活習慣（ここ数年）」、「トイレの表示」などで構成された平均 2.1 項目と最少の組み合わせ）は、「トイレ表示の工夫」が 29.2%と多い。

第 9 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「トイレの場所」を共通ベースとして、「トイレの表示」、「スタッフとの関係」、「排泄場所」、「見当識」などで構成された平均 4.1 項目と最多の組み合わせ）は、「繰り返し説明」が 22.0%、「トイレ表示の工夫」が 21.1%と多い。

第 5 パターン（「トイレの場所」、「排泄場所」、「排泄・排尿時間」、「歩行・下肢機能」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 2.7 項目の組み合わせ）は、「ポータブルトイレ」が 21.3%、「夜間照明」が 15.0%と多い。（表２－１０－５－４参照）

６）絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答 243 件中、「怒鳴ったり、しかったり、叱責する」が 241 件（99.2%）、「拘束するような脱ぎにくい服にする」が 230 件（94.7%）、「他の利用者の前で、その事について話しをする」が 218 件（89.7%）、「放っておく」が 216 件（88.9%）、「無理やりトイレに連れて行く」が 203 件（83.5%）、「オムツにする」が 195 件（80.2%）となっている。（表２－１０－６－１参照）

（表２－１０－１－１）回答者の年齢

	有効回答数	24 歳以下	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60 歳以上
実数	273	12	23	59	36	26	37	33	33	14
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	4.4	8.4	21.6	13.2	9.5	13.6	12.1	12.1	5.1

（平均年齢等）

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
273	42.0	11.7	21	85

（表２－１０－１－２）回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	277	65	212
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	23.5	76.5

（表２－１０－１－３）回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネージャー	看護師	その他
実数	259	90	9	96	19	62
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	34.7	3.5	37.1	7.3	23.9

（表２－１０－１－４）回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	272	22	94	74	1	4	77
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	8.1	34.6	27.2	0.4	1.5	28.3

（表２－１０－１－５）回答者の所有資格

	有効回答数	看護師（准看護師）	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネージャー	ヘルパー	その他
実数	264	41	167	8	120	83	21
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	15.5	63.3	3.0	45.5	31.4	8.0

（表２－１０－１－６）回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設（ユニット型）	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	276	2	3	267	4	3
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.7	1.1	96.7	1.4	1.1

（表２－１０－１－７）回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
275	4.0	2.9	0.1	20.0

（表２－１０－１－８）回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
273	9.8	6.5	0.9	41.3

（表２－１０－２－１）放尿の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	273	245	28
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	89.7	10.3

（表２－１０－２－２）高齢者の年齢

	解決経験のある 有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	228	27	32	81	56	32
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	11.8	14.0	35.5	24.6	14.0

（平均年齢等）

解決経験のある 有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
228	82.3	7.1	53	97

（表２－１０－２－３）高齢者の性別割合

	解決経験のある 有効回答数	男	女
実数	239	86	153
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	36.0	64.0

（表２－１０－２－４）認知症の原因疾患

	解決経験のある 有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	236	154	48	1	16	17
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	65.3	20.3	0.4	6.8	7.2

（表２－１０－２－５）機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答 (=なし)
実数	245	1	0	39	5	200
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	0.4	0.0	15.9	2.0	81.6

（表２－１０－２－６）食事介助

	解決経験のある 有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	233	5	74	154
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	2.1	31.8	66.1

（表２－１０－２－７）移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他（回答者追記）
実数	215	22	124	68	1
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	10.2	57.7	31.6	0.5

（表２－１０－２－８）排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし
実数	210	93	117
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	44.3	55.7

（表２－１０－２－９）入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	235	40	35	94	57	9
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	17.0	14.9	40.0	24.3	3.8

（表２－１０－２－１０）認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	Ⅰ 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	Ⅱ 日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	Ⅲ ランクⅡの症状がときどき見られ、介護を必要とする（徘徊、失禁など）	Ⅳ ランクⅡの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	Ⅴ 著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	241	7	43	113	70	8
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	2.9	17.8	46.9	29.0	3.3

（表２－１０－２－１１）身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J 何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	A 屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	B 屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベット上での生活主体で座位を保つ	C 一日中ベットで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	233	32	169	31	1
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	13.7	72.5	13.3	0.4

（表２－１０－２－１２）放尿高齢者のパターン
（潜在クラス２クラスモデルのプロフィール）

(n=177)

項目	カテゴリー	全体	パターン1 介助、中高程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度
	サイズ	1.000	0.546	0.454
性別	男	0.362	0.403	0.312
	女	0.638	0.597	0.688
排泄介助	身体介助必要	0.429	0.661	0.152
	身体介助必要なし	0.571	0.340	0.849
認知症の重症度	Ⅰ	0.028	0.001	0.061
	Ⅱ	0.186	0.007	0.402
	Ⅲ	0.452	0.474	0.425
	Ⅳ	0.294	0.465	0.088
	Ⅴ	0.040	0.053	0.024
身体障害の重症度	J	0.124	0.090	0.166
	A	0.735	0.681	0.799
	B	0.141	0.229	0.035
	C	0.012	0.000	0.036
（参考）該当事例数 →		(177)	(97)	(80)

（表２－１０－２－１３）潜在クラスモデル評価（放尿高齢者パターン）
（情報量規準）

モデル（クラス数）	BIC	AIC
モデル1（クラス数1）	1330.9	1301.5
モデル2（クラス数2）	1361.9	1299.7
モデル3（クラス数3）	1402.4	1307.4
モデル4（クラス数4）	1445.1	1317.4

（表２－１０－３－１）解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	衣装ケースの中に放尿していた	居室のすみにおしっこをしていた	居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた	夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった	廊下やリビングのすみで、時々放尿していた	屋外の庭でたまに放尿していた	その他
実数	245	10	122	114	38	62	22	35
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	4.1	49.8	46.5	15.5	25.3	9.0	14.3

（表２－１０－３－２）解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	失敗することもほとんどなくなった	自らおしっこに行きたいと訴えるようになった	夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった	その他
実数	244	117	43	26	26	71	34
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	48.0	17.6	10.7	10.7	29.1	13.9

（表２－１０－３－３）放尿の解決前のパターン
（潜在クラス６クラスモデルのプロフィール）

(n=152)

状況	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
		居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた	居室のすみにおしっこをしていた	居室のすみや、ゴミ箱や、廊下やリビングのすみで時々放尿していた	方々で放尿していた	夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった	屋外の庭、または衣装ケースの中に放尿していた
サイズ	1.000	0.284	0.246	0.153	0.140	0.128	0.050
衣装ケースの中に放尿していた	0.033	0.000	0.000	0.000	0.141	0.000	0.263
居室のすみにおしっこをしていた	0.513	0.137	0.997	0.412	0.990	0.204	0.040
居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた	0.487	0.997	0.113	0.215	0.971	0.042	0.042
夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった	0.178	0.071	0.007	0.002	0.205	0.988	0.010
廊下やリビングのすみで、時々放尿していた	0.303	0.007	0.014	0.989	0.952	0.098	0.009
屋外の庭でたまに放尿していた	0.092	0.052	0.091	0.001	0.056	0.096	0.696
（参考）平均項目数 →	1.6	1.3	1.2	1.6	3.3	1.4	1.1
該当事例数 →	(152)	(43)	(37)	(23)	(21)	(19)	(8)

（表２－１０－３－４）潜在クラスモデル評価（放尿の解決前パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	917.4	899.2
モデル2(クラス数2)	933.2	893.9
モデル3(クラス数3)	937.7	877.2
モデル4(クラス数4)	949.7	868.0
モデル5(クラス数5)	966.1	863.3
モデル6(クラス数6)	986.4	862.4
モデル7(クラス数7)	1012.5	867.3
モデル8(クラス数8)	1038.4	872.1

（表２－１０－３－５）放尿の解決後のパターン
（潜在クラス５クラスモデルのプロフィール）

(n=152)

状況	全体	パターン1 ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	パターン2 自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった	パターン3 失敗することもほとんどなくなった	パターン4 放尿回数や夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	パターン5 放尿回数が減り、自らおしっこに行きたいと訴えるようになった
サイズ	1.000	0.423	0.254	0.121	0.109	0.093
ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	0.553	0.999	0.181	0.033	0.429	0.365
失敗することもほとんどなくなった	0.165	0.025	0.071	0.988	0.089	0.068
自らおしっこに行きたいと訴えるようになった	0.099	0.002	0.008	0.058	0.002	0.958
夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	0.125	0.002	0.002	0.142	0.973	0.002
自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった	0.336	0.017	0.995	0.022	0.246	0.495
（参考）平均項目数 →	1.3	1.0	1.3	1.2	1.7	1.9
該当事例数 →	(152)	(64)	(39)	(18)	(17)	(14)

（表２－１０－３－６）潜在クラスモデル評価（放尿の解決後パターン）
（情報量規準）

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	776.5	761.4
モデル2(クラス数2)	749.9	716.7
モデル3(クラス数3)	746.9	695.5
モデル4(クラス数4)	763.9	694.3
モデル5(クラス数5)	775.7	688.0
モデル6(クラス数6)	800.4	694.5
モデル7(クラス数7)	828.3	704.3
モデル8(クラス数8)	856.8	714.7

（表２－１０－３－７）解決前後のパターンの相関行列
（全体）

(n=152)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった	失敗することもほとんどなくなった	放尿回数や夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	放尿回数が減り、自らおしっこに行きたいと訴えるようになった
解決前のパターン	パターン1	居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた	0.065	0.065	-0.100	-0.044	-0.050
	パターン2	居室のすみにおしっこをしていた	0.130	-0.048	0.077	-0.143	-0.085
	パターン3	居室のすみや、ゴミ箱や、廊下やリビングのすみで時々放尿していた	-0.017	-0.103	0.064	0.123	-0.020
	パターン4	方々で放尿していた	-0.073	-0.119	-0.088	0.025	0.377 **
	パターン5	夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった	-0.081	0.187 *	-0.083	0.069	-0.125
	パターン6	屋外の庭、または衣装ケースの中に放尿していた	-0.123	0.013	0.212 **	0.027	-0.075

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　（有意水準）　1%水準　**
5%水準　*

（表２－１０－３－８）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン１“介助、中高程度重症度”の場合）

(n=85)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった	失敗することもほとんどなくなった	放尿回数や夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	放尿回数が減り、自らおしっこに行きたいと訴えるようになった
解決前のパターン	パターン1	居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた	0.088	0.166	-0.087	-0.185	-0.080
	パターン2	居室のすみにおしっこをしていた	0.073	-0.065	0.101	-0.166	-0.010
	パターン3	居室のすみや、ゴミ箱や、廊下やリビングのすみで時々放尿していた	0.010	0.009	0.038	0.037	-0.112
	パターン4	方々で放尿していた	-0.080	-0.186	-0.124	0.164	0.381 **
	パターン5	夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった	-0.026	0.057	-0.053	0.160	-0.116
	パターン6	屋外の庭、または衣装ケースの中に放尿していた	-0.138	0.021	0.160	0.096	-0.084

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　（有意水準）　1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－１０－３－９）解決前後のパターンの相関行列
（高齢者パターン２“自立、軽中程度重症度”の場合）

（n=67）

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった	失敗することもほとんどなくなった	放尿回数や夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	放尿回数が減り、自らおしっこに行きたいと訴えるようになった
解決前のパターン	パターン1	居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた	0.086	−0.083	−0.071	0.057	−0.016
	パターン2	居室のすみにおしっこをしていた	0.202	−0.022	0.026	−0.117	−0.186
	パターン3	居室のすみや、ゴミ箱や、廊下やリビングのすみで時々放尿していた	−0.087	−0.209	0.086	0.248 *	0.121
	パターン4	方々で放尿していた	−0.104	0.010	−0.067	−0.136	0.382 **
	パターン5	夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった	−0.129	0.287 *	−0.117	−0.021	−0.134
	パターン6	屋外の庭、または衣装ケースの中に放尿していた	−0.127	0.041	0.321 **	−0.056	−0.061

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数　（有意水準）　1%水準　**
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）　5%水準　*
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－１０－３－１０）高齢者パターン別にみた解決前の状況

【実数】

	全体	パターン1 介助、中高程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度
有効回答数	152	84	68
衣装ケースの中に放尿していた	5	3	2
居室のすみにおしっこをしていた	78	47	31
居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた	74	39	35
夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった	27	14	13
廊下やリビングのすみで、時々放尿していた	46	29	17
屋外の庭でたまに放尿していた	14	8	6

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 介助、中高程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0
衣装ケースの中に放尿していた	3.3	3.6	2.9
居室のすみにおしっこをしていた	51.3	56.0	45.6
居室のゴミ箱やあちこちに放尿していた	48.7	46.4	51.5
夜間のみ窓・ドアを開けて放尿したり、ゴミ箱や洗面器などに放尿することがあった	17.8	16.7	19.1
廊下やリビングのすみで、時々放尿していた	30.3	34.5	25.0
屋外の庭でたまに放尿していた	9.2	9.5	8.8

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－１０－３－１１）高齢者パターン別にみた解決後の状況

【実数】

	全体	パターン1 介助、中高程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度
有効回答数	152	84	68
ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	84	52	32
失敗することもほとんどなくなった	25	16	9
自らおしっこに行きたいと訴えるようになった	15	9	6
夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	19	10	9
自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった	51	22	29

【比率】（縦 100）

	全体	パターン1 介助、中高程度重症度	パターン2 自立、軽中程度重症度
有効回答数	100.0	100.0	100.0
ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	55.3	61.9	47.1
失敗することもほとんどなくなった	16.4	19.1	13.2
自らおしっこに行きたいと訴えるようになった	9.9	10.7	8.8
夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	12.5	11.9	13.2
自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった	33.6	26.2	42.6

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－１０－４－１）放尿の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
有効回答数			245	100.0
誘導の工夫	101	排尿パターンに応じ	151	61.6
	102	誘導回数を増やす	86	35.1
	103	状態に応じた	163	66.5
	104	トイレが見えるよう	38	15.5
	105	トレイに誘導する	7	2.9
	107	本人だけにそっと	1	0.4
	108	同性誘導	1	0.4
	190	その他	3	1.2
環境調整	201	ポータブルトイレ	51	20.8
	202	トイレの位置調整	31	12.7
	204	夜間照明	59	24.1
	205	トイレ表示の工夫	105	42.9
	208	目の届く居室や環境	6	2.4
	209	排尿器の変更	3	1.2
	290	その他	3	1.2
その他	301	薬調整、受診	28	11.4
	302	繰り返し説明	60	24.5
	303	放尿箇所の工夫	4	1.6
	304	放尿場所の遮断	12	4.9
	305	オムツパッドへの変更	3	1.2
	307	活動量の増加	1	0.4
	308	受容、会話増加	1	0.4
	390	その他	6	2.4

（参考）平均記入項目数 → 3.4

（表２－１０－４－２）放尿の解決方法組み合わせパターン

（潜在クラス 19 クラスモデルのプロフィール）

(n=245)

区分	code	解決方法	全体	パターン1 「トイレ表示の工夫」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「誘導回数を増やす」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	パターン2 「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「状態に応じた」他で構成された平均2.2項目の組み合わせ	パターン3 「ポータブルトイレ」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	パターン4 「状態に応じた」、「放尿場所の遮断」、「トイレ表示の工夫」などに分散して構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	パターン5 「排泄パターンに応じ」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	パターン6 「繰り返し説明」と「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	パターン7 「排尿パターンに応じ」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「繰り返し説明」、「誘導回数を増やす」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均5.3項目の組み合わせ	パターン8 「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	パターン9 「状態に応じた」を共通ベースとして、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均2.4項目の組み合わせ	パターン10 「状態に応じた」と「薬調整、受診」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	パターン11 「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「薬調整、受診」の4項目を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「トイレの位置調整」などで構成された平均6.1項目と最多の組み合わせ	パターン12 「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「排尿パターンに応じ」の3項目を共通ベースとして、「トイレが見えるよう」、「繰り返し説明」、「放尿場所の遮断」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	パターン13 「トイレが見えるよう」と「夜間照明」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「トイレの位置調整」、「繰り返し説明」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	パターン14 「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	パターン15 「排尿パターンに応じ」と「トイレ表示の工夫」を共通ベースとして、「薬調整、受診」、「状態に応じた」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	パターン16 「排尿パターンに応じ」と「夜間照明」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	パターン17 「ポータブルトイレ」と「トイレの位置調整」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「夜間照明」、「薬調整、受診」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	パターン18 「状態に応じた」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「トレイに誘導する」、「同性誘導」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	パターン19 「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「放尿場所の遮断」の4項目を共通ベースとして、「薬調整、受診」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ
		サイズ	1.000	0.115	0.104	0.102	0.084	0.079	0.078	0.074	0.068	0.044	0.044	0.038	0.034	0.032	0.023	0.022	0.022	0.016	0.013	0.008
誘導の工夫	101	排尿パターンに応じ	0.616	0.715	0.997	0.533	0.004	0.993	0.933	0.998	0.016	0.007	0.217	0.997	0.831	0.008	0.009	0.992	0.993	0.739	0.671	0.990
	102	誘導回数を増やす	0.351	0.306	0.002	0.148	0.082	0.989	0.117	0.731	0.988	0.004	0.005	0.996	0.003	0.002	0.991	0.006	0.008	0.715	0.989	0.009
	103	状態に応じた	0.665	0.997	0.694	0.472	0.450	0.440	0.330	0.872	0.719	0.998	0.998	0.998	0.997	0.747	0.009	0.271	0.019	0.483	0.994	0.991
	104	トイレが見えるよう	0.155	0.001	0.111	0.000	0.000	0.001	0.001	0.670	0.001	0.004	0.102	0.528	0.718	0.986	0.537	0.002	0.002	0.002	0.003	0.004
	105	トレイに誘導する	0.029	0.035	0.039	0.000	0.146	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.251	0.326	0.001
	107	本人だけにそっと	0.004	0.035	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	108	同性誘導	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.325	0.000
	190	その他	0.012	0.035	0.000	0.000	0.049	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.119	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
環境調整	201	ポータブルトイレ	0.208	0.039	0.001	0.992	0.001	0.004	0.152	0.297	0.200	0.112	0.332	0.001	0.002	0.001	0.413	0.002	0.428	0.989	0.004	0.005
	202	トイレの位置調整	0.127	0.000	0.076	0.316	0.066	0.000	0.312	0.001	0.001	0.148	0.108	0.344	0.001	0.372	0.172	0.001	0.001	0.982	0.002	0.003
	204	夜間照明	0.241	0.357	0.001	0.152	0.001	0.049	0.001	0.717	0.330	0.559	0.002	0.107	0.181	0.874	0.006	0.003	0.981	0.706	0.004	0.980
	205	トイレ表示の工夫	0.429	0.997	0.003	0.141	0.301	0.136	0.688	0.193	0.544	0.013	0.566	0.772	0.978	0.617	0.714	0.990	0.553	0.007	0.008	0.011
	208	目の届く居室や環境	0.025	0.106	0.039	0.000	0.000	0.000	0.052	0.000	0.001	0.000	0.000	0.107	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001
	209	排尿器の変更	0.012	0.000	0.039	0.040	0.000	0.052	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	290	その他	0.012	0.000	0.078	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.488
その他	301	薬調整、受診	0.114	0.000	0.002	0.001	0.000	0.055	0.000	0.064	0.181	0.001	0.833	0.833	0.001	0.001	0.001	0.559	0.001	0.504	0.002	0.490
	302	繰り返し説明	0.245	0.153	0.003	0.003	0.001	0.001	0.988	0.778	0.267	0.459	0.002	0.241	0.707	0.369	0.002	0.003	0.003	0.466	0.004	0.006
	303	放尿箇所の工夫	0.016	0.000	0.039	0.000	0.097	0.000	0.000	0.000	0.000	0.093	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	304	放尿場所の遮断	0.049	0.000	0.000	0.000	0.337	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.362	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.975
	305	オムツパッドへの変更	0.012	0.000	0.039	0.000	0.097	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	307	活動量の増加	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.107	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	308	受容、会話増加	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.107	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	390	その他	0.025	0.000	0.000	0.000	0.050	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.368	0.000	0.000	0.968	0.001
		（参考）平均項目数 →	3.4	3.8	2.2	2.8	1.7	2.7	3.6	5.3	3.2	2.4	3.2	6.1	4.9	4.0	2.9	3.2	3.0	5.8	4.3	5.0
		該当事例数 →	(245)	(28)	(26)	(25)	(21)	(19)	(19)	(18)	(17)	(11)	(11)	(9)	(8)	(8)	(6)	(5)	(5)	(4)	(3)	(2)

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－１０－４－３）　潜在クラスモデル評価（放尿の解決方法組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1（クラス数1）	3277.3	3196.8	0.0000	0.000	1.000	1.000
モデル2（クラス数2）	3348.3	3183.7	0.1617	0.629	0.494	0.542
モデル3（クラス数3）	3435.8	3187.2	0.1682	0.659	0.620	0.615
モデル4（クラス数4）	3537.1	3204.4	0.1494	0.655	0.685	0.658
モデル5（クラス数5）	3649.6	3232.9	0.1639	0.716	0.714	0.678
モデル6（クラス数6）	3762.6	3261.9	0.2094	0.677	0.675	0.621
モデル7（クラス数7）	3863.4	3278.7	0.1656	0.788	0.751	0.708
モデル8（クラス数8）	3972.4	3303.6	0.1400	0.823	0.803	0.760
モデル9（クラス数9）	4085.9	3333.1	0.1481	0.798	0.790	0.738
モデル 10（クラス数 10）	4194.1	3357.3	0.1303	0.844	0.826	0.775
モデル 11（クラス数 11）	4310.7	3389.8	0.1200	0.859	0.854	0.805
モデル 12（クラス数 12）	4423.6	3418.7	0.1373	0.835	0.840	0.779
モデル 13（クラス数 13）	4545.7	3456.8	0.1121	0.868	0.864	0.811
モデル 14（クラス数 14）	4662.1	3489.1	0.1397	0.838	0.838	0.771
モデル 15（クラス数 15）	4766.5	3509.6	0.1118	0.873	0.885	0.825
モデル 16（クラス数 16）	4890.4	3549.4	0.1325	0.848	0.864	0.799
モデル 17（クラス数 17）	5014.5	3589.5	0.1058	0.881	0.880	0.828
モデル 18（クラス数 18）	5128.0	3619.0	0.1211	0.865	0.884	0.817
モデル 19（クラス数 19）	5242.8	3649.7	0.0893	0.899	0.905	0.859
モデル 20（クラス数 20）	5368.8	3691.7	0.1568	0.823	0.843	0.766

（表２－１０－４－４）　放尿の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（全体）

(n=152)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった	失敗することもほとんどなくなった	放尿回数や夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	放尿回数が減り、自らおしっこに行きたいと訴えるようになった
パターン1	「トイレ表示の工夫」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「誘導回数を増やす」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	-0.046	-0.049	0.134	0.088	-0.095
パターン2	「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「状態に応じた」他で構成された平均2.2項目の組み合わせ	-0.039	-0.034	-0.022	0.057	0.081
パターン3	「ポータブルトイレ」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	0.025	0.083	-0.021	-0.115	-0.021
パターン4	「状態に応じた」、「放尿場所の遮断」、「トイレ表示の工夫」などに分散して構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	0.024	0.101	-0.036	-0.037	-0.112
パターン5	「排泄パターンに応じ」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	0.158	-0.101	-0.023	-0.010	-0.084
パターン6	「繰り返し説明」と「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	0.018	0.049	-0.036	-0.109	0.055
パターン7	「排尿パターンに応じ」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「繰り返し説明」、「誘導回数を増やす」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均5.3項目の組み合わせ	0.057	-0.087	0.005	-0.086	0.120
パターン8	「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	0.022	0.124	-0.055	-0.114	-0.040
パターン9	「状態に応じた」を共通ベースとして、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均2.4項目の組み合わせ	0.017	-0.025	0.075	0.010	-0.087
パターン10	「状態に応じた」と「薬調整、受診」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	0.035	-0.119	-0.068	-0.081	0.284 **
パターン11	「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「薬調整、受診」の4項目を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「トイレの位置調整」などで構成された平均6.1項目と最多の組み合わせ	-0.033	-0.125	0.144	0.032	0.050
パターン12	「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「排尿パターンに応じ」の3項目を共通ベースとして、「トイレが見えるよう」、「繰り返し説明」、「放尿場所の遮断」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	-0.109	0.135	-0.053	0.092	-0.055
パターン13	「トイレが見えるよう」と「夜間照明」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「トイレの位置調整」、「繰り返し説明」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	-0.059	0.189 *	-0.062	-0.056	-0.052
パターン14	「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	-0.094	-0.008	-0.064	0.278 **	-0.054
パターン15	「排尿パターンに応じ」と「トイレ表示の工夫」を共通ベースとして、「薬調整、受診」、「状態に応じた」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	-0.017	-0.091	-0.058	0.260 **	-0.049
パターン16	「排尿パターンに応じ」と「夜間照明」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	-0.084	0.066	0.110	-0.038	-0.036
パターン17	「ポータブルトイレ」と「トイレの位置調整」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「夜間照明」、「薬調整、受診」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	0.006	0.008	0.059	-0.033	-0.053
パターン18	「状態に応じた」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「トレイに誘導する」、「同性誘導」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	-0.070	-0.049	-0.030	0.238 **	-0.028
パターン19	「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「放尿場所の遮断」の４項目を共通ベースとして、「薬調整、受診」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	-0.011	-0.062	-0.002	-0.040	0.158

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－１０－４－５）　放尿の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連
（全体）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況				
			ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	失敗することもほとんどなくなった	自らおしっこに行きたいと訴えるようになった	夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった
全体		152	55.3	16.4	9.9	12.5	33.6
パターン1	「トイレ表示の工夫」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「誘導回数を増やす」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	17	53.8	30.6	8.0	26.0	28.8
パターン2	「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「状態に応じた」他で構成された平均2.2項目の組み合わせ	20	55.0	15.1	14.9	15.1	29.4
パターン3	「ポータブルトイレ」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	14	52.9	10.6	7.1	1.7	37.2
パターン4	「状態に応じた」、「放尿場所の遮断」、「トイレ表示の工夫」などに分散して構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	14	45.8	9.3	0.2	9.0	37.7
パターン5	「排泄パターンに応じ」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	10	69.8	9.6	1.1	10.0	10.5
パターン6	「繰り返し説明」と「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	13	53.4	15.0	14.8	0.1	46.5
パターン7	「排尿パターンに応じ」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「繰り返し説明」、「誘導回数を増やす」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均5.3項目の組み合わせ	9	74.0	22.4	22.3	1.9	24.9
パターン8	「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	11	46.0	13.0	5.9	0.3	48.0
パターン9	「状態に応じた」を共通ベースとして、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均2.4項目の組み合わせ	9	55.8	21.1	0.1	11.8	23.8
パターン10	「状態に応じた」と「薬調整、受診」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	7	77.3	3.8	42.3	2.0	19.1
パターン11	「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「薬調整、受診」の4項目を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「トイレの位置調整」などで構成された平均6.1項目と最多の組み合わせ	6	35.2	33.9	16.1	15.6	0.0
パターン12	「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「排尿パターンに応じ」の3項目を共通ベースとして、「トイレが見えるよう」、「繰り返し説明」、「放尿場所の遮断」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	4	38.0	3.3	0.1	27.0	86.2
パターン13	「トイレが見えるよう」と「夜間照明」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「トイレの位置調整」、「繰り返し説明」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	4	26.0	0.7	0.0	0.5	74.0
パターン14	「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	3	76.6	0.1	0.1	61.1	84.4
パターン15	「排尿パターンに応じ」と「トイレ表示の工夫」を共通ベースとして、「薬調整、受診」、「状態に応じた」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	3	99.3	0.1	0.2	63.9	0.4
パターン16	「排尿パターンに応じ」と「夜間照明」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	2	56.9	41.0	0.0	0.9	57.5
パターン17	「ポータブルトイレ」と「トイレの位置調整」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「夜間照明」、「薬調整、受診」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	4	51.0	48.9	0.0	21.4	27.7
パターン18	「状態に応じた」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「トレイに誘導する」、「同性誘導」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	1	2.1	0.5	0.0	96.7	0.7
パターン19	「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「放尿場所の遮断」の4項目を共通ベースとして、「薬調整、受診」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	2	50.0	49.9	50.0	0.0	50.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－１０－４－６）　放尿の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン１“介助、中高程度重症度”の場合）

（n=85）

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった	失敗することもほとんどなくなった	放尿回数や夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	放尿回数が減り、自らおしっこに行きたいと訴えるようになった
パターン1	「トイレ表示の工夫」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「誘導回数を増やす」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	-0.079	-0.159	0.308 **	0.065	-0.109
パターン2	「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「状態に応じた」他で構成された平均2.2項目の組み合わせ	0.004	0.060	-0.174	0.010	0.125
パターン3	「ポータブルトイレ」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	0.023	0.132	0.004	-0.107	-0.114
パターン4	「状態に応じた」、「放尿場所の遮断」、「トイレ表示の工夫」などに分散して構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	0.159	-0.154	-0.010	0.063	-0.122
パターン5	「排泄パターンに応じ」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	0.119	-0.008	-0.008	-0.095	-0.094
パターン6	「繰り返し説明」と「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	0.005	0.086	-0.025	-0.105	0.011
パターン7	「排尿パターンに応じ」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「繰り返し説明」、「誘導回数を増やす」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均5.3項目の組み合わせ	-0.004	-0.130	0.009	-0.090	0.251 *
パターン8	「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	0.047	0.149	-0.059	-0.102	-0.102
パターン9	「状態に応じた」を共通ベースとして、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均2.4項目の組み合わせ	0.091	-0.132	0.157	-0.093	-0.095
パターン10	「状態に応じた」と「薬調整、受診」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	-0.200	-0.056	-0.073	-0.070	0.579 **
パターン11	「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「薬調整、受診」の4項目を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「トイレの位置調整」などで構成された平均6.1項目と最多の組み合わせ	0.096	-0.118	0.003	-0.072	0.053
パターン12	「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「排尿パターンに応じ」の3項目を共通ベースとして、「トイレが見えるよう」、「繰り返し説明」、「放尿場所の遮断」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	-0.140	0.135	-0.063	0.213	-0.059
パターン13	「トイレが見えるよう」と「夜間照明」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「トイレの位置調整」、「繰り返し説明」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	-0.059	0.254 *	-0.086	-0.061	-0.061
パターン14	「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	-0.179	0.014	-0.085	0.479 **	-0.060
パターン15	「排尿パターンに応じ」と「トイレ表示の工夫」を共通ベースとして、「薬調整、受診」、「状態に応じた」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	0.122	-0.054	-0.053	-0.036	-0.037
パターン16	「排尿パターンに応じ」と「夜間照明」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	-0.116	-0.049	0.264 *	-0.033	-0.039
パターン17	「ポータブルトイレ」と「トイレの位置調整」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「夜間照明」、「薬調整、受診」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	0.051	-0.090	0.084	-0.016	-0.062
パターン18	「状態に応じた」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「トレイに誘導する」、「同性誘導」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	-0.107	-0.050	-0.049	0.364 **	-0.037
パターン19	「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「放尿場所の遮断」の４項目を共通ベースとして、「薬調整、受診」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	0.062	-0.051	0.019	-0.033	-0.035

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－１０－４－７）　放尿の解決方法パターンと解決後の各状況との関連
（高齢者パターン１“介助、中高程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況				
			ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	失敗することもほとんどなくなった	自らおしっこに行きたいと訴えるようになった	夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった
全体		85	60.0	21.2	10.6	11.8	24.7
パターン1	「トイレ表示の工夫」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「誘導回数を増やす」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	8	49.7	48.5	12.4	30.5	3.1
パターン2	「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「状態に応じた」他で構成された平均2.2項目の組み合わせ	11	72.4	9.3	18.0	9.3	26.6
パターン3	「ポータブルトイレ」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	8	51.4	17.7	0.1	2.7	31.1
パターン4	「状態に応じた」、「放尿場所の遮断」、「トイレ表示の工夫」などに分散して構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	8	69.0	16.3	0.0	15.8	2.1
パターン5	「排泄パターンに応じ」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	6	68.0	15.8	0.7	0.5	16.4
パターン6	「繰り返し説明」と「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	8	49.0	24.5	11.3	0.0	37.8
パターン7	「排尿パターンに応じ」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「繰り返し説明」、「誘導回数を増やす」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均5.3項目の組み合わせ	6	80.9	18.4	34.5	1.5	19.1
パターン8	「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	7	55.4	10.1	0.2	0.3	34.5
パターン9	「状態に応じた」を共通ベースとして、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均2.4項目の組み合わせ	5	63.4	35.9	0.1	0.1	0.7
パターン10	「状態に応じた」と「薬調整、受診」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	4	59.2	6.7	77.2	3.3	34.6
パターン11	「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「薬調整、受診」の4項目を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「トイレの位置調整」などで構成された平均6.1項目と最多の組み合わせ	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン12	「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「排尿パターンに応じ」の3項目を共通ベースとして、「トイレが見えるよう」、「繰り返し説明」、「放尿場所の遮断」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	2	12.7	4.9	0.2	41.1	83.0
パターン13	「トイレが見えるよう」と「夜間照明」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「トイレの位置調整」、「繰り返し説明」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	3	33.1	0.5	0.0	0.1	66.4
パターン14	「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	2	80.4	0.1	0.0	80.0	99.6
パターン15	「排尿パターンに応じ」と「トイレ表示の工夫」を共通ベースとして、「薬調整、受診」、「状態に応じた」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	1	99.4	0.2	0.3	0.2	0.2
パターン16	「排尿パターンに応じ」と「夜間照明」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	1	2.1	95.9	0.0	1.3	2.0
パターン17	「ポータブルトイレ」と「トイレの位置調整」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「夜間照明」、「薬調整、受診」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	3	70.2	67.7	0.0	29.6	0.0
パターン18	「状態に応じた」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「トレイに誘導する」、「同性誘導」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	1	1.7	0.5	0.0	97.2	0.7
パターン19	「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「放尿場所の遮断」の４項目を共通ベースとして、「薬調整、受診」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン１の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－１０－４－８）　放尿の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関
（高齢者パターン２“自立、軽中程度重症度”の場合）

（n=67）

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった	失敗することもほとんどなくなった	放尿回数や夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	放尿回数が減り、自らおしっこに行きたいと訴えるようになった
パターン1	「トイレ表示の工夫」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「誘導回数を増やす」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	0.008	0.021	-0.109	0.102	-0.079
パターン2	「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「状態に応じた」他で構成された平均2.2項目の組み合わせ	-0.095	-0.133	0.268 *	0.105	0.024
パターン3	「ポータブルトイレ」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	0.022	0.049	-0.084	-0.123	0.102
パターン4	「状態に応じた」、「放尿場所の遮断」、「トイレ表示の工夫」などに分散して構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	-0.153	0.362 **	-0.093	-0.135	-0.101
パターン5	「排泄パターンに応じ」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	0.208	-0.198	-0.068	0.088	-0.070
パターン6	「繰り返し説明」と「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	0.028	0.025	-0.077	-0.113	0.115
パターン7	「排尿パターンに応じ」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「繰り返し説明」、「誘導回数を増やす」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均5.3項目の組み合わせ	0.136	-0.023	-0.027	-0.077	-0.074
パターン8	「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	-0.024	0.117	-0.061	-0.130	0.057
パターン9	「状態に応じた」を共通ベースとして、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均2.4項目の組み合わせ	-0.077	0.079	-0.067	0.109	-0.077
パターン10	「状態に応じた」と「薬調整、受診」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	0.327 **	-0.189	-0.063	-0.092	-0.071
パターン11	「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「薬調整、受診」の4項目を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「トイレの位置調整」などで構成された平均6.1項目と最多の組み合わせ	-0.009	-0.245 *	0.372 **	0.022	0.079
パターン12	「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「排尿パターンに応じ」の3項目を共通ベースとして、「トイレが見えるよう」、「繰り返し説明」、「放尿場所の遮断」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	-0.072	0.162	-0.046	-0.049	-0.049
パターン13	「トイレが見えるよう」と「夜間照明」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「トイレの位置調整」、「繰り返し説明」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	-0.093	0.168	-0.035	-0.044	-0.040
パターン14	「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	0.108	-0.004	-0.047	-0.068	-0.053
パターン15	「排尿パターンに応じ」と「トイレ表示の工夫」を共通ベースとして、「薬調整、受診」、「状態に応じた」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	-0.119	-0.145	-0.051	0.449 **	-0.060
パターン16	「排尿パターンに応じ」と「夜間照明」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	-0.057	0.131	-0.034	-0.047	-0.035
パターン17	「ポータブルトイレ」と「トイレの位置調整」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「夜間照明」、「薬調整、受診」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	-0.093	0.171	-0.034	-0.050	-0.038
パターン18	「状態に応じた」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「トレイに誘導する」、「同性誘導」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	0.159	-0.100	-0.034	-0.027	-0.039
パターン19	「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「放尿場所の遮断」の４項目を共通ベースとして、「薬調整、受診」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	-0.093	-0.081	-0.033	-0.049	0.382 **

（注）潜在クラス帰属確率による相関係数
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した（集計手法制約上の配慮）
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（有意水準）1%水準　**
5%水準　*

（表２－１０－４－９）　放尿の解決方法組み合わせパターンと解決後の状況
（高齢者パターン２“自立、軽中程度重症度”の場合）

【比率】（横100）

解決方法パターン		有効回答事例数	解決後の状況				
			ゴミ箱や部屋のすみに放尿する回数が減った	失敗することもほとんどなくなった	自らおしっこに行きたいと訴えるようになった	夜間トイレへ行く回数が減り、入眠するようになった	自らトイレへ歩いていき、排尿するようになった
全体		67	49.3	10.4	9.0	13.4	44.8
パターン1	「トイレ表示の工夫」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「誘導回数を増やす」などで構成された平均3.8項目の組み合わせ	8	57.7	13.5	3.9	21.7	53.5
パターン2	「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「状態に応じた」他で構成された平均2.2項目の組み合わせ	9	33.8	22.2	11.0	22.2	32.7
パターン3	「ポータブルトイレ」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	6	55.2	0.2	17.5	0.1	46.3
パターン4	「状態に応じた」、「放尿場所の遮断」、「トイレ表示の工夫」などに分散して構成された平均1.7項目と最少の組み合わせ	6	14.9	0.1	0.5	0.1	85.1
パターン5	「排泄パターンに応じ」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	4	72.6	0.1	1.6	24.6	1.4
パターン6	「繰り返し説明」と「排尿パターンに応じ」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「状態に応じた」、「トイレの位置調整」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	5	60.2	0.4	20.2	0.2	59.8
パターン7	「排尿パターンに応じ」と「状態に応じた」を共通ベースとして、「繰り返し説明」、「誘導回数を増やす」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均5.3項目の組み合わせ	3	61.7	29.4	0.4	2.7	35.5
パターン8	「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	5	32.4	17.1	14.1	0.3	67.5
パターン9	「状態に応じた」を共通ベースとして、「夜間照明」、「繰り返し説明」などで構成された平均2.4項目の組み合わせ	4	45.3	0.9	0.0	27.7	55.3
パターン10	「状態に応じた」と「薬調整、受診」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	3	98.8	0.3	0.9	0.6	0.6
パターン11	「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「薬調整、受診」の4項目を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「トイレの位置調整」などで構成された平均6.1項目と最多の組み合わせ	6	34.1	34.3	15.9	15.7	0.0
パターン12	「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「排尿パターンに応じ」の3項目を共通ベースとして、「トイレが見えるよう」、「繰り返し説明」、「放尿場所の遮断」などで構成された平均4.9項目の組み合わせ	1	80.3	0.7	0.1	3.4	91.6
パターン13	「トイレが見えるよう」と「夜間照明」を共通ベースとして、「状態に応じた」、「トイレ表示の工夫」、「トイレの位置調整」、「繰り返し説明」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	1	3.9	1.4	0.0	1.9	97.5
パターン14	「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「トイレが見えるよう」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ	1	64.5	0.0	0.3	0.1	35.5
パターン15	「排尿パターンに応じ」と「トイレ表示の工夫」を共通ベースとして、「薬調整、受診」、「状態に応じた」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	2	99.3	0.0	0.2	95.8	0.4
パターン16	「排尿パターンに応じ」と「夜間照明」を共通ベースとして、「トイレ表示の工夫」、「ポータブルトイレ」などで構成された平均3.0項目の組み合わせ	1	97.7	0.0	0.0	0.6	98.8
パターン17	「ポータブルトイレ」と「トイレの位置調整」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「誘導回数を増やす」、「夜間照明」、「薬調整、受診」などで構成された平均5.8項目の組み合わせ	1	1.4	0.5	0.0	0.0	99.3
パターン18	「状態に応じた」と「誘導回数を増やす」を共通ベースとして、「排尿パターンに応じ」、「トレイに誘導する」、「同性誘導」などで構成された平均4.3項目の組み合わせ	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン19	「状態に応じた」、「排尿パターンに応じ」、「夜間照明」、「放尿場所の遮断」の4項目を共通ベースとして、「薬調整、受診」などで構成された平均5.0項目の組み合わせ	1	0.1	0.0	99.9	0.0	99.9

（注）潜在クラス帰属確率による集計
高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した(集計手法制約上の配慮)
（帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる）

（表２－１０－５－１）　放尿の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
計（延解決方法件数）			748	100.0
認知能力	1	認知機能	55	7.4
	2	認知症の種類	3	0.4
	3	見当識	54	7.2
	4	認知症罹患期間	1	0.1
健康面	5	服薬状況	33	4.4
	6	現病・既往歴	28	3.7
	7	失禁有無	54	7.2
	8	水分状態	49	6.6
	9	便の状態	14	1.9
	10	睡眠時間・状況	58	7.8
能力・機能	12	歩行・下肢機能	45	6.0
	13	視覚機能	23	3.1
	14	言語能力	4	0.5
	16	尿意・排泄感覚	112	15.0
心理面	17	気分	52	7.0
	18	本人の気持ち、意志	179	23.9
排泄行動	19	排泄・排尿時間	203	27.1
	20	排泄間隔	196	26.2
	21	排泄頻度	143	19.1
	22	排泄場所	112	15.0
	23	放尿が始まった時期	22	2.9
	24	排泄量	27	3.6
放尿時の状態	25	放尿時の様子	89	11.9
	26	放尿時の表情	30	4.0
生活習慣	27	生活状況（数日内）	50	6.7
	28	生活習慣（ここ数年）	45	6.0
	29	生活歴（幼少期から）	18	2.4
環境	30	トイレの場所	143	19.1
	31	トイレの表示	113	15.1
	32	トイレの形・材質・色	12	1.6
	33	トイレ内の室温	8	1.1
	34	トイレ内の雰囲気	20	2.7
	35	トイレの扉	27	3.6
人間関係	36	他の入居者との関係	23	3.1
	37	スタッフとの関係	85	11.4
	38	家族関係	11	1.5
介護者の対応	39	スタッフの声かけ内容・見守り方	264	35.3
		（参考）平均記入項目数　→	3.2	

（表２－１０－５－２）放尿の解決に役立った情報の組み合わせパターン
（潜在クラス 15 クラスモデルのプロフィール）

（n=748）

区分	code	解決に役立った情報	全体	パターン1 「トイレの表示」と「トイレの場所」を主として、「トイレの扉」などで構成された平均2.2項目の組み合わせ	パターン2 「排泄間隔」と「排泄頻度」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	パターン3 「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「スタッフとの関係」、「気分」などで構成された平均3.4項目の組み合わせ	パターン4 「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「放尿時の様子」、「放尿時の表情」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン5 「トイレの場所」、「排泄場所」、「排泄・排尿時間」、「歩行・下肢機能」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	パターン6 「排泄・排尿時間」、「排泄間隔」、「尿意・排泄感覚」、「失禁有無」、「水分状態」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	パターン7 「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」、「生活習慣（ここ数年）」、「トイレの表示」などで構成された平均2.1項目と最少の組み合わせ	パターン8 「尿意・排泄感覚」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	パターン9 「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「トイレの場所」を共通ベースとして、「トイレの表示」、「スタッフとの関係」、「排泄場所」、「見当識」などで構成された平均4.1項目と最多の組み合わせ	パターン10 「排泄間隔」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「排泄頻度」、「本人の気持ち、意志」、「尿意・排泄感覚」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	パターン11 「放尿時の様子」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「尿意・排泄感覚」、「排泄場所」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン12 「服薬状況」、「現病・既往歴」、「睡眠時間・状況」、「水分状態」、「失禁有無」など“健康面を主として構成された平均3.3項目の組み合わせ	パターン13 「排泄場所」、「生活状況（数日内）」、「排泄間隔」、「見当識」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	パターン14 「尿意・排泄感覚」、「睡眠時間・状況」、「水分状態」、「失禁有無」、「排泄頻度」、「排泄場所」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	パターン15 「生活状況（数日内）」を共通ベースとして、「排泄・排尿時間」、「排泄間隔」、「睡眠時間・状況」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ
		クラスサイズ	1.000	0.141	0.140	0.085	0.076	0.075	0.068	0.064	0.062	0.056	0.055	0.046	0.041	0.037	0.034	0.022
認知能力	1	認知機能	0.074	0.036	0.000	0.139	0.000	0.198	0.098	0.170	0.064	0.137	0.049	0.029	0.173	0.000	0.048	0.000
	2	認知症の種類	0.004	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.108	0.000	0.000
	3	見当識	0.072	0.099	0.000	0.023	0.091	0.000	0.000	0.001	0.092	0.312	0.048	0.085	0.000	0.325	0.228	0.000
	4	認知症罹患期間	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.033	0.000	0.000	0.000
健康面	5	服薬状況	0.044	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.021	0.000	0.116	0.024	0.049	0.000	0.672	0.000	0.000	0.185
	6	現病・既往歴	0.037	0.000	0.038	0.000	0.000	0.000	0.020	0.000	0.000	0.000	0.000	0.144	0.587	0.000	0.000	0.000
	7	失禁有無	0.072	0.000	0.000	0.075	0.000	0.115	0.419	0.000	0.068	0.000	0.005	0.001	0.268	0.000	0.350	0.071
	8	水分状態	0.066	0.000	0.016	0.112	0.000	0.000	0.360	0.038	0.000	0.000	0.000	0.000	0.342	0.000	0.383	0.000
	9	便の状態	0.019	0.000	0.005	0.027	0.000	0.000	0.033	0.000	0.000	0.000	0.028	0.057	0.065	0.000	0.116	0.123
	10	睡眠時間・状況	0.078	0.025	0.047	0.001	0.000	0.119	0.030	0.000	0.066	0.023	0.052	0.143	0.379	0.000	0.578	0.310
能力・機能	12	歩行・下肢機能	0.060	0.000	0.000	0.022	0.000	0.220	0.000	0.000	0.093	0.152	0.148	0.083	0.074	0.000	0.254	0.189
	13	視覚機能	0.031	0.065	0.000	0.000	0.000	0.023	0.000	0.209	0.000	0.064	0.000	0.025	0.000	0.046	0.000	0.000
	14	言語能力	0.005	0.000	0.000	0.000	0.000	0.018	0.000	0.000	0.021	0.000	0.025	0.029	0.000	0.000	0.000	0.000
	16	尿意・排泄感覚	0.150	0.025	0.073	0.105	0.027	0.000	0.471	0.001	0.617	0.001	0.331	0.250	0.000	0.001	0.740	0.001
心理面	17	気分	0.070	0.000	0.000	0.365	0.022	0.000	0.077	0.000	0.189	0.043	0.099	0.174	0.034	0.000	0.000	0.123
	18	本人の気持ち、意志	0.239	0.013	0.051	0.589	0.179	0.214	0.280	0.343	0.598	0.277	0.360	0.532	0.172	0.119	0.001	0.063
排泄行動	19	排泄・排尿時間	0.271	0.000	0.982	0.147	0.192	0.222	0.730	0.001	0.001	0.101	0.224	0.001	0.073	0.195	0.084	0.471
	20	排泄間隔	0.262	0.000	0.930	0.024	0.101	0.001	0.564	0.001	0.002	0.001	0.982	0.001	0.001	0.333	0.249	0.423
	21	排泄頻度	0.191	0.008	0.828	0.020	0.000	0.085	0.237	0.001	0.000	0.000	0.402	0.029	0.143	0.270	0.324	0.001
	22	排泄場所	0.150	0.055	0.156	0.000	0.101	0.422	0.000	0.001	0.148	0.328	0.001	0.243	0.069	0.786	0.302	0.001
	23	放尿が始まった時期	0.029	0.000	0.037	0.000	0.091	0.079	0.059	0.000	0.026	0.000	0.000	0.000	0.000	0.121	0.000	0.062
	24	排泄量	0.036	0.000	0.155	0.000	0.000	0.000	0.102	0.000	0.022	0.000	0.031	0.000	0.033	0.039	0.050	0.000
放尿時の状態	25	放尿時の様子	0.119	0.011	0.060	0.000	0.489	0.053	0.177	0.000	0.001	0.031	0.148	0.993	0.000	0.001	0.000	0.001
	26	放尿時の表情	0.040	0.000	0.000	0.024	0.339	0.000	0.020	0.000	0.023	0.000	0.000	0.178	0.000	0.000	0.000	0.060
生活習慣	27	生活状況（数日内）	0.067	0.000	0.065	0.092	0.028	0.000	0.022	0.082	0.013	0.075	0.000	0.000	0.000	0.359	0.042	0.989
	28	生活習慣（ここ数年）	0.060	0.000	0.029	0.029	0.215	0.102	0.000	0.329	0.028	0.000	0.000	0.033	0.132	0.000	0.000	0.000
	29	生活歴（幼少期から）	0.024	0.000	0.019	0.000	0.074	0.020	0.000	0.163	0.062	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
環境	30	トイレの場所	0.191	0.540	0.037	0.000	0.046	0.555	0.090	0.000	0.025	0.802	0.001	0.128	0.000	0.101	0.049	0.055
	31	トイレの表示	0.151	0.647	0.028	0.000	0.022	0.001	0.000	0.320	0.000	0.472	0.050	0.000	0.000	0.091	0.043	0.001
	32	トイレの形・材質・色	0.016	0.054	0.010	0.021	0.000	0.071	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	33	トイレ内の室温	0.011	0.057	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	34	トイレ内の雰囲気	0.027	0.160	0.000	0.000	0.018	0.000	0.000	0.022	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.041	0.000
	35	トイレの扉	0.036	0.241	0.000	0.024	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
人間関係	36	他の入居者との関係	0.031	0.000	0.000	0.133	0.150	0.000	0.000	0.039	0.000	0.029	0.000	0.087	0.000	0.000	0.000	0.000
	37	スタッフとの関係	0.114	0.012	0.000	0.558	0.432	0.000	0.046	0.000	0.000	0.343	0.000	0.030	0.000	0.000	0.147	0.155
	38	家族関係	0.015	0.027	0.000	0.018	0.124	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
介護者の対応	39	スタッフの声かけ内容・見守り方	0.353	0.133	0.168	0.832	0.802	0.164	0.057	0.372	0.550	0.821	0.569	0.235	0.046	0.276	0.001	0.256
		（参考）平均項目数 →	3.2	2.2	3.7	3.4	3.5	2.7	3.9	2.1	2.8	4.1	3.6	3.5	3.3	3.2	4.0	3.5
		該当事例数 →	（748）	（105）	（104）	（63）	（57）	（56）	（51）	（48）	（47）	（42）	（41）	（35）	（31）	（28）	（25）	（16）

（注）該当事例数は、各パターンのサイズ（確率）から算定して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

（表２－１０－５－３）潜在クラスモデル評価（放尿の解決に役立った情報の組み合わせパターン）
（情報量規準など）

モデル（クラス数）	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1（クラス数1）	14330.8	14160.0	0.0000	0.000	1.000	1.000
モデル2（クラス数2）	13781.9	13435.6	0.0477	0.862	0.803	0.838
モデル3（クラス数3）	13634.3	13112.5	0.0947	0.830	0.786	0.790
モデル4（クラス数4）	13647.1	12949.9	0.1232	0.824	0.771	0.763
モデル5（クラス数5）	13791.9	12919.2	0.1531	0.801	0.761	0.731
モデル6（クラス数6）	13931.6	12883.4	0.1611	0.792	0.767	0.724
モデル7（クラス数7）	14120.3	12896.7	0.1586	0.806	0.787	0.736
モデル8（クラス数8）	14287.4	12888.3	0.1730	0.786	0.775	0.718
モデル9（クラス数9）	14462.4	12887.8	0.1712	0.796	0.793	0.729
モデル 10（クラス数 10）	14661.9	12911.9	0.1686	0.795	0.795	0.732
モデル 11（クラス数 11）	14849.8	12924.3	0.1581	0.814	0.803	0.741
モデル 12（クラス数 12）	15047.2	12946.2	0.1642	0.804	0.810	0.737
モデル 13（クラス数 13）	15259.7	12983.3	0.1805	0.786	0.799	0.723
モデル 14（クラス数 14）	15447.8	12996.0	0.1832	0.784	0.806	0.722
モデル 15（クラス数 15）	15651.9	13024.6	0.1644	0.809	0.828	0.750
モデル 16（クラス数 16）	15909.8	13107.0	0.1789	0.789	0.818	0.729
モデル 17（クラス数 17）	16038.9	13060.6	0.1764	0.798	0.828	0.737
モデル 18（クラス数 18）	16254.5	13100.8	0.1692	0.807	0.833	0.742
モデル 19（クラス数 19）	16490.7	13161.6	0.1730	0.797	0.833	0.740
モデル 20（クラス数 20）	16689.5	13184.9	0.1830	0.796	0.825	0.726

（表２－１０－５－４）放尿の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

【比率】（縦100）

区分	code	解決方法	合計	情報の組み合わせパターン														
				パターン1 「トイレの表示」と「トイレの場所」を主として、「トイレの扉」などで構成された平均2.2項目の組み合わせ	パターン2 「排泄間隔」と「排泄頻度」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.7項目の組み合わせ	パターン3 「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「スタッフとの関係」、「気分」などで構成された平均3.4項目の組み合わせ	パターン4 「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「放尿時の様子」、「放尿時の表情」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ	パターン5 「トイレの場所」、「排泄場所」、「排泄・排尿時間」、「歩行・下肢機能」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均2.7項目の組み合わせ	パターン6 「排泄・排尿時間」、「排泄間隔」、「尿意・排泄感覚」、「失禁有無」、「水分状態」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均3.9項目の組み合わせ	パターン7 「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」、「生活習慣（ここ数年）」、「トイレの表示」などで構成された平均2.1項目と最少の組み合わせ	パターン8 「尿意・排泄感覚」、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均2.8項目の組み合わせ	パターン9 「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「トイレの場所」を共通ベースとして、「トイレの表示」、「スタッフとの関係」、「排泄場所」、「見当識」などで構成された平均4.1項目と最多の組み合わせ	パターン10 「排泄間隔」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「排泄頻度」、「本人の気持ち、意志」、「尿意・排泄感覚」などで構成された平均3.6項目の組み合わせ	パターン11 「放尿時の様子」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「尿意・排泄感覚」、「排泄場所」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された」平均3.5項目の組み合わせ	パターン12 「服薬状況」、「現病・既往歴」、「睡眠時間・状況」、「水分状態」、「失禁有無」など"健康面"を主として構成された平均3.3項目の組み合わせ	パターン13 「排泄場所」、「生活状況（数日内）」、「排泄間隔」、「見当識」などで構成された平均3.2項目の組み合わせ	パターン14 「尿意・排泄感覚」、「睡眠時間・状況」、「水分状態」、「失禁有無」、「排泄頻度」、「排泄場所」などで構成された平均4.0項目の組み合わせ	パターン15 「生活状況（数日内）」を共通ベースとして、「排泄・排尿時間」、「排泄間隔」、「睡眠時間・状況」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ
		延べ方法件数 一	748	106	105	63	57	56	51	48	47	41	41	35	31	28	25	16
誘導の工夫	101	排尿パターンに応じ	19.5	1.1	63.7	9.5	10.1	8.4	47.5	0.9	11.8	1.9	24.4	0.7	12.0	10.3	34.1	34.8
	102	誘導回数を増やす	11.0	0.8	23.2	8.8	9.1	8.0	26.7	3.9	5.0	4.0	27.1	1.9	10.2	10.1	10.7	11.5
	103	状態に応じた	20.2	1.5	6.9	44.7	41.1	7.4	15.2	14.8	45.8	15.4	32.4	45.7	0.7	21.5	14.5	30.4
	104	トイレが見えるよう	4.7	13.3	0.0	7.1	0.5	3.8	2.0	9.4	1.9	8.3	0.0	5.7	0.3	5.7	0.1	3.4
	105	トレイに誘導する	0.8	0.1	0.0	1.8	0.6	1.0	0.0	2.5	0.9	0.2	2.1	2.9	0.0	0.9	0.0	0.0
	107	本人だけにそっと	0.1	0.0	0.0	1.2	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	108	同性誘導	0.1	0.0	0.0	1.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	190	その他	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
環境調整	201	ポータブルトイレ	6.0	3.5	2.8	2.5	10.3	21.3	0.3	6.0	3.8	4.2	0.1	15.2	4.8	10.1	8.2	4.9
	202	トイレの位置調整	3.7	2.8	2.3	0.8	1.4	9.2	3.3	6.5	2.9	7.6	0.6	7.9	0.2	6.4	8.3	0.0
	204	夜間照明	6.8	20.2	0.8	0.7	1.8	15.0	0.1	9.0	3.4	13.8	0.1	7.0	0.1	12.9	4.6	0.0
	205	トイレ表示の工夫	12.2	50.1	0.0	4.1	2.6	7.4	0.1	29.2	2.3	21.1	0.1	2.5	6.8	5.4	4.1	3.4
	208	目の届く居室や環境	0.8	0.0	0.0	3.2	0.6	0.0	0.1	1.4	2.1	0.0	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	209	排尿器の変更	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	290	その他	0.4	0.1	0.0	0.3	0.4	0.6	0.0	0.5	1.8	0.7	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0
その他	301	薬調整、受診	3.5	0.2	0.0	0.0	1.6	1.7	1.9	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	61.5	0.0	7.2	6.3
	302	繰り返し説明	6.8	5.5	0.1	11.0	11.6	12.0	2.5	7.2	9.5	22.0	8.4	0.1	0.1	10.2	0.6	0.7
	303	放尿箇所の工夫	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0	3.6	0.4	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	304	放尿場所の遮断	1.3	0.3	0.0	0.3	2.7	3.3	0.1	3.1	3.2	0.6	0.0	5.0	0.3	3.8	0.1	0.0
	305	オムツパッドへの変更	0.3	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	2.9	0.2	0.0	4.7
	307	活動量の増加	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0
	308	受容、会話増加	0.1	0.0	0.0	1.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	390	その他	0.7	0.4	0.0	0.8	5.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0

（注）潜在クラス帰属確率による集計

（表２－１０－６－１）絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	怒鳴ったり、しかったり、叱責する	放っておく	オムツにする	拘束するような脱ぎにくい服にする	無理やりトイレに連れて行く	他の利用者の前で、その事について話しをする	その他
実数	243	241	216	195	230	203	218	24
ﾊﾟｰｾﾝﾄ	100.0	99.2	88.9	80.2	94.7	83.5	89.7	9.9

D．結論

1．食事行為の課題解決に関する分析

1）有効情報

食事行為に関する課題に共通する傾向は、介護者の対応状況や他者との関係性や職員との関係性など人間関係が重要視されており、次いで嗜好、興味、満腹感など心理的な側面、表情や行動など本人の様子、周囲の刺激など環境面に関する情報の選択率が高い傾向にあった。逆に、健康面や認知機能、口腔機能等に関する情報の選択率はやや低い傾向であることが明らかとなった。つまり、健康状態や認知機能は課題の原因になっている可能性が高いが、対応やケアにとって直接的に有効であると判断される傾向が低い事を示している。逆に、実際の対応やケアの実行時に有効であるのは、介護者が現在行っている対応やケアを、高齢者の状態や心理を確認しながら評価している傾向が推測される。そして、本人の意図や興味、関心を現在の様子や過去の生活歴から推測し、本人の気分や行為に応じた臨機応変な対応へと結びつける事が課題解決の重要な視点であることが示唆されたといえよう。さらには、認知機能や口腔機能、身体機能等の選択率があまり高くない理由としては、有効情報の種類が多く、アセスメント視点の多様性によって選択率が分散された可能性が推測される。しかし、心理的な側面や他者との関係性に関する情報選択率の高さは、多くの解決方法において有効な情報であることを意味しているため、いわば方法に特定されない情報であると考えられる。

食事拒否課題の特徴は体調を有効な情報とする割合が高く、過剰要求と異なって、食事を食べない状況について体調不良が原因であると推測されている傾向が認められている。食事中断課題における特徴的な傾向は、周囲の刺激や席の位置などを有効情報と選択する割合が特に高く、環境からの刺激や食事環境を食事中断の原因と推測する傾向が高い事が示唆された。

食事行為に関する課題全体に関する有効情報の傾向としては、認知機能や健康に関する情報は、課題を解決するための有効な情報としては最重要視されない傾向にある事が明らかとなった。認知機能や健康状態は、食事過剰要求や食事の拒否や中断といった行為の原因の一端になっていることは容易に推測されることであるが、それらの情報を利用した対応は短期的な対応よりも長期的な対応や取組みにとって有効な情報である可能性が高いのではないだろうか。つまり、課題を解決するためにすぐに役立つのは、職員との関係性や、高齢者本人の表情や様子、心理、興味や、周囲の刺激や席位置など環境面、食事自体の方法に関する情報であり、これらはいわば短期的な取り組みに役立つ情報群と推測される。過剰要求課題と中断、拒否課題における有効情報の差異については、食事を摂取しない理由としてより健康状態や身体状況を原因として推測する傾向が高いことが明らかとなった。さらに、途中で食事をやめてしまう原因としては、環境刺激の問題が特に重要視されている事が

示唆された。

これらの結果から、食事行為に関する課題解決に有効なアセスメント視点では、長期的な対応視点として認知機能や身体状況を確認しつつ、高齢者本人の気分や興味、関心を評価し、それらの状況に応じて、職員の声かけや介護方法を見直し、食事の内容や食材の質、食器、食事方法や、席位置、食事メンバー、周囲の刺激などを評価し調整している傾向が伺える。

2）解決方法

食事過剰要求、拒否、中断に対する解決方法は、声かけや誘導の工夫、環境の調整、食事方法の工夫、活動方法の工夫、その他に分類された。特に声かけや誘導、環境調整、食事の工夫については実施率が高いが、ほぼすべての方法の実施率が高く特定の方法が解決に有効であるのではなく、これらの方法が組み合わされて実施されており、課題を解決するための方法は、複数の方法による総合的な効果によることが推測される。3 課題の共通傾向については、声かけも誘導も本人の状態を評価しながら本人のペースや状態に応じた方法が効果的であると推察される。特に食事の工夫は、嗜好に応じた献立、食材の質、量でなされており、認知機能を考慮した食器の工夫も特徴であった。環境の調整については周囲の明るさや、音、食事人数、食事メンバー、席の位置など他者との関係性も考慮した人的な環境調整も効果的な方法であることが示唆された。食事行為特有の方法として、生活リズム調整や体調の調整を考慮した活動の工夫も特徴であった。その他としては、水分補給や排泄調整、義歯調整など健康や身体状況に応じた解決方法もみられたが実施率があまり高くなく、これらの方法は長期的な取り組みとして実施される傾向が推測される。

3）有効情報と解決方法の組み合わせ

食事行為に関する課題解決に有効な情報について、回答傾向から選択の組み合わせを分析し、重複する組み合わせを調整した結果、食事過剰要求課題 13 パターン、食事拒否課題 15 パターン、食事中断課題 15 のパターンに分類された（表２－１１－１－１、表２－１１－１－２、表２－１１－１－３参照)。さらに身体状況、心理、認知機能、食事状況、人的・物理的環境、その他の 6 つに分類した。有効情報と解決方法の組み合わせの傾向は、6 つの情報分類すべてについて、声かけ・誘導の工夫、環境調整、食事の工夫、活動の工夫等が組み合わせて実施されており、複数の方法の総合的な効果によって課題が解決されたことが示唆された。有効な情報の種類によって、特定の解決方法が単一に実施され課題解決に至ったのではなく、複数の方法が組み合わされてそれらの相乗効果によって解決に結実したと推測される。そして、有効情報の種類によらず実施される方法はほぼ共通している傾向が示唆された。有効情報をアセスメント視点と解釈した場合に、解決方法とアセスメント視点が直接的に関連していたのは、水分補給、口腔状態と義歯調整や食物形態の変更、人間関係と席位置の変更、人間関係とコミュニケーションの増加、食事の嗜好と献

立の変更、食事量と盛りつけや品数の変更、睡眠状況と睡眠の促しや運動量の増加等であった。これ以外の心理や認知機能については、声かけ、誘導、食事の工夫、環境調整等が複合的に実施されており、全体的に、声かけや誘導の工夫は全てのパターンにおいて実施されている傾向が認められた。

２．入浴行為の課題解決に関する分析

１）有効情報

入浴行為の課題解決における有効情報の傾向は、清拭拒否、洗髪拒否、入浴拒否いずれにおいても心理や気分、職員との関係、職員の声かけや対応などの介護方法、性格が重要視される傾向が認められた。逆に、認知機能や健康面、身体機能等は重要視される傾向が高くなかった。つまり、課題の原因として認知能力が主要な要因であったとしても、実際の対応時には、本人の気分や心理が重要視され、日頃の職員との関係や現在の対応方法や声かけを把握し、評価することが解決時に役立つ情報である傾向が示唆された。そして、いずれの課題においても性格を重要な情報として認識している傾向が認められており、入浴に関する課題が本人の性質によって生じているものと捉えられている傾向が明らかとなった。特に、洗髪拒否課題においては、洗髪時の反応や湯温、洗髪習慣が重要視されている点が他の 2 課題とは異なる特徴であった。

これらの傾向から、食事や排泄とは異なる入浴行為の特性が明らかとなったといえるだろう。つまり、食事や排泄行為は生理的な欲求を起因とした行動であり、生命維持機能といった側面から捉えれば、生物にとって必ず必要な行為であるが、入浴は欲求から起因するというよりも清潔保持を第一義的な目的として、血行促進や気分転換、習慣、あるいは好き嫌いといった入浴行為に対する考え方や嗜好と深く関与するいわば個人の恣意性に強く影響をうける行為である。よって、認知機能の低下等による影響があるとしても、個人的な入浴に対する習慣や考え方など個別的な要因に関わる行為であることから、課題の原因を個人的な特性に帰属させる傾向が強いものと考えることができるだろう。

２）解決方法

清拭拒否、洗髪拒否、入浴拒否に対する解決方法は、声かけや誘導の工夫、環境の調整、入浴や清拭、洗髪方法の工夫、介助者の工夫、その他に分類された。全ての方法の実施率が高く特定の方法が解決に有効であるのではなく、これらの方法が組み合わされて実施されており、課題を解決するための方法は、複数の方法による総合的な効果によることが推測される。3 課題の共通傾向については、声かけも誘導も好きな話題を使用したり、笑顔などの態度面や、お礼やねぎらいを多用したり安心あるいは、わかりやすい関わり方が特徴的であった。方法の工夫については、特に温度や時間帯など習慣を考慮した方法の工夫が実施されている。環境の調整は、入浴人数、浴室温度など人的環境を含めた入浴環境の工夫が実施されていた。介護者については、信頼関係の構築や同性介護を実施しており、入浴支援が介護者の性

別や信頼関係などと強く影響していることが示唆された。入浴自体が欲求と直接的に関連した行為でない事から、誘導方法や介助者が解決のための主要な要因であることが明らかとなった。

入浴行為に関する課題解決について重要な視点は、入浴という行為自体が高齢者本人の個人的な価値観や習慣などと大きく関連しており、本人理解を前提として安心感を強めるような方法が有効であることが示唆されたといえるだろう。

3）有効情報と解決方法の組み合わせ

入浴行為に関する課題解決に有効な情報について、回答傾向から選択の組み合わせを分析し、重複する組み合わせを調整した結果、清拭拒否課題 11 パターン、洗髪拒否課題 13 パターン、入浴拒否課題 13 パターンに分類された（表２－１１－２－１、表２－１１－２－２、表２－１１－２－３参照)。さらに身体状況、心理、認知機能、性格、入浴状況、介護方法、人間関係の 7 つに分類した。有効情報と解決方法の組み合わせの傾向は、7 つの情報分類すべてについて、声かけ・誘導の工夫、環境調整、清拭・入浴・洗髪の工夫、介助者の工夫等が組み合わせて実施されており、複数の方法の総合的な効果によって課題が解決されたことが示唆された。有効な情報の種類によって、特定の解決方法が単一に実施され課題解決に至ったのではなく、複数の方法が組み合わされてそれらの相乗効果によって解決に結実したと推測される。そして、有効情報の種類によらず実施される方法はほぼ共通している傾向が示唆された。有効情報をアセスメント視点と解釈した場合に、解決方法とアセスメント視点が直接的に関連していたのは、湯温や清拭布の温度、浴室温度と入浴や清拭等の時間帯であった。全体的に、声かけや誘導の工夫は全てのパターンにおいて実施されている傾向が認められた。

3．排泄行為の課題解決に関する分析

1）有効情報

排泄行為の課題解決における有効情報の傾向は、排泄誘導拒否、排泄介護拒否、放尿に共通している視点として心理や気分、職員との関係、介護者の声かけや対応が重要視される傾向が認められた。排泄誘導拒否における特徴は、排泄パターンが特に重要視されており、誘導タイミングの確認と考えられる。排泄介護拒否（パッド交換への抵抗）の特徴は、認知機能や抵抗時の様子、交換場所、性格を重視しており、認知機能や性格を課題の要因として考慮しながら、抵抗時の表情や様子を評価している傾向が明らかとなった。放尿における特徴は、尿意、排泄パターン、トイレの場所や表示を重視しており、環境面や健康面の情報が重要である傾向が明らかとなった。

以上の事から、排泄行為に関する課題は誘導や介護への抵抗や拒否といった課題については、職員との関係や誘導技法や交換方法についての改善につながる情報が有効であり、放尿については尿意感覚やトイレ環境に関する情報が重要である事が示唆さ

れた。

2）解決方法

誘導拒否、介護拒否に対する解決方法は、声かけや誘導の工夫、環境の調整、介助方法、介助者の工夫、その他に分類され、放尿に対しては声かけ、誘導の工夫、環境調整、その他に分類された。全ての方法の実施率が高く特定の方法が解決に有効であるのではなく、これらの方法が組み合わされて実施されており、課題を解決するための方法は、複数の方法による総合的な効果によることが推測される。誘導拒否と介護拒否への対応方法の共通傾向については、声かけや誘導は好きな話題を使用したり、排泄パターンを考慮したり、トイレと意識させないような工夫や、賞賛やねぎらいを多用したり、安心あるいは、わかりやすい関わり方が特徴的であった。介助方法の工夫については、手際よく素早く介助したり、介助者と信頼関係を深めたり、同性が介護するなどの工夫が実施されていた。放尿への対応については、排尿パターンに応じた誘導やトイレを視界に入れながらの誘導など誘導の工夫が実施され、あるいはトイレの表示を工夫したり、夜間の照明をつけたり、視界にはいるようにトイレの位置を改善したりなど環境面の工夫が特徴的であった。

排泄行為の特徴は、非常に個人のプライバシーに関わるという特性を有しており、介護者との関係性が大きく影響している点と、排泄パターンに応じた対応が有効であり排泄パターンの把握は欠かせないアセスメント視点である。そして、信頼関係を構築している介護者が、声かけや誘導などの工夫によって解決に至る傾向が明らかとなった。さらには、特に放尿については、トイレ環境の改善や工夫が放尿課題を解決する上で有効であることが示唆された。

3）有効情報と解決方法の組み合わせ

排泄行為に関する課題解決に有効な情報について、回答傾向から選択の組み合わせを分析し、重複する組み合わせを調整した結果、誘導拒否課題 11 パターン、介護拒否課題 11 パターン、放尿課題 12 パターンに分類された（表２－１１－３－１、表２－１１－３－２、表２－１１－３－３参照）。さらに誘導拒否については、疾病、心理、排泄状況、人間関係の 4 つに、介護拒否については、認知機能、疾患、心理、排泄状況、対応方法、職員との関係の 6 つに、放尿は排泄状況、環境、職員関係の 3 つに分類した。有効情報と解決方法の組み合わせの傾向は、いずれの課題についても、分類された情報項目すべてについて、声かけ・誘導の工夫、環境調整が実施されており、複数の方法の総合的な効果によって課題が解決されたことが示唆された。有効な情報の種類によって、特定の解決方法が単一に実施され課題解決に至ったのではなく、複数の方法が組み合わされてそれらの相乗効果によって解決に結実したと推測される。課題に特徴的な傾向は、誘導拒否や介護拒否課題については、声かけや誘導を実施する介護者の性別や信頼感が重要であることや、放尿については、排泄パターンや尿意感覚、トイレ環境の状態と解決方法が直接的に連動してい

る傾向が明らかとなった。

3.課題全体における傾向

食事、入浴、排泄行為に関する課題解決に関するアセスメント視点の共通傾向として、全ての課題について高齢者の心理や興味、認知機能、様子、習慣、体調を基礎視点として、物理的環境や人間関係、職員の声かけや関わりなどの周辺状況を同時に組み合わせてアセスメントしている傾向が明らかとなった。各課題に特有の視点として、食事行為に関する課題では食事の方法や運動量、口腔状況を重視し、入浴行為に関する課題では、入浴方法や排泄、水分状況を重視し、排泄行為に関する課題では、排泄パターンを重視しており、各課題に特徴的なアセスメント視点が示唆された。

解決方法の傾向としては、上記のアセスメント視点に応じて、声かけや誘導方法の工夫や、物理的な環境、人間関係の調整、食事・入浴の方法に関する工夫、体調管理などを組み合わせて実施しており解決方法の組み合わせパターンの傾向が明らかとなり、食事、入浴、排泄行為の課題を解決するためのアセスメント視点及びケアの組み合わせモデルが明らかとなった。本研究の課題は、数量的な解析によってアセスメントの組み合わせと、アセスメントパターンに応じたケアの組み合わせを明らかにし、先行する解決事例からいわば、多数の解決事例の共通点を抽出しモデルとして整理したが、これらの結果の妥当性を実際の介護と照合し、汎用性を検証する必要があるだろう。

表2－11－1－1　食事過剰要求を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要な視点・留意点			解決方法（分類コードによる）	実施率
身体状況	病気	「現病・既往歴」 「体調」 「認知能力」 「本人の気持ち、意志」	席の変更	7.2
			摂取状態に応じた食材形態変更	6.7
			おやつや代替え品を提供	15.7
			低カロリーの間食や夜食の提供	14.8
			スタッフが一緒に食事をとる	8.0
			味の感想を伺う	13.1
	水分排泄	「水分状態」 「排泄状況」 「満腹感、空腹感」	水分の摂取を増やす	87.9
			体重の管理	4.6
	運動睡眠	「運動量」 「体調」 「睡眠時間・状況」	低カロリーにして大盛りにした	11.2
			おやつや代替え品を提供	15.4
			水分の摂取を増やす	5.4
			低カロリーの間食や夜食の提供	5.7
			訴えを受容し、会話を多くする	6.4
			食後のレクリエーション活動への誘導	18.6
			外出	34.6
心理	心理面	「本人の気持ち、意志」 「心配事・不満状況」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	席の変更	21.2
			おやつや代替え品を提供	14.8
			スタッフが一緒に食事をとる	7.3
			訴えを受容し、会話を多くする	10.7
			別の場所へ移動し会話する	6.4
			味の感想を伺う	13.4
			食事時間の確認や説明を丁寧にする	5.6
			外出	13.8
認知機能	認知機能	「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意欲」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	カロリーを考慮し、好きなおかず数を増加	4.3
			摂取状態に応じた食材形態変更	4.2
			おやつや代替え品を提供	5.5
			食器を小さくし、おかわりを増やす、食事数を増やす	4.5
			盛りつけの工夫	7.5
			スタッフが一緒に食事をとる	7.3
			訴えを受容し、会話を多くする	13.2
			味の感想を伺う	9.2
			食後のレクリエーション活動への誘導	8.8
			計算ドリル	8.4
			献立の掲示や説明	13.7
	認知症状	「認知症の症状」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「食事中の会話」 「気分」	隣の席から離れる	16.7
			おやつや代替え品を提供	17.3
			スタッフが一緒に食事をとる	28.3
			訴えを受容し、会話を多くする	10.3
			食事以外の話をする	7.7
食事状況	食事量	「満腹感、空腹感」 「当日の食事量・おやつ量」 「最近の食事量」	低カロリーにして大盛りにした	15.4
			おやつや代替え品を提供	20.2
			水分の摂取を増やす	16.1
			低カロリーの間食や夜食の提供	9.0
			食器を小さくし、おかわりを増やす、食事数を増やす	8.1
	食事方法	「盛付」 「食器の大きさ」 「食の嗜好・興味・意欲」	隣の席から離れる	11.4
			低カロリーにして大盛りにした	4.9
			カロリーを考慮し、好きなおかず数を増加	3.6
			摂取状態に応じた食材形態変更	6.9
			食器を小さくし、おかわりを増やす、食事数を増やす	40.8
			スタッフが一緒に食事をとる	4.7
			味の感想を伺う	10.0
	嗜好	「食の嗜好・興味・意欲」 「満腹感、空腹感」 「スタッフとの関係」 「表情」	低カロリーにして大盛りにした	6.9
			カロリーを考慮し、好きなおかず数を増加	9.4
			おやつや代替え品を提供	32.2
			低カロリーの間食や夜食の提供	5.1
			スタッフが一緒に食事をとる	7.2
			訴えを受容し、会話を多くする	6.9
			味の感想を伺う	27.0

必要な視点・留意点			解決方法（分類コードによる）	実施率
人的・物理的環境	席位置	「席の位置」 「周囲の雰囲気・刺激（音・光・匂い）」の環境	隣の席から離れる	29.9
			席の変更	35.2
	スタッフ関係	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「他の入居者との関係」	スタッフが一緒に食事をとる	25.2
			訴えを受容し、会話を多くする	14.7
			待ってねと声かけ	6.1
			食後のレクリエーション活動への誘導	5.5
			外出	7.3
	人間関係	「他の入居者との関係」 「スタッフとの関係」の人間関係 「気分」 「本人の気持ち、意志」	隣の席から離れる	6.7
			席の変更	4.5
			おやつや代替え品を提供	7.3
			スタッフが一緒に食事をとる	7.4
			訴えを受容し、会話を多くする	16.0
			食後のレクリエーション活動への誘導	11.0
			外出	12.4
その他	生活習慣	「生活習慣（ここ数年）」 「生活歴（幼少期から）」 「本人の気持ち、意志」	おやつや代替え品を提供	10.3
			水分の摂取を増やす	9.1
			訴えを受容し、会話を多くする	6.8
			味の感想を伺う	5.9
			食事以外の話をする	5.8
			食後のレクリエーション活動への誘導	6.4
			外出	7.0
			興味のあるものを提供	11.9

表2－11－1－2　食事拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要な視点・留意点			解決方法(分類コードによる)	実施率
身体状況	水分摂取	「水分状態」 「排泄状況」 「体調」	食事前にお茶を提供	16.0
			食べやすいよう、盛りつけを工夫	5.9
			カロリーを考慮し、おやつを提供	11.9
			水分摂取量を増やした	33.3
			活動量を増やす	9.6
	体調・運動量	「体調」 「睡眠時間・状況」 「運動量」 「排泄状況」 「本人の気持ち、意志」、「気分」	本人ペースで声かけ	25.3
			活動量を増やす	21.7
			ぐっすり眠ってもらうようにした	6.1
			一端、休憩	11.5
	口腔機能	「咀嚼力」 「嚥下状態・誤嚥」 「口腔状況」 「食の嗜好・興味・意欲」 「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」	本人ペースで声かけ	4.9
			声かけの内容を工夫	4.2
			食べやすいよう、盛りつけを工夫	23.3
			食材の形態、色等の工夫	15.4
			発声練習	7.0
			義歯調整	10.6
	睡眠	「睡眠時間・状況」 「運動量」 「体調」 「薬の種類、服薬状況」	活動量を増やす	40.4
			ぐっすり眠ってもらうようにした	28.8
			一端、休憩	7.6
心理	気持ち	「本人の気持ち、意志」 「気分」や「心配ごと・不満状況」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」	好きな場所で食事を取る	4.7
			本人ペースで声かけ	28.6
			食事前からこまめに声かけ	4.2
			声かけをせず、職員が一緒に	7.3
			調理を手伝う	4.1
			コミュニケーションをふやす	9.3
認知機能	認知症状	「認知症の症状」 「認知機能」 「認知症の種類」 「気分」 「本人の気持ち、意志」 「生活習慣」	好きな場所で食事を取る	7.6
			本人ペースで声かけ	15.6
			食べやすいよう、盛りつけを工夫	7.3
			水分摂取量を増やした	4.2
			活動量を増やす	16.2
			コミュニケーションをふやす	9.3
			医療的対応	8.0
食事状況	嗜好	「食の嗜好・興味・意欲」 「本人の気持ち、意志」	食事内容、献立の説明	13.7
			食べやすいよう、盛りつけを工夫	17.4
			外出時、外食に誘導	6.9
			好きな食べ物を見せる	17.7
			好きな献立にする	14.1
	食事	「盛付」 「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」 「食器の配置」 「食の嗜好・興味・意欲」	声かけをせず、職員が一緒に	7.6
			配膳をしてもらう	4.6
			食事内容、献立の説明	10.3
			食べやすいよう、盛りつけを工夫	39.6
			好きな食べ物を見せる	12.5
			好きな献立にする	9.4
	食事量	「当日の食事量・おやつ量」 「食の嗜好・興味・意欲」 「最近の食事量」	本人ペースで声かけ	4.3
			食事内容、献立の説明	12.0
			食べやすいよう、盛りつけを工夫	12.4
			カロリーを考慮し、おやつを提供	36.4
			一緒に買い物に行き、好きなメニューにする	4.6
			好きな食べ物を見せる	11.7
	食事中状態	「表情」、「食中の様子」、 「食事中の会話」、「目線」 「スタッフとの関係」	本人ペースで声かけ	14.4
			声かけをせず、職員が一緒に	16.8
			好きな話題で声かけ	11.7
			食べやすいよう、盛りつけを工夫	5.2
			一端、休憩	4.3
			コミュニケーションをふやす	4.5

必要な視点・留意点			解決方法(分類コードによる)	実施率
人的・物理的環境	声かけ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「気分」	本人ペースで声かけ	24.0
			食事前からこまめに声かけ	4.3
			声かけをせず、職員が一緒に	10.0
			好きな話題で声かけ	8.0
			調理を手伝う	4.6
			ぐっすり眠ってもらうようにした	4.2
			コミュニケーションをふやす	13.5
	席位置	「周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)」 「席の位置」 「他の入居者との関係」	少人数席に変更	21.4
			好きな場所で食事を取る	12.6
			本人ペースで声かけ	11.4
			生活のリズム調整	8.1
	人間関係	「スタッフとの関係」 「家族関係」 「他の入居者との関係」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「気分」「本人の気持ち、意志」	本人ペースで声かけ	10.7
			声かけをせず、職員が一緒に	5.1
			好きな話題で声かけ	9.2
			家族の話題	6.9
			調理を手伝う	4.0
			活動量を増やす	10.5
			コミュニケーションをふやす	17.0
			受容し、安心してもらった	4.6
	家族、生活	「家族関係」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「生活歴(幼少期から)」 「心配ごと・不満状況」 「本人の気持ち、意志」 「所持金/ 経済不安」	好きな話題で声かけ	10.1
			家族の話題	24.5
			好きな献立にする	4.6
			コミュニケーションをふやす	16.6
			受容し、安心してもらった	16.2
その他	生活暦	「生活習慣(ここ数年)」、 「生活歴(幼少期から)」 「最近の食習慣」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	好きな場所で食事を取る	4.9
			本人ペースで声かけ	7.1

表2－11－1－3　食事中断を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要な視点・留意点			解決方法（分類コードによる）	実施率
身体状況	体調、睡眠	「体調」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「睡眠時間・状況」	急かさず、声かけの繰り返し	14.2
			ペースを尊重し、食事の促し	16.6
			無理に促さず、見守る	24.8
			食事前の活動を促す	7.2
	排泄状況	「排泄状況」 「水分摂取状態」 「気分」	本人の気持ちの確認、質問	8.6
			食事前にトイレへ誘導	73.4
	口腔機能	「咀嚼力」 「嚥下状態・誤嚥」 「口腔状況」 「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」	食物の形態を変更	67.3
			義歯の調整	15.3
	嚥下機能	「嚥下状態・誤嚥」 「認知症の症状」 「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	急かさず、声かけの繰り返し	7.8
			ペースを尊重し、食事の促し	17.3
			無理に促さず、見守る	16.3
			職員と一緒に	11.6
			食物の形態を変更	8.7
	活動量	「運動量」 「体調」 「水分摂取状態」 「排泄状況」 「満腹感、空腹感」	無理に促さず、見守る	7.8
			食事前の活動を促す	55.1
			食事前にトイレへ誘導	11.0
心理	心理面	「本人の気持ち、意志」 「気分」 「心配ごと・不満」	急かさず、声かけの繰り返し	6.4
			ペースを尊重し、食事の促し	11.5
			無理に促さず、見守る	10.4
			食事を一端止め、待つ	9.2
			仲の良い人と食べる	7.6
			好きな場所で	7.5
認知機能	認知機能 視力・姿勢	「目線」 「認知機能」 「姿勢」 「本人の気持ち、意志」 「視力・視覚機能」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	急かさず、声かけの繰り返し	14.1
			食事の認識を促す	12.3
			ペースが一緒の利用者と	11.0
			職員と一緒に	4.2
			食物の形態を変更	4.2
			食器の柄や色を変える	5.0
			静かな環境で	12.6
			イス、テーブルの高さ調整	8.0
食事状況	食事の嗜好	「食の嗜好・興味・意欲」 「気分」	食事の認識を促す	19.1
			好みのものにする	19.1
	食習慣	「生活習慣(ここ数年)」 「生活歴(幼少期から)」 「家族関係」 「本人の気持ち、意志」 「食の嗜好・興味・意欲」	ペースを尊重し、食事の促し	6.4
			家族の名前を出して誘導する	11.1
			好みのものにする	13.8
			好きな場所で	5.1
			食事に関する思い出を家族から聞く	17.3
	盛付・配置	「食器の配置」 「盛付」 「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」 「認知機能」	ペースを尊重し、食事の促し	5.8
			食事の認識を促す	15.2
			食器の大きさを変えた	16.2
			食物の形態を変更	7.4
			食器の形や材質変更	14.0

必要な視点・留意点			解決方法（分類コードによる）	実施率
食事状況	食事量	「最近の食事量」 「当日の食事量・おやつ量」 「満腹感、空腹感」 「盛付」 「食の嗜好・興味・意欲」 「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」	ペースを尊重し、食事の促し	6.5
			無理に促さず、見守る	18.3
			食事の認識を促す	6.0
			食事を一端止め、待つ	4.7
			食器の大きさを変えた	21.7
			好みのものにする	9.7
			おやつ、間食	8.8
			食事の盛り方の工夫	4.6
	食材	「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」 「食の嗜好・興味・意欲」 「盛付」 「咀嚼力」	ペースを尊重し、食事の促し	22.3
			食事の認識を促す	8.4
			食物の形態を変更	32.4
物理的・人的環境	物理的、人的環境	「周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)」、 「席の位置」 「他の入居者との関係」 「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	仲の良い人と食べる	13.1
			職員と一緒に	9.2
			好きな場所で	21.8
			静かな環境で	10.8
	食事中の様子 周囲の刺激	「表情」 「食中の様子」 「気分」 「本人の気持ち、意志」 「周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)」	急かさず、声かけの繰り返し	6.4
			ペースを尊重し、食事の促し	7.0
			無理に促さず、見守る	11.6
			食事を一端止め、待つ	7.4
			仲の良い人と食べる	8.1
			好きな場所で	9.8
			静かな環境で	8.6
	人間関係	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「他の入居者との関係」 「食事中の会話」	ペースを尊重し、食事の促し	8.9
			仲の良い人と食べる	8.0
			職員と一緒に	26.4
			好きな場所で	10.6

表2－11－2－1　清拭拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要な視点・留意点			解決方法（分類コードによる）	実施率
身体状況	清潔度	「清潔度」 「皮膚疾患」 「失禁有無」 「排泄状況」	トイレ時に実施	21.6
			薬を塗るため	20.5
			清潔、血行など効果を説明	22.9
			1人で	6.0
		「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「排泄状況」 「着脱能力」	暖かいタオルを渡し自分で	5.5
			部分から開始	14.8
			トイレ時に実施	5.9
			清拭時間を本人のペースで	5.4
			薬を塗るため	7.9
			清潔、血行など効果を説明	13.5
			声かけを簡単に	12.2
			信頼関係が出来ている介助者	17.4
			コンプレックスを確認	5.9
心理	心理	「興味・関心」 「本人の気持ち、意志」 「気分」	気持ちをくつろがせる	16.9
			家族からの依頼	10.3
			内科受診のため	5.3
			他者から誘導	6.7
			声かけの態度の工夫	6.2
			お礼やねぎらいを	7.7
性格	性格	「性格」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「清拭時間帯」	部分から開始	7.9
			清拭時間を本人のペースで	6.9
			気持ちをくつろがせる	6.0
			家族からの依頼	8.0
			薬を塗るため	9.5
			声かけの態度の工夫	19.7
			声かけを簡単に	6.8
			お礼やねぎらいを	7.1
			清拭場所の調整	7.7
			複数のスタッフ	5.8
清拭・入浴方法	清拭布の温度	「気分」 「清拭タオルの温度」 「本人の気持ち、意志」	暖かいタオルを渡し自分で	6.4
			部分から開始	6.2
			トイレ時に実施	5.0
			気持ちをくつろがせる	9.3
			薬を塗るため	5.6
			声かけの態度の工夫	6.9
			温度調節	12.9
			清拭布の温度	12.5
			清拭場所の調整	5.9
	入浴習慣	「家族関係」 「入浴習慣（自宅）」 「浴室環境（自宅）」	部分から開始	5.9
			家族からの依頼	22.9
			内科受診のため	8.8
			温度調節	10.0
			信頼関係が出来ている介助者	6.4
			家族の協力	16.5
			コンプレックスを確認	5.2
	入浴習慣	「過去の入浴体験」 「生活歴（幼少期から）」 「入浴習慣（自宅）」 「本人の気持ち、意志」 「認知機能」 「家族関係」	トイレ時に実施	5.1
			清拭時間を本人のペースで	9.3
			気持ちをくつろがせる	5.4
			家族からの依頼	10.0
			内科受診のため	10.2
			他者から誘導	5.0
			声かけを簡単に	5.7
			温泉に誘う	5.0
			清拭布の温度	7.7
			信頼関係が出来ている介助者	8.6
			コンプレックスを確認	5.8

必要な視点・留意点			解決方法（分類コードによる）	実施率
介護・対応	介護者の性別	「気分」 「本人の気持ち、意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「介護者の性別」 「興味・関心」 「言語理解」	部分から開始	5.2
			トイレ時に実施	5.3
			気持ちをくつろがせる	17.0
			声かけの態度の工夫	16.7
			声かけを簡単に	11.0
			お礼やねぎらいを	7.2
			1人で	14.6
			信頼関係が出来ている介助者	13.7
			コンプレックスを確認	5.9
	介護者の性別	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「介護者の性別」 「下着の状態」 「気分」 「失禁有無」 「清拭時間帯」	トイレ時に実施	13.1
			気持ちをくつろがせる	7.7
			清潔、血行など効果を説明	17.0
			声かけの態度の工夫	5.4
			お礼やねぎらいを	7.3
			1人で	5.0
			信頼関係が出来ている介助者	6.1
			コンプレックスを確認	15.9
	声かけ方法	「本人の気持ち、意志」 「気分」 「生活歴（幼少期から）」 「言語理解」	部分から開始	5.6
			気持ちをくつろがせる	17.8
			家族からの依頼	8.4
			声かけの態度の工夫	8.6
			温度調節	5.3
			清拭場所の調整	6.6
			1人で	5.3
			コンプレックスを確認	10.5
人間関係	スタッフ関係	「性格」 「スタッフとの関係」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」	家族からの依頼	5.6
			声かけの態度の工夫	15.5
			お礼やねぎらいを	15.4
			信頼関係が出来ている介助者	20.7
			コンプレックスを確認	11.6
	人間関係	「他の入居者との関係」 「スタッフとの関係」 「本人の気持ち、意志」 「性格」	他者から誘導	22.0
			清拭場所の調整	5.3
			1人で	27.1
			信頼関係が出来ている介助者	6.1
			複数のスタッフ	5.4
			コンプレックスを確認	17.5

表2－11－2－2　洗髪拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要な視点・留意点			解決方法（分類コードによる）	実施率
身体状況	清潔度、皮膚状態	「清潔度」 「本人の気持ち、意志」 「皮膚疾患」 「洗髪への反応・様子」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	一部分から	12.3
			不安を除きながら	7.2
			声かけの態度を工夫	9.3
			お礼やねぎらい	5.5
			好きな話題で会話しながら	6.6
			洗髪の効能を説明	34.7
			コンプレックスを確認	5.2
認知機能	認知機能	「認知機能」 「介護者の性別」 「言語理解」 「本人の気持ち、意志」 「気分」	不安を除きながら	8.3
			声かけの態度を工夫	11.3
			お礼やねぎらい	11.1
			好きな話題で会話しながら	7.2
性格	性格	「性格」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	洗髪後の手入れを行う	5.9
			声かけの態度を工夫	10.9
			お礼やねぎらい	16.7
			好きな話題で会話しながら	10.2
			1人で	5.4
			介助者の工夫	11.8
			コンプレックスを確認	10.3
心理	心理、興味	「気分」 「本人の気持ち、意志」 「興味・関心」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	顔に湯がかからない工夫	7.1
			一部分から	5.7
			湯船につかったり、洗身してから	6.0
			不安を除きながら	5.7
			洗髪後の手入れを行う	7.8
			声かけの態度を工夫	11.6
			単純な声かけ	5.5
			お礼やねぎらい	12.2
			好きな話題で会話しながら	12.8
			1人で	5.4
	興味関心	「興味・関心」 「気分」 「本人の気持ち、意志」 「入浴のこだわり」 「入浴時間帯」 「スタッフとの関係」	一部分から	7.2
			洗髪後の手入れを行う	7.7
			髪を染めるため	7.9
			好きな話題で会話しながら	16.8
			1人で	9.6
			複数のスタッフ	7.2
入浴状況	湯温	「湯温」 「シャワーの水圧」 「浴室の温度」	顔に湯がかからない工夫	8.3
			一部分から	21.4
			不安を除きながら	9.9
			浴室温度調整	13.2
			湯温調整	39.7
	浴室温度	「浴室の温度」 「本人の気持ち、意志」	湯船につかったり、洗身してから	5.3
			浴室温度調整	79.5
			湯温調整	8.9
	入浴人数	「本人の気持ち、意志」 「入浴時間帯」 「介助者の人数」	湯船につかったり、洗身してから	17.3
			浴室温度調整	7.6
			1人で	15.5
			複数のスタッフ	8.7
			コンプレックスを確認	9.6
	洗髪日	「洗髪した日」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	声かけの態度を工夫	31.9
			1人で	15.7
			複数のスタッフ	17.2
	反応	「本人の気持ち、意志」 「洗髪への反応・様子」 「スタッフとの関係」	顔に湯がかからない工夫	14.7
			一部分から	8.6
			不安を除きながら	7.4
			声かけの態度を工夫	7.4
			単純な声かけ	6.9
			お礼やねぎらい	11.3
			湯温調整	13.6
			介助者の工夫	6.5

必要な視点・留意点			解決方法（分類コードによる）	実施率
声かけ、対応	声かけ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」	洗髪後の手入れを行う	5.3
			声かけの態度を工夫	28.0
			単純な声かけ	9.2
			お礼やねぎらい	14.8
			好きな話題で会話しながら	6.9
			複数のスタッフ	5.9
	介護性別	「スタッフとの関係」 「介護者の性別」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	声かけの態度を工夫	21.6
			お礼やねぎらい	17.4
			好きな話題で会話しながら	6.4
			介助者の工夫	24.2
人間関係	他者関係	「他の入居者との関係」 「過去の入浴体験」	声かけの態度を工夫	8.5
			お礼やねぎらい	5.3
			好きな話題で会話しながら	5.9
			仲の良い人と一緒に入浴	26.1
			1人で	13.3
			コンプレックスを確認	7.3

表2－11－2－3　入浴拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要な視点・留意点			解決方法（分類コードによる）	実施率
身体状況	体調	「現病・既往歴」 「バイタル」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「認知機能」	本人の状態に応じた時間	5.4
			入浴前コミュニケーション	5.8
			暖まるからと声かけ	11.0
			入浴中のコミュニケーションを増やす	7.8
			浴室室温を調整	13.0
			湯温の調整	9.4
			拒否の理由伺う	12.8
	失禁有無	「失禁有無」 「清潔度」 「排泄状況」 「下着の状態」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」	トイレ誘導時に一緒に	33.6
			段階的な誘導	6.6
			下着の汚れが見られないように	16.9
心理	気分	「本人の気持ち、意志」 「気分」 「スタッフとの関係」「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「興味・関心」	入浴前コミュニケーション	12.0
			繰り返し誘導	5.8
			入浴中のコミュニケーションを増やす	8.5
			笑顔でゆっくり	9.4
			お礼やねぎらい	6.1
	興味関心	「興味・関心」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「生活歴（幼少期から）」 「スタッフとの関係」	入浴前コミュニケーション	14.7
			趣味活動を実施した	8.8
			本人の状態に応じた	6.9
			繰り返し誘導	7.5
			入浴中のコミュニケーションを増やす	10.1
認知機能	認知機能	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「気分」 「言語理解」 「認知機能」 「スタッフとの関係」	入浴前コミュニケーション	8.1
			繰り返し誘導	5.8
			浴室へ誘導し認識を促す	6.2
			入浴中のコミュニケーションを増やす	7.0
			笑顔でゆっくり	7.8
性格	性格	「性格」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「性別」 「認知機能」	繰り返し誘導	6.5
			入浴中のコミュニケーションを増やす	5.3
			笑顔でゆっくり	10.3
			お礼やねぎらい	12.4
			複数のスタッフ	5.9
			スタッフを分けた	5.1
			拒否の理由伺う	5.6
人間関係	人間関係	「気分」 「興味・関心」 「他の入居者との関係」 「家族関係」	家族から入浴情報を得る	5.7
			薬を塗るため、医師の指示	6.2
			家族の面会・依頼	6.9
			他者から誘導	8.3
			仲の良い人と一緒に	5.5

必要な視点・留意点			解決方法（分類コードによる）	実施率
入浴状況	入浴習慣	「入浴習慣（自宅）」 「生活歴（幼少期から）」 「過去の入浴体験」 「入浴のこだわり」 「本人の気持ち、意志」	過去の入浴時間	6.7
			本人の状態に応じた時間	6.4
			家族から入浴情報を得る	15.3
			目や耳などを保護	5.2
			入浴習慣を取り入れる	7.1
			浴室室温を調整	5.0
			湯温の調整	6.7
	入浴方法	「湯温」 「浴室の温度」 「入浴のこだわり」	暖まるからと声かけ	6.5
			徐々にお湯をかける	7.7
			浴室室温を調整	24.9
			湯温の調整	30.7
	入浴時間	「気分」 「本人の気持ち、意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「入浴時間帯」	過去の入浴時間	7.5
			本人の状態に応じた時間	8.5
			入浴前コミュニケーション	8.4
			趣味活動を実施した	6.8
			トイレ誘導時に一緒に	5.5
			本人の状態に応じた	7.1
			繰り返し誘導	6.3
	入浴時間	「入浴時間帯」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「入浴のこだわり」	過去の入浴時間	13.2
			本人の状態に応じた時間	21.3
			入浴前コミュニケーション	8.0
			繰り返し誘導	8.2
			仲の良い人と一緒に	5.1
			一人で	5.9
			拒否の理由伺う	6.1
	温度	「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「湯温」 「浴室の温度」 「着替えのストック」 「本人の気持ち、意志」	本人の状態に応じた時間	5.8
			入浴前コミュニケーション	11.8
			暖まるからと声かけ	6.0
			本人の状態に応じた	6.1
			繰り返し誘導	5.1
			浴室へ誘導し認識を促す	5.7
			身体の一部から	6.1
			段階的な誘導	7.1
			入浴中のコミュニケーションを増やす	5.7
			笑顔でゆっくり	6.6
			徐々にお湯をかける	5.6
			浴室室温を調整	5.7
			湯温の調整	5.1
その他	その他	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」	入浴前コミュニケーション	6.0
			繰り返し誘導	5.6
			入浴中のコミュニケーションを増やす	8.1
			笑顔でゆっくり	10.1
			お礼やねぎらい	8.1
			同性介護	6.3
			複数のスタッフ	6.9
			スタッフを分けた	5.5

表2－11－3－1　排泄誘導拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要な視点・留意点			解決方法(分類コードによる)	実施率
疾病	病歴	「生活歴(幼少期から)」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「現病・既往歴」	本人の行動・状態に応じて	19.6
			外出してから	19.5
			衛生・疾病の説明	19.8
			信頼関係の構築	39.2
排泄状況	排泄状況	「失禁状況」 「排泄状況」 「失禁有無」 「水分状態」 「便の状態」 「尿意・排泄感覚」 「本人の気持ち、意志」	排泄パターンに応じ	40.6
			定時声かけ	12.5
			本人の行動・状態に応じて	15.3
			賞賛、ほめる	5.7
	尿意感覚	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「尿意・排泄感覚」 「生活習慣(ここ数年)」	排泄パターンに応じ	9.5
			本人の行動・状態に応じて	13.3
			会話をしながら	5.2
			慣れた言葉	7.1
			トイレという言葉を使用しない	17.2
			移動時	14.3
			賞賛、ほめる	7.7
	失禁	「本人の気持ち、意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「失禁状況」 「失禁有無」	排泄パターンに応じ	8.1
			本人の行動・状態に応じて	10.6
			会話をしながら	6.3
			本人だけに	7.8
			移動時	7.0
			おしりの状態をみる	10.2
			すばやく	12.6
			パッドをすばやく片付ける	11.5
			賞賛、ほめる	6.0
	時間間隔	「誘導の時間帯」 「排泄・排尿時間」 「排泄間隔」 「排泄頻度」	排泄パターンに応じ	35.1
			定時声かけ	41.7
	排泄パターン	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「排泄間隔」 「排泄・排尿時間」 「排泄頻度」 「スタッフとの関係」 「誘導の時間帯」	排泄パターンに応じ	27.4
			定時声かけ	14.9
			本人の行動・状態に応じて	14.0
			会話をしながら	5.9
			職員と一緒に	5.0
			トイレという言葉を使用しない	5.2
			移動時	13.1
			賞賛、ほめる	7.7
様子	様子	「抵抗時の表情」 「抵抗時の様子」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「排泄状況」 「本人の気持ち、意志」 「性格」	本人の行動・状態に応じて	23.8
			会話をしながら	9.6
			本人だけに	8.6
			トイレという言葉を使用しない	10.1
			移動時	7.6
			すばやく	12.4
			衛生・疾病の説明	5.9
			パッド交換は職員で	6.0
心理	心理	「本人の気持ち、意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「性格」 「気分」 「スタッフとの関係」	本人の行動・状態に応じて	10.5
			会話をしながら	11.1
			本人だけに	9.3
			トイレという言葉を使用しない	7.8
			移動時	11.7
			すばやく	9.8
			賞賛、ほめる	12.0
	興味関心	「興味・関心」 「気分」 「本人の気持ち、意志」	定時声かけ	6.0
			トイレ以外の理由で誘導	19.0
			会話をしながら	13.7
			トイレという言葉を使用しない	25.5

必要な視点・留意点			解決方法(分類コードによる)	実施率
人間関係	スタッフ関係	「スタッフとの関係」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」	本人の行動・状態に応じて	5.0
			会話をしながら	9.3
			職員と一緒に	5.1
			本人だけに	9.2
			トイレという言葉を使用しない	7.0
			移動時	13.4
			賞賛、ほめる	13.2
			パッド交換は職員で	7.1
	関係性	「スタッフとの関係」 「他の入居者との関係」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「性格」	本人の行動・状態に応じて	5.4
			会話をしながら	10.2
			他者と一緒に	9.0
			本人だけに	13.4
			トイレという言葉を使用しない	11.1
			移動時	9.9
			賞賛、ほめる	5.8

表2－11－3－2 排泄介護拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要な視点・留意点			解決方法(分類コードによる)	実施率
認知機能	認知機能	「本人の気持ち、意志」 「性格」 「認知機能」	トイレの言葉禁止	9.5
			トイレに誘う	5.8
			排泄パターンに応じ	5.7
			本人だけに声かけ	14.3
			好きな話題で声かけ	6.8
			トイレ時の下着交換	10.9
			事前に確認	7.9
			着替えの流れ	8.9
			交換後の処理をすばやく	13.1
			信頼関係のある職員が	5.3
	見当識	「認知機能」 「認知症の種類」 「見当識」 「尿意・排泄感覚」 「施設環境」	トイレの言葉禁止	7.3
			トイレに誘う	6.5
			排泄パターンに応じ	12.8
			好きな話題で声かけ	15.6
			着替えの流れ	6.8
			交換後の処理をすばやく	8.1
			ケア方法の統一	5.2
			安心できる場所で	16.4
心理	心理	「気分」 「本人の気持ち、意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「性格」	トイレの言葉禁止	6.9
			トイレに誘う	5.3
			排泄パターンに応じ	12.0
			本人だけに声かけ	7.2
			好きな話題で声かけ	17.9
			トイレ時の下着交換	5.1
			着替えの流れ	9.7
			信頼関係のある職員が	12.6
			安心できる場所で	5.2
	興味	「興味・関心」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「性格」	トイレの言葉禁止	13.7
			排泄パターンに応じ	7.8
			本人だけに声かけ	6.8
			好きな話題で声かけ	26.3
			トイレ時の下着交換	6.0
			着替えの流れ	5.6
			信頼関係のある職員が	6.6
疾患	皮膚状態	「皮膚疾患」 「失禁有無」 「排泄状況」 「パッドの必要性」	薬の塗布	24.7
			トイレに誘う	11.4
			排泄パターンに応じ	17.7
			トイレ時の下着交換	10.7
			着替えの流れ	11.2
排泄状況	排泄パターン	「排泄間隔」 「本人の気持ち、意志」 「排泄・排尿時間」 「尿意・排泄感覚」 「排泄頻度」 「排泄に関する生活習慣」	トイレの言葉禁止	7.6
			トイレに誘う	16.8
			排泄パターンに応じ	38.9
			トイレ時の下着交換	5.9
			着替えの流れ	8.2
			信頼関係のある職員が	5.1
様子	様子	「抵抗時の様子」 「抵抗時の表情」 「本人の気持ち、意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「気分」 「スタッフとの関係」	トイレの言葉禁止	7.9
			本人だけに声かけ	9.4
			好きな話題で声かけ	13.2
			トイレ時の下着交換	7.4
			事前に確認	7.9
			着替えの流れ	5.3
			信頼関係のある職員が	15.1

必要な視点・留意点			解決方法(分類コードによる)	実施率
対応方法	場所	「交換場所」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	トイレ時の下着交換	15.7
			着替えの流れ	22.5
			交換後の処理をすばやく	7.4
			信頼関係のある職員が	7.7
			安心できる場所で	22.6
		「交換場所」 「交換の時間帯」 「尿意・排泄感覚」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	トイレに誘う	6.1
			排泄パターンに応じ	11.9
			本人だけに声かけ	7.7
			家族からの誘導	6.4
			トイレ時の下着交換	21.4
			着替えの流れ	17.2
			信頼関係のある職員が	6.7
			安心できる場所で	10.4
	介護性別	「介護者の性別」 「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「便の状態」 「性格」 「認知症の種類」 「スタッフとの関係」	薬の塗布	9.9
			トイレに誘う	10.2
			排泄パターンに応じ	13.7
			本人だけに声かけ	10.1
			事前に確認	9.7
			着替えの流れ	9.8
			交換後の処理をすばやく	9.8
			信頼関係のある職員が	15.5
			安心できる場所で	9.8
	声かけ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「性格」	排泄パターンに応じ	6.2
			本人だけに声かけ	7.1
			好きな話題で声かけ	18.8
			交換後の処理をすばやく	5.3
			信頼関係のある職員が	35.2
職員との関係	関係	「本人の気持ち、意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」	トイレの言葉禁止	7.0
			排泄パターンに応じ	17.3
			本人だけに声かけ	6.1
			好きな話題で声かけ	16.4
			着替えの流れ	7.7
			信頼関係のある職員が	18.2

表2－11－3－3　放尿を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要な視点・留意点			解決方法（分類コードによる）	実施率
排泄状況	排泄パターン	「排泄間隔」 「排泄頻度」	排尿パターンに応じ	63.7
			誘導回数を増やす	23.2
	間隔頻度	「排泄間隔」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「排泄頻度」 「本人の気持ち、意志」 「尿意・排泄感覚」	排尿パターンに応じ	24.4
			誘導回数を増やす	27.1
			状態に応じた	32.4
			繰り返し説明	8.4
	失禁尿意	「排泄・排尿時間」 「排泄間隔」 「尿意・排泄感覚」 「失禁有無」 「水分状態」 「本人の気持ち、意志」	排尿パターンに応じ	47.5
			誘導回数を増やす	26.7
			状態に応じた	15.2
	尿意	「尿意・排泄感覚」 「本人の気持ち、意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	排尿パターンに応じ	11.8
			状態に応じた	45.8
			繰り返し説明	9.5
	排泄習慣	「生活状況（数日内）」 「排泄・排尿時間」 「排泄間隔」 「睡眠時間・状況」	排尿パターンに応じ	34.8
			誘導回数を増やす	11.5
			状態に応じた	30.4
			ポータブルトイレ	4.9
			薬調整、受診	6.3
			オムツパッドへの変更	4.7
様子	表情様子	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「放尿時の様子」 「放尿時の表情」	排尿パターンに応じ	10.1
			誘導回数を増やす	9.1
			状態に応じた	41.1
			ポータブルトイレ	10.3
			繰り返し説明	11.6
	様子	「放尿時の様子」 「本人の気持ち、意志」 「尿意・排泄感覚」 「排泄場所」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	状態に応じた	45.7
			トイレが見えるよう	5.7
			ポータブルトイレ	15.2
			トイレの位置調整	7.9
			夜間照明	7.0
環境	トイレ環境	「トイレの表示」 「トイレの場所」 「トイレの扉」	トイレが見えるよう	13.3
			ポータブルトイレ	3.5
			夜間照明	20.2
			トイレ表示の工夫	50.1
	トイレ場所	「トイレの場所」 「排泄場所」 「排泄・排尿時間」 「歩行・下肢機能」 「本人の気持ち、意志」	排尿パターンに応じ	8.4
			誘導回数を増やす	8.0
			状態に応じた	7.4
			ポータブルトイレ	21.3
			トイレの位置調整	9.2
			夜間照明	15.0
			繰り返し説明	12.0
	場所	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「トイレの場所」 「トイレの表示」 「スタッフとの関係」 「排泄場所」 「見当識」	状態に応じた	15.4
			トイレが見えるよう	8.3
			トイレの位置調整	7.6
			夜間照明	13.8
			トイレ表示の工夫	21.1
			繰り返し説明	22.0
	表示	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「生活習慣（ここ数年）」 「トイレの表示」	状態に応じた	14.8
			トイレが見えるよう	9.4
			ポータブルトイレ	6.0
			トイレの位置調整	6.5
			夜間照明	9.0
			トイレ表示の工夫	29.2
			繰り返し説明	7.2
職員関係	スタッフ関係	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「スタッフとの関係」 「気分」	排尿パターンに応じ	9.5
			誘導回数を増やす	8.8
			状態に応じた	44.7
			繰り返し説明	11.0

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
分担研究報告書

認知症ケアにおけるアウトカム指標に関する研究

研究分担者　佐々木心彩（日本大学文理学部人文科学研究所）

研究要旨

本研究では、認知症高齢者の日常生活におけるケアに対する反応を介護者がどのような側面からとらえているかを把握し、ケアのアウトカム指標作成の基礎資料とすることを目的とし、全国の認知症介護指導者を調査対象者として郵送調査を行った。ケアに対する利用者の反応として、非言語的側面 45 項目に対する感情状態の評価と表出の頻度についての回答を求めた。

その結果、介護者は笑顔、スキンシップ、視線を合わせるといった行動・様子から利用者の快感情を推測し、実際にこれらの行動・様子が利用者にみられる頻度も高いということが示された。また、不快な感情の表出が認められる頻度は全般的に低いものであったが相対的な頻度の高いものとしては、乱暴な言葉づかい、大きな声を出すという行動・様子は不快感情を推測するものであるということが示された。しかしながら、それぞれの行動・様子が、単一の側面のみでは評価が困難であることや場面・状況に応じて快にも不快にも判断されうるということが考えられ、高齢者全般に適用可能な項目のほかに、判断の分かれる項目や不快と判断されるものの出現頻度の低い項目をもとにした対象者の観察から、個別項目として取捨選択し、アウトカム指標として検討する必要性がある。

A．研究目的

高齢者介護研究会（2003）による報告書「2015 年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～」では、要介護高齢者のケアにおいては、身体ケアに加えて認知症高齢者に対応したケアを標準として位置付けていくことが重要目標として掲げられている。そして、認知症高齢者ケアの標準化、方法論の確立が大きな課題となっている。

これらを進めるためには、高齢者の状態の適切なアセスメント、それにもとづいた適切なケア、さらに結果の評価方法を確立することが必要となる。

本研究では、認知症高齢者に対するケアの結果の評価として、個々のケア行為に対する高齢者の反応を短期的なアウトカムととらえることを試み、アウトカム評価指標作成のための基礎資料とすることを目的とした。

B．研究方法

1．調査対象者について

1）認知症介護指導者

認知症介護指導者は2000年より始まった認知症介護研修事業における認知症介護指導者養成研修を修了された、都道府県政令指定都市の認知症介護を指導するエキスパートとして、各地域の認知症介護研修（実践者研修、実践リーダー研修、管理者研修、計画作成担当者研修、開設者研修）を企画しつつ、講義、演習、実習等の講師やファシリテーターを担当し、担当地域の介護保険施設・事業所等における認知症介護の質の改善について指導や助言を現在実践しており、全国で約1000名程度活躍している（平成19年度11月現在)。

認知症介護指導者養成研修の受講要件として以下の 4 つの条件を全て満たすこととされ、非常に厳格な条件が決められており、さらに各行政担当者の推薦を要する。

（1）医師、保健師、助産師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士、言語聴覚士または精神保健福祉士いずれかの資格を有する者、またはこれに準ずる者。

（2）下記のいずれかの要件に該当する者であって、相当の介護実務経験を有する者

①介護保険施設・事業所等に従事している者（過去において介護保険施設・事業所等に従事していた者も含む。）

②福祉系大学や養成学校等で指導的立場にある者

③民間企業で認知症介護の教育に携わる者

（3）認知症介護実践者研修並びに認知症介護実践リーダー研修を修了した者（基礎課程並びに専門課程を修了した者を含む)、又はそれと同等の能力を有すると実施主体が認めた者

（4）認知症介護実践研修の企画・立案に参画または講師として従事することが予定されている者

以上の条件に合致し、さらに全国 3 か所設置されている認知症介護研究・研修センターにて10週間の認知症介護指導者用カリキュラムを受講し修了したものが認知症介護指導者として認められることになる。

認知症介護エキスパートの要件として認知症介護指導者の要件はライセンス、教育経験ともに合致しており認知症介護指導者を認知症介護エキスパート候補としてみなすこととし、本研究の対象とした。

2）調査対象者

平成13年度1回目～平成19年度1回目までの認知症介護指導者研修を修了した全国の認知症介護指導者894名を対象とした。

2．調査方法

1）調査期間

調査期間は平成 20 年 12 月であった。

2）手続き

調査対象者が所属する事業所に調査用紙を郵送にて配布し、記入後に返送により回収する郵送法によって実施した。

3．調査項目

調査項目は以下の通りであった。

1）対象者の基本属性

対象者の基本属性として、年齢、性別、職種、役職、所有資格、所属事業所の事業種、現事業所の勤続年数、介護経験期間について回答を求めた。

2）評価対象者の属性

利用者の中から 1 名を選択し、その利用者に対するケアの評価について回答を求めた。選択した高齢者に関する属性として、年齢、性別、認知症高齢者の日常生活自立度、障害高齢者の日常生活自立度について回答を求めた。

3）非言語的側面に対する認識

利用者の中から選択した 1 名の高齢者に対してケアを行った際にみられる反応の中で、非言語的な側面についての感情（快－不快）の評価と日常的に実際に見られる頻度について回答を求めた。感情評価については、「a 快」、「b 不快」、「c どちらともいえない」の中から選択するよう求めた。頻度については、「5 いつもみられる」、「4 たいていみられる」、「3 ときどきみられる」、「2 あまりみられない」、「1 まったくみられない」の中から選択するよう求めた。

4）高齢者の感情状態把握のためのその他の手がかりについて

3）に挙げた 45 の側面のほか、高齢者の感情状態を把握するための手がかりを自由記述によって回答を求めた。

5）認知症ケアに対する意識

認知症ケアに対する意識をたずねる項目として、パーソンセンタードケアにおける相互作用を持続させる関わりと、相互作用を中断させる関わり方に関する 17 項目に対して回答を求めた。

6）認知症介護について

認知症介護の経験について、認知症介護の経験期間、認知症介護を実際に行った直近日、現在行っている認知症介護の頻度、認知症介護の成功体験の頻度に対する回答を求めた。

（倫理面への配慮）

本研究では、調査協力者である介護職員等に対して、個人情報の取り扱いや人権擁護に配慮し、十分なインフォームドコンセントを保証することを最優先し、研究等によって被

ることが予測される不利益について説明文書を作成し、十分な説明を行い、文書にて同意を得ることとしている。

C．結果と考察

1．調査協力者について

調査対象者 894 名のうち、271 名から調査票が回収された（回収率 30.3%）。すべてが未回答であった調査票を除き有効回答数は 270 名であった。調査協力者の属性は以下の通りであった。

1）年齢

調査協力者の平均年齢は 44.39 歳（SD:10.81、範囲 26-87；男性 38.4 歳[SD:9.3]、女性 47.5 歳[SD:10.3]）であった。

2）性別

調査協力者の性別は、男性 91 名、女性 177 名、不明 2 名であった。（表３－１参照）

3）職種

現在の職種（複数回答）は、ケアワーカー65 名（全体の 24.1%）、相談員 40 名（全体の 14.8%）、ケアマネジャー68 名（全体の 25.2%）、看護師 52 名（全体の 19.3%）、その他 60 名（全体の 22.2%）であった。（表３－２参照）

4）役職

現在の役職（複数回答）は、施設長 28 名（10.4%）、管理者 91 名（33.7%）、主任・リーダー76 名（28.1%）、事務長 3 名（1.1%）、社長 5 名（1.9%）、理事長 2 名（0.7%）、その他 66 名（24.4%）であった。（表３－３参照）

5）資格

現在の所持資格（複数回答）は、看護師（准看護師）66 名（24.4%）、介護福祉士 156 名（57.8%）、社会福祉士 45 名（16.7%）、ケアマネジャー171 名（63.3%）、ヘルパー29 名（10.7%）、理学療法士 2 名（0.7%）、作業療法士 3 名（1.1%）、栄養士 2 名（0.7%）、その他 37 名（13.7%）であった。（表３－４参照）

6）事業種

現在勤務している事業所の事業種(複数回答)は、介護老人福祉施設 84 名(31.1%)、介護老人保健施設 131 名（48.5%）、介護療養型医療施設 7 名（2.6%）、通所介護事業 31 名（11.5%）、通所リハビリ事業 6 名（2.2%）、訪問介護事業 16 名（5.9%）、認知症対応型共同生活介護 65 名（24.1%）、小規模多機能型共同生活介護 13 名（4.8%）、居宅介護支援事業所 24 名(8.9%)、地域包括支援センター3 名(1.1%)、市役所 2 名(0.7%)、宅老所 2 名（0.7%）、特定入居者生活介護事業 3 名（1.1%）、その他 27 名（10.0%）であった。（表３－５参照）

7）現事業所の勤続期間

現在勤務中の事業所の平均勤続期間は、約 9 年 6 か月（114.31 か月[SD81.03、範囲 3-404]）であった。

８）総介護経験期間

総介護経験期間の平均は、約 14 年（167.80 か月[SD90.77、範囲 9-564]）であった。

２．想定した利用者についての属性

評価対象として利用者の中から 1 名の高齢者の選択を求めたが、高齢者の属性については以下の通りであった。

１）年齢

高齢者の平均年齢は、83.3 歳（SD:8.1）であった。

２）性別

高齢者の性別ごとの人数は、男性 60 名、女性 200 名、不明 10 名であった。(表３－６参照)

３）認知症高齢者の日常生活自立度

選択した高齢者の認知症高齢者の日常生活自立度について 267 名から有効回答が得られ、Ⅰが 14 名(5.2%)、Ⅱが 65 名(24.3%)、Ⅲが 92 名(34.5%)、Ⅳが 88 名(33.0%)、M が８名（3.0%）であった。(表３－７参照)

４）障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）

選択した高齢者の障害高齢者の日常生活自立度について 264 名から有効回答が得られ、J が 68 名（25.8%)、A が 159 名（60.2%)、B が 32 名（12.1%)、C が 5 名（1.9%）であった。(表３－８参照)

３．高齢者の感情状態の評価について

「２.」で想定した利用者の中から選択した 1 名の高齢者について、ケアを行った際の様子について評価を求めた。それぞれの項目に示した行動、様子が見られた場合に、どのような感情状態であると推測するかについて「快」－「不快」または「どちらともいえない」の中から当てはまるものを選択するよう求めた。さらに、日常の介護において実際にどのくらいの頻度で項目に示した行動、様子がみられるかについて回答を求めた。

１）各項目について

（１）視線を合わせる、顔を見つめる

ケアに対する利用者の反応として「視線を合わせる、顔を見つめる」についての有効回答は 265 名であり、推測する感情状態は、「快」173 名（65.3%)、「不快」12 名（4.5%)、「どちらともいえない」80 名（30.2%）であった。頻度については、「全くみられない」1 名（0.4%)、「あまりみられない」6 名(2.3%)、「と

きどきみられる」58 名（21.9%）、「たいていみられる」138 名（52.1%）、「いつもみられる」62 名（23.4%）であった。（表３－９参照）

（２）姿勢がよい（まっすぐである）

ケアに対する利用者の反応として「姿勢がよい（まっすぐである）」についての有効回答は 259 名であり、推測する感情状態は、「快」139 名（53.7%）、「不快」15 名（5.8%）、「どちらともいえない」105 名（40.5%）であった。頻度については、「全くみられない」10 名（3.9%）、「あまりみられない」32 名（12.4%）、「ときどきみられる」54 名（20.8%）、「たいていみられる」91 名（35.1%）、「いつもみられる」72 名（27.8%）であった。（表３－１０参照）

（３）あなたをつねる

ケアに対する利用者の反応として「あなたをつねる」についての有効回答は 226 名であり、推測する感情状態は、「快」6 名（2.7%）、「不快」164 名（72.6%）、「どちらともいえない」56 名（24.8%）であった。頻度については、「全くみられない」153 名（67.7%）、「あまりみられない」43 名（19.0%）、「ときどきみられる」26 名（11.5%）、「たいていみられる」2 名（0.9%）、「いつもみられる」2 名（0.9%）であった。（表３－１１参照）

（４）あなたから距離をとったり、別の場所（別の部屋など）へ行く

ケアに対する利用者の反応として「あなたから距離をとったり、別の場所（別の部屋など）へ行く」についての有効回答は 249 名であり、推測する感情状態は、「快」6 名（2.4%）、「不快」141 名（56.6%）、「どちらともいえない」102 名（41.0%）であった。頻度については、「全くみられない」67 名（26.9%）、「あまりみられない」73 名（29.3%）、「ときどきみられる」84 名（33.7%）、「たいていみられる」19 名（7.6%）、「いつもみられる」6 名（2.4%）であった。（表３－１２参照）

（５）自分の体を掻く

ケアに対する利用者の反応として「自分の体を掻く」についての有効回答は 232 名であり、推測する感情状態は、「快」5 名（2.2%）、「不快」135 名（58.2%）、「どちらともいえない」92 名（39.7%）であった。頻度については、「全くみられない」86 名（37.1%）、「あまりみられない」90 名（38.8%）、「ときどきみられる」47 名（20.3%）、「たいていみられる」7 名（3.0%）、「いつもみられる」2 名（0.9%）であった。（表３－１３参照）

（６）上半身を反らす

ケアに対する利用者の反応として「上半身を反らす」についての有効回答は 222 名であり、推測する感情状態は、「快」12 名（5.4%）、「不快」89 名（40.1%）、「どちらともいえない」121 名（54.5%）であった。頻度については、「全くみられない」115 名（51.8%）、「あまりみられない」67 名（30.2%）、「ときどきみられ

る」38 名（17.1%）、「たいていみられる」2 名（0.9%）、「いつもみられる」0 名（0.0%）であった。（表３－１４参照）

（７）あなたから視線をそらす

ケアに対する利用者の反応として「あなたから視線をそらす」についての有効回答は 244 名であり、推測する感情状態は、「快」4 名（1.6%）、「不快」149 名（61.1%）、「どちらともいえない」91 名（37.3%）であった。頻度については、「全くみられない」45 名（18.4%）、「あまりみられない」96 名(39.3%)、「ときどきみられる」90 名（36.9%）、「たいていみられる」9 名（3.7%）、「いつもみられる」4 名（1.6%）であった。（表３－１５参照）

（８）貧乏ゆすりをする

ケアに対する利用者の反応として「貧乏ゆすりをする」についての有効回答は 226 名であり、推測する感情状態は、「快」1 名（0.4%）、「不快」118 名（52.2%）、「どちらともいえない」107 名（47.3%）であった。頻度については、「全くみられない」158 名（69.9%）、「あまりみられない」40 名(17.7%)、「ときどきみられる」20 名(8.8%)、「たいていみられる」7 名(3.1%)、「いつもみられる」1 名(0.4%)であった。（表３－１６参照）

（９）問いかけに対し、すぐに返事をする

ケアに対する利用者の反応として「問いかけに対し、すぐに返事をする」についての有効回答は 258 名であり、推測する感情状態は、「快」154 名（59.7%）、「不快」13 名（5.0%）、「どちらともいえない」91 名（35.3%）であった。頻度については、「全くみられない」3 名（1.2%）、「あまりみられない」17 名(6.6%)、「ときどきみられる」44 名（17.1%）、「たいていみられる」123 名（47.7%）、「いつもみられる」71 名（27.5%）であった。（表３－１７参照）

（10）肩をすくめる

ケアに対する利用者の反応として「肩をすくめる」についての有効回答は 238 名であり、推測する感情状態は、「快」38 名（16.0%）、「不快」76 名（31.9%）、「どちらともいえない」124 名（52.1%）であった。頻度については、「全くみられない」69 名（29.0%）、「あまりみられない」82 名(34.5%)、「ときどきみられる」73 名（30.7%）、「たいていみられる」10 名（4.2%）、「いつもみられる」4 名（1.7%）であった。（表３－１８参照）

（11）横を向く

ケアに対する利用者の反応として「横を向く」についての有効回答は 243 名であり、推測する感情状態は、「快」4 名（1.6%）、「不快」147 名（60.5%）、「どちらともいえない」92 名（37.9%）であった。頻度については、「全くみられない」37 名（15.2%）、「あまりみられない」94 名(38.7%)、「ときどきみられる」96 名（39.5%）、「たいていみられる」14 名（5.8%）、「いつもみられる」2 名（0.8%）

であった。(表３－１９参照)

(12) 乱暴な言葉づかいで話す

ケアに対する利用者の反応として「乱暴な言葉づかいで話す」についての有効回答は 242 名であり、推測する感情状態は、「快」1 名 (0.4%)、「不快」208 名 (86.0%)、「どちらともいえない」33 名 (13.6%) であった。頻度については、「全くみられない」61 名 (25.2%)、「あまりみられない」57 名(23.6%)、「ときどきみられる」93 名 (38.4%)、「たいていみられる」22 名 (9.1%)、「いつもみられる」9 名 (3.7%) であった。(表３－２０参照)

(13) 顔に汗をかいている

ケアに対する利用者の反応として「顔に汗をかいている」についての有効回答は 225 名であり、推測する感情状態は、「快」0 名 (0.0%)、「不快」104 名 (46.2%)、「どちらともいえない」121 名 (53.8%) であった。頻度については、「全くみられない」97 名 (43.1%)、「あまりみられない」102 名(45.3%)、「ときどきみられる」20 名 (8.9%)、「たいていみられる」5 名 (2.2%)、「いつもみられる」1 名 (0.4%) であった。(表３－２１参照)

(14) 服・ハンカチなどをもてあそぶ

ケアに対する利用者の反応として「服・ハンカチなどをもてあそぶ」についての有効回答は 235 名であり、推測する感情状態は、「快」15 名 (6.4%)、「不快」79 名 (33.6%)、「どちらともいえない」141 名 (60.0%) であった。頻度については、「全くみられない」91 名 (38.7%)、「あまりみられない」74 名(31.5%)、「ときどきみられる」48 名 (20.4%)、「たいていみられる」16 名 (6.8%)、「いつもみられる」6 名 (2.6%) であった。(表３－２２参照)

(15) 笑顔をみせる

ケアに対する利用者の反応として「笑顔をみせる」についての有効回答は 261 名であり、推測する感情状態は、「快」245 名 (93.9%)、「不快」0 名 (0.0%)、「どちらともいえない」16 名 (6.1%) であった。頻度については、「全くみられない」1 名 (0.4%)、「あまりみられない」8 名(3.1%)、「ときどきみられる」70 名 (26.8%)、「たいていみられる」119 名 (45.6%)、「いつもみられる」63 名 (24.1%) であった。(表３－２３参照)

(16) 他者を指さす

ケアに対する利用者の反応として「他者を指さす」についての有効回答は 248 名であり、推測する感情状態は、「快」6 名 (2.4%)、「不快」114 名 (46.0%)、「どちらともいえない」128 名 (51.6%) であった。頻度については、「全くみられない」38 名 (15.3%)、「あまりみられない」84 名(33.9%)、「ときどきみられる」110 名 (44.4%)、「たいていみられる」12 名 (4.8%)、「いつもみられる」4 名 (1.6%) であった。(表３－２４参照)

(17) 握りこぶしをにぎる

ケアに対する利用者の反応として「握りこぶしをにぎる」についての有効回答は236名であり、推測する感情状態は、「快」3名(1.3%)、「不快」164名(69.5%)、どちらともいえない69名 (29.2%) であった。頻度については、「全くみられない」100名 (42.4%)、「あまりみられない」75名(31.8%)、「ときどきみられる」52名 (22.0%)、「たいていみられる」5名 (2.1%)、「いつもみられる」4名 (1.7%) であった。(表３－２５参照)

(18) あなたと握手する

ケアに対する利用者の反応として「あなたと握手する」についての有効回答は251名であり、推測する感情状態は、「快」219名 (87.3%)、「不快」3名 (1.2%)、「どちらともいえない」29 名 (11.6%) であった。頻度については、「全くみられない」17名 (6.8%)、「あまりみられない」43名(17.1%)、「ときどきみられる」102 名 (40.6%)、「たいていみられる」67 名 (26.7%)、「いつもみられる」22 名 (8.8%) であった。(表３－２６参照)

(19) 目をみひらく

ケアに対する利用者の反応として「目をみひらく」についての有効回答は241名であり、推測する感情状態は、「快」51 名 (21.2%)、「不快」62 名 (25.7%)、「どちらともいえない」128名 (53.1%) であった。頻度については、「全くみられない」39 名 (16.2%)、「あまりみられない」84 名(34.9%)、「ときどきみられる」93名 (38.6%)、「たいていみられる」22名 (9.1%)、「いつもみられる」3名 (1.2%) であった。(表３－２７参照)

(20) じっとしている

ケアに対する利用者の反応として「じっとしている」についての有効回答は250名であり、推測する感情状態は、「快」37名 (14.8%)、「不快」38名 (15.2%)、「どちらともいえない」175名 (70.0%) であった。頻度については、「全くみられない」16名 (6.4%)、「あまりみられない」59名(23.6%)、「ときどきみられる」120名(48.0%)、「たいていみられる」48名(19.2%)、「いつもみられる」7名(2.8%) であった。(表３－２８参照)

(21) 髪を触る

ケアに対する利用者の反応として「髪を触る」についての有効回答は 241 名であり、推測する感情状態は、「快」47名 (19.5%)、「不快」22名 (9.1%)、「どちらともいえない」172名 (71.4%) であった。頻度については、「全くみられない」52 名 (21.6%)、「あまりみられない」95 名(39.4%)、「ときどきみられる」74名 (30.7%)、「たいていみられる」13名 (5.4%)、「いつもみられる」7名 (2.9%) であった。(表３－２９参照)

(22) うつむく

ケアに対する利用者の反応として「うつむく」についての有効回答は 247 名であり、推測する感情状態は、「快」2 名（0.8%）、「不快」124 名（50.2%）、「どちらともいえない」121 名（49.0%）であった。頻度については、「全くみられない」32 名（13.0%）、「あまりみられない」95 名(38.5%)、「ときどきみられる」99 名（40.1%）、「たいていみられる」17 名（6.9%）、「いつもみられる」4 名（1.6%）であった。(表３－３０参照)

(23) 丁寧な言葉づかいで話す

ケアに対する利用者の反応として「丁寧な言葉づかいで話す」についての有効回答は 253 名であり、推測する感情状態は、「快」132 名（52.2%）、「不快」12 名（4.7%）、「どちらともいえない」109 名（43.1%）であった。頻度については、「全くみられない」16 名（6.3%）、「あまりみられない」45 名(17.8%)、「ときどきみられる」85 名（33.6%）、「たいていみられる」64 名（25.3%）、「いつもみられる」43 名（17.0%）であった。(表３－３１参照)

(24) 微笑みながら話を聞く

ケアに対する利用者の反応として「微笑みながら話を聞く」についての有効回答は 257 名であり、推測する感情状態は、「快」231 名（89.9%）、「不快」0 名（0.0%）、どちらともいえない 26 名（10.1%）であった。頻度については、「全くみられない」5 名（1.9%）、「あまりみられない」16 名(6.2%)、「ときどきみられる」76 名（44.7%）、「たいていみられる」115 名（44.7%）、「いつもみられる」45 名（17.5%）であった。(表３－３２参照)

(25) 大きな声を出す

ケアに対する利用者の反応として「大きな声を出す」についての有効回答は 247 名であり、推測する感情状態は、「快」6 名（2.4%）、「不快」180 名（72.9%）、「どちらともいえない」61 名（24.7%）であった。頻度については、「全くみられない」48 名（19.4%）、「あまりみられない」71 名(28.7%)、「ときどきみられる」94 名（38.1%）、「たいていみられる」19 名（7.7%）、「いつもみられる」15 名（6.1%）であった。(表３－３３参照)

(26) 話を長く続ける

ケアに対する利用者の反応として「話を長く続ける」についての有効回答は 256 名であり、推測する感情状態は、「快」105 名（41.0%）、「不快」51 名（19.9%）、「どちらともいえない」100 名（39.1%）であった。頻度については、「全くみられない」15 名（5.9%）、「あまりみられない」56 名(21.9%)、「ときどきみられる」107 名（41.8%）、「たいていみられる」57 名（22.3%）、「いつもみられる」21 名（8.2%）であった。(表３－３４参照)

(27) 涙ぐむ

ケアに対する利用者の反応として「涙ぐむ」についての有効回答は 241 名で

あり、推測する感情状態は、「快」20 名（8.3%）、「不快」110 名（45.6%）、「どちらともいえない」111 名（46.1%）であった。頻度については、「全くみられない」66 名（27.4%）、「あまりみられない」80 名(33.2%)、「ときどきみられる」81 名（33.6%）、「たいていみられる」13 名（5.4%）、「いつもみられる」1 名（0.4%）であった。（表３－３５参照）

(28) うなずく

ケアに対する利用者の反応として「うなずく」についての有効回答は 252 名であり、推測する感情状態は、「快」142 名（56.3%）、「不快」8 名（3.2%）、「どちらともいえない」102 名（40.5%）であった。頻度については、「全くみられない」6 名（2.4%）、「あまりみられない」26 名(10.3%)、「ときどきみられる」95 名（37.7%）、「たいていみられる」89 名（35.3%）、「いつもみられる」36 名（14.3%）であった。（表３－３６参照）

(29) あなたの腕や肩に触れる

ケアに対する利用者の反応として「あなたの腕や肩に触れる」についての有効回答は 247 名であり、推測する感情状態は、「快」162 名（65.6%）、「不快」9 名（3.6%）、「どちらともいえない」76 名（30.8%）であった。頻度については、「全くみられない」28 名（11.3%）、「あまりみられない」51 名(20.6%)、「ときどきみられる」98 名（39.7%）、「たいていみられる」46 名（18.6%）、「いつもみられる」24 名（9.7%）であった。（表３－３７参照）

(30) 顔が無表情である

ケアに対する利用者の反応として「顔が無表情である」についての有効回答は 244 名であり、推測する感情状態は、「快」1 名（0.4%）、「不快」123 名（50.4%）、「どちらともいえない」120 名（49.2%）であった。頻度については、「全くみられない」47 名（19.3%）、「あまりみられない」77 名(31.6%)、「ときどきみられる」91 名（37.3%）、「たいていみられる」18 名（7.4%）、「いつもみられる」11 名（4.5%）であった。（表３－３８参照）

(31) 爪を噛む

ケアに対する利用者の反応として「爪を噛む」についての有効回答は 222 名であり、推測する感情状態は、「快」2 名（0.9%）、「不快」96 名（43.2%）、「どちらともいえない」124 名（55.9%）であった。頻度については、「全くみられない」185 名（83.3%）、「あまりみられない」32 名(14.4%)、「ときどきみられる」3 名（1.4%）、「たいていみられる」1 名（0.5%）、「いつもみられる」1 名（0.5%）であった。（表３－３９参照）

(32) 脚をくむ

ケアに対する利用者の反応として「脚をくむ」についての有効回答は 230 名であり、推測する感情状態は、「快」25 名（10.9%）、「不快」23 名（10.0%）、「ど

ちらともいえない」182 名（79.1%）であった。頻度については、「全くみられない」122 名（53.0%）、「あまりみられない」42 名(18.3%)、「ときどきみられる」45 名（19.6%）、「たいていみられる」12 名（5.2%）、「いつもみられる」9 名（3.9%）であった。（表３－４０参照）

(33) 顔色が蒼白い

ケアに対する利用者の反応として「顔色が蒼白い」についての有効回答は 235 名であり、推測する感情状態は、「快」2 名（0.9%）、「不快」143 名（60.9%）、「どちらともいえない」90 名（38.3%）であった。頻度については、「全くみられない」106 名（45.1%）、「あまりみられない」95 名(40.4%)、「ときどきみられる」25 名（10.6%）、「たいていみられる」4 名（1.7%）、「いつもみられる」5 名（2.1%）であった。（表３－４１参照）

(34) 話し声が小さい

ケアに対する利用者の反応として「話し声が小さい」についての有効回答は 248 名であり、推測する感情状態は、「快」12 名（4.8%）、「不快」64 名（25.8%）、「どちらともいえない」172 名（69.4%）であった。頻度については、「全くみられない」69 名（27.8%）、「あまりみられない」92 名(37.1%)、「ときどきみられる」56 名（22.6%）、「たいていみられる」21 名（8.5%）、「いつもみられる」10 名（4.0%）であった。（表３－４２参照）

(35) 身を乗り出す

ケアに対する利用者の反応として「身を乗り出す」についての有効回答は 247 名であり、推測する感情状態は、「快」120 名（48.6%）、「不快」23 名（9.3%）、「どちらともいえない」104 名（42.1%）であった。頻度については、「全くみられない」26 名（10.5%）、「あまりみられない」72 名(29.1%)、「ときどきみられる」110 名（44.5%）、「たいていみられる」34 名（13.8%）、「いつもみられる」5 名（2.0%）であった。（表３－４３参照）

(36) 繰り返し首を横に振る

ケアに対する利用者の反応として「繰り返し首を横に振る」についての有効回答は 233 名であり、推測する感情状態は、「快」4 名（1.7%）、「不快」143 名（61.4%）、「どちらともいえない」86 名（36.9%）であった。頻度については、「全くみられない」99 名（42.5%）、「あまりみられない」92 名(39.5%)、「ときどきみられる」37 名（15.9%）、「たいていみられる」4 名（1.7%）、「いつもみられる」1 名（0.4%）であった。（表３－４４参照）

(37) 他の利用者や周囲に気を配る

ケアに対する利用者の反応として「他の利用者や周囲に気を配る」についての有効回答は 246 名であり、推測する感情状態は、「快」118 名（48.0%）、「不快」24 名（9.8%）、「どちらともいえない」104 名（42.3%）であった。頻度について

は、「全くみられない」18 名（7.3%）、「あまりみられない」45 名(18.3%)、「ときどきみられる」100 名（40.7%）、「たいていみられる」50 名（20.3%）、「いつもみられる」33 名（13.4%）であった。(表３－４５参照)

(38) 手を繰り返し動かす

ケアに対する利用者の反応として「手を繰り返し動かす」についての有効回答は 237 名であり、推測する感情状態は、「快」30 名(12.7%)、「不快」63 名(26.6%)、「どちらともいえない」144 名（60.8%）であった。頻度については、「全くみられない」80 名（33.8%）、「あまりみられない」81 名(34.2%)、「ときどきみられる」47 名（19.8%）、「たいていみられる」24 名（10.1%）、「いつもみられる」5 名（2.1%）であった。(表３－４６参照)

(39) 話を途中でやめる

ケアに対する利用者の反応として「話を途中でやめる」についての有効回答は 245 名であり、推測する感情状態は、「快」3 名（1.2%）、「不快」143 名（58.4%）、「どちらともいえない」99 名（40.4%）であった。頻度については、「全くみられない」47 名（19.2%）、「あまりみられない」103 名(42.0%)、「ときどきみられる」76 名（31.0%）、「たいていみられる」15 名（6.1%）、「いつもみられる」4 名（1.6%）であった。(表３－４７参照)

(40) 顔が赤面している

ケアに対する利用者の反応として「顔が赤面している」についての有効回答は 239 名であり、推測する感情状態は、「快」11 名（4.6%）、「不快」95 名（39.7%）、「どちらともいえない」133 名（5.6%）であった。頻度については、「全くみられない」74 名（31.0%）、「あまりみられない」95 名(39.7%)、「ときどきみられる」55 名（23.0%）、「たいていみられる」13 名（5.4%）、「いつもみられる」2 名（0.8%）であった。(表３－４８参照)

(41) あなたを叩く

ケアに対する利用者の反応として「あなたを叩く」についての有効回答は 228 名であり、推測する感情状態は、「快」3 名（1.3%）、「不快」170 名（74.6%）、「どちらともいえない」55 名（24.1%）であった。頻度については、「全くみられない」139 名（61.0%）、「あまりみられない」42 名(18.4%)、「ときどきみられる」40 名（17.5%）、「たいていみられる」4 名（1.8%）、「いつもみられる」3 名（1.3%）であった。(表３－４９参照)

(42) あなたに近づく

ケアに対する利用者の反応として「あなたに近づく」についての有効回答は 253 名であり、推測する感情状態は、「快」127 名（50.2%）、「不快」17 名（6.7%）、「どちらともいえない」109 名（43.1%）であった。頻度については、「全くみられない」23 名（9.1%）、「あまりみられない」31 名(12.3%)、「ときどきみられる」

99名(39.1%)、「たいていみられる」61名(24.1%)、「いつもみられる」39名(15.4%)であった。(表３－５０参照)

(43) 鼻や口を触る

ケアに対する利用者の反応として「鼻や口を触る」についての有効回答は235名であり、推測する感情状態は、「快」18名（7.7%)、「不快」40名（17.0%)、「どちらともいえない」177名（75.3%）であった。頻度については、「全くみられない」101名（43.0%)、「あまりみられない」92名(39.1%)、「ときどきみられる」31名（13.2%)、「たいていみられる」6名（2.6%)、「いつもみられる」5名（2.1%)であった。(表３－５１参照)

(44) 腕組みをする

ケアに対する利用者の反応として「腕組みをする」についての有効回答は229名であり、推測する感情状態は、「快」11名（4.8%)、「不快」67名（29.3%)、「どちらともいえない」151名（65.9%）であった。頻度については、「全くみられない」102名（44.5%)、「あまりみられない」61名(26.6%)、「ときどきみられる」50名（21.8%)、「たいていみられる」11名（4.8%)、「いつもみられる」5名（2.2%)であった。(表３－５２参照)

(45) あなたの手まねをする

ケアに対する利用者の反応として「あなたの手まねをする」についての有効回答は235名であり、推測する感情状態は、「快」78名（33.2%)、「不快」11名（4.7%)、「どちらともいえない」146 名（62.1%）であった。頻度については、「全くみられない」122名（51.9%)、「あまりみられない」62名(26.4%)、「ときどきみられる」33 名（14.0%)、「たいていみられる」16 名（6.8%)、「いつもみられる」2名（0.9%）であった。(表３－５３参照)

４．認知症ケアに対する意識

１）認知症ケアに対する意識

認知症ケアに対する意識について、パーソンセンタードケアにおける相互作用を持続させる関わりと、相互作用を中断させる関わり方に関する各項目に対する回答の分布は以下の通りであった。(表３－５４参照)

（１）高齢者がやろうとしていることに気づき対応する

認知症ケアに対する意識について「高齢者がやろうとしていることに気づき対応する」についての有効回答は264名であり、「全くしていない」1名（0.4%)、「あまりしていない」3 名(1.1%)、「ときどきしている」35 名（13.3%)、「たいていしている」170名（64.4%)、「いつもしている」55名（20.8%）であった。

（２）高齢者とのやり取りを急いで、自然なペースに任せない

認知症ケアに対する意識について「高齢者とのやり取りを急いで、自然なペ

ースに任せない」についての有効回答は263名であり、「全くしていない」52名（19.8%)、「あまりしていない」120名(45.6%)、「ときどきしている」60名(22.8%)、「たいていしている」25名（9.5%)、「いつもしている」6名（2.3%）であった。

（３）やり取りの中で高齢者にどのような感情体験（感情の変化）があっても見守っている

認知症ケアに対する意識について「やり取りの中で高齢者にどのような感情体験（感情の変化）があっても見守っている」についての有効回答は 263 名であり、「全くしていない」1 名（0.4%)、「あまりしていない」16 名(6.1%)、「ときどきしている」82 名（31.2%)、「たいていしている」136 名（51.7%)、「いつもしている」28名（10.6%）であった。

（４）高齢者が表そうとしている思いや要求を理解して応じる

認知症ケアに対する意識について「高齢者が表そうとしている思いや要求を理解して応じる」についての有効回答は262名であり、「全くしていない」0名（0.0%)、「あまりしていない」5名(1.9%)、「ときどきしている」42名（16.0%)、「たいていしている」174 名（66.4%)、「いつもしている」41 名（15.6%）であった。

（５）高齢者がやろうとしていることがうまくいかないことに気づかず、興奮している、固執しているとみなす

認知症ケアに対する意識について「高齢者がやろうとしていることがうまくいかないことに気づかず、興奮している、固執しているとみなす」についての有効回答は261名であり、「全くしていない」75名（28.7%)、「あまりしていない」137名(52.5%)、「ときどきしている」43名（16.5%)、「たいていしている」5名（1.9%)、「いつもしている」1名（0.4%）であった。

（６）高齢者の感情状態や様子に関係なく、たくさんの情報を提供する

認知症ケアに対する意識について「高齢者の感情状態や様子に関係なく、たくさんの情報を提供する」についての有効回答は262名であり、「全くしていない」78名（29.8%)、「あまりしていない」132名(50.4%)、「ときどきしている」20名（7.6%)、「たいていしている」24名（9.2%)、「いつもしている」8名（3.1%）であった。

（７）高齢者が経験し、感じていることに共感する

認知症ケアに対する意識について「高齢者が経験し、感じていることに共感する」についての有効回答は263名であり、「全くしていない」0名（0.0%)、「あまりしていない」1名(0.4%)、「ときどきしている」26名（9.9%)、「たいていしている」149名（56.7%)、「いつもしている」87名（33.1%）であった。

（８）高齢者の要求に応じず、コミュニケーションを取ろうとするのを妨げたり、避けたり、無視したりする

認知症ケアに対する意識について「高齢者の要求に応じず、コミュニケーションを取ろうとするのを妨げたり、避けたり、無視したりする」についての有効回答は262名であり、「全くしていない」142名（54.2%）、「あまりしていない」109名(41.6%)、「ときどきしている」10名(3.8%)、「たいていしている」0名(0.0%)、「いつもしている」1名（0.4%）であった。

（9）高齢者の反応にあわせて、速すぎず、遅すぎないペースでやり取りを行う

認知症ケアに対する意識について「高齢者の反応にあわせて、速すぎず、遅すぎないペースでやり取りを行う」についての有効回答は263名であり、「全くしていない」1名（0.4%）、「あまりしていない」3名(1.1%)、「ときどきしている」27名（10.3%）、「たいていしている」179名（68.1%）、「いつもしている」53名（20.2%）であった。

(10) 施設や介護者側の考えにしたがってもらう

認知症ケアに対する意識について「施設や介護者側の考えにしたがってもらう」についての有効回答は264名であり、「全くしていない」85名（32.2%）、「あまりしていない」112名(42.4%)、「ときどきしている」63名（23.9%）、「たいていしている」3名（1.1%）、「いつもしている」1名（0.4%）であった。

(11) ある状況を高齢者の立場・見方に立って理解する

認知症ケアに対する意識について「ある状況を高齢者の立場・見方に立って理解する」についての有効回答は264名であり、「全くしていない」1名（0.4%）、「あまりしていない」3名(1.1%)、「ときどきしている」21名（8.0%）、「たいていしている」177名（67.0%）、「いつもしている」62名（23.5%）であった。

(12) 高齢者の見方が間違ったものであってもそれに合わせる

認知症ケアに対する意識について「高齢者の見方が間違ったものであってもそれに合わせる」についての有効回答は264名であり、「全くしていない」6名（2.3%）、「あまりしていない」18名(6.8%)、「ときどきしている」74名（28.0%）、「たいていしている」143名（54.2%）、「いつもしている」23名（8.7%）であった。

(13) 高齢者とのやり取りがうまくいった場合、そのやり方を続ける

認知症ケアに対する意識について「高齢者とのやり取りがうまくいった場合、そのやり方を続ける」についての有効回答は261名であり、「全くしていない」4名(1.5%)、「あまりしていない」11名(4.2%)、「ときどきしている」64名(24.5%)、「たいていしている」150名（57.5%）、「いつもしている」32名（12.3%）であった。

(14) 高齢者とのやり取りから途中で離れず、完結させるようにしている

認知症ケアに対する意識について「高齢者とのやり取りから途中で離れず、完結させるようにしている」についての有効回答は262名であり、「全くしてい

ない」5名（1.9%）、「あまりしていない」12名(4.6%)、「ときどきしている」75名（28.6%）、「たいていしている」148名（56.5%）、「いつもしている」22名（8.4%）であった。

(15) 記憶が不十分なところを助けながら、高齢者が自分でやっていることを続けてもらう

認知症ケアに対する意識について「記憶が不十分なところを助けながら、高齢者が自分でやっていることを続けてもらう」についての有効回答は 264 名であり、「全くしていない」0名（0.0%）、「あまりしていない」3名(1.1%)、「ときどきしている」40 名（15.2%）、「たいていしている」159 名（60.2%）、「いつもしている」62名（23.5%）であった。

(16) 高齢者とのやり取りが完結する前にその場から離れる

認知症ケアに対する意識について「高齢者とのやり取りが完結する前にその場から離れる」についての有効回答は 264 名であり、「全くしていない」37 名（14.0%）、「あまりしていない」170名(64.4%)、「ときどきしている」49名(18.6%)、「たいていしている」6名（2.3%）、「いつもしている」2名（0.8%）であった。

(17) 高齢者の立場・見方の変化を敏感に感じ取り対応する

認知症ケアに対する意識について「高齢者の立場・見方の変化を敏感に感じ取り対応する」についての有効回答は261名であり、「全くしていない」0名(0.0%)、「あまりしていない」5 名(1.9%)、「ときどきしている」55 名（21.1%）、「たいていしている」144名（55.2%）、「いつもしている」57名（21.8%）であった。

５．認知症介護経験について

１）認知症経験年数

認知症介護の経験期間の平均は、約11年4か月(137.57か月[SD68.34、範囲9-396])であった。

２）直近の認知症介護

認知症介護を行った直近日については有効回答 252 名で、平均日数は 11.21 日（SD:67.59、範囲0［当日］-730）であった。

３）認知症介護頻度

現在の認知症介護の頻度は、「毎日」162名（61.4%）、「週に数回」62名（23.5%）、「月に数回」25名（9.5%）、「年に数回」2名（0.8%）、「しばらくしていない」13名（4.9%）であった。（表３－５５参照）

４）認知症介護成功体験

これまで行った認知症介護で「うまくいった」あるいは「成功した」と認識した経験の頻度は、「今までに数回」15名（5.8%）、「年に数回くらい」40名（15.4%）、「月に数回くらい」81名（31.2%）、「週に数回くらい」62名（23.8%）、「いつも経験した

（毎日）」25 名（9.6%）、「ほぼすべての介護で経験した」35 名（13.5%）、「一度も経験したことがない」2 名（0.8%）であった。（表３－５６参照）

６．評価項目の選択について

高齢者の感情状態の評価について、認知症介護の評価シートにおける介護結果の評価指標としての項目選択を行った。感情状態の評価 45 項目について、感情状態の推測と頻度ともに有効回答における該当率を用いて、Ward 法によるクラスター分析を行った。

デンドログラム（樹形図）により 3 クラスターによる解釈を行った。3 クラスターの分類は「快」、「不快」、「どちらともいえない」の評価による分類であると考えられる。さらに、デンドログラムにより、6 クラスターを採用した場合には、評価による分類に加えて、相対的な頻度の高低によって分類されたと考えることができる。そのため、ここでは 6 クラスターによる分類を採用し、「快」または「不快」を示し、相対的な頻度の高い項目をアウトカム評価の指標として採用した。45 項目の中から、「快」の項目として、「笑顔をみせる」、「あなたと握手する」、「微笑みながら見ながら話を聞く」3 項目、「不快」の項目として、「あなたから距離をとったり、別の場所（別の部屋など）へ行く」、「あなたから視線をそらす」、「横を向く」、「乱暴な言葉づかいで話す」、「他者を指さす」、「うつむく」、「大きな声を出す」、「涙ぐむ」、「顔を無表情である」、「話を途中でやめる」の 10 項目を採用した。（表３－５７参照）

７．認知症ケアに対する意識について

１）認知症ケアに対する意識に関する項目についての因子分析

認知症ケアに対する意識に関する 17 項目について、各項目に対する回答を「全くしていない」を 1 点～「いつもしている」5 点に得点化し、因子分析を行った。「高齢者とのやり取りがうまくいった場合、そのやり方を続ける」の 1 項目については、複数の因子にまたがって因子負荷量が高かったため削除したうえで、再度因子分析（主成分解、プロマックス回転）を行った。スクリープロットを参考に固有値の変化から 2 因子を採用し、第 1 因子を「相互作用持続」因子、第 2 因子を「相互作用中断」因子と命名した（表３－５８参照）。2 因子間の相関係数は-.44 と中程度の負の相関が認められた。（表３－５９参照）

２）認知症介護の成功体験との関係

「５－４）」において、既述した認知症介護成功体験と認知症介護に対する意識との関係を検討した。認知症介護成功体験については、「1.今までに数回」、「2.年に数回くらい」、「3.月に数回くらい」、とともに「7.一度も経験したことがない」を選択したものを「成功頻度低群」とし、「4.週に数回くらい」、「5.いつも経験した（毎日）」、「6.ほぼすべての介護で経験した」を選択したものを「成功頻度高群」として 2 群

に分けた。相互作用持続因子の因子得点は、頻度低群-0.27（SD:0.89）、頻度高群 0.27（SD:1.02）であった。相互作用中断因子の因子得点は、頻度低群 0.17（SD:1.02）、頻度高群-0.16（SD:0.93）であった。成功頻度による 2 群を独立変数とし、相互作用持続因子、相互作用中断因子それぞれの因子得点を t 検定によって比較した。その結果、「相互作用持続」因子の因子得点は、成功頻度低群に比べて高群の方が有意に高かった（$t(244)=4.46$, $p<.0001$）。「相互作用中断」因子の因子得点は、成功体験高群に比べて低群の方が有意に高かった（$t(244)=2.62$, $p<.009$）。

これらのことから、成功頻度を高く評価することは、認知症介護における相互作用を継続する意識を持つことと関連しているということが見出された。

８．認知症ケアへの意識による評価の相違

「７.」において、認知症介護の成功体験と認知症ケアに対する意識について関連が見出されたが、さらに、認知症ケアに対する意識が介護のアウトカム評価に影響するかを検討した。認知症ケアに対する意識については「相互作用継続」因子を構成する項目においてα係数から信頼性が十分に高いことが示されたため、「相互作用継続」因子の因子得点の高低により 2 群に分けた。アウトカム評価としては、感情状態の評価項目のうちクラスター分析によって、評価困難（どちらともいえない）かつ相対的な頻度の高い項目（目をみひらく、じっとしている、髪を触る）を対象とし、クロス集計表に示すとともにχ^2検定をおこなった。

その結果、目をみひらく（$\chi^2(2)=1.44$, n.s.）、髪を触る（$\chi^2(2)=2.96$, n.s.）においては、有意な度数の偏りは認められなかった。じっとしているについては、有意な度数の偏りが認められた（$\chi^2(2)=9.99$, $p<.007$）。また、残差分析の結果、相互作用継続因子の因子得点低群では「どちらともいえない」という評価の頻度が有意に高く、因子得点高群では「不快」という評価の頻度が有意に高かった。

Ｄ．結論

認知症ケアのエキスパートの視点から、ケアに対する高齢者の反応をどのようにとらえているかを検討した。その結果、介護者は笑顔、スキンシップ、視線を合わせるといった行動・様子から利用者の快感情を推測し、実際にこれらの行動・様子が利用者にみられる頻度も高いということが示された。また、不快な感情の表出が認められる頻度は全般的に低いものであったが、比較的頻度の高いものでは、乱暴な言葉づかい、大きな声を出すという行動・様子は不快感情を推測するものであるということが示された。しかしながら、評価項目に対して「どちらともいえない」という回答が多数であり、それぞれの行動・様子が、ひとつの項目で示される単一の側面のみでは評価が困難であることや場面・状況に応じて快にも不快にも判断されうるということが考えられる。また、高齢者本人の癖であ

ったり、パーソナリティを反映した行動・様子であるため感情表出としてとらえられないということも考えられる。そのため、高齢者全般に適用可能な項目のほかに、判断の分かれる項目や不快と判断されるものの出現頻度の低い項目をもとにした対象者の観察から、個別項目として取捨選択し、アウトカム指標として検討する必要性がある。

表３－１　調査協力者の性別の内訳

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
男性	91	34.0	34.0
女性	177	66.0	100
合計	268	100	

表３－２　職種（複数回答）

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
ケアワーカー	65	24.1
相談員	40	14.8
ケアマネジャー	68	25.2
看護師	52	19.3
その他	60	22.2

表３－３　役職（複数回答）

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
施設長	28	10.4
管理者	91	33.7
主任･リーダー	76	28.1
事務長	3	1.1
社長	5	1.9
理事長	2	0.7
その他	66	24.4

表３－４　所持資格（複数回答）

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
看護師（準看護師）	66	24.4
介護福祉士	156	57.8
社会福祉士	45	16.7
ケアマネジャー	171	63.3
ヘルパー	29	10.7
理学療法士	2	0.7
作業療法士	3	1.1
栄養士	2	0.7
その他	37	13.7

表３－５　勤務している事業所の事業種（複数回答）

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
介護老人福祉施設	84	31.1
介護老人保健施設	131	48.5
介護療養型医療施設	7	2.6
通所介護事業	31	11.5
通所リハビリ事業	6	2.2
訪問介護事業	16	5.9
認知症対応型共同生活介護	65	24.1
小規模多機能型共同生活介護	13	4.8
居宅介護支援事業所	24	8.9
地域包括支援センター	3	1.1
市役所	2	0.7
宅老所	2	0.7
特定入居者生活介護事業	3	1.1
その他	27	10.0

表３－６　評価対象として想定した高齢者の性別

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
男性	60	23.1	23.1
女性	200	76.9	100
合計	260	100	

表３－７　評価対象として想定した高齢者の認知症自立度

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
Ⅰ	14	5.2	5.2
Ⅱ	65	24.3	29.6
Ⅲ	92	34.5	64.0
Ⅳ	88	33.0	97.0
M	8	3.0	100
合計	267	100	

表３－８　評価対象として想定した高齢者の障害自立度

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
J	68	25.8	25.8
A	159	60.2	86.0
B	32	12.1	98.1
C	5	1.9	100
合計	264	100	

表３－９　「視線を合わせる、顔を見つめる」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	1	19	104	49	173
不快	1	1	8	2	0	12
どちらともいえない	0	4	31	32	13	80
合計	1	6	58	138	62	265

表３－１０　「姿勢がよい（まっすぐである)」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	10	24	52	53	139
不快	3	3	2	4	3	15
どちらともいえない	7	19	28	35	16	105
合計	10	32	54	91	72	259

表３－１１　「あなたをつねる」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	5	0	1	0	0	6
不快	105	35	20	2	2	164
どちらともいえない	43	8	5	0	0	56
合計	153	43	26	2	2	226

表３－１２　「あなたから距離をとったり、別の場所（別の部屋など）へ行く」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	2	1	1	2	6
不快	35	38	54	11	3	141
どちらともいえない	32	33	29	7	1	102
合計	67	73	84	19	6	249

表３－１３　「自分の体を掻く」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	3	1	1	0	5
不快	42	53	32	6	2	135
どちらともいえない	44	34	14	0	0	92
合計	86	90	47	7	2	232

表３－１４　「上半身を反らす」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	1	4	7	0	0	12
不快	49	21	18	1	0	89
どちらともいえない	65	42	13	1	0	121
合計	115	67	38	2	0	222

表３－１５　「あなたから視線をそらす」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	2	0	1	0	1	4
不快	26	53	62	6	2	149
どちらともいえない	17	43	27	3	1	91
合計	45	96	90	9	4	244

表３－１６　「貧乏ゆすりをする」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	0	0	1	0	1
不快	77	21	16	3	1	118
どちらともいえない	81	19	4	3	0	107
合計	158	40	20	7	1	226

表３－１７　「問いかけに対し、すぐに返事をする」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	1	2	21	81	49	154
不快	0	2	9	0	2	13
どちらともいえない	2	13	14	42	20	91
合計	3	17	44	123	71	258

表３－１８　「肩をすくめる」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	3	26	6	3	38
不快	20	32	21	3	0	76
どちらともいえない	49	47	26	1	1	124
合計	69	82	73	10	4	238

表３－１９　「横を向く」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	1	3	0	0	4
不快	17	53	66	10	1	147
どちらともいえない	20	40	27	4	1	92
合計	37	94	96	14	2	243

表３－２０　「乱暴な言葉づかいで話す」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	0	0	0	1	1
不快	42	50	89	20	7	208
どちらともいえない	19	7	4	2	1	33
合計	61	57	93	22	9	242

表３－２１　「顔に汗をかいている」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	0	0	0	0	0
不快	39	50	11	3	1	104
どちらともいえない	58	52	9	2	0	121
合計	97	102	20	5	1	225

表３－２２　「服・ハンカチなどをもてあそぶ」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	2	3	6	3	1	15
不快	26	21	22	7	3	79
どちらともいえない	63	50	20	6	2	141
合計	91	74	48	16	6	235

表３－２３　「笑顔をみせる」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	5	67	113	60	245
不快	0	0	0	0	0	0
どちらともいえない	1	3	3	6	3	16
合計	1	8	70	119	63	261

表３－２４　「他者を指さす」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	2	2	2	0	6
不快	10	27	67	8	2	114
どちらともいえない	28	55	41	2	2	128
合計	38	84	110	12	4	248

表３－２５　「握りこぶしをにぎる」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	0	1	0	2	3
不快	59	54	46	3	2	164
どちらともいえない	41	21	5	2	0	69
合計	100	75	52	5	4	236

表３－２６　「あなたと握手する」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	6	38	91	64	20	219
不快	1	0	1	1	0	3
どちらともいえない	10	5	10	2	2	29
合計	17	43	102	67	22	251

表３－２７　「目をみひらく」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	3	7	24	16	1	51
不快	4	27	29	1	1	62
どちらともいえない	32	50	40	5	1	128
合計	39	84	93	22	3	241

表３－２８　「じっとしている」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	1	8	13	12	3	37
不快	3	9	21	3	2	38
どちらともいえない	12	42	86	33	2	175
合計	16	59	120	48	7	250

表３－２９　「髪を触る」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	2	9	25	9	2	47
不快	5	7	6	1	3	22
どちらともいえない	45	79	43	3	2	172
合計	52	95	74	13	7	241

表３－３０　「うつむく」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	0	1	1	0	2
不快	9	43	61	9	2	124
どちらともいえない	23	52	37	7	2	121
合計	32	95	99	17	4	247

表３－３１　「丁寧な言葉づかいで話す」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	1	14	47	44	26	132
不快	2	4	5	1	0	12
どちらともいえない	13	27	33	19	17	109
合計	16	45	85	64	43	253

表３－３２　「微笑みながら話を聞く」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	2	11	69	106	43	231
不快	0	0	0	0	0	0
どちらともいえない	3	5	7	9	2	26
合計	5	16	76	115	45	257

表３－３３　「大きな声を出す」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	0	1	4	1	6
不快	33	45	77	15	10	180
どちらともいえない	15	26	16	0	4	61
合計	48	71	94	19	15	247

表３－３４　「話を長く続ける」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	3	11	44	33	14	105
不快	4	7	26	11	3	51
どちらともいえない	8	38	37	13	4	100
合計	15	56	107	57	21	256

表３－３５　「涙ぐむ」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	2	15	3	0	20
不快	28	32	42	8	0	110
どちらともいえない	38	46	24	2	1	111
合計	66	80	81	13	1	241

表３－３６　「うなずく」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	2	8	50	58	24	142
不快	0	3	5	0	0	8
どちらともいえない	4	15	40	31	12	102
合計	6	26	95	89	36	252

表３－３７　「あなたの腕や肩に触れる」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	8	23	75	38	18	162
不快	3	1	4	1	0	9
どちらともいえない	17	27	19	7	6	76
合計	28	51	98	46	24	247

表３－３８　「顔が無表情である」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	0	0	0	1	1
不快	13	38	56	11	5	123
どちらともいえない	34	39	35	7	5	120
合計	47	77	91	18	11	244

表３－３９　「爪を噛む」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	1	0	0	0	1	2
不快	73	21	2	0	0	96
どちらともいえない	111	11	1	1	0	124
合計	185	32	3	1	1	222

表３－４０　「脚をくむ」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	4	0	12	5	4	25
不快	13	3	6	1	0	23
どちらともいえない	105	39	27	6	5	182
合計	122	42	45	12	9	230

表３－４１　「顔色が蒼白い」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	1	1	0	0	2
不快	48	73	18	2	2	143
どちらともいえない	58	21	6	2	3	90
合計	106	95	25	4	5	235

表３－４２　「話し声が小さい」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	1	1	5	4	1	12
不快	15	27	16	5	1	64
どちらともいえない	53	64	35	12	8	172
合計	69	92	56	21	10	248

表３－４３　「身を乗り出す」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	4	22	65	26	3	120
不快	0	7	12	4	0	23
どちらともいえない	22	43	33	4	2	104
合計	26	72	110	34	5	247

表３－４４　「繰り返し首を横に振る」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	1	1	0	1	1	4
不快	53	58	30	2	0	143
どちらともいえない	45	33	7	1	0	86
合計	99	92	37	4	1	233

表３－４５　「他の利用者や周囲に気を配る」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	3	13	54	30	18	118
不快	1	5	14	2	2	24
どちらともいえない	14	27	32	18	13	104
合計	18	45	100	50	33	246

表３－４６　「手を繰り返し動かす」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	2	5	10	11	2	30
不快	22	19	15	6	1	63
どちらともいえない	56	57	22	7	2	144
合計	80	81	47	24	5	237

表３－４７　「話を途中でやめる」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	1	2	0	0	3
不快	23	59	53	6	2	143
どちらともいえない	24	43	21	9	2	99
合計	47	103	76	15	4	245

表３－４８　「顔が赤面している」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	1	4	4	2	0	11
不快	19	36	30	9	1	95
どちらともいえない	54	55	21	2	1	133
合計	74	95	55	13	2	239

表３－４９　「あなたを叩く」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	0	0	3	0	0	3
不快	105	28	31	3	3	170
どちらともいえない	34	14	6	1	0	55
合計	139	42	40	4	3	228

表３－５０　「あなたに近づく」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	5	8	44	43	27	127
不快	0	2	10	4	1	17
どちらともいえない	18	21	45	14	11	109
合計	23	31	99	61	39	253

表３－５１　「鼻や口を触る」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	4	4	7	3	0	18
不快	11	16	10	2	1	40
どちらともいえない	86	72	14	1	4	177
合計	101	92	31	6	5	235

表３－５２　「腕組みをする」に対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	1	2	4	2	2	11
不快	28	16	20	1	2	67
どちらともいえない	73	43	26	8	1	151
合計	102	61	50	11	5	229

表３－５３　あなたの手まねをするに対する評価と頻度のクロス集計表

	全く みられない	あまり みられない	ときどき みられる	たいてい みられる	いつも みられる	合計
快	17	26	21	13	1	78
不快	5	1	5	0	0	11
どちらともいえない	100	35	7	3	1	146
合計	122	62	33	16	2	235

表３－５４　認知症介護に対する意識についての項目の回答の分布

		全くしていない	あまりしていない	ときどきしている	たいていしている	いつもしている	合計
高齢者がやろうとしていることに気づき対応する	度数	1	3	35	170	55	264
	パーセント	0.4	1.1	13.3	64.4	20.8	100
高齢者とのやり取りを急いで、自然なペースに任せない	度数	52	120	60	25	6	263
	パーセント	19.8	45.6	22.8	9.5	2.3	100
やり取りの中で高齢者にどのような感情体験（感情の変化）があっても見守っている	度数	1	16	82	136	28	263
	パーセント	0.4	6.1	31.2	51.7	10.6	100
高齢者が表そうとしている思いや要求を理解して応じる	度数	0	5	42	174	41	262
	パーセント	0	1.9	16	66.4	15.6	100
高齢者がやろうとしていることがうまくいかないことに気づかず、興奮している、固執しているとみなす	度数	75	137	43	5	1	261
	パーセント	28.7	52.5	16.5	1.9	0.4	100
高齢者の感情状態や様子に関係なく、たくさんの情報を提供する	度数	78	132	20	24	8	262
	パーセント	29.8	50.4	7.6	9.2	3.1	100
高齢者が経験し、感じていることに共感する	度数	0	1	26	149	87	263
	パーセント	0	0.4	9.9	56.7	33.1	100
高齢者の要求に応じず、コミュニケーションを取ろうとするのを妨げたり、避けたり、無視したりする	度数	142	109	10	0	1	262
	パーセント	54.2	41.6	3.8	0	0.4	100
高齢者の反応にあわせて、速すぎず、遅すぎないペースでやり取りを行う	度数	1	3	27	179	53	263
	パーセント	0.4	1.1	10.3	68.1	20.2	100
施設や介護者側の考えにしたがってもらう	度数	85	112	63	3	1	264
	パーセント	32.2	42.4	23.9	1.1	0.4	100
ある状況を高齢者の立場・見方に立って理解する	度数	1	3	21	177	62	264
	パーセント	0.4	1.1	8	67	23.5	100
高齢者の見方が間違ったものであってもそれに合わせる	度数	6	18	74	143	23	264
	パーセント	2.3	6.8	28	54.2	8.7	100
高齢者とのやり取りがうまくいった場合、そのやり方を続ける	度数	4	11	64	150	32	261
	パーセント	1.5	4.2	24.5	57.5	12.3	100
高齢者とのやり取りから途中で離れず、完結させるようにしている	度数	5	12	75	148	22	262
	パーセント	1.9	4.6	28.6	56.5	8.4	100
記憶が不十分なところを助けながら、高齢者が自分でやっていることを続けてもらう	度数	0	3	40	159	62	264
	パーセント	0	1.1	15.2	60.2	23.5	100
高齢者とのやり取りが完結する前にその場から離れる	度数	37	170	49	6	2	264
	パーセント	14	64.4	18.6	2.3	0.8	100
高齢者の立場・見方の変化を敏感に感じ取り対応する	度数	0	5	55	144	57	261
	パーセント	0	1.9	21.1	55.2	21.8	100

表３－５５　認知症介護の頻度

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
毎日	162	61.4	61.4
週に数回	62	23.5	84.8
月に数回	25	9.5	94.3
年に数回	2	0.8	95.1
しばらくしていない	13	4.9	100
合計	264	100	

表３－５６　認知症介護の成功頻度

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
今までに数回	15	5.8	5.8
年に数回くらい	40	15.4	21.2
月に数回くらい	81	31.2	52.3
週に数回くらい	62	23.8	76.2
いつも経験した（毎日）	25	9.6	85.8
ほぼすべての介護で経験した	35	13.5	99.2
一度も経験したことがない	2	0.8	100
合計	260	100	

表３－５７　クラスター分析の結果

NO	項目	CL 評価	CL 頻度	評価 快	評価 不快	評価 どちらともいえない	頻度 全くみられない	頻度 あまりみられない	頻度 ときどきみられる	頻度 たいていみられる	頻度 いつもみられる
1	視線を合わせる、顔を見つめる	快	低	64.8%	4.5%	30.7%	0.4%	2.3%	21.9%	52.1%	23.4%
2	姿勢がよい（まっすぐである）			53.4%	6.1%	40.5%	3.9%	12.4%	20.8%	35.1%	27.8%
9	問いかけに対し、すぐに返事をする			59.5%	5.0%	35.5%	1.2%	6.6%	17.1%	47.7%	27.5%
23	丁寧な言葉づかいで話す			52.2%	4.7%	43.1%	6.3%	17.8%	33.6%	25.3%	17.0%
26	話を長く続ける			41.1%	20.2%	38.8%	5.9%	21.9%	41.8%	22.3%	8.2%
28	うなずく			56.5%	3.1%	40.4%	2.4%	10.3%	37.7%	35.3%	14.3%
29	あなたの腕や肩に触れる			65.2%	4.0%	30.8%	11.3%	20.6%	39.7%	18.6%	9.7%
35	身を乗り出す			48.8%	9.3%	41.9%	10.5%	29.1%	44.5%	13.8%	2.0%
37	他の利用者や周囲に気を配る			48.0%	9.7%	42.3%	7.3%	18.3%	40.7%	20.3%	13.4%
42	あなたに近づく			50.2%	6.7%	43.1%	9.1%	12.3%	39.1%	24.1%	15.4%
15	笑顔をみせる		高	93.9%	0.0%	6.1%	0.4%	3.1%	26.8%	45.6%	24.1%
18	あなたと握手する			86.6%	1.2%	12.2%	6.8%	17.1%	40.6%	26.7%	8.8%
24	微笑みながら話を聞く			89.5%	0.0%	10.5%	1.9%	6.2%	29.6%	44.7%	17.5%
3	あなたをつねる	不快	低	2.6%	72.4%	25.0%	67.7%	19.0%	11.5%	0.9%	0.9%
5	自分の体を掻く			2.1%	58.1%	39.7%	37.1%	38.8%	20.3%	3.0%	0.9%
8	貧乏ゆすりをする			0.4%	52.2%	47.3%	69.9%	17.7%	8.8%	3.1%	0.4%
17	握りこぶしをにぎる			1.3%	69.2%	29.5%	42.4%	31.8%	22.0%	2.1%	1.7%
31	爪を噛む			0.9%	43.6%	55.6%	83.3%	14.4%	1.4%	0.5%	0.5%
33	顔色が蒼白い			0.8%	61.2%	38.0%	45.1%	40.4%	10.6%	1.7%	2.1%
36	繰り返し首を横に振る			1.7%	61.4%	36.9%	42.5%	39.5%	15.9%	1.7%	0.4%
41	あなたを叩く			1.3%	74.5%	24.2%	61.0%	18.4%	17.5%	1.8%	1.3%
4	あなたから距離をとったり、別の場所（別の部屋など）へ行く		高	2.4%	56.6%	41.0%	26.9%	29.3%	33.7%	7.6%	2.4%
7	あなたから視線をそらす			1.6%	60.7%	37.7%	18.4%	39.3%	36.9%	3.7%	1.6%
11	横を向く			1.6%	60.4%	38.0%	15.2%	38.7%	39.5%	5.8%	0.8%
12	乱暴な言葉づかいで話す			0.4%	86.1%	13.5%	25.2%	23.6%	38.4%	9.1%	3.7%
16	他者を指さす			2.4%	46.0%	51.6%	15.3%	33.9%	44.4%	4.8%	1.6%
22	うつむく			0.8%	50.4%	48.8%	13.0%	38.5%	40.1%	6.9%	1.6%
25	大きな声を出す			2.4%	72.9%	24.7%	19.4%	28.7%	38.1%	7.7%	6.1%
27	涙ぐむ			8.2%	45.7%	46.1%	27.4%	33.2%	33.6%	5.4%	0.4%
30	顔が無表情である			0.4%	50.6%	49.0%	19.3%	31.6%	37.3%	7.4%	4.5%
39	話を途中でやめる			1.2%	58.5%	40.2%	19.2%	42.0%	31.0%	6.1%	1.6%
6	上半身を反らす	どちらともいえない	低	5.8%	40.0%	54.2%	51.8%	30.2%	17.1%	0.9%	0.0%
10	肩をすくめる			15.8%	32.1%	52.1%	29.0%	34.5%	30.7%	4.2%	1.7%
13	顔に汗をかいている			0.0%	46.3%	53.7%	43.1%	45.3%	8.9%	2.2%	0.4%
14	服・ハンカチなどをもてあそぶ			6.4%	33.6%	60.0%	38.7%	31.5%	20.4%	6.8%	2.6%
32	脚をくむ			10.9%	10.0%	79.1%	53.0%	18.3%	19.6%	5.2%	3.9%
34	話し声が小さい			4.8%	26.1%	69.1%	27.8%	37.1%	22.6%	8.5%	4.0%
38	手を繰り返し動かす			12.6%	26.4%	61.1%	33.8%	34.2%	19.8%	10.1%	2.1%
40	顔が赤面している			4.6%	39.7%	55.6%	31.0%	39.7%	23.0%	5.4%	0.8%
43	鼻や口を触る			7.7%	17.0%	75.3%	43.0%	39.1%	13.2%	2.6%	2.1%
44	腕組みをする			4.8%	29.3%	65.9%	44.5%	26.6%	21.8%	4.8%	2.2%
45	あなたの手まねをする			33.2%	4.7%	62.1%	51.9%	26.4%	14.0%	6.8%	0.9%
19	目をみひらく		高	21.2%	25.7%	53.1%	16.2%	34.9%	38.6%	9.1%	1.2%
20	じっとしている			14.8%	15.2%	70.0%	6.4%	23.6%	48.0%	19.2%	2.8%
21	髪を触る			19.5%	9.1%	71.4%	21.6%	39.4%	30.7%	5.4%	2.9%

表３－５８　因子分析の結果

項目	Ⅰ	Ⅱ	共通性
相互作用継続因子（α=.810）			
記憶が不十分なところを助けながら、高齢者が自分でやっていることを続けてもらう	.723	-.009	.528
高齢者の立場・見方の変化を敏感に感じ取り対応する	.718	-.151	.634
高齢者が表そうとしている思いや要求を理解して応じる	.688	.025	.459
高齢者が経験し、感じていることに共感する	.681	-.040	.490
ある状況を高齢者の立場・見方に立って理解する	.631	-.133	.490
高齢者がやろうとしていることに気づき対応する	.628	-.028	.411
やり取りの中で高齢者にどのような感情体験（感情の変化）があっても見守っている	.610	.352	.306
高齢者とのやり取りから途中で離れず、完結させるようにしている	.581	.075	.305
高齢者の反応にあわせて、速すぎず、遅すぎないペースでやり取りを行う	.487	-.089	.284
高齢者の見方が間違ったものであってもそれに合わせる	.442	.102	.166
相互作用中断因子（α=.625）			
高齢者とのやり取りを急いで、自然なペースに任せない	.082	.650	.383
施設や介護者側の考えにしたがってもらう	.027	.623	.374
高齢者がやろうとしていることがうまくいかないことに気づかず、興奮している、固執しているとみなす	-.099	.576	.393
高齢者の要求に応じず、コミュニケーションを取ろうとするのを妨げたり、避けたり、無視したりする	-.225	.576	.497
高齢者とのやり取りが完結する前にその場から離れる	-.059	.562	.349
高齢者の感情状態や様子に関係なく、たくさんの情報を提供する	.301	.562	.257
寄与率	29.6	9.9	
累積寄与率	29.6	39.5	

表３－５９　因子間相関

	Ⅰ	Ⅱ
Ⅰ	1.000	-.442
Ⅱ		1.000

Ⅲ．研究成果の刊行に関する一覧表

現在のところなし（準備中）

平成２０年度　厚生労働科学研究費補助金
長寿科学総合研究事業報告書

認知症における標準的なケアモデルの構築に関する研究

２００９年４月発行

発行者　認知症介護研究・研修仙台センター
センター長　加藤　伸司
制　作　株式会社　ホクトコーポレーション
仙台市青葉区上愛子字堀切１－１３
TEL（022）391－5661（代）